

EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編(UNIX(R)
用)

3021-7-022

前書き

■ 対象製品

●適用 OS : HP-UX 11i V3(IPF)

P-1JD2-59B1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard 11-00

P-1JD2-5EB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise 11-00

P-1JD2-5CB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option 11-00

●適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1, AIX V7.2

P-1MD2-59B1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard 11-00

P-1MD2-5EB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise 11-00

P-1MD2-5CB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option 11-00

●適用 OS : Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86_64), Red Hat Enterprise Linux Server 7 (64-bit x86_64)

P-82D2-59B1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard 11-00

P-82D2-5EB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise 11-00

P-82D2-5CB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option 11-00

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, DABroker, DBPARTNER, Groupmax, HiRDB, JP1, SEWB, TPBroker, uCosminexus は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Acrobat は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

EUR は、ウイングアーク 1 s t 株式会社の登録商標です。

Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

PostScript は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

Reader は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

Red Hat, and Red Hat Enterprise Linux are registered trademarks of Red Hat, Inc. in the United States and other countries.

Linux(R) is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries.

RSA は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SVF は、ウイングアーク 1 s t 株式会社の登録商標です。

UNIX は、The Open Group の商標です。

Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by Andy Clark.



HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記			製品名称
ActiveX			ActiveX(R)
Excel			Microsoft(R) Office Excel 2007 Microsoft(R) Office Excel 2010 Microsoft(R) Office Excel 2013 Microsoft(R) Office Excel 2016
Internet Explorer			Windows(R) Internet Explorer(R)
VBScript			Microsoft(R) Visual Basic(R) Scripting Edition
Visual Basic			Microsoft(R) Visual Basic(R)
Windows	Windows 8.1	Windows 8.1 x86	Windows(R) 8.1 Pro(32 ビット版) Windows(R) 8.1 Enterprise(32 ビット版)
		Windows 8.1 x64	Windows(R) 8.1 Pro(64 ビット版) Windows(R) 8.1 Enterprise(64 ビット版)

表記			製品名称
Windows	Windows 10	Windows 10 x86	Windows(R) 10 Pro(32 ビット版) Windows(R) 10 Enterprise(32 ビット版)
		Windows 10 x64	Windows(R) 10 Pro(64 ビット版) Windows(R) 10 Enterprise(64 ビット版)
	Windows Server 2012		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
	Windows Server 2016		Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
	Windows Server 2019		Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter

■ 発行

2020年8月 3021-7-022

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2020, Hitachi, Ltd.
(c) 2020 WingArc1st Inc. All rights reserved.

変更内容

変更内容 (3021-7-022)

EUR Server Standard 11-00

EUR Server Enterprise 11-00

EUR Server - Cipher option 11-00

追加・変更内容	変更箇所
EUR バージョン 11 で次の変更を行いました。 <ul style="list-style-type: none">製品名の総称を「EUR」から「Hitachi Report for SVF Series / EUR」に変更しました。マニュアル「EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編」を Windows 用と UNIX 用に分冊しました。	—
Linux 環境の場合だけ、ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を設定できるようになりました。これに伴い、次に示す環境設定ファイルの TIMEOUT セクションに LOGEXCLUSIVE キーを追加しました。 <ul style="list-style-type: none">EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini)EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini)EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini)EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini)	15.2.1, 15.2.32, 15.4.1, 15.4.23, 15.5.1, 15.5.44, 15.6.1, 15.6.17

(凡例)

— : 該当なし

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、次に示すプログラムプロダクトを使用して帳票出力する方法について説明したものです。

- EUR Server Standard
- EUR Server Enterprise
- EUR Server - Cipher option

また、このマニュアルの対象となる EUR のサーバ環境のプラットフォームは、AIX, HP-UX, および Linux です。

■ 対象読者

このマニュアルは、EUR サーバ帳票出力機能を使って帳票を出力する方を対象としています。なお、次の内容を理解されていることを前提としています。

- 使用するプログラム言語に関する基本的な知識

■ このマニュアルの文法で使用する記号

このマニュアルで使用する記号について、次に示します。

記号	意味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A B 「A, または B を指定する」ことを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} 「A, B, または C のどれかを指定する」ことを示します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例) [A] 「何も指定しない」か「A と指定する」ことを示します。 (例) [B C] 「何も指定しない」か「B, または C のどちらかを指定する」ことを示します。

記号	意味
...	<p>記述が省略されていることを示します。この記号の直前に示された項目を繰り返し複数個指定できます。</p> <p>(例) [A [...]]</p> <p>「A のあとに、A を複数個指定できる」ことを示します。</p>
—	<p>括弧で囲まれた複数項目のうち 1 項目に対し使用され、括弧内のすべてを省略したときシステムが採る標準値を示します。</p> <p>(例) [A B <u>C</u>]</p> <p>「A, B, C のどれも指定しなかった場合、システムは C が指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。</p>

目次

前書き	2
変更内容	6
はじめに	7

第 1 編 帳票出力で使用するコマンド

1	eurpmc コマンド	35
1.1	eurpmc コマンドとは	36
1.1.1	eurpmc コマンドのファイル名	36
1.2	eurpmc コマンドが提供するオプション	37
1.2.1	メソッドオプション一覧	37
1.2.2	プロパティオプション一覧	38
1.2.3	オプションを指定するときの注意	46
1.3	eurpmc コマンドの構文	48
1.3.1	プリンタに出力する場合	48
1.3.2	スプールデータを出力する場合	52
1.3.3	EPF 形式ファイルを出力する場合	57
1.3.4	複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合	61
1.3.5	EUR 形式ファイルを出力する場合	61
1.3.6	PDF 形式ファイルを出力する場合	64
1.3.7	Excel 形式ファイルを出力する場合	68
1.3.8	出力先一覧を取得する場合	70
1.3.9	プリンタクラス一覧を取得する場合	71
1.3.10	プリンター一覧を取得する場合	72
1.3.11	トレイ一覧を取得する場合	73
1.3.12	帳票サーバプリンタクラス一覧を取得する場合	73
1.3.13	帳票サーバプリンター一覧を取得する場合	74
1.3.14	帳票サーバプリンタのトレイ一覧を取得する場合	75
1.4	エラー情報	77
1.4.1	eurpmc コマンドの終了コード	77
1.4.2	エラーメッセージのフォーマット	77
2	eurpmlsc コマンド	79
2.1	eurpmlsc コマンドとは	80
2.1.1	eurpmlsc コマンドのファイル名	80

- 2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション 81
 - 2.2.1 メソッドオプション一覧 81
 - 2.2.2 プロパティオプション一覧 82
 - 2.2.3 オプションを指定するときの注意 85
- 2.3 eurpmlsc コマンドの構文 89
 - 2.3.1 スプールデータの一覧を取得する場合 89
 - 2.3.2 スプールデータの属性値を取得する場合 90
 - 2.3.3 スプールデータの属性値を変更する場合 91
 - 2.3.4 スプールデータを蓄積データ印刷する場合 93
 - 2.3.5 スプールデータを取得する場合 95
 - 2.3.6 スプールデータを削除する場合 96
 - 2.3.7 プリントクラス一覧を取得する場合 97
 - 2.3.8 プリンター一覧を取得する場合 98
 - 2.3.9 トレー一覧を取得する場合 99
 - 2.3.10 監査ログを切り替える場合 99
- 2.4 エラー情報 101
 - 2.4.1 eurpmlsc コマンドの終了コード 101
 - 2.4.2 エラーメッセージのフォーマット 101

3 eurpmcepfviewer コマンド 102

- 3.1 eurpmcepfviewer コマンドとは 103
 - 3.1.1 eurpmcepfviewer コマンドのファイル名 103
 - 3.1.2 オプション一覧 103
 - 3.1.3 オプションを指定するときの注意 104
- 3.2 eurpmcepfviewer コマンドの構文 106
 - 3.2.1 帳票を自動印刷する場合 107
 - 3.2.2 帳票をプレビュー表示する場合 108
- 3.3 エラー情報 109

4 BSP-RM 連携コマンド 110

- 4.1 BSP-RM 連携コマンドとは 111
 - 4.1.1 BSP-RM 連携コマンドのファイル名 111
- 4.2 BSP-RM 連携コマンドの構文 112
- 4.3 エラー情報 113
 - 4.3.1 BSP-RM 連携コマンドの終了コード 113
 - 4.3.2 エラーメッセージのフォーマット 113

第2編 帳票出力で使用する API

- 5 EUR Web Plug-In 115
 - 5.1 EUR Web Plug-In とは 116
 - 5.1.1 ファイル名 116
 - 5.1.2 EUR Web Plug-In の使用方法 116
 - 5.2 パラメタ, メソッド, プロパティ一覧 118
 - 5.2.1 パラメター一覧 118
 - 5.2.2 メソッド一覧 119
 - 5.2.3 プロパティ一覧 119
 - 5.2.4 イベント一覧 120
 - 5.2.5 指定値に使用できない文字について 121
 - 5.3 パラメタ仕様 122
 - DefaultPrintDlg パラメタ 122
 - DlgStyleOpt パラメタ 122
 - EPFDataMaxSize パラメタ 123
 - EPFFileURL パラメタ 123
 - EPFTempDataMode パラメタ 124
 - LogFile パラメタ 124
 - LogLevel パラメタ 124
 - LogSize パラメタ 125
 - NoPrint パラメタ 125
 - NoSetPrinterDlg パラメタ 125
 - PrintEndPage パラメタ 126
 - PrinterName パラメタ 126
 - PrintStartPage パラメタ 127
 - SelectDisplayPrinter パラメタ 127
 - SendResultURL パラメタ 129
 - ShowScrollBar パラメタ 129
 - TempFileDel パラメタ 129
 - TrayName パラメタ 130
 - UserParam パラメタ 130
 - Zoom パラメタ 131
 - 5.4 メソッド仕様 132
 - Find メソッド 132
 - FindNext メソッド 132
 - HScroll メソッド 133
 - PrintEPF メソッド 133
 - TurnPage メソッド 134
 - VScroll メソッド 134
 - Zoom メソッド 135
 - 5.5 プロパティ仕様 136
 - CurrentPage プロパティ 136

- DlgStyleOpt プロパティ 136
- ExclusionPrinterDriver プロパティ 136
- ExclusionPrinterName プロパティ 137
- PermissionPrinterDriver プロパティ 139
- PermissionPrinterName プロパティ 140
- SelectDisplayPrinter プロパティ 141
- TotalPage プロパティ 143
- 5.6 イベント仕様 144
- PageChanged イベント 144
- 5.7 タグの記述例 145
- 5.7.1 Web ブラウザ上で帳票を印刷する EUR Web Plug-In (印刷用) を使用するときの<object>タグの記述例 145
- 5.7.2 Web ブラウザ上で帳票を表示・印刷する EUR Web Plug-In (プレビュー用) を使用するときの<object>タグの記述例 146

6 ActiveX 起動部品 149

- 6.1 ActiveX 起動部品とは 150
- 6.1.1 ファイル名 150
- 6.1.2 プログラム ID とコントロール名 150
- 6.1.3 提供するクラス 150
- 6.1.4 構文 151
- 6.2 ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ 153
- 6.2.1 メソッド一覧 153
- 6.2.2 プロパティ一覧 (出力メソッド) 154
- 6.2.3 プロパティ一覧 (情報取得メソッド) 161
- 6.2.4 指定値に使用できない文字について 162
- 6.3 ActiveX 起動部品のメソッド仕様 163
- GetDestinationList メソッド 163
- GetJobID メソッド 164
- GetJobIDList メソッド 165
- GetOutputPageCount メソッド 166
- GetPMPrinterClassList メソッド 167
- GetPMPrinterList メソッド 168
- GetPMTrayList メソッド 170
- GetPreviewAXClassID メソッド 171
- GetPreviewAXVersion メソッド 172
- GetPrintAXClassID メソッド 173
- GetPrintAXVersion メソッド 174
- GetPrinterClassList メソッド 175
- GetPrinterList メソッド 176
- GetTrayList メソッド 178
- OutputEPFReport メソッド 180
- OutputEURReport メソッド 180

	OutputMergeEPFReport メソッド	181
	OutputPDFReport メソッド	182
	OutputXLSXReport メソッド	183
	PrintPMReport メソッド	183
6.4	ActiveX 起動部品のプロパティ仕様	185
	AdpEnvFile プロパティ	185
	BookmarkFileName プロパティ	187
	BookmarkFilePath プロパティ	188
	ClientAddress プロパティ	188
	ClientPrinterName プロパティ	189
	ClientTrayName プロパティ	189
	Crypto プロパティ	190
	CryptoFileName プロパティ	190
	CryptoFilePath プロパティ	191
	DataFileName プロパティ	191
	DataFilePath プロパティ	192
	DBInfoFileName プロパティ	192
	DBInfoFilePath プロパティ	193
	DestinationName プロパティ	193
	DispPrintDlg プロパティ	194
	DistributeFileName プロパティ	195
	DistributeFilePath プロパティ	195
	DocBookmarkFileName プロパティ	196
	DocInfoFileName プロパティ	196
	DocInfoFilePath プロパティ	197
	EnableGet プロパティ	197
	EncryptionPasswordKey プロパティ	198
	EPFFilename プロパティ	198
	EPFFilePath プロパティ	199
	EURFileName プロパティ	199
	EURFilePath プロパティ	200
	ExecutablePrintMode プロパティ	200
	FileOutputDestination プロパティ	201
	FirstPageNumber プロパティ	201
	GroupName プロパティ	202
	InitPageNumber プロパティ	203
	JobKeyCategory プロパティ	203
	JobKeyData プロパティ	204
	MaxPrintCount プロパティ	204
	MergeEPFFilename プロパティ	205
	MergeEPFFilePath プロパティ	205
	MultiFormInfoDefFileName プロパティ	206
	MultiFormInfoDefFilePath プロパティ	207
	MultiReportSetFileName プロパティ	207
	MultiReportSetFilePath プロパティ	208

OutputPageCountOpt プロパティ 208
PageNumberFormat プロパティ 209
PageNumberLocation プロパティ 209
PaperOrientation プロパティ 210
PDFFileName プロパティ 211
PDFFilePath プロパティ 212
PMServerAddress プロパティ 212
PMServerPort プロパティ 213
PrintCopies プロパティ 213
PrintDateFileName プロパティ 213
PrintDateFilePath プロパティ 214
PrintEndPage プロパティ 215
PrinterClassName プロパティ 215
PrinterSelectMode プロパティ 217
PrintHoldMode プロパティ 218
PrintKind プロパティ 219
PrintMode プロパティ 219
PrintPageNumber プロパティ 220
PrintStartPage プロパティ 221
PSEnvFileName プロパティ 221
PSEnvFilePath プロパティ 222
ReplaceItemCntlFileName プロパティ 223
ReplaceItemCntlFilePath プロパティ 224
ReportAddressKeyCategory プロパティ 225
ReportAddressKeyData プロパティ 225
ReportFileName プロパティ 225
ReportFilePath プロパティ 226
ReportID プロパティ 227
ScriptCntlFileName プロパティ 227
ScriptCntlFilePath プロパティ 228
ServerAddress プロパティ 229
ServerPrinterName プロパティ 229
ServerSelectMode プロパティ 230
ServerTrayName プロパティ 230
SortPrint プロパティ 232
SplitFileName プロパティ 232
SplitFilePath プロパティ 233
SplitMode プロパティ 233
SpoolFileName プロパティ 234
SpoolLimit プロパティ 235
SpoolTitle プロパティ 236
UserDataFileName プロパティ 237
UserDataFilePath プロパティ 237
ViewerPreferenceFileName プロパティ 238
ViewerPreferenceFilePath プロパティ 239

- XLSXFileName プロパティ 239
- XLSXFilePath プロパティ 240
- 6.5 エラー情報 241
- 6.5.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧 241
- 6.5.2 Err.Number プロパティ (終了コード) 243
- 6.5.3 Err.Description プロパティ (メッセージ文) 244

7 SS-ActiveX 起動部品 245

- 7.1 SS-ActiveX 起動部品とは 246
 - 7.1.1 ファイル名 246
 - 7.1.2 プログラム ID とコントロール名 246
 - 7.1.3 提供するクラス 246
 - 7.1.4 構文 247
- 7.2 SS-ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ 249
 - 7.2.1 メソッド一覧 249
 - 7.2.2 プロパティ一覧 249
 - 7.2.3 指定値に使用できない文字について 256
- 7.3 SS-ActiveX 起動部品のメソッド仕様 257
 - ChangeAuditLog メソッド 257
 - DeleteSpoolFile メソッド 258
 - GetPrinterClassList メソッド 259
 - GetPrinterList メソッド 261
 - GetSpoolFile メソッド 262
 - GetSpoolFileAttribute メソッド 263
 - GetSpoolFileOutline メソッド 265
 - GetTrayList メソッド 266
 - Initialize メソッド 268
 - PrintSpoolReport メソッド 269
 - SetSpoolFileAttribute メソッド 270
- 7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様 272
 - AdpEnvFile プロパティ 272
 - ClientAddress プロパティ 274
 - ClientPrinterName プロパティ 275
 - ClientTrayName プロパティ 275
 - CreateIPAddress プロパティ 276
 - CreateLSVersion プロパティ 277
 - CreateTime プロパティ 277
 - DeleteKind プロパティ 278
 - DispPrintDlg プロパティ 279
 - EnableGet プロパティ 280
 - ExecPrintCount プロパティ 280
 - ExecutablePrintMode プロパティ 281
 - GroupName プロパティ 281

	JobID プロパティ	282
	JobKeyCategory プロパティ	283
	JobKeyData プロパティ	283
	MaxPrintCount プロパティ	284
	OutputFileKind プロパティ	285
	OutputFileName プロパティ	285
	OutputFilePath プロパティ	286
	PageNum プロパティ	286
	PaperOrientation プロパティ	287
	PrintCopies プロパティ	287
	PrintEndPage プロパティ	288
	PrinterClassList プロパティ	288
	PrinterClassName プロパティ	289
	PrinterSelectMode プロパティ	290
	PrintMode プロパティ	291
	PrintResult プロパティ	291
	PrintStartPage プロパティ	292
	PrintTime プロパティ	293
	ReportAddressKeyCategory プロパティ	293
	ReportAddressKeyData プロパティ	294
	SearchCreateTimeEnd プロパティ	294
	SearchCreateTimeStart プロパティ	295
	SearchJobID プロパティ	295
	SearchJobKeyCategory プロパティ	296
	SearchJobKeyData プロパティ	297
	SearchPrinterClassName プロパティ	297
	SearchReportAddressKeyCategory プロパティ	298
	SearchReportAddressKeyData プロパティ	298
	SearchSpoolFileName プロパティ	299
	ServerAddress プロパティ	299
	ServerPrinterList プロパティ	300
	ServerPrinterName プロパティ	300
	ServerTrayList プロパティ	301
	ServerTrayName プロパティ	301
	SortPrint プロパティ	302
	SpoolFileName プロパティ	303
	SpoolFileSize プロパティ	303
	SpoolHistory プロパティ	303
	SpoolLimit プロパティ	304
	SpoolPath プロパティ	305
	SpoolTitle プロパティ	305
7.5	エラー情報	307
7.5.1	SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧	307
7.5.2	Err.Number プロパティ (終了コード)	309
7.5.3	Err.Description プロパティ (メッセージ文)	309

- 8 Java 起動部品 310**
- 8.1 Java 起動部品とは 311
- 8.1.1 JDK バージョン 311
- 8.1.2 ファイル名 311
- 8.1.3 パッケージ 312
- 8.2 EURPMAAdapterForJava クラス 314
- 8.2.1 コンストラクタ 314
- 8.2.2 メソッド一覧 315
- 8.2.3 指定値に使用できない文字について 325
- 8.3 EURPMEException クラス 326
- 8.3.1 メソッド一覧 326
- 8.3.2 指定値に使用できない文字について 326
- 8.4 EURPMAAdapterForJava クラスのメソッド仕様 327
 - getDestinationList メソッド 327
 - getEPFReport メソッド 328
 - getEURReport メソッド 328
 - getJobID メソッド 329
 - getJobIDList メソッド 329
 - getMergeEPFReport メソッド 330
 - getOutputPageCount メソッド 331
 - getPDFReport メソッド 331
 - getPMPrinterClassList メソッド 332
 - getPMPrinterList メソッド 333
 - getPMTrayList メソッド 334
 - getPreviewAXClassID メソッド 335
 - getPreviewAXVersion メソッド 336
 - getPrintAXClassID メソッド 337
 - getPrintAXVersion メソッド 338
 - getPrinterClassList メソッド 338
 - getPrinterList メソッド 340
 - getTrayList メソッド 341
 - getXLSXReport メソッド 343
 - outputEPFReport メソッド 343
 - outputEURReport メソッド 344
 - outputMergeEPFReport メソッド 345
 - outputPDFReport メソッド 346
 - outputXLSXReport メソッド 346
 - printReport メソッド 347
 - setAdpEnvFile メソッド 348
 - setBookmarkFileData メソッド 351
 - setBookmarkFileName メソッド 352
 - setBookmarkFilePath メソッド 353
 - setClientAddress メソッド 354

setClientPrinterName メソッド 355
setClientTrayName メソッド 356
setCrypto メソッド 356
setCryptoFileData メソッド 357
setCryptoFileName メソッド 358
setCryptoFilePath メソッド 359
setDataFileData メソッド 359
setDataFileName メソッド 361
setDataFilePath メソッド 362
setDBInfoFileName メソッド 363
setDBInfoFilePath メソッド 364
setDestinationName メソッド 364
setDisplayPrintDlg メソッド 365
setDistributeFileData メソッド 366
setDistributeFileName メソッド 367
setDistributeFilePath メソッド 368
setDocBookmarkFileData メソッド 368
setDocBookmarkFileName メソッド 369
setDocInfoFileName メソッド 370
setDocInfoFilePath メソッド 371
setEnabledGet メソッド 372
setEncryptionPasswordKey メソッド 372
setEPFFileData メソッド 373
setEPFFileName メソッド 374
setEPFFilePath メソッド 375
setEURFileName メソッド 375
setEURFilePath メソッド 376
setExecutablePrintMode メソッド 376
setFileOutputDestination メソッド 377
setFirstPageNumber メソッド 378
setGroupName メソッド 379
setInitPageNumber メソッド 380
setJobKeyCategory メソッド 380
setJobKeyData メソッド 381
setMaxPrintCount メソッド 382
setMergeEPFFileName メソッド 383
setMergeEPFFilePath メソッド 383
setMultiBookmarkFileName メソッド 384
setMultiDataFileName メソッド 385
setMultiFormInfoDefFileName メソッド 386
setMultiFormInfoDefFilePath メソッド 388
setMultiReportFileName メソッド 388
setMultiReportSetFileName メソッド 389
setMultiReportSetFilePath メソッド 390
setMultiUserDataFileName メソッド 391

setOutputPageCountOpt メソッド 392
setPageNumberFormat メソッド 393
setPageNumberLocation メソッド 393
setPaperOrientation メソッド 394
setPDFFileName メソッド 395
setPDFFilePath メソッド 396
setPMServerAddress メソッド 397
setPMServerPort メソッド 398
setPrintCopies メソッド 398
setPrintDateFileName メソッド 399
setPrintDateFilePath メソッド 400
setPrintEndPage メソッド 401
setPrinterClassName メソッド 402
setPrinterSelectMode メソッド 404
setPrintHoldMode メソッド 405
setPrintKind メソッド 406
setPrintMode メソッド 406
setPrintPageNumber メソッド 407
setPrintStartPage メソッド 408
setPSEnvFileName メソッド 409
setPSEnvFilePath メソッド 410
setReplaceltemCntlFileName メソッド 411
setReplaceltemCntlFilePath メソッド 412
setReportAddressKeyCategory メソッド 413
setReportAddressKeyData メソッド 414
setReportFileName メソッド 415
setReportFilePath メソッド 416
setReportID メソッド 416
setScriptCntlFileName メソッド 417
setScriptCntlFilePath メソッド 418
setServerAddress メソッド 419
setServerPrinterName メソッド 419
setServerSelectMode メソッド 420
setServerTrayName メソッド 421
setSortPrint メソッド 423
setSplitFileData メソッド 423
setSplitFileName メソッド 424
setSplitFilePath メソッド 426
setSplitMode メソッド 426
setSpoolFileName メソッド 427
setSpoolLimit メソッド 428
setSpoolTitle メソッド 429
setUserDataFileData メソッド 430
setUserDataFileName メソッド 432
setUserDataFilePath メソッド 433

- setViewerPreferenceFileName メソッド 434
- setViewerPreferenceFilePath メソッド 435
- setXLSXFileName メソッド 435
- setXLSXFilePath メソッド 436
- 8.5 EURPMLSException クラスのメソッド仕様 438
 - getErrorCode メソッド 438
 - getErrorLevel メソッド 438
 - getKey メソッド 438
 - getMessage メソッド 439
 - getOutputData メソッド 439
- 8.6 例外情報 441
 - 8.6.1 Java 起動部品実行時の例外情報一覧 441
 - 8.6.2 getErrorCode メソッド (終了コード) 443
 - 8.6.3 getErrorLevel メソッド (エラーレベル) 443
 - 8.6.4 getKey メソッド (メッセージID) 444
 - 8.6.5 getMessage メソッド (メッセージ文) 444
 - 8.6.6 getOutputData メソッド 444
- 9 SS-Java 起動部品 445**
 - 9.1 SS-Java 起動部品とは 446
 - 9.1.1 JDK バージョン 446
 - 9.1.2 ファイル名 446
 - 9.1.3 パッケージ 447
 - 9.2 EURPMLSAAdapterForJava クラス 449
 - 9.2.1 コンストラクタ 449
 - 9.2.2 メソッド一覧 450
 - 9.2.3 指定値に使用できない文字について 458
 - 9.3 EURPMLSException クラス 459
 - 9.3.1 メソッド一覧 459
 - 9.3.2 指定値に使用できない文字について 459
 - 9.4 EURPMLSAAdapterForJava クラスのメソッド仕様 460
 - changeAuditLog メソッド 460
 - deleteSpoolFile メソッド 460
 - getClientAddress メソッド 461
 - getClientPrinterName メソッド 462
 - getClientTrayName メソッド 462
 - getCreateIPAddress メソッド 463
 - getCreateLSVersion メソッド 463
 - getCreateTime メソッド 464
 - getCreateTimeMulti メソッド 465
 - getDispPrintDlg メソッド 465
 - getEnableGet メソッド 466

getExecPrintCount メソッド 467
getExecutablePrintMode メソッド 467
getGroupName メソッド 468
getJobID メソッド 469
getJobKeyCategory メソッド 469
getJobKeyData メソッド 470
getMaxPrintCount メソッド 470
getPageNum メソッド 471
getPageNumMulti メソッド 471
getPrinterClassList メソッド 472
getPrinterClassName メソッド 473
getPrinterClassNameMulti メソッド 473
getPrinterList メソッド 474
getPrinterSelectMode メソッド 475
getPrintResult メソッド 475
getPrintResultMulti メソッド 476
getPrintTime メソッド 477
getReportAddressKeyCategory メソッド 478
getReportAddressKeyData メソッド 478
getServerPrinterName メソッド 478
getServerTrayName メソッド 479
getSpoolFile メソッド 480
getSpoolFileAttribute メソッド 480
getSpoolFileName メソッド 481
getSpoolFileNameMulti メソッド 482
getSpoolFileOutline メソッド 482
getSpoolFileSize メソッド 483
getSpoolHistory メソッド 483
getSpoolLimit メソッド 484
getSpoolPath メソッド 485
getSpoolPathMulti メソッド 486
getTrayList メソッド 486
initialize メソッド 487
memgetSpoolFile メソッド 488
printSpoolReport メソッド 488
setAdpEnvFile メソッド 489
setClientAddress メソッド 491
setClientPrinterName メソッド 492
setClientTrayName メソッド 493
setDeleteKind メソッド 494
setDispPrintDlg メソッド 495
setEnabledGet メソッド 496
setExecutablePrintMode メソッド 496
setGroupName メソッド 497
setJobKeyCategory メソッド 498

- setJobKeyData メソッド 499
- setMaxPrintCount メソッド 500
- setOutputFileKind メソッド 500
- setOutputFileName メソッド 501
- setOutputFilePath メソッド 502
- setPaperOrientation メソッド 503
- setPrintCopies メソッド 504
- setPrintEndPage メソッド 504
- setPrinterClassName メソッド 505
- setPrinterSelectMode メソッド 506
- setPrintMode メソッド 507
- setPrintStartPage メソッド 508
- setSearchCreateTimeEnd メソッド 509
- setSearchCreateTimeStart メソッド 510
- setSearchJobID メソッド 511
- setSearchJobIDMulti メソッド 512
- setSearchJobKeyCategory メソッド 513
- setSearchJobKeyData メソッド 514
- setSearchPrinterClassName メソッド 515
- setSearchReportAddressKeyCategory メソッド 515
- setSearchReportAddressKeyData メソッド 516
- setSearchSpoolFileName メソッド 517
- setServerAddress メソッド 517
- setServerPrinterName メソッド 518
- setServerTrayName メソッド 519
- setSortPrint メソッド 520
- setSpoolFileAttribute メソッド 521
- setSpoolLimit メソッド 522
- setSpoolTitle メソッド 523
- 9.5 EURPMLSEException クラスのメソッド仕様 524
 - getErrorCode メソッド 524
 - getErrorLevel メソッド 524
 - getKey メソッド 524
 - getMessage メソッド 525
 - getOutputData メソッド 525
- 9.6 例外情報 526
 - 9.6.1 SS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧 526
 - 9.6.2 getErrorCode メソッド (終了コード) 528
 - 9.6.3 getErrorLevel メソッド (エラーレベル) 528
 - 9.6.4 getKey メソッド (メッセージID) 528
 - 9.6.5 getMessage メソッド (メッセージ文) 528
 - 9.6.6 getOutputData メソッド 528

- 10 COBOL 起動部品 529**
- 10.1 COBOL 起動部品とは 530
- 10.1.1 COBOL 起動部品の構成 530
- 10.1.2 COBOL 起動部品の呼び出し規約 531
- 10.2 関数一覧 532
- 10.3 関数仕様 533
 - GetDestinationList 関数 533
 - GetDestinationList2 関数 535
 - GetPMPrinterClassList 関数 537
 - GetPMPrinterList 関数 540
 - GetPMTrayList 関数 542
 - GetPrinterClassList 関数 545
 - GetPrinterClassList2 関数 547
 - GetPrinterList 関数 550
 - GetTrayList 関数 553
 - OutputEPFReport 関数 556
 - OutputEURReport 関数 572
 - OutputMergeEPFReport 関数 583
 - OutputPDFReport 関数 588
 - OutputXLSXReport 関数 607
 - PrintReport 関数 616
 - PrintReport2 関数 649
- 10.4 エラー情報 684
- 10.4.1 エラー情報一覧 684
- 10.4.2 RTNCODE (終了コード) 686
- 10.4.3 ERRORMESSAGE (メッセージ) 686

第3編 帳票出力で使用するファイル

- 11 帳票サーバに準備するファイル 687**
- 11.1 帳票サーバに準備するファイルの一覧 688
- 11.2 帳票ファイル 690
- 11.2.1 概要 690
- 11.2.2 扱える帳票ファイルの形式 690
- 11.3 画像ファイル 691
- 11.3.1 概要 691
- 11.3.2 扱える画像データの詳細形式 691
- 11.3.3 注意事項 694
- 11.4 文書情報設定ファイル 696
- 11.4.1 概要 696
- 11.4.2 形式 696
- 11.4.3 キーワード 696

- 11.4.4 指定例 699
- 11.5 プリンタ定義ファイル 701
 - 11.5.1 概要 701
 - 11.5.2 形式 702
 - 11.5.3 キーワード 703
 - 11.5.4 指定例 721
- 11.6 複数様式情報定義ファイル 723
 - 11.6.1 概要 723
 - 11.6.2 形式 724
 - 11.6.3 キーワード 724
- 11.7 接続情報ファイル 738
- 11.8 置き換え表管理情報ファイル 739
 - 11.8.1 概要 739
 - 11.8.2 形式 739
 - 11.8.3 キーワード 739
- 11.9 置き換え表ファイル 740
 - 11.9.1 概要 740
 - 11.9.2 形式 740
 - 11.9.3 キーワード 740
 - 11.9.4 注意事項 741
- 11.10 Acrobat JavaScript 定義ファイル 742
 - 11.10.1 概要 742
 - 11.10.2 形式 742
 - 11.10.3 キーワード 742
 - 11.10.4 注意事項 743
- 11.11 Acrobat JavaScript ファイル 744
 - 11.11.1 概要 744
 - 11.11.2 形式 744
- 11.12 ビューアプレファレンス定義ファイル 745
 - 11.12.1 概要 745
 - 11.12.2 形式 745
 - 11.12.3 キーワード 745
 - 11.12.4 注意事項 746
- 11.13 テスト印刷設定ファイル 747
 - 11.13.1 概要 747
 - 11.13.2 形式 748
 - 11.13.3 キーワード 749
 - 11.13.4 注意事項 752
- 11.14 印刷日時出力定義ファイル 754

- 11.14.1 概要 754
- 11.14.2 形式 754
- 11.14.3 キーワード 754
- 11.14.4 注意事項 758
- 11.14.5 指定例 758
- 11.15 帳票出力定義ファイル 759
- 11.15.1 概要 759
- 11.15.2 形式 759
- 11.15.3 注意事項 762
- 11.15.4 指定例 762
- 11.16 EUR フォントファイル 764
- 11.16.1 概要 764
- 11.16.2 形式 765
- 11.16.3 オプション 765
- 11.16.4 指定例 766

12 アプリケーションサーバに準備するファイル 768

- 12.1 アプリケーションサーバに準備するファイルの一覧 769
- 12.2 データファイル 770
 - 12.2.1 概要 770
 - 12.2.2 扱えるデータファイルの形式 770
- 12.3 可変記号値定義ファイル 773
- 12.4 帳票セット指定ファイル 774
 - 12.4.1 概要 774
 - 12.4.2 形式 774
 - 12.4.3 サンプルの内容 776
- 12.5 文書しおり定義ファイル 777
 - 12.5.1 概要 777
 - 12.5.2 形式 777
 - 12.5.3 キーワード 778
- 12.6 しおり定義ファイル 780
 - 12.6.1 概要 780
 - 12.6.2 形式 781
 - 12.6.3 キーワード 781
- 12.7 暗号化設定ファイル 784
 - 12.7.1 概要 784
 - 12.7.2 形式 784
 - 12.7.3 キーワード 785
- 12.8 PDF 仕分け定義ファイル 790

- 12.8.1 PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合 790
- 12.8.2 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 792
- 12.8.3 注意事項 796
- 12.9 制御情報付データファイル 797
 - 12.9.1 概要 797
 - 12.9.2 形式 797
 - 12.9.3 キーワード 798
 - 12.9.4 注意事項 801
- 12.10 起動パラメタファイル 802
 - 12.10.1 概要 802
 - 12.10.2 形式 802
 - 12.10.3 指定できるオプション 804
 - 12.10.4 注意事項 830
- 12.11 EUR Web Plug-In 情報ファイル 831
 - 12.11.1 概要 831
 - 12.11.2 形式 831

13 運用に応じて格納先を決めるファイル 833

- 13.1 運用に応じて格納先を決めるファイルの一覧 834
- 13.2 分割定義ファイル 835
 - 13.2.1 概要 835
 - 13.2.2 形式 835
 - 13.2.3 キーワード 835
 - 13.2.4 サンプルの内容 836
- 13.3 仕分け定義ファイル 838
 - 13.3.1 概要 838
 - 13.3.2 形式 838
 - 13.3.3 キーワード 838
 - 13.3.4 サンプルの内容 839

第4編 帳票出力環境の構築で使用するファイル

14 構成定義ファイル 841

- 14.1 構成定義ファイルの一覧 842
- 14.2 出力先定義ファイル 843
 - 14.2.1 概要 843
 - 14.2.2 格納先 844
 - 14.2.3 形式 844
 - 14.2.4 サンプルの内容 844
- 14.3 帳票サーバプリンタクラス定義ファイル 845

14.3.1	概要	845
14.3.2	格納先	845
14.3.3	形式	846
14.3.4	サンプルの内容	846
14.4	印刷先定義ファイル	847
14.4.1	概要	847
14.4.2	格納先	847
14.4.3	形式	847
14.4.4	注意事項	851
14.4.5	サンプルの内容	852
14.5	拠点プリンタクラス定義ファイル	854
14.5.1	概要	854
14.5.2	格納先	854
14.6	帳票振り分け定義ファイル	855
14.6.1	概要	855
14.6.2	格納先	855
14.7	ユーザ管理ファイル	856
14.7.1	概要	856
14.7.2	格納先	856
14.7.3	形式	856
14.7.4	サンプルの内容	859
14.8	クライアントプリンタクラス定義ファイル	862
14.8.1	概要	862
14.8.2	格納先	862
14.9	宛先定義ファイル	863
14.9.1	概要	863
14.9.2	格納先	863
14.9.3	形式	863
14.9.4	注意事項	864
14.9.5	サンプルの内容	864
14.10	監視定義ファイル	867
14.10.1	概要	867
14.10.2	格納先	867
14.10.3	形式	867
14.10.4	注意事項	868
15	環境設定ファイル	869
15.1	環境設定ファイルの一覧	870
15.2	EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini)	871

15.2.1	設定項目一覧	873
15.2.2	EURPM	875
15.2.3	EURPMLS	876
15.2.4	EURPMCL	876
15.2.5	FORM	876
15.2.6	CONF	877
15.2.7	TEMP	877
15.2.8	MULTI	878
15.2.9	DOCINFO	878
15.2.10	DBINFO	878
15.2.11	REPLACEITEM	879
15.2.12	SCRIPTCNT	879
15.2.13	PREFERENCE	880
15.2.14	PSENV	880
15.2.15	PDF	881
15.2.16	PRINTDATE (PATH セクション)	881
15.2.17	SPLIT (PATH セクション)	882
15.2.18	LOGFILE	882
15.2.19	LOGLEVEL	883
15.2.20	LOGSIZE	883
15.2.21	PATHMODE	884
15.2.22	TEMPFILEDEL	886
15.2.23	SOCKBUFFSIZE	886
15.2.24	SPLITMODE	887
15.2.25	RMDIRRETRYCOUNT	887
15.2.26	RMDIRINTERVALTIME	888
15.2.27	GENERAL	888
15.2.28	EURPS	889
15.2.29	MERGE	889
15.2.30	CONNECT	890
15.2.31	ERRIGNORE	890
15.2.32	LOGEXCLUSIVE	891
15.2.33	PSENVFILENAME	891
15.2.34	PRINTDATE (FILE セクション)	892
15.2.35	SPLIT (FILE セクション)	893
15.2.36	REPORTID	894
15.3	EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV)	896
15.3.1	環境変数一覧	898
15.3.2	EURPS_LOGFILEPATH	903

15.3.3 EURPS_LOGSIZE 904
15.3.4 EURPS_LOGFILELEVEL 904
15.3.5 EURPS_IMAGEPATH 905
15.3.6 EURPS_REPORT_WARNING 905
15.3.7 EURPS_GAIJIFONT 906
15.3.8 EURPS_PDF_OUTPUT 907
15.3.9 EURPS_PDF_SAMEIMAGE 907
15.3.10 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEMEM 908
15.3.11 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD 909
15.3.12 EURPS_TMPPATH 910
15.3.13 EURPS_PDL_EXMINFONTPATH 911
15.3.14 EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH 911
15.3.15 EURPS_TRACE 912
15.3.16 EURPS_TRACE_DRAWAPI 912
15.3.17 EURPS_REPORT_LOGERROR 913
15.3.18 EURPS_REPLACEITEMPATH 913
15.3.19 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE 914
15.3.20 EURPS_PRINT 915
15.3.21 EURPS_CODE39_PARAM 915
15.3.22 EURPS_CODE128_PARAM 917
15.3.23 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL 919
15.3.24 EURPS_QR_VERSION 920
15.3.25 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE 920
15.3.26 EURPS_QR_CELL_SIZE_D 921
15.3.27 EURPS_QR_CELL_SIZE_M 921
15.3.28 EURPS_SCRIPTFILEPATH 922
15.3.29 EURPS_FIXOPT 923
15.3.30 EURPS_PRINTERINFPATH 923
15.3.31 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG 924
15.3.32 EURPS_OUTPUTPDF_VER 925
15.3.33 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE 926
15.3.34 EURPS_FONT_WIDTH_MODE 927
15.3.35 EURPS_EXCELLOGFILELEVEL 927
15.3.36 EURPS_EXCELTMPPATH 928
15.3.37 EURPS_TESTPRINTFILE 928
15.3.38 EURPS_FONT_ROUNDDOWN 929
15.3.39 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES 929
15.3.40 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY 931
15.3.41 EURPS_PDF_BUFSIZE 932

15.3.42	EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT	933
15.3.43	EURPS_EPFDPPI	933
15.3.44	EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS	934
15.3.45	EURPS_UPC_BARCODE	935
15.3.46	EURPS_OUTPUTPATH	935
15.3.47	EURPS_EXCEL_REPEAT_MODE	936
15.3.48	EURPS_PS2_PR1	936
15.3.49	EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGE NUMBER	937
15.3.50	EURPS_LOCATION_FIXIMAGE	938
15.3.51	EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE	939
15.3.52	ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数	940
15.3.53	環境設定ファイルの指定例	943
15.4	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini)	948
15.4.1	設定項目一覧	950
15.4.2	EURPM (PORT セクション)	951
15.4.3	EURPM (IPADDRESS セクション)	952
15.4.4	LOGFILE	952
15.4.5	LOGLEVEL	953
15.4.6	LOGSIZE	953
15.4.7	DBZEROEXITCODE	954
15.4.8	PRINTMODE	954
15.4.9	DEFAULTPRINTMODE	955
15.4.10	SOCKBUFFSIZE	955
15.4.11	DATABUFFSIZE	956
15.4.12	DISPPRINTDLG	957
15.4.13	FILEOUTPUTDESTINATION	958
15.4.14	SPOOLLIMIT	959
15.4.15	OUTPUT	960
15.4.16	EPFOUTPUT	961
15.4.17	EUROUTPUT	961
15.4.18	PDFOUTPUT	961
15.4.19	DESTLIST	962
15.4.20	PRTCLSLIST	962
15.4.21	XLSXOUTPUT	963
15.4.22	MERGEOUTPUT	963
15.4.23	LOGEXCLUSIVE	963
15.5	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini)	965
15.5.1	設定項目一覧	967

15.5.2	EURPMLS	971
15.5.3	EURPMCL	971
15.5.4	CONF	971
15.5.5	TEMP	972
15.5.6	ESF	972
15.5.7	POB	973
15.5.8	LOGFILE	973
15.5.9	LOGLEVEL	974
15.5.10	LOGSIZE	974
15.5.11	TEMPFILEDEL	975
15.5.12	ESFAUTODEL	975
15.5.13	SOCKBUFFSIZE	976
15.5.14	SPLOUTLINELIMIT	976
15.5.15	ESFID	977
15.5.16	AUTHENTICATION	977
15.5.17	INTERVAL	978
15.5.18	PERSONALCATEGORY	978
15.5.19	APSAUTO	978
15.5.20	LDAPSERVER	979
15.5.21	LDAPBINDDN	980
15.5.22	LDAPPASSWORD	980
15.5.23	LDAPBASEDN	981
15.5.24	LDAPUIDATTR	981
15.5.25	LDAPTLS	982
15.5.26	ENCRYPTPASSWORD	982
15.5.27	RMDIRRETRYCOUNT	983
15.5.28	RMDIRINTERVALTIME	983
15.5.29	LDAPPASSWORDEMPYCHECK	983
15.5.30	STANDARDTIME	984
15.5.31	CONVERTPAGELIMIT	985
15.5.32	ADDRDEFFILENAME	985
15.5.33	GENERAL	985
15.5.34	EURPS	986
15.5.35	MERGE	986
15.5.36	CONVERT	987
15.5.37	CONNECT	987
15.5.38	ERRIGNORE	988
15.5.39	WAITINGLIMIT	989
15.5.40	PRINTINGLIMIT	989

15.5.41	PRINTEDLIMIT	990	
15.5.42	ERRORLIMIT	990	
15.5.43	LDAPCONNECT	990	
15.5.44	LOGEXCLUSIVE	991	
15.5.45	SPOOLAUDITLOG	991	
15.5.46	SPOOLLOG	992	
15.5.47	SPOOLLOGSIZE	992	
15.5.48	SPOOLLOGDATE	993	
15.5.49	SPOOLLOGNUM	994	
15.5.50	SPOOLLOGMODE	994	
15.6	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini)	996	
15.6.1	設定項目一覧	998	
15.6.2	EURPMLS (PORT セクション)	999	
15.6.3	EURPMLS (IPADDRESS セクション)	1000	
15.6.4	LOGFILE	1000	
15.6.5	LOGLEVEL	1001	
15.6.6	LOGSIZE	1001	
15.6.7	PRINT	1002	
15.6.8	GETFILE	1002	
15.6.9	FILELIST	1003	
15.6.10	FILEOPERATE	1003	
15.6.11	DELETE	1003	
15.6.12	PRTCLSLIST	1004	
15.6.13	AUTHENTICATION	1004	
15.6.14	POLLINGREPORT	1004	
15.6.15	PRINTSTATE	1005	
15.6.16	CHANGEAUDITLOG	1005	
15.6.17	LOGEXCLUSIVE	1006	
15.6.18	OUTPUTFILE	1006	
15.6.19	SOCKBUFFSIZE	1007	
15.6.20	USERNAME	1007	
15.6.21	CHECKSTRING	1008	
15.6.22	DATABUFFSIZE	1008	
15.7	帳票管理 GUI の環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini)	1010	
15.7.1	設定項目一覧	1011	
15.7.2	PATH	1012	
15.7.3	EPFDATAMAXSIZE	1013	
15.7.4	DEFAULTPRINTDLG	1013	
15.7.5	ENABLEGETPDF	1014	

15.8	EUR Client Service の環境設定ファイル (EURPMCL.ini)	1015
15.8.1	設定項目一覧	1016
15.8.2	EURPMCL	1017
15.8.3	CONF	1017
15.8.4	TEMP	1018
15.8.5	DELISERVICE	1018
15.8.6	LOGFILE	1019
15.8.7	LOGLEVEL	1019
15.8.8	LOGSIZE	1019
15.8.9	EVENTLOGLEVEL	1020
15.8.10	TEMPFILEDEL	1020
15.8.11	SOCKBUFFSIZE	1021
15.8.12	FIRSTDELIVERY	1021
15.8.13	RMDIRRETRYCOUNT	1022
15.8.14	RMDIRINTERVALTIME	1022
15.8.15	SELECTDISPLAYPRINTER	1023
15.8.16	CONNECT	1023
15.8.17	ERRIGNORE	1024
15.8.18	HTTPDATARECEIVE	1025
15.9	Server Service 制御コマンドの環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini)	1026
15.9.1	設定項目一覧	1027
15.9.2	TEMP	1028
15.9.3	LOGFILE	1028
15.9.4	LOGLEVEL	1028
15.9.5	LOGSIZE	1029
15.9.6	START	1029
15.9.7	STOP	1030
15.10	Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini)	1031
15.10.1	設定項目一覧	1032
15.10.2	TEMP	1032
15.10.3	LOGFILE	1033
15.10.4	LOGLEVEL	1033
15.10.5	LOGSIZE	1034
15.10.6	START	1034
15.10.7	STOP	1034
15.11	BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル (eursmpr.ini)	1036
15.11.1	設定項目一覧	1037
15.11.2	環境変数一覧	1038
15.11.3	TEMP	1038

15.11.4	DIVDATA	1039
15.11.5	RUNPARAM	1039
15.11.6	REMAINFLAG	1039
15.11.7	ERRORREMAIN	1041
15.11.8	LOGFILE	1041
15.11.9	LOGLEVEL	1042
15.11.10	LOGSIZE	1042
15.12	ファイル監視サービスの環境設定ファイル (eurfm.ini)	1043
15.12.1	設定項目一覧	1044
15.12.2	FMC	1045
15.12.3	CONF	1045
15.12.4	RUNPARAM	1046
15.12.5	LOGFILE	1046
15.12.6	LOGLEVEL	1047
15.12.7	LOGSIZE	1047
15.12.8	INTERVAL	1047
15.12.9	STANDARDTIME	1048
15.12.10	DATALIMIT	1048
15.12.11	GENERAL	1049
15.13	ジョブ実行プログラムの環境設定ファイル (eurivk.ini)	1050
15.13.1	設定項目一覧	1051
15.13.2	LOGFILE	1051
15.13.3	LOGLEVEL	1051
15.13.4	LOGSIZE	1052

付録 1053

付録 A	コマンドや API を使用するときの注意	1054
付録 A.1	ファイル名, およびファイルのパスを指定するときの注意	1054
付録 A.2	環境設定ファイルとの関係	1055
付録 B	このマニュアルの参考情報	1056
付録 B.1	関連マニュアル	1056
付録 B.2	EUR バージョン 11 での製品体系の変更	1058
付録 B.3	EUR バージョン 11 でのマニュアル体系の変更	1059
付録 B.4	このマニュアルでの表記	1060
付録 B.5	このマニュアルで使用する略語	1062
付録 B.6	KB (キロバイト) などの単位表記について	1063

索引 1064

1

eurpmc コマンド

この章では、EUR Server Service を起動する eurpmc コマンドについて説明します。

1.1 eurpmc コマンドとは

eurpmc コマンドを使用して、EUR Server Service をコマンド起動できます。

eurpmc コマンドでは、メソッド種別などをコマンドのオプションに設定することで、帳票を出力できます。

1.1.1 eurpmc コマンドのファイル名

(1) Windows 環境の場合

EURPMC.exe

eurpmc コマンドのファイルです。EUR Server - Adapter をインストールしたときに、次に示すフォルダにインストールされます。

インストール先フォルダ¥Adapter¥Program

(2) UNIX/Linux 環境の場合

eurpmc

eurpmc コマンドのファイルです。/opt/eur/adapter/bin/にあります。

1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション

eurpmc コマンドでは、オプションを指定して帳票を出力します。

オプション名のセパレータは、「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は、「/」を「-」に置き換えてお読みください。

1.2.1 メソッドオプション一覧

eurpmc コマンドでは、出力と情報取得の機能（メソッド）を、/m オプションで次のように指定します。

/m {epf | eur | merge | pdf | print | xlsx | getdest | getpmpr | getpmprclass | getpmtray | getpr | getprclass | gettray}

/m オプションの指定値とその内容を次に示します。また、/m オプションの指定値が、どの ActiveX 起動部品のメソッドと対応しているかも示します。

表 1-1 /m オプションの指定値と対応する ActiveX 起動部品のメソッド

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する ActiveX 起動部品のメソッド
情報取得	getdest	出力先の一覧を取得します。	GetDestinationList
	getpmpr	帳票サーバのプリンター一覧を取得します。	GetPMPrinterList
	getpmprclass	帳票サーバのプリンタクラス一覧を取得します。	GetPMPrinterClassList
	getpmtray	帳票サーバのトレイ一覧を取得します。	GetPMTrayList
	getpr	指定した出力先のスプールサーバに登録された OS 上のプリンター一覧を取得します。	GetPrinterList
	getprclass	指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。	GetPrinterClassList
	gettray	出力先と OS 上のプリンタを指定し、その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。	GetTrayList
出力	epf	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、EPF 形式ファイルを出力します。	OutputEPFReport
	eur	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、EUR 形式ファイルを出力します。	OutputEURReport

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する ActiveX 起動部品のメソッド
出力	merge	複数の EPF 形式ファイルを一つの EPF 形式ファイルに統合します。	OutputMergeEPFReport
	pdf	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、PDF 形式ファイルを出力します。	OutputPDFReport
	print	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、帳票を印刷または蓄積します。	PrintPMReport
	xlsx	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、Excel 形式ファイルを出力します。	OutputXLSXReport

1.2.2 プロパティオプション一覧

eurpmc コマンドで指定できるプロパティオプションについて説明します。

プロパティオプションの指定値は、ActiveX 起動部品のプロパティと対応しています。プロパティオプションの指定値と、対応する ActiveX 起動部品のプロパティを次に示します。

表 1-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/alljob	帳票の蓄積時に指定すると、蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を取得できます。	—
/adpenv	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	AdpEnvFile
/bm ※1	しおり定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	BookmarkFileName
/bmf	文書しおり定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	DocBookmarkFileName
/bmp	文書しおり定義ファイルまたはしおり定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	BookmarkFilePath
/c ※2	印刷部数 (1～99)	PrintCopies
/client	クライアント PC の IP アドレス (255.255.255.255 形式)	ClientAddress

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/cry	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無 <ul style="list-style-type: none"> • 1 : PDF 形式ファイルを暗号化する • 0 : PDF 形式ファイルを暗号化しない 	Crypto
/cryf	暗号化設定ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	CryptoFileName
/cryfp	暗号化設定ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	CryptoFilePath
/dest	出力先名 (80 バイト以内の文字列)	DestinationName
/df ※3, ※4	文書情報設定ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	DocInfoFileName
/dfp ※3 ※4	文書情報設定ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	DocInfoFilePath
/dialog	ダイアログの表示モード <ul style="list-style-type: none"> • dialog : 印刷先指定ダイアログを表示する (対話型印刷) • auto : 直接印刷を実行する (自動印刷) • preview : プレビューウィンドウを表示する (対話型印刷プレビュー表示) • fullauto : 直接印刷を実行する (全自動印刷) • pvonly : 印刷を実行できないプレビューウィンドウを表示する (対話型印刷プレビュー表示限定) 	DispPrintDlg
/dif	接続情報ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	DBInfoFileName
/difp	接続情報ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	DBInfoFilePath
/dsf	PDF 仕分け定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	DistributeFileName
/dsfp	PDF 仕分け定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	DistributeFilePath
/enc	パスワード暗号化鍵 (32 バイト以内の文字列)	EncryptionPasswordKey
/ep	印刷終了ページ (0~999,999)	PrintEndPage
/epfn	EPF 形式ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	EPFFileName
/epfnp	EPF 形式ファイルのパス	EPFFilePath

1. eurpmc コマンド

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/epfnp	(255 バイト以内の文字列)	EPFFilePath
/eurn	出力 EUR 形式ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	EURFileName
/eurnp	出力 EUR 形式ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	EURFilePath
/exp	実行可能印刷方式 <ul style="list-style-type: none"> sv：スプールサーバで印刷する svcl：スプールサーバでの印刷，またはクライアントで印刷する cl：クライアントで印刷する 	ExecutablePrintMode
/fc	スプールデータの検索キーの分類 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる)	JobKeyCategory
/fd	スプールデータの検索キーの値 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる)	JobKeyData
/foutdest *5	PDF 形式ファイルの出力先 <ul style="list-style-type: none"> adp：EUR Server - Adapter 稼働マシンに出力する pm：EUR Server Service 稼働マシンに出力する 	FileOutputDestination
/fp	ページ番号の初期値 (1~999,999)	FirstPageNumber
/g	スプールデータの取得可否 <ul style="list-style-type: none"> get：スプールデータの取得を許可する noget：スプールデータの取得を許可しない 	EnableGet
/group	帳票振り分け定義の振り分けグループ名 (80 バイト以内の文字列)	GroupName
/ip	ページ番号の開始番号の初期化 <ul style="list-style-type: none"> reset：初期化する normal：初期化しない 	InitPageNumber
/jsc	Acrobat JavaScript 定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	ScriptCntlFileName
/jscp	Acrobat JavaScript 定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	ScriptCntlFilePath
/lm	スプールデータの蓄積期限日 <ul style="list-style-type: none"> 日付で指定する場合 YYYYMMDD 形式 日数で指定する場合 +XXX 形式 	SpoolLimit

1. eurpmc コマンド

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/lsp	印刷先サーバプリンタ名 (80 バイト以内の文字列)	ServerPrinterName
/lst	印刷先サーバプリンタのトレイ名 (80 バイト以内の文字列)	ServerTrayName
/m	出力と情報取得の機能 (メソッド)	—
/map ^{※1}	マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	DataFileName
/mapp	マッピングデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	DataFilePath
/mepfn ^{※1}	統合対象 EPF 形式ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	MergeEPFFileName
/mepfnp	統合対象 EPF 形式ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	MergeEPFFilePath
/message	エラーメッセージを出力する	—
/mfd ^{※3, ※6}	複数様式情報定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	MultiFormInfoDefFileName
/mfdp ^{※3, ※6}	複数様式情報定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	MultiFormInfoDefFilePath
/mrs ^{※6 ※7}	帳票セット指定ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	MultiReportSetFileName
/mrsp ^{※6}	帳票セット指定ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	MultiReportSetFilePath
/nomessage	エラーメッセージを出力しない	—
/num	印刷部数の単位 <ul style="list-style-type: none"> • sort : 部単位 • stack : ページ単位 	SortPrint
/opc ^{※8, ※9}	出力した帳票の総ページ数を出力するかどうか <ul style="list-style-type: none"> • 1 : 総ページ数を出力する • 0 : 総ページ数を出力しない 	OutputPageCountOpt
/p	印刷先クライアントプリンタ名 (80 バイト以内の文字列)	ClientPrinterName
/pdfn ^{※5}	出力 PDF 形式ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	PDFFileName
/pdfnp	出力 PDF 形式ファイルのパス	PDFFilePath

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/pdfnp	(255 バイト以内の文字列)	PDFFilePath
/pf ※10	ページ番号のフォーマット (任意のフォーマット文字列)	PageNumberFormat
/pk	スプールサーバ印刷方式の印刷モード <ul style="list-style-type: none"> • epf : EPF 形式ファイルでの印刷 • eur : EUR 形式ファイルでの印刷 	PrintKind
/pl	余白へのページ番号の印刷位置 <ul style="list-style-type: none"> • topl : ページ番号を左上に出力する • topc : ページ番号を中央上に出力する • topr : ページ番号を右上に出力する • btml : ページ番号を左下に出力する • btmc : ページ番号を中央下に出力する • btmr : ページ番号を右下に出力する 	PageNumberLocation
/pm ※11	出カメソッド (/m オプションの指定値 print) の印刷方式 <ul style="list-style-type: none"> • default : EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) に設定したデフォルト印刷方式で印刷する • cl : クライアント PC で印刷する • spl : 蓄積する • sv : スプールサーバで印刷する • pm : 帳票サーバで直接印刷する • clds : クライアント PC への配布印刷をする 	PrintMode
/pmip	接続する帳票サーバの IP アドレス (255.255.255.255 形式)	PMServerAddress
/pmpn	帳票サーバのポート番号 (1 ~ 65,535)	PMServerPort
/pn	余白へのページ番号印刷の有無 <ul style="list-style-type: none"> • on : 余白へのページ番号を出力する • off : 余白へのページ番号を出力しない 	PrintPageNumber
/po ※12	用紙の向き <ul style="list-style-type: none"> • portrait : 用紙の向きを縦にして印刷する • landscape : 用紙の向きを横にして印刷する 	PaperOrientation
/prc ※13	プリンタクラス名 (80 バイト以内の文字列)	PrinterClassName
/prdatef	印刷日時出力定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	PrintDateFileName
/prdatefp	印刷日時出力定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	PrintDateFilePath

1. eurpmc コマンド

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/prh	蓄積後に続けて印刷するかどうか <ul style="list-style-type: none"> hold：続けて印刷しない（印刷保留） sv：続けてスプールサーバで印刷する cl：続けてクライアント PC で印刷する 	PrintHoldMode
/psenvf ※3 ※4	EUR Print Server Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名 (255 バイト以内の文字列)	PSEnvFileName
/psenvfp ※3 ※4	EUR Print Server Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス (255 バイト以内の文字列)	PSEnvFilePath
/pvp	ビューアプレファレンス定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	ViewerPreferenceFileName
/pvpp	ビューアプレファレンス定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	ViewerPreferenceFilePath
/rac	スプールデータの宛先キーの分類 (1～80 バイトの文字列)	ReportAddressKeyCategory
/rad	スプールデータの宛先キーの値 (1～80 バイトの文字列)	ReportAddressKeyData
/rf ※1, ※3, ※6, ※7, ※14	帳票ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	ReportFileName
/rfp ※3, ※6	帳票ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	ReportFilePath
/rid ※7	帳票 ID (255 バイト以内の文字列)	ReportID
/rif	置き換え表管理情報ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	ReplaceItemCntlFileName
/rifp	置き換え表管理情報ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	ReplaceItemCntlFilePath
/sf	スプールデータに格納する印刷データ (EPF 形式ファイル) のファイル名 (255 バイト以内の文字列)	SpoolFileName
/sm	プリンタの指定方法 <ul style="list-style-type: none"> class：プリンタクラス名を指定する printer：OS 上のプリンタ名を指定する group：帳票名による自動振り分けを行う 	PrinterSelectMode
/sp	印刷開始ページ	PrintStartPage

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/sp	(0~999,999)	PrintStartPage
/split	帳票を分割または仕分けして蓄積するかどうか <ul style="list-style-type: none"> • default : EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の設定に従う • no : 分割または仕分けしない • key : 仕分けする • page : 分割する 	SplitMode
/splitf	分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	SplitFileName
/splitfp	分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	SplitFilePath
/sptl	スプールタイトル (255 バイト以内の文字列)	SpoolTitle
/srm	スプールサーバの指定方法 <ul style="list-style-type: none"> • dest : 出力先名を指定する • sv : スプールサーバ IP アドレスを指定する 	ServerSelectMode
/svr	スプールサーバの IP アドレス (255.255.255.255 形式)	ServerAddress
/t	印刷先クライアントプリンタのトレイ名 (80 バイト以内の文字列)	ClientTrayName
/usr ※1	ユーザ定義データファイル名 (255 バイト以内の文字列)	UserDataFileName
/usrp	ユーザ定義データファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	UserDataFilePath
/xlfn	出力 Excel 形式ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	XLSXFileName
/xlfnp	出力 Excel 形式ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	XLSXFilePath
/xp	スプールデータの上限印刷回数 <ul style="list-style-type: none"> • -1 : 無限に印刷できる • 0 : 印刷を禁止する • 1~65,536 : 印刷回数の上限を指定する 	MaxPrintCount

注※1

複数のファイルを指定できます。複数のファイルを指定する場合は、コンマ (,) で区切ってください。
 なお、/map オプション、/usr オプション、および/bm オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く

帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下にする必要があります。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせる必要があります。

注※2

/mfd オプションと同時に指定した場合は無視されます。

注※3

帳票 ID (/rid オプション) と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。

注※4

帳票 ID (/rid オプション) と同時に指定した場合は、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

注※5

PDF 仕分け定義ファイル名 (/dsf オプション) を指定している場合は、指定を省略できます。

注※6

帳票 ID (/rid オプション) を指定した場合は、指定しても無効になります。

注※7

/rf オプション、/mrs オプション、または/rid オプションのどれかは必ず指定してください。

注※8

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。

- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、途中で蓄積に失敗したときでも、蓄積に成功したページ数ではなく、合計ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正常のときは、ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。
- 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。

注※9

- クライアント配布印刷の場合は、帳票の総ページ数が設定されません。クライアント配布印刷で出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、クライアント PC に配布する個々の印刷データ (EPF 形式ファイル) を出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。
- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は、帳票の総ページ数が設定されません。複数の EPF 形式ファイルを統合して出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、個々の EPF 形式

ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。

注※10

Windows 環境の場合と UNIX/Linux 環境の場合では、eurpmc コマンドの指定方法が異なります。

- Windows 環境の場合
ページ番号を「*」, 最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。
詳細については、対応する ActiveX 起動部品のプロパティの [PageNumberFormat](#) を参照してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
ページ番号を「*」, 最終ページ番号を「*\$」で示して出力形式を指定します。

注※11

- /opc オプションは、指定値に「clds (クライアント配布印刷)」を指定した場合、および指定値に「sv (スプールサーバで印刷)」を指定し、かつ/pk オプションで「eur (EUR 形式ファイルでの印刷)」を指定した場合は無効になります。
- /rid オプションは、指定値に「clds (クライアント配布印刷)」を指定した場合は無効になります。

注※12

指定を省略した場合は、帳票を定義したときの情報になります。

注※13

クライアント PC への配布印刷では、指定できません。

注※14

帳票セット指定ファイル名 (/mrs オプション) を指定している場合は、指定を省略できます。

eurpmc コマンドを使用して実行している場合にエラーが発生したときは、標準エラー出力へエラーメッセージを出力するかしないかを、次に示すメッセージオプションで指定します。

- /message : エラーメッセージを出力します。
- /nomessage : エラーメッセージを出力しません。

オプションの指定を省略した場合は、/message が仮定されます。

なお、/nomessage が指定されていても、コマンドの終了コードは設定されます。

1.2.3 オプションを指定するときの注意

(1) 大文字と小文字の区別について

オプション、オプションの指定値、およびオプションに指定する文字列は、大文字と小文字を区別します。

例えば、/m オプションを「/M」と指定したり、/m オプションの指定値を「/m PRINT」と指定したりすると、エラーになります。

(2) 同一オプションを複数指定する場合

一つのコマンド構文に同じオプションが複数指定されている場合は、コマンド構文の後方に指定されたオプションが有効となります。

(3) 無効なオプションについて

/m オプションで指定した出力、および情報取得の機能（メソッド）に無効なオプションを指定したときは、無視して実行されます。

(4) 数値項目オプションの指定について

eurpmc コマンドのオプションで数値を指定する場合は、次の点に注意してください。

- 半角数値だけで指定してください。半角数値以外の文字（コンマ「,」など）を指定すると、エラーになります。
- 指定可能範囲内の値であれば、前0を含む値を指定してもエラーになりません。ただし、指定可能な桁数は9桁までです。10桁以上の値（"0000000000"など）を指定した場合は、数値の大きさにかかわらず、KEEY904-E エラーになります。

(5) 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード（0x00~0x1F, 0x7F~0x9F）, ["], および [,] は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

1.3 eurpmc コマンドの構文

eurpmc コマンドの構文は、Windows 環境および UNIX/Linux 環境で共通です。ただし、UNIX/Linux 環境の場合は、「.exe」は指定できません。eurpmc コマンドは「eurpmc」と指定してください。

ここでは、オプション名のセパレータは、「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は、「/」を「-」に置き換えてお読みください。

1.3.1 プリンタに出力する場合

```
eurpmc [.exe]
  [/message | /nomessage]
  /m print
  [/rf 帳票ファイル名]
  [/rfp 帳票ファイルのパス]
  [/map マッピングデータファイル名]
  [/mapp マッピングデータファイルのパス]
  [/usr ユーザ定義データファイル名]
  [/usrp ユーザ定義データファイルのパス]
  [/mrs 帳票セット指定ファイル名]
  [/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス]
  [/mfd 複数様式情報定義ファイル名]
  [/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス]
  [/df 文書情報設定ファイル名]
  [/dfp 文書情報設定ファイルのパス]
  [/client クライアントPCのIPアドレス]
  [/sp 印刷開始ページ]
  [/ep 印刷終了ページ]
  [/p 印刷先クライアントプリンタ名]
  [/t 印刷先クライアントプリンタのトレイ名]
  [/c 印刷部数]
  [/num {sort | stack} ]
  [/po {portrait | landscape} ]
  [/pn {on | off} ]
  [/pl {topl | topc | topr | btml | btmc | btmr} ]
  [/pf ページ番号のフォーマット]
  [/fp ページ番号の初期値]
  [/ip {reset | normal} ]
  [/dif 接続情報ファイル名]
  [/difp 接続情報ファイルのパス]
  [/pm {default | cl | sv | pm | clds} ]
  [/pk {epf | eur} ]
  [/srm {dest | sv} ]
  [/sm {class | printer | group} ]
  [/dialog {dialog | auto | preview | fullauto | pvonly} ]
  [/dest 出力先名]
  [/svr スプールサーバのIPアドレス]
  [/prc プリンタクラス名]
  [/lsp 印刷先サーバプリンタ名]
  [/lst 印刷先サーバプリンタのトレイ名]
  [/group 帳票振り分け定義の振り分けグループ名]
  [/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
```



```
[/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/epfn EPF形式ファイル名]
[/epfnp EPF形式ファイルのパス]
[/psenvf 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名]
[/psenvfp 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス]
[/prdatef 印刷日時出力定義ファイル名]
[/prdatefp 印刷日時出力定義ファイルのパス]
[/sptl スプールタイトル]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/opc {1|0} ]
[/rid 帳票ID]
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット (/rf オプション, /map オプション, /usr オプション) は、複数のファイルを指定する場合、項目を「,」で区切ります。

帳票ファイル名は、/rf オプションで直接指定する以外に、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定することができます。

帳票 ID には、帳票をプリンタに出力するとき使用する帳票出力定義ファイル名を、ファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定します。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。

Windows 環境：「¥」または「/」

UNIX/Linux 環境：「/」

- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

なお、/rf オプション、/mrs オプション、または/rid オプションのどれかは必ず指定してください。

/map オプションおよび/usr オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。

(指定例 1)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 2)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 3)

帳票 ID (/rid オプション) を指定して、指定例 2 と同じ帳票セットを指定したい。

帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイル「ReportID」の内容

```
#帳票ファイル名  
ReportFileName: Report1.fms  
ReportFileName: Report2.fms
```

指定方法

```
/rid ReportID /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

帳票セット指定ファイル名 (/mrs オプション) が指定されている場合は、帳票ファイル名 (/rf オプション) の指定は省略できます。

次に示すオプションは、帳票 ID (/rid オプション) と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)
- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

次に示すオプションを帳票 ID (/rid オプション) と同時に指定した場合は、/rid オプションの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

帳票 ID (/rid オプション) を指定した場合は、次に示すオプションを指定しても無効になります。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)

/opc オプション※は、/pm オプションの指定値に「clds (クライアント配布印刷)」を指定した場合、および指定値に「sv (スプールサーバで印刷)」を指定し、かつ/pk オプションで「eur (EUR 形式ファイルでの印刷)」を指定した場合は無効になります。

注※

クライアント配布印刷で出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、クライアント PC に配布する個々の印刷データの EPF 形式ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。EPF 形式ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を出力するオプションについては、「[1.3.3 EPF 形式ファイルを出力する場合](#)」を参照してください。

/rid オプションは、指定値に「clds (クライアント配布印刷)」を指定した場合は無効になります。

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

/num オプション、/po オプション、/pn オプション、/pl オプション、/ip オプション、/pm オプション、/pk オプション、/srm オプション、/sm オプション、/dialog オプション、および/opc オプションに指定する値の内容については、「[表 1-2 プロパティオプションの内容 \(指定値\) と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ](#)」の内容 (指定値) を参照してください。

なお、/pm オプションで「cl (クライアント印刷)」または「clds (クライアント配布印刷)」を指定した場合は、必ず/client オプションを指定してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の [PrintPMReport メソッド](#) を参照してください。

(2) 出力結果

/pm オプションで「cl (クライアント PC で印刷する)」、 「sv (スプールサーバで印刷する) ※」、または「pm (帳票サーバで直接印刷する)」のどれかを指定し、かつ、/opc オプションで「1 (総ページ数を出力する)」を指定した場合は、出力結果から帳票の総ページ数を確認できます。

注※

/pk オプションで「eur (EUR 形式ファイルでの印刷)」を指定している場合は、帳票の総ページ数を出力できません。

ただし、次のような場合は、帳票の総ページ数を出力しません。

- コマンド起動部品がエラーで終了した場合
- 環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に「YES (データベースからの抽出件数が 0 の場合に帳票を出力しない)」を指定し、データベース抽出結果が 0 件、かつエラー (KEEU352-W) を出力して処理を終了した場合

出力結果は標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	OutputPageCount▼	見出し名称が 1 行で出力されます。
3	ページ数※▼	取得結果 (ページ数※) が出力されます。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。

- クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正常のときは、ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。
- 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。

1.3.2 スプールデータを出力する場合

```
eurpmc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m print
[/rf 帳票ファイル名]
[/rfp 帳票ファイルのパス]
```

1. eurpmc コマンド

```

[/map マッピングデータファイル名]
[/mapp マッピングデータファイルのパス]
[/usr ユーザ定義データファイル名]
[/usrp ユーザ定義データファイルのパス]
[/mrs 帳票セット指定ファイル名]
[/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス]
[/mfd 複数様式情報定義ファイル名]
[/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス]
[/df 文書情報設定ファイル名]
[/dfp 文書情報設定ファイルのパス]
[/client クライアントPCのIPアドレス]
[/sp 印刷開始ページ]
[/ep 印刷終了ページ]
[/p 印刷先クライアントプリンタ名]
[/t 印刷先クライアントプリンタのトレイ名]
[/c 印刷部数]
[/num {sort | stack} ]
[/po {portrait | landscape} ]
[/pn {on | off} ]
[/pl {topl | topc | topr | btml | btmc | btmr} ]
[/pf ページ番号のフォーマット]
[/fp ページ番号の初期値]
[/ip {reset | normal} ]
[/pm {default | spl} ]
[/srm {dest | sv} ]
[/sm {class | printer | group} ]
[/dialog {dialog | auto | preview | fullauto | pvonly} ]
[/dest 出力先名]
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
[/prc プリンタクラス名]
[/lsp 印刷先サーバプリンタ名]
[/lst 印刷先サーバプリンタのトレイ名]
[/group 帳票振り分け定義の振り分けグループ名]
[/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
[/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス]
[/exp {sv | svcl | cl} ]
[/sf スプールデータに格納する印刷データ (EPF形式ファイル) のファイル名]
[/fc スプールデータの検索キーの分類]
[/fd スプールデータの検索キーの値]
[/lm スプールデータの蓄積期限日]
[/xp {-1 | 0 | 1~65536} ]
[/g {get | noget} ]
[/prh {hold | sv | cl} ]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/epfn EPF形式ファイル名]
[/epfnp EPF形式ファイルのパス]
[/psenvf 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名]
[/psenvfp 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス]
[/prdatef 印刷日時出力定義ファイル名]
[/prdatefp 印刷日時出力定義ファイルのパス]
[/split {default | no | key | page} ]
[/splitf 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル名]
[/splitfp 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパス]
[/alljob]
[/rac スプールデータの宛先キーの分類]
[/rad スプールデータの宛先キーの値]
[/sptl スプールタイトル]

```

```
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/opc {1 | 0} ]
[/rid 帳票ID]
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット (/rf オプション, /map オプション, /usr オプション) は、複数のファイルを指定する場合、項目を「,」で区切ります。

帳票ファイル名は、/rf オプションで直接指定する以外に、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定することができます。

帳票 ID には、帳票のプールデータを出力するときに使用する帳票出力定義ファイル名を、ファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定します。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」
- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

なお、/rf オプション、/mrs オプション、または/rid オプションのどれかは必ず指定してください。

/map オプションおよび/usr オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。

(指定例 1)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 2)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 3)

帳票 ID (/rid オプション) を指定して、指定例 2 と同じ帳票セットを指定したい。

帳票 ID に紐づく帳票出力定義ファイル「ReportID」の内容

```
#帳票ファイル名  
ReportFileName: Report1.fms  
ReportFileName: Report2.fms
```

指定方法

```
/rid ReportID /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

帳票セット指定ファイル名 (/mrs オプション) が指定されている場合は、帳票ファイル名 (/rf オプション) の指定は省略できます。

次に示すオプションは、帳票 ID (/rid オプション) と紐づく帳票出力定義ファイルでも指定できます。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)
- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

次に示すオプションを帳票 ID (/rid オプション) と同時に指定した場合は、/rid オプションの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

帳票 ID (/rid オプション) を指定した場合は、次に示すオプションを指定しても無効になります。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション」を参照してください。

/num オプション, /po オプション, /pn オプション, /pl オプション, /ip オプション, /pm オプション, /srm オプション, /sm オプション, /dialog オプション, /exp オプション, /xp オプション, /g オプション, /prh オプション, /split オプション, および/opc オプションに指定する値の内容については、「表 1-2 プロパティオプションの内容 (指定値) と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ」の内容 (指定値) を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の PrintPMReport メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

出力結果からプールデータのジョブ ID を確認できます。

また、/opc オプションで「1 (総ページ数を出力する)」を指定した場合は、出力結果から帳票の総ページ数を確認できます。

ただし、次のような場合は、帳票の総ページ数を出力しません。

- コマンド起動部品がエラーで終了した場合
- 環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に「YES (データベースからの抽出件数が 0 の場合に帳票を出力しない)」を指定し、データベース抽出結果が 0 件、かつエラー (KEEU352-W) を出力して処理を終了した場合

出力結果は標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	JobID▼	見出し名称 (プロパティ名を含む) が、1 行で常に出力されます。
3	JobID 名▼ [JobID 名▼] ...	取得結果 (プールデータのジョブ ID) が出力されます。 /alljob オプションが指定されている場合、すべてのプールデータのジョブ ID が、改行で区切られて出力されます。なお、蓄積処理中に警告 (KEEY387-W) が発生した場合、最終行に文字列「Error」が出力されます。 /alljob オプションが指定されていない場合で、プールデータが複数あるときは、最初に蓄積したプールデータのジョブ ID が出力されます。
4	OutputPageCount▼	見出し名称が 1 行で出力されます。
5	ページ数※▼	取得結果 (ページ数※) が出力されます。

(凡例)

▼：Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。

- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、合計ページ数が出力されます。なお、分割または仕分けの蓄積処理中に警告 (KEEY387-W) が発生したときも、蓄積に成功したページ数ではなく、合計ページ数が出力されます。

1.3.3 EPF 形式ファイルを出力する場合

```
eurpmc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m epf
[/rf 帳票ファイル名]
[/rfp 帳票ファイルのパス]
[/map マッピングデータファイル名]
[/mapp マッピングデータファイルのパス]
[/usr ユーザ定義データファイル名]
[/usrp ユーザ定義データファイルのパス]
[/mrs 帳票セット指定ファイル名]
[/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス]
[/mfd 複数様式情報定義ファイル名]
[/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス]
[/df 文書情報設定ファイル名]
[/dfp 文書情報設定ファイルのパス]
[/sp 印刷開始ページ]
[/ep 印刷終了ページ]
[/c 印刷部数]
[/num {sort | stack} ]
[/po {portrait | landscape} ]
[/pn {on | off} ]
[/pl {topl | topc | topr | btml | btmc | btmr} ]
[/pf ページ番号のフォーマット]
[/fp ページ番号の初期値]
[/ip {reset | normal} ]
[/dif 接続情報ファイル名]
[/difp 接続情報ファイルのパス]
/epfn EPF形式ファイル名
[/epfnp EPF形式ファイルのパス]
[/prc プリンタクラス名]
[/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
[/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/psenvf 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名]
[/psenvfp 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス]
```

```
[/prdatef 印刷日時出力定義ファイル名]
[/prdatefp 印刷日時出力定義ファイルのパス]
[/sptl スプールタイトル]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/opc {1 | 0} ]
[/rid 帳票ID]
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット (/rf オプション, /map オプション, /usr オプション) は、複数のファイルを指定する場合、項目を「,」で区切ります。

帳票ファイル名は、/rf オプションで直接指定する以外に、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定することができます。

帳票 ID には、帳票の EPF 形式ファイルを出力するときに使用する帳票出力定義ファイル名を、ファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定します。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。

Windows 環境：「¥」または「/」

UNIX/Linux 環境：「/」

- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

なお、/rf オプション、/mrs オプション、または/rid オプションのどれかを必ず指定してください。

/map オプションおよび/usr オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。

(指定例 1)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv

/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv
------	-----------	--------------------

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 2)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 3)

帳票 ID (/rid オプション) を指定して、指定例 2 と同じ帳票セットを指定したい。

帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイル「ReportID」の内容

```
#帳票ファイル名
ReportFileName: Report1.fms
ReportFileName: Report2.fms
```

指定方法

```
/rid ReportID /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

帳票セット指定ファイル名 (/mrs オプション) が指定されている場合は、帳票ファイル名 (/rf オプション) の指定は省略できます。

次に示すオプションは、帳票 ID (/rid オプション) と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)
- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

次に示すオプションを帳票 ID (/rid オプション) と同時に指定した場合は、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

帳票 ID (/rid オプション) を指定した場合は、次に示すオプションを指定しても無効になります。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

/num オプション、/po オプション、/pn オプション、/pl オプション、/ip オプション、および/opc オプションに指定する値の内容については、「[表 1-2 プロパティオプションの内容 \(指定値\) と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ](#)」の内容 (指定値) を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の `OutputEPFReport` メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

/opc オプションで「1 (総ページ数を出力する)」を指定した場合は、出力結果から帳票の総ページ数を確認できます。ただし、次のような場合は、帳票の総ページ数を出力しません。

- コマンド起動部品がエラーで終了した場合
- 環境変数 `EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY` に「YES (データベースからの抽出件数が 0 の場合に帳票を出力しない)」を指定し、データベース抽出結果が 0 件、かつエラー (KEEU352-W) を出力して処理を終了した場合

出力結果は標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	OutputPageCount▼	見出し名称が 1 行で出力されます。
3	ページ数※▼	取得結果 (ページ数※) が出力されます。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

1.3.4 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合

```
eurpmc [. exe]
  [/message | /nomessage]
  /m merge
  /mepfn 統合対象EPF形式ファイル名
  [/mepfnp 統合対象EPF形式ファイルのパス]
  /epfn 出力EPF形式ファイル名
  [/epfnp 出力EPF形式ファイルのパス]
  [/sptl スプールタイトル]
  [/c 印刷部数]
  [/num {sort | stack} ]
  [/po {portrait | landscape} ]
  [/prc プリントクラス名]
  [/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
  [/pmpn 帳票サーバのポート番号]
  [/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

/mepfn オプションには、複数のファイルを指定します。ファイル名をコンマ (,) で区切って指定してください。

/num オプションおよび/po オプションに指定する値の内容については、「[表 1-2 プロパティオプションの内容 \(指定値\) と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ](#)」の内容 (指定値) を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の `OutputMergeEPFReport` メソッドを参照してください。

なお、複数の EPF 形式ファイルを統合して出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、個々の EPF 形式ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。EPF 形式ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を出力するオプションについては、「[1.3.3 EPF 形式ファイルを出力する場合](#)」を参照してください。

1.3.5 EUR 形式ファイルを出力する場合

```
eurpmc [. exe]
  [/message | /nomessage]
  /m eur
  [/rf 帳票ファイル名]
  [/rfp 帳票ファイルのパス]
  [/map マッピングデータファイル名]
  [/mapp マッピングデータファイルのパス]
  [/usr ユーザ定義データファイル名]
  [/usrp ユーザ定義データファイルのパス]
  [/mrs 帳票セット指定ファイル名]
```

```
[/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス]
[/mfd 複数様式情報定義ファイル名]
[/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス]
[/df 文書情報設定ファイル名]
[/dfp 文書情報設定ファイルのパス]
/earn 出力EUR形式ファイル名
[/earnp 出力EUR形式ファイルのパス]
[/dif 接続情報ファイル名]
[/difp 接続情報ファイルのパス]
[/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
[/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/psenvf 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名]
[/psenvfp 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス]
[/sptl スプールタイトル]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/rid 帳票ID]
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット (/rf オプション, /map オプション, /usr オプション) は、複数のファイルを指定する場合、項目を「,」で区切ります。

帳票ファイル名は、/rf オプションで直接指定する以外に、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定することができます。

帳票 ID には、帳票の EUR 形式ファイルを出力するときに使用する帳票出力定義ファイル名を、ファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定します。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」
- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

なお、/rf オプション、/mrs オプション、または/rid オプションのどれかは必ず指定してください。

/map オプションおよび/usr オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳

票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。

(指定例 1)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 2)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

(指定例 3)

帳票 ID (/rid オプション) を指定して、指定例 2 と同じ帳票セットを指定したい。

帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイル「ReportID」の内容

```
#帳票ファイル名  
ReportFileName: Report1.fms  
ReportFileName: Report2.fms
```

指定方法

```
/rid ReportID /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv
```

帳票セット指定ファイル名 (/mrs オプション) が指定されている場合は、帳票ファイル名 (/rf オプション) の指定は省略できます。

次に示すオプションは、帳票 ID (/rid オプション) と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)
- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

次に示すオプションを帳票 ID (/rid オプション) と同時に指定した場合は、/rid オプションの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

帳票 ID (/rid オプション) を指定した場合は、次に示すオプションを指定しても無効になります。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の [OutputEURReport メソッド](#)を参照してください。

1.3.6 PDF 形式ファイルを出力する場合

```

eurpmc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m pdf
[/rf 帳票ファイル名]
[/rfp 帳票ファイルのパス]
[/map マッピングデータファイル名]
[/mapp マッピングデータファイルのパス]
[/usr ユーザ定義データファイル名]
[/usrp ユーザ定義データファイルのパス]
[/bmf 文書しおり定義ファイル名]
[/bm しおり定義ファイル名]
[/bmp 文書しおり定義またはしおり定義ファイルのパス]
[/cryf 暗号化設定ファイル名]
[/cryfp 暗号化設定ファイルのパス]
[/mrs 帳票セット指定ファイル名]
[/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス]
[/mfd 複数様式情報定義ファイル名]
[/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス]
[/df 文書情報設定ファイル名]
[/dfp 文書情報設定ファイルのパス]
/pdfn 出力PDF形式ファイル名
[/pdfnp 出力PDF形式ファイルのパス]
[/sp 印刷開始ページ]
[/ep 印刷終了ページ]
[/pn {on | off} ]
[/pl {topl | topc | topr | btml | btmc | btmr} ]
[/pf ページ番号のフォーマット]
[/fp ページ番号の初期値]

```



```
[/ip {reset | normal} ]
[/cry {1 | 0} ]
[/dif 接続情報ファイル名]
[/difp 接続情報ファイルのパス]
[/enc パスワード暗号化鍵]
[/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
[/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス]
[/dsf PDF仕分け定義ファイル名]
[/dsfp PDF仕分け定義ファイルのパス]
[/jscp Acrobat JavaScript定義ファイルのパス]
[/jsc Acrobat JavaScript定義ファイル名]
[/pvpp ビューアプレファレンス定義ファイルのパス]
[/pvp ビューアプレファレンス定義ファイル名]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/psenvf 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名]
[/psenvfp 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス]
[/foutdest ファイルの出力先]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/opc {1 | 0} ]
[/rid 帳票ID]
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット (/rf オプション, /map オプション, /usr オプション, /bm オプション) は、複数のファイルを指定する場合、項目を「,」で区切ります。

帳票ファイル名は、/rf オプションで直接指定する以外に、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定することができます。

帳票 ID には、帳票の PDF 形式ファイルを出力するときに使用する帳票出力定義ファイル名を、ファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定します。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」
- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

なお、/rf オプション, /mrs オプション, または/rid オプションのどれかは必ず指定してください。

/map オプション, /usr オプションおよび/bm オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。

(指定例 1)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv
/bm	shiori1.txt	shiori2.txt

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv /bm shiori1.txt,shiori2.txt
```

(指定例 2)

帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定して、帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv
/bm	shiori1.txt	shiori2.txt

指定方法

```
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv /bm shiori1.txt,shiori2.txt
```

(指定例 3)

帳票 ID (/rid オプション) を指定して、指定例 2 と同じ帳票セットを指定したい。

帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイル「ReportID」の内容

```
#帳票ファイル名
ReportFileName: Report1.fms
ReportFileName: Report2.fms
```

指定方法

```
/rid ReportID /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv /bm shiori1.txt,shiori2.txt
```

帳票セット指定ファイル名 (/mrs オプション) が指定されている場合は、帳票ファイル名 (/rf オプション) の指定は省略できます。

PDF 仕分け定義ファイル名 (/dsf オプション) が指定されている場合は、出力 PDF 形式ファイル名 (/pdfn オプション) の指定は省略できます。

次に示すオプションは、帳票 ID (/rid オプション) と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)
- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

次に示すオプションを帳票 ID (/rid オプション) と同時に指定した場合は、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

- 文書情報設定ファイル名 (/df オプション) およびパス (/dfp オプション)
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名 (/psenvf オプション) およびパス (/psenvfp オプション)

帳票 ID (/rid オプション) を指定した場合は、次に示すオプションを指定しても無効になります。

- 帳票ファイル名 (/rf オプション) およびパス (/rfp オプション)
- 複数様式情報定義ファイル名 (/mfd オプション) およびパス (/mfdp オプション)

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

/pn オプション、/pl オプション、/ip オプション、/cry オプション、および/opc オプションに指定する値の内容については、「[表 1-2 プロパティオプションの内容 \(指定値\) と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ](#)」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の `OutputPDFReport` メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

/opc オプションで「1 (総ページ数を出力する)」を指定した場合は、出力結果から帳票の総ページ数を確認できます。ただし、次のような場合は、帳票の総ページ数を出力しません。

- コマンド起動部品がエラーで終了した場合
- 環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に「YES (データベースからの抽出件数が 0 の場合に帳票を出力しない)」を指定し、データベース抽出結果が 0 件、かつエラー (KEEU352-W) を出力して処理を終了した場合

出力結果は標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	OutputPageCount▼	見出し名称が1行で出力されます。
3	ページ数※▼	取得結果（ページ数※）が出力されます。

(凡例)

▼：Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

1.3.7 Excel 形式ファイルを出力する場合

```

eurpmc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m xlsx
[/rf 帳票ファイル名]
[/rfp 帳票ファイルのパス]
[/map マッピングデータファイル名]
[/mapp マッピングデータファイルのパス]
[/usr ユーザ定義データファイル名]
[/usrp ユーザ定義データファイルのパス]
[/sp 印刷開始ページ]
[/ep 印刷終了ページ]
[/dif 接続情報ファイル名]
[/difp 接続情報ファイルのパス]
/xlfn Excel形式ファイル名
/xlfnp Excel形式ファイルのパス]
[/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
[/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/psenvf 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名]
[/psenvfp 環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/opc {1 | 0} ]
[/rid 帳票ID]

```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット (/rf オプション, /map オプション, /usr オプション) は、単数のファイルしか指定できません。

帳票ファイル名は、/rf オプションで直接指定する以外に、/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定することができます。

帳票 ID には、帳票の Excel 形式ファイルを出力するときに使用する帳票出力定義ファイル名を、ファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定します。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」
- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

なお、/rf オプションまたは/rid オプションのどちらかは必ず指定してください。

/map オプションおよび/usr オプションを指定する場合は、ファイル名の数を、/rf オプションで指定した帳票ファイル名の数以下、または/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、/rf オプションまたは/rid オプションの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の [OutputXLSXReport](#) メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

/opc オプションで「1 (総ページ数を出力する)」を指定した場合は、出力結果から帳票の総ページ数[※]を確認できます。ただし、次のような場合は、帳票の総ページ数[※]を出力しません。

注※

Excel 形式ファイルの総シート数 (最大 100 シート) が出力されます。

- コマンド起動部品がエラーで終了した場合
- 環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に「YES (データベースからの抽出件数が 0 の場合に帳票を出力しない)」を指定し、データベース抽出結果が 0 件、かつエラー (KEEU352-W) を出力して処理を終了した場合

出力結果は標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	OutputPageCount▼	見出し名称が1行で出力されます。
3	ページ数※▼	取得結果（ページ数※）が出力されます。

(凡例)

▼：Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

注※

- EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。
- Excel 形式ファイルの総シート数（最大 100 シート）が出力されます。

1.3.8 出力先一覧を取得する場合

```
eurpmc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m getdest
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の `GetDestinationList` メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

出力先の一覧が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	DestinationName,IPAddress,Explanation▼	「,」で区切られた見出し名称（プロパティ名を含む）が、常に出力されます。

行	書式	説明
3~	出力先一覧▼ [出力先一覧▼] ...	2行目に出力された見出し名称（プロパティ名を含む）に設定されている値が「,」で区切られて出力されます。 取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼：Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

1.3.9 プリンタクラス一覧を取得する場合

```
eurpmc [. exe]
[/message | /nomessage]
/m getprclass
[/dest 出力先名]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の [GetPrinterClassList メソッド](#) を参照してください。

(2) 出力結果

プリンタクラス一覧が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。出力されたプロパティについては、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」の内容（指定値）を参照してください。

なお、/dest オプションを指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバに定義されているプリンタクラスの一覧を取得します。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterClassName, PrinterName, TrayName, Description▼	「,」で区切られた見出し名称（プロパティ名を含む）が、1行で常に出力されます。
3~	プリンタクラス名, OS 上のプリンタ名, OS 上のプリンタのトレイ名, 説明▼ [プリンタクラス名, OS 上のプリンタ名, OS 上のプリンタのトレイ名, 説明▼] ...	2行目に出力された見出し名称（プロパティ名を含む）に設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には、常に""が出力されます。取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合, 改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合, 改行コード (0x0a) を示します。

1.3.10 プリンター一覧を取得する場合

```
eurpmc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m getpr
[/dest 出力先名]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については, 「1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション」を参照してください。

そのほかのオプションについては, ActiveX 起動部品の [GetPrinterList](#) メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS 上のプリンタ名が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。出力されたプロパティについては, 「6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」の内容 (指定値) を参照してください。

なお, /dest オプションを指定していない場合は, デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を取得します。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterName▼	見出し名称 (プロパティ名を含む) が, 1 行で常に出力されます。
3~	OS 上のプリンタ名▼ [OS 上のプリンタ名▼] ...	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で, 件数分出力されます。 取得結果が 0 件のときは出力されません。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合, 改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合, 改行コード (0x0a) を示します。

1.3.11 トレー一覧を取得する場合

```
eurpmc [. exe]
[/message | /nomessage]
/m gettray
/lsp 印刷先サーバプリンタ名
[/dest 出力先名]
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の `GetTrayList` メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS 上のプリンタのトレイ名が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。出力されたプロパティについては、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

なお、/dest オプションを指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	TrayName▼	見出し名称 (プロパティ名を含む) が、1 行で常に出力されます。
3~	OS 上のプリンタのトレイ名▼ [OS 上のプリンタのトレイ名▼] ...	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で、件数分出力されます。 取得結果が 0 件のときは出力されません。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

1.3.12 帳票サーバプリンタクラス一覧を取得する場合

```
eurpmc [. exe]
[/nomessage | /message]
/m getpmpclass
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
```

```
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の [GetPMPrinterClassList](#) を参照してください。

(2) 出力結果

帳票サーバのプリンタクラス一覧が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterClassName,PrinterName,TrayName,Description▼	「,」で区切られた見出し名称 (プロパティ名を含む) が、1 行で常に出力されます。
3~	プリンタクラス名, OS 上のプリンタ名, OS 上のプリンタのトレイ名, 説明▼...	取得値 (帳票サーバプリンタクラス一覧) が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で、件数分出力されます。 取得結果が 0 件のときは出力されません。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

1.3.13 帳票サーバプリンター一覧を取得する場合

```
eurpmc [.exe]
[/nomessage | /message]
/m getpmpr
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/nomessage | /message) については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の [GetPMPrinterList](#) を参照してください。

(2) 出力結果

帳票サーバに登録されている OS 上のプリンタ名が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterName▼	見出し名称 (プロパティ名を含む) が、1 行で常に出力されます。
3~	帳票サーバに登録されている OS 上のプリンタ名▼	取得値 (帳票サーバに登録されている OS 上のプリンタ名) が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で、件数分出力されます。 取得結果が 0 件のときは出力されません。

(凡例)

▼: Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

1.3.14 帳票サーバプリンタのトレイ一覧を取得する場合

```
eurpmc [.exe]
[/nomessage | /message]
/m getpmtray
/lsp サーバプリンタ名
[/pmip 帳票サーバのIPアドレス]
[/pmpn 帳票サーバのポート番号]
[/adpenv EUR Server - Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/nomessage | /message) については、「1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション」を参照してください。

そのほかのオプションについては、ActiveX 起動部品の GetPMTrayList を参照してください。

(2) 出力結果

帳票サーバ上のプリンタのトレイ名が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	TrayName▼	見出し名称（プロパティ名を含む）が、1行で常に出力されます。
3~	帳票サーバ上のプリンタのトレイ名▼	取得値（帳票サーバ上のプリンタのトレイ名）が出力されます。 取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。 取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼：Windows 環境の場合、改行コード (0x0d+0x0a) を示します。UNIX/Linux 環境の場合、改行コード (0x0a) を示します。

1.4 エラー情報

eurpmc コマンドでは、エラーを検知すると、メッセージオプション (/message) によって次に示す標準エラーを出力します。

表 1-3 eurpmc コマンドの標準エラー出力

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
コマンド実行時エラー	コマンド実行時にエラーが発生したとき	KEEY901-E
	コマンド実行時に警告が発生したとき	KEEY908-W
	メモリ不足が発生したとき	KEEY906-E
コマンドシンタックスエラー	不明なオプションを指定したとき	KEEY902-E
	オプションに値の指定がないとき	KEEY903-E
	オプションの指定値が不正なとき	KEEY904-E
	指定が必須のオプションが指定されていないとき	KEEY905-E

1.4.1 eurpmc コマンドの終了コード

eurpmc コマンドを実行すると、終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 1-4 eurpmc コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	eurpmc コマンドが正常に終了しました。
4	eurpmc コマンドの実行中に、警告が発生しました。
8	eurpmc コマンドの実行中に、エラーが発生しました。

eurpmc コマンドを呼び出している API では、eurpmc コマンドの終了コードを参照して、エラーチェックしてください。ただし、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の [ERROR] セクションの DBZEROEXITCODE キーに値が設定されている場合、KEEY909-W メッセージの終了コードは DBZEROEXITCODE キーで指定した値になります。

DBZEROEXITCODE キーの詳細については、「[15.4.7 DBZEROEXITCODE](#)」を参照してください。

1.4.2 エラーメッセージのフォーマット

eurpmc コマンドを実行したとき、標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

エラーメッセージの場合

```
eurpmc: △KEEY9XX-E△エラーメッセージ▼
```

(凡例)

△：半角空白を示します。

▼：改行 (0x0d+0x0a) を示します。

警告メッセージの場合

```
eurpmc: △KEEY9XX-W△エラーメッセージ▼
```

(凡例)

△：半角空白を示します。

▼：改行 (0x0d+0x0a) を示します。

2

eurpmlsc コマンド

この章では、EUR Server - Spool Service を起動する eurpmlsc コマンドについて説明します。

2.1 eurpmlsc コマンドとは

eurpmlsc コマンドを使用して、EUR Server - Spool Service をコマンド起動できます。

eurpmlsc コマンドでは、ジョブ ID やメソッド種別などをコマンドのオプションに設定することで、スプールデータを操作します。

2.1.1 eurpmlsc コマンドのファイル名

(1) Windows 環境の場合

EURPMLSC.exe

eurpmlsc コマンドのファイルです。EUR Server - Spool Service Adapter をインストールしたときに、次に示すフォルダにインストールされます。

インストール先フォルダ¥SpoolAdapter¥Program

(2) UNIX/Linux 環境の場合

eurpmlsc

eurpmlsc コマンドのファイルです。/opt/eur/spool-adp/bin/にあります。

2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション

eurpmlsc コマンドは、eurpmlsc コマンドにオプションを指定することで、スプールデータを操作します。

オプション名のセパレータは、「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は、「/」を「-」に置き換えてお読みください。

2.2.1 メソッドオプション一覧

eurpmlsc コマンドでは、蓄積操作と構成定義情報取得の機能（メソッド）を、/m オプションで次のように指定します。

/m {getoutline | getattr | setattr | print | get | del | getprclass | getpr | gettray}

/m オプションの指定値とその内容を次に示します。また、/m オプションの指定値が、どの SS-ActiveX 起動部品のメソッドと対応しているかも示します。

表 2-1 /m オプションの指定値と対応する SS-ActiveX 起動部品のメソッド

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する SS-ActiveX 起動部品のメソッド
蓄積操作	getoutline	指定条件に適合する EUR Server - Spool Service のスプールデータの一覧を取得します。	GetSpoolFileOutline
	getattr	指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を取得します。	GetSpoolFileAttribute
	setattr	指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を変更します。	SetSpoolFileAttribute
	print	指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルを印刷します。	PrintSpoolReport
	get	指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている印刷データを、指定したパスにファイルで取得します。	GetSpoolFile
	del	指定したジョブ ID のスプールデータを削除したり、蓄積期限を経過したスプールデータを削除したりします。	DeleteSpoolFile
構成定義情報取得*	getprclass	PrinterClassList プロパティで指定した EUR Server - Spool Service のプリンタクラス一覧を取得します。	GetPrinterClassList
	getpr	ServerPrinterList プロパティで指定した EUR Server - Spool Service がある OS 上のプリンタ一覧を取得します。	GetPrinterList

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する SS-ActiveX 起動部品のメソッド
構成定義情報取得※	gettray	ServerTrayList プロパティで指定した EUR Server - Spool Service がある OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。	GetTrayList
監査ログ	chgadtlog	指定したスプールサーバ上で出力する監査ログを切り替えます。	ChangeAuditLog

注※

UNIX/Linux 環境の場合、構成定義情報取得メソッドは指定できません。

2.2.2 プロパティオプション一覧

eurpmlsc コマンドで指定できるプロパティオプションを次に示します。また、各プロパティオプションの指定値が、どの SS-ActiveX 起動部品のプロパティと対応しているかも示します。

表 2-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する SS-ActiveX 起動部品のプロパティ

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する SS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/adpenv	EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルのパス (255 バイト以内の文字列)	AdpEnvFile
/c	印刷部数 (1~99)	PrintCopies
/ca	スプールデータの検索キーの分類 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる)	JobKeyCategory
/client	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレス (255.255.255.255 形式)	ClientAddress
/da	スプールデータの検索キーの値 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる)	JobKeyData
/dialog	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モード <ul style="list-style-type: none"> • dialog：印刷先指定ダイアログを表示する（対話型印刷） • auto：直接印刷を実行する（自動印刷） • preview：プレビューウィンドウを表示する（対話型印刷プレビュー表示） • fullauto：直接印刷を実行する（全自動印刷） • pvonly：印刷を実行できないプレビューウィンドウを表示する（対話型印刷プレビュー表示限定） 	DispPrintDlg
/dk	スプールデータ削除時の削除種別 <ul style="list-style-type: none"> • direct：指定したスプールデータを削除する 	DeleteKind

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する SS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/dk	<ul style="list-style-type: none"> expire: 蓄積期限切れファイルを削除する 	DeleteKind
/ep	蓄積スプールサーバ印刷の終了ページ (0~999,999)	PrintEndPage
/exp	スプールデータの実行可能印刷方式 <ul style="list-style-type: none"> sv: スプールサーバで印刷する svcl: スプールサーバでの印刷, またはクライアントで印刷する cl: クライアントで印刷する 	ExecutablePrintMode
/fc	検索キーでスプールデータを検索するときの検索キーの分類 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる)	SearchJobKeyCategory
/fd	スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの値 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる)	SearchJobKeyData
/g	スプールデータの取得可否 <ul style="list-style-type: none"> get: スプールデータの取得を許可する noget: スプールデータの取得を許可しない 	EnableGet
/group	スプールデータの振り分けグループ名 (80 バイト以内の文字列)	GroupName
/id	スプールデータを検索するときのジョブ ID (36 バイト以内の文字列)	SearchJobID
/inc	スプールデータをスプールデータに格納されている EPF 形式ファイル名で検索するときに指定する EPF 形式ファイル名 (255 バイト以内の文字列)	SearchSpoolFileName
/lm	スプールデータの蓄積期限日 (YYYYMMDD 形式)	SpoolLimit
/lsp	スプールサーバでの OS 上のプリンタ名 (80 バイト以内の文字列)	ServerPrinterName
/lst	スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名 (80 バイト以内の文字列)	ServerTrayName
/m	蓄積操作と構成定義情報取得の機能 (メソッド)	—
/message	エラーメッセージを出力する	—
/nomessage	エラーメッセージを出力しない	—
/num	印刷部数の単位 <ul style="list-style-type: none"> sort: 部単位 stack: ページ単位 	SortPrint
/o	スプールデータの印刷データを取得するフォルダのパス (255 バイト以内の文字列)	OutputFilePath

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する SS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/ofk	スプールデータの印刷データを取得するときのファイル形式 <ul style="list-style-type: none"> • epf : EPF 形式 • pdf : PDF 形式 	OutputFileKind
/ofn	スプールデータの印刷データを取得するときのファイル名 (255 バイト以内の文字列)	OutputFileName
/p	蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名 (80 バイト以内の文字列)	ClientPrinterName
/pc	プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名 (80 バイト以内の文字列)	SearchPrinterClassName
/pm	スプールデータの印刷方式 <ul style="list-style-type: none"> • cl : 蓄積クライアントで印刷する • sv : 蓄積スプールサーバで印刷する 	PrintMode
/po	用紙の向き <ul style="list-style-type: none"> • none : EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従う • portrait : 用紙の向きを縦にして印刷する • landscape : 用紙の向きを横にして印刷する 	PaperOrientation
/prc	スプールデータのプリンタクラス名 (80 バイト以内の文字列)	PrinterClassName
/rac	スプールデータを検索するときの宛先キーの分類 (1~80 バイトの文字列)	SearchReportAddressKeyCategory
/rad	スプールデータを検索するときの宛先キーの値 (1~80 バイトの文字列)	SearchReportAddressKeyData
/sm	蓄積スプールサーバ印刷方式のプリンタ指定方式 <ul style="list-style-type: none"> • class : プリンタクラス名を指定する • printer : OS 上のプリンタ名を指定する • group : 帳票名による自動振り分け 	PrinterSelectMode
/sp	蓄積スプールサーバ印刷の開始ページ (0~999,999)	PrintStartPage
/sptl	スプールタイトル (255 バイト以内の文字列)	SpoolTitle
/svr	スプールサーバの IP アドレス (255.255.255.255 形式)	ServerAddress
/t	蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名 (80 バイト以内の文字列)	ClientTrayName

プロパティオプション	内容 (指定値)	対応する SS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/te	ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索終了日時 (YYYYMMDDhhmmss 形式)	SearchCreateTimeEnd
/ts	ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索開始日時 (YYYYMMDDhhmmss 形式)	SearchCreateTimeStart
/xp	スプールデータの印刷上限回数 <ul style="list-style-type: none"> • -1：無限に印刷できる • 0：印刷を禁止する • 1～65,536：印刷回数の上限 	MaxPrintCount

eurpmlsc コマンドを使用して実行している場合にエラーが発生したときは、標準エラー出力へエラーメッセージを出力するかしないかを、次に示すメッセージオプションで指定します。

- /message：エラーメッセージを出力します。
- /nomessage：エラーメッセージを出力しません。

オプションの指定を省略した場合は、/message が仮定されます。

なお、/nomessage が指定されていても、コマンドの終了コードは設定されます。

2.2.3 オプションを指定するときの注意

(1) 大文字と小文字の区別について

オプション、オプションの指定値、およびオプションに指定する文字列は、大文字と小文字を区別します。

例えば、/m オプションを「/M」と指定したり、/m オプションの指定値を「/m GETOUTLINE」と指定したりすると、エラーになります。

(2) 同一オプションを複数指定する場合

一つのコマンド構文に、同じオプションが複数指定されている場合は、コマンド構文の後方に指定されたオプションが有効となります。

(3) 無効なオプションについて

/m オプションで指定した蓄積操作、および構成定義情報取得の機能（メソッド）に無効なプロパティオプションを指定したときは、無視して実行されます。

/m オプションで指定した蓄積操作，および構成定義情報取得の機能（メソッド）を実行するとき，どのプロパティオプションの指定が必要かを表 2-3 に示します。

/m オプションを指定したときに必要なオプションは，蓄積操作および構成定義情報取得で使用します。表 2-3 の表見出しの番号は，次に示すメソッドに対応しています。

表見出しの番号	対応するメソッド
1	getoutline
2	getattr
3	setattr
4	print
5	get
6	del
7	getprclass
8	getpr
9	gettray
10	chgadtlog

表 2-3 /m オプションを指定したときに必要なプロパティオプション

プロパティオプション	/m オプション									
	蓄積操作						構成定義情報取得			監査 ログ
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
/c	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-
/ca	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
/client	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
/da	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
/dialog	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
/dk	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
/ep	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
/exp	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
/fc	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/fd	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/g	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
/group	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-

プロパティオプション	/m オプション									
	蓄積操作						構成定義情報取得			監査 ログ
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
/id	△	○	○	○	○	○/ -	-	-	-	-
/inc	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/lm	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
/lsp	-	-	△	△	-	-	-	-	○	-
/lst	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
/message /nomessage	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
/num	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-
/o	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
/ofn	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
/p	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
/pc	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/pm	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
/po	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-
/prc	-	-	△	△	△	-	-	-	-	-
/rac	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/rad	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/sm	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
/sp	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
/sptl	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-
/svr	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
/t	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
/te	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/ts	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
/xp	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- ：必ず指定します。
- △：指定を省略できます。
- ：指定できません。

(4) 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

2.3 eurpmlsc コマンドの構文

eurpmlsc コマンドの構文は、Windows 環境および UNIX/Linux 環境で共通です。ただし、UNIX/Linux 環境の場合は、eurpmlsc コマンドを「eurpmlsc」と指定してください。「.exe」は指定できません。

ここでは、オプション名のセパレータは、「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は、「/」を「-」に置き換えてお読みください。

2.3.1 スプールデータの一覧を取得する場合

```
eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m getoutline
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
[/id スプールデータを検索するときのジョブID]
[/inc 格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの
格納ファイル名]
[/pc プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの
プリンタクラス名]
[/ts ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索開始日時]
[/te ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索終了日時]
[/fc スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの分類]
[/fd スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの値]
[/rac スプールデータを検索するときの宛先キーの分類]
[/rad スプールデータを検索するときの宛先キーの値]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

/fc オプションと/fd オプションを入力するときは、項目を「,」で区切って、10 個まで指定できます。

(指定例)

/fc “住所,氏名,年齢,電話番号”

/fd “東京,日立 太郎,20,123-4567”

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の GetSpoolFileOutline メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

プロパティを「,」で区切って標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力された各プロパティについては、「7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	SS-コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	JobID, SpoolPath, SpoolFileName, PageNum, CreateTime, PrintResult, PrinterClassName▼	「,」で区切られたプロパティ名が、1行で常に出力されます。
3~	JobID プロパティ値, …, PrinterClassName プロパティ値▼ [JobID プロパティ値, …, PrinterClassName プロパティ値▼] …	2行目に出力されたプロパティに設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には、常に"\"が出力されます。 取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。 取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼: 改行コード (0x0d+0x0a) を示します。

2.3.2 スプールデータの属性値を取得する場合

```
eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m getattr
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
/id スプールデータを検索するときのジョブID
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の [GetSpoolFileAttribute メソッド](#) を参照してください。

(2) 出力結果

プロパティを「,」で区切って標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力された各プロパティについては、「[7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	SS-コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	SpoolPath, SpoolFileName, PageNum, CreateTime, PrintResult, PrinterClassName, ClientAddress, DispPrintDlg, SpoolFileSize, CreateLSVersion, CreateIPAddress, SpoolLimit, ExecPrintCount, MaxPrintCount, EnableGet, PrinterSelectMode,	「,」で区切られたプロパティ名が、1行で常に出力されます。

行	書式	説明
2	ServerPrinterName, ServerTrayName, ClientPrinterName, ClientTrayName, GroupName, ExecutablePrintMode, JobKeyCategory1, JobKeyCategory2, JobKeyCategory3, JobKeyCategory4, JobKeyCategory5, JobKeyCategory6, JobKeyCategory7, JobKeyCategory8, JobKeyCategory9, JobKeyCategory10, JobKeyData1, JobKeyData2, JobKeyData3, JobKeyData4, JobKeyData5, JobKeyData6, JobKeyData7, JobKeyData8, JobKeyData9, JobKeyData10, PrintTime, ReportAddressKeyCategory, ReportAddressKeyData▼	「,」で区切られたプロパティ名が、1行で常に出力されます。
3	SpoolPath プロパティ値, …, ReportAddressKeyData プロパティ値▼	2行目に出力されたプロパティに設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には、常に""が出力されます。 取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。
4	OperationKind, OperationTime, IPAddress, OperationObject, BeforeData, AfterData, PrintResult▼	「,」で区切られた履歴情報の見出し名が、1行で常に出力されます。
5~	操作種別, 操作日時, IP アドレス, 操作対象, 変更前, 変更後, 印刷実行結果▼ [操作種別, 操作日時, IP アドレス, 操作対象, 変更前, 変更後, 印刷実行結果▼] …	履歴情報が「,」で区切られて出力されます。取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼: 改行コード (0x0d+0x0a) を示します。

2.3.3 スプールデータの属性値を変更する場合

```

eurpmlsc [.exe]
  [/message | /nomessage]
  /m setattr
  [/svr スプールサーバのIPアドレス]
  /id スプールデータを検索するときのジョブID
  [/prc スプールデータのプリンタクラス名]
  [/client 蓄積クライアント印刷時のクライアントPCのIPアドレス]
  [/dialog {dialog | auto | preview | fullauto | ponly} ]
  [/lm スプールデータの蓄積期限日]
  [/xp スプールデータの印刷上限回数]
  [/g {get | noget} ]
  [/sm {class | printer | group} ]
  [/lsp スプールサーバでのOS上のプリンタ名]
  [/lst スプールサーバでのOS上のプリンタのトレイ名]
  [/p スプールデータのクライアントプリンタ名]
  [/t スプールデータのクライアントプリンタのトレイ名]
  [/group スプールデータの振り分けグループ名]

```

```
[/exp {sv | svcl | cl} ]
[/ca スプールデータのジョブ検索キー分類]
[/da スプールデータのジョブ検索キー値]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

/ca オプションと/da オプションを入力するときは、項目を「,」で区切って、10個まで指定できます。

(指定例)

/ca “住所,氏名,年齢,電話番号”

/da “東京,日立 花子,19,123-4567”

/dialog オプション、/g オプション、/sm オプション、および/exp オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/dialog	<p>蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dialog：対話型印刷 • auto：自動印刷 • preview：対話型印刷プレビュー表示 • fullauto：全自動印刷※1 • pvonly：対話型印刷プレビュー表示限定※2 <p>【参考】</p> <p>SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。</p> <p>DispPrintDlg=0 (対話型印刷)</p> <p>DispPrintDlg=1 (自動印刷印刷)</p> <p>DispPrintDlg=2 (対話型印刷プレビュー表示)</p> <p>DispPrintDlg=3 (全自動印刷) ※1</p> <p>DispPrintDlg=4 (対話型印刷プレビュー表示限定) ※2</p>
/g	<p>スプールデータの取得可否を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • get：(スプールデータの取得を許可します) • noget：(スプールデータの取得を許可しません) <p>【参考】</p> <p>SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。</p> <p>EnableGet=True (スプールデータの取得を許可します)</p> <p>EnableGet=False (スプールデータの取得を許可しません)</p>
/sm	<p>蓄積スプールサーバ印刷方式のプリンタ指定方式を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • class：プリンタクラス名指定 • printer：OS上のプリンタ名指定 • group：帳票名による自動振り分け <p>【参考】</p> <p>SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。</p>

オプション	説明
/sm	PrinterSelectMode=0 (プリンタクラス名指定) PrinterSelectMode=1 (OS上のプリンタ名指定) PrinterSelectMode=2 (帳票名による自動振り分け)
/exp	スプールデータの実行可能印刷方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> sv: 蓄積スプールサーバ印刷 svcl: 蓄積スプールサーバ/蓄積クライアント印刷 cl: 蓄積クライアント印刷 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 ExecutablePrintMode=0 (蓄積スプールサーバ印刷) ExecutablePrintMode=1 (蓄積スプールサーバ/蓄積クライアント印刷) ExecutablePrintMode=2 (蓄積クライアント印刷)

注※1 印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※2 印刷は実行できません。

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の SetSpoolFileAttribute メソッドを参照してください。

2.3.4 スプールデータを蓄積データ印刷する場合

```

eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m print
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
/id スプールデータを検索するときのジョブID
[/pm {sv | cl} ]
[/sp 蓄積スプールサーバ印刷の開始ページ]
[/ep 蓄積スプールサーバ印刷の終了ページ]
[/sm {class | printer | group} ]
[/prc プリンタクラス名]
[/lsp スプールサーバでのOS上のプリンタ名]
[/lst スプールサーバでのOS上のプリンタのトレイ名]
[/p スプールデータのクライアントプリンタ名]
[/t スプールデータのクライアントプリンタのトレイ名]
[/group スプールデータの振り分けグループ名]
[/client 蓄積クライアント印刷時のクライアントPCのIPアドレス]
[/c 印刷部数]
[/num {sort | stack} ]
[/po {none | portrait | landscape} ]
[/sptl スプールタイトル]
[/dialog {dialog | auto | preview | fullauto | ponly} ]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]

```

(1) オプション指定時の注意

/id オプションには、複数のスプールデータを指定できます。ジョブ ID をコンマ (,) で区切って指定してください。

/pm オプション, /sm オプション, /num オプション, /po オプション, および/dialog オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/pm	蓄積印刷方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none">sv: 蓄積スプールサーバ印刷cl: 蓄積クライアント印刷 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 PrintMode=0 (蓄積スプールサーバ印刷) PrintMode=1 (蓄積クライアント印刷)
/sm	蓄積スプールサーバ印刷方式のプリンタ指定方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none">class: プリンタクラス名指定printer: OS 上のプリンタ名指定group: 帳票名による自動振り分け 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 PrinterSelectMode=0 (プリンタクラス名指定) PrinterSelectMode=1 (OS 上のプリンタ名指定) PrinterSelectMode=2 (帳票名による自動振り分け)
/num	印刷部数の単位を指定します。 <ul style="list-style-type: none">sort: 部単位stack: ページ単位 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 SortPrint=0 (部単位) SortPrint=1 (ページ単位)
/po	用紙の向きを指定します。 <ul style="list-style-type: none">none: EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従うportrait: 用紙の向きを縦にして印刷するlandscape: 用紙の向きを横にして印刷する 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 PaperOrientation=0 (EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従う) PaperOrientation=1 (用紙の向きを縦にして印刷する) PaperOrientation=2 (用紙の向きを横にして印刷する)
/dialog	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モードを指定します。

オプション	説明
/dialog	<ul style="list-style-type: none"> • dialog：対話型印刷 • auto：自動印刷 • preview：対話型印刷プレビュー表示 • fullauto：全自動印刷※1 • pvonly：対話型印刷プレビュー表示限定※2 <p>【参考】</p> <p>SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。</p> <p>DispPrintDlg=0 (対話型印刷)</p> <p>DispPrintDlg=1 (自動印刷印刷)</p> <p>DispPrintDlg=2 (対話型印刷プレビュー表示)</p> <p>DispPrintDlg=3 (全自動印刷) ※1</p> <p>DispPrintDlg=4 (対話型印刷プレビュー表示限定) ※2</p>

注※1 印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※2 印刷は実行できません。

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の `PrintSpoolReport` メソッドを参照してください。

2.3.5 スプールデータを取得する場合

```

eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m get
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
/id スプールデータを検索するときのジョブID
[/ofn 出力ファイル名]
[/o スプールデータを取得するフォルダのパス]
[/prc プリンタクラス名]
[/c 印刷部数]
[/num {sort | stack} ]
[/po {none | portrait | landscape} ]
[/sptl スプールタイトル]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
[/ofk {epf | pdf} ]

```

(1) オプション指定時の注意

/id オプションには、複数のスプールデータを指定できます。ジョブ ID をコンマ (,) で区切って指定してください。

/num オプション、/po オプション、および/ofk オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/num	印刷部数の単位を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • sort：部単位 • stack：ページ単位 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 SortPrint=0（部単位） SortPrint=1（ページ単位）
/po	用紙の向きを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • none：EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従う • portrait：用紙の向きを縦にして印刷する • landscape：用紙の向きを横にして印刷する 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 PaperOrientation=0（EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従う） PaperOrientation=1（用紙の向きを縦にして印刷する） PaperOrientation=2（用紙の向きを横にして印刷する）
/ofk	スプールデータの印刷データを取得するときのファイル形式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • epf：EPF 形式 • pdf：PDF 形式 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 OutputFileKind=0（EPF 形式） OutputFileKind=1（PDF 形式）

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の `GetSpoolFile` メソッドを参照してください。

2.3.6 スプールデータを削除する場合

```

eurpmlsc [.exe]
  [/message | /nomessage]
  /m del
  [/svr スプールサーバのIPアドレス]
  [/id スプールデータを検索するときのジョブID]
  [/dk {direct | expire} ]
  [/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]

```

(1) オプション指定時の注意

/id オプションを複数指定するときは、項目を「,」で区切ります。

(指定例)

/id “id001, id002, id003”

/dk オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/dk	スプールデータ削除時の削除種別を指定します。 <ul style="list-style-type: none">• direct：指定したスプールデータを削除• expire：蓄積期限切れファイルの削除 【参考】 SS-ActiveX 起動部品のプロパティでは、次に該当します。 DeleteKind=0 (通常削除) DeleteKind=1 (蓄積期限切れファイルの削除)

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の DeleteSpoolFile メソッドを参照してください。

2.3.7 プリントクラス一覧を取得する場合

```
eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m getprclass
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の GetPrinterClassList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

スプールサーバのプリンタクラス一覧が標準出力 (stdout) に出力されます。

なお、出力された各プロパティについては、「7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	SS-コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。

行	書式	説明
2	PrinterClassName, PrinterName, TrayName, Description▼	[,] で区切られた見出し名（プロパティ名を含む）が、1行で常に出力されます。
3~	プリンタクラス名, OS上のプリンタ名, OS上のプリンタのトレイ名, 説明▼ [プリンタクラス名, OS上のプリンタ名, OS上のプリンタのトレイ名, 説明▼] ...	2行目に出力された見出し名（プロパティ名を含む）に設定されている値が[,] で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には、常に""が出力されます。取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼：改行コード (0x0d+0x0a) を示します。

2.3.8 プリンター一覧を取得する場合

```
eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m getpr
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の [GetPrinterList メソッド](#)を参照してください。

(2) 出力結果

OS上のプリンタ名が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「[7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	SS-コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterName▼	プロパティ名が、1行で常に出力されます。
3~	OS上のプリンタ名▼ [OS上のプリンタ名▼] ...	2行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼：改行コード (0x0d+0x0a) を示します。

2.3.9 トレー一覧を取得する場合

```
eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m gettray
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
/lsp スプールサーバでのOS上のプリンタ名
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の GetTrayList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS 上のプリンタのトレイ名が標準出力 (stdout) に出力されます。出力結果を次に示します。

なお、出力されたプロパティについては、「7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	SS-コマンド起動部品のバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	TrayName▼	プロパティ名が、1行で常に出力されます。
3~	OS上のプリンタのトレイ名▼ [OS上のプリンタのトレイ名▼] ...	2行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は1件につき1行で、件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

(凡例)

▼：改行コード (0x0d+0x0a) を示します。

2.3.10 監査ログを切り替える場合

```
eurpmlsc [.exe]
[/message | /nomessage]
/m chgadtlog
[/svr スプールサーバのIPアドレス]
[/adpenv EUR Server - Spool Service Adapterで使用する環境設定ファイルのパス]
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション (/message | /nomessage) については、「[2.2 eurpmlsc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。そのほかのオプションについては、SS-ActiveX 起動部品の [ChangeAuditLog メソッド](#)を参照してください。

2.4 エラー情報

eurpmlsc コマンドでは、エラーを検知すると、メッセージオプション (/message) によって次に示す標準エラーを出力します。

表 2-4 eurpmlsc コマンドの標準エラー出力

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
コマンド実行時エラー	コマンド実行時にエラーが発生したとき	KEEY801-E
	メモリ不足が発生したとき	KEEY806-E
コマンドシンタックスエラー	不明なオプションを指定したとき	KEEY802-E
	オプションに値の指定がないとき	KEEY803-E
	オプションの指定値が不正なとき	KEEY804-E
	指定が必須のオプションが指定されていないとき	KEEY805-E

2.4.1 eurpmlsc コマンドの終了コード

eurpmlsc コマンドを実行すると、終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 2-5 eurpmlsc コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	eurpmlsc コマンドが正常に終了しました。
8	eurpmlsc コマンドの実行中、エラーが発生しました。

eurpmlsc コマンドを呼び出している API では、eurpmlsc コマンドの終了コードを参照して、エラーチェックしてください。

2.4.2 エラーメッセージのフォーマット

eurpmlsc コマンドを実行したとき、標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

```
eurpmlsc: △KEEY8XX-E△エラーメッセージ▼
```

(凡例)

△：半角空白を示します。

▼：改行 (0x0d+0x0a) を示します。

3

eurpmcepfviewer コマンド

この章では、EUR Client Service を起動する eurpmcepfviewer コマンドについて説明します。

3.1 eurpmcepfviewer コマンドとは

クライアント側で動作するプログラムから、EUR Client Service をコマンド起動することで、帳票のプレビュー表示や印刷ができます。このときに使用するコマンドを、eurpmcepfviewer コマンドといいます。

3.1.1 eurpmcepfviewer コマンドのファイル名

eurpmcepfviewer コマンドのファイル名を次に示します。

EURPMCEPFViewer.exe

eurpmcepfviewer コマンドのファイルです。インストール先フォルダ¥Client¥Program¥下にあります。

3.1.2 オプション一覧

eurpmcepfviewer コマンドが提供するオプションの一覧を次に示します。

表 3-1 eurpmcepfviewer コマンドのオプション一覧

オプション	指定値※	/r オプションの指定	内容
/e	印刷終了ページ	○	1~999,999 の数値で指定します。 範囲外の値を指定した場合、および/s オプションに指定した値より小さい値を指定した場合はエラーになります。 /e オプションの指定を省略した場合は、最終ページまで印刷されます。
/nomessage	—	○	印刷時にダイアログを表示しない場合（全自動印刷したい場合）に指定します。
/pr	プリンタ名	○	80 バイト以内の文字列で指定します。
/prc	プリンタクラス名	○	80 バイト以内の文字列で指定します。 /pr オプションと同時に指定した場合は無視されます。
/r	—	—	帳票を自動印刷する場合に指定します。なお、/r オプションを指定した場合は、EPF 形式ファイル名を必ず指定してください。 /r オプションの指定を省略した場合は、帳票をプレビュー表示します。
/s	印刷開始ページ	○	1~999,999 の数値で指定します。 範囲外の値を指定した場合、および/e オプションに指定した値より大きい値を指定した場合はエラーになります。 /s オプションの指定を省略した場合は、1 ページから印刷されます。
/tr	トレイ名	○	80 バイト以内の文字列で指定します。

オプション	指定値※	/r オプションの指定	内容
/tr	トレイ名	○	/pr オプションと同時に指定した場合に有効になります。 /tr オプションの指定を省略した場合は、/pr オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
—	EPF 形式ファイル名	△	EPF 形式ファイル名をフルパスで指定します。 255 バイト以内の文字列で指定してください。 EPF 形式ファイルの指定を省略した場合は、ファイルを表示しない状態で EUR Client Service が起動します。また、ファイルを複数指定するとエラーとなります。 なお、ファイルの拡張子はコマンド実行時の動作に影響しません。ファイルの拡張子が*.epf であっても、/r オプションを指定した場合は帳票が自動印刷されます。

(凡例)

- ：/r オプションの指定が必須です。
- △：/r オプションの指定は任意です。
- ：該当しません。

注※

半角空白を含む値を指定する場合は、値を「"」で囲んで指定します。

3.1.3 オプションを指定するときの注意

オプションを指定するときの注意を次に示します。

(1) 大文字と小文字の区別について

オプション、オプションの指定値、およびオプションに指定する文字列は、大文字と小文字を区別します。

例えば、/r オプションを「/R」と指定すると、エラーになります。

(2) 同一オプションを複数指定する場合

同じオプションが複数指定されている場合は、最後に指定されたオプションの値が有効となります。

(3) 無効なオプションについて

無効なオプションが指定されていた場合は、エラーになります。

(4) 帳票の印刷先について

優先順位は次のとおりです。

1. プリンタ名の指定 (/pr オプションで指定)

2. プリンタクラス名の指定 (/prc オプションで指定)
3. EPF 形式ファイルの属性値のプリンタクラス名
4. デフォルトプリンタクラス
5. OS のデフォルトのプリンタ

2.または3.で決定したプリンタクラス名が、クライアント PC のプリンタクラスとして設定されていない場合は、デフォルトプリンタクラスに出力します。デフォルトプリンタクラスが登録されていない場合は、OS のデフォルトのプリンタに出力します。また、プリンタ名またはプリンタクラス名の指定によって決定したプリンタが存在しない場合はエラーになります。

3.2 eurpmcepfviewer コマンドの構文

```
EURPMCEPFViewer [.exe]
[/r]
[/nomessage]
[/pr プリンタ名]
[/tr トレイ名]
[/prc プリンタクラス名]
[/s 印刷開始ページ]
[/e 印刷終了ページ]
[EPF形式ファイル名]
```

[/r]

帳票を自動印刷する場合に指定します。

指定を省略した場合は、帳票をプレビュー表示します。

[/nomessage]

印刷時にダイアログを表示しない場合（全自動印刷したい場合）に指定します。

/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

[/pr プリンタ名]

プリンタ名を 80 バイト以内の文字列で指定します。

/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

[/tr トレイ名]

トレイ名を 80 バイト以内の文字列で指定します。

/r オプションおよび/pr オプションと同時に指定した場合に有効になります。

指定を省略した場合は、/pr オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。

[/prc プリンタクラス名]

プリンタクラス名を 80 バイト以内の文字列で指定します。

/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

/pr オプションと同時に指定した場合は無視されます。

[/s 印刷開始ページ]

印刷開始ページを 1~999,999 の数値で指定します。

/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

範囲外の値を指定した場合、および/e オプションに指定した値より大きい値を指定した場合はエラーになります。指定を省略した場合は、1 ページから印刷されます。

[/e 印刷終了ページ]

印刷終了ページを 1~999,999 の数値で指定します。

/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

範囲外の値を指定した場合、および/s オプションに指定した値より小さい値を指定した場合はエラーになります。指定を省略した場合は、最終ページまで印刷されます。

[EPF 形式ファイル名]

EPF 形式ファイル名をフルパスで指定します。

255 バイト以内の文字列で指定してください。

指定を省略した場合は、ファイルを表示しない状態で EUR Client Service が起動します。また、ファイルを複数指定するとエラーとなります。

/r オプションを指定した場合は必ず指定してください。

3.2.1 帳票を自動印刷する場合

eurpmcepfviewer コマンドの指定例を次に示します。

(1) プリントクラス名を指定して帳票を全自動印刷したい場合

プリントクラス名：AClass

EPF 形式ファイル名：EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:%temp

```
"C:%Program Files%Hitachi%EUR%Client%Program%EURPMCEPFViewer.exe" /r /nomessage /prc AClass  
C:%temp%EPFFile.epf
```

(2) プリント名とトレイ名を指定して帳票を自動印刷したい場合

プリンタ名：Port C4300

トレイ名：自動

EPF 形式ファイル名：EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:%temp

```
"C:%Program Files%Hitachi%EUR%Client%Program%EURPMCEPFViewer.exe" /r /pr "Port C4300" /tr 自  
動 C:%temp%EPFFile.epf
```

(3) 帳票のプリントクラス名情報を使用して自動印刷したい場合

EPF 形式ファイル名：EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:%temp folder

```
"C:%Program Files%Hitachi%EUR%Client%Program%EURPMCEPFViewer.exe" /r "C:%temp folder%EPFFile  
.epf"
```

3.2.2 帳票をプレビュー表示する場合

EPF 形式ファイル名：EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:¥temp

```
"C:¥Program Files¥Hitachi¥EUR¥Client¥Program¥EURPMCEPViewer.exe" C:¥temp¥EPFFile.epf
```

3.3 エラー情報

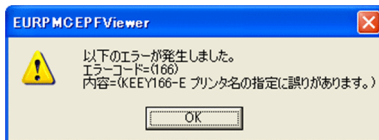
eurpmcepfviewer コマンドを実行すると、終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 3-2 eurpmcepfviewer コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	eurpmcepfviewer コマンドが正常に終了しました。
100~199	eurpmcepfviewer コマンドの実行中に、エラーが発生しました。 該当する KEEY メッセージを参照してください。

eurpmcepfviewer コマンドを呼び出している API では、eurpmcepfviewer コマンドの終了コードを参照して、エラーチェックしてください。

また、eurpmcepfviewer コマンドを実行したとき、ダイアログに出力されるメッセージの表示例を次に示します。



ただし、/nomessage オプションを指定して eurpmcepfviewer コマンドを実行した場合は、ダイアログは表示されません。

4

BSP-RM 連携コマンド

この章では、BSP-RM が管理するデータファイルを EUR サーバ環境で帳票の印刷やファイル出力をする BSP-RM 連携コマンドについて説明します。

4.1 BSP-RM 連携コマンドとは

BSP-RM を使用して、BSP-RM が管理するデータファイル（制御情報付データファイル）を EUR サーバ環境で帳票の印刷やファイル出力ができます。このときに使用するコマンドを、**BSP-RM 連携コマンド**（eursmpr コマンド）といいます。BSP-RM 連携コマンドは、BSP-RM から呼び出して実行するコマンドです。

BSP-RM と EUR を連携する場合の帳票出力の流れの詳細については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

4.1.1 BSP-RM 連携コマンドのファイル名

BSP-RM 連携コマンド（eursmpr コマンド）のファイル名を次に示します。

eursmpr.exe

BSP-RM 連携コマンドのファイルです。インストール先フォルダ¥Eursmpr¥Program¥下にあります。

4.2 BSP-RM 連携コマンドの構文

eursmpr.exe
制御情報付データファイル名
起動パラメタファイル名

制御情報付データファイル名

制御情報付データファイル名を、フルパス、相対パスまたはファイル名だけのどれかで指定します。255 バイト以内の文字列で指定してください。制御情報付データファイル名は必ず指定してください。指定を省略した場合、KEEU3016 エラーになります。

ファイル名だけで指定する場合は、インストール先フォルダ`¥Eursmpr¥divadata` 下、または環境設定ファイル (eursmpr.ini) の PATH セクションの DIVDATA キーで指定したフォルダ下にあるファイル名を指定します。

起動パラメタファイル名

起動パラメタファイル名を、フルパス、相対パスまたはファイル名だけのどれかで指定します。255 バイト以内の文字列で指定してください。起動パラメタファイル名は必ず指定してください。

ファイル名だけで指定する場合は、インストール先フォルダ`¥Eursmpr¥runparam` 下、または環境設定ファイル (eursmpr.ini) の PATH セクションの RUNPARAM キーで指定したフォルダ下にあるファイル名を指定します。

■注意事項

- 指定する文字列は、大文字と小文字を区別しません。
- 指定する文字列には、「"」および「,」は使用できません。

4.3 エラー情報

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) では、エラーを検知すると、標準エラーを出力します。

4.3.1 BSP-RM 連携コマンドの終了コード

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) を実行すると、終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 4-1 BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の終了コード

終了コード	意味
0	BSP-RM 連携コマンドが正常に終了しました。
4	BSP-RM 連携から呼び出す eurpmc コマンドの実行中に、警告が発生しました。
8	BSP-RM 連携から呼び出す eurpmc コマンドの実行中に、エラーが発生しました。
3008	BSP-RM 連携コマンドのファイル入出力処理で、エラーが発生しました。
3012	制御情報付データファイルまたは起動パラメタファイルの構文に誤りがあります。
3016	引数の指定に誤りがあります。
3032	上記以外のエラーが発生しました。

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) を呼び出している API では、BSP-RM 連携コマンドの終了コードを参照して、エラーチェックしてください。

4.3.2 エラーメッセージのフォーマット

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) を実行したとき、標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

エラーメッセージの場合

```
eursmpr: △KEEU3XXX-E△エラーメッセージ▼
```

(凡例)

△：半角空白を示します。

▼：改行 (0x0d+0x0a) を示します。

警告メッセージの場合

```
eursmpr:△KEEU3XXX-W△エラーメッセージ▼
```

(凡例)

△：半角空白を示します。

▼：改行 (0x0d+0x0a) を示します。

5

EUR Web Plug-In

この章では、Web ブラウザを使用して帳票の印刷やプレビュー表示をするための ActiveX 部品 (EUR Web Plug-In) を使用した帳票出力について説明します。

5.1 EUR Web Plug-In とは

EUR Client では、Web 出力で使用する ActiveX 部品を提供しています。これを、EUR Web Plug-In と呼びます。EUR Web Plug-In を使用してクライアント PC の Web ブラウザ上で帳票を印刷したり、プレビュー表示したりできます。

5.1.1 ファイル名

EURPMPrintAX9.ocx

Web ブラウザ上で帳票を印刷する ActiveX 部品です。以降、EUR Web Plug-In (印刷用) と呼びます。

EURPMPreViewAX9.ocx

Web ブラウザ上で帳票を印刷したり、表示したりする ActiveX 部品です。以降、EUR Web Plug-In (プレビュー用) と呼びます。

5.1.2 EUR Web Plug-In の使用方法

EUR Web Plug-In の使用方法には、次の二つの方法があります。

- EUR Client 再配布用パッケージからインストールして使用方法
- Web サーバの任意の場所に配置した EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールして使用方法

ダウンロードパッケージは、キャビネットファイル (.cab) と Internet Explorer の機能を使用してインストールするパッケージです。

EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールした場合、アプリケーションとしてコンピュータに登録されないため、コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] メニューからのアンインストールはできません。また、プログラムフォルダおよびスタートメニューは作成されません。

(1) EUR Client 再配布用パッケージから EUR Web Plug-In をインストールして使用方法

(a) EUR Web Plug-In のインストール方法

EUR Client 再配布用パッケージをクライアントにインストールすると、EUR Web Plug-In が一緒にインストールされます。

また、EUR Client 再配布用パッケージをサイレントインストールする場合は、EUR Web Plug-In だけをインストールする指定もできます。

EUR Client 再配布用パッケージを使用した EUR Web Plug-In のインストールの手順、インストール後のフォルダ構成は、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

(b) EUR Web Plug-In の起動方法

EUR Web Plug-In は、HTML ページに<object>タグを記述して使用します。EUR Client 再配布用パッケージから EUR Web Plug-In をインストールした場合の<object>タグの記述方法については、「[5.7 タグの記述例](#)」を参照してください。

(2) EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールして使用する方法

(a) EUR Web Plug-In のインストール方法

クライアントの Web ブラウザから、EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージ配布用の Web ページにアクセスして、EUR Web Plug-In をインストールします。

EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージを使用した EUR Web Plug-In のインストールの手順は、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

(b) EUR Web Plug-In の起動方法

EUR Web Plug-In は、HTML ページに<object>タグを記述して使用します。EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールした場合の<object>タグの記述方法については、「[5.7 タグの記述例](#)」を参照してください。

5.2 パラメタ, メソッド, プロパティ一覧

EUR Web Plug-In のパラメタ, メソッド, プロパティの一覧を示します。

5.2.1 パラメタ一覧

EUR Web Plug-In のパラメタの一覧を次に示します。

表 5-1 Web 出力で使用する EUR Web Plug-In のパラメタ一覧

パラメタ	概要	EUR Web Plug-In (印刷用)	EUR Web Plug-In (プレビュー用)
DefaultPrintDlg	印刷実行時に EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログを表示するか, OS の印刷ダイアログを表示するかを選択します。	○	○
DlgStyleOpt	EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ, および印刷時の印刷中ダイアログのキャンセルを抑止するかどうかを指定します。	○	○
EPFDataMaxSize	ダウンロードする EPF 形式ファイルの, ファイルサイズの上限を指定します。	○	○
EPFFileURL	ダウンロードする EPF 形式ファイルの URL を指定します。	○	○
EPFTempDataMode	ダウンロードする EPF 形式ファイルを, 一時ファイルとして保存するかどうかを指定します。	○	○
LogFile	EUR Web Plug-In のログファイルの出力先フォルダを指定します。	○	○
LogLevel	実行ログの出力レベルを指定します。	○	○
LogSize	EUR Web Plug-In のログファイルのファイルサイズの上限を指定します。	○	○
NoPrint	起動時に印刷を実行するかどうかを指定します。	○	×
NoSetPrinterDlg	印刷実行時にプリンタ選択ダイアログを表示するかどうかを指定します。	○	○
PrintEndPage	EPF 形式ファイルの印刷終了ページを指定します。	○	×
PrinterName	帳票を印刷するプリンタを指定します。	○	○
PrintStartPage	EPF 形式ファイルの印刷開始ページを指定します。	○	×
SelectDisplayPrinter	印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名の表示モードを指定します。	○	○
SendResultURL	印刷結果を報告する URL を指定します。	○	○

パラメタ	概要	EUR Web Plug-In (印刷用)	EUR Web Plug-In (プレビュー用)
ShowScrollBar	印刷プレビューが表示領域を超える場合、スクロールバーを表示するかどうかを指定します。	×	○
TempFileDel	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを選択します。	○	○
TrayName	帳票を印刷するプリンタのトレイ名を指定します。	○	○
UserParam	SendResultURL パラメタで送信するユーザ付加情報を指定します。	○	○
Zoom	印刷プレビューの表示倍率の初期値を指定します。	×	○

(凡例) ○：指定できます。 ×：指定できません。

5.2.2 メソッド一覧

EUR Web Plug-In のメソッドの一覧を次に示します。

表 5-2 Web 出力で使用する EUR Web Plug-In のメソッド一覧

メソッド	概要	EUR Web Plug-In (印刷用)	EUR Web Plug-In (プレビュー用)
Find	検索ダイアログを表示します。	×	○
FindNext	検索ダイアログで前回実行した検索の内容に従って、次の検索を実行します。一度も検索を実行していない場合は、検索ダイアログを表示します。	×	○
HScroll	横方向にスクロールします。	×	○
PrintEPF	印刷を実行します。	○	○
TurnPage	指定ページを表示します。	×	○
VScroll	縦方向にスクロールします。	×	○
Zoom	印刷プレビューの表示倍率を変更します。	×	○

(凡例) ○：指定できます。 ×：指定できません。

5.2.3 プロパティ一覧

EUR Web Plug-In のプロパティの一覧を次に示します。

表 5-3 Web 出力で使用する EUR Web Plug-In のプロパティ一覧

プロパティ	概要	EUR Web Plug-In (印刷用)	EUR Web Plug-In (プレビュー用)
CurrentPage	表示中のページ番号を取得します。	×	○
DlgStyleOpt	EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ、および印刷時の印刷中ダイアログのキャンセルを抑止するかどうかを指定します。	○	○
ExclusionPrinterDriver	PrintEPF メソッドの実行時に、表示するプリンタ選択ダイアログ中のプリンター一覧から、除外したいプリンタのドライバ名を指定します。	○	○
ExclusionPrinterName	PrintEPF メソッドの実行時に、表示するプリンタ選択ダイアログ中のプリンター一覧から、除外したいプリンタのプリンタ名を指定します。	○	○
PermissionPrinterDriver	PrintEPF メソッドの実行時に、印刷を許可するプリンタのドライバ名を指定します。指定したプリンタは、プリンタの選択ダイアログ中のプリンター一覧に表示されます。	○	○
PermissionPrinterName	PrintEPF メソッドの実行時に、印刷を許可するプリンタのプリンタ名を指定します。指定したプリンタは、プリンタの選択ダイアログ中のプリンター一覧に表示されます。	○	○
SelectDisplayPrinter	印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名の表示モードを指定します。	○	○
TotalPage	表示データの総ページ数を取得します。	×	○

(凡例) ○：指定できます。 ×：指定できません。

5.2.4 イベント一覧

EUR Web Plug-In のイベントの一覧を次に示します。

表 5-4 Web 出力で使用する EUR Web Plug-In のイベント一覧

イベント	概要	EUR Web Plug-In (印刷用)	EUR Web Plug-In (プレビュー用)
PageChanged	検索を実行してプレビューしている表示ページが変わったときに、ページ番号を通知するためのイベントです。	×	○

(凡例) ○：通知できます。 ×：通知できません。

5.2.5 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は使用できません。

5.3 パラメタ仕様

EUR Web Plug-In のパラメタの詳細を説明します。

DefaultPrintDlg パラメタ

印刷実行時に EUR Web Plug-In のプリンタ選択ダイアログを表示するか、OS の印刷ダイアログを表示するかを選択します。

指定できる値を次に示します。

- YES：印刷実行時、OS の印刷ダイアログを表示します。
- NO：印刷実行時、EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログを表示します。

DefaultPrintDlg パラメタを省略した場合、または指定できる値以外の文字を指定した場合は、NO が仮定されます。

PrinterName パラメタで指定したプリンタがある場合、または NoSetPrinterDlg パラメタで YES を指定した場合は、DefaultPrintDlg パラメタの指定は無効になります。

❗ 重要

OS の印刷ダイアログでは、印刷開始ページおよび印刷終了ページに 65,534 より大きい値を指定できません。65,534 より大きい値を指定するとエラーが表示されるか、または指定していないページが印刷されます。大量ページの帳票を印刷する場合には、EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログを使用してください。

DlgStyleOpt パラメタ

EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ、および印刷時の印刷中ダイアログのキャンセルを抑制するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ、および印刷時の印刷中ダイアログをデフォルトの状態（キャンセルの操作が可能）にします。
- 1：EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ、および印刷時の印刷中ダイアログのキャンセルを抑制します。

DlgStyleOpt パラメタを省略した場合、または 0、1 以外を指定した場合は、0 が仮定されます。

DlgStyleOpt パラメタと DlgStyleOpt プロパティの両方を指定したときは、DlgStyleOpt プロパティの指定が優先されます。

EPFDataMaxSize パラメタ

EPFTempDataMode パラメタに 1 を指定した場合、ダウンロードする EPF 形式ファイルの、ファイルサイズの上限を指定します。

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

EPFDataMaxSize パラメタを省略した場合、または指定できない値を指定した場合は 2,000,000 が仮定されます。

EPFTempDataMode パラメタに 1 以外を指定した場合、EPFDataMaxSize パラメタに指定した内容は無視されます。

ダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズが上限を超えるとエラーになり、KEEY142-E メッセージが出力されます。

EPFFileURL パラメタ

印刷する EPF 形式ファイルをダウンロードする URL を指定します。

URL の指定方法には次に示す二つの方法があります。

- 生成済みの EPF 形式ファイルを指定
生成済みの EPF 形式ファイルを Web サーバ上に配置しておき、その URL を指定します。
(指定例) `http://localhost/epf/abc.epf`
- 動的に EPF 形式ファイルを生成するユーザプログラムを指定
HTTP リクエストで EUR Server - Adapter を呼び出し、動的に EPF 形式ファイルを生成してダウンロードしたい場合は、EPF 形式ファイルを生成して HTTP レスポンスに EPF 形式のファイルデータを返すユーザプログラムの URL を指定します。
(指定例) `http://localhost/sample/create_epf.jsp`
ただし、HTTP レスポンスの HTTP ヘッダの `ContentLength` 項目には、生成した EPF 形式ファイルのファイルサイズを正しく指定してください。間違って指定した場合は、ダウンロードの進捗画面が正しく表示されません。
また、EPFTempDataMode パラメタに「1 (ダウンロードする EPF 形式ファイルを一時ファイルとして保存しない)」を指定した場合に、`ContentLength` 項目を正しく指定していないときは、ファイルデータを正常にダウンロードできないおそれがあります。

ダウンロード先は、GetTempPath()で取得されるテンポラリフォルダです。ダウンロードした EPF 形式ファイルを一時ファイルとして保存するかどうかは、EPFTempDataMode パラメタで指定できます。ダウンロードした EPF 形式ファイルは、印刷が終了すると自動的に削除されます。

EPFTempDataMode パラメタ

ダウンロードする EPF 形式ファイルを、一時ファイルとして保存するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：一時ファイルとして保存します。
GetTempPath()で取得されるテンポラリフォルダに保存します。
保存した一時ファイルは、印刷が終了すると自動的に削除されます。
- 1：一時ファイルとして保存しません。

EPFTempDataMode パラメタを省略した場合、または 0, 1 以外を指定した場合は、0 が仮定されます。

LogFile パラメタ

EUR Web Plug-In のログファイル (EURPMPrintAX.log または EURPMPreViewAX.log) の出力先フォルダを指定します。

LogFile パラメタを省略した場合、次の順に出力先フォルダを決定します。

1. 環境変数 TMP に指定されたフォルダ
2. 環境変数 TEMP に指定されたフォルダ
3. 実行しているプログラムのカレントフォルダ

LogLevel パラメタ

EUR Web Plug-In の実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LogLevel パラメタを省略した場合は、8 が仮定されます。

❗ 重要

出力レベルを 16 に指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

LogSize パラメタ

EUR Web Plug-In のログファイル (EURPMPrintAX.log または EURPMPreViewAX.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

LogSize パラメタを省略した場合、または指定できない値を指定した場合は 750 が仮定されます。

ログのファイルサイズが上限を超えると、現在のログファイルをバックアップファイル (EURPMPrintAX_bak.log) に保存し、再びログファイルの先頭から記録します。すでにバックアップファイルがある場合は、古いバックアップファイルを上書きします。

NoPrint パラメタ

EUR Web Plug-In (印刷用) の起動時に印刷を実行するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- YES : EUR Web Plug-In (印刷用) の起動時に EPF 形式ファイルを印刷しません。
- NO : EUR Web Plug-In (印刷用) の起動時に EPF 形式ファイルを印刷します。

NoPrint パラメタで YES を指定した場合、PrintEPF メソッドを呼び出すまで印刷しません。NoPrint パラメタで NO を指定した場合、起動時に印刷されます。

NoPrint パラメタを省略した場合、または指定できない値を指定した場合、NO が仮定されます。

NoSetPrinterDlg パラメタ

印刷実行時にプリンタ選択ダイアログを表示するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- YES : 印刷実行時、プリンタ選択ダイアログを表示しません。
- NO : 印刷実行時、プリンタ選択ダイアログを表示します。

NoSetPrinterDlg パラメタに YES を指定した場合、Windows 環境で通常使うプリンタに出力されます。

NoSetPrinterDlg パラメタを省略した場合、または指定できない値を指定した場合は、NO が仮定されます。

PrinterName パラメタで指定したプリンタがある場合は、NoSetPrinterDlg パラメタの指定は無効になります。

プリンタ選択ダイアログを表示しない場合、次に示すどれかが指定されていると印刷されません。印刷実行時にエラーが表示されます。

- ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティに通常使うプリンタのプリンタ名またはプリンタドライバ名が指定されているとき
- PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDirver プロパティに通常使うプリンタ以外のプリンタ名またはプリンタドライバ名が指定されているとき

PrintEndPage パラメタ

EPF 形式ファイルの印刷終了ページを指定します。指定できる値は、1~999,999 です。単位は、ページです。

PrintEndPage パラメタを省略した場合は、1 ページから最終ページまで印刷されます。

PrintEndPage パラメタに、最終ページを超える値を指定した場合は、最終ページまで印刷されます。

PrintEndPage プロパティに、次に示すどれかが指定された場合は、印刷されません。印刷実行時にエラーが表示されます。

- 印刷終了ページに、1~999,999 以外の値が指定されているとき
- PrintEndPage パラメタの指定はあるが、印刷終了ページが指定されていないとき
- PrintStartPage プロパティで指定する印刷開始ページが、印刷終了ページより大きいとき

PrinterName パラメタ

帳票を印刷するプリンタを指定します。プリンタ名には、クライアント PC の OS 上に設定した名称を指定します。

プリンタ名の大文字・小文字は区別されません。

PrinterName パラメタを省略した場合、または指定したプリンタ名が OS 上にない場合は、NoSetPrinterDlg パラメタと DefaultPrintDlg パラメタの設定に従います。

指定したプリンタに印刷する場合、次に示すどれかが指定されていると印刷されません。印刷実行時にエラーが表示されます。

- ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティに PrinterName パラメタで指定したプリンタ名またはプリンタドライバ名が指定されているとき
- PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDirver プロパティに PrinterName パラメタで指定したプリンタ以外のプリンタ名またはプリンタドライバ名が指定されているとき

PrintStartPage パラメタ

EPF 形式ファイルの印刷開始ページを指定します。指定できる値は、1~999,999 です。単位は、ページです。

PrintStartPage パラメタを省略した場合は、1 ページから印刷されます。

PrintStartPage パラメタに、最終ページを超える値を指定した場合は、最終ページが印刷されます。

PrintStartPage プロパティに、次に示すどれかが指定された場合は、印刷されません。印刷実行時にエラーが表示されます。

- 印刷開始ページに、1~999,999 以外の値が指定されているとき
- PrintStartPage パラメタの指定はあるが、印刷開始ページが指定されていないとき
- 印刷開始ページが、PrintEndPage プロパティで指定する印刷終了ページより大きいとき

SelectDisplayPrinter パラメタ

印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名の表示モードを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：標準モード

印刷先指定ダイアログに初期表示するプリンタ名

- 初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
プリンタ名は表示されません。*1
- 印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。*2

OS の印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名

- 初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- 印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合

前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。 ※3

• 1：通常使うプリンタ初期表示モード

印刷先指定ダイアログに初期表示するプリンタ名 ※4

- ・初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- ・印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

OS の印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名

- ・初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- ・印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

SelectDisplayPrinter パラメタを省略した場合、または 0、1 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

注※1

ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティが指定されている場合、次のどちらかの条件を満たすときは、通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

- ・ ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティの指定が有効、かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されていないとき
- ・ PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDriver プロパティの指定が有効、かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されているとき

注※2

前回の受信時に設定したプリンタ名が存在しない場合、またはプロパティ (ExclusionPrinterName プロパティ、ExclusionPrinterDriver プロパティ、PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDriver プロパティ) の指定によってプリンタ名が表示できない場合は、次に示すプリンタ名が表示されます。

- ・ 注※1 の条件を満たすときは、通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- ・ 注※4 の条件を満たすときは、プリンタ名は表示されません。
- ・ ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティが指定されていないときは、プリンタ名は表示されません。

注※3

前回の受信時に設定したプリンタ名のプリンタが存在しない場合、通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

注※4

次のどちらかの条件を満たす場合、プリンタ名は表示されません。

- ExclusionPrinterName プロパティ, または ExclusionPrinterDriver プロパティの指定が有効, かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されているとき
- PermissionPrinterName プロパティ, または PermissionPrinterDriver プロパティの指定が有効, かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されていないとき

SendResultURL パラメタ

印刷結果を報告する URL を指定します。指定した URL に結果が出力され, HTTP リクエストが送信されます。

SendResultURL パラメタで指定する URL で, EPF 形式ファイルの削除などの処理ができます。

報告される結果の形式を次に示します。

- 印刷成功時: ?PrintResult=OK
- 印刷失敗 (キャンセルを含む) 時: ?PrintResult=NG

SendResultURL パラメタを省略した場合, 印刷結果は報告されません。

SendResultURL パラメタで指定する URL の HTTP レスポンスは無効になります。

ShowScrollBar パラメタ

印刷プレビューが表示領域を超える場合, スクロールバーを表示するかどうかを指定します。EUR Web Plug-In (プレビュー用) で指定できます。

指定できる値を次に示します。

- YES: スクロールバーを表示します。
- NO: スクロールバーを表示しません。

ShowScrollBar パラメタを省略した場合, または指定できない値を指定した場合, YES が假定されます。

YES を指定しても, 印刷プレビューが表示領域を超えなければ, スクロールバーは表示されません。

TempFileDel パラメタ

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを選択します。一時ファイルは障害対策のために使用します。

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時には削除します。異常終了時には削除しません。
- 2：常に削除しません。

TempFileDel パラメタを省略した場合、または 0, 1, 2 以外を指定した場合は 1 が仮定されます。

EPFTempDataMode パラメタに 1 を指定している場合、TempFileDel パラメタに指定した内容は無視されます。

一時ファイルは、次の順に出力先フォルダを決定します。

1. 環境変数 TMP に指定されたフォルダ
2. 環境変数 TEMP に指定されたフォルダ
3. 実行しているプログラムのカレントフォルダ

一時ファイルを削除しなかった場合は、プログラムが稼働していないときに定期的に削除してください。

TrayName パラメタ

帳票を印刷するプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名には、PrinterName パラメタで指定したプリンタのトレイ名を指定します。

PrinterName パラメタを省略した場合、または PrinterName パラメタで指定したプリンタがない場合は、TrayName パラメタの指定は無効になります。

TrayName パラメタで指定したトレイ名がない場合は、NoSetPrinterDlg パラメタと DefaultPrintDlg パラメタの指定に従います。

UserParam パラメタ

ユーザ付加情報を指定します。

UserParam パラメタを指定した場合、SendResultURL パラメタで指定した URL の後ろに、"?"に続いて UserParam パラメタの文字列を付け、さらに"&"と結果文字列を付けて印刷結果が報告されます。

UserParam パラメタを省略した場合、SendResultURL パラメタで指定した URL の後ろに、"?"に続いて結果文字列を付けて印刷結果が報告されます。

SendResultURL パラメタを省略した場合、UserParam パラメタは無効になります。

Zoom パラメタ

印刷プレビューの表示倍率の初期値を指定します。EUR Web Plug-In（プレビュー用）で指定できます。

指定できる値は、25～200 です。単位は%です。

25 より小さい値を指定した場合は、25 が仮定されます。200 より大きい値を指定した場合は、200 が仮定されます。

Zoom パラメタを省略した場合、または数値以外を指定した場合は、100 が仮定されます。

5.4 メソッド仕様

EUR Web Plug-In のメソッドの詳細を説明します。

Find メソッド

検索ダイアログを表示します。

検索を実行してプレビューしている帳票の表示ページが変わった場合は、PageChanged イベントを発行します。

形式

long Find()

引数

なし

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

FindNext メソッド

検索ダイアログで前回実行した検索の内容に従って、次の検索を実行します。一度も検索を実行していない場合は、検索ダイアログを表示します。

検索を実行してプレビューしている帳票の表示ページが変わった場合は、PageChanged イベントを発行します。

形式

long FindNext()

引数

なし

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

HScroll メソッド

横方向にスクロールします。単位は px（ピクセル）です。EUR Web Plug-In（プレビュー用）で指定できます。

正の値を指定すると左方向にスクロールします。負の値を指定すると右方向にスクロールします。

形式

long HScroll(long lPixel)

引数

lPixel

スクロール量

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

PrintEPF メソッド

印刷を実行します。パラメタの指示に従って印刷します。

形式

long PrintEPF()

引数

なし

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

TurnPage メソッド

指定したページを表示します。EUR Web Plug-In（プレビュー用）で指定できます。

指定したページ数が、帳票にない場合は、次の規則に従います。

- 0以下を指定した場合：先頭ページを表示します。
- 最終ページより大きい値を指定した場合：最終ページを表示します。

形式

long TurnPage(long lPage)

引数

lPage

ページ番号

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

VScroll メソッド

縦方向にスクロールします。単位は px（ピクセル）です。EUR Web Plug-In（プレビュー用）で指定できます。正の値を指定すると上方向にスクロールします。負の値を指定すると下方向にスクロールします。

形式

long VScroll(long lPixel)

引数

lPixel

スクロール量

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

Zoom メソッド

印刷プレビューの表示倍率を変更します。EUR Web Plug-In（プレビュー用）で指定できます。

指定できる値は、25～200 です。単位は%です。

形式

long Zoom(long lPercent)

引数

lPercent

倍率

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

5.5 プロパティ仕様

EUR Web Plug-In のプロパティの詳細を説明します。

CurrentPage プロパティ

表示中のページ番号を取得します。

形式

long CurrentPage

DlgStyleOpt プロパティ

EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ，および印刷時の印刷中ダイアログのキャンセルを抑制するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ，および印刷時の印刷中ダイアログをデフォルトの状態（キャンセルの操作が可能）にします。
- 1：EPF 形式ファイル転送時の転送中ダイアログ，および印刷時の印刷中ダイアログのキャンセルを抑制します。

DlgStyleOpt プロパティを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

DlgStyleOpt プロパティと DlgStyleOpt パラメタの両方を指定したときは，DlgStyleOpt プロパティの指定が優先されます。

ExclusionPrinterDriver プロパティ

PrintEPF メソッドの実行時に，表示するプリンタ選択ダイアログ中のプリンター一覧から，除外したいプリンタのドライバ名を指定します。

指定したドライバ名が PrinterName パラメタ，または NoSetPrinterDlg パラメタの指定によって自動で印刷されるプリンタの場合，KEEY181-E エラーとなります。

DefaultPrintDlg パラメタで YES を指定した場合は，ExclusionPrinterDriver プロパティの指定値は無効になります。

PermissionPrinterName プロパティ，または PermissionPrinterDriver プロパティに値が指定されている場合は，ExclusionPrinterDriver プロパティの指定値は無効になります。

指定できるドライバ名は 100 個までです。100 を超えるドライバ名を指定した場合、PrintEPF メソッド実行時に KEEY153-E エラーとなります。

形式

一つの除外ドライバ名を指定する場合。

文字型

複数の除外ドライバ名を指定する場合。要素数が一つの文字型配列も指定できます。

文字型配列

指定例

複数の除外ドライバ名を指定する場合の例を次に示します。

(指定例 1) VBScript の場合

```
Set drivers = CreateObject("Scripting.Dictionary")
drivers.add 0, "Driver1"      'drivers(0) = "Driver1"でも可能
drivers.add 1, "Driver2"      'drivers(1) = "Driver2"でも可能
drivers.add 2, "Driver3"      'drivers(2) = "Driver3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver = drivers.items
```

(指定例 2) VBScript の場合

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver
    = Array("Driver1", "Driver2", "Driver3")
```

(指定例 3) VBScript の場合

```
Dim drivers(2)
drivers(0) = "Driver1"
drivers(1) = "Driver2"
drivers(2) = "Driver3"
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver = drivers
```

(指定例 4) JavaScript の場合

```
var drivers = new ActiveXObject("Scripting.Dictionary");
drivers.add(0, "Driver1"); //drivers(0) = "Driver1"でも可能
drivers.add(1, "Driver2"); //drivers(1) = "Driver2"でも可能
drivers.add(2, "Driver3"); //drivers(2) = "Driver3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver = drivers.items();
```

ExclusionPrinterName プロパティ

PrintEPF メソッドの実行時に、表示するプリンタ選択ダイアログ中のプリンター一覧から、除外したいプリンタのプリンタ名を指定します。

指定したプリンタ名が PrinterName パラメタ、または NoSetPrinterDlg パラメタの指定によって自動で印刷されるプリンタの場合、KEEY181-E エラーとなります。

DefaultPrintDlg パラメタで YES を指定した場合は、ExclusionPrinterName プロパティの指定値は無効になります。

PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDriver プロパティに値が指定されている場合は、ExclusionPrinterName プロパティの指定値は無効になります。

指定できるプリンタ名は 100 個までです。100 を超えるプリンタ名を指定した場合、PrintEPF メソッド実行時に KEEY153-E エラーとなります。

形式

一つの除外プリンタ名を指定する場合。

文字型

複数の除外プリンタ名を指定する場合。要素数が一つの文字型配列も指定できます。

文字型配列

指定例

複数の除外プリンタ名を指定する場合の例を次に示します。

(指定例 1) VBScript の場合

```
Set printers = CreateObject("Scripting.Dictionary")
printers.add 0, "Printer1"      'printers(0) = "Printer1"でも可能
printers.add 1, "Printer2"      'printers(1) = "Printer2"でも可能
printers.add 2, "Printer3"      'printers(2) = "Printer3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName = printers.items
```

(指定例 2) VBScript の場合

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName
    = Array("Printer1","Printer2","Printer3")
```

(指定例 3) VBScript の場合

```
Dim printers(2)
printers(0) = "Printer1"
printers(1) = "Printer2"
printers(2) = "Printer3"
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName = printers
```

(指定例 4) JavaScript の場合

```
var printers = new ActiveXObject("Scripting.Dictionary");
printers.add(0, "Printer1");      //printers(0) = "Printer1"でも可能
printers.add(1, "Printer2");      //printers(1) = "Printer2"でも可能
```

```
printers.add(2, "Printer3"); //printers(2) = "Printer3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName = printers.items();
```

PermissionPrinterDriver プロパティ

印刷を許可するプリンタのドライバ名を指定します。指定したプリンタは、PrintEPF メソッドの実行時に、プリンタの選択ダイアログ中のプリンター一覧に表示されます。

PermissionPrinterDriver プロパティでプリンタのドライバ名を指定した場合、ExclusionPrinterName プロパティおよび ExclusionPrinterDriver プロパティの指定値は無効になります。

指定したドライバ名が、PrinterName パラメタ、または NoSetPrinterDlg パラメタの指定によって自動で印刷されるプリンタではない場合、KEEY181-E エラーとなります。

DefaultPrintDlg パラメタで YES を指定した場合は、PermissionPrinterDriver プロパティの指定値は無効になり、登録されているプリンタがすべて表示されます。

指定できるドライバ名は 100 個までです。100 を超えるドライバ名を指定した場合、PrintEPF メソッド実行時に KEEY153-E エラーとなります。

形式

一つの許可ドライバ名を指定する場合。

文字型

複数の許可ドライバ名を指定する場合。要素数が一つの文字型配列も指定できます。

文字型配列

指定例

複数の許可ドライバ名を指定する場合の例を次に示します。

(指定例 1) VBScript の場合

```
Set drivers = CreateObject("Scripting.Dictionary")
drivers.add 0, "Driver1" 'drivers(0) = "Driver1"でも可能
drivers.add 1, "Driver2" 'drivers(1) = "Driver2"でも可能
drivers.add 2, "Driver3" 'drivers(2) = "Driver3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterDriver = drivers.items
```

(指定例 2) VBScript の場合

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterDriver
= Array("Driver1", "Driver2", "Driver3")
```

(指定例 3) VBScript の場合

```
Dim drivers(2)
drivers(0) = "Driver1"
drivers(1) = "Driver2"
drivers(2) = "Driver3"
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterDriver = drivers
```

(指定例 4) JavaScript の場合

```
var drivers = new ActiveXObject("Scripting.Dictionary");
drivers.add(0, "Driver1"); //drivers(0) = "Driver1"でも可能
drivers.add(1, "Driver2"); //drivers(1) = "Driver2"でも可能
drivers.add(2, "Driver3"); //drivers(2) = "Driver3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterDriver = drivers.items();
```

PermissionPrinterName プロパティ

印刷を許可するプリンタのプリンタ名を指定します。指定したプリンタは、PrintEPF メソッドの実行時に、プリンタの選択ダイアログ中のプリンター一覧に表示されます。

PermissionPrinterName プロパティでプリンタ名を指定した場合、ExclusionPrinterName プロパティおよび ExclusionPrinterDriver プロパティの指定値は無効になります。

指定したプリンタ名が、PrinterName パラメタ、または NoSetPrinterDlg パラメタの指定によって自動で印刷されるプリンタではない場合、KEEY181-E エラーとなります。

DefaultPrintDlg パラメタで YES を指定した場合は、PermissionPrinterName プロパティの指定値は無効になり、登録されているプリンタがすべて表示されます。

指定できるプリンタ名は 100 個までです。100 を超えるプリンタ名を指定した場合、PrintEPF メソッド実行時に KEEY153-E エラーとなります。

形式

一つの許可プリンタ名を指定する場合。

文字型

複数の許可プリンタ名を指定する場合。要素数が一つの文字型配列も指定できます。

文字型配列

指定例

複数の許可プリンタ名を指定する場合の例を次に示します。

(指定例 1) VBScript の場合

```
Set printers = CreateObject("Scripting.Dictionary")
printers.add 0, "Printer1"      'printers(0) = "Printer1"でも可能
printers.add 1, "Printer2"      'printers(1) = "Printer2"でも可能
printers.add 2, "Printer3"      'printers(2) = "Printer3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterName = printers.items
```

(指定例 2) VBScript の場合

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterName
= Array("Printer1","Printer2","Printer3")
```

(指定例 3) VBScript の場合

```
Dim printers(2)
printers(0) = "Printer1"
printers(1) = "Printer2"
printers(2) = "Printer3"
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterName = printers
```

(指定例 4) JavaScript の場合

```
var printers = new ActiveXObject("Scripting.Dictionary");
printers.add(0, "Printer1"); //printers(0) = "Printer1"でも可能
printers.add(1, "Printer2"); //printers(1) = "Printer2"でも可能
printers.add(2, "Printer3"); //printers(2) = "Printer3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.PermissionPrinterName = printers.items();
```

SelectDisplayPrinter プロパティ

印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名の表示モードを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：標準モード

印刷先指定ダイアログに初期表示するプリンタ名

- 初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
プリンタ名は表示されません。※1
- 印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。※2

OS の印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名

- 初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- 印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合

前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。 ※3

- 1：通常使うプリンタ初期表示モード

印刷先指定ダイアログに初期表示するプリンタ名 ※4

- ・初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- ・印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

OS の印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名

- ・初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- ・印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

SelectDisplayPrinter プロパティを省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

注※1

ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティが指定されている場合、次のどちらかの条件を満たすときは、通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

- ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティの指定が有効、かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されていないとき
- PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDriver プロパティの指定が有効、かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されているとき

注※2

前回の受信時に設定したプリンタ名が存在しない場合、またはプロパティ (ExclusionPrinterName プロパティ、ExclusionPrinterDriver プロパティ、PermissionPrinterName プロパティ、または PermissionPrinterDriver プロパティ) の指定によってプリンタ名が表示できない場合は、次に示すプリンタ名が表示されます。

- 注※1 の条件を満たすときは、通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- 注※4 の条件を満たすときは、プリンタ名は表示されません。
- ExclusionPrinterName プロパティ、または ExclusionPrinterDriver プロパティが指定されていないときは、プリンタ名は表示されません。

注※3

前回の受信時に設定したプリンタ名のプリンタが存在しない場合、通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

注※4

次のどちらかの条件を満たす場合、プリンタ名は表示されません。

- ExclusionPrinterName プロパティ, または ExclusionPrinterDriver プロパティの指定が有効, かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されているとき
- PermissionPrinterName プロパティ, または PermissionPrinterDriver プロパティの指定が有効, かつ指定値に通常使うプリンタのプリンタ名が指定されていないとき

TotalPage プロパティ

表示データの総ページ数を取得します。

形式

long TotalPage

5.6 イベント仕様

EUR Web Plug-In のイベントの詳細を説明します。

PageChanged イベント

検索を実行してプレビューしている表示ページが変わったときに、ページ番号を通知します。

形式

```
void PageChanged(long lPageNo)
```

引数

lPageNo

表示中のページ番号

戻り値

なし

5.7 タグの記述例

クライアント PC の Web ブラウザ上で帳票の印刷やプレビュー表示をする場合、HTML ページに<object> タグを記述して EUR Web Plug-In を使用します。

5.7.1 Web ブラウザ上で帳票を印刷する EUR Web Plug-In (印刷用) を使用するときの<object>タグの記述例

Web ブラウザ上で帳票を印刷する EUR Web Plug-In (印刷用) を使用するときの<object>タグの記述例を次に示します。

「clsid」と「version」に指定する値は、EUR Web Plug-In 情報ファイルに記載されています。EUR Server - Adapter の ActiveX 起動部品または Java 起動部品の次に示すメソッドを指定して取得できます。

- ActiveX 起動部品の場合
clsid : [GetPrintAXClassID](#) メソッド
version : [GetPrintAXVersion](#) メソッド
- Java 起動部品の場合
clsid : [getPrintAXClassID](#) メソッド
version : [getPrintAXVersion](#) メソッド

また、取得処理については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

(1) EUR Client 再配布用パッケージから EUR Web Plug-In をインストールする場合

```
<object  
  classid="clsid:368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C"  
  ID="EURPMPRINTAX"  
  type="application/x-oleobject">  
<param name= "EPFFileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">  
<param name= "LogLevel" value="16">  
</object>
```

classid

クラス ID を指定します。指定するクラス ID は、368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C です。

ID

ID を指定します。

type

オブジェクトのタイプを指定します。

param name

パラメタを指定します。

(2) EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールする場合

```
<object
  classid="clsid:368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C"
  codebase="http://test/EURPMCLAX/EURPMPrintAX.cab#version=8,70,0,1"
  ID="EURPMPrintAX"
  type="application/x-oleobject">
<param name="EPFFileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">
<param name="LogLevel" value="16">
</object>
```

classid

クラス ID を指定します。指定するクラス ID は、マシン単位インストールの場合、368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C、ユーザ単位インストールの場合、7A50CEB4-6A70-4DAD-B8F9-D9F791F7C9E5 です。

codebase

EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前とバージョンを指定します。EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前は、EURPMPrintAX.cab です。バージョンは、製品のバージョンによって指定する値が異なります。

ID

ID を指定します。

type

オブジェクトのタイプを指定します。

param name

パラメタを指定します。

5.7.2 Web ブラウザ上で帳票を表示・印刷する EUR Web Plug-In (プレビュー用) を使用するときの<object>タグの記述例

Web ブラウザ上で帳票を印刷したり、表示したりする EUR Web Plug-In (プレビュー用) を使用するときの<object>タグの記述例を次に示します。

「clsid」と「version」に指定する値は、EUR Web Plug-In 情報ファイルに記載されています。EUR Server - Adapter の ActiveX 起動部品または Java 起動部品の次に示すメソッドを指定して取得できます。

- ActiveX 起動部品の場合

clsid : [GetPreviewAXClassID](#) メソッド

version : [GetPreviewAXVersion](#) メソッド

- Java 起動部品の場合

clsid : [getPreviewAXClassID](#) メソッド

version : [getPreviewAXVersion](#) メソッド

また、取得処理については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

(1) EUR Client 再配布用パッケージから EUR Web Plug-In をインストールする場合

```
<object
  classid="clsid:D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2"
  width=850
  height=650
  ID="EURPMPREVIEWAX"
  type="application/x-oleobject">
<param name= "EPFfileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">
<param name= "LogLevel" value="16">
</object>
```

classid

クラス ID を指定します。指定するクラス ID は、D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 です。

width

プレビュー画面の幅を指定します。

height

プレビュー画面の高さを指定します。

ID

ID を指定します。

type

オブジェクトのタイプを指定します。

param name

パラメタを指定します。

(2) EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールする場合

```
<object
  classid="clsid:D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2"
  codebase="http://test/EURPMCLPVX/EURPMPreViewAX.cab#version=8,70,0,1"
  width=850
  height=650
```

```
ID="EURPMPREVIEWAX"  
type="application/x-oleobject">  
<param name="EPFfileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">  
<param name="LogLevel" value="16">  
</object>
```

classid

クラス ID を指定します。指定するクラス ID は、マシン単位インストールの場合、D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2、ユーザ単位インストールの場合、51B88D4D-8FE2-4E68-8035-3482C44F1E29 です。

codebase

EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前とバージョンを指定します。EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前は、EURPMPreViewAX.cab です。バージョンは、製品のバージョンによって指定する値が異なります。

width

プレビュー画面の幅を指定します。

height

プレビュー画面の高さを指定します。

ID

ID を指定します。

type

オブジェクトのタイプを指定します。

param name

パラメタを指定します。

6

ActiveX 起動部品

この章では、EUR Server Service で提供する ActiveX 起動部品を使用した帳票出力について説明します。

6.1 ActiveX 起動部品とは

Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから EUR Server Service を使って帳票出力できるように、EUR Server Service では **ActiveX 起動部品**を提供しています。ActiveX 起動部品は、STA (Single-Threaded Apartment) の COM オブジェクトとして作成しています。

ActiveX 起動部品を利用することで、次のことができます。

- Web/AP サーバ上のサーバアプリケーションからの帳票の印刷
- EPF 形式ファイルへの出力
- サーバへの帳票の蓄積

なお、ActiveX 起動部品は、複数のスレッドで同時に実行できるマルチスレッド対応プログラムです。スレッドごとにオブジェクトを生成してプロパティを設定し、メソッドを実行してください。

6.1.1 ファイル名

EURPMADP.ocx

ActiveX 起動部品のファイルです。インストール先フォルダ¥Adapter¥Program¥下にあります。

6.1.2 プログラム ID とコントロール名

ActiveX 起動部品のプログラム ID およびコントロール名は、EUR Server - Adapter をインストールしたときに登録されます。

EURPM.Exec

ActiveX 起動部品のプログラム ID です。

EURPMADP ActiveX コントロールモジュール

ActiveX 起動部品のコントロール名です。

6.1.3 提供するクラス

ActiveX 起動部品では、帳票出力の制御を行う EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを提供します。

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスでは、帳票ファイルやデータファイルなどのプロパティを設定するメソッドと、帳票の出力先やバージョン情報などを取得するメソッドを提供します。

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスは次のように指定します。

```
Public Class EURPMADPLib.EURPMAdapter
```

Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから、次の手順で帳票を出力します。

1. CSV 形式ファイルの作成

2. ActiveX 起動部品の構築

3. プロパティの設定

帳票ファイル、データファイルなどのプロパティを設定します。プロパティの設定については、「[6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様](#)」を参照してください。

4. 帳票の出力

帳票出力メソッド (PrintPMReport メソッドなど) を呼び出して帳票を出力します。

3.と 4.の処理で発生したエラー、または発生するエラーは、例外を処理するようにプログラムに記述します。

6.1.4 構文

ActiveX 起動部品を構築する場合と EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合の構文を次に示します。

(1) ActiveX 起動部品を構築する場合

ActiveX 起動部品を構築する場合は、次のように指定します。

Visual Basic Script の場合

```
Dim eurpm As Object  
Set eurpm=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
```

Visual Basic の場合

```
Dim eurpm As Object  
Set eurpm=CreateObject("EURPM.Exec")
```

パラメタ

- eurpm には、Server.CreateObject または CreateObject の呼び出しによって作成されるオブジェクト名を指定します。
- EURPM.Exec は、ActiveX 起動部品のプログラム ID です。
ASP ファイルのある Visual Basic Script の CreateObject 関数にプログラム ID を指定して、ActiveX 起動部品を生成してください。

(2) EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成することで、ActiveX 起動部品を生成することもできます。この場合は、クラスを生成する前に、ユーザアプリケーションプロジェクトのコントロールまたはCOMの参照設定に、コントロール名「EURPMADP ActiveX コントロール モジュール」を追加してください。

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合は、次のように指定します。

```
Dim eurpm As EURPMADPLib.EURPMAdapter  
Set eurpm=new EURPMADPLib.EURPMAdapter
```

パラメタ

- eurpm には、EURPMADPLib.EURPMAdapter クラス型の任意のオブジェクト名を指定します。
- new 操作で EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成してください。

6.2 ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ

ActiveX 起動部品が提供するメソッドとプロパティの一覧を示します。

6.2.1 メソッド一覧

ActiveX 起動部品が提供するメソッドの一覧を次に示します。

表 6-1 ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧

種類	メソッド	概要
情報取得メソッド	GetDestinationList	出力先（スプールサーバ）の一覧を取得します。
	GetJobID	GetJobID メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。 帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など、直前に蓄積したスプールデータが複数あるときは、最初に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。
	GetJobIDList	GetJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を取得します。
	GetOutputPageCount	GetOutputPageCount メソッドを実行する直前に印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を取得します。
	GetPMPrinterClassList	帳票サーバに登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。
	GetPMPrinterList ^{※1}	帳票サーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。
	GetPMTrayList ^{※1}	帳票サーバの OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。
	GetPreviewAXClassID	EUR Web Plug-In（プレビュー用）のクラス ID を取得します。
	GetPreviewAXVersion	EUR Web Plug-In（プレビュー用）のバージョンを取得します。
	GetPrintAXClassID	EUR Web Plug-In（印刷用）のクラス ID を取得します。
	GetPrintAXVersion	EUR Web Plug-In（印刷用）のバージョンを取得します。
	GetPrinterClassList ^{※2}	指定した出力先（スプールサーバ）に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。
	GetPrinterList ^{※2}	指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。
	GetTrayList ^{※2}	指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。
	出力メソッド	OutputEPFReport
OutputEURReport		EUR 形式ファイルを出力します。

種類	メソッド	概要
出力メソッド	OutputMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを一つの EPF 形式ファイルに統合して出力します。
	OutputPDFReport	PDF 形式ファイルを出力します。
	OutputXLSXReport	Excel 形式ファイルを出力します。
	PrintPMReport	帳票を印刷または蓄積します。

注※1

帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

注※2

対象となるスプールサーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

6.2.2 プロパティ一覧 (出力メソッド)

ActiveX 起動部品が提供するプロパティのうち、出力メソッドで使用するプロパティを表 6-3 に示します。表 6-3 では、出力メソッドを表 6-2 のように省略して表記します。

表 6-2 出力メソッドの略称

略称	出力メソッド
PMRS	PrintPMReport (スプールサーバでの印刷)
PMRC	PrintPMReport (クライアント PC での印刷)
PMRT	PrintPMReport (蓄積)
PMRD	PrintPMReport (直接印刷)
PMRH	PrintPMReport (クライアント PC への配布印刷)
OPDF	OutputPDFReport (PDF 形式ファイル出力)
OEPF	OutputEPFReport (EPF 形式ファイル出力)
MEPF	OutputMergeEPFReport (複数 EPF 形式ファイル統合出力)
OEUR	OutputEURReport (EUR 形式ファイル出力)
OXLS	OutputXLSXReport (Excel 形式ファイル出力)

表 6-3 ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧 (出力メソッド)

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PM RS	PM RC	PM RT	PM RD	PM RH	OP DF	OE PF	M EP F	OE UR	OX LS
AdpEnvFile	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
BookmarkFileName	しおり定義ファイル名	String String 配列	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
BookmarkFilePath	文書しおり定義ファイルまたはしおり定義ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
ClientAddress	クライアント PC の IP アドレス	String	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
ClientPrinterName	印刷先クライアントプリンタ名	String	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
ClientTrayName	印刷先クライアントプリンタのトレイ名	String	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
Crypto	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無	Boolean	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
CryptoFileName	暗号化設定ファイル名	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
CryptoFilePath	暗号化設定ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
DataFileName	マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名	String String 配列	△	△	△	△	-	-	△	△	-	△ ※1
DataFilePath	マッピングデータファイルのパスまたは可変記号値定義ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	-	△	△	-	△
DBInfoFileName	接続情報ファイル名	String	△	△	△	△	-	-	△	△	-	△
DBInfoFilePath	接続情報ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	-	△	△	-	△
DestinationName	出力先名	String	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
DispPrintDlg	ダイアログ表示モード	Long	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
DistributeFileName	PDF 仕分け定義ファイル名	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド										
			PM RS	PM RC	PM RT	PM RD	PM RH	OP DF	OE PF	M EP F	OE UR	OX LS	
DistributeFilePath	PDF 仕分け定義ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
DocBookmarkFileName	文書しおり定義ファイル名	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
DocInfoFileName	文書情報設定ファイル名	String	△	△	△	△	-	-	△	△	-	△	-
DocInfoFilePath	文書情報設定ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	-	△	△	-	△	-
EnableGet	スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得可否	Boolean	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
EncryptionPasswordKey	パスワード暗号化鍵	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
EPFFileName	出力 EPF 形式ファイル名	String	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	-
EPFFilePath	出力 EPF 形式ファイルのパス	String	-	-	-	-	△	-	-	△	△	-	-
EURFileName	出力 EUR 形式ファイル名	String	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
EURFilePath	出力 EUR 形式ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-
ExecutablePrintMode	実行可能印刷方式	Long	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
FileOutputDestination	PDF 形式ファイルの出力先マシン	Long	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
FirstPageNumber	ページ番号の初期値	Long	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-	-
GroupName	帳票振り分け定義の振り分けグループ名	String	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
InitPageNumber	ページ番号の開始番号の初期化	Boolean	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-	-
JobKeyCategory	スプールデータの検索キーの分類	String 配列	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
JobKeyData	スプールデータの検索キーの値	String 配列	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド										
			PM RS	PM RC	PM RT	PM RD	PM RH	OP DF	OE PF	M EP F	OE UR	OX LS	
MaxPrintCount	スプールデータの上限印刷回数	Long	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
MergeEPFFFileName	統合対象 EPF 形式ファイル名	String 配列	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
MergeEPFFFilePath	統合対象 EPF 形式ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-
MultiFormInfoDefFileName	複数様式情報定義ファイル名	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	
MultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定義ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	
MultiReportSetFileName	帳票セット指定ファイル名	String	△ ※2	△ ※2	△ ※2	△ ※2	-	△ ※2	△ ※2	-	△ ※2	-	
MultiReportSetFilePath	帳票セット指定ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	
OutputPageCountOpt	出力した帳票の総ページ数を出力するかどうか	Boolean	△ ※3	△	△	△	- ※4	△	△	- ※4	-	△	
PageNumberFormat	ページ番号のフォーマット	String	△	△	△	△	-	△	△	-	-	-	
PageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置	Long	△	△	△	△	-	△	△	-	-	-	
PaperOrientation	用紙の向き	Long	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-	
PDFFileName	出力 PDF 形式ファイル名	String	-	-	-	-	-	○ ※5	-	-	-	-	
PDFFilePath	出力 PDF 形式ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	
PMServerAddress	帳票サーバの IP アドレス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
PMServerPort	帳票サーバのポート番号	Long	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
PrintCopies	印刷部数	Long	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-	
PrintDateFileName	印刷日時出力定義ファイル名	String	△	△	△	-	-	-	△	-	-	-	
PrintDateFilePath	印刷日時出力定義ファイルのパス	String	△	△	△	-	-	-	△	-	-	-	

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PM RS	PM RC	PM RT	PM RD	PM RH	OP DF	OE PF	M EP F	OE UR	OX LS
PrintEndPage	印刷終了ページ	Long	△	△	△	△	-	△	△	-	-	△
PrinterClassName	プリンタクラス名	String	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-
PrinterSelectMode	プリンタ指定方法	Long	△	-	△	△ ※6	-	-	-	-	-	-
PrintHoldMode	蓄積後に続けて印刷するかどうか	Long	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
PrintKind	スプールサーバ印刷方式の印刷モード	Long	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
PrintMode	印刷メソッド (PrintPMReport メソッド) の印刷方式	Long	△	△	△	△	△	-	-	-	-	-
PrintPageNumber	余白へのページ番号印刷	Boolean	△	△	△	△	-	△	△	-	-	-
PrintStartPage	印刷開始ページ	Long	△	△	△	△	-	△	△	-	-	△
PSEnvFileName	EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
PSEnvFilePath	EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
ReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
ReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
ReportAddressKeyCategory	スプールデータの宛先キーの分類	String	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
ReportAddressKeyData	スプールデータの宛先キーの値	String	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
ReportFileName	帳票ファイル名	String String 配列	△ ※2, ※7	△ ※2, ※7	△ ※2, ※7	△ ※2, ※7	-	△ ※2, ※7	△ ※2, ※7	-	△ ※2, ※7	△ ※1, ※2
ReportFilePath	帳票ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
ReportID	帳票 ID	String	△ ※2	△ ※2	△ ※2	△ ※2	-	△ ※2	△ ※2	-	△ ※2	△ ※2

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド										
			PM RS	PM RC	PM RT	PM RD	PM RH	OP DF	OE PF	M EP F	OE UR	OX LS	
ScriptCntlFileName	Acrobat JavaScript 定義ファイル名	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
ScriptCntlFilePath	Acrobat JavaScript 定義ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
ServerAddress	スプールサーバの IP ア ドレス	String	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
ServerPrinterName	サーバプリンタ名	String	△	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-
ServerSelectMode	スプールサーバ指定 方法	Long	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
ServerTrayName	サーバプリンタのトレ イ名	String	△	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-
SortPrint	印刷部数の単位	Long	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-	-
SplitFileName	分割/仕分け定義ファイ ル名	String	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
SplitFilePath	分割/仕分け定義ファイ ルのパス	String	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
SplitMode	分割/仕分けの実行	Long	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolFileName	スプールデータに格納 するファイルのファイ ル名	String	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolLimit	スプールデータの蓄積 期限日	String	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolTitle	スプールタイトル	String	△	△	△	△	-	-	△	△	△	△	-
UserDataFileName	ユーザ定義データファ イル名または可変記号 値定義ファイル名	String String 配列	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△	△ ※1
UserDataFilePath	ユーザ定義データファ イルまたは可変記号値 定義ファイルのパス	String	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△	△
ViewerPreferenceFil eName	ビューアプレファレン ス定義ファイル名	String	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
ViewerPreferenceFil ePath	ビューアプレファレン ス定義ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
XLSXFileName	出力 Excel 形式ファイ ル名	String	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド										
			PM RS	PM RC	PM RT	PM RD	PM RH	OP DF	OE PF	M EP F	OE UR	OX LS	
XLSXFilePath	出力 Excel 形式ファイルのパス	String	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△

(凡例)

- ：必ず指定します。
- △：指定を省略できます。
- ：指定できません。

注※1

単数のファイルしか指定できません。

注※2

帳票セット指定ファイル名 (MultiReportSetFileName プロパティ)、帳票ファイル名 (ReportFileName プロパティ)、または帳票 ID (ReportID プロパティ) のどれかは、必ず指定してください。

注※3

印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード (PrintKind=1) の場合は、帳票の総ページ数を取得できません。OutputPageCountOpt プロパティを指定しても無視されます。

注※4

出力した帳票の総ページ数を取得できません。出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、次に示す運用としてください。

- クライアント PC への配布印刷
クライアント PC に配布する個々の印刷データ (EPF 形式ファイル) を出力するときに帳票の総ページ数を取得し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。
- 複数 EPF 形式ファイル統合出力
個々の EPF 形式ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を取得し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。

注※5

PDF 仕分け定義ファイル名 (DistributeFileName プロパティ) を指定している場合は、指定を省略できます。

注※6

指定できるプリンタ印刷方式は、「プリンタクラス名指定」または「OS 上のプリンタ名指定」です。

注※7

帳票セット指定ファイル名 (MultiReportSetFileName プロパティ) を指定している場合は、指定を省略できます。

❗ 重要

EUR Print Service と連携して使用するプロパティでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY223-E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY225-E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY243-E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY263-E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

6.2.3 プロパティ一覧 (情報取得メソッド)

ActiveX 起動部品が提供するプロパティのうち、情報取得メソッドで使用するプロパティを表 6-5 に示します。表 6-5 では、情報取得メソッドを表 6-4 のように省略して表記します。

表 6-4 情報取得メソッドの略称

略称	情報取得メソッド
GEDL	GetDestinationList (出力先一覧の取得)
GEPC	GetPMPrinterClassList (帳票サーバのプリンタクラス一覧の取得)
GEPP	GetPMPrinterList (帳票サーバのプリンター一覧の取得)
GEPT	GetPMTrayList (帳票サーバのトレイ一覧の取得)
GPVI	GetPreviewAXClassID (EUR Web Plug-In (プレビュー用) のクラス ID の取得)
GPVV	GetPreviewAXVersion (EUR Web Plug-In (プレビュー用) のバージョンの取得)
GPRI	GetPrintAXClassID (EUR Web Plug-In (印刷用) のクラス ID の取得)
GPRV	GetPrintAXVersion (EUR Web Plug-In (印刷用) のバージョンの取得)
GECL	GetPrinterClassList (プリンタクラス一覧の取得)
GEPL	GetPrinterList (プリンター一覧の取得)
GETL	GetTrayList (トレイ一覧の取得)

表 6-5 ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧 (情報取得メソッド)

プロパティ	設定内容	データ型	情報取得メソッド											
			GE DL	GE PC	GE PP	GE PT	GP VI	GP VV	GP RI	GP RV	GE CL	GE PL	GE TL	
AdpEnvFile	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
DestinationName	出力先名	String	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	△
PMServerAddress	帳票サーバの IP アドレス	String	△	△	△	△	-	-	-	-	-	△	△	△
PMServerPort	帳票サーバのポート番号	Long	△	△	△	△	-	-	-	-	-	△	△	△
ServerPrinterName	サーバのプリンタ名	String	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○

(凡例)

- ：必ず指定します。
- △：指定を省略できます。
- ：指定できません。

6.2.4 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

6.3 ActiveX 起動部品のメソッド仕様

ActiveX 起動部品が提供するメソッドの詳細を説明します。

GetDestinationList メソッド

出力先として登録されているスプールサーバの一覧を取得します。

形式

GetDestinationList()

パラメタ

なし

解説

GetDestinationList メソッドは、EUR Server Service に登録された出力先の一覧を取得します。出力先の一覧は、出力先定義ファイルから取得します。取得できる情報は、定義された出力先の情報です。スプールサーバの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

出力先の一覧を次に示す形式で返します。

```
出力先名1, IPアドレス1, 説明1  
出力先名2, IPアドレス2, 説明2  
:
```

データ型

String の 2 次元配列

呼び出し例

GetDestinationList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
' GetDestinationList 実行  
Private Sub SUB_GetDestinationList()  
  
    Dim objEURPM, wk_Return  
    Dim iLower, iUpper, I  
    Dim jLower, jUpper, J
```

```

Dim sEntry As String

Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

Me.Refresh

Err.Clear
On Error Resume Next
wk_Return = objEURPM.GetDestinationList
List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

If Err.Number = 0 Then
    List5.AddItem ""
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
    iLower = LBound(wk_Return, 1)
    iUpper = UBound(wk_Return, 1)
    jLower = LBound(wk_Return, 2)
    jUpper = UBound(wk_Return, 2)
    For I = iLower To iUpper
        sEntry = ""
        For J = jLower To jUpper
            If J > 0 Then
                sEntry = sEntry + ", "
            End If
            sEntry = sEntry + wk_Return(I, J)
        Next
        List5.AddItem sEntry
    Next
    ''Label51.Caption = List5.ListCount
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
End If

Set objEURPM = Nothing

End Sub

```

GetJobID メソッド

GetJobID メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など、直前に蓄積したスプールデータが複数あるときは、最初に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。

形式

GetJobID()

パラメタ

なし

解説

PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合で、かつ正常または警告でメソッドが戻ったときだけスプールデータのジョブ ID を取得できます。取得した情報は、ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか、または PrintPMReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID

データ型

String

GetJobIDList メソッド

GetJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を取得します。直前に蓄積したスプールデータが複数あるときは、すべてのスプールデータのジョブ ID を取得します。

形式

GetJobIDList()

パラメタ

なし

解説

PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合で、かつ正常または警告でメソッドが戻ったときだけスプールデータのジョブ ID の一覧を取得できます。取得した情報は、ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか、または PrintPMReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

また、蓄積を中断する警告が発生した場合、戻り値の配列の最後に「Error」が設定されます。

戻り値

直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を、次に示す形式で返します。

<正常時>

```
ジョブID1  
ジョブID2  
:  
ジョブIDn
```

<警告 (KEEY387-W) 発生時>

```
ジョブID1  
ジョブID2  
Error
```

データ型

String 配列

GetOutputPageCount メソッド

GetOutputPageCount メソッドを実行する直前に印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数
を取得します。

形式

GetOutputPageCount()

パラメタ

なし

解説

印刷またはファイル出力で OutputPageCountOpt プロパティに True を指定した場合だけ、出力した帳
票の総ページ数[※]を取得できます。取得した情報は、ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか、また
は、印刷またはファイル出力のメソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ
数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際
の出力結果とページ数が異なります。

- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、途中で蓄積に失敗したときでも、蓄積に成功したペー
ジ数ではなく、合計ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正
常のときは、ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。

- 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

直前に印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数

データ型

Long

GetPMPrinterClassList メソッド

帳票サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

GetPMPrinterClassList()

パラメタ

なし

解説

GetPMPrinterClassList メソッドは、指定した帳票サーバの EUR Server Service に登録されたプリンタクラスの一覧を取得します。

取得できる情報は、定義されたプリンタクラス情報です。帳票サーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合は、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

帳票サーバのプリンタクラスの一覧を、次に示す形式で返します。

< 2次元配列イメージ：n行4列 >

プリンタクラス名1, OS上のプリンタ名1, OS上のプリンタのトレイ名1, 説明1
プリンタクラス名2, OS上のプリンタ名2, OS上のプリンタのトレイ名2, 説明2
⋮
プリンタクラス名n, OS上のプリンタ名n, OS上のプリンタのトレイ名n, 説明n

データ型

String の 2 次元配列

呼び出し例

GetPMPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
' GetPMPrinterClassList実行
Private Sub SUB_GetPMPrinterClassList ()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim jLower, jUpper, J
    Dim sEntry As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPMPrinterClassList()
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        jLower = LBound(wk_Return, 2)
        jUpper = UBound(wk_Return, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ", "
                End If
                sEntry = sEntry + wk_Return(I, J)
            Next
            List5.AddItem sEntry
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetPMPrinterList メソッド

帳票サーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。

形式

GetPMPrinterList()

パラメタ

なし

解説

GetPMPrinterList メソッドは、指定した帳票サーバの OS 上のプリンタの一覧を取得します。EUR Server Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合は使用できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合は、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

OS 上のプリンター一覧を、次に示す形式で返します。

<配列イメージ>

```
OS上のプリンタ名1  
OS上のプリンタ名2  
:  
OS上のプリンタ名n
```

データ型

String 配列

呼び出し例

GetPMPrinterList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
'GetPMPrinterList実行  
Private Sub SUB_GetPMPrinterList()  
  
    Dim objEURPM, wk_Return  
    Dim iLower, iUpper, I  
    Dim sEntry As String  
  
    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")  
  
    Me.Refresh  
  
    Err.Clear  
    On Error Resume Next  
    wk_Return = objEURPM.GetPMPrinterList()  
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
```

```

List5.AddItem "Err.Description=(\" & Err.Description & \")"

If Err.Number = 0 Then
    List5.AddItem ""
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
    iLower = LBound(wk_Return, 1)
    iUpper = UBound(wk_Return, 1)
    For I = iLower To iUpper
        List5.AddItem wk_Return(I)
    Next
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
End If

Set objEURPM = Nothing

End Sub

```

GetPMTrayList メソッド

帳票サーバの OS に登録されているプリンタを指定し、そのプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

GetPMTrayList(String PrinterName)

パラメタ

PrinterName

OS 上のプリンタ名

解説

GetPMTrayList メソッドは、帳票サーバの OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。EUR Server Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合は使用できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合は、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

帳票サーバ上の指定したプリンタのトレイ一覧を、次に示す形式で返します。

<配列イメージ>

```

OS上のプリンタのトレイ名1
OS上のプリンタのトレイ名2

```

OS上のプリンタのトレイ名n

データ型

String 配列

呼び出し例

GetPMTrayList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
' GetPMTrayList実行
Private Sub SUB_GetPMTrayList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim sEntry As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPMTrayList("PRINTER1")
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem wk_Return(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetPreviewAXClassID メソッド

EUR Web Plug-In (プレビュー用) のクラス ID を取得します。

形式

GetPreviewAXClassID()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

クラス ID は、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPreViewAX9.ocx のクラス ID

データ型

String

GetPreviewAXVersion メソッド

EUR Web Plug-In (プレビュー用) のバージョンを取得します。

形式

GetPreviewAXVersion()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

バージョンは、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) に指定されているバージョン値を取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、99,99,99,99 を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPreViewAX9.ocx のバージョン値

データ型

String

GetPrintAXClassID メソッド

EUR Web Plug-In (印刷用) のクラス ID を取得します。

形式

GetPrintAXClassID()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

クラス ID は、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPrintAX9.ocx のクラス ID

データ型

String

GetPrintAXVersion メソッド

EUR Web Plug-In (印刷用) のバージョンを取得します。

形式

GetPrintAXVersion()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

バージョンは、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) に指定されているバージョン値を取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、99,99,99,99 を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPrintAX9.ocx のバージョン値

データ型

String

GetPrinterClassList メソッド

指定した出力先（スプールサーバ）に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

GetPrinterClassList(String DestinationName)

パラメタ

DestinationName

出力先名

解説

GetPrinterClassList メソッドは、指定した出力先の EUR Server - Spool Service に登録されたプリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバのプリンタクラスの一覧を取得します。EUR Server - Spool Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

取得できる情報は、定義された拠点プリンタクラス情報です。スプールサーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、拠点プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、拠点プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

プリンタクラスの一覧を次に示す形式で返します。

```
プリンタクラス名1, OS上のプリンタ名1, OS上のプリンタのトレイ名1, 説明1  
プリンタクラス名2, OS上のプリンタ名2, OS上のプリンタのトレイ名2, 説明2  
⋮  
プリンタクラス名n, OS上のプリンタ名n, OS上のプリンタのトレイ名n, 説明n
```

データ型

String の 2 次元配列

呼び出し例

GetPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```

'GetPrinterClassList実行
Private Sub SUB_GetPrinterClassList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim jLower, jUpper, J
    Dim sEntry As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPrinterClassList("SERVER1")
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        jLower = LBound(wk_Return, 2)
        jUpper = UBound(wk_Return, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ", "
                End If
                sEntry = sEntry + wk_Return(I, J)
            Next
            List5.AddItem sEntry
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub

```

GetPrinterList メソッド

指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。

形式

GetPrinterList(String DestinationName)

パラメタ

DestinationName

出力先名

解説

GetPrinterList メソッドは、出力先のスプールサーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。EUR Server - Spool Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

取得できる情報は、定義されたプリンタ情報です。スプールサーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

OS 上のプリンタの一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタ名1  
OS上のプリンタ名2  
:  
OS上のプリンタ名n
```

データ型

String 配列

呼び出し例

```
'GetPrinterList実行  
Private Sub SUB_GetPrinterList()  
  
    Dim objEURPM, wk_Return  
    Dim iLower, iUpper, I  
    Dim sEntry As String  
  
    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")  
  
    Me.Refresh  
  
    Err.Clear  
    On Error Resume Next  
    wk_Return = objEURPM.GetPrinterList("SERVER1")  
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
```

```

List5.AddItem "Err.Description=(\" & Err.Description & \")"

If Err.Number = 0 Then
    List5.AddItem ""
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
    iLower = LBound(wk_Return, 1)
    iUpper = UBound(wk_Return, 1)
    For I = iLower To iUpper
        List5.AddItem wk_Return(I)
    Next
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
End If

Set objEURPM = Nothing

End Sub

```

GetTrayList メソッド

出力先（スプールサーバ）と OS 上のプリンタを指定し、そのプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

GetTrayList(String DestinationName, String PrinterName)

パラメタ

DestinationName

出力先名

PrinterName

OS 上のプリンタ名

解説

GetTrayList メソッドは、出力先のスプールサーバの OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。EUR Server - Spool Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

取得できる情報は、定義されたプリンタのトレイ情報です。スプールサーバでのプリンタのトレイ稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

OS 上のプリンタのトレイ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタのトレイ名1  
OS上のプリンタのトレイ名2  
:  
OS上のプリンタのトレイ名n
```

データ型

String 配列

呼び出し例

```
' GetTrayList実行  
Private Sub SUB_GetTrayList()  
  
    Dim objEURPM, wk_Return  
    Dim iLower, iUpper, I  
    Dim sEntry As String  
  
    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")  
  
    Me.Refresh  
  
    Err.Clear  
    On Error Resume Next  
    wk_Return = objEURPM.GetPrinterList("SERVER1", "PRINTER1")  
    List5.AddItem "Err.Number=( " & Err.Number & " )"  
    List5.AddItem "Err.Description=( " & Err.Description & " )"  
  
    If Err.Number = 0 Then  
        List5.AddItem ""  
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"  
        iLower = LBound(wk_Return, 1)  
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)  
        For I = iLower To iUpper  
            List5.AddItem wk_Return(I)  
        Next  
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"  
    End If  
  
    Set objEURPM = Nothing  
  
End Sub
```

OutputEPFReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、EPF 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

OutputEPFReport()

パラメタ

なし

解説

OutputEPFReport メソッドは、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EPF 形式ファイルを出力します。出力する EPF 形式ファイルは、EPFFilePath プロパティおよび EPFFileName プロパティで指定します。

OutputEPFReport メソッドが終了すると、それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputEURReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、EUR 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

OutputEURReport()

パラメタ

なし

解説

OutputEURReport メソッドは、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR 形式ファイルを出力します。出力する EUR 形式ファイルは、EURFilePath プロパティおよび EURFileName プロパティで指定します。

OutputEURReport メソッドが終了すると、それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputMergeEPFReport メソッド

複数の EPF 形式ファイルを一つの EPF 形式ファイルに統合して出力します。出力先に指定した EPF 形式ファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

OutputMergeEPFReport()

パラメタ

なし

解説

OutputMergeEPFReport メソッドは、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。統合対象の EPF 形式ファイルは、MergeEPFFilePath プロパティおよび MergeEPFFileName プロパティで指定します。また、出力する EPF 形式ファイルは、EPFFilePath プロパティおよび EPFFileName プロパティで指定します。

OutputMergeEPFReport メソッドが終了すると、それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputPDFReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、PDF 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

OutputPDFReport()

パラメタ

なし

解説

OutputPDFReport メソッドは、EUR Server Service が稼働するマシンまたは EUR Server - Adapter が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。PDF 形式ファイルの出力先は、FileOutputDestination プロパティ、PDFFilePath プロパティ、および PDFFileName プロパティで指定します。

ただし、PDF 仕分け定義ファイル (DistributeFileName プロパティ) が指定されている場合は、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。PDF 仕分け出力の場合、出力先の PDF 形式ファイルがすでにある場合は上書きしないでエラーになります。

OutputPDFReport メソッドが終了すると、それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputXLSXReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って、Excel 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

OutputXLSXReport()

パラメタ

なし

解説

OutputXLSXReport メソッドは、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに Excel 形式ファイルを出力します。出力する Excel 形式ファイルは、XLSXFilePath プロパティおよび XLSXFileName プロパティで指定します。

OutputXLSXReport メソッドが終了すると、それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

PrintPMReport メソッド

帳票の印刷、または EPF 形式ファイルの蓄積をします。

形式

PrintPMReport()

パラメタ

なし

解説

PrintPMReport メソッドは、次の場合に呼び出し元に制御が戻ります。

- スプールサーバでの印刷の場合
スプールサーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点
- クライアント PC での印刷の場合
クライアント PC への配信が完了した時点
- 蓄積の場合
蓄積先のサーバに EPF 形式ファイルの蓄積が完了した時点
- 帳票サーバ直接印刷の場合
帳票サーバ上のプリンタスプールへの出力が完了した時点
- クライアント配布印刷
クライアント PC への配信が完了した時点

PrintPMReport メソッドが終了すると、それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合は、正常または警告でメソッドが戻ったときだけスプールデータに対応するジョブ ID を GetJobID メソッドで取得できます。取得した情報は、ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか、または PrintPMReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

PrintPMReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、スプールサーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、印刷を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

6.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様

ActiveX 起動部品が提供するプロパティの詳細を説明します。

AdpEnvFile プロパティ

EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパスを指定します。

EUR Server - Adapter の環境設定ファイルの格納先のフォルダパス、またはファイルパスを指定できます。

解説

- フォルダパスを指定する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイルのデフォルトのファイル名 (EURPMADP.ini) が仮定されます。指定したフォルダには、デフォルトのファイル名で保存してください。

指定したフォルダにデフォルトのファイル名のファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。

フォルダパスを指定する場合の用途を次に示します。

- 環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更
- 業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (フォルダ指定)
- 次に示すコンポーネントの環境設定ファイルを同じフォルダに格納
 - EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini)
 - EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini)
 - EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini)
 - EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini)

各環境設定ファイルの指定方法については、「[15. 環境設定ファイル](#)」を参照してください。

- ファイルパスを指定する場合は、任意のファイル名を指定できます。

指定したファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。

ファイルパスを指定する場合の用途を次に示します。

- 環境設定ファイルを任意の格納先およびファイル名に変更
- 業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (ファイル指定)
- EUR Server Service, EUR Server - Adapter, EUR Server - Spool Service, EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの設定内容を同じファイルに指定

各環境設定ファイルの指定方法については、「[15. 環境設定ファイル](#)」を参照してください。

なお、各コンポーネントの環境設定ファイル間で重複するキーを指定した場合、そのキーを参照するコンポーネントすべてに有効となります。環境設定ファイル間で重複するキーを次の表に示します。

表 6-6 環境設定ファイル間で重複するキー

セクション	重複するキー	EUR Server Service の環境設定ファイル	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル
PORT	EURPM	○	○	—	—
	EURPMCL	○	—	○	—
	EURPMLS	○	—	○	○
PATH	<ul style="list-style-type: none"> • CONF • TEMP 	○	—	○	—
ERROR	<ul style="list-style-type: none"> • LOGFILE • LOGLEVEL • LOGSIZE 	○	○	○	○
OPTION	DATABUFFSIZE	—	○	—	○
	<ul style="list-style-type: none"> • RMDIRRETRYCOUNT • RMDIRINTERVALTIME • TEMPFILEDEL 	○	—	○	—
	SOCKBUFFSIZE	○	○	○	○
THREAD	<ul style="list-style-type: none"> • EURPS • GENERAL • MERGE 	○	—	○	—
TIMEOUT	<ul style="list-style-type: none"> • CONNECT • ERRIGNORE 	○	—	○	—
	PRTCLSLIST	—	○	—	○

(凡例)

- ：該当するキーがあります。
- ：該当するキーがありません。

- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- AdpEnvFile プロパティを省略した場合は、デフォルトの格納先の環境設定ファイルが使用されます。
- AdpEnvFile プロパティで指定した環境設定ファイルは、ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか、または再度指定されるまで有効になります。

データ型

String

BookmarkFileName プロパティ

しおり定義ファイル名を指定します。

解説

- BookmarkFileName プロパティには、ReportFileName プロパティ、または ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義ファイル名を指定します。
- ファイル名の数は、ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイル名の数以下、または ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、ReportFileName プロパティまたは ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- BookmarkFileName プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、BookmarkFileName プロパティを指定しても無視されます。
- しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String (一つの帳票セットを指定する場合)
- String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してしおり定義ファイルの指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のしおり定義ファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
' 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms(0)="Sample1.fms"
fms(1)="Sample2.fms"
fms(2)="Sample3.fms"
' しおり定義ファイル名を配列bokに指定
bok(0)="Book1.csv"
bok(1)=" "
bok(2)="Book3.csv"
```

BookmarkFilePath プロパティ

DocBookmarkFileName プロパティで指定した文書しおり定義ファイルのパス、または BookmarkFileName プロパティで指定したしおり定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは、DocBookmarkFileName プロパティで指定する文書しおり定義ファイルと、BookmarkFileName プロパティで指定するしおり定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- BookmarkFilePath プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、BookmarkFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ClientAddress プロパティ

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス、または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

解説

- 次に示す場合以外は、ClientAddress プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合、ClientAddress プロパティの指定は任意です。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3) の場合は、ClientAddress プロパティを指定しても無視されます。
- 印刷を実行するクライアント PC の IP アドレスを指定します。サーバアプリケーションから次のような API を使用すると、Web クライアントの要求元を取得できます。指定方法などについては、各 API のアプリケーションサーバの仕様を確認してください。

ASP の場合

```
Request.ServerVariables("REMOTE_ADDR")
```

JSP の場合

```
request.getRemoteAddr()
```

- ClientAddress プロパティを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

データ型

String

ClientPrinterName プロパティ

クライアント PC のプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。

解説

- クライアント PC のプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。ClientPrinterName プロパティを指定した場合、対話型印刷は使用できません。
- プリンタ名を指定するときの注意
プリンタ名は、次のことに注意して指定してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- ClientPrinterName プロパティが指定されると、DispPrintDlg プロパティは強制的に「1（ダイアログを表示しません）」を仮定します。
- ClientPrinterName プロパティと PrinterClassName プロパティでは、ClientPrinterName プロパティの指定を優先します。
- ClientPrinterName プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）の場合、および PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、ClientPrinterName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ClientTrayName プロパティ

クライアントプリンタのトレイ名を指定します。クライアントプリンタは、OS 上のプリンタを指します。

解説

- トレイ名を指定するときの注意
トレイ名は、次のことに注意して指定してください。
 - トレイ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

- ClientTrayName プロパティを指定する場合は、ClientPrinterName プロパティを必ず指定してください。
ClientTrayName プロパティに指定したトレイ名が、ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタで使用できない場合は、ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- ClientTrayName プロパティを指定しない場合は、ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- ClientTrayName プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (PrintMode=1) の場合、および PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、ClientTrayName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

Crypto プロパティ

PDF 形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True : PDF 形式ファイルを暗号化します。
- False : PDF 形式ファイルを暗号化しません。

Crypto プロパティを省略した場合、False が仮定されます。

Crypto プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、Crypto プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Boolean

CryptoFileName プロパティ

暗号化設定ファイル名を指定します。

解説

- 暗号化設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

- CryptoFileName プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、CryptoFileName プロパティを指定しても無視されます。
- 暗号化設定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

CryptoFilePath プロパティ

CryptoFileName プロパティで指定した暗号化設定ファイルのパスを指定します。

解説

- 暗号化設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- CryptoFilePath プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、CryptoFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

DataFileName プロパティ

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

- DataFileName プロパティには、ReportFileName プロパティ、または ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。
- ファイル名の数は、ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイル名の数以下、または ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、ReportFileName プロパティまたは ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String (一つの帳票セットを指定する場合)
- String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してマッピングデータファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2番目の帳票のマッピングデータファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
' 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms(0)="Sample1.fms"
fms(1)="Sample2.fms"
fms(2)="Sample3.fms"
' マッピングデータファイル名を配列mapに指定
map(0)="Data1.csv"
map(1)=""
map(2)="Data3.csv"
```

DataFilePath プロパティ

DataFileName プロパティまたは帳票セット指定ファイルで指定したマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

解説

- ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

DBInfoFileName プロパティ

接続情報ファイル名を指定します。

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、DBInfoFilePath プロパティに指定することもできます。DBInfoFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DBInfoFilePath プロパティ

DBInfoFileName プロパティで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

解説

- 接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

DestinationName プロパティ

スプールサーバの出力先名を指定します。

解説

- 出力先名を指定するときの注意

出力先名は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 出力先名は、80 バイト以内で指定してください。
- 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合、DestinationName プロパティは有効になります。それ以外の場合は、DestinationName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつスプールサーバ指定方式が出力先名指定 (ServerSelectMode=0) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2)、かつスプールサーバ指定方式が出力先名指定 (ServerSelectMode=0) のとき

データ型

String

DispPrintDlg プロパティ

クライアント PC で印刷する場合、ダイアログの表示モードを選択します。

解説

- 指定できる値と印刷時の動作を次に示します。
 - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
 - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
 - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
 - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
 - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
印刷は実行できません。
- DispPrintDlg プロパティを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値 (0~4) が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび DispPrintDlg プロパティとも省略した場合、0 が仮定されます。ClientPrinterName プロパティを指定した場合は、かつ DispPrintDlg プロパティに 0 または 2 を指定した場合は、1 が仮定されます。

- DispPrintDlg プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (PrintMode=1) の場合、および PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、DispPrintDlg プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

DistributeFileName プロパティ

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

解説

- PDF 仕分け定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DistributeFileName プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は、PDFFileName プロパティ、または DistributeFileName プロパティのどちらかは、必ず指定してください。PDFFileName プロパティと DistributeFileName プロパティを同時に指定した場合は、PDFFileName プロパティの指定は無視されます。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、DistributeFileName プロパティを指定しても無視されます。
- PDF 仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。
- DistributeFileName プロパティで PDF 仕分け定義ファイル名を指定した場合は、FileOutputDestination プロパティの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。

データ型

String

DistributeFilePath プロパティ

DistributeFileName プロパティで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは、DistributeFileName プロパティで指定する仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

- DistributeFilePath プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、DistributeFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

DocBookmarkFileName プロパティ

文書しおり定義ファイル名を指定します。

解説

- 文書しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DocBookmarkFileName プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、DocBookmarkFileName プロパティを指定しても無視されます。
- 文書しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DocInfoFileName プロパティ

文書情報設定ファイル名を指定します。

解説

- 文書情報設定ファイル名は、ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DocInfoFileName プロパティと ReportID プロパティの両方で指定したときは、ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、DocInfoFilePath プロパティに指定することもできます。DocInfoFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 文書情報設定ファイル名を指定するときの規則, および注意については, 「付録 A.1 ファイル名, およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 文書情報設定ファイルは, EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DocInfoFilePath プロパティ

DocInfoFileName プロパティで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

解説

- 文書情報設定ファイルのパスは, ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DocInfoFilePath プロパティと ReportID プロパティの両方で指定したときは, ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。
- 文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則, および注意については, 「付録 A.1 ファイル名, およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

EnableGet プロパティ

スプールデータから EPF 形式ファイルの取得を許可するかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True : EPF 形式ファイルの取得を許可します。
- False : EPF 形式ファイルの取得を許可しません。

EnableGet プロパティを指定しない場合は、True が仮定されます。

EnableGet プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、EnableGet プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Boolean

EncryptionPasswordKey プロパティ

オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して、暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

解説

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。

- 半角数字
0~9
- 半角英字
A~Z, a~z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは、32 バイトまでです。

EncryptionPasswordKey プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、EncryptionPasswordKey プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

EPFFileName プロパティ

入力または出力する EPF 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputEPFReport メソッドまたは OutputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合や、PrintPMReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合は、EPFFileName

プロパティを必ず指定してください。OutputEPFReport メソッド、OutputMergeEPFReport メソッド、および PrintPMReport メソッド以外の場合は、EPFFileName プロパティを指定しても無視されます。

- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。ただし、出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは、次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。
 - EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
 - EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.eppp

データ型

String

EPFFilePath プロパティ

EPFFileName プロパティで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは、EPFFileName プロパティで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- EPFFilePath プロパティは、OutputEPFReport メソッドまたは OutputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合や、PrintPMReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合に指定が有効になります。OutputEPFReport メソッド、OutputMergeEPFReport メソッド、および PrintPMReport メソッド以外の場合は、EPFFilePath プロパティを指定しても無視されません。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

EURFileName プロパティ

出力する EUR 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合は、EURFileName プロパティを必ず指定してください。OutputEURReport メソッド以外の場合は、EURFileName プロパティを指定しても無視されます。
- EUR 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

EURFilePath プロパティ

EURFileName プロパティで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは、EURFileName プロパティで指定する EUR 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- EURFilePath プロパティは、OutputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputEURReport メソッド以外の場合は、EURFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

ExecutablePrintMode プロパティ

実行可能印刷方式を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：スプールサーバでの印刷
- 1：スプールサーバでの印刷、またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

0, 1, および 2 以外の値を指定した場合は, 1 が仮定されます。

ExecutablePrintMode プロパティは, PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合, 指定が有効になります。それ以外の場合は, ExecutablePrintMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

FileOutputDestination プロパティ

PDF 形式ファイルの出力先を, EUR Server - Adapter 稼働マシンにするか, または EUR Server Service 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0 : EUR Server - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1 : EUR Server Service 稼働マシンに出力します。

FileOutputDestination プロパティを省略した場合は, EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の OPTION セクションの FILEOUTPUTDESTINATION キーが仮定されます。

また, 0, 1 以外の値を指定した場合は, 0 が仮定されます。

FileOutputDestination プロパティは, OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合, 指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は, FileOutputDestination プロパティを指定しても無視されます。

DistributeFileName プロパティで PDF 仕分け定義ファイル名を指定した場合は, FileOutputDestination プロパティの指定は無視されます。この場合, PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って, EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。

データ型

Long

FirstPageNumber プロパティ

ページ番号の初期値を指定します。

解説

指定できる値は、1～999,999 です。FirstPageNumber プロパティを省略した場合、1 が仮定されます。

FirstPageNumber プロパティは、PrintPageNumber プロパティを指定した場合だけ有効になります。ただし、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は、FirstPageNumber プロパティの設定値は無視されます。

FirstPageNumber プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、FirstPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Long

GroupName プロパティ

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

解説

- 振り分けグループ名を指定するときの注意
振り分けグループ名は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 振り分けグループ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合、GroupName プロパティは有効になります。それ以外の場合は、GroupName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (PrintKind=0)、かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け (PrinterSelectMode=2) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2)、かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け (PrinterSelectMode=2) のとき

データ型

String

InitPageNumber プロパティ

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：初期化します。
- False：初期化しません。

InitPageNumber プロパティを指定しない場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、False が仮定されます。ただし、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は、InitPageNumber プロパティの設定値は無視されます。

InitPageNumber プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、InitPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Boolean

JobKeyCategory プロパティ

スプールデータの検索キーの分類を指定します。

解説

- 検索キーを指定する場合は、1～10個の配列で指定してください。また、JobKeyCategory プロパティを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。

検索キーを指定しない場合、JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。

- 分類を指定するときの注意
分類は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、80バイト以内で指定してください。

- 文字列に「,」を含めないでください。
- JobKeyCategory プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、JobKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

JobKeyData プロパティ

スプールデータの検索キーの値を指定します。

解説

- 検索キーを指定する場合は、1～10 個の配列で指定してください。また、JobKeyCategory プロパティを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。
検索キーを指定しない場合、JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。
- 値を指定するときの注意
値は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- JobKeyData プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、JobKeyData プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

MaxPrintCount プロパティ

スプールデータの上限印刷回数を指定します。

解説

- 印刷上限回数に指定できる値は、-1～65,536 です。
 - 印刷回数を無限にする場合は、-1 を指定してください。

- 印刷を禁止する場合は、0 を指定してください。
- 印刷回数を指定する場合は、1～65,536 の範囲内で指定してください。
- MaxPrintCount プロパティを省略した場合、または 1～65,536 以外の値を指定した場合は、-1（無限）が仮定されます。
- MaxPrintCount プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、MaxPrintCount プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

MergeEPFFileName プロパティ

統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は、MergeEPFFileName プロパティを必ず指定してください。OutputMergeEPFReport メソッド以外の場合は、MergeEPFFileName プロパティを指定しても無視されます。
- 指定できる EPF 形式ファイルの数は、2～10,000 ファイルです。ファイル名はファイルの統合順に指定してください。
- 統合対象の EPF 形式ファイルは、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに準備してください。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。

データ型

String 配列

MergeEPFFilePath プロパティ

MergeEPFFileName プロパティで指定した統合対象の EPF 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは、MergeEPFFileName プロパティで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。

- MergeEPFFilePath プロパティは、OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合、指定が有効になります。OutputMergeEPFReport メソッド以外の場合は、MergeEPFFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

MultiFormInfoDefFileName プロパティ

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

解説

- 複数様式で帳票を出力する場合は、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定してください。MultiFormInfoDefFileName プロパティを省略すると、ReportFileName プロパティで指定した複数の帳票ファイル、または MultiReportSetFileName プロパティの帳票セット指定ファイルで指定した帳票ファイルが順に出力されます。
- 複数様式情報定義ファイルは、ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。ReportID プロパティを指定した場合は、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定しても無効になります。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、MultiFormInfoDefFilePath プロパティに指定することもできます。

MultiFormInfoDefFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

MultiFormInfoDefFilePath プロパティ

MultiFormInfoDefFileName プロパティで指定した複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 複数様式情報定義ファイルのパスは、ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。ReportID プロパティを指定した場合は、MultiFormInfoDefFilePath プロパティを指定しても無効になります。
- 複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

MultiReportSetFileName プロパティ

帳票セット指定ファイル名を指定します。

解説

- MultiReportSetFileName プロパティ、ReportFileName プロパティ、または ReportID プロパティのどれかは、必ず指定してください。
ReportID プロパティを指定した場合は、MultiReportSetFileName プロパティを指定しても無効になります。
MultiReportSetFileName プロパティと ReportFileName プロパティを同時に指定した場合は、MultiReportSetFileName プロパティで指定した帳票ファイルのあとに、ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルが出力されます。
- 帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

MultiReportSetFilePath プロパティ

MultiReportSetFileName プロパティで指定した帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

解説

- ReportID プロパティを指定した場合は、MultiReportSetFileName プロパティを指定しても無効になります。
- 帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

OutputPageCountOpt プロパティ

印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：総ページ数を出力します。
- False：総ページ数を出力しません。

OutputPageCountOpt プロパティを省略した場合、False が仮定されます。

OutputPageCountOpt プロパティは、次に示すメソッドで印刷またはファイル出力を実行する場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、OutputPageCountOpt プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (PrintKind=0) の場合
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) のとき
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (PrintMode=4) の場合
- PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (PrintMode=1) の場合
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

- OutputXLSXReport メソッド

データ型

Boolean

PageNumberFormat プロパティ

ページ番号のフォーマットを指定します。

解説

PageNumberFormat プロパティには、ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

PageNumberFormat プロパティを指定しても、PrintPageNumber プロパティを省略した場合は無効となります。ただし、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は、PageNumberFormat プロパティの設定値は無視されます。

PageNumberFormat プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PageNumberFormat プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

String

PageNumberLocation プロパティ

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。

- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PageNumberLocation プロパティを指定しても、PrintPageNumber プロパティを省略した場合は無効となります。ただし、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は、PageNumberLocation プロパティの設定値は無視されます。

PageNumberLocation プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PageNumberLocation プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Long

PaperOrientation プロパティ

用紙の向きを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は、統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PaperOrientation プロパティを省略した場合、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、PaperOrientation プロパティの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし、OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは、PaperOrientation プロパティの指定に従います。

PaperOrientation プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PaperOrientation プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputMergeEPFReport メソッド

データ型

Long

PDFFileName プロパティ

出力する PDF 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は、PDFFileName プロパティまたは DistributeFileName プロパティのどちらかは、必ず指定してください。PDFFileName プロパティと DistributeFileName プロパティを同時に指定した場合は、PDFFileName プロパティの指定は無視されます。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、PDFFileName プロパティを指定しても無視されます。
- PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する (FileOutputDestination=1) 場合で、EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定しているときは、PDFFileName プロパティにはファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定しているときは、PDFFileName プロパティはフルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、PDFFilePath プロパティに指定することもできます。PDFFilePath プロパティにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。

- フルパスを指定する場合
PDFFileName プロパティで指定したパスに出力されます。なお、環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし、そこから PDFFileName プロパティで指定したパスに出力されます。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに、PDFFileName プロパティで指定したファイル名で出力されます。
- PDF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

データ型

String

PDFFilePath プロパティ

PDFFileName プロパティで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたフォルダのパスは、PDFFileName プロパティで指定する PDF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- PDFFilePath プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合に指定が有効になります。ただし、次の場合は PDFFilePath プロパティを指定しても無視されます。
 - OutputPDFReport メソッド以外の場合
 - PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する (FileOutputDestination=1) 場合で、かつ EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を指定している場合
- パスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

データ型

String

PMServerAddress プロパティ

接続する帳票サーバの IP アドレスを指定します。

解説

- 帳票サーバが複数台起動されている場合に、PMServerAddress プロパティを指定すると、接続する帳票サーバを振り分けられます。
- PMServerAddress プロパティを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の IPADDRESS セクションの EURPM キーが仮定されます。EURPM キーの指定が省略されているとき、または値が指定されていないときは、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

データ型

String

PMServerPort プロパティ

帳票サーバのポート番号を指定します。

解説

- EUR Server Service が複数起動されている場合に、PMServerPort プロパティを指定すると、接続するポートを振り分けられます。
- PMServerPort プロパティを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の PORT セクションの EURPM キーが仮定されます。
- PMServerPort プロパティを省略した場合、および EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の PORT セクションの EURPM キーが指定されていない場合は、環境設定ファイルの省略時の値が仮定されます。

データ型

Long

PrintCopies プロパティ

印刷部数を指定します。

解説

指定できる値は、1~99 です。PrintCopies プロパティを省略した場合、1 が仮定されます。ただし、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は、PrintCopies プロパティの設定値は無視されます。

PrintCopies プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PrintCopies プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputMergeEPFReport メソッド

データ型

Long

PrintDateFileName プロパティ

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PrintDateFileName プロパティは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PrintDateFilePath プロパティに指定することもできます。PrintDateFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 印刷日時出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。
- PrintDateFileName プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PrintDateFileName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッド
 - OutputEPFReport メソッド

データ型

String

PrintDateFilePath プロパティ

PrintDateFileName プロパティで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは、PrintDateFileName プロパティで指定する印刷日時出力定義ファイルのデフォルトの場所になります。

- 印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「付録 A.1 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- PrintDateFilePath プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintDateFilePath プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッド
 - OutputEPFReport メソッド

データ型

String

PrintEndPage プロパティ

印刷終了ページを指定します。

解説

指定できる値は，0~999,999 です。PrintEndPage プロパティを省略した場合，または指定した値が0の場合は，最終ページまで印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PrintEndPage プロパティの指定に関係なく，複数帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PrintEndPage プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintEndPage プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputXLSXReport メソッド

データ型

Long

PrinterClassName プロパティ

プリンタクラス名を指定します。

解説

- プリンタクラス名を指定するときの注意

プリンタクラス名は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- プリンタクラス名は、80 バイト以内で指定してください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- プリンタクラス名に「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」は使用できません。
- 印刷方法ごとに指定するプロパティを次に示します。
 - スプールサーバでの印刷
PrintMode プロパティ：3
PrinterSelectMode プロパティ：0
PrinterClassName プロパティ：拠点プリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷
PrintMode プロパティ：1
DispPrintDlg プロパティ：0
PrinterClassName プロパティ：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - クライアント PC での自動印刷
PrintMode プロパティ：1
DispPrintDlg プロパティ：1
PrinterClassName プロパティ：クライアントプリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示
PrintMode プロパティ：1
DispPrintDlg プロパティ：2
PrinterClassName プロパティ：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - クライアント PC での全自動印刷
PrintMode プロパティ：1
DispPrintDlg プロパティ：3
PrinterClassName プロパティ：クライアントプリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示限定
PrintMode プロパティ：1
DispPrintDlg プロパティ：4
PrinterClassName プロパティ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - 帳票サーバでの印刷
PrintMode プロパティ：4

PrinterSelectMode プロパティ：0

PrinterClassName プロパティ：帳票サーバプリンタクラス名

- 蓄積（プリンタクラス名指定）

PrintMode プロパティ：2

PrinterSelectMode プロパティ：0

PrinterClassName プロパティ：拠点プリンタクラス名，または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

- 蓄積（OS 上のプリンタ名指定）

PrintMode プロパティ：2

PrinterSelectMode プロパティ：1

PrinterClassName プロパティ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- 蓄積（帳票名による自動振り分け）

PrintMode プロパティ：2

PrinterSelectMode プロパティ：2

PrinterClassName プロパティ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合，ClientPrinterName プロパティと PrinterClassName プロパティでは，ClientPrinterName プロパティの指定を優先します。

- EPF 形式ファイルを出力する場合に指定するプロパティを次に示します。

PrinterClassName プロパティ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合に指定するプロパティを次に示します。

PrinterClassName プロパティ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- クライアント PC への配布印刷では，指定できません。

- EPF 形式ファイルを出力する場合に，PrinterClassName プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは，EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合に，PrinterClassName プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは，統合対象の EPF 形式ファイルにプリンタクラス名情報が設定されていても，統合後の EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

データ型

String

PrinterSelectMode プロパティ

プリンタの指定方法を選択します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名の指定
- 1：OS 上のプリンタ名の指定
- 2：帳票振り分け定義の指定

PrinterSelectMode プロパティを省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

PrinterSelectMode プロパティは、次の場合に指定が有効になります。

- PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3) の場合
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (PrintMode=4) の場合

それ以外の場合は、PrinterSelectMode プロパティを指定しても無視されます。

また、帳票サーバによる直接印刷 (PrintMode=4) の場合、2 の値を指定するとエラーになります。

データ型

Long

PrintHoldMode プロパティ

蓄積印刷方式で、蓄積後に続けて印刷するかどうかを選択します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません (印刷保留)。
- 1：蓄積後に続けてスプールサーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

PrintHoldMode プロパティを省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、ReportAddressKeyCategory プロパティおよび ReportAddressKeyData プロパティの指定の有無によって次の値が仮定されます。

ReportAddressKeyCategory プロパティおよび ReportAddressKeyData プロパティの指定がある場合 0 が仮定されます。

ReportAddressKeyCategory プロパティおよび ReportAddressKeyData プロパティの指定がない場合
1 が仮定されます。

PrintHoldMode プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合、指
定が有効になります。それ以外の場合は、PrintHoldMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintKind プロパティ

スプールサーバ印刷方式の印刷モードを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイル印刷モード
- 1：EUR 形式ファイル印刷モード

PrintKind プロパティを省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

PrintKind プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式
(PrintMode=3) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PrintKind プロパティを指定して
も無視されます。

データ型

Long

PrintMode プロパティ

印刷メソッド (PrintPMReport メソッド) の印刷方式を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：スプールサーバ印刷方式

- 4：帳票サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0, 1, 2, 3, 4, 5 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

PrintMode プロパティを省略した場合は、環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトにします。

データ型

Long

PrintPageNumber プロパティ

余白へのページ番号印刷を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：余白へのページ番号を出力します。
- False：余白へのページ番号は出力しません。

PrintPageNumber プロパティを省略した場合は、False が仮定されます。ただし、MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は、PrintPageNumber プロパティの設定値は無視されます。

PrintPageNumber プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PrintPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Boolean

PrintStartPage プロパティ

印刷開始ページを指定します。

解説

指定できる値は、0~999,999 です。PrintStartPage プロパティを省略した場合、または指定した値が0の場合は、1 ページから印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PrintStartPage プロパティの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PrintPageNumber プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PrintPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputXLSXReport メソッド

データ型

Long

PSEnvFileName プロパティ

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

解説

- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSEnvFileName プロパティと ReportID プロパティの両方で指定したときは、ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PSEnvFileName プロパティは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSEnvFilePath プロパティに指定することもできます。PSEnvFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則, および注意については, 「付録 A.1 ファイル名, およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は, EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。
- PSEnvFileName プロパティは, 次に示すメソッドで印刷実行する場合, 指定が有効になります。それ以外の場合は, PSEnvFileName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッド
 - OutputPDFReport メソッド
 - OutputEPFReport メソッド
 - OutputEURReport メソッド
 - OutputXLSXReport メソッド

データ型

String

PSEnvFilePath プロパティ

PSEnvFileName プロパティで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは, PSEnvFileName プロパティで指定する EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のデフォルトの場所になります。
- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは, ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSEnvFilePath プロパティと ReportID プロパティの両方で指定したときは, ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- PSEnvFilePath プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、PSEnvFilePath プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッド
 - OutputPDFReport メソッド
 - OutputEPFReport メソッド
 - OutputEURReport メソッド
 - OutputXLSXReport メソッド

データ型

String

ReplaceItemCntlFileName プロパティ

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、ReplaceItemCntlFilePath プロパティに指定することもできます。ReplaceItemCntlFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合、ReplaceItemCntlFileName プロパティは有効になります。PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード (PrintKind=1) の場合は、ReplaceItemCntlFileName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (PrintKind=0) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (PrintMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) のとき
 - OutputPDFReport メソッド、OutputEPFReport メソッド、OutputEURReport メソッド、および OutputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき
- 置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ReplaceItemCntlFilePath プロパティ

ReplaceItemCntlFileName プロパティで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

解説

- 置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合、ReplaceItemCntlFilePath プロパティは有効になります。PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード (PrintKind=1) の場合は、ReplaceItemCntlFilePath プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (PrintKind=0) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (PrintMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) のとき
 - OutputPDFReport メソッド、OutputEPFReport メソッド、OutputEURReport メソッド、および OutputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき

データ型

String

ReportAddressKeyCategory プロパティ

スプールデータの宛先キーの分類を指定します。

解説

- 宛先キーの分類は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80バイトで指定してください。
 - 文字列に「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。
- ReportAddressKeyCategory プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ReportAddressKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。
- ReportAddressKeyData プロパティが指定されていない場合はエラーになります。

データ型

String

ReportAddressKeyData プロパティ

スプールデータの宛先キーの値を指定します。

解説

- 宛先キーの値は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80バイトで指定してください。
 - 文字列に「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。
- ReportAddressKeyData プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ReportAddressKeyData プロパティを指定しても無視されます。
- ReportAddressKeyCategory プロパティが指定されていない場合はエラーになります。

データ型

String

ReportFileName プロパティ

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

解説

- ReportFileName プロパティ, MultiReportSetFileName プロパティ, または ReportID プロパティのどれかは, 必ず指定してください。
ReportID プロパティを指定した場合は, ReportFileName プロパティを指定しても無効になります。
ReportFileName プロパティと MultiReportSetFileName プロパティを同時に指定した場合は, MultiReportSetFileName プロパティで指定した帳票ファイルのあとに, ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルが出力されます。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で, OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合, 帳票ファイル名は, ファイル名だけを指定してください。このとき, 指定するファイルは, PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は, フルパス, 相対パス, またはファイル名だけのどれかで指定してください。
パスは, ReportFilePath プロパティに指定することもできます。ReportFilePath プロパティにパスを指定しない場合は, 次のことに注意してください。
 - フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
 - 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
 - ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 帳票ファイル名を指定するときの規則, および注意については, 「付録 A.1 ファイル名, およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票ファイルは, EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String (一つの帳票セットを指定する場合)
- String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

ReportFilePath プロパティ

ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルのパスを指定します。

解説

- ReportID プロパティを指定した場合は, ReportFileName プロパティを指定しても無効になります。

- 帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

ReportID プロパティ

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、印刷またはファイル出力を実行するとき使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

解説

- ReportID プロパティ、ReportFileName プロパティ、または MultiReportSetFileName プロパティのどれかは、必ず指定してください。
- 帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
 - 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」
- 帳票出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ScriptCntlFileName プロパティ

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、Acrobat JavaScript 定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、ScriptCntlFilePath プロパティに指定することもできます。ScriptCntlFilePath プロパティにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ScriptCntlFileName プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、ScriptCntlFileName プロパティを指定しても無視されます。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ScriptCntlFilePath プロパティ

ScriptCntlFileName プロパティで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。

解説

- Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ScriptCntlFilePath プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、ScriptCntlFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ServerAddress プロパティ

スプールサーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。

解説

- 次に示すどちらかの指定がある場合、ServerAddress プロパティは有効になります。それ以外の場合、ServerAddress プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつスプールサーバ指定方式が IP アドレス指定 (ServerSelectMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2)、かつスプールサーバ指定方式が IP アドレス指定 (ServerSelectMode=1) のとき
- ServerAddress プロパティを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が假定されます。

データ型

String

ServerPrinterName プロパティ

サーバのプリンタ名を指定します。プリンタ名は、OS 上のプリンタ名を指定してください。

解説

- プリンタ名を指定するときの注意
プリンタ名は、次のことに注意して指定してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示す指定がある場合、ServerPrinterName プロパティは有効になります。それ以外の場合、ServerPrinterName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (PrintMode=4)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) のとき

データ型

String

ServerSelectMode プロパティ

プールサーバの指定方法を選択します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：プールサーバの IP アドレスを指定します。

ServerSelectMode プロパティを省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

次に示すどちらかの指定がある場合、ServerSelectMode プロパティは有効になります。それ以外の場合、ServerSelectMode プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッドで印刷方式がプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3) のとき
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) のとき

データ型

Long

ServerTrayName プロパティ

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は、OS 上のプリンタのトレイ名を指定してください。

解説

Windows 環境の場合

- トレイ名を指定するときの注意
トレイ名は、次のことに注意して指定してください。
 - トレイ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- ServerTrayName プロパティを指定しない場合は、ServerPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。

- ServerTrayName プロパティに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、デフォルトのトレイから給紙されます。
- 次に示す指定がある場合、ServerTrayName プロパティは有効になります。それ以外の場合は、ServerTrayName プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (PrintMode=4)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- 給紙トレイ情報を指定します。ServerTrayName プロパティを指定しない場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード (DefaultCassette) に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。プリンタ定義ファイルの詳細については、「[11.5 プリンタ定義ファイル](#)」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズから給紙トレイを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙トレイから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は、1~n (n はプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値) で指定します。 6 以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

❗ 重要

ServerTrayName プロパティでは次に示す指定があった場合、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに、プリンタのパネルで給紙トレイが選択されたとき

また、帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか、または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は、あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

データ型

String

SortPrint プロパティ

印刷部数の単位を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SortPrint プロパティを省略した場合、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、SortPrint プロパティの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし、OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは、SortPrint プロパティの指定に従います。

SortPrint プロパティは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合、SortPrint プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputMergeEPFReport メソッド

データ型

Long

SplitFileName プロパティ

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

解説

- SplitFileName プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、SplitFileName プロパティを指定しても無視されます。
 - 帳票を分割 (SplitMode=3) または仕分け (SplitMode=2) する設定にしているとき。

- 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う (SplitMode=0) 設定にしている、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

SplitFilePath プロパティ

SplitFileName プロパティで指定した、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたフォルダのパスは、SplitFileName プロパティで指定するファイルのデフォルトの場所になります。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- SplitFilePath プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、SplitFilePath プロパティを指定しても無視されます。
 - 帳票を分割 (SplitMode=3) または仕分け (SplitMode=2) する設定にしているとき。
 - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う (SplitMode=0) 設定にしている、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき。

データ型

String

SplitMode プロパティ

蓄積時に、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Server Service の環境設定ファイル（EURPM.ini）の OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

SplitMode プロパティの指定を省略した場合、0 が仮定されます。

SplitMode プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、SplitMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

SpoolFileName プロパティ

スプールデータに格納するファイルのファイル名を指定します。

解説

- 格納ファイル名は、255 バイト以内になるように指定してください。そのほか、格納ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 「%N」を指定すると、00000001 から始まる 8 桁の通し番号を設定できます。
- SpoolFileName プロパティを省略した場合は、自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」※です。
- 複数のスプールデータに同一ファイル名が指定されている場合、スプールデータ取得時に同一パスで取得されると、ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは、別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。
- SpoolFileName プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、SpoolFileName プロパティを指定しても無視されます。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。

E + ESFID + 処理実行日時 + 通番フォルダ番号 + 通し番号

ESFID (2 桁)：EURPMLS.ini のキーワード ESFID に指定された値 (0~99)

処理実行日時 (17 桁)：YYYYMMDDhhmmssmmm

通番フォルダ番号 (7 桁)：0000001~2000000

通し番号 (9 桁)：000000001~999999999

通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は、エラー (KEEY430-S) になります。
通し番号が 99999999 を超えた場合は、000000003 に戻ります。

データ型

String

SpoolLimit プロパティ

スプールデータの蓄積期限日を指定します。

解説

蓄積期限日は、日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 桁、月と日は 2 桁で入力します。
- 月、または日が 1~9 の場合は、ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は、20380118（2038 年 1 月 18 日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521, 20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には、蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は 000~999 です。0 を指定した場合は、翌日にスプールデータが削除されます。
- 2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030, +999

SpoolLimit プロパティの指定がない場合、蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。

SpoolLimit プロパティは、PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、SpoolLimit プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SpoolTitle プロパティ

スプールタイトルを指定します。

解説

- スプールタイトルには、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - スプールタイトルは、255 バイト以内で指定してください。
 - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
- SpoolTitle プロパティは、次に示すメソッドで印刷またはファイル出力を実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、SpoolTitle プロパティを指定しても無視されます。
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (PrintMode=3) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (PrintMode=1) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積 (PrintMode=2) のとき
 - PrintPMReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (PrintMode=4) のとき
 - OutputEPFReport メソッド、および OutputEURReport メソッドで印刷実行するとき
 - OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するとき
- SpoolTitle プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは、スプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合、印刷時のスプールタイトルに出力される内容は次のとおりです。
 - PrintPMReport メソッド、および OutputEPFReport メソッドの場合
文書情報設定ファイルで TITLE キーを設定しているときは、TITLE キーの指定値が出力されます。
TITLE キーを設定していないときは、「HITACHI Report - 帳票ファイル名」が出力されます。
 - OutputEURReport メソッドの場合
文書情報設定ファイルで TITLE キーを設定しているときは、TITLE キーの指定値が出力されます。
TITLE キーを設定していないときは、次に示す表示形式で出力されます。
 - 単一様式帳票の場合
「HITACHI Report - EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」
 - 複数の帳票セットを指定した帳票、または複数様式を指定した帳票の場合
「EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」
 - OutputMergeEPFReport メソッドの場合
最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名が出力されます。

データ型

String

UserDataFileName プロパティ

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

- UserDataFileName プロパティには、ReportFileName プロパティ、または ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。
- ファイル名の数は、ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイル名の数以下、または ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、ReportFileName プロパティまたは ReportID プロパティの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String (一つの帳票セットを指定する場合)
- String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してユーザ定義データファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のユーザ定義データファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
' 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms(0)="Sample1.fms"
fms(1)="Sample2.fms"
fms(2)="Sample3.fms"
' ユーザ定義データファイル名を配列usrに指定
usr(0)="Data1.csv"
usr(1)=""
usr(2)="Data3.csv"
```

UserDataFilePath プロパティ

UserDataFileName プロパティで指定したユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

解説

- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「付録 A.1 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

ViewerPreferenceFileName プロパティ

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合，ビューアプレファレンス定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，ViewerPreferenceFilePath プロパティに指定することもできます。

ViewerPreferenceFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「付録 A.1 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ViewerPreferenceFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，ViewerPreferenceFileName プロパティを指定しても無視されます。
- ビューアプレファレンス定義ファイルは，EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ViewerPreferenceFilePath プロパティ

ViewerPreferenceFileName プロパティで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。

解説

- ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- ViewerPreferenceFilePath プロパティは、OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は、ViewerPreferenceFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

XLSXFileName プロパティ

出力する Excel 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputXLSXReport メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合は、XLSXFileName プロパティを必ず指定してください。OutputXLSXReport メソッド以外の場合は、XLSXFileName プロパティを指定しても無視されます。
- Excel 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- Excel 形式ファイルの拡張子は、*.xlsx です。Excel 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。

データ型

String

XLSXFilePath プロパティ

XLSXFilePath プロパティで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたフォルダのパスは、XLSXFileName プロパティで指定する Excel 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- XLSXFilePath プロパティは、OutputXLSXReport メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。OutputXLSXReport メソッド以外の場合は、XLSXFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

データ型

String

6.5 エラー情報

ActiveX 起動部品, または SS-ActiveX 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは, Err オブジェクトの Number プロパティに終了コード, Description プロパティにメッセージが設定されます。

6.5.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧

ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧を次に示します。

表 6-7 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧

終了コード	メッセージ文
-201	プロパティ(プロパティ名)の指定値に誤りがあります。
-202	プロパティ(プロパティ名)が指定されていません。
-203	マッピングデータファイルの読み込みに失敗しました。
-204	ユーザ定義データファイルの読み込みに失敗しました。
-205	パラメタに誤りがあります。
-206	必須パラメタの指定がありません。
-207	サーバプリンタ名の指定がありません。
-208	原因不明のエラーで処理が中断されました。EUR Server Service の状態を確認してください。
-209	印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
-210	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnnn]
-211	ログファイルの書き込みに失敗しました。
-212	EUR Server Service への接続に失敗しました。
-215	メモリ不足が発生しました。
-216	通信タイムアウトが発生しました。
-217	システムエラーが発生しました。
-218	出力先一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-219	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-221	印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)
-222	クライアントプリンタ名の指定がありません。
-223	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-224	PDF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
-225	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-226	EPF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-227	PDF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-228	EPF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-229	PDF 形式ファイルの作成に失敗しました。
-230	EPF 形式ファイルの作成に失敗しました。
-231	指定された PDF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-232	指定された EPF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-233	帳票セット指定ファイルのフォーマットが不正です。
-234	帳票セット指定ファイルの読み込みに失敗しました。
-235	しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
-236	文書しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
-237	EUR Server Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
-238	EUR Spool Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
-239	EUR Client Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
-241	指定された EUR 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-242	EUR 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-243	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-244	EUR 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-245	EUR 形式ファイルの作成に失敗しました。
-246	EUR Server Service のバージョンが不正です。
-247	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-248	暗号化設定ファイルの読み込みに失敗しました。
-249	指定されたマッピングデータファイルが存在しません。
-250	指定されたユーザ定義データファイルが存在しません。
-251	指定されたしおり定義ファイルが存在しません。
-252	指定された文書しおり定義ファイルが存在しません。
-253	指定された暗号化設定ファイルが存在しません。
-255	プリンター一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-256	トレー一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-257	蓄積処理でエラーが発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
-258	蓄積処理で警告が発生しました。(nnn)
-259	PDF 仕分け定義ファイルの読み込みに失敗しました。
-260	指定された PDF 仕分け定義ファイルが存在しません。
-261	EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
-262	指定された EPF 形式ファイルが存在しません。
-263	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-264	XLSX 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-265	指定された XLSX 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-266	XLSX 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-267	XLSX 形式ファイルの作成に失敗しました。
-269	統合対象 EPF 形式ファイルの指定数が有効範囲外です。
-270	複数 EPF 形式ファイルの統合処理でエラーが発生しました。(nnn)
-271	統合対象 EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
-272	指定された統合対象 EPF 形式ファイルが存在しません。
-273	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]
-274	仕分け/分割定義ファイルの読み込みに失敗しました。
-275	出力すべき帳票セットがありません。(950)

6.5.2 Err.Number プロパティ (終了コード)

ActiveX 起動部品、または SS-ActiveX 起動部品のメソッドの実行でエラーが発生した場合、Err オブジェクトの Number プロパティに終了コードが設定、または更新されます。正常終了した場合は、終了コードは更新されません。そのため、ActiveX 起動部品、または SS-ActiveX 起動部品のメソッドの実行後に Number プロパティの終了コードを参照しても正しいエラー判定ができません。

ActiveX 起動部品、または SS-ActiveX 起動部品のメソッドを実行する前は、Number プロパティに終了コードが設定されていない（エラーが発生していない）ことを判定してから EUR Server Service のメソッドを実行することをお勧めします。

終了コードとメッセージの一覧については、「[6.5.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧](#)」、または「[7.5.1 SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧](#)」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

6.5.3 Err.Description プロパティ (メッセージ文)

Err オブジェクトの Description プロパティは、エラー、または警告発生時のメッセージが設定されます。終了コードとメッセージの一覧については、「[6.5.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧](#)」, または「[7.5.1 SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧](#)」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

7

SS-ActiveX 起動部品

この章では、EUR Server - Spool Service で提供する SS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力について説明します。

7.1 SS-ActiveX 起動部品とは

EUR Server - Spool Service Adapter は、Visual Basic Script や Visual Basic など開発するサーバアプリケーションから、EUR Server - Spool Service を利用できる部品を提供しています。これを、SS-ActiveX 起動部品といいます。

SS-ActiveX 起動部品を利用することで、EUR Server - Spool Service 上に蓄積されているスプールデータ (ESF 形式ファイル) に対して業務アプリケーションからの操作指示を EUR Server - Spool Service に送信できます。

7.1.1 ファイル名

EURPMLSADP.ocx

SS-ActiveX 起動部品のファイルです。インストール先フォルダ¥SpoolAdapter¥Program¥下にありません。

7.1.2 プログラム ID とコントロール名

SS-ActiveX 起動部品のプログラム ID およびコントロール名は、EUR Server - Spool Service Adapter をインストールしたときに登録されます。

EURPMLS.Exec

SS-ActiveX 起動部品のプログラム ID です。

EURPMLSADP ActiveX コントロールモジュール

SS-ActiveX 起動部品のコントロール名です。

7.1.3 提供するクラス

SS-ActiveX 起動部品では、EUR Server - Spool Service の制御を行う EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを提供します。

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスでは、印刷、削除などのオプションを指定するプロパティを設定するメソッドと、印刷、削除などを行うメソッドを提供します。

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスは次のように指定します。

```
Public Class EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter
```

Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから、次の手順で帳票を出力します。

1. SS-ActiveX 起動部品の構築

2. プロパティの設定

ジョブ ID, 印刷開始ページなどのプロパティを設定します。

3. スプールデータの印刷

蓄積印刷メソッド (PrintSpoolReport メソッドなど) を呼び出してスプールデータを蓄積印刷します。

3.の処理で発生したエラー, または発生するエラーは, 例外を処理するようにプログラムに記述します。

7.1.4 構文

SS-ActiveX 起動部品を構築する場合と EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合の構文を次に示します。

(1) SS-ActiveX 起動部品を構築する場合

SS-ActiveX 起動部品を構築する場合は, 次のように指定します。

Visual Basic Script の場合

```
Dim eurpmls As Object
Set eurpmls=Server.CreateObject("EURPMLS.Exec")
```

Visual Basic の場合

```
Dim eurpmls As Object
Set eurpmls=CreateObject("EURPMLS.Exec")
```

パラメタ

- eurpmls には, Server.CreateObject または CreateObject の呼び出しによって作成されるオブジェクト名を指定します。
- EURPMLS.Exec は, SS-ActiveX 起動部品のプログラム ID です。
ASP ファイルのある Visual Basic Script の CreateObject 関数にプログラム ID を指定して, SS-ActiveX 起動部品を生成してください。

(2) EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成することで, SS-ActiveX 起動部品を生成することもできます。この場合は, クラスを生成する前に, ユーザアプリケーションプロジェクトのコントロールまたは COM の参照設定に, コントロール名「EURPMLSADP ActiveX コントロール モジュール」を追加してください。

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合は, 次のように指定します。

```
Dim eurpmls As EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter
Set eurpmls=new EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter
```

パラメタ

- eurpmls には, EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラス型の任意のオブジェクト名を指定します。
- new 操作で EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成してください。

7.2 SS-ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ

SS-ActiveX 起動部品が提供するメソッドとプロパティの一覧を示します。

7.2.1 メソッド一覧

SS-ActiveX 起動部品が提供するメソッドの一覧を次に示します。

表 7-1 SS-ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧

種類	メソッド	概要
蓄積操作メソッド	DeleteSpoolFile	指定したジョブ ID のスプールデータを削除したり、蓄積期限を超過したスプールデータを削除したりします。
	GetSpoolFile	指定したジョブ ID のスプールデータから印刷データをファイルで取得します。
	GetSpoolFileAttribute	指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を取得します。
	GetSpoolFileOutline	指定条件に合った EUR Server - Spool Service のスプールデータの一覧を取得します。
	PrintSpoolReport	指定したジョブ ID のスプールデータを印刷します。
	SetSpoolFileAttribute	指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を変更します。
構成定義情報取得メソッド※	GetPrinterClassList	指定したスプールサーバの EUR Server - Spool Service に登録されているプリンタクラス一覧を PrinterClassList プロパティに取得します。
	GetPrinterList	指定したスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を ServerPrinterList プロパティに取得します。
	GetTrayList	指定したスプールサーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を ServerTrayList プロパティに取得します。
監査ログメソッド	ChangeAuditLog	指定したスプールサーバ上で出力する監査ログを切り替えます。
プロパティ初期化メソッド	Initialize	指定されたすべてのプロパティをクリアにして、初期状態に戻します。

注※

UNIX/Linux 環境の場合、構成定義情報取得メソッドは指定できません。

7.2.2 プロパティ一覧

SS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティを表 7-2 に示します。

SS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティは、蓄積操作メソッド、および構成定義情報取得メソッドで使用します。表 7-2 の表見出しの番号は、次に示すメソッドに対応しています。

表見出しの番号	対応するメソッド
1	GetSpoolFileOutline
2	GetSpoolFileAttribute
3	SetSpoolFileAttribute
4	PrintSpoolReport
5	GetSpoolFile
6	DeleteSpoolFile
7	GetPrinterClassList
8	GetPrinterList
9	GetTrayList
10	ChangeAuditLog

表 7-2 SS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
AdpEnvFile	EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルのパス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ClientAddress	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレス	String	-	□	△	△	-	-	-	-	-	-	-
ClientPrinterName	スプールデータのクライアントプリンタ名	String	-	□	△	△	-	-	-	-	-	-	-
ClientTrayName	スプールデータのクライアントプリンタのトレイ名	String	-	□	△	△	-	-	-	-	-	-	-
CreateIPAddress	スプールデータを作成したマシンの IP アドレス	String	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
CreateLSVersion	スプールデータのフォーマットバージョン	String	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-
CreateTime	スプールデータの作成日時	<ul style="list-style-type: none"> GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String 	□	□	-	-	-	-	-	-	-	-
DeleteKind	スプールデータ削除時の削除種別	Long	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
DispPrintDlg	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モード	Long	-	□	△	△	-	-	-	-	-	-
EnableGet	スプールデータ内のEPF形式ファイルの取得可否	Boolean	-	□	△	-	-	-	-	-	-	-
ExecPrintCount	スプールデータの印刷実行回数	Long	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-
ExecutablePrintMode	スプールデータの実行可能印刷方式	Long	-	□	△	-	-	-	-	-	-	-
GroupName	スプールデータの振り分けグループ名	String	-	□	△	△	-	-	-	-	-	-
JobID	ジョブ ID	String 配列	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-
JobKeyCategory	スプールデータのジョブ検索キー分類	String 配列	-	□	△	-	-	-	-	-	-	-
JobKeyData	スプールデータのジョブ検索キー値	String 配列	-	□	△	-	-	-	-	-	-	-
MaxPrintCount	スプールデータの印刷上限回数	Long	-	□	△	-	-	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
OutputFileKind	スプールデータの印刷データを取得するときのファイル形式	Long	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
OutputFileName	スプールデータの印刷データを取得したときのファイル名	String	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
OutputFilePath	スプールデータの印刷データを取得するフォルダのパス	String	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
PageNum	スプールデータ内のEPF形式ファイルのページ数	<ul style="list-style-type: none"> • GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと Long 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと Long 	□	□	-	-	-	-	-	-	-	-
PaperOrientation	用紙の向き	Long	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-
PrintCopies	印刷部数	Long	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-
PrintEndPage	蓄積スプールサーバ印刷の終了ページ	Long	-	-	-	-	/ △	-	-	-	-	-
PrinterClassList	プリンタクラス一覧	String 二次元配列	-	-	-	-	-	-	□	-	-	-
PrinterClassName	スプールデータのプリンタクラス名	<ul style="list-style-type: none"> • GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String 	□	□	△	△	△	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
PrinterClassName	スプールデータのプリンタクラス名	<ul style="list-style-type: none"> SetSpoolFileAttribute メソッド, PrintSpoolReport メソッド, または GetSpoolFile メソッドを呼び出す前 String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	△	△	△	-	-	-	-	-
PrinterSelectMode	蓄積スプールサーバ印刷方式のプリンタ指定方式	Long	-	<input type="checkbox"/>	△	△	-	-	-	-	-	-
PrintMode	蓄積印刷方式	Long	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
PrintResult	スプールデータの印刷結果	<ul style="list-style-type: none"> GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと Long 配列 GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと Long 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-
PrintStartPage	蓄積スプールサーバ印刷の開始ページ	Long	-	-	-	/	△	-	-	-	-	-
PrintTime	スプールデータの印刷日時	String	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-
ReportAddressKeyCategory	スプールデータの宛先キーの分類	String	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-
ReportAddressKeyData	スプールデータの宛先キーの値	String	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchCreateTimeEnd	ファイル作成日時でスプールデータを検	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
SearchCreateTimeEnd	索するときの検索終了日時	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchCreateTimeStart	ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索開始日時	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchJobID	スプールデータを検索するときのジョブID	<ul style="list-style-type: none"> PrintSpoolReport メソッド, GetSpoolFile メソッド, または DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す前 String (一つのジョブIDを指定する場合) String 配列 (複数のジョブIDを指定する場合) 上記以外のメソッドを呼び出す前 String 	△	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-
SearchJobKeyCategory	スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの分類	String 配列	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchJobKeyData	スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの値	String 配列	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchPrinterClassName	プリンタクラス名でスプールデータを検索するときのプリンタクラス名	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchReportAddressKeyCategory	検索キーでスプールデータを検索するときの検索キーの分類	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
SearchReportAddressKeyData	検索キーでスプールデータを検索するときの検索キーの値	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SearchSpoolFileName	格納されているEPF形式ファイル名でスプールデータを検索するときのEPF形式ファイル名	String	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ServerAddress	スプールサーバのIPアドレス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ServerPrinterList	スプールサーバでのOS上のプリンター一覧	String 配列	-	-	-	-	-	-	-	-	□	-	-
ServerPrinterName	スプールサーバでのOS上のプリンター名	String	-	□	△	△	-	-	-	-	-	○	-
ServerTrayList	スプールサーバでのOS上のプリンターのトレイ一覧	String 配列	-	-	-	-	-	-	-	-	-	□	-
ServerTrayName	スプールサーバでのOS上のプリンターのトレイ名	String	-	□	△	△	-	-	-	-	-	-	-
SortPrint	印刷部数の単位	Long	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-
SpoolFileName	スプールデータ内のEPF形式ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String 	□	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
SpoolFileSize	スプールデータ内のEPF形式ファイルのサイズ (バイト)	Long	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolHistory	スプールデータの履歴	String 二次元配列	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolLimit	スプールデータの蓄積期限日	String	-	□	△	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolPath	常に""を出力	<ul style="list-style-type: none"> GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String 	□	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SpoolTitle	スプールタイトル	String	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- ：必ず指定します。
- △：指定を省略できます。
- ：結果を出力します。
- ：指定できません。

7.2.3 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), ["], および [,] は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

7.3 SS-ActiveX 起動部品のメソッド仕様

SS-ActiveX 起動部品が提供するメソッドの詳細を説明します。

ChangeAuditLog メソッド

指定したスプールサーバ上で出力する監査ログを切り替えます。

形式

ChangeAuditLog()

パラメタ

なし

解説

ChangeAuditLog メソッドは、スプールサーバ上で出力する監査ログの切り替えが終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' ChangeAuditLog実行
Private Sub SUB_ChangeAuditLog()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    '' 監査ログの切り替え
    Call objEURPMLS.ChangeAuditLog

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
```

```
List5.AddItem "GetAttr Err.Description=( " & Err.Description & " )"

If Err.Number = 0 Then
End If

Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

DeleteSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータを削除したり、蓄積期限を超過したスプールデータを削除したりします。スプールデータの削除、および蓄積期限切れスプールデータの一括削除については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

DeleteSpoolFile()

パラメタ

なし

解説

DeleteSpoolFile メソッドは、スプールサーバ上のスプールデータ内の削除が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' DeleteSpoolFile実行
Private Sub SUB_DeleteSpoolFile()
  Err.Clear
  On Error GoTo Err_Trap
  List5.Clear

  Dim objEURPMLS
  Dim JobID(3) As String
```

```

Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
'' 削除種別 = 「通常」の設定
If 削除種別 = "通常" Then
    objEURPMLS.DeleteKind = 0

    '' ジョブIDの設定
    Dim lstSearchJobID(3) As String

    lstSearchJobID(0) = "E00200605291249433190000001*****004"
    lstSearchJobID(1) = "E00200605291252460280000001*****005"
    lstSearchJobID(2) = "E00200605291252461380000001*****006"
    lstSearchJobID(3) = "E00200605291252462630000001*****007"

    objEURPMLS.SearchJobID = lstSearchJobID

ElseIf 削除種別 = "一括" Then
    '' 削除種別 = 「期限切れ一括削除」の設定
    objEURPMLS.DeleteKind = 1
End If
'' 削除実行
Call objEURPMLS.DeleteSpoolFile

Err_Trap:
List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description & ")"

Set objEURPMLS = Nothing

End Sub

```

GetPrinterClassList メソッド

スプールサーバのプリンタクラス一覧を取得します。

形式

GetPrinterClassList()

パラメタ

なし

解説

指定したスプールサーバの EUR Server - Spool Service に登録されているプリンタクラス一覧を PrinterClassList プロパティに取得します。

GetPrinterClassList メソッドは、スプールサーバ上のプリンタクラス一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
'GetPrinterClassList実行
Private Sub SUB_GetPrinterClassList()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer
    Dim jLower, jUpper, J As Integer
    Dim sEntry As String

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    '' プリンタクラス一覧の取得
    objEURPMLS.GetPrinterClassList

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        Dim cstPrinterClsList As Variant
        cstPrinterClsList = objEURPMLS.PrinterClassList

        iLower = LBound(cstPrinterClsList, 1)
        iUpper = UBound(cstPrinterClsList, 1)
        jLower = LBound(cstPrinterClsList, 2)
        jUpper = UBound(cstPrinterClsList, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ","
                End If
                sEntry = sEntry + cstPrinterClsList(I, J)
            Next
        Next
    End If
End Sub
```

```
List5.AddItem sEntry
Next
List5.AddItem "★★★★★ 結果出力コマデ ★★★★★"
End If

Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetPrinterList メソッド

指定したスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を ServerPrinterList プロパティに取得します。

形式

GetPrinterList()

パラメタ

なし

解説

GetPrinterList メソッドは、OS 上のプリンター一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、プリンター一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンター一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetPrinterList実行
Private Sub SUB_GetPrinterList()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer
```

```

Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
'' プリンター一覧の取得
Call objEURPMLS.GetPrinterList

Err_Trap:
List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

If Err.Number = 0 Then
    List5.AddItem ""
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
    Dim cstPrinterList As Variant
    cstPrinterList = objEURPMLS.ServerPrinterList
    iLower = LBound(cstPrinterList)
    iUpper = UBound(cstPrinterList)
    For I = iLower To iUpper
        List5.AddItem cstPrinterList(I)
    Next
    List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
End If

Set objEURPMLS = Nothing

End Sub

```

GetSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている印刷データを、指定したパスにファイルで取得します。

OutputFileKind プロパティで取得ファイル形式に EPF 形式を指定している場合、または OutputFileKind プロパティの指定を省略している場合は、印刷データを EPF 形式ファイルで取得します。

OutputFileKind プロパティで取得ファイル形式に PDF 形式を指定している場合は、印刷データを PDF 形式ファイルで取得します。

取得後のファイルは、OutputFileName プロパティで指定したファイル名になります。

指定したパスに同一名のファイルがある場合は、上書きされます。スプールデータの取得については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

GetSpoolFile ()

パラメタ

なし

解説

GetSpoolFile メソッドは、スプールサーバ上のスプールデータ内の印刷データを OutputFilePath プロパティで指定されたフォルダにファイル出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

取得ファイル形式は OutputFileKind プロパティで指定します。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetSpoolFile実行
Private Sub SUB_GetSpoolFile()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "E00200605291252462630000001*****007"
    ''取得フォルダの設定
    objEURPMLS.OutputFilePath = "c:¥¥tmp"
    ''取得実行
    Call objEURPMLS.GetSpoolFile

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を取得します。取得されるスプールデータの属性情報については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

GetSpoolFileAttribute()

パラメタ

なし

解説

GetSpoolFileAttribute メソッドは、スプールサーバにあるスプールデータの属性情報の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetSpoolFileAttribute実行
Private Sub SUB_GetSpoolFileAttribute()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "E00200605291252462630000001*****007"
    Call objEURPMLS.GetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=( " & Err.Number & " )"
    List5.AddItem "Err.Description=( " & Err.Description & " )"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        List5.AddItem "格納ファイル名: " & objEURPMLS.SpoolFileName
        List5.AddItem "ページ数: " & objEURPMLS.PageNum
        ' その他参照したい情報をプロパティから取得する
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If
```



```
Set objEURPMLS = Nothing
```

```
End Sub
```

GetSpoolFileOutline メソッド

指定条件に合った EUR Server - Spool Service のスプールデータの一覧を取得します。取得されるスプールデータの一覧については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

GetSpoolFileOutline()

パラメタ

なし

解説

GetSpoolFileOutline メソッドは、スプールサーバ上の蓄積フォルダから検索条件に合ったスプールデータの一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

次のプロパティのうちどれかが指定されていると、スプールデータの検索処理が高速になります。

- SearchCreateTimeEnd
- SearchCreateTimeStart
- SearchJobID

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetSpoolFileOutline実行  
Private Sub SUB_GetSpoolFileOutline()  
    Err.Clear  
    On Error GoTo Err_Trap  
    List5.Clear
```

```

Dim objEURPMLS
Dim iLower, iUpper, I As Integer
Dim cstJobIDList() As Variant
Dim cstSpoolFileNameList() As Variant
Dim cstPageNumList() As Variant
Dim cstCreateTimeList() As Variant
Dim cstPrintResultList() As Variant
Dim cstPrinterClassNameList() As Variant

Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
Call objEURPMLS.GetSpoolFileOutline

Err_Trap:
List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

If Err.Number = 0 Then
List5.AddItem ""
List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
iLower = LBound(objEURPMLS.JobID)
iUpper = UBound(objEURPMLS.JobID)
cstJobIDList = objEURPMLS.JobID
cstSpoolFileNameList = objEURPMLS.SpoolFileName
cstPageNumList = objEURPMLS.PageNum
cstCreateTimeList = objEURPMLS.CreateTime
cstPrintResultList = objEURPMLS.PrintResult
cstPrinterClassNameList = objEURPMLS.PrinterClassName

For I = iLower To iUpper
List5.AddItem "ジョブID[" & Trim(Str(I)) & "]: " & cstJobIDList(I)
List5.AddItem "格納ファイル名[" & Trim(Str(I)) & "]: " & cstSpoolFileNameList(I)
List5.AddItem "ページ数[" & Trim(Str(I)) & "]: " & cstPageNumList(I)
List5.AddItem "作成日時[" & Trim(Str(I)) & "]: " & cstCreateTimeList(I)
List5.AddItem "印刷結果[" & Trim(Str(I)) & "]: " & cstPrintResultList(I)
List5.AddItem "プリンタクラス名[" & Trim(Str(I)) & "]: " & cstPrinterClassNameLi
st(I)

Next
List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
End If

Set objEURPMLS = Nothing

End Sub

```

GetTrayList メソッド

指定したスプールサーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を ServerTrayList プロパティに取得します。

形式

GetTrayList()

パラメタ

なし

解説

GetTrayList メソッドは、OS 上のプリンタのトレイ一覧が取得終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetTrayList実行
Private Sub SUB_GetTrayList()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    ''' OS上のプリンタ名の設定
    objEURPMLS.ServerPrinterName = "Printer1"
    ''' OS上のプリンタのトレイ一覧の取得
    Call objEURPMLS.GetTrayList

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        Dim cstTrayList As Variant
        cstTrayList = objEURPMLS.ServerTrayList

        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(cstTrayList)
```

```
        iUpper = UBound(cstTrayList)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem cstTrayList(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

Initialize メソッド

指定されたすべてのプロパティをクリアにして、初期状態に戻します。

形式

Initialize()

パラメタ

なし

解説

Initialize メソッドは、EUR Server - Spool Service Adapter のプロパティの初期化処理が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' Initialize実行
Private Sub SUB_Initialize()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")
```

```

' 変更したい項目を修正する
objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
objEURPMLS.SearchJobID = "E00200605291252462630000001000000007"
objEURPMLS.SpoolLimit = "20060615"
objEURPMLS.PrinterClassName = "A 3"

Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

' 先に指定したプロパティを初期化する
Call objEURPMLS.Initialize

' 変更したい項目を修正する
objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
objEURPMLS.SearchJobID = "E00200605190259498390000001000000019"
objEURPMLS.MaxPrintCount = 100

Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description & ")"

Set objEURPMLS = Nothing

End Sub

```

PrintSpoolReport メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルを印刷します。

形式

PrintSpoolReport()

パラメタ

なし

解説

PrintSpoolReport メソッドは、印刷方式に応じて次に示すタイミングで呼び出し元に制御が戻ります。

- 蓄積スプールサーバ印刷時
スプールサーバ上のプリンタスプールへの出力が完了したタイミング
- 蓄積クライアント印刷時
EUR Client への配信が完了したタイミング

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' PrintSpoolReport実行
Private Sub SUB_PrintSpoolReport()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "E00200605291252462630000001*****007"
    '' 印刷モード=拠点印刷
    objEURPMLS.PrintStartPage = 0
    '' 開始, 終了ページの指定
    objEURPMLS.PrintStartPage = 3
    objEURPMLS.PrintEndPage = 5
    '' 印刷実行
    Call objEURPMLS.PrintSpoolReport

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

SetSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を変更します。変更できるスプールデータの属性情報については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

SetSpoolFileAttribute()

パラメタ

なし

解説

SetSpoolFileAttribute メソッドは、スプールサーバにあるスプールデータの属性情報の変更が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

SetSpoolFileAttribute メソッドは、指定できるプロパティのうち、指定のあったプロパティだけを変更します。SetSpoolFileAttribute メソッドで指定できるプロパティについては、「[7.2.2 プロパティ一覧](#)」を参照してください。また、指定できるプロパティは、一つ以上指定してください。指定されていない場合は、エラー (KEEY528-E) になります。

実行時にエラーが発生した場合、Err.Number プロパティに終了コード、Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' SetSpoolFileAttribute実行
Private Sub SUB_SetSpoolFileAttribute()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR200605291252462630000001*****007"
    ' 変更したい項目を修正する
    objEURPMLS.SpoolLimit = "20060615"
    objEURPMLS.PrinterClassName = "A 3"

    Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

7.4 SS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様

SS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティの詳細を説明します。

AdpEnvFile プロパティ

EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルのパスを指定します。

EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの格納先のフォルダパス、またはファイルパスを指定できます。

解説

- フォルダパスを指定する場合は、EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルのデフォルトのファイル名 (EURPMLSADP.ini) が仮定されます。指定したフォルダには、デフォルトのファイル名で保存してください。

指定したフォルダにデフォルトのファイル名のファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。

フォルダパスを指定する場合の用途を次に示します。

- 環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更
- 業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (フォルダ指定)
- 次に示すコンポーネントの環境設定ファイルを同じフォルダに格納
 - EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini)
 - EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini)
 - EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini)
 - EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini)

各環境設定ファイルの指定方法については、「[15. 環境設定ファイル](#)」を参照してください。

- ファイルパスを指定する場合は、任意のファイル名を指定できます。

指定したファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。

ファイルパスを指定する場合の用途を次に示します。

- 環境設定ファイルを任意の格納先およびファイル名に変更
- 業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (ファイル指定)
- EUR Server Service, EUR Server - Adapter, EUR Server - Spool Service, EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの設定内容を同じファイルに指定

各環境設定ファイルの指定方法については、「[15. 環境設定ファイル](#)」を参照してください。

なお、各コンポーネントの環境設定ファイル間で重複するキーを指定した場合、そのキーを参照するコンポーネントすべてに有効となります。環境設定ファイル間で重複するキーを次の表に示します。

表 7-3 環境設定ファイル間で重複するキー

セクション	重複するキー	EUR Server Service の環境設定ファイル	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル
PORT	EURPM	○	○	—	—
	EURPMCL	○	—	○	—
	EURPMLS	○	—	○	○
PATH	<ul style="list-style-type: none"> • CONF • TEMP 	○	—	○	—
ERROR	<ul style="list-style-type: none"> • LOGFILE • LOGLEVEL • LOGSIZE 	○	○	○	○
OPTION	DATABUFFSIZE	—	○	—	○
	<ul style="list-style-type: none"> • RMDIRRETRYCOUNT • RMDIRINTERVALTIME • TEMPFILEDEL 	○	—	○	—
	SOCKBUFFSIZE	○	○	○	○
THREAD	<ul style="list-style-type: none"> • EURPS • GENERAL • MERGE 	○	—	○	—
TIMEOUT	<ul style="list-style-type: none"> • CONNECT • ERRIGNORE 	○	—	○	—
	PRTCLSLIST	—	○	—	○

(凡例)

- ：該当するキーがあります。
- ：該当するキーがありません。

- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- AdpEnvFile プロパティを省略した場合は、デフォルトの格納先の環境設定ファイルが使用されます。
- AdpEnvFile プロパティで指定した環境設定ファイルは、SS-ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか、または再度指定されるまで有効になります。

データ型

String

ClientAddress プロパティ

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレスを指定または取得します。

解説

- ClientAddress プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスが「255.255.255.255」形式で取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。長さは 15 バイトまでです。
- サーバアプリケーションから次のような API を使用すると、Web クライアントの要求元を取得できません。指定方法などについては、各 API のアプリケーションサーバの仕様を確認してください。

ASP の場合

```
Request.ServerVariables("REMOTE_ADDR")
```

JSP の場合

```
request.getRemoteAddr()
```

- ClientAddress プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ClientAddress プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientAddress プロパティの指定を省略したときは、デフォルト値 (127.0.0.1) を仮定して印刷します。複数のスプールデータの EPF 形式ファイルを統合して印刷するときは、最初に指定したスプールデータの属性情報でクライアント PC の IP アドレスを決定します。なお、ClientAddress プロパティとスプールデータの属性情報のどちらにもクライアント IP アドレスの設定がないときは、蓄積クライアント印刷実行時にエラーとなります。

データ型

String

ClientPrinterName プロパティ

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名を指定または取得します。

解説

- プリンタ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するとき ClientPrinterName プロパティの指定があると、DispPrintDlg プロパティは強制的に「1（自動印刷）」になります。蓄積時に指定したクライアント PC のプリンタに出力されます。
- ClientPrinterName プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
クライアント PC の、OS 上のプリンタ名が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
クライアント PC の、OS 上のプリンタ名を指定します。
- ClientPrinterName プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ClientPrinterName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientPrinterName プロパティの指定を省略したときは、次の値が仮定されます。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientPrinterName プロパティに空文字を指定したときは、プリンタ名情報は未設定となります。

データ型

String

ClientTrayName プロパティ

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を指定または取得します。

解説

- トレイ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - トレイ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに ClientPrinterName プロパティの指定があると、ClientTrayName プロパティで指定したトレイから給紙されます。

ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタで ClientTrayName プロパティに指定したトレイ名が使用できないときは、ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientTrayName プロパティの指定を省略したときは、次の値が仮定されます。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientTrayName プロパティに空文字を指定したときは、トレイ名情報は未設定となります。
- ClientTrayName プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
クライアント PC の、OS 上のプリンタのトレイ名が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
クライアント PC の、OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。
- ClientTrayName プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ClientTrayName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

CreateIPAddress プロパティ

スプールデータを作成したマシンの IP アドレスを取得します。

解説

- CreateIPAddress プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、スプールデータ作成者の IP アドレスが「255.255.255.255」形式で取得されます。
- CreateIPAddress プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、CreateIPAddress プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

CreateLSVersion プロパティ

スプールデータのフォーマットバージョンを取得します。

解説

- CreateLSVersion プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、スプールデータのフォーマットバージョンが「VV-RR」形式で取得されます。
スプールデータのフォーマットバージョンは、EUR Server - Spool Service のバージョンとは異なります。
- CreateLSVersion プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、CreateLSVersion プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

CreateTime プロパティ

スプールデータの作成日時を取得します。

解説

- CreateTime プロパティは、次に示すどちらのメソッドを呼び出すかによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
検索条件に合ったスプールデータの作成日時が配列で取得されます。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
指定したジョブ ID のスプールデータの作成日時が取得されます。

- 取得されるスプールデータの作成日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めされます。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めされます。
 - hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。
 - mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。
 - ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- CreateTime プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、および GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、CreateTime プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- String（GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合）

DeleteKind プロパティ

スプールデータを削除するときの削除種別を指定します。

解説

- スプールデータを削除するときの削除種別を、0、または1で指定します。0、または1以外の値を指定したときは、エラーになります。デフォルトは、「0（通常削除）」です。
 - 0：通常削除
SearchJobID プロパティで指定したジョブ ID に該当するスプールデータを削除します。
 - 1：蓄積期限切れファイルの削除
EUR Server - Spool Service のあるマシンで、蓄積期限が過ぎているスプールデータを削除します。
- 蓄積期限切れファイルの削除は、EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル（EURPMLS.ini）で OPTION セクションの ESFAUTODEL キーに「1（自動削除します）」を設定しておくことで、次に示すタイミングで自動的に実行することもできます。
 - EUR Server - Spool Service のサービスを起動したとき
 - EUR Server - Spool Service が稼働するマシンの日付が変わったあと、EUR Server - Spool Service に対して最初の要求があったとき（日付変更の契機にローカルタイムと協定世界時（UTC）のどち

らを使用するかを、環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の OPTION セクションの STANDARDTIME キーで設定できます)

- DeleteKind プロパティは、DeleteSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、DeleteKind プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

DispPrintDlg プロパティ

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定または取得します。

解説

- 指定できる値と蓄積クライアント印刷時の動作を次に示します。
 - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
 - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
 - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
 - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
 - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
印刷は実行できません。
- 蓄積クライアント印刷実行時、ClientPrinterName プロパティに値を指定している場合、かつ DispPrintDlg プロパティに 0 または 2 を指定した場合は、DispPrintDlg プロパティに 1 が仮定されます。
- DispPrintDlg プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードが取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。
- SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に、0~4 以外の値が指定されていたときは、エラーになります。
- DispPrintDlg プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷す

る場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、DispPrintDlg プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

EnableGet プロパティ

スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得を許可するかどうかを指定または取得します。

解説

- EnableGet プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと EPF 形式ファイルの取得許可情報が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前 EPF 形式ファイルの取得許可を指定します。
- EPF 形式ファイルの取得許可情報を次に示します。
 - True : EPF 形式ファイルの取得を許可します。
 - False : EPF 形式ファイルの取得を許可しません。
- EnableGet プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、EnableGet プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Boolean

ExecPrintCount プロパティ

スプールデータの印刷実行回数を取得します。

解説

- ExecPrintCount プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、スプールデータの印刷実行回数が取得されます。
印刷実行回数は、スプールサーバでの印刷で印刷スプールへの出力が成功したとき、またはクライアント PC での印刷で EPF 形式ファイルの転送が成功したときに、1 カウントずつアップされます。

- ExecPrintCount プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ExecPrintCount プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

ExecutablePrintMode プロパティ

スプールデータの実行可能印刷方式を指定または取得します。

解説

- ExecutablePrintMode プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
スプールデータの実行可能印刷方式が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
スプールデータの実行可能印刷方式を指定します。
- スプールデータの実行可能印刷方式を次に示します。
 - 0：蓄積スプールサーバ印刷
 - 1：蓄積スプールサーバ印刷／蓄積クライアント印刷
 - 2：蓄積クライアント印刷

SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に、0, 1, または 2 以外の値が指定されていたときは、エラーになります。

- ExecutablePrintMode プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ExecutablePrintMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

GroupName プロパティ

スプールデータの振り分けグループ名を指定または取得します。

解説

- 振り分けグループ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - 振り分けグループ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「"」、および「,」を含めないでください。
- GroupName プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
スプールデータの振り分けグループ名が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
スプールデータの振り分けグループ名を指定します。
- GroupName プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に帳票名による自動振り分け (PrinterSelectMode=2) を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、GroupName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷で GroupName プロパティの指定が有効な場合に、GroupName プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトの振り分けグループで出力先を決定して印刷します。

データ型

String

JobID プロパティ

ジョブ ID を取得します。

解説

- JobID プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと、検索条件に合ったスプールデータのジョブ ID が配列で取得されます。
- JobID プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、JobID プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

JobKeyCategory プロパティ

スプールデータのジョブ検索キーの分類を指定または取得します。

解説

- JobKeyCategory プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
スプールデータのジョブ検索キーの分類が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
スプールデータのジョブ検索キーの分類を指定します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は、1～10 個の配列で指定してください。また、JobKeyCategory プロパティを指定する場合は、ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また、ジョブ検索キーを指定しない場合は、JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- ジョブ検索キーは、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- JobKeyCategory プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、JobKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

JobKeyData プロパティ

スプールデータのジョブ検索キーの値を指定または取得します。

解説

- JobKeyData プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
スプールデータのジョブ検索キーの値が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
スプールデータのジョブ検索キーの値を指定します。

- ジョブ検索キーを指定する場合は、1～10個の配列で指定してください。また、JobKeyCategory プロパティを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また、検索キーを指定しない場合は、JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- 値は、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- JobKeyData プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、JobKeyData プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

MaxPrintCount プロパティ

スプールデータの印刷上限回数を指定または取得します。

解説

- MaxPrintCount プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとスプールデータの印刷上限回数が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前スプールデータの印刷上限回数を指定します。
- 印刷上限回数に指定できる値は、-1～65,536 です。
 - 印刷回数の上限を無限にする場合は、-1 を指定してください。
 - 印刷を禁止する場合は、0 を指定してください。
 - 印刷回数を指定する場合は、1～65,536 の範囲内で指定してください。

SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に、-1, 0, または 1～65,536 以外の値が指定されていたときは、エラーになります。

- MaxPrintCount プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、MaxPrintCount プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

OutputFileKind プロパティ

スプールデータから印刷データをファイルで取得するときのファイル形式を指定します。

解説

- 取得ファイル形式を、0、または1で指定します。0、または1以外の値を指定したときは、エラーになります。デフォルト値は0（EPF形式）です。
 - 0：EPF形式
 - 1：PDF形式
- OutputFileKind プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、OutputFileKind プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

OutputFileName プロパティ

スプールデータから印刷データをファイルで取得するときのファイル名を指定します。

解説

- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- OutputFileName プロパティを省略した場合、ファイル名は次のようになります。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのファイル名
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのファイル名
- OutputFileName プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、OutputFileName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

OutputFilePath プロパティ

スプールデータから印刷データをファイルで取得するときの取得先フォルダのパスを指定します。

解説

- EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) で、PATH セクションに OUTPUTFILE キーを指定することで、デフォルトのスプールデータ取得フォルダを指定することもできます。
- GetSpoolFile メソッドを実行した場合、OutputFilePath プロパティおよび環境設定ファイルのどちらも指定されていないときは、エラーになります。
- フォルダのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- OutputFilePath プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、OutputFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

PageNum プロパティ

スプールデータに格納された EPF 形式ファイルのページ数を取得します。

解説

- PageNum プロパティは、次に示すどちらのメソッドを呼び出すかによって、スプールデータに格納された EPF 形式ファイルのページ数の情報が異なります。
 - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
検索条件に合ったスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのページ数が配列で取得されます。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのページ数が取得されます。
- PageNum プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、および GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PageNum プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- Long 配列 (GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合)
- Long (GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合)

PaperOrientation プロパティ

用紙の向きを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PaperOrientation プロパティを省略した場合、次のように動作します。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報に従います。
- ジョブ ID を複数指定しているとき
EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従います。

PaperOrientation プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、および PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PaperOrientation プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintCopies プロパティ

印刷部数を指定します。

解説

指定できる値は、1～99 です。PrintCopies プロパティを省略した場合、次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
1

PrintCopies プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、および PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrintCopies プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintEndPage プロパティ

スプールデータをスプールサーバで印刷するときの終了ページを指定します。

解説

- PrintEndPage プロパティは、蓄積印刷方式が蓄積スプールサーバ印刷 (PrintMode=0) のとき、有効になります。蓄積クライアント印刷 (PrintMode=1) のときは、PrintEndPage プロパティを指定しても無視されます。
- 指定できる値は、1~999,999 です。PrintEndPage プロパティを省略した場合は、最終ページまで印刷されます。また、スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの最終ページ数より PrintEndPage プロパティに指定した値が大きい場合も、最終ページまで印刷されます。
- PrintEndPage プロパティは、PrintSpoolReport メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrintEndPage プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrinterClassList プロパティ

スプールサーバに登録されているプリンタクラス一覧を取得します。

解説

- GetPrinterClassList メソッドを呼び出したあと、プリンタクラス一覧が取得されます。プリンタクラス一覧は、次に示す形式でプリンタクラス情報数分取得されます。
[プリンタクラス名][OS 上のプリンタ名][OS 上のプリンタのトレイ名][説明]
- スプールサーバにプリンタクラス定義がない場合、配列の要素数は 0 になります。
- PrinterClassList プロパティは、GetPrinterClassList メソッドでプリンタクラス一覧を取得する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrinterClassList プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 二次元配列

PrinterClassName プロパティ

スプールデータのプリンタクラス名を指定または取得します。

解説

- 蓄積スプールサーバ印刷する場合にプリンタ指定方式でプリンタクラス名指定 (PrinterSelectMode=0) を指定したとき、および蓄積クライアント印刷する場合に ClientPrinterName プロパティの指定がないときに、PrinterClassName プロパティで指定したプリンタクラスを出力先にします。SetSpoolFileAttribute メソッドの呼び出しでプリンタクラス名を変更しても無視されます。
- PrinterClassName プロパティは、次に示すどのメソッドを呼び出すかによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
検索条件に合ったスプールデータのプリンタクラス名が配列で取得されます。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
指定したジョブ ID のスプールデータのプリンタクラス名が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、PrintSpoolReport メソッド、および GetSpoolFile メソッドを呼び出す前
スプールデータのプリンタクラス名を指定します。SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積後に変更したプリンタクラス名が有効になるのは、スプールサーバ印刷だけです。
- プリンタクラス名は、任意の文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタクラス名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。
- PrinterClassName プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、GetSpoolFileAttribute メソッド、SetSpoolFileAttribute メソッド、および GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrinterClassName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷でプリンタ指定方式がプリンタクラス名指定 (PrinterSelectMode=0) の場合に、PrinterClassName プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトのプリンタクラスで印刷します。
- 蓄積クライアント印刷する場合、およびスプールデータを取得する場合に PrinterClassName プロパティに空文字を指定したときは、プリンタクラス情報は未設定となります。
- 蓄積クライアント印刷する場合、およびスプールデータを取得する場合に PrinterClassName プロパティの指定を省略したときは、次のようになります。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき

指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値が仮定されます。

- ジョブ ID を複数指定しているとき
プリンタクラス情報は未設定となります。

データ型

- String 配列 (GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合)
- String (GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合)
- String (SetSpoolFileAttribute メソッド, GetSpoolFile メソッド, または PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前の場合)

PrinterSelectMode プロパティ

蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定または取得します。

解説

- PrinterSelectMode プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド, および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定します。
- PrintSpoolReport メソッド実行時に PrinterSelectMode プロパティを指定する場合、帳票の出力先は次のプロパティの指定値によって決定します。

- PrinterClassName プロパティ
- ServerPrinterName プロパティ
- ServerTrayName プロパティ
- GroupName プロパティ

どのプロパティの指定値が有効になるかは、PrinterSelectMode プロパティの指定値によって異なります。また、指定を省略した場合は、そのプロパティの情報は未設定として扱われます。

- PrintSpoolReport メソッド実行時に PrinterSelectMode プロパティの指定を省略する場合は、次の値が仮定されます。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
- 蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を次に示します。

- 0：プリンタクラス名指定
- 1：OS 上のプリンタ名指定
- 2：帳票名による自動振り分け

SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に、0、1、または2以外の値が指定されていたときは、エラーになります。

- PrinterSelectMode プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで印刷を実行する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrinterSelectMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintMode プロパティ

スプールデータの印刷方式を指定します。

解説

- 蓄積したデータの印刷方式を次に示します。PrintMode プロパティを省略した場合は、0が仮定されます。
 - 0：蓄積スプールサーバ印刷
 - 1：蓄積クライアント印刷

PrintSpoolReport メソッド実行時に、0、または1以外の値が指定されていたときは、エラーになります。

- PrintMode プロパティは、PrintSpoolReport メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrintMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintResult プロパティ

スプールデータの印刷結果を取得します。

解説

- 取得される印刷結果を次に示します。

- 0：未印刷であることを示します。
- 1：印刷済みであることを示します。
- 2：印刷エラーがあったことを示します。
- PrintResult プロパティは、次に示すどちらのメソッドを呼び出すかによって、スプールデータ内の印刷結果の情報が異なります。
 - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
検索条件に合ったスプールデータの印刷結果が配列で取得されます。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
指定したジョブ ID のスプールデータの印刷結果が取得されます。
- PrintResult プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、および GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrintResult プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- Long 配列 (GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合)
- Long (GetSpoolFileAttribute メソッド呼び出したあとの場合)

PrintStartPage プロパティ

スプールデータをスプールサーバで印刷するときの開始ページを指定します。

解説

- PrintStartPage プロパティは、蓄積印刷方式が蓄積スプールサーバ印刷 (PrintMode=0) のとき、有効になります。蓄積クライアント印刷 (PrintMode=1) のときは、PrintStartPage プロパティを指定しても無視されます。
- 指定できる値は、1~999,999 です。PrintStartPage プロパティを省略した場合は、1 ページから印刷されます。
- PrintStartPage プロパティに指定した値がスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの最終ページ数より大きい場合は、EPF 形式ファイルの最終ページだけ印刷されます。
- PrintStartPage プロパティは、PrintSpoolReport メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrintStartPage プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintTime プロパティ

スプールデータの印刷日時を取得します。

解説

- 取得されるスプールデータの印刷日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めされます。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めされます。
 - hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。
 - mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。
 - ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- スプールデータが一度も印刷されていない場合は、"" が取得されます。
- PrintTime プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、PrintTime プロパティを指定しても無視されます。
- スプールデータの印刷日時は、蓄積したデータをスプールサーバまたはクライアント PC で印刷したタイミングで、ジョブ実行時の日時に更新されます。

データ型

String

ReportAddressKeyCategory プロパティ

スプールデータの宛先キーの分類を取得します。

解説

ReportAddressKeyCategory プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、指定したスプールデータの宛先キーの分類を取得します。

データ型

String

ReportAddressKeyData プロパティ

スプールデータの宛先キーの値を取得します。

解説

ReportAddressKeyData プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、指定したスプールデータの宛先キーの値を取得します。

データ型

String

SearchCreateTimeEnd プロパティ

スプールデータを作成日時で検索するときに、検索終了日時を指定します。

SearchCreateTimeEnd プロパティを指定すると、メソッド実行速度が速くなる場合があります。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件としてファイル作成日時を使用するときに、検索終了日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で指定します。指定できる文字列は、14バイトまでです。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
 - mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
 - ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。

(指定例)

2006年11月8日15:1:40 → 20061108150140

- SearchCreateTimeEnd プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchCreateTimeEnd プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SearchCreateTimeStart プロパティ

スプールデータを作成日時で検索するときに、検索開始日時を指定します。

SearchCreateTimeStart プロパティを指定すると、メソッド実行速度が速くなることがあります。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件としてファイル作成日時を使用するときに、検索開始日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で指定します。指定できる文字列は、14バイトまでです。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
 - mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
 - ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。

(指定例)

2006年5月23日9:56:30 → 20060523095630

- SearchCreateTimeStart プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchCreateTimeStart プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SearchJobID プロパティ

スプールデータを検索するジョブ ID を指定します。

解説

- ジョブ ID に指定できる文字列は、36バイトまでです。
- GetSpoolFile メソッド、GetSpoolFileAttribute メソッド、PrintSpoolReport メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す場合に使用するときは、必ず SearchJobID プロパティを指定してください。
- GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出す場合に使用するときは、SearchJobID プロパティの指定は任意です。

- DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に使用するとき、DeleteKind プロパティの指定によって次のように異なります。
 - 指定したジョブ ID のスプールデータの削除 (DeleteKind=0) のときは、必ず指定してください。
 - 蓄積期限切れファイルの削除 (DeleteKind=1) のときは、指定する必要はありません。
- SearchJobID プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、GetSpoolFileAttribute メソッド、SetSpoolFileAttribute メソッド、PrintSpoolReport メソッド、GetSpoolFile メソッド、および DeleteSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchJobID プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String (PrintSpoolReport メソッド、GetSpoolFile メソッド、または DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に一つのジョブ ID を指定するとき)
- String 配列 (PrintSpoolReport メソッド、GetSpoolFile メソッド、または DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に複数のジョブ ID を指定するとき)
- String (上記以外のメソッドを呼び出す場合)

SearchJobKeyCategory プロパティ

スプールデータをジョブ検索キーで検索するときに、ジョブ検索キーの分類を指定します。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件として SearchJobKeyCategory プロパティで指定したジョブ検索キーの分類と、SearchJobKeyData プロパティで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は、1~10 個の配列で指定してください。また、SearchJobKeyCategory プロパティを指定する場合は、ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず SearchJobKeyData プロパティに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。
ジョブ検索キーを指定しない場合、SearchJobKeyCategory プロパティと SearchJobKeyData プロパティは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。
- 分類は、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
 - 空文字列「''」は指定しないでください。

- SearchJobKeyCategory プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchJobKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

SearchJobKeyData プロパティ

スプールデータをジョブ検索キーで検索するときに、ジョブ検索キーの値を指定します。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件として SearchJobKeyCategory プロパティで指定したジョブ検索キーの分類と、SearchJobKeyData プロパティで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は、1～10 個の配列で指定してください。また、SearchJobKeyCategory プロパティを指定する場合は、ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず SearchJobKeyData プロパティに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。
ジョブ検索キーを指定しない場合、SearchJobKeyCategory プロパティと SearchJobKeyData プロパティは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。
- ジョブ検索キーの値は、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- SearchJobKeyData プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchJobKeyData プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

SearchPrinterClassName プロパティ

スプールデータをプリンタクラス名で検索するときに、プリンタクラス名を指定します。

解説

- プリンタクラス名は、任意の文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタクラス名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。
- SearchPrinterClassName プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchPrinterClassName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SearchReportAddressKeyCategory プロパティ

スプールデータを宛先キーで検索するときに、宛先キーの分類を指定します。

解説

- 宛先キーの分類は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80 バイトで指定してください。
 - 文字列に、「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。
- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、SearchReportAddressKeyCategory プロパティで指定した宛先キーの分類と、SearchReportAddressKeyData プロパティで指定した宛先キーの値が一致するものを検索します。
- SearchReportAddressKeyData プロパティが指定されていない場合エラーになります。

データ型

String 配列

SearchReportAddressKeyData プロパティ

スプールデータを宛先キーで検索するときに、宛先キーの値を指定します。

解説

- 宛先キーの値は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80 バイトで指定してください。
 - 文字列に、「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、SearchReportAddressKeyCategory プロパティで指定した宛先キーの分類と、SearchReportAddressKeyData プロパティで指定した宛先キーの値が一致するものを検索します。
- SearchReportAddressKeyCategory プロパティが指定されていない場合エラーになります。

データ型

String 配列

SearchSpoolFileName プロパティ

スプールデータをスプールデータに格納されている EPF 形式ファイル名で検索するときに、EPF 形式ファイル名を指定します。

解説

- EPF 形式ファイル名は、255 バイト以内になるように指定してください。
- SearchSpoolFileName プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SearchSpoolFileName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ServerAddress プロパティ

スプールサーバの IP アドレスを指定します。

解説

- スプールサーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。指定できる文字列は、15 バイトまでです。
- ServerAddress プロパティの指定がない場合は、EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) の IPADDRESS セクションの EURPMLS キーに設定されている EUR Server - Spool Service が稼働するサーバの IP アドレスが仮定されます。EURPMLS キーが省略されているとき、または値が指定されていないときは、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。
- ServerAddress プロパティは、次に示すメソッドで操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ServerAddress プロパティを指定しても無視されます。

- GetSpoolFileOutline メソッド, GetSpoolFileAttribute メソッド, SetSpoolFileAttribute メソッド, PrintSpoolReport メソッド, GetSpoolFile メソッド, DeleteSpoolFile メソッドでスプールデータを操作するとき
- GetPrinterClassList メソッドでプリンタクラス一覧を取得するとき
- GetPrinterList メソッドでプリンター一覧を取得するとき
- GetTrayList メソッドでトレイ一覧を取得するとき

データ型

String

ServerPrinterList プロパティ

スプールサーバでの OS 上のプリンター一覧を取得します。

解説

- ServerPrinterList プロパティは, GetPrinterList メソッドでプリンター一覧を取得する場合だけ値が取得されます。それ以外のメソッドでは, ServerPrinterList プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

ServerPrinterName プロパティ

スプールサーバでの OS 上のプリンタ名を指定または取得します。

解説

- ServerPrinterName プロパティは, 次に示すどのメソッドを呼び出すかによって, 値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
スプールデータを蓄積スプールサーバ印刷するときの OS 上のプリンタ名を取得します。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド, および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
スプールデータを蓄積スプールサーバ印刷するときの OS 上のプリンタ名を指定します。
 - GetTrayList メソッドを呼び出す前
トレイ一覧を取得したいスプールサーバでの OS 上のプリンタ名を指定します。
- GetTrayList メソッドを呼び出す場合に使用するときは, 必ず ServerPrinterName プロパティを指定してください。

- SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときには、ServerPrinterName プロパティの指定は任意です。
- プリンタ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名に「"」および「,」を含めないでください。
- ServerPrinterName プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、PrintSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) を指定したとき、ならびに GetTrayList メソッドでトレイ一覧を取得する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ServerPrinterName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷で ServerPrinterName プロパティの指定が有効な場合に、ServerPrinterName プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトのプリンタで印刷します。

データ型

String

ServerTrayList プロパティ

ServerPrinterName プロパティで指定した OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

解説

- ServerTrayList プロパティは、GetTrayList メソッドでトレイ一覧を取得する場合だけ値が取得されます。それ以外のメソッドでは、ServerTrayList プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

ServerTrayName プロパティ

スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を指定または取得します。

解説

- ServerTrayName プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと蓄積スプールサーバ印刷するときの、OS 上のプリンタのトレイ名が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッド、および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前

蓄積スプールサーバ印刷するときの、OS上のプリンタのトレイ名を指定します。

- トレイ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - トレイ名は、80バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- ServerTrayName プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定 (PrinterSelectMode=1) を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、ServerTrayName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷で ServerTrayName プロパティの指定が有効な場合に、ServerTrayName プロパティの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトのトレイから給紙されます。

データ型

String

SortPrint プロパティ

印刷部数の単位を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SortPrint プロパティを省略した場合、次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
0

SortPrint プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、および PrintSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合に指定が有効になります。それ以外の場合、SortPrint プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

SpoolFileName プロパティ

スプールデータにある EPF 形式ファイル名を取得します。

解説

- SpoolFileName プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、スプールデータにある EPF 形式ファイル名の取得情報が異なります。
 - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
検索条件に合ったスプールデータにある EPF 形式ファイル名が配列で取得されます。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
指定したジョブ ID のスプールデータにある EPF 形式ファイル名が取得されます。
- SpoolFileName プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、および GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SpoolFileName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String 配列 (GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合)
- String (GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合)

SpoolFileSize プロパティ

指定したジョブ ID のスプールデータにある EPF 形式ファイルのサイズ (バイト) を取得します。

解説

- SpoolFileSize プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータの属性情報を取得する場合に取得されます。それ以外のメソッドでは、SpoolFileSize プロパティを指定しても無視されません。

データ型

Long

SpoolHistory プロパティ

スプールデータの履歴を取得します。

解説

- GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの履歴が情報数分取得されます。取得されるスプールデータの履歴の形式を次に示します。
[操作種別][操作日時][IP アドレス][操作対象][変更前][変更後][印刷実行結果]
(出力例)
[拠点印刷][20060314164300][255.255.xxx.xxx][][][印刷済み]
[変更][20060314181501][255.255.xxx.xxx][プリンタクラス][標準][A3]
[取得][20060314190506][255.255.xxx.xxx][][]
- 蓄積直後の配列の要素数は 0 です。
- SpoolHistory プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータの属性情報を取得する場合に取得されます。それ以外のメソッドでは、SpoolHistory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 二次元配列

SpoolLimit プロパティ

スプールデータの蓄積期限日を指定または取得します。

解説

- SpoolLimit プロパティは、次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって、値が異なります。
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
スプールデータの蓄積期限日が取得されます。
 - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
スプールデータの蓄積期限日を指定します。
- スプールデータの蓄積期限日は「YYYYMMDD」形式で指定します。指定できる文字列は、8 バイトまでです。

「YYYYMMDD」形式の内容を次に示します。

- YYYY：年（西暦）を 4 桁で示します。
- MM：月（01～12）を 2 桁で示します。01～09 は、ゼロ埋めします。
- DD：日（01～31）を 2 桁で示します。01～09 は、ゼロ埋めします。

(指定例)

2006 年 5 月 23 日 → 20060523

- SpoolLimit プロパティは、GetSpoolFileAttribute メソッド、および SetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SpoolLimit プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SpoolPath プロパティ

常に""が取得されます。

解説

- SpoolPath プロパティは、次に示すどちらのメソッドを呼び出しても、常に""が取得されます。
 - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
 - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
- SpoolPath プロパティは、GetSpoolFileOutline メソッド、および GetSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SpoolPath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String 配列 (GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合)
- String (GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合)

SpoolTitle プロパティ

スプールタイトルを指定します。

解説

- スプールタイトルには、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - スプールタイトルは、255 バイト以内で指定してください。
 - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
 - 空文字を指定したときは、スプールタイトル情報は未設定となります。
- SpoolTitle プロパティは、GetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、および PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、SpoolTitle プロパティを指定しても無視されます。
- SpoolTitle プロパティの指定を省略した場合は、次のようになります。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報が設定されます。
- ジョブ ID を複数指定しているとき
スプールタイトル情報は未設定となります。

データ型

String

7.5 エラー情報

ActiveX 起動部品, または SS-ActiveX 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは, Err オブジェクトの Number プロパティに終了コード, Description プロパティにメッセージが設定されます。

7.5.1 SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧

SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧を次に示します。

表 7-4 SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧

終了コード	メッセージ文
-501	プロパティ(プロパティ名)の指定値に誤りがあります。
-502	プロパティ(プロパティ名)が指定されていません。
-503	原因不明のエラーで処理が中断されました。EUR Spool Service の状態を確認してください。
-504	印刷開始ページの入力値が印刷終了ページの入力値より大きいです。
-505	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-506	ログファイルの書き込みに失敗しました。
-507	EUR Spool Service への接続に失敗しました。
-510	メモリ不足が発生しました。
-511	通信タイムアウトが発生しました。
-512	システムエラーが発生しました。
-513	蓄積ファイル一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-515	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-516	プリンター一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-517	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-518	蓄積ファイルの取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-519	蓄積ファイルの印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)
-520	蓄積ファイルの属性取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-521	蓄積ファイルの属性設定処理でエラーが発生しました。(nnn)
-522	蓄積ファイルの削除処理でエラーが発生しました。(nnn)
-523	蓄積ファイルの初期化に失敗しました。
-524	蓄積ファイルの作成に失敗しました。

終了コード	メッセージ文
-525	EUR Spool Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
-526	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-527	指定された蓄積ファイルはほかの人が使用中です。
-528	属性値設定プロパティが一つも指定されていません。
-529	EUR Client Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
-531	蓄積ファイルのデータ取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-532	蓄積ファイル一覧取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-533	蓄積ファイルの取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-534	蓄積ファイルの印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
-535	蓄積ファイルの属性取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-536	蓄積ファイルの属性設定処理で警告が発生しました。(nnn)
-537	蓄積ファイルの削除処理で警告が発生しました。(nnn)
-538	指定されたジョブ ID 検索値の数が上限値を超えています。
-540	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]
-541	EUR Spool Service のバージョンが不正です。
-542	ユーザ認証に失敗しました。(nnn)
-543	配送帳票取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-544	帳票一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-545	蓄積ファイル一覧取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-546	蓄積ファイルの取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-547	蓄積ファイルの印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
-548	蓄積ファイルの属性取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-549	蓄積ファイルの属性設定処理で警告が発生しました。(nnn)
-550	蓄積ファイルの削除処理で警告が発生しました。(nnn)
-551	ログイン処理でエラーが発生しました。(nnn)
-552	監査ログファイルの切り替えに失敗しました。(nnn)
-553	監査ログ切り替え機能で警告が発生しました。(nnn)

7.5.2 Err.Number プロパティ (終了コード)

ActiveX 起動部品, または SS-ActiveX 起動部品のメソッドの実行でエラーが発生した場合, Err オブジェクトの Number プロパティに終了コードが設定, または更新されます。正常終了した場合は, 終了コードは更新されません。そのため, ActiveX 起動部品, または SS-ActiveX 起動部品のメソッドの実行後に Number プロパティの終了コードを参照しても正しいエラー判定ができません。

ActiveX 起動部品, または SS-ActiveX 起動部品のメソッドを実行する前は, Number プロパティに終了コードが設定されていない (エラーが発生していない) ことを判定してから EUR Server Service のメソッドを実行することをお勧めします。

終了コードとメッセージの一覧については, 「6.5.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」, または 「7.5.1 SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については, マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

7.5.3 Err.Description プロパティ (メッセージ文)

Err オブジェクトの Description プロパティは, エラー, または警告発生時のメッセージが設定されます。終了コードとメッセージの一覧については, 「6.5.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」, または 「7.5.1 SS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については, マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

8

Java 起動部品

この章では、EUR Server Service で提供する Java 起動部品を使用した帳票出力について説明します。

8.1 Java 起動部品とは

サーバ側で動作する Java プログラムから、EUR Server Service を起動して帳票出力できる部品を提供しています。これを、**Java 起動部品**といます。

Web/AP サーバ側のアプリケーション実行環境から Java 起動部品を利用することで、サーバ側のアプリケーションを効率良く作成できます。

Java 起動部品は、帳票ファイル名などを設定メソッドで設定し、実行メソッドを呼び出して帳票を出力します。

なお、Java 起動部品は、複数のスレッドで同時に実行できるマルチスレッド対応プログラムです。スレッドごとにオブジェクトを生成してプロパティを設定し、メソッドを実行してください。

8.1.1 JDK バージョン

Java 起動部品 (EURPMAdapter.jar) が前提とする JDK のバージョンを次に示します。

表 8-1 Java 起動部品の JDK バージョン

OS	JDK のバージョン
Windows	JDK 5.0 以降
AIX	JDK 5.0 以降
HP-UX	JDK 5.0 以降
Linux	JDK 5.0 以降

8.1.2 ファイル名

(1) Java 起動部品のファイル構成

(a) Windows 環境の場合

Java 起動部品は、次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMAdapter.jar
- EURPMADJ.dll

EURPMAdapter.jar と EURPMADJ.dll は、EUR Server - Adapter をインストールしたときに、次に示すフォルダにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

インストール先フォルダ¥Adapter¥Java

64 ビットプログラムから呼び出すとき

インストール先フォルダ¥Adapter¥Java(x64)

(b) UNIX/Linux 環境の場合

Java 起動部品は、次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMAdapter.jar
- libEURPMADJ.so

EURPMAdapter.jar は、EUR Server - Adapter をインストールしたときに、次に示すディレクトリにインストールされます。

/opt/eur/adapter/java/

libEURPMADJ.so は、次に示すディレクトリにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

/opt/eur/adapter/lib/

64 ビットプログラムから呼び出すとき

/opt/eur/adapter/lib64/

(2) Java 起動部品の設定方法

Java 起動部品の設定方法を次に示します。両方とも実施してください。

- EURPMAdapter.jar ファイルのフルパスをクラスパスに追加します。
- Windows 環境の場合は EURPMADJ.dll のインストール先フォルダに、UNIX/Linux 環境の場合は libEURPMADJ.so のインストール先ディレクトリに、ライブラリのパスを通します。

JSP や Java サブレットアプリケーションで管理するフォルダ、クラスパスの設定、およびライブラリのパスの設定については、JSP 環境のマニュアルを参照してください。

8.1.3 パッケージ

Java 起動部品では、JP.co.Hitachi.soft.EURPM パッケージを提供します。

JP.co.Hitachi.soft.EURPM パッケージは、次に示すクラスを提供します。

- 帳票出力の制御を行うクラス
EURPMAdapterForJava：帳票出力を制御するクラス

- 例外の制御を行うクラス

EURPMEException：帳票出力時に発生するエラー（例外）を管理するクラス

8.2 EURPMAAdapterForJava クラス

EURPMAAdapterForJava クラスは、帳票出力を制御するクラスです。

```
public class EURPMAAdapterForJava
```

クラス継承

```
java.lang.Object
```

```
JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAAdapterForJava
```

解説

帳票ファイル、データファイル、出力種別（プリンタ出力、EPF 形式ファイル、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、または Excel 形式ファイル）などのプロパティを設定するメソッドと、帳票出力を行うメソッドを提供します。

JSP や Java サブレットなどのアプリケーションプログラムからは、次に示す手順で帳票出力をします。

1. CSV 形式ファイルの作成
2. EURPMAAdapterForJava オブジェクトの作成
3. プロパティの設定

帳票ファイル、データファイル、出力種別（プリンタ出力、EPF 形式ファイル、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、または Excel 形式ファイル）などのプロパティを設定するメソッドに情報を設定します。メソッドの設定については、「[8.4 EURPMAAdapterForJava クラスのメソッド仕様](#)」を参照してください。

なお、参照先に ActiveX 起動部品のプロパティ名が指定されている場合は、対応する Java 起動部品のメソッドに置き換えてください。

4. 帳票の出力

帳票出力メソッドを呼び出して帳票を出力します。

3.と 4.の処理で発生したエラー、または発生するエラーは、例外を処理するようにプログラムに記述します。

8.2.1 コンストラクタ

EURPMAAdapterForJava クラスのコンストラクタは、EURPMAAdapterForJava オブジェクトを生成します。

```
public EURPMAAdapterForJava() throws EURPMException
```

解説

ユーザアプリケーションプログラムからコンストラクタを呼び出すことで、EURPMAAdapterForJava オブジェクトを生成します。帳票ファイル名、データファイル、出力種別（プリンタ出力、EPF 形

式ファイル、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、または Excel 形式ファイル) などを、EURPMAdapterForJava クラスのメソッドで設定したあと、帳票出力メソッドで帳票出力をします。

引数

なし

例外処理

EURPMException

EURPMAdapterForJava オブジェクトの生成時にエラーが発生したときは、EURPMException クラスの例外が発生します。

8.2.2 メソッド一覧

EURPMAdapterForJava クラスのメソッドには、帳票の出力や出力情報を採取するメソッド（実行メソッド）と、帳票を出力するために帳票ファイル名やデータファイル名などの情報を設定するメソッド（設定メソッド）があります。また、実行メソッドには、出力情報などを取得するメソッド（情報取得メソッド）と、帳票を出力するメソッド（出力メソッド）があります。実行メソッドを表 8-2 に示します。

表 8-2 EURPMAdapterForJava クラスの実行メソッド

種類	メソッド	概要
情報取得メソッド	getDestinationList	出力先（スプールサーバ）の一覧を取得します。
	getJobID	getJobID メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。 帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など、直前に蓄積したスプールデータが複数あるときは、最初に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。
	getJobIDList	getJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を取得します。
	getOutputPageCount	getOutputPageCount メソッドを実行する直前に印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を取得します。
	getPMPrinterClassList	帳票サーバに登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。
	getPMPrinterList ^{※1}	帳票サーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。
	getPMTrayList ^{※1}	帳票サーバの OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。
	getPreviewAXClassID	EUR Web Plug-In（プレビュー用）のクラス ID を取得します。
	getPreviewAXVersion	EUR Web Plug-In（プレビュー用）のバージョンを取得します。
	getPrintAXClassID	EUR Web Plug-In（印刷用）のクラス ID を取得します。
	getPrintAXVersion	EUR Web Plug-In（印刷用）のバージョンを取得します。

種類	メソッド	概要
情報取得メソッド	getPrinterClassList ^{※2}	指定した出力先（スプールサーバ）に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。
	getPrinterList ^{※2}	指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。
	getTrayList ^{※2}	指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。
出力メソッド	getEPFReport	EPF 形式データをメモリに取得します。
	getEURReport	EUR 形式データをメモリに取得します。
	getMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルの一つに統合してメモリに取得します。
	getPDFReport	PDF 形式データをメモリに取得します。
	getXLSXReport	Excel 形式データをメモリに取得します。
	outputEPFReport	EPF 形式ファイルを出力します。
	outputEURReport	EUR 形式ファイルを出力します。
	outputMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルの一つの EPF 形式ファイルに統合して出力します。
	outputPDFReport	PDF 形式ファイルを出力します。
	outputXLSXReport	Excel 形式ファイルを出力します。
printReport	帳票を印刷または蓄積します。	

注※1

帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

注※2

対象となるスプールサーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

EURPMAAdapterForJava クラスのメソッドのうち、出力メソッドで使用する設定メソッドを表 8-4 に示します。表 8-4 では、出力メソッドを表 8-3 のように省略して表記します。

表 8-3 出力メソッドの略称

略称	出力メソッド
PMRS	printReport（スプールサーバでの印刷）
PMRC	printReport（クライアント PC での印刷）
PMRT	printReport（蓄積）
PMRD	printReport（直接印刷）
PMRH	printReport（クライアント PC への配布印刷）
PDF	outputPDFReport（PDF 形式ファイル出力）または getPDFReport（PDF 形式データ出力）

略称	出力メソッド
EPF	outputEPFReport (EPF 形式ファイル出力) または getEPFReport (EPF 形式データ出力)
MEPF	outputMergeEPFReport (複数 EPF 形式ファイル統合出力) または getMergeEPFReport (複数 EPF 形式ファイル統合データ出力)
EUR	outputEURReport (EUR 形式ファイル出力) または getEURReport (EUR 形式データ出力)
XLSX	outputXLSXReport (Excel 形式ファイル出力) または getXLSXReport (Excel 形式データ出力)

表 8-4 EURPMAAdapterForJava クラスの出力メソッドで使用する設定メソッド

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		P M RS	P M RC	P M RT	P M RD	P M RH	PD F	EP F	M EP F	EU R	XL SX
setAdpEnvFile	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setBookmarkFileData	しおり定義データ	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setBookmarkFileName	しおり定義ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setBookmarkFilePath	文書しおり定義ファイルのパス, およびしおり定義ファイルのパス	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setClientAddress	クライアント PC の IP アドレス	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
setClientPrinterName	印刷先クライアントプリンタ名	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
setClientTrayName	印刷先クライアントプリンタのトレイ名	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
setCrypto	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setCryptoFileData	暗号化設定データ	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setCryptoFileName	暗号化設定ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setCryptoFilePath	暗号化設定ファイルのパス	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setDataFileData	マッピングデータまたは可変記号値定義データ	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		P M RS	P M RC	P M RT	P M RD	P M RH	PD F	EP F	M EP F	EU R	XL SX
setDataFileName	マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setDataFilePath	マッピングデータファイルのパスまたは可変記号値定義ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setDBInfoFileName	接続情報ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setDBInfoFilePath	接続情報ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setDestinationName	帳票の出力先名	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setDispPrintDlg	ダイアログ表示モード	-	△	△	-	△	-	-	-	-	-
setDistributeFileData	PDF 仕分け定義データ	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setDistributeFileName	PDF 仕分け定義ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setDistributeFilePath	PDF 仕分け定義ファイルのパス	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setDocBookmarkFileData	文書しおり定義データ	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setDocBookmarkFileName	文書しおり定義ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setDocInfoFileName	文書情報設定ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-
setDocInfoFilePath	文書情報設定ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-
setEnableGet	スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得可否	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setEncryptionPasswordKey	パスワード暗号化鍵	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setEPFFileData	メモリ取得した EPF 形式ファイルデータ	-	-	-	-	△ ※1	-	-	-	-	-
setEPFFileName	EPF 形式ファイル名	-	-	-	-	△ ※1	-	○ ※2	○ ※2	-	-
setEPFFilePath	EPF 形式ファイルの出力フォルダ	-	-	-	-	△	-	△ ※2	△ ※2	-	-
setEURFileName	出力する EUR 形式ファイル名	-	-	-	-	-	-	-	-	○ ※3	-
setEURFilePath	出力する EUR 形式ファイルのパス	-	-	-	-	-	-	-	-	△ ※3	-
setExecutablePrintMode	実行可能印刷方式	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	出力メソッド										
		P M RS	P M RC	P M RT	P M RD	P M RH	PD F	EP F	M EP F	EU R	XL SX	
setFileOutputDestination	PDF 形式ファイルの出力先マシン	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
setFirstPageNumber	ページ番号の初期値	△	△	△	△	-	△	△	-	-	-	-
setGroupName	帳票振り分け定義の振り分けグループ名	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setInitPageNumber	ページ番号の開始番号の初期化	△	△	△	△	-	△	△	-	-	-	-
setJobKeyCategory	スプールデータとして格納するファイルの検索キーの分類	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setJobKeyData	スプールデータの検索キーの値	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setMaxPrintCount	スプールデータの上限印刷回数	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setMergeEPFFFileName	統合対象の EPF 形式ファイル名	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
setMergeEPFFFilePath	統合対象の EPF 形式ファイルのパス	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
setMultiBookmarkFileName	複数のしおり定義ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
setMultiDataFileName	複数のマッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	-
setMultiFormInfoDefFileName	複数様式情報定義ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	-
setMultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定義ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	-
setMultiReportFileName	複数の帳票ファイル名	△ ※4	△ ※4	△ ※4	△ ※4	-	△ ※4	△ ※4	-	△ ※4	-	-
setMultiReportSetFileName	帳票セット指定ファイル名	△ ※4	△ ※4	△ ※4	△ ※4	-	△ ※4	△ ※4	-	△ ※4	-	-
setMultiReportSetFilePath	帳票セット指定ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	-
setMultiUserDataFileName	複数のユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	-	-

メソッド	設定内容	出力メソッド										
		P M RS	P M RC	P M RT	P M RD	P M RH	PD F	EP F	M EP F	EU R	XL SX	
setOutputPageCountOpt	出力した帳票の総ページ数を出力するかどうか	△ ※5	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPageNumberFormat	ページ番号のフォーマット	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPaperOrientation	用紙の向き	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPDFFileName	PDF 形式ファイル名	△	△	△	△	△	○ ※7, ※8	△	△	△	△	△
setPDFFilePath	PDF 形式ファイルのパス	△	△	△	△	△	△ ※8	△	△	△	△	△
setPMServerAddress	帳票サーバの IP アドレス	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPMServerPort	帳票サーバのポート番号	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintCopies	印刷部数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintDateFileName	印刷日時出力定義ファイル名	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintDateFilePath	印刷日時出力定義ファイルのパス	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintEndPage	印刷終了ページ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrinterClassName	プリンタクラス名	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrinterSelectMode	プリンタ指定方式	△	△	△	△ ※9	△	△	△	△	△	△	△
setPrintHoldMode	蓄積印刷方式で、蓄積後に続けて印刷するかどうか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintKind	スプールサーバ印刷方式の印刷モード	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintMode	印刷メソッド (printReportメソッド) の印刷方式	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintPageNumber	余白へのページ番号印刷	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintStartPage	印刷開始ページ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPSEnvFileName	EUR Print Server Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		P M RS	P M RC	P M RT	P M RD	P M RH	PD F	EP F	M EP F	EU R	XL SX
setPSEnvFilePath	EUR Print Service の環境 設定ファイル (EURPS_ENV) のパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setReportAddressKeyCategory	宛先キーの分類	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setReportAddressKeyData	宛先キーの値	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setReportFileName	帳票ファイル名	△ ※4, ※ 10	△ ※4, ※ 10	△ ※4, ※ 10	△ ※4, ※ 10	-	△ ※4, ※ 10	△ ※4, ※ 10	-	△ ※4, ※ 10	△ ※4
setReportFilePath	帳票ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△
setReportID	帳票 ID	△ ※4	△ ※4	△ ※4	△ ※4	-	△ ※4	△ ※4	-	△ ※4	△ ※4
setScriptCntlFileName	Acrobat JavaScript 定義 ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setScriptCntlFilePath	Acrobat JavaScript 定義 ファイルのパス	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
setServerAddress	スプールサーバの IP アドレス	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setServerPrinterName	サーバプリンタ名	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setServerSelectMode	スプールサーバの選択方法	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setServerTrayName	サーバプリンタのトレイ名	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setSortPrint	印刷部数の単位	△	△	△	△	-	-	△	△	-	-
setSplitFileData	分割/仕分け定義データ	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setSplitFileName	分割/仕分け定義ファイル名	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setSplitFilePath	分割/仕分け定義ファイルの パス	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setSplitMode	帳票を分割または仕分けするかどうか	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	出力メソッド										
		P M RS	P M RC	P M RT	P M RD	P M RH	PD F	EP F	M EP F	EU R	XL SX	
setSpoolFileName	スプールデータに格納するファイルのファイル名	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setSpoolLimit	スプールデータの蓄積期限日	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setSpoolTitle	スプールタイトル	△	△	△	△	-	-	△	△	△	-	
setUserDataFileData	ユーザ定義データまたは可変記号値定義データ	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△	
setUserDataFileName	ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△	
setUserDataFilePath	ユーザ定義データファイルのパスまたは可変記号値定義ファイルのパス	△	△	△	△	-	△	△	-	△	△	
setViewerPreferenceFileName	ビューアプレファレンス定義ファイル名	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	
setViewerPreferenceFilePath	ビューアプレファレンス定義ファイルのパス	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	
setXLSXFileName	Excel 形式ファイル名	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○ ※ 11	
setXLSXFilePath	Excel 形式ファイルのパス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ ※ 11	

(凡例)

- ：必ず指定します。
- △：指定を省略できます。
- ：指定できません。

注

指定できないメソッドを指定した場合は、その指定を無視します。

注※1

クライアント PC への配布印刷の場合は、EPF 形式ファイル名 (setEPFFilename メソッド) または EPF 形式ファイルデータ (setEPFFileData メソッド) のどちらかを必ず指定してください。

注※2

EPF 形式データ (getEPFReport メソッド) および EPF 形式データ (getMergeEPFReport メソッド) では指定できません。

注※3

EUR 形式データ (getEURReport メソッド) では指定できません。

注※4

帳票セット指定ファイル名 (setMultiReportSetFileName メソッド), 帳票ファイル名 (setReportFileName メソッド), または帳票 ID (setReportID メソッド) のどれかは, 必ず指定してください。

注※5

印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=1) の場合は, 帳票の総ページ数を取得できません。setOutputPageCountOpt メソッドを指定しても無視されます。

注※6

出力した帳票の総ページ数を取得できません。出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は, 次に示す運用としてください。

- クライアント PC への配布印刷
クライアント PC に配布する個々の印刷データ (EPF 形式ファイル) を出力するときに帳票の総ページ数を取得し, 合計ページ数は計算して求める運用としてください。
- 複数 EPF 形式ファイル統合出力
個々の EPF 形式ファイルを出力するときに帳票の総ページ数を出力し, 合計ページ数は計算して求める運用としてください。

注※7

PDF 仕分け定義ファイル名 (setDistributeFileName メソッド) を指定している場合は, 指定を省略できます。

注※8

PDF 形式データ (getPDFReport メソッド) では指定できません。

注※9

指定できるプリンタ印刷方式は, 「プリンタクラス名指定」または「OS 上のプリンタ名指定」です。

注※10

帳票セット指定ファイル名 (setMultiReportSetFileName メソッド) を指定している場合は, 指定を省略できます。

注※11

Excel 形式データ (getXLSXReport メソッド) では指定できません。

重要

EUR Print Service と連携して使用するメソッドでエラーが発生した場合は, 次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは, EUR Print Service のイベントログ, または eurps ログを参照してください。

メッセージID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY223-E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY225-E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY243-E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY263-E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

EURPMAAdapterForJava クラスのメソッドのうち、情報取得メソッドで使用する設定メソッドを表 8-6 に示します。表 8-6 では、情報取得メソッドを表 8-5 のように省略して表記します。

表 8-5 情報取得メソッドの略称

略称	情報取得メソッド
GEDL	getDestinationList (出力先一覧の取得)
GEPC	getPMPrinterClassList (帳票サーバのプリンタクラス一覧の取得)
GEPP	getPMPrinterList (帳票サーバのプリンター一覧の取得)
GEPT	getPMTrayList (帳票サーバのトレイ一覧を取得)
GECL	getPrinterClassList (プリンタクラス一覧の取得)
GEPL	getPrinterList (プリンター一覧の取得)
GETL	getTrayList (トレイ一覧の取得)

表 8-6 EURPMAAdapterForJava クラスの情報取得メソッドで使用する設定メソッド

メソッド	設定内容	情報取得メソッド						
		GED L	GEP C	GEPP	GEPT	GECL	GEPL	GETL
setAdpEnvFile	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス	△	△	△	△	△	△	△
setDestinationName	出力先名を指定します。	—	—	—	—	△	△	△
setPMServerAddress	帳票サーバの IP アドレスを指定します。	△	△	△	△	△	△	△
setPMServerPort	帳票サーバのポート番号を指定します。	△	△	△	△	△	△	△
setServerPrinterName	サーバのプリンタ名を指定します。	—	—	—	○	—	—	○

(凡例)

○：必ず指定します。

△：指定を省略できます。

－：指定できません。

8.2.3 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

8.3 EURPMEException クラス

EURPMEException クラスは、Java 起動部品の各メソッドで例外が発生した場合にスローされるクラスです。

```
public class EURPMEException extends java.lang.Exception
```

クラス継承

```
java.lang.Exception
```

```
JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMEException
```

解説

EURPMEException クラスのオブジェクトは、Java 起動部品の内部で生成します。

ユーザプログラムは、このオブジェクトを例外ハンドラで受け取り、getMessage メソッド、または getErrorCode メソッドを呼び出してエラー情報を取得します。

8.3.1 メソッド一覧

EURPMEException クラスのメソッドを次に示します。

表 8-7 EURPMEException クラスのメソッド

メソッド	設定内容
getErrorCode	エラーコードを取得します。
getErrorLevel	エラーレベルを取得します。
getKey	メッセージのメッセージ ID を取得します。
getMessage	エラーメッセージの文字列を取得します。
getOutputData	例外発生時にエラー種別が警告の場合、EPF 形式ファイルを取得します。

8.3.2 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値に指定できない文字については、「[8.2.3 指定値に使用できない文字について](#)」を参照してください。

8.4 EURPMAAdapterForJava クラスのメソッド仕様

EURPMAAdapterForJava クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getDestinationList メソッド

出力先として登録されているスプールサーバの一覧を取得します。

形式

```
public ArrayList[] getDestinationList() throws EURPMException
```

解説

getDestinationList メソッドは、EUR Server Service に登録された出力先の一覧を取得します。出力先の一覧は、出力先定義ファイルから取得します。取得できる情報は、定義された出力先の情報です。スプールサーバの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

出力先の一覧を次に示す形式で返します。

```
出力先名1, IPアドレス1, 説明1  
出力先名2, IPアドレス2, 説明2  
:
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getDestinationList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {  
    adp = new EURPMAAdapterForJava();  
}  
catch (Exception e) {
```

```

    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
System.out.println("getDestinationList実行");
try {
    ArrayList[] alDestinations = adp.getDestinationList();
    for(cntj = 0 ; cntj < alDestinations[0].size() ; cntj++){
        System.out.println("出力先名 [" + cntj + "]=[" +
            alDestinations[0].get(cntj) + "]"");
        System.out.println("IPアドレス[" + cntj + "]=[" +
            alDestinations[1].get(cntj) + "]"");
        System.out.println("説明      [" + cntj + "]=[" +
            alDestinations[2].get(cntj) + "]"");
    }
}
catch (EURPMException e) {
    int iCode = e.getErrorCode();
    System.out.println(Integer.toString(iCode));
    System.out.println(e.getMessage());
    System.out.println(e.getKey());
    e.printStackTrace();
}
}

```

getEPFReport メソッド

EPF 形式データをメモリに取得します。

形式

```
public ByteBuffer getEPFReport()
```

引数

なし

戻り値

EPF 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合、データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getEURReport メソッド

EUR 形式データをメモリに取得します。

形式

```
public ByteBuffer getEURReport()
```

引数

なし

戻り値

EUR 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合、データは EURPMEException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getJobID メソッド

getJobID メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など、直前に蓄積したスプールデータが複数あるときは、最初に蓄積したスプールデータのジョブ ID を取得します。

形式

```
public String getJobID()
```

引数

なし

戻り値

直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID

getJobIDList メソッド

getJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を取得します。直前に蓄積したスプールデータが複数あるときは、すべてのスプールデータのジョブ ID を取得します。

形式

```
public ArrayList getJobIDList()
```

引数

なし

戻り値

直前に蓄積したスプールデータのジョブ ID の一覧を、次に示す形式で返します。

<正常時>

```
ジョブID1  
ジョブID2  
:  
ジョブIDn
```

<警告 (KEEY387-W) 発生時>

```
ジョブID1  
ジョブID2  
Error
```

getMergeEPFReport メソッド

複数の EPF 形式ファイルを統合してメモリに取得します。

形式

```
public ByteBuffer getMergeEPFReport() throws EURPMEException
```

引数

なし

戻り値

EPF 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合、データは EURPMEException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getOutputPageCount メソッド

getOutputPageCount メソッドを実行する直前の印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を取得します。

印刷またはファイル出力で setOutputPageCountOpt メソッドに True を指定した場合だけ、出力した帳票の総ページ数^{*}を取得できます。取得した情報は、Java 起動部品がメモリから解放されるか、または、印刷またはファイル出力のメソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。

- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、途中で蓄積に失敗したときでも、蓄積に成功したページ数ではなく、合計ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正常のときは、ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。
- 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。

形式

```
public int getOutputPageCount()
```

引数

なし

戻り値

直前に印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数

getPDFReport メソッド

PDF 形式データをメモリに取得します。

形式

```
public ByteBuffer getPDFReport()
```

引数

なし

戻り値

PDF 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合、データは EURPMException クラスの `getOutputData` メソッドで取得してください。

getPMPrinterClassList メソッド

帳票サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

```
public ArrayList[] getPMPrinterClassList () throws EURPMException
```

引数

なし

戻り値

帳票サーバのプリンタクラスの一覧を、次に示す形式で返します。

< 2次元配列イメージ：n行4列 >

プリンタクラス名1, OS上のプリンタ名1, OS上のプリンタのトレイ名1, 説明1
プリンタクラス名2, OS上のプリンタ名2, OS上のプリンタのトレイ名2, 説明2
⋮
プリンタクラス名n, OS上のプリンタ名n, OS上のプリンタのトレイ名n, 説明n

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPMPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```

try {
    adp = new EURPMAAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
System.out.println("getPMPrinterClassList実行");
try{
    ArrayList[]alPrinterClasses=adp.getPMPrinterClassList();
    for(cntj=0;cntj<alPrinterClasses[0].size();cntj++){
        System.out.println("プリンタクラス名["+cntj+"]=
["+alPrinterClasses[0].get(cntj)+""]);
        System.out.println("OS上のプリンタ名["+cntj+"]=
["+alPrinterClasses[1].get(cntj)+""]);
        System.out.println("OS上のプリンタのトレイ名["+cntj+"]=
["+alPrinterClasses[2].get(cntj)+""]);
        System.out.println("説明["+cntj+"]=
["+alPrinterClasses[3].get(cntj)+""]);
    }
}
catch(EURPMException e){
    intiCode=e.getErrorCode();
    System.out.println(Integer.toString(iCode));
    System.out.println(e.getMessage());
    System.out.println(e.getKey());
    e.printStackTrace();
}

```

getPMPrinterList メソッド

帳票サーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。

形式

public ArrayList getPMPrinterList () throws EURPMException

引数

なし

戻り値

帳票サーバに登録された OS 上のプリンター一覧を、次に示す形式で返します。

<配列イメージ>

```

OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
⋮
OS上のプリンタ名n

```

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPMPrinterList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
    adp = new EURPMAAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
System.out.println("getPMPrinterList実行");
try{
    ArrayList alPrinters=adp.getPMPrinterList();
    for(cntj=0;cntj<alPrinters.size();cntj++){
        System.out.println("帳票サーバ上のプリンタ名
        =[ "+alPrinters.get(cntj)+" ]");
    }
}
catch(EURPMEException e){
    intiCode=e.getErrorCode();
    System.out.println(Integer.toString(iCode));
    System.out.println(e.getMessage());
    System.out.println(e.getKey());
    e.printStackTrace();
}
```

getPMTrayList メソッド

帳票サーバの OS に登録されているプリンタを指定し、そのプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

```
public ArrayList getPMTrayList (String newPrinterName) throws EURPMEException
```

引数

newPrinterName

OS 上のプリンタ名

戻り値

指定した OS 上のプリンタのトレイ一覧を、次に示す形式で返します。

<配列イメージ>

```
OS上のプリンタのトレイ名1  
OS上のプリンタのトレイ名2  
⋮  
OS上のプリンタのトレイ名n
```

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPMTrayList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {  
    adp = new EURPMAAdapterForJava();  
}  
catch (Exception e) {  
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");  
}  
strPrinterName="PRINTER1";  
System.out.println("PrinterName=["+ strPrinterName +"]");  
System.out.println("getPMTrayList実行");  
try{  
    ArrayList alTrays=adp.getPMTrayList(strPrinterName);  
    for(cntj=0;cntj<alTrays.size();cntj++){  
        System.out.println("OS上のプリンタのトレイ名  
        =[ "+alTrays.get(cntj)+" ]");  
    }  
}  
catch(EURPMEException e){  
    intiCode=e.getErrorCode();  
    System.out.println(Integer.toString(iCode));  
    System.out.println(e.getMessage());  
    System.out.println(e.getKey());  
    e.printStackTrace();  
}
```

getPreviewAXClassID メソッド

EUR Web Plug-In (プレビュー用) のクラス ID を取得します。

形式

```
public String getPreviewAXClassID()
```

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

クラス ID は、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 を返します。

getPreviewAXClassID メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPreViewAX9.ocx のクラス ID ("xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx")

getPreviewAXVersion メソッド

EUR Web Plug-In (プレビュー用) のバージョンを取得します。

形式

```
public String getPreviewAXVersion()
```

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

バージョンは、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPreViewAX.inf) に指定されているバージョンを取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、99,99,99,99 を返します。

getPreviewAXVersion メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPreViewAX9.ocx のバージョン値 ("n,n,n,n")

getPrintAXClassID メソッド

EUR Web Plug-In (印刷用) のクラス ID を取得します。

形式

```
public String getPrintAXClassID()
```

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

クラス ID は、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C を返します。

getPrintAXClassID メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPrintAX9.ocx のクラス ID ("xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx")

getPrintAXVersion メソッド

EUR Web Plug-In (印刷用) のバージョンを取得します。

形式

```
public String getPrintAXVersion()
```

解説

このメソッドを使用する場合は、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) を配置する必要があります。EUR Web Plug-In 情報ファイルの配置方法については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

バージョンは、次のように決定されます。

1. EUR Server - Adapter に配置された EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf) に指定されているバージョンを取得します。
2. 1.が取得できなかった場合は、警告メッセージ (KEEY276-W) をログに出力し、99,99,99,99 を返します。

getPrintAXVersion メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPrintAX9.ocx のバージョン値 ("n,n,n,n")

getPrinterClassList メソッド

指定した出力先 (スプールサーバ) に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

```
public ArrayList[] getPrinterClassList(String newDestinationName) throws EURPMException
```

解説

指定した出力先の EUR Server - Spool Service に登録された拠点プリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバのプリンタクラスの一覧を取得します。EUR Server - Spool Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

取得できる情報は、定義された拠点プリンタクラス情報です。スプールサーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

getPrinterClassList メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、拠点プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、拠点プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

newDestinationName

出力先名

戻り値

拠点プリンタクラスの一覧を次に示す形式で返します。

```
拠点プリンタクラス名1, OS上のプリンタ名1, OS上のプリンタのトレイ名1, 説明1  
拠点プリンタクラス名2, OS上のプリンタ名2, OS上のプリンタのトレイ名2, 説明2  
:  
拠点プリンタクラス名n, OS上のプリンタ名n, OS上のプリンタのトレイ名n, 説明n
```

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {  
    adp = new EURPMAAdapterForJava();  
}  
catch (Exception e) {  
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");  
}  
strDestName="SERVER1";  
System.out.println("DestName=["+strDestName+"]");  
System.out.println("getPrinterClassList実行");  
try{  
    ArrayList[]alPrinterClasses=adp.getPrinterClassList(strDestName);  
    for(cntj=0;cntj<alPrinterClasses[0].size();cntj++){  
        System.out.println("プリンタクラス名["+cntj+"]=  
["+alPrinterClasses[0].get(cntj)+"]");  
        System.out.println("OS上のプリンタ名["+cntj+"]=  
["+alPrinterClasses[1].get(cntj)+"]");  
    }  
}
```

```
        System.out.println("OS上のプリンタのトレイ名["+cntj+"]="
            ["+alPrinterClasses[2].get(cntj)+"]");
        System.out.println("説明["+cntj+"]="
            ["+alPrinterClasses[3].get(cntj)+"]");
    }
}
catch(EURPMException e){
    intiCode=e.getErrorCode();
    System.out.println(Integer.toString(iCode));
    System.out.println(e.getMessage());
    System.out.println(e.getKey());
    e.printStackTrace();
}
```

getPrinterList メソッド

指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。

形式

```
public ArrayList getPrinterList(String newDestinationName) throws EURPMException
```

解説

getPrinterList メソッドは、指定した出力先の EUR Server - Spool Service に登録された OS 上のプリンタの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を取得します。EUR Server - Spool Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

取得できる情報は、定義されたプリンタ情報です。スプールサーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

getPrinterList メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、プリンター一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンター一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

newDestinationName

出力先名

戻り値

OS 上のプリンター一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
  ⋮
OS上のプリンタ名n
```

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPrinterList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
    adp = new EURPMAAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
strDestName="SERVER1";
System.out.println("DestName=["+strDestName+"]");
System.out.println("getPrinterList実行");
try{
    ArrayList alPrinters=adp.getPrinterList(strDestName);
    for(cntj=0;cntj<alPrinters.size();cntj++){
        System.out.println("OS上のプリンタ名=["+alPrinters.get(cntj)+"]");
    }
}
catch(EURPMEException e){
    intiCode=e.getErrorCode();
    System.out.println(Integer.toString(iCode));
    System.out.println(e.getMessage());
    System.out.println(e.getKey());
    e.printStackTrace();
}
```

getTrayList メソッド

出力先（スプールサーバ）と OS 上のプリンタを指定し、そのプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

public ArrayList getTrayList(String *newDestinationName*, String *newPrinterName*) throws EURPMEException

解説

getTrayList メソッドは、指定した出力先の EUR Server - Spool Service に登録された OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。EUR Server - Spool Service が稼働中でない場合、エラーとなります。

取得できる情報は、定義されたプリンタのトレイ情報です。スプールサーバでのプリンタのトレイ稼働状況は取得できません。

getTrayList メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

newDestinationName

出力先名

newPrinterName

OS 上のプリンタ名

戻り値

指定したプリンタのトレイ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタのトレイ名1  
OS上のプリンタのトレイ名2  
:  
OS上のプリンタのトレイ名n
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getTrayList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {  
    adp = new EURPMAAdapterForJava();  
}  
catch (Exception e) {  
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");  
}
```

```
}
strDestName="SERVER1";
System.out.println("DestName=["+strDestName+"]");
strPrinterName="PRINTER1";
System.out.println("PrinterName=["+ strPrinterName +"]");
System.out.println("getTrayList実行");
try{
    ArrayList alTrays=adp.getTrayList(strDestName, strPrinterName);
    for(cntj=0;cntj<alTrays.size();cntj++){
        System.out.println("トレイ名=["+alTrays.get(cntj)+"]");
    }
}
catch(EURPMException e){
    intiCode=e.getErrorCode();
    System.out.println(Integer.toString(iCode));
    System.out.println(e.getMessage());
    System.out.println(e.getKey());
    e.printStackTrace();
}
```

getXLSXReport メソッド

Excel 形式データをメモリに取得します。

形式

```
public ByteBuffer getXLSXReport()
```

引数

なし

戻り値

Excel 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合、データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

outputEPFReport メソッド

EPF 形式ファイルを出力します。

形式

public void outputEPFReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EPF 形式ファイルを出力します。出力する EPF 形式ファイルは、setEPFFilePath メソッドおよび setEPFFileName メソッドで指定します。

outputEPFReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。

outputEURReport メソッド

EUR 形式ファイルを出力します。

形式

public void outputEURReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

EUR Server - Adapter が稼働するマシンに EUR 形式ファイルを出力します。出力する EUR 形式ファイルは、setEURFilePath メソッドおよび setEURFileName メソッドで指定します。

outputEURReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。

outputMergeEPFReport メソッド

複数の EPF 形式ファイルを一つの EPF 形式ファイルに統合して出力します。

形式

```
public void outputMergeEPFReport() throws EURPMException
```

解説

出力先に指定した EPF 形式ファイルがすでにある場合は、上書きされます。

EUR Server - Adapter が稼働するマシンに複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。統合対象の EPF 形式ファイルは、setMergeEPFFilePath メソッドおよび setMergeEPFFileName メソッドで指定します。また、出力する EPF 形式ファイルは、setEPFFilePath メソッドおよび setEPFFileName メソッドで指定します。

outputMergeEPFReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は、EURPMException 例外がスローされます。

outputPDFReport メソッド

PDF 形式ファイルを出力します。

形式

```
public void outputPDFReport() throws EURPMEException
```

解説

指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

EUR Server Service が稼働するマシンまたは EUR Server - Adapter が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。PDF 形式ファイルの出力先は、setFileOutputDestination メソッド、setPDFFilePath メソッド、および setPDFFileName メソッドで指定します。

ただし、PDF 仕分け定義ファイル (setDistributeFileName メソッド) が指定されている場合は、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

PDF 仕分け出力の場合、出力先の PDF 形式ファイルがすでにある場合は上書きしないでエラーになります。

outputPDFReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

outputXLSXReport メソッド

Excel 形式ファイルを出力します。

形式

```
public void outputXLSXReport() throws EURPMEException
```

解説

指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

EUR Server - Adapter が稼働するマシンに Excel 形式ファイルを出力します。出力する Excel 形式ファイルは、setXLSXFilePath メソッドおよび setXLSXFileName メソッドで指定します。

outputXLSXReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

printReport メソッド

メソッドで指定した帳票名およびデータファイルで帳票を出力したり、印刷データを蓄積したりします。

形式

```
public void printReport() throws EURPMEException
```

解説

printReport メソッドは、次の場合に呼び出し元に制御が戻ります。

- スプールサーバでの印刷の場合
スプールサーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点
- クライアント PC での印刷の場合
クライアント PC への配信が完了した時点
- 蓄積の場合
蓄積先のサーバに EPF 形式ファイルの蓄積が完了した時点
- 帳票サーバ直接印刷の場合
帳票サーバ上のプリンタスプールへの出力が完了した時点

- クライアント配布印刷の場合
クライアント PC への配信が完了した時点

printReport メソッドが終了すると、それまでに設定したメソッドはすべてリセットされます。

printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合は、正常または警告でメソッドが戻ったときだけスプールデータに対応するジョブ ID を getJobID メソッドで取得できます。取得した情報は、Java 起動部品がメモリから解放されるか、または printReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

printReport メソッド実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合、スプールサーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、印刷を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMEException

エラー発生時は、EURPMEException 例外がスローされます。

setAdpEnvFile メソッド

EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパスを指定します。

EUR Server - Adapter の環境設定ファイルの格納先のフォルダパス、またはファイルパスを指定できます。

形式

```
public void setAdpEnvFile(String newAdpEnvFile)
```

解説

- フォルダパスを指定する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイルのデフォルトのファイル名 (EURPMADP.ini) が仮定されます。指定したフォルダには、デフォルトのファイル名で保存してください。

指定したフォルダにデフォルトのファイル名のファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します（環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します）。

フォルダパスを指定する場合の用途を次に示します。

- ・環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更
- ・業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え（フォルダ指定）
- ・次に示すコンポーネントの環境設定ファイルを同じフォルダに格納
 - ・EUR Server Service の環境設定ファイル（EURPM.ini）
 - ・EUR Server - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）
 - ・EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル（EURPMLS.ini）
 - ・EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）

各環境設定ファイルの指定方法については、「15. 環境設定ファイル」を参照してください。

- ・ファイルパスを指定する場合は、任意のファイル名を指定できます。

指定したファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します（環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します）。

ファイルパスを指定する場合の用途を次に示します。

- ・環境設定ファイルを任意の格納先およびファイル名に変更
- ・業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え（ファイル指定）
- ・EUR Server Service, EUR Server - Adapter, EUR Server - Spool Service, EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの設定内容を同じファイルに指定

各環境設定ファイルの指定方法については、「15. 環境設定ファイル」を参照してください。

なお、各コンポーネントの環境設定ファイル間で重複するキーを指定した場合、そのキーを参照するコンポーネントすべてに有効となります。環境設定ファイル間で重複するキーを次の表に示します。

表 8-8 環境設定ファイル間で重複するキー

セクション	重複するキー	EUR Server Service の環境設定ファイル	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル
PORT	EURPM	○	○	—	—
	EURPMCL	○	—	○	—
	EURPMLS	○	—	○	○
PATH	<ul style="list-style-type: none"> ・ CONF ・ TEMP 	○	—	○	—
ERROR	<ul style="list-style-type: none"> ・ LOGFILE ・ LOGLEVEL ・ LOGSIZE 	○	○	○	○

セクション	重複するキー	EUR Server Service の環境設定ファイル	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル
OPTION	DATABUFFSIZE	—	○	—	○
	<ul style="list-style-type: none"> • RMDIRRETRYCOUNT • RMDIRINTERVALTIME • TEMPFILEDEL 	○	—	○	—
	SOCKBUFFSIZE	○	○	○	○
THREAD	<ul style="list-style-type: none"> • EURPS • GENERAL • MERGE 	○	—	○	—
TIMEOUT	<ul style="list-style-type: none"> • CONNECT • ERRIGNORE 	○	—	○	—
	PRTCLSLIST	—	○	—	○

(凡例)

- ：該当するキーがあります。
- ：該当するキーがありません。

- パスを指定するときの規則，および注意については，「付録 A.1 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setAdpEnvFile メソッドを省略した場合は，デフォルトの格納先の環境設定ファイルが使用されます。
- setAdpEnvFile メソッドで指定した環境設定ファイルは，Java 起動部品がメモリから解放されるか，または再度指定されるまで有効になります。

引数

newAdpEnvFile

EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス

戻り値

なし

setBookmarkFileData メソッド

しおり定義データをメモリ渡しする場合、各帳票ファイルに指定するしおり定義ファイルを配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setBookmarkFileData(StringBuffer[] newBookmarkFileData)
```

解説

- setBookmarkFileData メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setBookmarkFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setBookmarkFileData メソッドには、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義データを配列で指定します。
- 配列の要素数は、setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、配列の要素の順序についても、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- setBookmarkFileData メソッドは、setBookmarkFileName メソッドと同時に使用できません。また、setBookmarkFileData メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - マッピングデータ (setDataFileData)
 - ユーザ定義データ (setUserDataFileData)
 - 文書しおり定義データ (setDocBookmarkFileData)
 - 暗号化設定データ (setCryptoFileData)
 - PDF 仕分け定義データ (setDistributeFileData)
 - 分割定義データまたは仕分け定義データ (setSplitFileData)

引数

newBookmarkFileData

しおり定義データ配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してしおり定義データの指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のしおり定義データの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// しおり定義データを配列strBokに指定
bokFileData1 = new StringBuffer("参加者");
Array.set(strBok, 0, bokFileData1);
bokFileData2 = new StringBuffer("");
Array.set(strBok, 1, bokFileData2);
bokFileData3 = new StringBuffer("出納");
Array.set(strBok, 2, bokFileData3);
```

また、複数の帳票セットを指定する場合、複数の帳票に対して同じしおり定義データを指定したいときは、それぞれに同じオブジェクトを指定してください。

1 番目と 2 番目の帳票に、同じしおり定義データを指定するときの例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// しおり定義データを配列strBokに指定
bokFileDataA = new StringBuffer("参加者");
Array.set(strBok, 0, bokFileDataA);
Array.set(strBok, 1, bokFileDataA);
bokFileDataB = new StringBuffer("出納");
Array.set(strBok, 2, bokFileDataB);
```

setBookmarkFileName メソッド

しおり定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setBookmarkFileName(String newBookmarkFileName)
```

解説

- setBookmarkFileName メソッドには、setReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義ファイル名を指定します。

- ファイル名の数は、setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、setReportFileName メソッドまたは setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setBookmarkFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setBookmarkFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setBookmarkFileName メソッドは、setBookmarkFileData メソッドと同時に使用できません。また、setBookmarkFileName メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
 - マッピングデータファイル (setDataFileName)
 - ユーザ定義データファイル (setUserDataFileName)
 - 文書しおり定義ファイル (setDocBookmarkFileName)
 - 暗号化設定ファイル (setCryptoFileName)
 - 帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName)
 - PDF 仕分け定義ファイル (setDistributeFileName)
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル (setSplitFileName)
- しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newBookmarkFileName

しおり定義ファイル名

戻り値

なし

setBookmarkFilePath メソッド

setDocBookmarkFileName メソッドで指定した文書しおり定義ファイルのパス、または setBookmarkFileName メソッドで指定したしおり定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setBookmarkFilePath(String newBookmarkFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、setDocBookmarkFileName メソッドで指定する文書しおり定義ファイルと、setBookmarkFileName メソッドで指定するしおり定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setBookmarkFilePath メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setBookmarkFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newBookmarkFilePath

文書しおり定義ファイル、またはしおり定義ファイルのパス

戻り値

なし

setClientAddress メソッド

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス、または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

形式

```
public void setClientAddress(String newClientAddress)
```

解説

- 次に示す場合以外は、setClientAddress メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、setClientAddress メソッドの指定は任意です。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3) の場合は、setClientAddress メソッドを指定しても無視されます。
- setClientAddress メソッドを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

引数

newClientAddress

クライアント PC の IP アドレス

戻り値

なし

setClientPrinterName メソッド

帳票を印刷するクライアントプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。

形式

```
public void setClientPrinterName(String newClientPrinterName)
```

解説

- クライアントプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。setClientPrinterName メソッドを指定した場合、対話型印刷は使用できません。
- プリンタ名を指定するときの注意
プリンタ名は、次のことに注意して指定してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- setClientPrinterName メソッドが指定されると、setDispPrintDlg メソッドは強制的に「1 (ダイアログを表示しません)」を仮定します。
- setClientPrinterName メソッドと setPrinterClassName メソッドでは、setClientPrinterName メソッドの指定を優先します。
- setClientPrinterName メソッドは、printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (setPrintMode=1) の場合、および printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、setClientPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

引数

newClientPrinterName

クライアントプリンタ名

戻り値

なし

setClientTrayName メソッド

クライアントプリンタのトレイ名を指定します。クライアントプリンタは、OS上のプリンタを指します。

形式

```
public void setClientTrayName(String newClientTrayName)
```

解説

- トレイ名を指定するときの注意
トレイ名は、次のことに注意して指定してください。
 - トレイ名は、80バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- setClientTrayName メソッドを指定する場合は、setClientPrinterName メソッドを必ず指定してください。
setClientTrayName メソッドに指定したトレイ名が、setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタで使用できない場合は、setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- setClientTrayName メソッドを指定しない場合は、setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- setClientTrayName メソッドは、printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (setPrintMode=1) の場合、および printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、setClientTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

newClientTrayName

トレイ名

戻り値

なし

setCrypto メソッド

PDF形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。

形式

```
public void setCrypto(boolean newCrypto)
```

解説

setCrypto メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setCrypto メソッドを指定しても無視されます。

引数

newCrypto

PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無を指定します。

指定できる値を次に示します。

- True : PDF 形式ファイルを暗号化します。
- False : PDF 形式ファイルを暗号化しません。

setCrypto メソッドを省略した場合、False が仮定されます。

戻り値

なし

setCryptoFileData メソッド

暗号化設定データをメモリ渡しする場合、暗号化設定データを指定します。

形式

```
public void setCryptoFileData(StringBuffer newCryptoFileData)
```

解説

- setCryptoFileData メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setCryptoFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setCryptoFileData メソッドは、setCryptoFileName メソッドと同時に使用できません。また、setCryptoFileData メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - マッピングデータ (setDataFileData)
 - ユーザ定義データ (setUserDataFileData)
 - しおり定義データ (setBookmarkFileData)
 - 文書しおり定義データ (setDocBookmarkFileData)

- PDF 仕分け定義データ (setDistributeFileData)
- 分割定義データまたは仕分け定義データ (setSplitFileData)

引数

newCryptoFileData

暗号化設定データ

戻り値

なし

setCryptoFileName メソッド

暗号化設定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setCryptoFileName(String newCryptoFileName)
```

解説

- 暗号化設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- setCryptoFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setCryptoFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setCryptoFileName メソッドは、setCryptoFileData メソッドと同時に使用できません。また、setCryptoFileName メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力 (ファイル指定) のメソッドを使用してください。
 - マッピングデータファイル (setDataFileName)
 - ユーザ定義データファイル (setUserDataFileName)
 - しおり定義ファイル (setBookmarkFileName)
 - 文書しおり定義ファイル (setDocBookmarkFileName)
 - 帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName)
 - PDF 仕分け定義ファイル (setDistributeFileName)
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル (setSplitFileName)
- 暗号化設定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

`newCryptoFileName`

暗号化設定ファイル名

戻り値

なし

`setCryptoFilePath` メソッド

`setCryptoFileName` メソッドで指定した暗号化設定ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setCryptoFilePath(String newCryptoFilePath)
```

解説

- 暗号化設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- `setCryptoFilePath` メソッドは、`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッド以外の場合は、`setCryptoFilePath` メソッドを指定しても無視されます。

引数

`newCryptoFilePath`

暗号化設定ファイルのパス

戻り値

なし

`setDataFileData` メソッド

マッピングデータまたは可変記号値定義データをメモリ渡しする場合、各帳票ファイルで使用するデータを配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setDataFileData(StringBuffer[] newDataFileData)
```

解説

- setDataFileData メソッドには、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するデータを配列で指定します。
- 配列の要素数は、setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、配列の要素の順序についても、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- setDataFileData メソッドは、setDataFileName メソッドと同時に使用できません。また、setDataFileData メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - ユーザ定義データ (setUserDataFileData)
 - しおり定義データ (setBookmarkFileData)
 - 文書しおり定義データ (setDocBookmarkFileData)
 - 暗号化設定データ (setCryptoFileData)
 - PDF 仕分け定義データ (setDistributeFileData)
 - 分割定義データまたは仕分け定義データ (setSplitFileData)
- setDataFileData メソッドで指定したマッピングデータまたは可変記号値定義データの配列に従って、帳票を Excel 形式ファイルに出力する場合、配列の要素数が複数のときは、先頭の要素だけが有効になります。

引数

newDataFileData

マッピングデータまたは可変記号値定義データの配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してマッピングデータ（または可変記号値定義データ）の指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のマッピングデータの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定  
fms[0]="Sample1.fms";
```



```
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// マッピングデータを配列strMapに指定
mapFileData1 = new StringBuffer("東京, 男性, 24¥r¥n大阪, 女性, 22¥r¥n");
Array.set(strMap, 0, mapFileData1);
mapFileData2 = new StringBuffer("");
Array.set(strMap, 1, mapFileData2);
mapFileData3 = new StringBuffer("入金, 300¥r¥n出金, 500¥r¥n, 入金, 400¥r¥n");
Array.set(strMap, 2, mapFileData3);
```

また、複数の帳票セットを指定する場合、複数の帳票に対して同じマッピングデータ（または可変記号値定義データ）を指定したいときは、それぞれに同じオブジェクトを指定してください。

1 番目と 2 番目の帳票に、同じマッピングデータを指定するときの例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// マッピングデータを配列strMapに指定
mapFileDataA = new StringBuffer("東京, 男性, 24¥r¥n大阪, 女性, 22¥r¥n");
Array.set(strMap, 0, mapFileDataA);
Array.set(strMap, 1, mapFileDataA);
mapFileDataB = new StringBuffer("入金, 300¥r¥n出金, 500¥r¥n, 入金, 400¥r¥n");
Array.set(strMap, 2, mapFileDataB);
```

setDataFileName メソッド

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDataFileName(String newDataFileName)
```

解説

- setDataFileName メソッドには、setReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。
- ファイル名の数は、setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、setReportFileName メソッドまたは setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

- setDataFileName メソッドは、setDataFileData メソッドと同時に使用できません。また、setDataFileName メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
 - ユーザ定義データファイル (setUserDataFileName)
 - しおり定義ファイル (setBookmarkFileName)
 - 文書しおり定義ファイル (setDocBookmarkFileName)
 - 暗号化設定ファイル (setCryptoFileName)
 - 帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName)
 - PDF 仕分け定義ファイル (setDistributeFileName)
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル (setSplitFileName)
- マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newDataFileName

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名

戻り値

なし

setDataFilePath メソッド

setDataFileName メソッドまたは帳票セット指定ファイルで指定したマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setDataFilePath(String newDataFilePath)
```

解説

ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newDataFilePath

マッピングデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス

戻り値

なし

setDBInfoFileName メソッド

接続情報ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDBInfoFileName(String newDBInfoFileName)
```

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setDBInfoFilePath メソッドに指定することもできます。setDBInfoFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- 接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newDBInfoFileName

接続情報ファイル名

戻り値

なし

setDBInfoFilePath メソッド

setDBInfoFileName メソッドで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setDBInfoFilePath(String newDBInfoFilePath)
```

解説

- 接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newDBInfoFilePath

接続情報ファイルのパス

戻り値

なし

setDestinationName メソッド

スプールサーバの出力先名を指定します。

形式

```
public void setDestinationName(String newDestinationName)
```

解説

- 出力先名を指定するときの注意
出力先名は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 出力先名は、80 バイト以内で指定してください。
 - 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合、setDestinationName メソッドは有効になります。それ以外の場合は、setDestinationName メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3), かつスプールサーバ指定方式が出力先名指定 (setServerSelectMode=0) のとき
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2), かつスプールサーバ指定方式が出力先名指定 (setServerSelectMode=0) のとき

引数

newDestinationName

出力先名

戻り値

なし

setDispPrintDlg メソッド

クライアント PC で印刷する場合、ダイアログの表示モードを選択します。

形式

```
public void setDispPrintDlg(int newDispPrintDlg)
```

解説

- 指定できる値と印刷時の動作を次に示します。
 - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
 - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
 - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
 - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
 - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
印刷は実行できません。
- setDispPrintDlg メソッドを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値 (0~4) が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび setDispPrintDlg メソッドとも省略した場合、0 が仮定されます。setClientPrinterName メソッドを指定した場合、かつ setDispPrintDlg メソッドに 0 または 2 を指定した場合は、1 が仮定されます。

- setDispPrintDlg メソッドは、printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (setPrintMode=1) の場合、および printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、setDispPrintDlg メソッドを指定しても無視されません。

戻り値

なし

setDistributeFileData メソッド

PDF 仕分け定義データをメモリ渡しする場合、PDF 仕分け定義データを指定します。

形式

```
public void setDistributeFileData(StringBuffer newDistributeFileData)
```

解説

- setDistributeFileData メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setDistributeFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setDistributeFileData メソッドは、setDistributeFileName メソッドと同時に使用できません。また、setDistributeFileData メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力 (データ指定) のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - マッピングデータ (setDataFileData)
 - ユーザ定義データ (setUserDataFileData)
 - しおり定義データ (setBookmarkFileData)
 - 文書しおり定義データ (setDocBookmarkFileData)
 - 暗号化設定データ (setCryptoFileData)
 - 分割定義データまたは仕分け定義データ (setSplitFileData)
- setDistributeFileData メソッドで PDF 仕分け定義データを指定した場合は、setFileOutputDestination メソッドの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義データに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。

引数

newDistributeFileData

PDF 仕分け定義データ

戻り値

なし

setDistributeFileName メソッド

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDistributeFileName(String newDistributeFileName)
```

解説

- PDF 仕分け定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDistributeFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は、setPDFFileName メソッドまたは setDistributeFileName メソッドのどちらかは、必ず指定してください。setPDFFileName メソッドと setDistributeFileName メソッドを同時に指定した場合は、setPDFFileName メソッドの指定は無視されます。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setDistributeFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setDistributeFileName メソッドは、setDistributeFileData メソッドと同時に使用できません。また、setDistributeFileName メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
 - マッピングデータファイル (setDataFileName)
 - ユーザ定義データファイル (setUserDataFileName)
 - しおり定義ファイル (setBookmarkFileName)
 - 文書しおり定義ファイル (setDocBookmarkFileName)
 - 暗号化設定ファイル (setCryptoFileName)
 - 帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName)
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル (setSplitFileName)
- setDistributeFileName メソッドで PDF 仕分け定義ファイル名を指定した場合は、setFileOutputDestination メソッドの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。
- PDF 仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

`newDistributeFileName`

PDF 仕分け定義ファイル名

戻り値

なし

`setDistributeFilePath` メソッド

`setDistributeFileName` メソッドで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setDistributeFilePath(String newDistributeFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、`setDistributeFileName` メソッドで指定する PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- `setDistributeFilePath` メソッドは、`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッド以外の場合は、`setDistributeFilePath` メソッドを指定しても無視されます。

引数

`newDistributeFilePath`

PDF 仕分け定義ファイルのパス

戻り値

なし

`setDocBookmarkFileData` メソッド

文書しおり定義データをメモリ渡しする場合、文書しおり定義データを指定します。

形式

```
public void setDocBookmarkFileData(StringBuffer newDocBookmarkFileData)
```


解説

- `setDocBookmarkFileData` メソッドは、`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッド以外の場合は、`setDocBookmarkFileData` メソッドを指定しても無視されます。
- `setDocBookmarkFileData` メソッドは、`setDocBookmarkFileName` メソッドと同時に使用できません。また、`setDocBookmarkFileData` メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - マッピングデータ (`setDataFileData`)
 - ユーザ定義データ (`setUserDataFileData`)
 - しおり定義データ (`setBookmarkFileData`)
 - 暗号化設定データ (`setCryptoFileData`)
 - PDF 仕分け定義データ (`setDistributeFileData`)
 - 分割定義データまたは仕分け定義データ (`setSplitFileData`)

引数

`newDocBookmarkFileData`

文書しおり定義データ

戻り値

なし

`setDocBookmarkFileName` メソッド

文書しおり定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDocBookmarkFileName(String newDocBookmarkFileName)
```

解説

- 文書しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- `setDocBookmarkFileName` メソッドは、`outputPDFReport` メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。`outputPDFReport` メソッド以外の場合は、`setDocBookmarkFileName` メソッドを指定しても無視されます。

- setDocBookmarkFileName メソッドは、setDocBookmarkFileData メソッドと同時に使用できません。また、setDocBookmarkFileName メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
 - マッピングデータファイル (setDataFileName)
 - ユーザ定義データファイル (setUserDataFileName)
 - しおり定義ファイル (setBookmarkFileName)
 - 暗号化設定ファイル (setCryptoFileName)
 - 帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName)
 - PDF 仕分け定義ファイル (setDistributeFileName)
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル (setSplitFileName)
- 文書しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newDocBookmarkFileName

文書しおり定義ファイル名

戻り値

なし

setDocInfoFileName メソッド

文書情報設定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDocInfoFileName(String newDocInfoFileName)
```

解説

- 文書情報設定ファイル名は、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。setDocInfoFileName メソッドと setReportID メソッドの両方で指定したときは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setDocInfoFilePath メソッドに指定することもできます。setDocInfoFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 文書情報設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newDocInfoFileName

文書情報設定ファイル名

戻り値

なし

setDocInfoFilePath メソッド

setDocInfoFileName メソッドで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setDocInfoFilePath(String newDocInfoFilePath)
```

解説

- 文書情報設定ファイルのパスは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。setDocInfoFilePath メソッドと setReportID メソッドの両方で指定したときは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。
- 文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

`newDocInfoFilePath`

文書情報設定ファイルのパス

戻り値

なし

setEnabledGet メソッド

プールデータから EPF 形式ファイルの取得を許可するかどうかを指定します。

形式

```
public void setEnabledGet(boolean newEnableGet)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- True : EPF 形式ファイルの取得を許可します。
- False : EPF 形式ファイルの取得を許可しません。

setEnabledGet メソッドを指定しない場合は、True が仮定されます。

setEnabledGet メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setEnabledGet メソッドを指定しても無視されます。

引数

`newEnableGet`

EPF 形式ファイルの取得可否

戻り値

なし

setEncryptionPasswordKey メソッド

オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して、暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

形式

```
public void setEncryptionPasswordKey(String newEncryptionPasswordKey)
```

解説

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。

- 半角数字
0~9
- 半角英字
A~Z, a~z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは、32 バイトまでです。

setEncryptionPasswordKey メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setEncryptionPasswordKey メソッドを指定しても無視されます。

引数

newEncryptionPasswordKey

パスワード暗号化鍵

戻り値

なし

setEPFFileData メソッド

クライアント PC への配布印刷の場合に、メモリ取得した EPF 形式ファイルデータを指定します。

形式

```
public void setEPFFileData(ByteBuffer newEPFFileData)
```

解説

setEPFFileData メソッドには、getEPFReport メソッドおよび memgetSpoolFile メソッドで取得したデータを指定できます。printReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合は、setEPFFileData メソッドか setEPFFilename メソッドのどちらかを必ず指定してください。

引数

newEPFFileData

EPF 形式ファイルのデータ

戻り値

なし

setEPFFileName メソッド

入力または出力する EPF 形式ファイル名を指定します。

形式

```
public void setEPFFileName(String newEPFFileName)
```

解説

- outputEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合は、setEPFFileName メソッドを必ず指定してください。
- printReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合は、setEPFFileName メソッドか setEPFFileData メソッドのどちらかを必ず指定してください。
- outputEPFReport メソッド、outputMergeEPFReport メソッド、および printReport メソッド以外の場合は、setEPFFileName メソッドを指定しても無視されます。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。ただし、出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは、次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。
 - EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
 - EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

引数

newEPFFileName

EPF 形式ファイル名

戻り値

なし

setEPFFilePath メソッド

setEPFFileName メソッドで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setEPFFilePath(String newEPFFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、setEPFFileName メソッドで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setEPFFilePath メソッドは、outputEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合や、printReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合に指定が有効になります。outputEPFReport メソッド、outputMergeEPFReport メソッド、および printReport メソッド以外の場合は、setEPFFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newEPFFilePath

EPF 形式ファイルを入力または出力するパス

戻り値

なし

setEURFileName メソッド

出力する EUR 形式ファイル名を指定します。

形式

```
public void setEURFileName(String newEURFileName)
```

解説

- outputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合は、setEURFileName メソッドを必ず指定してください。outputEURReport メソッド以外の場合は、setEURFileName メソッドを指定しても無視されます。
- EUR 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newEURFileName

出力する EUR 形式ファイル名

戻り値

なし

setEURFilePath メソッド

setEURFileName メソッドで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setEURFilePath(String newEURFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、setEURFileName メソッドで指定する EUR 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setEURFilePath メソッドは、outputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputEURReport メソッド以外の場合は、setEURFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

引数

newEURFilePath

EUR 形式ファイルを出力するパス

戻り値

なし

setExecutablePrintMode メソッド

実行可能印刷方式を指定します。

形式

```
public void setExecutablePrintMode(int newExecutablePrintMode)
```


解説

指定できる値を次に示します。

- 0：スプールサーバでの印刷
- 1：スプールサーバでの印刷，またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

0, 1, および 2 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

setExecutablePrintMode メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setExecutablePrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

newExecutablePrintMode

実行可能印刷方式

戻り値

なし

setFileOutputDestination メソッド

PDF 形式ファイルの出力先を，EUR Server - Adapter 稼働マシンにするか，または EUR Server Service 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

形式

```
public void setFileOutputDestination (int newFileOutputDestination)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Server - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1：EUR Server Service 稼働マシンに出力します。

setFileOutputDestination メソッドを省略した場合は，EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の OPTION セクションの FILEOUTPUTDESTINATION キーが仮定されます。

また，0, 1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

setFileOutputDestination メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setFileOutputDestination メソッドを指定しても無視されます。

setDistributeFileData メソッドで PDF 仕分け定義データを指定した場合は、setFileOutputDestination メソッドの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義データに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。

setDistributeFileName メソッドで PDF 仕分け定義ファイル名を指定した場合は、setFileOutputDestination メソッドの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。

引数

FileOutputDestination

ファイルの出力先

戻り値

なし

setFirstPageNumber メソッド

ページ番号の初期値を指定します。

形式

```
public void setFirstPageNumber(int newFirstPageNumber)
```

解説

指定できる値は、1~999,999 です。setFirstPageNumber メソッドを省略した場合、1 が仮定されます。ただし、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は、setFirstPageNumber メソッドの設定値は無視されます。

setFirstPageNumber メソッドは、setPrintPageNumber メソッドを指定した場合だけ有効になります。また、setFirstPageNumber メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setFirstPageNumber メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newFirstPageNumber

ページ番号の初期値

戻り値

なし

setGroupName メソッド

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

形式

```
public void setGroupName(String newGroupName)
```

解説

- 振り分けグループ名を指定するときの注意
振り分けグループ名は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 振り分けグループ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合、setGroupName メソッドは有効になります。それ以外の場合は、setGroupName メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=0) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=0)、かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け (setPrinterSelectMode=2) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2)、かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け (setPrinterSelectMode=2) のとき

引数

newGroupName

振り分けグループ名

戻り値

なし

setInitPageNumber メソッド

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

形式

```
public void setInitPageNumber(boolean newInitPageNumber)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- True：初期化します。
- False：初期化しません。

setInitPageNumber メソッドを指定しない場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、False が仮定されます。ただし、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は、setInitPageNumber メソッドの設定値は無視されます。

setInitPageNumber メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setInitPageNumber メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newInitPageNumber

ページ番号の開始番号の初期化

戻り値

なし

setJobKeyCategory メソッド

スプールデータの検索キーの分類を指定します。

形式

```
public void setJobKeyCategory(String[] newJobKeyCategory)
```

解説

- 検索キーを指定する場合は、1～10個の配列で指定してください。また、setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。

検索キーを指定しない場合、setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。

- 分類を指定するときの注意

分類は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列は、80バイト以内で指定してください。
- 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyCategory メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setJobKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。

引数

newJobKeyCategory

検索キーとする分類の配列

戻り値

なし

setJobKeyData メソッド

スプールデータの検索キーの値を指定します。

形式

```
public void setJobKeyData(String[] newJobKeyData)
```

解説

- 検索キーを指定する場合は、1～10個の配列で指定してください。また、setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。

検索キーを指定しない場合、setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。

- 値を指定するときの注意
値は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyData メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

newJobKeyData

検索キーとする値の配列

戻り値

なし

setMaxPrintCount メソッド

スプールデータの上限印刷回数を指定します。

形式

```
public void setMaxPrintCount(int newMaxPrintCount)
```

解説

- スプールデータに指定できる値は、-1~65,536 です。
 - 印刷回数の上限を無限にする場合は、-1 を指定してください。
 - 印刷を禁止する場合は、0 を指定してください。
- setMaxPrintCount メソッドを省略した場合、または-1~65,536 以外の値を指定した場合は、-1 (無限) が仮定されます。
- setMaxPrintCount メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setMaxPrintCount メソッドを指定しても無視されません。

引数

newMaxPrintCount

スプールデータの上限印刷回数

戻り値

なし

setMergeEPFFileName メソッド

統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。

形式

```
public void setMergeEPFFileName (String[] newMergeEPFFileName)
```

解説

- getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は、setMergeEPFFileName メソッドを必ず指定してください。getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッド以外の場合は、setMergeEPFFileName メソッドを指定しても無視されます。
- 指定できる EPF 形式ファイルの数は、2~10,000 ファイルです。ファイル名はファイルの統合順に指定してください。
- 統合対象の EPF 形式ファイルは、EUR Server - Adapter が稼働するマシンに準備してください。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。

引数

newMergeEPFFileName

統合対象の EPF 形式ファイル名

戻り値

なし

setMergeEPFFilePath メソッド

setMergeEPFFileName メソッドで指定した統合対象の EPF 形式ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setMergeEPFFilePath (String newMergeEPFFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、setMergeEPFFileName メソッドで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setMergeEPFFilePath メソッドは、outputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合、指定が有効になります。outputMergeEPFReport メソッド以外の場合は、setMergeEPFFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newMergeEPFFilePath

統合対象の EPF 形式ファイルのパス

戻り値

なし

setMultiBookmarkFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、各帳票ファイルで使用するしおり定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setMultiBookmarkFileName(String[] newMultiBookmarkFileName)
```

解説

- setMultiBookmarkFileName メソッドには、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義ファイル名を配列で指定します。
- 配列の要素数は、setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、配列の要素の順序についても、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setMultiBookmarkFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、

または getPDFReport メソッド以外の場合は、setMultiBookmarkFileName メソッドを指定しても無視されます。

- しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiBookmarkFileName

しおり定義ファイル名の配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してしおり定義ファイルの指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のしおり定義ファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// しおり定義ファイル名を配列bokに指定
bok[0]="Book1.csv";
bok[1]="";
bok[2]="Book3.csv";
```

setMultiDataFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、各帳票ファイルで使用するマッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setMultiDataFileName(String[] newMultiDataFileName)
```

解説

- setMultiDataFileName メソッドには、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を配列で指定します。

- 配列の要素数は、setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、配列の要素の順序についても、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiDataFileName

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名の配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してマッピングデータファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のマッピングデータファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列mapに指定
map[0]="Data1.csv";
map[1]="";
map[2]="Data3.csv";
```

setMultiFormInfoDefFileName メソッド

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setMultiFormInfoDefFileName(String newMultiFormInfoDefFileName)
```

解説

- 複数様式で帳票を出力する場合は、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定してください。setMultiFormInfoDefFileName メソッドを省略すると、setReportFileName メソッドで指定した複数の帳票ファイル、または setMultiReportSetFileName メソッドの帳票セット指定ファイルで指定した帳票ファイルが順に出力されます。
- 複数様式情報定義ファイルは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。setReportID メソッドを指定した場合は、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定しても無効になります。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setMultiFormInfoDefFilePath メソッドに指定することもできます。

setMultiFormInfoDefFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiFormInfoDefFileName

複数様式情報定義ファイル名

戻り値

なし

setMultiFormInfoDefFilePath メソッド

setMultiFormInfoDefFileName メソッドで指定した複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setMultiFormInfoDefFilePath(String newMultiFormInfoDefFilePath)
```

解説

- 複数様式情報定義ファイルのパスは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。setReportID メソッドを指定した場合は、setMultiFormInfoDefFilePath メソッドを指定しても無効になります
- 複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newMultiFormInfoDefFilePath

複数様式情報定義ファイルのパス

戻り値

なし

setMultiReportFileName メソッド

複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、帳票ファイル名を配列で指定します。帳票は、配列の要素順に出力されます。帳票ファイル名 (*.fms) を指定してください。

形式

```
public void setMultiReportFileName(String[] newMultiReportFileName)
```

解説

- setMultiReportFileName メソッド、setMultiReportSetFileName メソッド、または setReportID メソッドのどれかは、必ず指定してください。

setReportID メソッドを指定した場合は、setMultiReportFileName メソッドを指定しても無効になります。

setMultiReportFileName メソッドと setMultiReportSetFileName メソッドを同時に指定した場合は、setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票ファイルのあとに、setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルが出力されます。

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setReportFilePath メソッドに指定することもできます。setReportFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiReportFileName

帳票ファイル名の配列

戻り値

なし

setMultiReportSetFileName メソッド

帳票セット指定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setMultiReportSetFileName(String newMultiReportSetFileName)
```

解説

- setMultiReportSetFileName メソッド、setReportFileName メソッド、または setReportID メソッドのどれかは、必ず指定してください。

setReportID メソッドを指定した場合は、setMultiReportSetFileName メソッドを指定しても無効になります。

setMultiReportSetFileName メソッドと setReportFileName メソッドを同時に指定した場合は、setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票ファイルのあとに、setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルが出力されます。

- 帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiReportSetFileName

帳票セット指定ファイル名

戻り値

なし

setMultiReportSetFilePath メソッド

setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setMultiReportSetFilePath(String newMultiReportSetFilePath)
```

解説

- setReportID メソッドを指定した場合は、setMultiReportSetFilePath メソッドを指定しても無効になります。
- 帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newMultiReportSetFilePath

帳票セット指定ファイルのパス

戻り値

なし

setMultiUserDataFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、各帳票ファイルで使用するユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setMultiUserDataFileName(String[] newMultiUserDataFileName)
```

解説

- setMultiUserDataFileName メソッドには、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を配列で指定します。
- 配列の要素数は、setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、配列の要素の順序についても、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiUserDataFileName

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名の配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してユーザ定義データファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のユーザ定義データファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// ユーザ定義データファイル名を配列usrに指定
usr[0]="Data1.csv";
```

```
usr[1]="";  
usr[2]="Data3.csv";
```

setOutputPageCountOpt メソッド

印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

形式

```
public void setOutputPageCountOpt(boolean newOutputPageCountOpt)
```

解説

setOutputPageCountOpt メソッドは、次に示すメソッドで印刷またはファイル出力を実行する場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、setOutputPageCountOpt メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=0) のとき
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) のとき
- printReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (setPrintMode=4) のとき
- printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (setPrintMode=1) のとき
- getPDFReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getXLSXReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputXLSXReport メソッド

引数

newOutputPageCountOpt

印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- True：総ページを出力します。
- False：総ページを出力しません。

setOutputPageCountOpt メソッドを省略した場合、False が仮定されます。

戻り値

なし

setPageNumberFormat メソッド

ページ番号のフォーマットを指定します。

形式

```
public void setPageNumberFormat(String newPageNumberFormat)
```

解説

ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

setPageNumberFormat メソッドを指定しても、setPrintPageNumber メソッドを省略した場合は無効となります。また、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は、setPageNumberFormat メソッドの設定値は無視されます。

setPageNumberFormat メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPageNumberFormat メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newPageNumberFormat

ページ番号のフォーマット

戻り値

なし

setPageNumberLocation メソッド

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

形式

```
public void setPageNumberLocation(int newPageNumberLocation)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

setPageNumberLocation メソッドを指定しても、setPrintPageNumber メソッドを省略した場合は無効となります。また、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は、setPageNumberLocation メソッドの設定値は無視されます。

setPageNumberLocation メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPageNumberLocation メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newPageNumberLocation

余白へのページ番号の印刷位置

戻り値

なし

setPaperOrientation メソッド

用紙の向きを指定します。

形式

```
public void setPaperOrientation(int newPaperOrientation)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。

複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は、統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性に従います。

- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

setPaperOrientation メソッドを省略した場合、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、setPaperOrientation メソッドの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし、getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで、複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは、setPaperOrientation メソッドの指定に従います。

setPaperOrientation メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPaperOrientation メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド

引数

newPaperOrientation

用紙の向き

戻り値

なし

setPDFFileName メソッド

出力する PDF 形式ファイル名を指定します。

形式

```
public void setPDFFileName(String newPDFFileName)
```

解説

- setPDFFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または

getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は、setPDFFileName メソッドまたは setDistributeFileName メソッドのどちらかは、必ず指定してください。setPDFFileName メソッドと setDistributeFileName メソッドを同時に指定した場合は、setPDFFileName メソッドの指定は無視されます。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setPDFFileName メソッドを指定しても無視されます。

- PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する (setFileOutputDestination=1) 場合で、EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定しているときは、setPDFFileName メソッドにはファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定しているときは、setPDFFileName メソッドはフルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、setPDFFilePath メソッドに指定することもできます。setPDFFilePath メソッドにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。

- フルパスを指定する場合
setPDFFileName メソッドで指定したパスに出力されます。なお、環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし、そこから setPDFFileName メソッドで指定したパスに出力されます。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに、setPDFFileName メソッドで指定したファイル名で出力されます。
- PDF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newPDFFileName

出力する PDF 形式ファイル名

戻り値

なし

setPDFFilePath メソッド

setPDFFileName メソッドで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setPDFFilePath(String newPDFFilePath)
```

解説

- 指定されたフォルダのパスは、setPDFFileName メソッドで指定する PDF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setPDFFilePath メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合に指定が有効になります。ただし、次の場合は setPDFFilePath メソッドを指定しても無視されます。
 - outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合
 - PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する (setFileOutputDestination=1) 場合、かつ EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を指定している場合
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newPDFFilePath

PDF 形式ファイルを出力するパス

戻り値

なし

setPMServerAddress メソッド

帳票サーバが複数台ある場合、接続する帳票サーバの IP アドレスを指定します。

形式

```
public void setPMServerAddress(String newPMServerAddress)
```

解説

- 帳票サーバが複数台起動されている場合に、setPMServerAddress メソッドを指定すると、接続する帳票サーバを振り分けられます。
- setPMServerAddress メソッドを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の IPADDRESS セクションの EURPM キーが仮定されます。EURPM キーの指定が省略されているとき、または値が指定されていないときは、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

引数

newPMServerAddress

帳票サーバの IP アドレス

戻り値

なし

setPMServerPort メソッド

帳票サーバで EUR Server Service を複数起動する場合、ポート番号を指定します。

形式

```
public void setPMServerPort(int newPMServerPort)
```

解説

- EUR Server Service が複数起動されている場合に、setPMServerPort メソッドを指定すると、接続するポートを振り分けられます。
- setPMServerAddress メソッドを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の PORT セクションの EURPM キーが仮定されます。
- setPMServerPort メソッドを省略した場合、および EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の PORT セクションの EURPM キーが指定されていない場合は、環境設定ファイルの省略時の値が仮定されます。

引数

newPMServerPort

帳票サーバのポート番号

戻り値

なし

setPrintCopies メソッド

印刷部数を指定します。

形式

```
public void setPrintCopies(int newPrintCopies)
```

解説

指定できる値は、1～99 です。setPrintCopies メソッドを省略した場合、1 が仮定されます。ただし、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は、setPrintCopies メソッドの設定値は無視されます。

setPrintCopies メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintCopies メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド

引数

newPrintCopies

印刷部数

戻り値

なし

setPrintDateFileName メソッド

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setPrintDateFileName (String newPrintDateFileName)
```

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、setPrintDateFileName メソッドは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setPrintDateFilePath メソッドに指定することもできます。setPrintDateFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 印刷日時出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。
- setPrintDateFileName メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintDateFileName メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッド
 - outputEPFReport メソッド

引数

newPrintDateFileName

印刷日時出力定義ファイル名

戻り値

なし

setPrintDateFilePath メソッド

setPrintDateFileName メソッドで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setPrintDateFilePath (String newPrintDateFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、setPrintDateFileName メソッドで指定する印刷日時出力定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- 印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

- setPrintDateFilePath メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintDateFilePath メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッド
 - outputEPFReport メソッド

引数

newPrintDateFilePath

印刷日時出力定義ファイルのパス

戻り値

なし

setPrintEndPage メソッド

印刷終了ページを指定します。

形式

```
public void setPrintEndPage(int newPrintEndPage)
```

解説

指定できる値は、0~999,999 です。setPrintEndPage メソッドを省略した場合、または指定した値が0の場合は、最終ページまで印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、setPrintEndPage メソッドの指定に関係なく、複数帳票ファイルの全ページが印刷されます。

setPrintEndPage メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintEndPage メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputXLSXReport メソッド

引数

newPrintEndPage

印刷終了ページ

戻り値

なし

setPrinterClassName メソッド

プリンタクラス名を指定します。

形式

```
public void setPrinterClassName(String newPrinterClassName)
```

解説

- プリンタクラス名を指定するときの注意
プリンタクラス名は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - プリンタクラス名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
 - プリンタクラス名に「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」は使用できません。
- 印刷方法ごとに指定するメソッドを次に示します。
 - スプールサーバでの印刷
setPrintMode メソッド：3
setPrinterSelectMode メソッド：0
setPrinterClassName メソッド：拠点プリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷
setPrintMode メソッド：1
setDispPrintDlg メソッド：0
setPrinterClassName メソッド：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - クライアント PC での自動印刷
setPrintMode メソッド：1
setDispPrintDlg メソッド：1
setPrinterClassName メソッド：クライアントプリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示
setPrintMode メソッド：1
setDispPrintDlg メソッド：2

setPrinterClassName メソッド：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- クライアント PC での全自動印刷

setPrintMode メソッド：1

setDispPrintDlg メソッド：3

setPrinterClassName メソッド：クライアントプリンタクラス名

- クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示限定

setPrintMode メソッド：1

setDispPrintDlg メソッド：4

setPrinterClassName メソッド：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- 帳票サーバでの印刷

setPrintMode メソッド：4

setPrinterSelectMode メソッド：0

setPrinterClassName メソッド：帳票サーバプリンタクラス名

- 蓄積（プリンタクラス名指定）

setPrintMode メソッド：2

setPrinterSelectMode メソッド：0

setPrinterClassName メソッド：拠点プリンタクラス名、または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

- 蓄積（OS 上のプリンタ名指定）

setPrintMode メソッド：2

setPrinterSelectMode メソッド：1

setPrinterClassName メソッド：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- 蓄積（帳票名による自動振り分け）

setPrintMode メソッド：2

setPrinterSelectMode メソッド：2

setPrinterClassName メソッド：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合、setClientPrinterName メソッドと setPrinterClassName メソッドでは、setClientPrinterName メソッドの指定を優先します。

- EPF 形式ファイルを出力する場合、または EPF 形式データを取得する場合に、指定するメソッドを次に示します。

setPrinterClassName メソッド：EPF 形式ファイルまたは EPF 形式データの属性情報に設定するプリンタクラス名

- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合、または複数の EPF 形式ファイルを統合してメモリに取得する場合に、指定するメソッドを次に示します。

setPrinterClassName メソッド：EPF 形式ファイルまたは EPF 形式データの属性情報に設定するプリンタクラス名

- クライアント PC への配布印刷では、指定できません。
- EPF 形式ファイルを出力する場合、または EPF 形式データを取得する場合に、setPrinterClassName メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、EPF 形式ファイルまたは EPF 形式データのプリンタクラス名情報は未設定となります。
- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合、または複数の EPF 形式ファイルを統合してメモリに取得する場合に、setPrinterClassName メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、統合対象の EPF 形式ファイルにプリンタクラス名情報が設定されていても、統合後の EPF 形式ファイルまたは EPF 形式データのプリンタクラス名情報は未設定となります。

引数

newPrinterClassName

プリンタクラス名

戻り値

なし

setPrinterSelectMode メソッド

プリンタの指定方法を選択します。

形式

```
public void setPrinterSelectMode(int newPrinterSelectMode)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名の指定
- 1：OS 上のプリンタ名の指定
- 2：帳票振り分け定義の指定

setPrinterSelectMode メソッドを省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

setPrinterSelectMode メソッドは、次の場合に指定が有効になります。

- printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3) の場合
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合

- printReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (setPrintMode=4) の場合

それ以外の場合は、setPrinterSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

また、帳票サーバによる直接印刷 (setPrintMode=4) の場合、2 の値を指定するとエラーになります。

引数

newPrinterSelectMode

プリンタの指定方法

戻り値

なし

setPrintHoldMode メソッド

蓄積印刷方式で、蓄積後に続けて印刷するかどうかを選択します。

形式

```
public void setPrintHoldMode(int newPrintHoldMode)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません (印刷保留)。
- 1：蓄積後に続けてスプールサーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

setPrintHoldMode メソッドを省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、setReportAddressKeyCategory メソッドおよび setReportAddressKeyData メソッドの指定の有無によって次の値が仮定されます。

setReportAddressKeyCategory メソッドおよび setReportAddressKeyData メソッドの指定がある場合
0 が仮定されます。

setReportAddressKeyCategory メソッドおよび setReportAddressKeyData メソッドの指定がない場合
1 が仮定されます。

setPrintHoldMode メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintHoldMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

`newPrintHoldMode`

蓄積印刷方式で、蓄積後に続けて印刷するかどうかの指定

戻り値

なし

setPrintKind メソッド

スプールサーバ印刷方式の印刷モードを指定します。

形式

```
public void setPrintKind(int newPrintKind)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイル印刷モード
- 1：EUR 形式ファイル印刷モード

`setPrintKind` メソッドを省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

`setPrintKind` メソッドは、`printReport` メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (`setPrintMode=3`) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、`setPrintKind` メソッドを指定しても無視されます。

引数

`newPrintKind`

スプールサーバでの印刷の出力するファイル形式

戻り値

なし

setPrintMode メソッド

印刷メソッド (`printReport` メソッド) の印刷方式を指定します。

形式

```
public void setPrintMode(int newPrintMode)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：スプールサーバ印刷方式
- 4：帳票サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0, 1, 2, 3, 4, 5 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

setPrintMode メソッドを省略した場合は、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトにします。

引数

newPrintMode

印刷方法

戻り値

なし

setPrintPageNumber メソッド

余白へのページ番号印刷を指定します。

形式

```
public void setPrintPageNumber(boolean newPrintPageNumber)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- True：余白へのページ番号を出力します。
- False：余白へのページ番号は出力しません。

setPrintPageNumber メソッドを省略した場合、False が仮定されます。ただし、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は、setPrintPageNumber メソッドの設定値は無視されます。

setPrintPageNumber メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintPageNumber メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newPrintPageNumber

余白へのページ番号印刷

戻り値

なし

setPrintStartPage メソッド

印刷開始ページを指定します。

形式

```
public void setPrintStartPage(int newPrintStartPage)
```

解説

指定できる値は、0~999,999 です。setPrintStartPage メソッドを省略した場合、または指定した値が0の場合は、1 ページから印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、setPrintStartPage メソッドの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

setPrintStartPage メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPrintStartPage メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputXLSXReport メソッド

引数

newPrintStartPage

印刷開始ページ

戻り値

なし

setPSEnvFileName メソッド

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

形式

```
public void setPSEnvFileName (String newPSEnvFileName)
```

解説

- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。setPSEnvFileName メソッドと setReportID メソッドの両方で指定したときは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、setPSEnvFileName メソッドは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setPSEnvFilePath メソッドに指定することもできます。setPSEnvFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。
- setPSEnvFileName メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPSEnvFileName メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッド
 - outputPDFReport メソッド
 - outputEPFReport メソッド
 - outputEURReport メソッド
 - outputXLSXReport メソッド

引数

newPSEnvFileName

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名

戻り値

なし

setPSEnvFilePath メソッド

setPSEnvFileName メソッドで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

形式

```
public void setPSEnvFilePath (String newPSEnvFilePath)
```

解説

- 指定されたファイルのパスは、setPSEnvFileName メソッドで指定する EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のデフォルトの場所になります。

- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。setPSEnvFilePath メソッドと setReportID メソッドの両方で指定したときは、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります
- EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setPSEnvFilePath メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setPSEnvFilePath メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッド
 - outputPDFReport メソッド
 - outputEPFReport メソッド
 - outputEURReport メソッド
 - outputXLSXReport メソッド

引数

newPSEnvFilePath

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス

戻り値

なし

setReplaceItemCntlFileName メソッド

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

形式

```
public void setReplaceItemCntlFileName(String newReplaceItemCntlFileName)
```

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setReplaceItemCntlFilePath メソッドに指定することもできます。

setReplaceItemCntlFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合、setReplaceItemCntlFileName メソッドは有効になります。printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=1) の場合は、setReplaceItemCntlFileName メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=0) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (setPrintMode=1) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) のとき
 - outputPDFReport メソッド、outputEPFReport メソッド、outputEURReport メソッド、および outputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき
- 置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newReplaceltemCntlFileName

置き換え表管理情報ファイル名

戻り値

なし

setReplaceltemCntlFilePath メソッド

setReplaceItemCntlFileName メソッドで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setReplaceItemCntlFilePath(String newReplaceItemCntlFilePath)
```

解説

- 置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合、setReplaceItemCntlFilePath メソッドは有効になります。printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=1) の場合は、setReplaceItemCntlFilePath メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード (setPrintKind=0) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式 (setPrintMode=1) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) のとき
 - outputPDFReport メソッド、outputEPFReport メソッド、outputEURReport メソッド、および outputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき

引数

newReplaceltemCntlFilePath

置き換え表管理情報ファイルのパス

戻り値

なし

setReportAddressKeyCategory メソッド

スプールデータの宛先キーの分類を指定します。

形式

```
public void setReportAddressKeyCategory (String newKeyCategory)
```

解説

- 宛先キーの分類は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80 バイトで指定してください。
 - 文字列には「[」,「,」および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。

- setReportAddressKeyCategory メソッドは printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setReportAddressKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。
- setReportAddressKeyData メソッドが指定されていない場合はエラーになります。

引数

newKeyCategory

宛先キー分類

戻り値

なし

setReportAddressKeyData メソッド

スプールデータの宛先キーの値を指定します。

形式

```
public void setReportAddressKeyData (String newKeyData)
```

解説

- 宛先キーの値は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80 バイトで指定してください。
 - 文字列の値には「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。
- setReportAddressKeyData メソッドは printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setReportAddressKeyData メソッドを指定しても無視されます。
- setReportAddressKeyCategory メソッドが指定されていない場合はエラーになります。

引数

newKeyData

宛先キー値

戻り値

なし

setReportFileName メソッド

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

形式

```
public void setReportFileName(String newReportFileName)
```

解説

- setReportFileName メソッド, setMultiReportSetFileName メソッド, または setReportID メソッドのどれかは, 必ず指定してください。
setReportID メソッドを指定した場合は, setReportFileName メソッドを指定しても無効になります。
setReportFileName メソッドと setMultiReportSetFileName メソッドを同時に指定した場合は, setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票ファイルのあとに, setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルが出力されます。
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で, OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合, 帳票ファイル名は, ファイル名だけを指定してください。このとき, 指定するファイルは, PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は, フルパス, 相対パス, またはファイル名だけのどれかで指定してください。
パスは, setReportFilePath メソッドに指定することもできます。setReportFilePath メソッドにパスを指定しない場合は, 次のことに注意してください。
 - フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
 - 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
 - ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 帳票ファイル名を指定するときの規則, および注意については, 「付録 A.1 ファイル名, およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票ファイルは, EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newReportFileName

帳票ファイル名

戻り値

なし

setReportFilePath メソッド

setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setReportFilePath(String newReportFilePath)
```

解説

- setReportID メソッドを指定した場合は、setReportSetFilePath メソッドを指定しても無効になります。
- 帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newReportFilePath

帳票ファイルのパス

戻り値

なし

setReportID メソッド

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、印刷またはファイル出力を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setReportID(String newReportID)
```

解説

- setReportID メソッド、setReportFileName メソッド、または setMultiReportSetFileName メソッドのどれかは、必ず指定してください。
- 帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」
- 帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newReportID

帳票 ID

戻り値

なし

setScriptCntlFileName メソッド

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setScriptCntlFileName(String newScriptCntlFileName)
```

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、Acrobat JavaScript 定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setScriptCntlFilePath メソッドに指定することもできます。setScriptCntlFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- setScriptCntlFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setScriptCntlFileName メソッドを指定しても無視されます。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

newScriptCntlFileName

Acrobat JavaScript 定義ファイル名

戻り値

なし

setScriptCntlFilePath メソッド

setScriptCntlFileName メソッドで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setScriptCntlFilePath(String newScriptCntlFilePath)
```

解説

- Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- setScriptCntlFilePath メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setScriptCntlFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newScriptCntlFilePath

Acrobat JavaScript 定義ファイルのパス

戻り値

なし

setServerAddress メソッド

スプールサーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。

形式

```
public void setServerAddress(String newServerAddress)
```

解説

- 次に示すどちらかの指定がある場合、setServerAddress メソッドは有効になります。それ以外の場合、setServerAddress メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつスプールサーバ指定方式が IP アドレス指定 (setServerSelectMode=1) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2)、かつスプールサーバ指定方式が IP アドレス指定 (setServerSelectMode=1) のとき
- setServerAddress メソッドを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

引数

newServerAddress

スプールサーバの IP アドレス

戻り値

なし

setServerPrinterName メソッド

サーバプリンタ名を指定します。プリンタ名は、OS 上のプリンタ名を指定してください。

形式

```
public void setServerPrinterName(String newServerPrinterName)
```

解説

- プリンタ名を指定するときの注意
プリンタ名は、次のことに注意して指定してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示す指定がある場合、setServerPrinterName メソッドは有効になります。それ以外の場合は、setServerPrinterName メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) のとき
 - printReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (setPrintMode=4)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) のとき

引数

newServerPrinterName

サーバプリンタ名

戻り値

なし

setServerSelectMode メソッド

スプールサーバの選択方法を指定します。

形式

```
public void setServerSelectMode(int newServerSelectMode)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：スプールサーバの IP アドレスを指定します。

setServerSelectMode メソッドを省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

次に示すどちらかの指定がある場合、setServerSelectMode メソッドは有効になります。それ以外の場合は、setServerSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3) のとき
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) のとき

引数

newServerSelectMode

スプールサーバの選択方法

戻り値

なし

setServerTrayName メソッド

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は、OS 上のプリンタのトレイ名を指定してください。

形式

```
public void setServerTrayName(String newServerTrayName)
```

解説

Windows 環境の場合

- トレイ名を指定するときの注意
トレイ名は、次のことに注意して指定してください。
 - トレイ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- setServerTrayName メソッドを指定しない場合は、setServerPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- setServerTrayName メソッドに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、デフォルトのトレイから給紙されます。
- 次に示す指定がある場合、setServerTrayName メソッドは有効になります。それ以外の場合は、setServerTrayName メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッドで印刷方式がスプールサーバ印刷方式 (setPrintMode=3)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) のとき

- ・ printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) のとき
- ・ printReport メソッドで印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式 (setPrintMode=4)、かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- ・ 給紙トレイ情報を指定します。setServerTrayName メソッドを指定しない場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード (DefaultCassette) に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。プリンタ定義ファイルの詳細については、「11.5 プリンタ定義ファイル」を参照してください。
- ・ 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズから給紙トレイを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙トレイから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は、1~n (nはプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値) で指定します。 6以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

❗ 重要

setServerTrayName メソッドでは次に示す指定があった場合、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- ・ manual が指定されたとき
- ・ トレイ番号が指定されたとき
- ・ auto が指定されたのに、プリンタのパネルで給紙トレイが選択されたとき

また、帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか、または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は、あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

引数

newServerTrayName

サーバのプリンタのトレイ名

戻り値

なし

setSortPrint メソッド

印刷部数の単位を指定します。

形式

```
public void setSortPrint(int newSortPrint)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

setSortPrint メソッドを省略した場合、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、setSortPrint メソッドの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし、getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで、複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは、setSortPrint メソッドの指定に従います。

setSortPrint メソッドは、次に示すメソッドで印刷実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setSortPrint メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド

引数

newSortPrint

印刷部数の単位

戻り値

なし

setSplitFileData メソッド

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、分割定義データまたは仕分け定義データをメモリ渡しするときに指定します。

形式

```
public void setSplitFileData (StringBuffer newSplitFileData)
```

解説

- setSplitFileData メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、setSplitFileData メソッドを指定しても無視されます。
 - 帳票を分割 (setSplitMode=3) または仕分け (setSplitMode=2) する設定にしているとき。
 - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う (setSplitMode=0) 設定にしている、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき。
- setSplitFileData メソッドは、setSplitFileName メソッドと同時に使用できません。また、setSplitFileData メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力 (データ指定) のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - マッピングデータ (setDataFileData)
 - ユーザ定義データ (setUserDataFileData)
 - しおり定義データ (setBookmarkFileData)
 - 文書しおり定義データ (setDocBookmarkFileData)
 - 暗号化設定データ (setCryptoFileData)
 - PDF 仕分け定義データ (setDistributeFileData)
- 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newSplitFileData

分割定義データまたは仕分け定義データ

戻り値

なし

setSplitFileName メソッド

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

形式

```
public void setSplitFileName (String newSplitFileName)
```

解説

- setSplitFileName メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、setSplitFileName メソッドを指定しても無視されます。
 - 帳票を分割 (setSplitMode=3) または仕分け (setSplitMode=2) する設定にしているとき。
 - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う (setSplitMode=0) 設定にしている、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- setSplitFileName メソッドは、setSplitFileData メソッドと同時に使用できません。また、setSplitFileName メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力 (ファイル指定) のメソッドを使用してください。
 - マッピングデータファイル (setDataFileName)
 - ユーザ定義データファイル (setUserDataFileName)
 - しおり定義ファイル (setBookmarkFileName)
 - 文書しおり定義ファイル (setDocBookmarkFileName)
 - 暗号化設定ファイル (setCryptoFileName)
 - 帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName)
 - PDF 仕分け定義ファイル (setDistributeFileName)
- 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newSplitFileName

分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル名

戻り値

なし

setSplitFilePath メソッド

setSplitFileName メソッドで指定した、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setSplitFilePath (String newSplitFilePath)
```

解説

- 指定されたフォルダのパスは、setSplitFileName メソッドで指定するファイルのデフォルトの場所になります。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setSplitFilePath メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、setSplitFilePath メソッドを指定しても無視されます。
 - 帳票を分割 (setSplitMode=3) または仕分け (setSplitMode=2) する設定にしているとき。
 - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う (setSplitMode=0) 設定にしている、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき。

引数

newSplitFilePath

分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパス

戻り値

なし

setSplitMode メソッド

蓄積時に、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

形式

```
public void setSplitMode (int newSplitMode)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

setSplitMode メソッドの指定を省略した場合、0 が仮定されます。

setSplitMode メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、setSplitMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

newSplitMode

帳票を分割または仕分けするかどうか

戻り値

なし

setSpoolFileName メソッド

スプールデータに格納するファイルのファイル名を指定します。

形式

```
public void setSpoolFileName(String newSpoolFileName)
```

解説

- 格納ファイル名は、255 バイト以内になるように指定してください。格納ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 「%N」を指定すると、00000001 から始まる 8 桁の通し番号を設定できます。
- setSpoolFileName メソッドを省略した場合は、自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」※です。
- 複数のスプールデータに同一ファイル名が指定されている場合、スプールデータ取得時に同一パスで取得されると、ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは、別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。

- setSpoolFileName メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setSpoolFileName メソッドを指定しても無視されません。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。

EUR + 処理実行日時 + 通番フォルダ番号 + 通し番号

処理実行日時 (17 桁) : YYYYMMDDhhmmssmm

通番フォルダ番号 (7 桁) : 0000001 ~ 2000000

通し番号 (9 桁) : 000000001 ~ 999999999

通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は、エラー (KEEY430-S) になります。

通し番号が 999999999 を超えた場合は、000000003 に戻ります。

引数

newSpoolFileName

スプールデータの格納ファイル名

戻り値

なし

setSpoolLimit メソッド

スプールデータの蓄積期限日を指定します。

形式

```
public void setSpoolLimit(String newSpoolLimit)
```

解説

蓄積期限日は、日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年 (西暦) は 4 桁、月と日は 2 桁で入力します。
- 月、または日が 1~9 の場合は、ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は、20380118 (2038 年 1 月 18 日) です。
- 過去の日付は指定できません。

(指定例) 20120521, 20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には、蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は000~999です。0を指定した場合は、翌日にスプールデータが削除されます。
- 2038年1月18日を超える日数は指定できません。

(指定例) +030, +999

setSpoolLimit メソッドの指定がない場合、蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Server - Adapter の環境設定ファイルの (EURPMADP.ini) OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。

setSpoolLimit メソッドは、printReport メソッドで印刷方式が蓄積 (setPrintMode=2) の場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setSpoolLimit メソッドを指定しても無視されます。

引数

newSpoolLimit

スプールデータの蓄積期限日

戻り値

なし

setSpoolTitle メソッド

スプールタイトルを指定します。

形式

```
public void setSpoolTitle (String newSpoolTitle)
```

解説

- スプールタイトルには、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - スプールタイトルは、255 バイト以内で指定してください。
 - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
- setSpoolTitle メソッドは、次に示すメソッドで印刷またはファイル出力を実行する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、setSpoolTitle メソッドを指定しても無視されます。
 - printReport メソッド
 - getEPFReport メソッド
 - getEURReport メソッド

- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputEURReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド
- setSpoolTitle メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、スプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合、印刷時のスプールタイトルに出力される内容は次のとおりです。
 - printReport メソッド, getEPFReport メソッド, および outputEPFReport メソッドの場合
文書情報設定ファイルで TITLE キーを設定しているときは, TITLE キーの指定値が出力されます。TITLE キーを設定していないときは, 「HITACHI Report - 帳票ファイル名」が出力されます。
 - getEURReport メソッド, および outputEURReport メソッドの場合
文書情報設定ファイルで TITLE キーを設定しているときは, TITLE キーの指定値が出力されます。TITLE キーを設定していないときは, 次に示す表示形式で出力されます。
 - 単一様式帳票の場合
「HITACHI Report - EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」
 - 複数の帳票セットを指定した帳票, または複数様式を指定した帳票の場合
「EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」
 - getMergeEPFReport メソッド, および outputMergeEPFReport メソッドの場合
最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名が出力されます。

引数

newSpoolTitle

スプールタイトル

戻り値

なし

setUserDataFileData メソッド

ユーザ定義データまたは可変記号値定義データをメモリ渡しする場合, 各帳票ファイルで使用するデータを配列で指定します。帳票との対応づけは, 配列の要素順です。

形式

```
public void setUserDataFileData(StringBuffer[] newUserDataFileData)
```

解説

- setDataFileData メソッドには、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するデータを配列で指定します。
- 配列の要素数は、setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または、setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、配列の要素の順序についても、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- setDataFileData メソッドは、setDataFileName メソッドと同時に使用できません。また、setDataFileData メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は、ファイル入力のメソッドを無視します。
 - マッピングデータ (setDataFileData)
 - しおり定義データ (setBookmarkFileData)
 - 文書しおり定義データ (setDocBookmarkFileData)
 - 暗号化設定データ (setCryptoFileData)
 - PDF 仕分け定義データ (setDistributeFileData)
 - 分割定義データまたは仕分け定義データ (setSplitFileData)
- setDataFileData メソッドで指定したユーザ定義データまたは可変記号値定義データの配列に従って、帳票を Excel 形式ファイルに出力する場合、配列の要素数が複数のときは、先頭の要素だけが有効になります。

引数

newUserDataFileData

ユーザ定義データまたは可変記号値定義データの配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合、一部の帳票に対してユーザ定義データ（または可変記号値定義データ）の指定を省略したいときは、配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のユーザ定義データの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定  
fms[0]="Sample1.fms";
```

```
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// ユーザ定義データを配列strUsrに指定
usrFileData1 = new StringBuffer("参加者名簿");
Array.set(strUsr, 0, usrFileData1);
mapFileData2 = new StringBuffer("");
Array.set(strUsr, 1, usrFileData2);
mapFileData3 = new StringBuffer("出納帳");
Array.set(strUsr, 2, usrFileData3);
```

また、複数の帳票セットを指定する場合、複数の帳票に対して同じユーザ定義データ（または可変記号値定義データ）を指定したいときは、それぞれに同じオブジェクトを指定してください。

1 番目と 2 番目の帳票に、同じユーザ定義データを指定するときの例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// ユーザ定義データを配列strUsrに指定
usrFileDataA = new StringBuffer("参加者名簿");
Array.set(strUsr, 0, usrFileDataA);
Array.set(strUsr, 1, usrFileDataA);
usrFileDataB = new StringBuffer("出納帳");
Array.set(strUsr, 2, usrFileDataB);
```

setUserDataFileName メソッド

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setUserDataFileName(String newUserDataFileName)
```

解説

- setUserDataFileName メソッドには、setReportFileName メソッド、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。
- ファイル名の数は、setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイル名の数以下、または setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数以下で指定してください。また、ファイル名の順序についても、setReportFileName メソッドまたは setReportID メソッドの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の順序と合わせてください。
- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

- `setUserDataFileName` メソッドは、`setUserDataFileData` メソッドと同時に使用できません。また、`setUserDataFileName` メソッドを使用する場合は、ほかのファイルを指定するときも、次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
 - マッピングデータファイル（`setDataFileName`）
 - しおり定義ファイル（`setBookmarkFileName`）
 - 文書しおり定義ファイル（`setDocBookmarkFileName`）
 - 暗号化設定ファイル（`setCryptoFileName`）
 - 帳票セット指定ファイル（`setMultiReportSetFileName`）
 - PDF 仕分け定義ファイル（`setDistributeFileName`）
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル（`setSplitFileName`）
- ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

`newUserDataFileName`

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名

戻り値

なし

`setUserDataFilePath` メソッド

`setUserDataFileName` メソッドで指定したユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setUserDataFilePath(String newUserDataFilePath)
```

解説

- ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

`newUserDataFilePath`

ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス

戻り値

なし

setViewerPreferenceFileName メソッド

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setViewerPreferenceFileName(String newViewerPreferenceFileName)
```

解説

- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、ビューアプレファレンス定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、setViewerPreferenceFilePath メソッドに指定することもできます。

setViewerPreferenceFilePath メソッドにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- setViewerPreferenceFileName メソッドは、outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。outputPDFReport メソッド、または getPDFReport メソッド以外の場合は、setViewerPreferenceFileName メソッドを指定しても無視されます。
- ビューアプレファレンス定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

引数

`newPreferenceFileName`

ビューアプレファレンス定義ファイル名

戻り値

なし

`setViewerPreferenceFilePath` メソッド

`setViewerPreferenceFileName` メソッドで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setViewerPreferenceFilePath(String newViewerPreferenceFilePath)
```

解説

- ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- `setViewerPreferenceFilePath` メソッドは、`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。`outputPDFReport` メソッド、または `getPDFReport` メソッド以外の場合は、`setViewerPreferenceFilePath` メソッドを指定しても無視されます。

引数

`newPreferenceFilePath`

ビューアプレファレンス定義ファイルのパス

戻り値

なし

`setXLSXFileName` メソッド

出力する Excel 形式ファイル名を指定します。

形式

```
public void setXLSXFileName(String newXLSXFileName)
```

解説

- `outputXLSXReport` メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合は、`setXLSXFileName` メソッドを必ず指定してください。`outputXLSXReport` メソッド以外の場合は、`setXLSXFileName` メソッドを指定しても無視されます。
- Excel 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- Excel 形式ファイルの拡張子は、`*.xlsx` です。Excel 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。

引数

`newXLSXFileName`

出力する Excel 形式ファイル名

戻り値

なし

`setXLSXFilePath` メソッド

`setXLSXFileName` メソッドで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。

形式

```
public void setXLSXFilePath(String newXLSXFilePath)
```

解説

- 指定されたフォルダのパスは、`setXLSXFileName` メソッドで指定する Excel 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- `setXLSXFilePath` メソッドは、`outputXLSXReport` メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。`outputXLSXReport` メソッド以外の場合は、`setXLSXFilePath` メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

引数

`newXLSXFilePath`

Excel 形式ファイルを出力するパス

戻り値

なし

8.5 EURPMEException クラスのメソッド仕様

EURPMEException クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getErrorCode メソッド

エラーコードを取得します。

形式

```
public int getErrorCode()
```

引数

なし

戻り値

エラーコードを返します。

getErrorLevel メソッド

エラーレベルを取得します。

形式

```
public char getErrorLevel()
```

引数

なし

戻り値

エラーレベルを示す文字を返します。

- W：警告
- E：エラー
- S：システムエラー

getKey メソッド

エラーメッセージのメッセージ ID を取得します。

形式

```
public String getKey()
```

引数

なし

戻り値

エラーメッセージのメッセージ ID を返します。

getMessage メソッド

エラーメッセージの文字列を取得します。

形式

```
public String getMessage()
```

引数

なし

戻り値

エラーメッセージの文字列を返します。

getOutputData メソッド

例外発生時にエラー種別が警告の場合、次の EPF 形式ファイルを取得します。

- getPDFReport メソッド呼び出し時：PDF 形式データ
- getEURReport メソッド呼び出し時：EUR 形式データ
- getEPFReport メソッド呼び出し時：EPF 形式データ
- getXLSXReport メソッド呼び出し時：Excel 形式データ

形式

```
public ByteBuffer getOutputData ()
```

引数

なし

戻り値

エラー種別が警告の場合だけ、EPF 形式ファイルをバイナリデータで返します。

エラー種別がエラーまたはシステムエラーの場合は、空データを返します。

8.6 例外情報

Java 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは、例外を発生させます。ユーザプログラムは、EURPMEException オブジェクトによって例外情報を取得します。例外情報には、エラーコード（終了コード）、エラーレベル、メッセージ ID、メッセージが含まれます。

8.6.1 Java 起動部品実行時の例外情報一覧

Java 起動部品実行時の例外情報の一覧を次に示します。

表 8-9 Java 起動部品実行時の例外情報の一覧

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
201	E	プロパティ(プロパティ名)の指定値に誤りがあります。	KEEY201-E
202	E	プロパティ(プロパティ名)が指定されていません。	KEEY202-E
203	E	マッピングデータファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY203-E
204	E	ユーザ定義データファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY204-E
205	E	パラメタに誤りがあります。	KEEY205-E
206	E	必須パラメタの指定がありません。	KEEY206-E
207	E	サーバプリンタ名の指定がありません。	KEEY207-E
208	E	原因不明のエラーで処理が中断されました。EUR Server Service の状態を確認してください。	KEEY208-E
209	W	印刷処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY209-W
210	S	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY210-S
211	S	ログファイルの書き込みに失敗しました。	KEEY211-S
212	E	EUR Server Service への接続に失敗しました。	KEEY212-E
215	S	メモリ不足が発生しました。	KEEY215-S
216	E	通信タイムアウトが発生しました。	KEEY216-E
217	S	システムエラーが発生しました。	KEEY217-S
218	E	出力先一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY218-E
219	E	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY219-E
221	E	印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY221-E
222	E	クライアントプリンタ名の指定がありません。	KEEY222-E
223	E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY223-E

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
224	W	PDF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY224-W
225	E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY225-E
226	W	EPF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY226-W
227	E	PDF 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY227-E
228	E	EPF 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY228-E
229	E	PDF 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY229-E
230	E	EPF 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY230-E
231	E	指定された PDF 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY231-E
232	E	指定された EPF 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY232-E
233	E	帳票セット指定ファイルのフォーマットが不正です。	KEEY233-E
234	E	帳票セット指定ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY234-E
235	E	しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY235-E
236	E	文書しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY236-E
237	E	EUR Server Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY237-E
238	E	EUR Spool Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY238-E
239	E	EUR Client Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY239-E
241	E	指定された EUR 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY241-E
242	E	EUR 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY242-E
243	E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY243-E
244	W	EUR 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY244-W
245	E	EUR 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY245-E
246	E	EUR Server Service のバージョンが不正です。	KEEY246-E
247	S	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY247-S
248	E	暗号化設定ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY248-E
249	E	指定されたマッピングデータファイルが存在しません。	KEEY249-E
250	E	指定されたユーザ定義データファイルが存在しません。	KEEY250-E
251	E	指定されたしおり定義ファイルが存在しません。	KEEY251-E
252	E	指定された文書しおり定義ファイルが存在しません。	KEEY252-E
253	E	指定された暗号化設定ファイルが存在しません。	KEEY253-E
255	E	プリンター一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY255-E

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
256	E	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY256-E
257	E	蓄積処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY257-E
258	W	蓄積処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY258-W
259	E	PDF 仕分け定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY259-E
260	E	指定された PDF 仕分け定義ファイルが存在しません。	KEEY260-E
261	E	EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY261-E
262	E	指定された EPF 形式ファイルが存在しません。	KEEY262-E
263	E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY263-E
264	W	XLSX 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY264-W
265	E	指定された XLSX 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY265-E
266	E	XLSX 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY266-E
267	E	XLSX 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY267-E
269	E	統合対象 EPF 形式ファイルの指定数が有効範囲外です。	KEEY269-E
270	E	複数 EPF 形式ファイルの統合処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY270-E
271	E	統合対象 EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY271-E
272	E	指定された統合対象 EPF 形式ファイルが存在しません。	KEEY272-E
273	S	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]	KEEY273-S
274	E	仕分け/分割定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY274-E
275	W	出力すべき帳票セットがありません。(950)	KEEY275-W

8.6.2 getErrorCode メソッド (終了コード)

EURPMEException オブジェクトの getErrorCode メソッドは、終了コードを返します。終了コードとメッセージの一覧については、「[8.6.1 Java 起動部品実行時の例外情報一覧](#)」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「[EUR メッセージ](#)」を参照してください。

8.6.3 getErrorLevel メソッド (エラーレベル)

EURPMEException オブジェクトの getErrorLevel メソッドは、メッセージのエラーレベルを返します。エラーレベルを次に示します。

- ・ W : Warning (軽いエラーに対する警告)

- E : Error (エラー)
- S : Error (システムエラー)

8.6.4 getKey メソッド (メッセージ ID)

EURPMEException オブジェクトの getKey メソッドは、メッセージのメッセージ ID を返します。終了コードとメッセージの一覧については、「8.6.1 Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

8.6.5 getMessage メソッド (メッセージ文)

EURPMEException オブジェクトの getMessage メソッドは、メッセージ文を返します。終了コードとメッセージの一覧については、「8.6.1 Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

8.6.6 getOutputData メソッド

EURPMEException オブジェクトの getOutputData メソッドは、例外発生時にエラー種別が警告の場合、次の EPF 形式ファイルを取得します。

- getPDFReport メソッド呼び出し時：PDF 形式データ
- getEURReport メソッド呼び出し時：EUR 形式データ
- getEPFReport メソッド呼び出し時：EPF 形式データ
- getXLSXReport メソッド呼び出し時：Excel 形式データ

9

SS-Java 起動部品

この章では、EUR Server - Spool Service で提供する SS-Java 起動部品を使用した帳票出力について説明します。

9.1 SS-Java 起動部品とは

EUR Server - Spool Service Adapter は、サーバ側で動作する Java プログラムから、EUR Server - Spool Service を利用できる部品を提供しています。これを、**SS-Java 起動部品**といいます。

Web/AP サーバ側のアプリケーション実行環境から SS-Java 起動部品を利用することで、サーバ側のアプリケーションを効率良く作成できます。

SS-Java 起動部品は、設定メソッドでジョブ ID などを設定し、実行メソッドを呼び出してスプールデータを操作します。

9.1.1 JDK バージョン

SS-Java 起動部品 (EURPMLSAdapter.jar) が前提とする JDK のバージョンを次に示します。

表 9-1 Java 起動部品の JDK バージョン

OS	JDK のバージョン
Windows	JDK 5.0 以降
AIX	JDK 5.0 以降
HP-UX	JDK 5.0 以降
Linux	JDK 5.0 以降

9.1.2 ファイル名

(1) SS-Java 起動部品のファイル構成

(a) Windows 環境の場合

SS-Java 起動部品は、次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMLSAdapter.jar
- EURPMLSADJ.dll

EURPMLSAdapter.jar と EURPMLSADJ.dll は、EUR Server - Spool Service Adapter をインストールしたときに、次に示すフォルダにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

インストール先フォルダ¥SpoolAdapter¥Java

64 ビットプログラムから呼び出すとき

インストール先フォルダ¥SpoolAdapter¥Java(x64)

(b) UNIX/Linux 環境の場合

SS-Java 起動部品は、次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMLSAdapter.jar
- libEURPMLSADJ.so

EURPMLSAdapter.jar は、EUR Server - Spool Service Adapter をインストールしたときに、次に示すディレクトリにインストールされます。

/opt/eur/spool-adp/java/

libEURPMLSADJ.so は、次に示すディレクトリにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

/opt/eur/spool-adp/lib/

64 ビットプログラムから呼び出すとき

/opt/eur/spool-adp/lib64/

(2) SS-Java 起動部品の設定方法

SS-Java 起動部品の設定方法を次に示します。両方とも実施してください。

- EURPMLSAdapter.jar ファイルのフルパスをクラスパスに追加します。
- Windows 環境の場合は EURPMLSADJ.dll のインストール先フォルダに、UNIX/Linux 環境の場合は libEURPMLSADJ.so のインストール先ディレクトリに、ライブラリのパスを通します。

JSP や Java サブレットアプリケーションで管理するフォルダ、クラスパスの設定、およびライブラリのパスの設定については、JSP 環境のマニュアルを参照してください。

9.1.3 パッケージ

SS-Java 起動部品では、JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS パッケージを提供します。

JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS パッケージは、次に示すクラスを提供します。

- EUR Server - Spool Service の制御を行うクラス
EURPMLSAdapterForJava : EUR Server - Spool Service を制御するクラス
- 例外の制御を行うクラス

EURPMLSEException : EUR Server - Spool Service の制御時に発生するエラー（例外）を管理する
クラス

9.2 EURPMLSAAdapterForJava クラス

EURPMLSAAdapterForJava クラスは、EUR Server - Spool Service を制御するクラスです。

```
public class EURPMLSAAdapterForJava
```

クラス継承

java.lang.Object

JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS.EURPMLSAAdapterForJava

解説

スプールサーバのアドレス、ジョブ ID などのプロパティを設定するメソッドと、スプールデータ一覧取得、蓄積先のサーバ印刷などを行うメソッドを提供します。

JSP や Java サブレットなどのアプリケーションプログラムからは、次に示す手順で帳票出力をします。

1. EURPMLSAAdapterForJava オブジェクトの作成

2. プロパティの設定

スプールサーバのアドレス、ジョブ ID などのプロパティを設定するメソッドで情報を設定します。

3. スプールデータの印刷

蓄積印刷メソッド（printSpoolReport メソッド）を呼び出してスプールデータを印刷します。

3.の処理で発生したエラー、または発生するエラーは、例外を処理するようにプログラムに記述します。

9.2.1 コンストラクタ

EURPMLSAAdapterForJava クラスのコンストラクタは、EURPMLSAAdapterForJava オブジェクトを生成します。

```
public EURPMLSAAdapterForJava() throws EURPMLSException
```

解説

ユーザアプリケーションプログラムからコンストラクタを呼び出すことで、EURPMLSAAdapterForJava オブジェクトを生成します。スプールサーバアドレス、ジョブ ID など、EURPMLSAAdapterForJava クラスのメソッドで設定したあと、printSpoolReport メソッドで帳票出力をします。

引数

なし

例外処理

EURPMLSException

EURPMLSAAdapterForJava オブジェクトの生成時にエラーが発生したときは、EURPMLSException クラスの例外が発生します。

9.2.2 メソッド一覧

EURPMLSAAdapterForJava クラスのメソッドには、スプールデータの操作や情報を採取するメソッド（操作メソッド）と、プリンター一覧、スプールデータ一覧などのプロパティを設定するメソッド（プロパティメソッド）があります。操作メソッドを表 9-2 に、プロパティメソッドを表 9-3 に示します。

表 9-2 EURPMLSAAdapterForJava クラスの操作メソッド

種類	メソッド	概要
蓄積操作メソッド	<code>deleteSpoolFile</code>	指定したジョブ ID のスプールデータを削除したり、蓄積期限を経過したスプールデータを削除したりします。
	<code>getSpoolFile</code>	指定したジョブ ID のスプールデータから印刷データをファイルで取得します。
	<code>getSpoolFileAttribute</code>	指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を取得します。
	<code>getSpoolFileOutline</code>	指定条件に合った EUR Server - Spool Service のスプールデータの一覧を取得します。
	<code>memgetSpoolFile</code>	指定したジョブ ID のスプールデータから印刷データをメモリに取得します。
	<code>printSpoolReport</code>	指定したジョブ ID のスプールデータを印刷します。
	<code>setSpoolFileAttribute</code>	指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を変更します。
構成定義情報取得メソッド※	<code>getPrinterClassList</code>	EUR Server - Spool Service のプリンタクラス一覧を取得します。
	<code>getPrinterList</code>	EUR Server - Spool Service があるスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を取得します。
	<code>getTrayList</code>	EUR Server - Spool Service があるスプールサーバの、OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
監査ログメソッド	<code>changeAuditLog</code>	EUR Server - Spool Service があるスプールサーバ上で出力する監査ログを切り替えます。
初期化メソッド	<code>initialize</code>	指定されたすべてのプロパティメソッドをクリアにして、初期状態に戻します。

注※

UNIX/Linux 環境の場合、構成定義情報取得メソッドは指定できません。

表 9-3 の表見出しの番号は、次に示すメソッドに対応しています。

表見出しの番号	対応するメソッド
1	getSpoolFileOutline
2	getSpoolFileAttribute
3	setSpoolFileAttribute
4	printSpoolReport
5	getSpoolFile
6	deleteSpoolFile
7	memgetSpoolFile
8	getPrinterClassList
9	getPrinterList
10	getTrayList
11	changeAuditLog

表 9-3 EURPMLSAdapterForJava クラスのプロパティメソッド

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11
getClientAddress	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレスを取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getClientPrinterName	スプールデータのクライアントプリンタ名を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getClientTrayName	スプールデータのクライアントプリンタのトレイ名を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getCreateIPAddress	スプールデータを作成したマシンの IP アドレスを取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getCreateLSVersion	スプールデータのフォーマットバージョンを取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11
getTimeCreate	スプールデータの作成日時を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getTimeCreateMulti	スプールデータ内の作成日時を配列で取得します。	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getDispPrintDlg	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モードを取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getEnableGet	スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得可否を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getExecPrintCount	スプールデータの印刷実行回数を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getExecutablePrintMode	スプールデータの実行可能印刷方式を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getGroupName	スプールデータの振り分けグループ名を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getJobID	ジョブ ID を取得します。	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getJobKeyCategory	スプールデータのジョブ検索キーの分類を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getJobKeyData	スプールデータのジョブ検索キー値を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getMaxPrintCount	スプールデータの印刷上限回数を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPageNum	スプールデータ内の EPF 形式ファイルのページ数を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11
getPageNumMulti	スプールデータ内のEPF形式ファイルのページ数を配列で取得します。	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPrinterClassName	スプールデータのプリンタクラス名を取得します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPrinterClassNameMulti	スプールデータのプリンタクラス名を配列で取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPrinterSelectMode	蓄積スプールサーバ印刷方式のプリンタ指定方式を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPrintResult	スプールデータの印刷結果を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPrintResultMulti	スプールデータ内の印刷結果を配列で取得します。	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getPrintTime	スプールデータの印刷日時を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getReportAddressKeyCategory	宛先キーの分類を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getReportAddressKeyData	宛先キーの値を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getServerPrinterName	スプールサーバでのOS上のプリンタ名を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
getServerTrayName	スプールサーバでのOS上のプリンタのトレイ名を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getSpoolFileName	スプールデータ内のEPF形式ファイル名を取得します。	-	<input type="checkbox"/>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11
getSpoolFileNameMulti	スプールデータ内のEPF形式ファイル名を配列で取得します。	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getSpoolFileSize	格納ファイルのサイズ(バイト)を取得します。	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getSpoolHistory	スプールデータの履歴を取得します。	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getSpoolLimit	スプールデータの蓄積期限日を取得します。	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getSpoolPath	常に""が出力されます。	-	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
getSpoolPathMulti	常に""が配列で出力されます。	□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setAdpEnvFile	EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルのパス	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setClientAddress	蓄積クライアント印刷時のクライアントPCのIPアドレスを指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setClientPrinterName	スプールデータのクライアントプリンタ名を指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setClientTrayName	スプールデータのクライアントプリンタのトレイ名を指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setDeleteKind	スプールデータを削除するときの削除種別を指定します。	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
setDispPrintDlg	蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
setEnabledGet	スプールデータ内のEPF形式ファイルの取得可否を指定します。	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setExecutablePrintMode	スプールデータの実行可能印刷方式を指定します。	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setGroupName	スプールデータの振り分けグループ名を指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-
setJobKeyCategory	スプールデータのジョブ検索キーの分類を指定します。	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setJobKeyData	スプールデータのジョブ検索キーの値を指定します。	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setMaxPrintCount	スプールデータの印刷上限回数を指定します。	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setOutputFileKind	スプールデータの印刷データを取得するときのファイル形式を指定します。	-	-	-	-	△	-	△	-	-	-	-
setOutputFileName	スプールデータの印刷データを取得するときのファイル名を指定します。	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
setOutputFilePath	スプールデータの印刷データを取得するフォルダのパスを指定します。	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
setPaperOrientation	用紙の向きを指定します。	-	-	-	△	△	-	△	-	-	-	-
setPrintCopies	印刷部数を指定します。	-	-	-	△	△	-	△	-	-	-	-
setPrintEndPage	蓄積スプールサーバ印刷するときの終了ページを指定します。	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
setPrinterClassName	スプールデータのプリンタクラス名を指定します。	-	-	△	△	△	-	△	-	-	-	-
setPrinterSelectMode	蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-
setPrintMode	蓄積したデータの印刷方式を指定します。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setPrintStartPage	蓄積スプールサーバ印刷するときの開始ページを指定します。	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
setSearchCreateTimeEnd	ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索終了日時を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setSearchCreateTimeStart	ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索開始日時を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setSearchJobID	スプールデータを検索するときのジョブ ID を指定します。	△	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-
setSearchJobIDMulti	スプールデータを検索するときのジョブ ID を配列で指定します。	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
setSearchJobKeyCategory	スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの分類を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setSearchJobKeyData	スプールデータを検索するときのジョブ検索キーの値を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setSearchPrinterClassName	プリンタクラス名でスプールデータを検索するときのプリンタクラス名を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド			監査ログメソッド
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
setSearchReportAddressKeyCategory	スプールデータを検索するときの検索キーの分類を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setSearchReportAddressKeyData	スプールデータを検索するときの検索キーの値を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setSearchSpoolFileName	格納されている EPF 形式ファイル名でスプールデータを検索するときの EPF 形式ファイル名を指定します。	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
setServerAddress	スプールサーバの IP アドレスを指定します。	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setServerPrinterName	スプールサーバでの OS 上のプリンタ名を指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	○	-
setServerTrayName	スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-
setSortPrint	印刷部数の単位を指定します。	-	-	-	△	△	-	△	-	-	-	-
setSpoolLimit	スプールデータの蓄積期限日を指定します。	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
setSpoolTitle	スプールタイトルを指定します。	-	-	-	△	△	-	△	-	-	-	-

(凡例)

- ：必ず指定します。
- △：指定を省略できます。
- ：結果を出力します。
- ：指定できません。

9.2.3 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

9.3 EURPMLSEException クラス

EURPMLSEException クラスは、SS-Java 起動部品の各メソッドで例外が発生した場合にスローされるクラスです。

```
public class EURPMLSEException extends java.lang.Exception
```

クラス継承

```
java.lang.Exception
```

```
JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS.EURPMLSEException
```

解説

EURPMLSEException クラスのオブジェクトは、SS-Java 起動部品の内部で生成します。

ユーザプログラムは、このオブジェクトを例外ハンドラで受け取り、getMessage メソッド、または getErrorCode メソッドを呼び出してエラー情報を取得します。

9.3.1 メソッド一覧

EURPMLSEException クラスのメソッドを次に示します。

表 9-4 EURPMLSEException クラスのメソッド

メソッド	設定内容
getErrorCode	エラーコードを取得します。
getErrorLevel	エラーレベルを取得します。
getKey	エラーメッセージのキー文字列を取得します。
getMessage	エラーメッセージの文字列を取得します。
getOutputData	例外発生時にエラー種別が警告の場合、EPF 形式ファイルを取得します。

9.3.2 指定値に使用できない文字について

オプションの指定値に指定できない文字については、「[9.2.3 指定値に使用できない文字について](#)」を参照してください。

9.4 EURPMLAdapterForJava クラスのメソッド仕様

EURPMLAdapterForJava クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

changeAuditLog メソッド

指定したスプールサーバ上で出力する監査ログを切り替えます。

形式

```
public void changeAuditLog() throws EURPMLSEException
```

解説

- changeAuditLog メソッドは、スプールサーバ上で出力する監査ログの切り替えが終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

deleteSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータを削除したり、蓄積期限を経過したスプールデータを削除したりします。スプールデータの削除、および蓄積期限切れスプールデータの一括削除については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

```
public void deleteSpoolFile() throws EURPMLSEException
```

解説

- deleteSpoolFile メソッドは、スプールサーバ上のスプールデータ内の削除が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

getClientAddress メソッド

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレスを取得します。

形式

```
public String getClientAddress()
```

解説

- getClientAddress メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスが「255.255.255.255」形式で出力されます。
- getClientAddress メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getClientAddress メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレス

getClientPrinterName メソッド

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名を取得します。

形式

```
public String getClientPrinterName()
```

解説

- getClientPrinterName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、蓄積クライアント印刷するときのプリンタ名が出力されます。
- getClientPrinterName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getClientPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名

getClientTrayName メソッド

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を取得します。

形式

```
public String getClientTrayName()
```

解説

- getClientTrayName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名が出力されます。
- getClientTrayName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getClientTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名

getCreateIPAddress メソッド

スプールデータを作成したマシンの IP アドレスを取得します。

形式

```
public String getCreateIPAddress()
```

解説

- getCreateIPAddress メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータ作成者の IP アドレスが「255.255.255.255」形式で出力されます。
- getCreateIPAddress メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getCreateIPAddress メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータ作成者の IP アドレス

getCreateLSVersion メソッド

スプールデータのフォーマットバージョンを取得します。

形式

```
public String getCreateLSVersion()
```

解説

- getCreateLSVersion メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータのフォーマットバージョンが「VV-RR」形式で出力されます。
スプールデータのフォーマットバージョンは、EUR Server - Spool Service のバージョンとは異なります。

- getCreateLSVersion メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getCreateLSVersion メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータを作成した EUR Server - Spool Service のバージョン「VV-RR」

getCreateTime メソッド

スプールデータの作成日時を取得します。

形式

```
public String getCreateTime()
```

解説

- getCreateTime メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、指定したジョブ ID のスプールデータの作成日時が出力されます。
- 出力されるスプールデータの作成日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を 4 桁で示します。
 - MM：月（01～12）を 2 桁で示します。01～09 は、ゼロ埋めされます。
 - DD：日（01～31）を 2 桁で示します。01～09 は、ゼロ埋めされます。
 - hh：時（00～23）を 2 桁で示します。00～09 は、ゼロ埋めされます。
 - mm：分（00～59）を 2 桁で示します。00～09 は、ゼロ埋めされます。
 - ss：秒（00～59）を 2 桁で示します。00～09 は、ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- getCreateTime メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getCreateTime メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータ内の作成日時「YYYYMMDDhhmmss」

getCreateTimeMulti メソッド

スプールデータ内の作成日時を配列で取得します。

形式

```
public String[] getCreateTimeMulti()
```

解説

- getCreateTimeMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで、検索条件に合ったスプールデータの作成日時が配列で出力されます。
- 出力されるスプールデータの作成日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めされます。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めされます。
 - hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。
 - mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。
 - ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- getCreateTimeMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getCreateTimeMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータ内の作成日時「YYYYMMDDhhmmss」を配列で返します。

getDispPrintDlg メソッド

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを取得します。

形式

```
public int getDispPrintDlg()
```

解説

- getDispPrintDlg メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードが出力されます。
- 出力される蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードと印刷時の動作を次に示します。
 - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
 - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
 - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
 - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
 - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
印刷は実行できません。
- getDispPrintDlg メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getDispPrintDlg メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モード

getEnableGet メソッド

スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得が許可されているかどうかを取得します。

形式

```
public boolean getEnableGet()
```

解説

- getEnableGet メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの取得許可情報が出力されます。

- 出力されるプールデータの取得許可情報を次に示します。
 - True：プールデータの取得を許可します。
 - False：プールデータの取得を許可しません。
- `getEnableGet` メソッドは、`getSpoolFileAttribute` メソッドでプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、`getEnableGet` メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

EPF 形式ファイルの取得許可情報

getExecPrintCount メソッド

プールデータの印刷実行回数を取得します。

形式

```
public int getExecPrintCount()
```

解説

- `getExecPrintCount` メソッドは、`getSpoolFileAttribute` メソッドを呼び出すことで、プールデータの印刷実行回数が出力されます。
印刷実行回数は、プールサーバでの印刷で印刷プールへの出力が成功したとき、またはクライアント PC での印刷で EPF 形式ファイルの転送が成功したときに、1 カウントずつアップされます。
- `getExecPrintCount` メソッドは、`getSpoolFileAttribute` メソッドでプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、`getExecPrintCount` メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

プールデータの印刷実行回数

getExecutablePrintMode メソッド

プールデータの実行可能印刷方式を取得します。

形式

```
public int getExecutablePrintMode()
```

解説

- getExecutablePrintMode メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの実行可能印刷方式が出力されます。
- 出力されるスプールデータの実行可能印刷方式を次に示します。
 - 0：蓄積スプールサーバ印刷
 - 1：蓄積スプールサーバ印刷／蓄積クライアント印刷
 - 2：蓄積クライアント印刷
- getExecutablePrintMode メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getExecutablePrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータの実行可能印刷方式

getGroupName メソッド

スプールデータの振り分けグループ名を取得します。

形式

```
public String getGroupName()
```

解説

- getGroupName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの振り分けグループ名が出力されます。
- getGroupName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getGroupName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

プールデータの振り分けグループ名

getJobID メソッド

ジョブ ID を取得します。

形式

```
public String[] getJobID()
```

解説

- getJobID メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで、検索条件に合ったプールデータのジョブ ID が配列で出力されます。
- getJobID メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getJobID メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

ジョブ ID を配列で返します。

getJobKeyCategory メソッド

プールデータのジョブ検索キーの分類を取得します。

形式

```
public String[] getJobKeyCategory()
```

解説

- getJobKeyCategory メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、プールデータのジョブ検索キーの分類が出力されます。
- getJobKeyCategory メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getJobKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータのジョブ検索キーの分類を配列で返します。

getJobKeyData メソッド

スプールデータのジョブ検索キーの値を取得します。

形式

```
public String[] getJobKeyData()
```

解説

- getJobKeyData メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータのジョブ検索キーの値が出力されます。
- getJobKeyData メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータのジョブ検索キーの値を配列で返します。

getMaxPrintCount メソッド

スプールデータの印刷上限回数を取得します。

形式

```
public int getMaxPrintCount()
```

解説

- getMaxPrintCount メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの印刷上限回数が出力されます。
- 出力される印刷上限回数の値は、-1～65,536 です。

- -1：印刷回数の上限が無限であることを示します。
 - 0：印刷を禁止していることを示します。
 - 1～65,536：印刷上限回数を示します。
- getMaxPrintCount メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getMaxPrintCount メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータの印刷上限回数

getPageNum メソッド

スプールデータに格納された EPF 形式ファイルのページ数を取得します。

形式

```
public int getPageNum()
```

解説

- getPageNum メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのページ数が出力されます。
- getPageNum メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPageNum メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータに格納された EPF 形式ファイルのページ数

getPageNumMulti メソッド

スプールデータに格納された EPF 形式ファイルのページ数を配列で取得します。

形式

```
public int[] getPageNumMulti()
```

解説

- getPageNumMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで、検索条件に合ったスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのページ数が配列で出力されます。
- getPageNumMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPageNumMulti メソッドを指定しても無視されません。

引数

なし

戻り値

スプールデータに格納された EPF 形式ファイルのページ数を配列で返します。

getPrinterClassList メソッド

EUR Server - Spool Service のプリンタクラス一覧を取得します。

形式

```
public String[][] getPrinterClassList() throws EURPMLSEException
```

解説

- getPrinterClassList メソッドは、スプールサーバ上のプリンタクラス一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- EUR Server - Spool Service があるスプールサーバの IP アドレスを setServerAddress メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。
- UNIX/Linux 環境の場合、プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

拠点プリンタクラス定義ファイルのデータを、次に示す 2 次元配列の文字列で返します。

```
String[0]: プリンタクラス名の一覧が格納されているString配列  
String[1]: プリンタ名の一覧が格納されているString配列  
String[2]: トレイ名の一覧が格納されているString配列  
String[3]: 説明の一覧が格納されているString配列
```

各要素数は同一となります。

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

getPrinterClassName メソッド

スプールデータのプリンタクラス名を取得します。

形式

```
public String getPrinterClassName()
```

解説

- getPrinterClassName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、指定したジョブ ID のスプールデータのプリンタクラス名が出力されます。
- getPrinterClassName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPrinterClassName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータのプリンタクラス名

getPrinterClassNameMulti メソッド

スプールデータのプリンタクラス名を配列で取得します。

形式

```
public String[] getPrinterClassNameMulti()
```

解説

- getPrinterClassNameMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで、検索条件に合ったスプールデータのプリンタクラス名が配列で出力されます。
- getPrinterClassNameMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPrinterClassNameMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータのプリンタクラス名を配列で返します。

getPrinterList メソッド

指定した出力先のスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を取得します。

形式

```
public String[] getPrinterList() throws EURPMLSEException
```

解説

- getPrinterList メソッドは、OS 上のプリンター一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- EUR Server - Spool Service があるスプールサーバの IP アドレスは、setServerAddress メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。
- UNIX/Linux 環境の場合、プリンター一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンター一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

OS 上のプリンター一覧を、次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタ名1  
OS上のプリンタ名2  
⋮  
OS上のプリンタ名n
```

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

getPrinterSelectMode メソッド

蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を取得します。

形式

```
public int getPrinterSelectMode()
```

解説

- getPrinterSelectMode メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式が出力されます。
- 出力されるプリンタ指定方式を次に示します。
 - 0：プリンタクラス名指定
 - 1：OS 上のプリンタ名指定
 - 2：帳票名による自動振り分け
- getPrinterSelectMode メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPrinterSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式

getPrintResult メソッド

スプールデータの印刷結果を取得します。

形式

```
public int getPrintResult()
```

解説

- 出力される印刷結果を次に示します。
 - 0：未印刷であることを示します。
 - 1：印刷済みであることを示します。
 - 2：印刷エラーがあったことを示します。
- getPrintResult メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、指定したジョブ ID のスプールデータの印刷結果が出力されます。
- getPrintResult メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPrintResult メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータ内の印刷結果

getPrintResultMulti メソッド

スプールデータ内の印刷結果を配列で取得します。

形式

```
public int[] getPrintResultMulti()
```

解説

- 出力される印刷結果を次に示します。
 - 0：未印刷であることを示します。
 - 1：印刷済みであることを示します。
 - 2：印刷エラーがあったことを示します。
- getPrintResultMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで、検索条件に合ったスプールデータの印刷結果が配列で出力されます。
- getPrintResultMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPrintResultMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータ内の印刷結果を、数値型の配列で返します。

getPrintTime メソッド

スプールデータの印刷日時を取得します。

形式

```
public String getPrintTime()
```

解説

- スプールデータの印刷日時は、蓄積したデータをスプールサーバまたはクライアント PC で印刷したタイミングで、ジョブ実行時の日時に更新されます。
- 出力されるスプールデータの印刷日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を 4 桁で示します。
 - MM：月（01～12）を 2 桁で示します。01～09 は、ゼロ埋めされます。
 - DD：日（01～31）を 2 桁で示します。01～09 は、ゼロ埋めされます。
 - hh：時（00～23）を 2 桁で示します。00～09 は、ゼロ埋めされます。
 - mm：分（00～59）を 2 桁で示します。00～09 は、ゼロ埋めされます。
 - ss：秒（00～59）を 2 桁で示します。00～09 は、ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- スプールデータが一度も印刷されていない場合は、"" が出力されます。
- getPrintTime メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getPrintTime メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータの印刷日時「YYYYMMDDhhmmss」

getReportAddressKeyCategory メソッド

スプールデータの宛先キーの分類を取得します。

形式

```
public String getReportAddressKeyCategory ()
```

解説

getReportAddressKeyCategory メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、指定したスプールデータの宛先キーの分類を取得します。

引数

なし

戻り値

String

getReportAddressKeyData メソッド

スプールデータの宛先キーの値を取得します。

形式

```
public String getReportAddressKeyData ()
```

解説

getReportAddressKeyData メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと、指定したスプールデータの宛先キーの値を取得します。

引数

なし

戻り値

String

getServerPrinterName メソッド

スプールサーバでの OS 上のプリンタ名を取得します。

形式

```
public String getServerPrinterName()
```

解説

- getServerPrinterName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータを蓄積スプールサーバ印刷するときの OS 上のプリンタ名が出力されます。
- getServerPrinterName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getServerPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールサーバでの OS 上のプリンタ名

getServerTrayName メソッド

スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を取得します。

形式

```
public String getServerTrayName()
```

解説

- getServerTrayName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタのトレイ名が出力されます。
- getServerTrayName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getServerTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名

getSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている印刷データを、指定したパスにファイルで取得します。

setOutputFileKind メソッドで取得ファイル形式に EPF 形式を指定している場合、または setOutputFileKind メソッドの指定を省略している場合は、印刷データを EPF 形式ファイルで取得します。

setOutputFileKind メソッドで取得ファイル形式に PDF 形式を指定している場合は、印刷データを PDF 形式ファイルで取得します。

取得後のファイルは、setOutputFileName メソッドで指定したファイル名になります。

指定したパスに同一名のファイルがある場合は、上書きされます。スプールデータの取得については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

```
public void getSpoolFile() throws EURPMLSEException
```

解説

- getSpoolFile メソッドは、スプールサーバ上のスプールデータ内の印刷データを setOutputFilePath メソッドで指定されたフォルダにファイル出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 取得ファイル形式は、setOutputFileKind メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

getSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を取得します。取得されるスプールデータの属性情報については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

```
public void getSpoolFileAttribute() throws EURPMLSEException
```

解説

- getSpoolFileAttribute メソッドは、スプールサーバにあるスプールデータの属性情報の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

getSpoolFileName メソッド

スプールデータに格納されている EPF 形式ファイル名を取得します。

形式

```
public String getSpoolFileName()
```

解説

- getSpoolFileName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、指定したジョブ ID のスプールデータにある格納ファイル名が出力されます。
- getSpoolFileName メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolFileName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータにある EPF 形式ファイル名

getSpoolFileNameMulti メソッド

スプールデータにある EPF 形式ファイル名を配列で取得します。

形式

```
public String[] getSpoolFileNameMulti()
```

解説

- getSpoolFileNameMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで、検索条件に合ったスプールデータにある EPF 形式ファイル名が配列で出力されます。
- getSpoolFileNameMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolFileNameMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータにある EPF 形式ファイル名の一覧を、文字列型の配列で返します。

getSpoolFileOutline メソッド

指定条件に合った EUR Server - Spool Service のスプールデータの一覧を取得します。取得されるスプールデータの一覧については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

```
public void getSpoolFileOutline() throws EURPMLSEException
```

解説

- getSpoolFileOutline メソッドは、スプールサーバ上の蓄積フォルダから検索条件に合ったスプールデータの一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 次のメソッドのうちどれかが指定されていると、スプールデータの検索処理が高速になります。
 - setSearchCreateTimeEnd

- setSearchCreateTimeStart
- setSearchJobID
- setSearchJobIDMulti
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

getSpoolFileSize メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータにある格納ファイルのサイズ (バイト) を取得します。

形式

```
public int getSpoolFileSize()
```

解説

- getSpoolFileSize メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolFileSize メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

指定したジョブ ID のスプールデータにある格納ファイルのサイズ (バイト)

getSpoolHistory メソッド

スプールデータの履歴を取得します。

形式

```
public String[] getSpoolHistory() throws EURPMLSEException
```

解説

- getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの履歴が情報数分出力されます。出力されるスプールデータの履歴の形式を次に示します。
[操作種別][操作日時][IP アドレス][操作対象][変更前][変更後][印刷実行結果]
(出力例)
[拠点印刷][20060314164300][255.255.xxx.xxx][][][印刷済み]
[変更][20060314181501][255.255.xxx.xxx][プリンタクラス][標準][A3][
[取得][20060314190506][255.255.xxx.xxx][][][
- 蓄積直後の配列の要素数は 0 です。
- getSpoolHistory メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolHistory メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータの履歴を、次に示す 2 次元配列の文字列で返します。

```
String[0] : 操作種別の一覧が格納されているString配列  
String[1] : 操作日時の一覧が格納されているString配列  
String[2] : IPアドレスの一覧が格納されているString配列  
String[3] : 操作対象の一覧が格納されているString配列  
String[4] : 変更前の一覧が格納されているString配列  
String[5] : 変更後の一覧が格納されているString配列  
String[6] : 印刷実行結果の一覧が格納されているString配列
```

各要素数は同一となります。

getSpoolLimit メソッド

スプールデータの蓄積期限日を取得します。

形式

```
public String getSpoolLimit()
```

解説

- getSpoolLimit メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで、スプールデータの蓄積期限日が出力されます。
- 出力されるスプールデータの蓄積期限日の形式は「YYYYMMDD」です。「YYYYMMDD」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。（出力例）20060523
- getSpoolLimit メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolLimit メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

スプールデータの蓄積期限日「YYYYMMDD」

getSpoolPath メソッド

常に""が出力されます。

形式

```
public String getSpoolPath()
```

解説

- getSpoolPath メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出しても、常に""が出力されます。
- getSpoolPath メソッドは、getSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolPath メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

""

getSpoolPathMulti メソッド

常に""が配列で出力されます。

形式

```
public String[] getSpoolPathMulti()
```

解説

- getSpoolPathMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドを呼び出しても、常に""が配列で出力されます。
- getSpoolPathMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、getSpoolPathMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

""の配列

getTrayList メソッド

指定した帳票サーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

```
public String[] getTrayList() throws EURPMLSEException
```

解説

- getTrayList メソッドは、OS 上のプリンタのトレイ一覧が取得終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- EUR Server - Spool Service があるスプールサーバの IP アドレスは、setServerAddress メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。
- UNIX/Linux 環境の場合、トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

プリンタのトレイ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタのトレイ名1  
OS上のプリンタのトレイ名2  
⋮  
OS上のプリンタのトレイ名n
```

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

initialize メソッド

指定されたすべてのプロパティメソッドをクリアにして、初期状態に戻します。

形式

```
public void initialize ()
```

解説

- initialize メソッドは、EUR Server - Spool Service Adapter のメソッドの初期化処理が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

なし

memgetSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている印刷データを、メモリに取得します。

setOutputFileKind メソッドで取得ファイル形式に EPF 形式を指定している場合、または setOutputFileKind メソッドの指定を省略している場合は、印刷データを EPF 形式でメモリに取得します。

setOutputFileKind メソッドで取得ファイル形式に PDF 形式を指定している場合は、印刷データを PDF 形式でメモリに取得します。

形式

```
public ByteBuffer memgetSpoolFile() throws EURPMLSEException
```

解説

- memgetSpoolFile メソッドは、スプールサーバ上のスプールデータ内の格納ファイルのデータをメモリに取得した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 取得ファイル形式は、setOutputFileKind メソッドで指定します。

引数

なし

戻り値

スプールデータの印刷データを取得ファイル形式のバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合、データは EURPMLSEException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

printSpoolReport メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータを印刷します。

形式

```
public void printSpoolReport() throws EURPMLSEException
```

解説

printSpoolReport メソッドは、スプールサーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合、`getErrorCode` メソッドに終了コード、`getMessage` メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

setAdpEnvFile メソッド

EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルのパスを指定します。

EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの格納先のフォルダパス、またはファイルパスを指定できます。

形式

```
public void setAdpEnvFile(String newAdpEnvFile)
```

解説

- フォルダパスを指定する場合は、EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルのデフォルトのファイル名 (EURPMLSADP.ini) が仮定されます。指定したフォルダには、デフォルトのファイル名で保存してください。

指定したフォルダにデフォルトのファイル名のファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。

フォルダパスを指定する場合の用途を次に示します。

- 環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更
- 業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (フォルダ指定)
- 次に示すコンポーネントの環境設定ファイルを同じフォルダに格納
 - EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini)
 - EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini)
 - EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini)
 - EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini)

各環境設定ファイルの指定方法については、「[15. 環境設定ファイル](#)」を参照してください。

- ファイルパスを指定する場合は、任意のファイル名を指定できます。

指定したファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します（環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します）。

ファイルパスを指定する場合の用途を次に示します。

- 環境設定ファイルを任意の格納先およびファイル名に変更
- 業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え（ファイル指定）
- EUR Server Service, EUR Server - Adapter, EUR Server - Spool Service, EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの設定内容を同じファイルに指定

各環境設定ファイルの指定方法については、「15. 環境設定ファイル」を参照してください。

なお、各コンポーネントの環境設定ファイル間で重複するキーを指定した場合、そのキーを参照するコンポーネントすべてに有効となります。環境設定ファイル間で重複するキーを次の表に示します。

表 9-5 環境設定ファイル間で重複するキー

セクション	重複するキー	EUR Server Service の環境設定ファイル	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル
PORT	EURPM	○	○	—	—
	EURPMCL	○	—	○	—
	EURPMLS	○	—	○	○
PATH	<ul style="list-style-type: none"> • CONF • TEMP 	○	—	○	—
ERROR	<ul style="list-style-type: none"> • LOGFILE • LOGLEVEL • LOGSIZE 	○	○	○	○
OPTION	DATABUFFSIZE	—	○	—	○
	<ul style="list-style-type: none"> • RMDIRRETRYCOUNT • RMDIRINTERVALTIME • TEMPFILEDEL 	○	—	○	—
	SOCKBUFFSIZE	○	○	○	○
THREAD	<ul style="list-style-type: none"> • EURPS • GENERAL • MERGE 	○	—	○	—
TIMEOUT	<ul style="list-style-type: none"> • CONNECT • ERRIGNORE 	○	—	○	—

セクション	重複するキー	EUR Server Service の環境設定ファイル	EUR Server - Adapter の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル	EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル
TIMEOUT	PRTCLSLIST	—	○	—	○

(凡例)

- ：該当するキーがあります。
- ：該当するキーがありません。

- パスを指定するときの規則，および注意については，「付録 A.1 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setAdpEnvFile メソッドを省略した場合は，デフォルトの格納先の環境設定ファイルが使用されます。
- setAdpEnvFile メソッドで指定した環境設定ファイルは，SS-Java 起動部品がメモリから解放されるか，または再度指定されるまで有効になります。

引数

newAdpEnvFile

EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルのパス

戻り値

なし

setClientAddress メソッド

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレスを指定します。

形式

```
public void setClientAddress(String ClientAddress) throws EURPMLSEException
```

解説

- 蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。長さは 15 バイトまでです。
- setClientAddress メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setClientAddress メソッドを指定しても無視されます。

- 蓄積クライアント印刷する場合に `setClientAddress` メソッドの指定を省略したときは、デフォルト値 (127.0.0.1) を仮定して印刷します。複数のスプールデータの EPF 形式ファイルを統合して印刷するときは、最初に指定したスプールデータの属性情報でクライアント PC の IP アドレスを決定します。なお、`setClientAddress` メソッドとスプールデータの属性情報のどちらにもクライアント IP アドレスの設定がないときは、蓄積クライアント印刷実行時にエラーとなります。

引数

ClientAddress

蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレス

戻り値

なし

例外処理

引数に `null` が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の `EURPMLSEException` 例外がスローされます。

setClientPrinterName メソッド

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名を指定します。

形式

```
public void setClientPrinterName (String ClientPrinterName) throws EURPMLSEException
```

解説

- プリンタ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに `setClientPrinterName` メソッドの指定があると、`setDispPrintDlg` メソッドは強制的に「1 (自動印刷)」になります。蓄積時に指定したクライアント PC のプリンタに出力されます。
- `setClientPrinterName` メソッドは、`setSpoolFileAttribute` メソッドでスプールデータを操作する場合、および `printSpoolReport` メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、`setClientPrinterName` メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に `setClientPrinterName` メソッドの指定を省略したときは、次の値が仮定されます。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値

- ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に `setClientPrinterName` メソッドに空文字を指定したときは、プリンタ名情報は未設定となります。

引数

ClientPrinterName

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名

戻り値

なし

例外処理

引数に `null` が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の `EURPMLSEException` 例外がスローされます。

setClientTrayName メソッド

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を指定します。

形式

```
public void setClientTrayName (String ClientTrayName) throws EURPMLSEException
```

解説

- トレイ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - トレイ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに `setClientPrinterName` メソッドの指定があると、`setClientTrayName` メソッドで指定したトレイから給紙されます。
`setClientPrinterName` メソッドで指定したプリンタで `setClientTrayName` メソッドに指定したトレイ名が使用できないときは、`setClientPrinterName` メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に `setClientTrayName` メソッドの指定を省略したときは、次の値が仮定されます。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
 - ジョブ ID を複数指定しているとき

最初に指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値

- 蓄積クライアント印刷する場合に `setClientTrayName` メソッドに空文字を指定したときは、トレイ名情報は未設定となります。
- `setClientTrayName` メソッドは、`setSpoolFileAttribute` メソッドでスプールデータを操作する場合、および `printSpoolReport` メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、`setClientTrayName` メソッドを指定しても無視されます。

引数

ClientTrayName

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名

戻り値

なし

例外処理

引数に `null` が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の `EURPMLSEException` 例外がスローされます。

setDeleteKind メソッド

スプールデータを削除するときの削除種別を指定します。

形式

```
public void setDeleteKind (int DeleteKind)
```

解説

- スプールデータを削除するときの削除種別を、0、または 1 で指定します。0、または 1 以外の値を入力したときは、エラーになります。デフォルトは、「0 (通常削除)」です。
 - 0：通常削除
`setSearchJobID` メソッド、または `setSearchJobIDMulti` メソッドで指定したジョブ ID に該当するスプールデータを削除します。
 - 1：蓄積期限切れファイルの削除
EUR Server - Spool Service のあるマシンで、蓄積期限が過ぎているスプールデータを削除します。
- 蓄積期限切れファイルの削除は、EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) で OPTION セクションの ESFAUTODEL キーに「1 (自動削除します)」を設定しておくことで、次に示すタイミングで自動的に実行することもできます。
 - EUR Server - Spool Service のサービスを起動したとき

- EUR Server - Spool Service が稼働するマシンの日付が変わったあと、EUR Server - Spool Service に対して最初の要求があったとき（日付変更の契機にローカルタイムと協定世界時（UTC）のどちらを使用するかを、環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の OPTION セクションの STANDARDTIME キーで設定できます）
- setDeleteKind メソッドは、deleteSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setDeleteKind メソッドを指定しても無視されます。

引数

DeleteKind

スプールデータを削除するときの削除種別

戻り値

なし

setDispPrintDlg メソッド

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。

形式

```
public void setDispPrintDlg (int DispPrintDlg)
```

解説

- 指定できる値と蓄積クライアント印刷時の動作を次に示します。
 - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
 - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
 - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
 - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
 - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
印刷は実行できません。
- 蓄積クライアント印刷実行時、setClientPrinterName メソッドに値が指定されている場合、かつ setDispPrintDlg メソッドに 0 または 2 を指定した場合は、setDispPrintDlg メソッドに 1 が仮定されます。

- setSpoolFileAttribute メソッド実行時に、0~4 以外の値が入力されていたときは、エラーになります。
- setDispPrintDlg メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、および printSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setDispPrintDlg メソッドを指定しても無視されます。

引数

DispPrintDlg

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モード

戻り値

なし

setEnabledGet メソッド

スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得を許可するかどうかを指定します。

形式

```
public void setEnabledGet (boolean EnabledGet)
```

解説

- スプールデータの取得許可情報を次に示します。
 - True : EPF 形式ファイルの取得を許可します。
 - False : EPF 形式ファイルの取得を許可しません。
- setEnabledGet メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setEnabledGet メソッドを指定しても無視されます。

引数

EnabledGet

スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの取得許可情報

戻り値

なし

setExecutablePrintMode メソッド

スプールデータの実行可能印刷方式を指定します。

形式

```
public void setExecutablePrintMode (int ExecutablePrintMode)
```

解説

- スプールデータの実行可能印刷方式を次に示します。
 - 0：蓄積スプールサーバ印刷
 - 1：蓄積スプールサーバ印刷／蓄積クライアント印刷
 - 2：蓄積クライアント印刷

setSpoolFileAttribute メソッド実行時に、0、1、または2以外の値が入力されていたときは、エラーになります。

- setExecutablePrintMode メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setExecutablePrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

ExecutablePrintMode

スプールデータの実行可能印刷方式

戻り値

なし

setGroupName メソッド

スプールデータの振り分けグループ名を指定します。

形式

```
public void setGroupName (String GroupName) throws EURPMLSEException
```

解説

- 振り分けグループ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - 振り分けグループ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「[」, および「,」を含めないでください。
- setGroupName メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、および printSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に帳票名による自動振り分け (setPrinterSelectMode=2) を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setGroupName メソッドを指定しても無視されます。

- 蓄積スプールサーバ印刷で `setGroupName` メソッドの指定が有効な場合に、`setGroupName` メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトの振り分けグループで出力先を決定して印刷します。

引数

GroupName

スプールデータの振り分けグループ名

戻り値

なし

例外処理

引数に `null` が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の `EURPMLSEException` 例外がスローされます。

setJobKeyCategory メソッド

スプールデータのジョブ検索キーの分類を指定します。

形式

```
public void setJobKeyCategory (String[] JobKeyCategory) throws EURPMLSEException
```

解説

- ジョブ検索キーを入力する場合は、1～10個の配列で指定してください。また、`setJobKeyCategory` メソッドを指定する場合は、ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず `setJobKeyData` メソッドに入力してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、`setSpoolFileAttribute` メソッド実行時にエラーになります。また、ジョブ検索キーを入力しない場合は、`setJobKeyCategory` メソッドと `setJobKeyData` メソッドのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、`setSpoolFileAttribute` メソッド実行時にエラーになります。
- ジョブ検索キーは、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- `setJobKeyCategory` メソッドは、`setSpoolFileAttribute` メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、`setJobKeyCategory` メソッドを指定しても無視されます。

引数

JobKeyCategory

ジョブ検索キーとする分類の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合、または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setJobKeyData メソッド

スプールデータのジョブ検索キーの値を指定します。

形式

```
public String setJobKeyData ( String[] JobKeyData) throws EURPMLSEException
```

解説

- ジョブ検索キーを入力する場合は、1～10 個の配列で指定してください。また、setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに入力してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、setSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また、検索キーを指定しない場合は、setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、setSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- 値は、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyData メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

JobKeyData

ジョブ検索キーとする値の配列

戻り値

String

例外処理

引数に null が指定された場合、または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setMaxPrintCount メソッド

スプールデータの印刷上限回数を指定します。

形式

```
public void setMaxPrintCount (int MaxPrintCount)
```

解説

- 印刷上限回数に指定できる値は、-1～65,536 です。
 - 印刷回数の上限を無限にする場合は、-1 を指定してください。
 - 印刷を禁止する場合は、0 を指定してください。

setSpoolFileAttribute メソッド実行時に、-1, 0, または 1～65,536 以外の値が入力されていたときは、エラーになります。

- setMaxPrintCount メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setMaxPrintCount メソッドを指定しても無視されます。

引数

MaxPrintCount

スプールデータの印刷上限回数

戻り値

なし

setOutputFileKind メソッド

スプールデータから印刷データを取得するときのファイル形式を指定します。

形式

```
public void setOutputFileKind (int newOutputFileKind)
```

解説

- 指定できる値と取得ファイル形式を次に示します。setOutputFileKind メソッドを省略した場合は、0 が仮定されます。
 - 0 : EPF 形式
 - 1 : PDF 形式

setOutputFileKind メソッド実行時に、0、または 1 以外の値が入力されていたときは、エラーになります。

- setOutputFileKind メソッドは、getSpoolFile メソッドまたは memgetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setOutputFileKind メソッドを指定しても無視されます。

引数

newOutputFileKind

スプールデータの印刷データを取得するときのファイル形式

戻り値

なし

setOutputFileName メソッド

スプールデータから印刷データをファイルで取得するときのファイル名を指定します。

形式

```
public void setOutputFileName (String OutputFileName) throws EURPMLSEException
```

解説

- ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setOutputFileName メソッドを省略した場合、ファイル名は次のようになります。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのファイル名
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルのファイル名

- setOutputFileName メソッドは、getSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setOutputFileName メソッドを指定しても無視されます。

引数

OutputFileName

スプールデータの印刷データを取得するときのファイル名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setOutputFilePath メソッド

スプールデータから印刷データをファイルで取得するときの取得先フォルダのパスを指定します。

形式

```
public void setOutputFilePath (String OutputFilePath) throws EURPMLSEException
```

解説

- EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) で、PATH セクションに OUTPUTFILE キーを指定することで、デフォルトのスプールデータ取得フォルダを指定することもできます。
- getSpoolFile メソッドを実行した場合、setOutputFilePath メソッド、または環境設定ファイルのどちらも指定されていないときは、エラーになります。
- フォルダのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。
- setOutputFilePath メソッドは、getSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setOutputFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

OutputFilePath

スプールデータの印刷データを取得するフォルダのパス

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setPaperOrientation メソッド

用紙の向きを指定します。

形式

```
public void setPaperOrientation (int PaperOrientation)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

setPaperOrientation メソッドを省略した場合、次のように動作します。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報に従います。
- ジョブ ID を複数指定しているとき
EPF 形式ファイルを蓄積したときのページごとの属性に従います。

setPaperOrientation メソッドは、getSpoolFile メソッド、および memgetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPaperOrientation メソッドを指定しても無視されます。

引数

PaperOrientation

用紙の向き

戻り値

なし

setPrintCopies メソッド

印刷部数を指定します。

形式

```
public void setPrintCopies(int PrintCopies)
```

解説

指定できる値は、1～99 です。setPrintCopies メソッドを省略した場合、次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
1

setPrintCopies メソッドは、getSpoolFile メソッド、および memgetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPrintCopies メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintCopies

印刷部数

戻り値

なし

setPrintEndPage メソッド

蓄積スプールサーバ印刷するときの終了ページを指定します。

形式

```
public void setPrintEndPage (int PrintEndPage)
```

解説

- setPrintEndPage メソッドは、蓄積印刷方式が蓄積スプールサーバ印刷 (setPrintMode=0) のとき、有効になります。蓄積クライアント印刷 (setPrintMode=1) のときは、setPrintEndPage メソッドを指定しても無視されます。

- 指定できる値は、1～999,999 です。setPrintEndPage メソッドを省略した場合は、最終ページまで印刷されます。また、スプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの最終ページ数より setPrintEndPage メソッドに指定した値が大きい場合も、最終ページまで印刷されます。
- setPrintEndPage メソッドは、printSpoolReport メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPrintEndPage メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintEndPage

蓄積スプールサーバ印刷するときの終了ページ

戻り値

なし

setPrinterClassName メソッド

スプールデータのプリンタクラス名を指定します。

形式

```
public void setPrinterClassName (String PrinterClassName) throws EURPMLSEException
```

解説

- 蓄積スプールサーバ印刷する場合にプリンタ指定方式でプリンタクラス名指定 (setPrinterSelectMode=0) を指定したとき、および蓄積クライアント印刷する場合に setClientPrinterName メソッドの指定がないときに、setPrinterClassName メソッドで指定したプリンタクラスを出力先にします。setSpoolFileAttribute メソッドの呼び出しでプリンタクラス名を変更しても無視されます。
- プリンタクラス名は、任意の文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタクラス名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。
- setPrinterClassName メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッド、getSpoolFile メソッド、および memgetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPrinterClassName メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷でプリンタ指定方式がプリンタクラス名指定 (setPrinterSelectMode=0) の場合に、setPrinterClassName メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトのプリンタクラスで印刷します。

- 蓄積クライアント印刷する場合、およびスプールデータを取得する場合に `setPrinterClassName` メソッドに空文字を指定したときは、プリンタクラス情報は未設定となります。
- 蓄積クライアント印刷する場合、およびスプールデータを取得する場合に `setPrinterClassName` メソッドの指定を省略したときは、次のようになります。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値が仮定されます。
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
プリンタクラス情報は未設定となります。

引数

PrinterClassName

スプールデータのプリンタクラス名

戻り値

なし

例外処理

引数に `null` が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の `EURPMLSEException` 例外がスローされます。

setPrinterSelectMode メソッド

蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定します。

形式

```
public void setPrinterSelectMode (int PrinterSelectMode)
```

解説

- `printSpoolReport` メソッド実行時に `setPrinterSelectMode` メソッドを指定する場合、帳票の出力先は次のプロパティの指定値によって決定します。
 - `setPrinterClassName` メソッド
 - `setServerPrinterName` メソッド
 - `setServerTrayName` メソッド
 - `setGroupName` メソッド

どのメソッドが有効になるかは、`setPrinterSelectMode` メソッドの指定値によって異なります。また、指定を省略した場合は、そのメソッドの情報は未設定として扱われます。

- printSpoolReport メソッド実行時に setPrinterSelectMode メソッドの指定を省略する場合は、次の値が仮定されます。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
最初に指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報に設定されている値
 - 蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式を次に示します。
 - 0：プリンタクラス名指定
 - 1：OS 上のプリンタ名指定
 - 2：帳票名による自動振り分け
- setSpoolFileAttribute メソッド実行時に、0、1、または 2 以外の値が入力されていたときは、エラーになります。
- setPrinterSelectMode メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、および printSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPrinterSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrinterSelectMode

蓄積スプールサーバ印刷するときのプリンタ指定方式

戻り値

なし

setPrintMode メソッド

蓄積したデータの印刷方式を指定します。

形式

```
public void setPrintMode (int PrintMode)
```

解説

- 蓄積したデータの印刷方式を次に示します。setPrintMode メソッドを省略した場合は、0 が仮定されます。
 - 0：蓄積スプールサーバ印刷
 - 1：蓄積クライアント印刷

printSpoolReport メソッド実行時に、0、または 1 以外の値が入力されていたときは、エラーになります。

- setPrintMode メソッドは、printSpoolReport メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintMode

蓄積したデータの印刷方式

戻り値

なし

setPrintStartPage メソッド

蓄積スプールサーバ印刷するときの開始ページを指定します。

形式

```
public void setPrintStartPage (int PrintStartPage)
```

解説

- setPrintStartPage メソッドは、蓄積印刷方式が蓄積スプールサーバ印刷 (setPrintMode=0) のとき、有効になります。蓄積クライアント印刷 (setPrintMode=1) のときは、setPrintStartPage メソッドを指定しても無視されます。
- 指定できる値は、1~999,999 です。setPrintStartPage メソッドを省略した場合は、1 ページから印刷されます。
- setPrintStartPage メソッドに指定した値がスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの最終ページ数より大きい場合は、EPF 形式ファイルの最終ページだけ印刷されます。
- setPrintStartPage メソッドは、printSpoolReport メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setPrintStartPage メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintStartPage

蓄積スプールサーバ印刷するときの開始ページ

戻り値

なし

setSearchCreateTimeEnd メソッド

スプールデータを作成日時で検索するときに、検索終了日時を指定します。

setSearchCreateTimeEnd メソッドを指定すると、メソッド実行速度が速くなることがあります。

形式

public void setSearchCreateTimeEnd (String *SearchCreateTimeEnd*) throws EURPMLSEException

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件としてファイル作成日時を使用するときに、検索終了日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で入力します。指定できる文字列は、14バイトまでです。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
 - YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
 - MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
 - hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
 - mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
 - ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。

(指定例)

2006年11月8日15:1:40 → 20061108150140

- setSearchCreateTimeEnd メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchCreateTimeEnd メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchCreateTimeEnd

ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索終了日時

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー（KEEY702-E）の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchCreateTimeStart メソッド

スプールデータを作成日時で検索するときに、検索開始日時を指定します。

setSearchCreateTimeStart メソッドを指定すると、メソッド実行速度が速くなる場合があります。

形式

```
public void setSearchCreateTimeStart (String SearchCreateTimeStart) throws  
EURPMLSEException
```

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件としてファイル作成日時を使用するときに、検索開始日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で入力します。指定できる文字列は、14バイトまでです。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。

- YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
- MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
- DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
- hh：時（00～23）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
- mm：分（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。
- ss：秒（00～59）を2桁で示します。00～09は、ゼロ埋めします。

(指定例)

2006年5月23日9:56:30 → 20060523095630

- setSearchCreateTimeStart メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchCreateTimeStart メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchCreateTimeStart

ファイル作成日時でスプールデータを検索するときの検索開始日時

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー（KEEY702-E）の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchJobID メソッド

スプールデータを検索するジョブ ID を指定します。

形式

```
public void setSearchJobID (String SearchJobID) throws EURPMLSEException
```

解説

- ジョブ ID に指定できる文字列は、36 バイトまでです。
- getSpoolFileAttribute メソッド、および setSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す場合に使用するときは、必ず setSearchJobID メソッドを指定してください。
- getSpoolFileOutline メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setSearchJobID メソッドの指定は任意です。
- getSpoolFile メソッド、memgetSpoolFile メソッド、および printSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
- deleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setDeleteKind メソッドの指定によって次のように異なります。
 - 指定したジョブ ID のスプールデータの削除 (setDeleteKind=0) のときは、setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
 - 蓄積期限切れファイルの削除 (setDeleteKind=1) のときは、指定する必要はありません。
- setSearchJobID メソッドと setSearchJobIDMulti メソッドの両方を指定したときは、setSearchJobIDMulti メソッドの指定が優先されます。
- setSearchJobID メソッドは、getSpoolFileOutline メソッド、getSpoolFileAttribute メソッド、setSpoolFileAttribute メソッド、printSpoolReport メソッド、getSpoolFile メソッド、memgetSpoolFile メソッド、および deleteSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchJobID メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchJobID

スプールデータを検索するときのジョブ ID

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchJobIDMulti メソッド

スプールデータを検索するジョブ ID を配列で指定します。配列の要素順に検索されます。

形式

```
public void setSearchJobIDMulti(String[] multiJobID) throws EURPMLSEException
```

解説

- ジョブ ID に指定できる文字列は、36 バイトまでです。
- getSpoolFileAttribute メソッド、および setSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setSearchJobIDMulti メソッドではなく、setSearchJobID メソッドを指定してください。
- getSpoolFileOutline メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setSearchJobIDMulti メソッドの指定は任意です。
- getSpoolFile メソッド、memgetSpoolFile メソッド、および printSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
- deleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に使用するときは、setDeleteKind メソッドの指定によって次のように異なります。
 - 指定したジョブ ID のスプールデータの削除 (setDeleteKind=0) のときは、setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
 - 蓄積期限切れファイルの削除 (setDeleteKind=1) のときは、指定する必要はありません。
- setSearchJobID メソッドと setSearchJobIDMulti メソッドの両方を指定したときは、setSearchJobIDMulti メソッドの指定が優先されます。
- setSearchJobIDMulti メソッドは、getSpoolFileOutline メソッド、printSpoolReport メソッド、getSpoolFile メソッド、memgetSpoolFile メソッド、および deleteSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchJobIDMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

multiJobID

スプールデータを検索するときのジョブ ID の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合、または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchJobKeyCategory メソッド

スプールデータをジョブ検索キーで検索するときに、ジョブ検索キーの分類を指定します。

形式

```
public void setSearchJobKeyCategory (String[] SearchJobKeyCategory) throws  
EURPMLSEException
```

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件として setSearchJobKeyCategory メソッドで指定したジョブ検索キーの分類と、setSearchJobKeyData メソッドで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は、1～10 個の配列で指定してください。また、setSearchJobKeyCategory メソッドを指定する場合は、ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setSearchJobKeyData メソッドに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。
ジョブ検索キーを指定しない場合、setSearchJobKeyCategory メソッドと setSearchJobKeyData メソッドは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。
- 分類は、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
 - 空文字列「''」は指定しないでください。
- setSearchJobKeyCategory メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchJobKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchJobKeyCategory

ジョブ検索キーの分類の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合、または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchJobKeyData メソッド

プールデータをジョブ検索キーで検索するときに、ジョブ検索キーの値を指定します。

形式

```
public void setSearchJobKeyData (String[] SearchJobKeyData) throws EURPMLSEException
```

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、検索条件として setSearchJobKeyCategory メソッドで指定したジョブ検索キーの分類と、setSearchJobKeyData メソッドで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は、1～10 個の配列で指定してください。また、setSearchJobKeyCategory メソッドを指定する場合は、ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setSearchJobKeyData メソッドに指定してください。このとき、配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると、エラーになります。
ジョブ検索キーを指定しない場合、setSearchJobKeyCategory メソッドと setSearchJobKeyData メソッドは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため、エラーになります。
- ジョブ検索キーの値は、任意文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - 文字列は、80 バイト以内で指定してください。
 - 文字列に「,」を含めないでください。
- setSearchJobKeyData メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchJobKeyData

ジョブ検索キーの値の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合、または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchPrinterClassName メソッド

スプールデータをプリンタクラス名で検索するときに、プリンタクラス名を指定します。

形式

```
public void setSearchPrinterClassName (String SearchPrinterClassName) throws  
EURPMLSEException
```

解説

- プリンタクラス名は、任意の文字列を指定できます。指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタクラス名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタクラス名に 「"」 および 「,」 を含めないでください。
- setSearchPrinterClassName メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchPrinterClassName メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchPrinterClassName

プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSearchReportAddressKeyCategory メソッド

スプールデータを宛先キーで検索するときに、宛先キーの分類を指定します。

形式

public void setReportAddressKeyCategory (String *newKeyCategory*) throws EURPMLSEException

解説

- 宛先キーの分類は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80バイトで指定してください。
 - 文字列に、「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。
- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、setSearchReportAddressKeyCategory メソッドで指定した宛先キーの分類と、setSearchReportAddressKeyData メソッドで指定した宛先キーの値が一致するものを検索します。
- setSearchReportAddressKeyData メソッドが指定されていない場合、エラーになります。

引数

String

戻り値

なし

setSearchReportAddressKeyData メソッド

スプールデータを宛先キーで検索するときに、宛先キーの値を指定します。

形式

public void setReportAddressKeyData (String *newKeyCategory*) throws EURPMLSEException

解説

- 宛先キーの値は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - 文字列は、1~80バイトで指定してください。
 - 文字列に、「"」、[,] および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。
- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合、setSearchReportAddressKeyCategory メソッドで指定した宛先キーの分類と、setSearchReportAddressKeyData メソッドで指定した宛先キーの値が一致するものを検索します。
- setSearchReportAddressKeyCategory メソッドが指定されていない場合エラーになります。

引数

String

戻り値

なし

setSearchSpoolFileName メソッド

スプールデータをスプールデータに格納されている EPF 形式ファイル名で検索するときに、EPF 形式ファイル名を指定します。

形式

```
public void setSearchSpoolFileName (String SearchSpoolFileName) throws EURPMLSEException
```

解説

- 格納ファイル名は、255 バイト以内になるように指定してください。
- setSearchSpoolFileName メソッドは、getSpoolFileOutline メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSearchSpoolFileName メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchSpoolFileName

格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setServerAddress メソッド

スプールサーバの IP アドレスを指定します。

形式

```
public void setServerAddress(String ServerAddress) throws EURPMLSEException
```

解説

- スプールサーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。指定できる文字列は、15 バイトまでです。
- `setServerAddress` メソッドの指定がない場合は、EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) の IPADDRESS セクションの EURPMLS キーに設定されている EUR Server - Spool Service が稼働するサーバの IP アドレスが仮定されます。EURPMLS キーが省略されているとき、または値が指定されていないときは、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。
- `setServerAddress` メソッドは、次に示すメソッドで操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、`setServerAddress` メソッドを指定しても無視されます。
 - `getSpoolFileOutline` メソッド、`getSpoolFileAttribute` メソッド、`setSpoolFileAttribute` メソッド、`printSpoolReport` メソッド、`getSpoolFile` メソッド、`deleteSpoolFile` メソッドでスプールデータを操作するとき
 - `getPrinterClassList` メソッドでプリンタクラス一覧を取得するとき
 - `getPrinterList` メソッドでプリンタ一覧を取得するとき
 - `getTrayList` メソッドでトレイ一覧を取得するとき

引数

ServerAddress

スプールサーバの IP アドレス

戻り値

なし

例外処理

引数に `null` が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の `EURPMLSEException` 例外がスローされます。

setServerPrinterName メソッド

スプールサーバでの OS 上のプリンタ名を指定します。

形式

```
public void setServerPrinterName (String ServerPrinterName) throws EURPMLSEException
```

解説

- `getTrayList` メソッドを呼び出す場合に使用するときは、必ず `setServerPrinterName` メソッドを指定してください。

- setSpoolFileAttribute メソッド、および printSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときには、setServerPrinterName メソッドの指定は任意です。
- プリンタ名を指定するときは、次のことに注意してください。
 - プリンタ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - プリンタ名に「"」および「,」を含めないでください。
- setServerPrinterName メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、printSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) を指定したとき、および getTrayList メソッドでトレイ一覧を取得する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setServerPrinterName メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷で setServerPrinterName メソッドの指定が有効な場合に、setServerPrinterName メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトのプリンタで印刷します。

引数

ServerPrinterName

スプールサーバでの OS 上のプリンタ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setServerTrayName メソッド

スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。

形式

```
public void setServerTrayName (String ServerTrayName) throws EURPMLSEException
```

解説

- トレイ名を入力するときは、次のことに注意してください。
 - トレイ名は、80 バイト以内で指定してください。
 - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

- setServerTrayName メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、および printSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定 (setPrinterSelectMode=1) を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setServerTrayName メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積スプールサーバ印刷で setServerTrayName メソッドの指定が有効な場合に、setServerTrayName メソッドの指定を省略したときや空文字を指定したときは、デフォルトのトレイから給紙されます。

引数

ServerTrayName

スプールサーバでの OS 上のプリンタのトレイ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー (KEEY702-E) の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSortPrint メソッド

印刷部数の単位を指定します。

形式

```
public void setSortPrint(int SortPrint)
```

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

setSortPrint メソッドを省略した場合、次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
0

setSortPrint メソッドは、getSpoolFile メソッド、および memgetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに printSpoolReport メソッドで蓄積スプールサーバ印刷する場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、setSortPrint メソッドを指定しても無視されます。

引数

SortPrint

印刷部数の単位

戻り値

なし

setSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID のスプールデータの属性情報を変更します。変更できるスプールデータの属性情報については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

形式

```
public void setSpoolFileAttribute() throws EURPMLSEException
```

解説

- setSpoolFileAttribute メソッドは、スプールサーバにあるスプールデータの属性情報の変更が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- setSpoolFileAttribute メソッドは、指定できるプロパティメソッドのうち、指定のあったプロパティメソッドだけを変更します。setSpoolFileAttribute メソッドで指定できるプロパティメソッドについては、「[9.2.2 メソッド一覧](#)」を参照してください。また、指定できるプロパティメソッドは、一つ以上指定してください。指定されていない場合は、エラー (KEEY528-E) になります。
- 実行時にエラーが発生した場合、getErrorCode メソッドに終了コード、getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSEException

エラー発生時は、EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSpoolLimit メソッド

スプールデータの蓄積期限日を指定します。

形式

```
public void setSpoolLimit (String SpoolLimit) throws EURPMLSEException
```

解説

- スプールデータの蓄積期限日は「YYYYMMDD」形式で入力します。指定できる文字列は、8バイトまでです。

「YYYYMMDD」形式の内容を次に示します。

- YYYY：年（西暦）を4桁で示します。
- MM：月（01～12）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。
- DD：日（01～31）を2桁で示します。01～09は、ゼロ埋めします。

（指定例）

2006年5月23日 → 20060523

- setSpoolLimit メソッドは、setSpoolFileAttribute メソッドでスプールデータを操作する場合、指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSpoolLimit メソッドを指定しても無視されます。

引数

SpoolLimit

スプールデータの蓄積期限日

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は、エラー（KEEY702-E）の EURPMLSEException 例外がスローされます。

setSpoolTitle メソッド

スプールタイトルを指定します。

形式

```
public void setSpoolTitle (String SpoolTitle) throws EURPMLSException
```

解説

- スプールタイトルには、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
 - スプールタイトルは、255 バイト以内で指定してください。
 - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
 - 空文字を指定したときは、スプールタイトル情報は未設定となります。
- setSpoolTitle メソッドは、getSpoolFile メソッド、および memgetSpoolFile メソッドでスプールデータを操作する場合、ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは、setSpoolTitle メソッドを指定しても無視されます。
- setSpoolTitle メソッドの指定を省略した場合は、次のようになります。
 - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
指定したジョブ ID のスプールデータに格納されている EPF 形式ファイルの属性情報が設定されます。
 - ジョブ ID を複数指定しているとき
スプールタイトル情報は未設定となります。

引数

SpoolTitle

スプールタイトル

戻り値

なし

9.5 EURPMLSEException クラスのメソッド仕様

EURPMLSEException クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getErrorCode メソッド

エラーコードを取得します。

形式

```
public int getErrorCode()
```

引数

なし

戻り値

エラーコードを返します。

getErrorLevel メソッド

エラーレベルを取得します。

形式

```
public char getErrorLevel()
```

引数

なし

戻り値

エラーレベルを示す文字を返します。

- W：警告
- E：エラー
- S：システムエラー

getKey メソッド

エラーメッセージのキー文字列を取得します。

形式

```
public String getKey()
```

引数

なし

戻り値

エラーメッセージのキー文字列を返します。

getMessage メソッド

エラーメッセージの文字列を取得します。

形式

```
public String getMessage()
```

引数

なし

戻り値

エラーメッセージの文字列を返します。

getOutputData メソッド

例外発生時にエラー種別が警告の場合、次の EPF 形式ファイルを取得します。

- memgetSpoolFile メソッド呼び出し時：スプールデータの EPF 形式ファイル

形式

```
public ByteBuffer getOutputData ()
```

引数

なし

戻り値

エラー種別が警告の場合だけ、EPF 形式ファイルをバイナリデータで返します。

エラー種別がエラーまたはシステムエラーの場合は、空データを返します。

9.6 例外情報

SS-Java 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは、例外が発生させます。ユーザプログラムは、EURPMLSEException オブジェクトによって例外情報を取得します。例外情報には、エラーコード（終了コード）、エラーレベル、メッセージ ID、メッセージが含まれます。

9.6.1 SS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧

SS-Java 起動部品実行時の例外情報の一覧を次に示します。

表 9-6 SS-Java 起動部品実行時の例外情報の一覧

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
501	E	プロパティ(プロパティ名)の指定値に誤りがあります。	KEEY501-E
502	E	プロパティ(プロパティ名)が指定されていません。	KEEY502-E
503	E	原因不明のエラーで処理が中断されました。EUR Spool Service の状態を確認してください。	KEEY503-E
504	E	印刷開始ページの入力値が印刷終了ページの入力値より大きいです。	KEEY504-E
505	S	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY505-S
506	S	ログファイルの書き込みに失敗しました。	KEEY506-S
507	E	EUR Spool Service への接続に失敗しました。	KEEY507-E
510	S	メモリ不足が発生しました。	KEEY510-S
511	E	通信タイムアウトが発生しました。	KEEY511-E
512	S	システムエラーが発生しました。	KEEY512-S
513	E	蓄積ファイル一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY513-E
515	E	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY515-E
516	E	プリンター一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY516-E
517	E	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY517-E
518	E	蓄積ファイルの取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY518-E
519	E	蓄積ファイルの印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY519-E
520	E	蓄積ファイルの属性取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY520-E
521	E	蓄積ファイルの属性設定処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY521-E
522	E	蓄積ファイルの削除処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY522-E
523	E	蓄積ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY523-E

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
524	E	蓄積ファイルの作成に失敗しました。	KEEY524-E
525	E	EUR Spool Service で接続数が限界値をオーバーしました。	KEEY525-E
526	S	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY526-S
527	E	指定された蓄積ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY527-E
528	E	属性値設定プロパティが一つも指定されていません。	KEEY528-E
529	E	EUR Client Service で接続数が限界値をオーバーしました。	KEEY529-E
531	E	蓄積ファイルのデータ取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY531-E
532	W	蓄積ファイル一覧取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY532-W
533	W	蓄積ファイルの取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY533-W
534	W	蓄積ファイルの印刷処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY534-W
535	W	蓄積ファイルの属性取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY535-W
536	W	蓄積ファイルの属性設定処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY536-W
537	W	蓄積ファイルの削除処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY537-W
538	E	指定されたジョブ ID 検索値の数が上限値を超えています。	KEEY538-E
540	S	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]	KEEY540-S
541	E	EUR Spool Service のバージョンが不正です。	KEEY541-E
542	W	ユーザ認証に失敗しました。(nnn)	KEEY542-W
543	E	配送帳票取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY543-E
544	E	帳票一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY544-E
545	W	蓄積ファイル一覧取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY545-W
546	W	蓄積ファイルの取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY546-W
547	W	蓄積ファイルの印刷処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY547-W
548	W	蓄積ファイルの属性取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY548-W
549	W	蓄積ファイルの属性設定処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY549-W
550	W	蓄積ファイルの削除処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY550-W
551	E	ログイン処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY551-E
552	E	監査ログファイルの切り替えに失敗しました。(nnn)	KEEY552-E
553	W	監査ログ切り替え機能で警告が発生しました。(nnn)	KEEY553-W

9.6.2 getErrorCode メソッド (終了コード)

EURPMLSEException オブジェクトの getErrorCode メソッドは、終了コードを返します。終了コードとメッセージの一覧については、「9.6.1 SS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

9.6.3 getErrorLevel メソッド (エラーレベル)

EURPMLSEException オブジェクトの getErrorLevel メソッドは、メッセージのエラーレベルを返します。エラーレベルを次に示します。

- W : Warning (軽いエラーに対する警告)
- E : Error (エラー)
- S : Error (システムエラー)

9.6.4 getKey メソッド (メッセージ ID)

EURPMLSEException オブジェクトの getKey メソッドは、メッセージのメッセージ ID を返します。終了コードとメッセージの一覧については、「9.6.1 SS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

9.6.5 getMessage メソッド (メッセージ文)

EURPMLSEException オブジェクトの getMessage メソッドは、メッセージ文を返します。終了コードとメッセージの一覧については、「9.6.1 SS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

9.6.6 getOutputData メソッド

EURPMLSEException オブジェクトの getOutputData メソッドは、例外発生時にエラー種別が警告の場合、次の EPF 形式ファイルを取得します。

- memgetSpoolFile メソッド呼び出し時：スプールデータの EPF 形式ファイル

10

COBOL 起動部品

この章では、EUR Server Service で提供する COBOL 起動部品を使用した帳票出力について説明します。

10.1 COBOL 起動部品とは

サーバ側で動作する COBOL プログラムから、EUR Server Service を起動して帳票出力できる部品を提供しています。これを、**COBOL 起動部品**といいます。

COBOL 起動部品は、帳票ファイル名などをパラメタに設定し、出力実行関数を呼び出して帳票を出力します。COBOL 起動部品を利用することで、Web/AP サーバ上のサーバアプリケーションから帳票を印刷したり、EPF 形式ファイルに出力したりできます。

なお、COBOL 起動部品は、複数のスレッドで同時に実行できるマルチスレッド対応プログラムです。スレッドごとにパラメタの領域を確保してプロパティを設定し、関数を実行してください。

10.1.1 COBOL 起動部品の構成

COBOL 起動部品は、次に示す 17 のファイルから構成されます。

表 10-1 COBOL 起動部品のファイル構成

項番	ファイル名	説明
1	Windows 環境の場合 EURPMADC.dll UNIX/Linux 環境の場合 libEURPMADC.so	COBOL 起動部品本体
2	EURPMADC.lib	業務アプリケーションと COBOL 起動部品のリンケージ用ファイル
3	EURPMPARAM1.cbl	PrintReport 関数、および PrintReport2 関数用インタフェース領域定義ファイル
4	EURPMPARAM3.cbl	OutputPDFReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
5	EURPMPARAM4.cbl	OutputEURReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
6	EURPMPARAM5.cbl	OutputEPFReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
7	EURPMPARAM6.cbl	OutputXLSXReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
8	EURPMPARAM7.cbl	OutputMergeEPFReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
9	EURPMPARAMJOBID.cbl	PrintReport2 関数用インタフェース領域定義ファイル
10	EURPMPARAMCLASS.cbl	GetPrinterClassList 関数用インタフェース領域定義ファイル
11	EURPMPARAMCLASS2.cbl	GetPrinterClassList2 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMPrinterClassList 関数用インタフェース領域定義ファイル
12	EURPMPARAMDEST.cbl	GetDestinationList 関数用インタフェース領域定義ファイル
13	EURPMPARAMDEST2.cbl	GetDestinationList2 関数用インタフェース領域定義ファイル

項番	ファイル名	説明
14	EURPMPARAMDESTNAME.cbl	GetPrinterClassList 関数, GetPrinterClassList2 関数, GetPrinterList 関数, および GetTrayClassList 関数用インタフェース領域定義ファイル
15	EURPMPARAMPRINTER.cbl	GetPrinterList 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMPrinterList 関数用インタフェース領域定義ファイル
16	EURPMPARAMPRINTERNAME.cbl	GetTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル
17	EURPMPARAMTRAY.cbl	GetTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル

なお、Windows 環境の場合は EURPMADC.dll のインストール先フォルダに、UNIX/Linux 環境の場合は libEURPMADC.so のインストール先ディレクトリに、パスを通す必要があります。

ファイルを格納するフォルダや COBOL 起動部品の設定については、次のマニュアルを参照してください。

- COBOL2002 の場合：COBOL2002 ユーザーズガイド

10.1.2 COBOL 起動部品の呼び出し規約

32 ビットプログラムから呼び出すとき

COBOL 起動部品での呼び出し規約は、すべて C (cdecl) となります。呼び出し元の COBOL プログラムでは、EXTERNAL PROGRAM SECTION の CALL-CONVENTION 構文で、プログラムを cdecl 呼び出し規約にしておく必要があります。

64 ビットプログラムから呼び出すとき

COBOL 起動部品での呼び出し規約は、すべて fastcall となります。

COBOL 起動部品の呼び出し規約の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- COBOL2002 の場合：COBOL2002 ユーザーズガイド

10.2 関数一覧

COBOL 起動部品が提供する関数の一覧を次に示します。

オプションの指定値には、制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は使用できません。これらの文字を指定した場合、帳票管理 GUI, [EUR Server Service 構成定義] ダイアログ, [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログ, および [EUR Client 構成定義] ダイアログを操作できないことがあります。

表 10-2 COBOL 起動部品が提供する関数

関数	概要
GetDestinationList	出力先 (スプールサーバ) の一覧を取得します。
GetDestinationList2	
GetPMPrinterClassList	帳票サーバに登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。
GetPMPrinterList ^{※1}	帳票サーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。
GetPMTrayList ^{※1}	帳票サーバの OS に登録されているプリンタのトレイ一覧を取得します。
GetPrinterClassList ^{※2}	指定した出力先 (スプールサーバ) に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。
GetPrinterClassList2 ^{※2}	
GetPrinterList ^{※2}	指定した出力先 (スプールサーバ) の OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。
GetTrayList ^{※2}	出力先 (スプールサーバ) と OS 上のプリンタを指定し、その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
OutputEPFReport	EPF 形式ファイルを出力します。
OutputEURReport	EUR 形式ファイルを出力します。
OutputMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを一つの EPF 形式ファイルに統合して出力します。
OutputPDFReport	PDF 形式ファイルを出力します。
OutputXLSXReport	Excel 形式ファイルを出力します。
PrintReport	帳票を印刷または蓄積します。
PrintReport2	

注※1

帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

注※2

対象となるスプールサーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

10.3 関数仕様

COBOL 起動部品が提供する関数の詳細を説明します。

GetDestinationList 関数

出力先（スプールサーバ）の一覧を取得します。

形式

```
-----宣言部-----
01 EURMPARAMDEST.
  02 DESTNUM          PIC 9(9) COMP-X VALUE n.
  02 DESTS            OCCURS n TIMES.
  03 DESTNAME        PIC X(80) VALUE SPACE.
  03 FILLER           PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03 SERVERADDR      PIC X(15) VALUE SPACE.
  03 FILLER           PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03 COMMENT         PIC X(256) VALUE SPACE.
  03 FILLER           PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE           PIC S9(9) BINARY.

-----実行部-----
call 'GetDestinationList' USING BY REFERENCE EURMPARAMDEST
                           RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNUM

パラメタ DESTS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

出力先の数 n を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

DESTS

取得した出力先の一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 DESTS を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

DESTNUM

取得された出力先の数 n が格納されます。

DESTS

パラメタ DESTNUM に設定された n 個分の出力先情報を、戻り値 DESTNAME, SERVERADDR, COMMENT に格納します。出力先情報の数が n 個に満たない場合は、戻り値 DESTNUM に取得された個数の出力先情報が返され、戻り値 DESTNUM+1 番目以降の領域は不定になります。出力先情報の数が n 個より多い場合は、パラメタ DESTNUM に指定した n 個の出力先情報が返されます。

DESTNAME

出力先情報の出力先名が設定されます。

SERVERADDR

出力先情報のスプールサーバの IP アドレスが設定されます。

COMMENT

出力先情報の説明が設定されます。

呼び出し例

出力先の一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDEST.
   02 DESTNUM          PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
   02 DESTS            OCCURS 120 TIMES.
     03 DESTNAME       PIC  X(80) VALUE SPACE.
     03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
     03 SERVERADDR     PIC  X(15) VALUE SPACE.
     03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
     03 COMMENT        PIC  X(256) VALUE SPACE.
     03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE            PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY ' <出力先一覧(GetDestinationList)>'
CALL 'GetDestinationList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST
                                RETURNING RTNCODE

DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY DESTNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > DESTNUM
    DISPLAY DESTNAME(IX1)
    DISPLAY SERVERADDR(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
END-IF
```

GetDestinationList2 関数

出力先（スプールサーバ）の一覧を取得します。エラー発生時にエラーメッセージを取得できます。

形式

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDEST2.
  02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 DESTNUM        PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02 DESTS          OCCURS n TIMES.
    03 DESTNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 SERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 COMMENT      PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER       PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetDestinationList2' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST2
                             RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNUM

パラメタ DESTS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

出力先の数 n が n を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

DESTS

取得した出力先の一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 DESTS を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

DESTS

パラメタ DESTNUM に設定された n 個分の出力先情報を、戻り値 DESTNAME, SERVERADDR, COMMENT に格納します。出力先情報の数が n 個に満たない場合は、戻り値 DESTNUM に取得された個数の出力先情報が返され、戻り値 DESTNUM+1 番目以降の領域は不定になります。出力先情報の数が n 個より多い場合は、パラメタ DESTNUM に指定した n 個の出力先情報が返されます。

DESTNAME

出力先情報の出力先名が設定されます。

SERVERADDR

出力先情報のスプールサーバの IP アドレスが設定されます。

COMMENT

出力先情報の説明が設定されます。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

呼び出し例

出力先の一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDEST.
   02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
   02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
   02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
```



```

02 DESTNUM          PIC 9(9) COMP-X VALUE 120.
02 DESTS           OCCURS 120 TIMES.
  03 DESTNAME      PIC X(80) VALUE SPACE.
  03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03 SERVERADDR    PIC X(15) VALUE SPACE.
  03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03 COMMENT       PIC X(256) VALUE SPACE.
  03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03 FILLER        PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR    PIC X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT    PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY '<出力先一覧(GetDestinationList2)>'.
CALL 'GetDestinationList2' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST
      RETURNING RTNCODE

DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY DESTNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > DESTNUM
    DISPLAY DESTNAME(IX1)
    DISPLAY SERVERADDR(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF

```

GetPMPrinterClassList 関数

帳票サーバに登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

```

-----宣言部-----
01 EURPMPARAMCLASS.
  02 FILLER          PIC X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE    PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 CLASSNUM        PIC 9(9) COMP-X VALUE n.
  02 CLASSES         OCCURS n TIMES.
    03 CLASSNAME     PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 PRINTERNAME   PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 TRAYNAME      PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 COMMENT       PIC X(256) VALUE SPACE.

```

```

    03 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    02 PMSERVERADDR PIC X(15) VALUE SPACE.
    02 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    02 PMSERVERPORT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
    01 RTNCODE     PIC S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetPMPrinterClassList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMCLASS
                                RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

CLASSNUM

パラメタ CLASSES の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタクラスの数 n 個を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

CLASSES

取得したプリンタクラスの一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 CLASSES を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

CLASSNUM

取得されたプリンタクラス数が設定されます。

CLASSES

パラメタ CLASSNUM に設定された n 個分のプリンタクラス情報を、戻り値 CLASSNAME, PRINTERNAME, TRAYNAME, COMMENT に格納します。取得したプリンタクラスの数 n 個に満たない場合は、戻り値 CLASSNUM に取得された個数のプリンタクラス情報が返され、戻り値 CLASSNUM +1 番目以降の領域は不定になります。取得したプリンタクラスの数 n 個より多い場合は、パラメタ CLASSNUM に指定した n 個のプリンタクラス情報が返されます。

CLASSNAME

OS 上のプリンタクラス名が設定されます。

PRINTERNAME

OS 上のプリンタ名が設定されます。

TRAYNAME

OS 上のプリンタクラスのトレイ名が設定されます。

COMMENT

OS 上のプリンタクラスの説明が設定されます。

呼び出し例

帳票サーバのプリンタクラスの一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMCLASS.
  02 FILLER      PIC X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 CLASSNUM    PIC 9(9) COMP-X VALUE 120.
  02 CLASSES     OCCURS 120 TIMES.
    03 CLASSNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 PRINTERNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 TRAYNAME   PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 COMMENT    PIC X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR PIC X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER       PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE       PIC S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY '<プリンタクラス一覧(GetPMPrinterClassList)>',
CALL 'GetPMPrinterClassList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMCLASS
RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
```

```

THEN
  DISPLAY ' 正常終了'
  DISPLAY CLASSNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > CLASSNUM
    DISPLAY CLASSNAME(IX1)
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
    DISPLAY TRAYNAME(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY ' エラー発生'
END-IF

```

GetPMPrinterList 関数

帳票サーバの OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。

なお、帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合、プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```

-----宣言部-----
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PRINTERNUM     PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02 PRINTERS       OCCURS n TIMES.
    03 PRINTERNAME  PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER       PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE         PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetPMPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTER
                          RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

PRINTERNUM

パラメタ PRINTERS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタの数が n 個を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

PRINTERS

取得した OS 上のプリンタの一覧が格納される領域を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 PRINTERS を参照してください。

PMSEVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSEVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSEVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

PRINTERNUM

取得されたプリンタ数が設定されます。

PRINTERS

パラメタ PRINTERNUM に設定された n 個分のプリンタ情報を、戻り値 PRINTERNAME に格納します。取得したプリンタの数が n 個に満たない場合は、戻り値 PRINTERNUM に取得された個数のプリンタ情報が返され、戻り値 PRINTERNUM + 1 番目以降の領域は不定になります。取得したプリンタの数が n 個より多い場合は、パラメタ PRINTERNUM に指定した n 個のプリンタ情報が返されます。

PRINTERNAME

OS 上のプリンタ名が設定されます。

呼び出し例

帳票サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----  
01 EURPMPARAMPRINTER.  
   02 FILLER          PIC X(4) VALUE '0770'.
```

```

02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTERNUM     PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
02 PRINTERS       OCCURS 120 TIMES.
   03 PRINTERNAME  PIC  X(80) VALUE SPACE.
   03 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   03 FILLER        PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY '<プリンター一覧(GetPMPrinterList)>'.
CALL 'GetPMPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTER
                                RETURNING RTNCODE

DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY PRINTERNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > PRINTERNUM
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF

```

GetPMTrayList 関数

帳票サーバの OS に登録されているプリンターのトレイ一覧を取得します。

なお、帳票サーバが UNIX/Linux 環境の場合、トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```

-----宣言部-----
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
   02 PRINTERNAME   PIC  X(80) VALUE SPACE.
   02 FILLER         X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
   02 FILLER        PIC  X(4) VALUE '0770'.
   02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 ERRORMESSAGE  PIC  X(256) VALUE SPACE.
   02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 FILLER        PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
   02 TRAYNUM       PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
   02 TRAYS         OCCURS n TIMES.
   03 TRAYNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.

```

```

03 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 FILLER      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR PIC X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE     PIC S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetPMTrayList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTERNAME
                        EURPMPARAMTRAY
                        RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

PRINTERNAME

トレイ一覧を取得する OS 上のプリンタ名を、80 バイトの文字列で指定します。プリンタ名が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

TRAYNUM

パラメタ TRAYS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

トレイの数が n 個を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

TRAYS

取得したトレイ一覧が格納される領域を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 TRAYS を参照してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

TRAYNUM

取得されたプリンタのトレイ数が設定されます。

TRAYS

パラメタ TRAYNUM に設定された n 個分のプリンタのトレイ情報を、戻り値 TRAYNAME に格納します。取得したプリンタのトレイ数が n 個に満たない場合は、戻り値 TRAYNUM に取得された個数のプリンタのトレイ情報が返され、戻り値 TRAYNUM + 1 番目以降の領域は不定になります。取得したプリンタのトレイ数が n 個より多い場合は、パラメタ TRAYNUM に指定した n 個のプリンタのトレイ情報が返されます。

TRAYNAME

OS 上のプリンタのトレイ名が設定されます。

呼び出し例

帳票サーバ上のプリンタを指定し、その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
  02 PRINTERNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER           X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
  02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE    PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNUM         PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02 TRAYS          OCCURS 120 TIMES.
    03 TRAYNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER       PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR    PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY '<トレイ一覧(GetPMTrayList)>'
MOVE 'PRINTER1' TO PRINTERNAME
DISPLAY PRINTERNAME
CALL ' GetPMTrayList ' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTERNAME
                          EURPMPARAMTRAY
                          RETURNING RTNCODE

DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY TRAYNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > TRAYNUM
    DISPLAY TRAYNAME (IX1)
  END-PERFORM
ELSE
```



```
DISPLAY 'エラー発生'  
DISPLAY ERRORMESSAGE  
END-IF
```

GetPrinterClassList 関数

指定した出力先（スプールサーバ）に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバに定義されているプリンタクラスの一覧を取得します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
-----宣言部-----  
01 EURPMPARAMDESTNAME.  
  02 DESTNAME          PIC X(80) VALUE SPACE.  
  02 FILLER            PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
01 EURPMPARAMCLASS.  
  02 CLASSNUM         PIC 9(9) COMP-X VALUE n.  
  02 CLASSES         OCCURS n TIMES.  
    03 CLASSNAME     PIC X(80) VALUE SPACE.  
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    03 PRINTERNAME   PIC X(80) VALUE SPACE.  
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    03 TRAYNAME      PIC X(80) VALUE SPACE.  
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    03 COMMENT       PIC X(256) VALUE SPACE.  
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
01 RTNCODE           PIC S9(9) BINARY.  
-----実行部-----  
call 'GetPrinterClassList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME  
                           EURPMPARAMCLASS  
                           RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNAME

拠点プリンタクラス一覧を取得するスプールサーバの出力先名を指定します。

CLASSNUM

パラメタ CLASSES の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタクラスの数 n が n 個を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

CLASSES

取得したプリンタクラスの一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 CLASSES を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

CLASSNUM

取得されたプリンタクラス数が格納されます。

CLASSES

パラメタ CLASSNUM に設定された n 個分のプリンタクラス情報を、戻り値 CLASSNAME, PRINTERNAME, TRAYNAME, COMMENT に格納します。拠点プリンタクラスの数 n 個に満たない場合は、戻り値 CLASSNUM に取得された個数の拠点プリンタクラス情報が返され、戻り値 CLASSNUM +1 番目以降の領域は不定になります。拠点プリンタクラスの数 n 個より多い場合は、パラメタ CLASSNUM に指定した n 個のプリンタクラス情報が返されます。

CLASSNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点プリンタクラス名が設定されます。

PRINTERNAME

拠点プリンタクラス情報のスプールサーバのプリンタ名が設定されます。

TRAYNAME

拠点プリンタクラス情報のスプールサーバのトレイ名が設定されます。

COMMENT

拠点プリンタクラス情報の説明が設定されます。

呼び出し例

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```

-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME          PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER            PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMCLASS.
  02 CLASSNUM          PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02 CLASSES          OCCURS 120 TIMES.
    03 CLASSNAME       PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 PRINTERNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 TRAYNAME        PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 COMMENT         PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE            PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
      DISPLAY '<プリンタクラス一覧(GetPrinterClassList)>'
      MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
      CALL 'GetPrinterClassList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                   EURPMPARAMCLASS
                                   RETURNING RTNCODE

      DISPLAY RTNCODE
      IF RTNCODE = ZERO
      THEN
        DISPLAY '正常終了'
        DISPLAY CLASSNUM
        PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > CLASSNUM
          DISPLAY CLASSNAME(IX1)
          DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
          DISPLAY TRAYNAME(IX1)
          DISPLAY COMMENT(IX1)
        END-PERFORM
      ELSE
        DISPLAY 'エラー発生'
      END-IF

```

GetPrinterClassList2 関数

指定した出力先（スプールサーバ）に登録されているプリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバに定義されているプリンタクラスの一覧を取得します。エラー発生時にエラーメッセージを取得できます。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```

-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME          PIC  X(80) VALUE SPACE.

```

```

02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMCLASS2.
02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 CLASSNUM       PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
02 CLASSES        OCCURS n TIMES.
03 CLASSNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 PRINTERNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 TRAYNAME       PIC  X(80) VALUE SPACE.
03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 COMMENT        PIC  X(256) VALUE SPACE.
03 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetPrinterClassList2' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                               EURPMPARAMCLASS2
                               RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

DESTNAME

拠点プリンタクラス一覧を取得するスプールサーバの出力先名を指定します。

CLASSNUM

パラメタ CLASSES の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタクラスの数 n 個を超える場合は、n 個までの一覧が取得されます。

CLASSES

取得したプリンタクラスの一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 CLASSES を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

CLASSNUM

取得されたプリンタクラス数が格納されます。

CLASSES

パラメタ CLASSNUM に設定された n 個分のプリンタクラス情報を、戻り値 CLASSNAME, PRINTERNAME, TRAYNAME, COMMENT に格納します。拠点プリンタクラスの数 n 個に満たない場合は、戻り値 CLASSNUM に取得された個数の拠点プリンタクラス情報が返され、戻り値 CLASSNUM +1 番目以降の領域は不定になります。拠点プリンタクラスの数 n 個より多い場合は、パラメタ CLASSNUM に指定した n 個のプリンタクラス情報が返されます。

CLASSNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点プリンタクラス名が設定されます。

PRINTERNAME

拠点プリンタクラス情報のスプールサーバのプリンタ名が設定されます。

TRAYNAME

拠点プリンタクラス情報のスプールサーバのトレイ名が設定されます。

COMMENT

拠点プリンタクラス情報の説明が設定されます。

呼び出し例

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----  
01 EURPMPARAMDESTNAME.  
   02 DESTNAME          PIC  X(80) VALUE SPACE.  
   02 FILLER            PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.  
01 EURPMPARAMCLASS.
```

```

02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 CLASSNUM       PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
02 CLASSES        OCCURS 120 TIMES.
   03 CLASSNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
   03 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   03 PRINTERNAME  PIC  X(80) VALUE SPACE.
   03 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   03 TRAYNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
   03 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
   03 COMMENT      PIC  X(256) VALUE SPACE.
   03 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC  S9(9) BINARY.

```

-----実行部-----

```

DISPLAY '<プリンタクラス一覧(GetPrinterClassList2)>'
MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
DISPLAY DESTNAME
CALL 'GetPrinterClassList2' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                               EURPMPARAMCLASS
                               RETURNING RTNCODE

DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY CLASSNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > CLASSNUM
    DISPLAY CLASSNAME(IX1)
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
    DISPLAY TRAYNAME(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF

```

GetPrinterList 関数

指定した出力先（スプールサーバ）の OS に登録されているプリンタの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンター一覧を取得します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、プリンター一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、プリンター一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER        PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE  PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER        PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PRINTERNUM    PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02 PRINTERS      OCCURS n TIMES.
    03 PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER      PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR  PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT  PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                           EURPMPARAMPRINTER
RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNAME

OS上のプリンター一覧を取得するスプールサーバの出力先名を指定します。

PRINTERNUM

パラメタ PRINTERS の繰り返し回数を指定します。nには取得する一覧の最大数を指定してください。

OS上のプリンタの数がn個を超える場合は、n個までの一覧が取得されます。

PRINTERS

取得したOS上のプリンタの一覧が格納される領域を指定します。nには取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 PRINTERS を参照してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバのIPアドレスを255.255.255.255形式で指定します。

PMSERVERADDRパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORTパラメタを省略する場合は、-1を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

PRINTERNUM

取得された OS 上のプリンタ数が格納されます。

PRINTERS

パラメタ PRINTERNUM に設定された n 個分のプリンタ情報を、戻り値 PRINTERNAME に格納します。OS 上のプリンタの数が n 個に満たない場合は、戻り値 PRINTERNUM に取得された個数のプリンタ情報が返され、戻り値 PRINTERNUM+1 番目以降の領域は不定になります。OS 上のプリンタの数が n 個より多い場合は、パラメタ PRINTERNUM に指定した n 個のプリンタ情報が返されます。

PRINTERNAME

OS 上のプリンタ名が設定されます。

呼び出し例

OS 上のプリンタの一覧を取得する、呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER        PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER        PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PRINTERNUM   PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02 PRINTERS     OCCURS 120 TIMES.
    03 PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER      PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC  S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY '<プリンター一覧(GetPrinterList)>'
MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
```



```

DISPLAY DESTNAME
CALL 'GetPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                EURPMPARAMPRINTER
                                RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY PRINTERNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > PRINTERNUM
  DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF

```

GetTrayList 関数

出力先（スプールサーバ）と OS 上のプリンタを指定し、そのプリンタのトレイ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は、デフォルトの出力先として登録されたスプールサーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```

-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME      PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER        X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
  02 PRINTERNAME  PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER        X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
  02 FILLER        PIC X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER        PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNUM       PIC 9(9) COMP-X VALUE n.
  02 TRAYS         OCCURS n TIMES.
    03 TRAYNAME    PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR  PIC X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT  PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE        PIC S9(9) BINARY.
-----実行部-----
call 'GetTrayList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                EURPMPARAMPRINTERNAME

```

パラメタ

DESTNAME

OS上のプリンタのトレイ一覧を取得するスプールサーバの出力先名を指定します。

PRINTERNAME

トレイ一覧を取得するOS上のプリンタ名を指定します。

TRAYNUM

パラメタ TRAYS の繰り返し回数 n を指定します。 n には取得する一覧の最大数を指定してください。

トレイの数が n 個を超える場合は、 n 個までの一覧が取得されます。

TRAYS

取得したトレイ一覧が格納される領域を指定します。 n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 TRAYS を参照してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバのIPアドレスを255.255.255.255形式で指定します。

PMSERVERADDRパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORTパラメタを省略する場合は、-1を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージIDが設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EURメッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

TRAYNUM

取得されたトレイ数が格納されます。

TRAYS

パラメタ TRAYNUM に設定された n 個分のトレイ情報を，戻り値 TRAYNAME に格納します。OS 上のプリンタのトレイ数が n 個に満たない場合は，戻り値 TRAYNUM に取得された個数のトレイ情報が返され，戻り値 TRAYNUM+1 番目以降の領域は不定になります。OS 上のプリンタのトレイ数が n 個より多い場合は，パラメタ TRAYNUM に指定した n 個のトレイ情報が返されます。

TRAYNAME

OS 上のプリンタのトレイ名が設定されます。

呼び出し例

OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
-----宣言部-----
01 EURPMPARAMDESTNAME.
   02 DESTNAME      PIC X(80) VALUE SPACE.
   02 FILLER        X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
   02 PRINTERNAME   PIC X(80) VALUE SPACE.
   02 FILLER        X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
   02 FILLER        PIC X(4) VALUE '0770'.
   02 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 ERRORMESSAGE  PIC X(256) VALUE SPACE.
   02 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 FILLER        PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
   02 TRAYNUM       PIC 9(9) COMP-X VALUE 120.
   02 TRAYS         OCCURS 120 TIMES.
     03 TRAYNAME    PIC X(80) VALUE SPACE.
     03 FILLER      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
     03 FILLER      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
   02 PMSERVERADDR  PIC X(15) VALUE SPACE.
   02 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
   02 PMSERVERPORT  PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE         PIC S9(9) BINARY.
-----実行部-----
DISPLAY '<トレイ一覧(GetTrayList)>'
MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
DISPLAY DESTNAME
MOVE 'PRINTER1' TO PRINTERNAME
DISPLAY PRINTERNAME
CALL ' GetTrayList ' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                EURPMPARAMPRINTERNAME
                                EURPMPARAMTRAY
                                RETURNING RTNCODE

DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY TRAYNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > TRAYNUM
    DISPLAY TRAYNAME (IX1)
  END-PERFORM
ELSE
```

```
DISPLAY 'エラー発生'  
DISPLAY ERRORMESSAGE  
END-IF
```

OutputEPFReport 関数

EPF 形式ファイルを出力します。

EPF 形式ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに EPFFILENAME パラメタと EPFFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

出力先に指定した EPF 形式ファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.  
01 EURPMPARAM.  
    02 FILLER PIC X(4) VALUE '1010'.  
    02 PRINTSTARTPAGE PIC 9(9) COMP-X.  
    02 PRINTENDPAGE PIC 9(9) COMP-X.  
    02 REPORTSETFILE PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 MULTIFORMINFO PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 EPFFILENAME PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 REPORTSET.  
        03 REPORTNAME PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 MAPPINGDATA PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 USERDEFDATA PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 ERRORMESSAGE PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 MAPPINGDATAPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 USERDEFDATAPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 REPORTSETFILEPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 REPORTFILEPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 MULTIFORMINFOPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 DOCINFOFILE PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 DOCINFOFILEPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 EPFFILEPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 PAGENUMBERFORMAT PIC X(80).
```

```

02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTCOPIES PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 SORTPRINT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PAPERORIENTATION PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PRINTPAGENUMBER PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PAGENUMBERLOCATION PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 FIRSTPAGENUMBER PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 INITPAGENUMBER PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 DBINFOFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DBINFOFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTERCLASSNAME PIC X(80).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPLACEITEMCNTLFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPLACEITEMCNTLFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR PIC X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PSENVFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PSENVFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTDATEFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTDATEFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 SPOOLTITLE PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 OUTPUTPAGECOUNTOPT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 OUTPUTPAGECOUNT PIC S9(9) COMP-5 VALUE 0.
02 REPORTID PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE PIC S9(9) BINARY.

```

```

call 'OutputEPFReport' USING EURMPARAM
RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

PRINTSTARTPAGE

出力開始ページを指定します。指定できる値は、0～999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は、1 ページから出力されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが出力されます。

PRINTENDPAGE

出力終了ページを指定します。指定できる値は、0～999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は、最終ページまで出力されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合は、PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが出力されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILE パラメタを指定しても無効になります。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。ただし、REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定してください。

複数様式情報定義ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、MULTIFORMINFOPATH パラ

メタに指定することもできます。MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

EPFFILENAME

出力する EPF 形式ファイル名を指定します。EPF 形式ファイルを出力する場合は、必ず指定してください。

EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。ただし、出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは、次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。

- EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
- EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

REPORTSET

帳票セットの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

REPORTNAME パラメタ、REPORTSETFILE パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTNAME パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPORTFILEPATH パラメータに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメータにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメータには、REPORTNAME パラメータ、または REPORTID パラメータの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお、指定できるファイル名は、一つだけです。REPORTNAME パラメータを指定する場合は、REPORTNAME パラメータで指定したファイル名の数以下で指定してください。

REPORTID パラメータを指定する場合は、REPORTID パラメータの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

MAPPINGDATA パラメータを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。ファイル名の数は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数と順序で指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

文書情報設定ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILE パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

文書情報設定ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。EPFFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EPF 形式ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は、1～99です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTCOPIES パラメタの設定値は無視されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、SORTPRINT パラメタの指定に関係なく 0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、PAPERORIENTATION パラメタの指定に関係なく、0 が仮定されます。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は、1～999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

PRINTERCLASSNAME

プリンタクラス名を指定します。

指定したプリンタクラス名情報は、出力する EPF 形式ファイルに設定されます。

次のことに注意して、プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- プリンタクラス名に「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」は使用できません。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略したときは、EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、

REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILENAME パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PSENVFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PRINTDATEFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PRINTDATEFILEPATH パラメタに指定することもできます。PRINTDATEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PRINTDATEFILEPATH

PRINTDATEFILENAME パラメタで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

PRINTDATEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PRINTDATEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PRINTDATEFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPOOLTITLE

次のことに注意して、スプールタイトルを指定してください。

- 指定するスプールタイトルが、256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。

SPOOLTITLE パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SPOOLTITLE パラメタを省略したときは、印刷時のスプールタイトルには、文書情報設定ファイルの TITLE キーの指定値、または帳票ファイル名が出力されます。

OUTPUTPAGECOUNTOPT

EPF 形式ファイル出力を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 1：総ページ数を出力します。
- 0：総ページ数を出力しません。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。
OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略したときは、総ページ数を出力しません。

REPORTID

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、EPF 形式ファイル出力を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

REPORTID パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTSETFILE パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」

帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

重要

REPORTID パラメタで帳票 ID を指定した場合、REPORTSETFILE パラメタで帳票セット指定ファイル名を指定しても無効となるため、複数帳票の一括出力および複数様式の帳票の出力はできません。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

OUTPUTPAGECOUNT

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタに 1 を指定した場合、OutputEPFReport 関数の実行後に帳票の総ページ数が設定されます。*

エラーが発生した場合は、0 が設定されます。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージID	メッセージ
KEEY225-E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

OutputEURReport 関数

EUR 形式ファイルを出力します。

EUR 形式ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに EURFILENAME パラメタと EURFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

出力先に指定した EUR 形式ファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.  
01 EURPMPARAM.  
    02 FILLER                PIC X(4) VALUE '1010'.  
    02 REPORTSETFILE        PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 MULTIFORMINFO        PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 EURFILENAME          PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 REPORTSET.  
        03 REPORTNAME        PIC X(256).  
        03 FILLER            PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 MAPPINGDATA       PIC X(256).  
        03 FILLER            PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 USERDEFDATA       PIC X(256).
```

```

03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 ERRORMESSAGE PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 MAPPINGDATAPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 USERDEFDATAPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTSETFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 MULTIFORMINFOPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DOCINFOFILE PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DOCINFOFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 EURFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DBINFOFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DBINFOFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPLACEITEMCNTLFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPLACEITEMCNTLFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR PIC X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PSENVFILENAME PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PSENVFILEPATH PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 SPOOLTITLE PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTID PIC X(256).
02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE PIC S9(9) BINARY.

```

```

call 'OutputEURReport' USING EURMPARAM
RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILE パラメタを指定しても無効になります。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。ただし、REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

EURFILENAME

出力する EUR 形式ファイル名を指定します。EUR 形式ファイルを出力する場合は、必ず指定してください。

EUR 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSET

帳票セットの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

REPORTNAME パラメタ、REPORTSETFILE パラメタ、または REPORTID パラメタのどちらかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTNAME パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお、指定で

きるファイル名は、一つだけです。REPORTNAME パラメタを指定する場合は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下で指定してください。

REPORTID パラメタを指定する場合は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。ファイル名の数は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数と順序で指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

文書情報設定ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILE パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

文書情報設定ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

EURFILEPATH

EURFILENAME パラメタで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。

EUR 形式ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

EURFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、このパラメタを指定する必要はありません。このパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名

を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILENAME パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PSENVFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPOOLTITLE

次のことに注意して、スプールタイトルを指定してください。

- 指定するスプールタイトルが、256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。

SPOOLTITLE パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SPOOLTITLE パラメタを省略したときは、印刷時のスプールタイトルには、文書情報設定ファイルの TITLE キーの指定値が出力されます。TITLE キーを設定していないときは、次に示す表示形式で出力されます。

- 単一样式帳票の場合
「HITACHI Report - EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」
- 複数の帳票セットを指定した帳票、または複数様式を指定した帳票の場合
「EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」

REPORTID

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、EUR 形式ファイル出力を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

REPORTID パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTSETFILE パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。

Windows 環境：「¥」または「/」

UNIX/Linux 環境：「/」

帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

❗ 重要

REPORTID パラメタで帳票 ID を指定した場合、REPORTSETFILE パラメタで帳票セット指定ファイル名を指定しても無効となるため、複数帳票の一括出力および複数様式の帳票の出力はできません。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY243-E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

OutputMergeEPFReport 関数

複数の EPF 形式ファイルを一つの EPF 形式ファイルに統合して出力します。

出力先に指定した EPF 形式ファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.  
01 EURPMPARAM.  
    02 FILLER                PIC X(4) VALUE '0810'.  
    02 PRINTCOPIES           PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.  
    02 SORTPRINT             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.  
    02 PAPERORIENTATION      PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.  
    02 MERGEEPPFFILEPATH     PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 EPFFILENAME           PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 EPFFILEPATH           PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 SPOOLTITLE            PIC X(256).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 PRINTERCLASSNAME      PIC X(80).  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 ERRORMESSAGE          PIC X(256) VALUE SPACE.  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 PMSERVERADDR          PIC X(15) VALUE SPACE.  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.  
    02 PMSERVERPORT           PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.  
    02 EPFFILESSIZE          PIC S9(9) COMP-X VALUE n.  
    02 EPFFILES              OCCURS n TIMES.  
    03 MERGEEPPFFILENAME     PIC X(256).  
    03 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    03 FILLER                PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.  
01 RTNCODE                   PIC S9(9) BINARY.  
  
call 'OutputMergeEPFReport' USING EURPMPARAM  
RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は、1～99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

MERGEEPPFFILEPATH

MERGEEPPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

MERGEEPPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、MERGEEPPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

MERGEEPPFFILEPATH パラメタを省略したい場合は、空白を指定します。

EPF 形式ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

EPFFILENAME

出力する EPF 形式ファイル名を指定します。必ず指定してください。

EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。ただし、出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは、次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。

- EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
- EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、EPFFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。EPFFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EPF 形式ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPOOLTITLE

次のことに注意して、スプールタイトルを指定してください。

- 指定するスプールタイトルが、256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。

SPOOLTITLE パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SPOOLTITLE パラメタを省略したときは、統合後の EPF 形式ファイルのスプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合、印刷時のスプールタイトルには最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名が出力されます。

PRINTERCLASSNAME

クライアントプリンタクラス定義ファイルに設定してあるクライアントプリンタクラス名を指定します。ただし、統合後の EPF 形式ファイルをクライアント PC に配布して印刷する場合は指定しないでください。

指定したプリンタクラス名情報は、統合して出力する EPF 形式ファイルに設定されます。

次のことに注意して、プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- プリンタクラス名に「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」は使用できません。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略したときは、統合対象の EPF 形式ファイルにプリンタクラス名情報が設定されていても、統合後の EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

EPFFILESSIZE

統合対象の EPF 形式ファイルの最大数を、2~10,000 の範囲で指定します。必ず指定してください。

なお、EPFFILESSIZE パラメタに指定した値と同じ値を、EPFFILES パラメタの配列数に設定してください。

EPFFILES

統合対象の EPF 形式ファイル名情報を設定します。

EPFFILES パラメタの配列数 n には、EPFFILESSIZE パラメタに指定した値と同じ値（統合対象の EPF 形式ファイルの最大数）を設定してください。

MERGEPPFILENAME

統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。必ず指定してください。

EPF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPF 形式ファイルの拡張子は、*.epf です。EPF 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

❗ 重要

OutputMergeEPFReport 関数では、帳票の総ページ数を取得できません。複数の EPF 形式ファイルを統合して出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、OutputEPFReport 関数で個々の EPF 形式ファイルを出力するときの OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタおよび戻り値 OUTPUTPAGECOUNT で帳票の総ページ数を取得し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。

OutputPDFReport 関数

PDF 形式ファイルを出力します。

PDF 形式ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンまたは EUR Server - Adapter 稼働マシンに、FILEOUTPUTDESTINATION パラメタ、PDFFILENAME パラメタ、および PDFFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

出力先に指定したファイルがすでにある場合は、上書きされます。

ただし、PDF 仕分け定義ファイル (DISTRIBUTEFILENAME パラメタ) が指定されている場合は、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

PDF 仕分け出力の場合、出力先の PDF 形式ファイルがすでにある場合は上書きしないでエラーになります。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.  
01 EURPMPARAM.  
    02 FILLER PIC X(4) VALUE '1010'.  
    02 SERVERNAME PIC X(80).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 FILLER PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.  
    02 PRINTSTARTPAGE PIC 9(9) COMP-X.  
    02 PRINTENDPAGE PIC 9(9) COMP-X.  
    02 REPORTSETFILE PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 MULTIFORMINFO PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 DOCBOOKMARKFILE PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 PDFFILENAME PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 REPORTSET.  
        03 REPORTNAME PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 MAPPINGDATA PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 USERDEFDATA PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
        03 BOOKMARKFILE PIC X(256).  
        03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 ERRORMESSAGE PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 MAPPINGDATAPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 USERDEFDATAPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 BOOKMARKFILEPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 REPORTSETFILEPATH PIC X(256).  
    02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
    02 CRYPTOFILENAME PIC X(256).
```

02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 CRYPTOFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DOCINFOFILE	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DOCINFOFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 MULTIFORMINFOPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PDFFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PAGENUMBERFORMAT	PIC X(80).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PAGENUMBERLOCATION	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 FIRSTPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 INITPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 CRYPTO	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 DBINFOFILENAME	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DBINFOFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 ENCRYPTIONPASSWORDKEY	PIC X(32).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPLACEITEMCNTLFILENAME	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPLACEITEMCNTLFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DISTRIBUTEFILENAME	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DISTRIBUTEFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 SCRIPTCNTLFILENAME	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 SCRIPTCNTLFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 VIEWERREFERENCEFILENAME	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 VIEWERREFERENCEFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERADDR	PIC X(15) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PMSERVERPORT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PSENVFILENAME	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PSENVFILEPATH	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 FILEOUTPUTDESTINATION	PIC S9(9) COMP-X VALUE -1.
02 OUTPUTPAGECOUNTOPT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 OUTPUTPAGECOUNT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE 0.
02 REPORTID	PIC X(256).
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.

```
01 RTNCODE
```

```
PIC S9(9) BINARY.
```

```
call 'OutputPDFReport' USING EURPMPARAM  
RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

SERVERNAME

指定しても無視されます。

PRINTSTARTPAGE

出力開始ページを指定します。指定できる値は、0~999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は、1 ページから出力されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが出力されます。

PRINTENDPAGE

出力終了ページを指定します。指定できる値は、0~999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は、最終ページまで出力されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが出力されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILE パラメタを指定しても無効になります。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。ただし、REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定してください。

複数様式情報定義ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DOCBOOKMARKFILE

文書しおり定義ファイル名を指定します。

文書しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

このパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

文書しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

PDFFILENAME

出力する PDF 形式ファイル名を指定します。

PDFFILENAME パラメタ、または DISTRIBUTEFILENAME パラメタのどちらかは、必ず指定してください。PDFFILENAME パラメタと DISTRIBUTEFILENAME パラメタを同時に指定した場合は、PDFFILENAME パラメタの指定は無視されます。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタが 1 (PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する) の場合で、EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定しているときは、PDFFILENAME パラメタにはファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定しているときは、PDFFILENAME パラメタはフルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PDFFILEPATH パラメタに指定することもできます。PDFFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。

- フルパスを指定する場合

PDFFILENAME パラメタで指定したパスに出力されます。なお、環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし、そこから PDFFILENAME パラメタで指定したパスに出力されます。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに、PDFFILENAME パラメタで指定したファイル名で出力されます。

PDF 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPORTSET

帳票セットの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

REPORTNAME パラメタ、REPORTSETFILE パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTNAME パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPORTFILEPATH パラメータに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメータにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメータには、REPORTNAME パラメータ、または REPORTID パラメータの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお、指定できるファイル名は、一つだけです。REPORTNAME パラメータを指定する場合は、REPORTNAME パラメータで指定したファイル名の数以下で指定してください。

REPORTID パラメータを指定する場合は、REPORTID パラメータの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

MAPPINGDATA パラメータを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。ファイル名の数、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数と順序で指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

BOOKMARKFILE

BOOKMARKFILE パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応したしおり定義ファイル名を指定します。ファイル名数は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名数と順序で指定してください。

しおり定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

このパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

BOOKMARKFILEPATH

BOOKMARKFILE パラメタで指定するしおり定義ファイルのパスを指定します。

しおり定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

BOOKMARKFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、このパラメタを指定する必要はありません。このパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

CRYPTOFILENAME

暗号化設定ファイル名を指定します。

CRYPTOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

暗号化設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

暗号化設定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

CRYPTOFILEPATH

CRYPTOFILENAME パラメタで指定する暗号化設定ファイルのパスを指定します。

CRYPTOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、CRYPTOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。CRYPTOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

暗号化設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

文書情報設定ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILE パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

文書情報設定ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

指定されたファイルのパスは、DOCINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

複数様式情報定義ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PDFFILEPATH

PDFFILENAME パラメタで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。

PDFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PDFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PDFFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタが 1 (PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する) の場合で、かつ EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を指定している場合は、PDFFILEPATH パラメタの指定は無視されます。

PDF 形式ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は、1～999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

CRYPTO

PDF 形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：PDF 形式ファイルを暗号化しません。
- 1：PDF 形式ファイルを暗号化します。

CRYPTO パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。CRYPTO パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ENCRYPTIONPASSWORDKEY

オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して、暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。

- 半角数字
0~9
- 半角英字
A~Z, a~z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは、32 バイトまでです。32 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

ENCRYPTIONPASSWORDKEY パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DISTRIBUTEFILENAME

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

PDFFILENAME パラメタ、または DISTRIBUTEFILENAME パラメタのどちらかは、必ず指定してください。PDFFILENAME パラメタと DISTRIBUTEFILENAME パラメタを同時に指定した場合は、PDFFILENAME パラメタの指定は無視されます。

DISTRIBUTEFILENAME パラメタで PDF 仕分け定義ファイルを指定した場合は、FILEOUTPUTDESTINATION パラメタの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

PDF 仕分け定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DISTRIBUTEFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PDF 仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

DISTRIBUTEFILEPATH

DISTRIBUTEFILENAME パラメタで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

DISTRIBUTEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、DISTRIBUTEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DISTRIBUTEFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SCRIPTCNTLFILENAME

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、Acrobat JavaScript 定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SCRIPTCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

Acrobat JavaScript 定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

SCRIPTCNTLFILEPATH

SCRIPTCNTLFILENAME パラメタで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。

SCRIPTCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

VIEWERPREFERENCEFILENAME

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、ビューアプレファレンス定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタに指定することもできます。VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

VIEWERPREFERENCEFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ビューアプレファレンス定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

VIEWERPREFERENCEFILEPATH

VIEWERPREFERENCEFILENAME パラメタで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。

VIEWERPREFERENCEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSEVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSEVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSEVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILENAME パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PSENVFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

FILEOUTPUTDESTINATION

PDF 形式ファイルの出力先を、EUR Server - Adapter 稼働マシンにするか、または EUR Server Service 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0 : EUR Server - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1 : EUR Server Service 稼働マシンに出力します。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタは、OutputPDFReport 関数で PDF 形式ファイルを出力する場合、指定が有効になります。それ以外の場合は、FILEOUTPUTDESTINATION パラメタを指定しても無視されます。

DISTRIBUTEFILENAME パラメタで PDF 仕分け定義ファイルを指定した場合は、FILEOUTPUTDESTINATION パラメタの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

OUTPUTPAGECOUNTOPT

PDF 形式ファイル出力を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 1：総ページ数を出力します。
- 0：総ページ数を出力しません。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略したときは、総ページ数を出力しません。

REPORTID

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、PDF 形式ファイル出力を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

REPORTID パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTSETFILE パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」

帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

重要

REPORTID パラメタで帳票 ID を指定した場合、REPORTSETFILE パラメタで帳票セット指定ファイル名を指定しても無効となるため、複数帳票の一括出力および複数様式の帳票の出力はできません。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

OUTPUTPAGECOUNT

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタに 1 を指定した場合、OutputPDFReport 関数の実行後に帳票の総ページ数が設定されます。*

エラーが発生した場合は、0 が設定されます。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY223-E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

OutputXLSXReport 関数

Excel 形式ファイルを出力します。Excel 出力ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに XLSXFILENAME パラメタと XLSXFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

出力先に指定した Excel 形式ファイルがすでにある場合は、上書きされます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.  
01 EURPMPARAM.  
    02 FILLER                PIC X(4) VALUE '1010'.  
    02 ERRORMESSAGE          PIC X(256) VALUE SPACE.  
    02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```

02  XLSXFILENAME          PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  XLSXFILEPATH         PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTNAME          PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTFILEPATH      PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MAPPINGDATA         PIC X(256) VALUE SPACE..
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MAPPINGDATAPATH    PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  USERDEFDATA        PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  USERDEFDATAPATH   PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DBINFOFILENAME     PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DBINFOFILEPATH    PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILENAME PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERADDR       PIC X(15) VALUE SPACE.
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERPORT       PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTSTARTPAGE     PIC 9(9) COMP-X.
02  PRINTENDPAGE       PIC 9(9) COMP-X.
02  PSENVFILENAME      PIC X(256).
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PSENVFILEPATH     PIC X(256).
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  OUTPUTPAGECOUNTOPT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  OUTPUTPAGECOUNT  PIC S9(9) COMP-5 VALUE 0.
02  REPORTID           PIC X(256).
02  FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01  RTNCODE             PIC S9(9) BINARY.

call 'OutputXLSXReport' USING EURPMPARAM
RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

PRINTSTARTPAGE

出力開始ページを指定します。指定できる値は、0~999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は、1 ページから出力されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが出力されます。

PRINTENDPAGE

出力終了ページを指定します。指定できる値は、0~999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は、最終ページまで出力されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが出力されます。

XLSXFILENAME

出力する Excel 形式ファイル名を指定します。Excel 形式ファイルを出力する場合は、必ず指定してください。

Excel 形式ファイルの拡張子は、*.xlsx です。Excel 形式ファイル名は、拡張子を含めて指定してください。

Excel 形式ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

XLSXFILEPATH

XLSXFILENAME パラメタで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。

XLSXFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、XLSXFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。XLSXFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

Excel 形式ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTNAME

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。REPORTNAME パラメタに指定できるファイル名は、一つだけです。

REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタのどちらかは必ず指定してください。なお、REPORTNAME パラメタに指定できるファイル名は、一つだけです。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTNAME パラメタを指定しても無効になります。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPORTFILEPATH パラメタに

指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお、指定できるファイル名は、一つだけです。REPORTNAME パラメタを指定する場合は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下で指定してください。

REPORTID パラメタを指定する場合は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。ファイル名の数は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数と順序で指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DBINFOFILEPATH パラメータに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメータにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

接続情報ファイルのパスを指定します。

DBINFOFILENAME パラメータをフルパスで指定した場合は、DBINFOFILEPATH パラメータを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメータを省略する場合は、空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメータに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメータにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PMSERVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。指定できる値は、0~65,535 です。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILENAME パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PSENVFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

OUTPUTPAGECOUNTOPT

Excel 形式ファイル出力を実行した帳票の総シート数を出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 1：総シート数を出力します。
- 0：総シート数を出力しません。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略したときは、総シート数を出力しません。

REPORTID

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、Excel 形式ファイル出力を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

なお、帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

REPORTID パラメタ、または REPORTNAME パラメタのどちらかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。

Windows 環境：「¥」または「/」

UNIX/Linux 環境：「/」

帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

❗ 重要

REPORTID パラメタで帳票 ID を指定した場合、REPORTSETFILE パラメタで帳票セット指定ファイル名を指定しても無効となるため、複数帳票の一括出力および複数様式の帳票の出力はできません。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

OUTPUTPAGECOUNT

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタに 1 を指定した場合、OutputXLSXReport 関数の実行後に帳票の総シート数（最大 100 シート）が設定されます。*

エラーが発生した場合は、0 が設定されます。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総シート数が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY263-E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

PrintReport 関数

帳票の印刷、または EPF 形式ファイルの蓄積をします。

形式

```
01 EURPMPARAM.  
   02 FILLER                PIC X(4) VALUE '1010'.  
   02 CLIENTADDR            PIC X(15) VALUE SPACE.  
   02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
   02 SERVERNAME            PIC X(80) VALUE SPACE.  
   02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
   02 PRINTERNAME           PIC X(80) VALUE SPACE.  
   02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.  
   02 TRAYNAME              PIC X(80) VALUE SPACE.
```


02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTSTARTPAGE	PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
02 PRINTENDPAGE	PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
02 REPORTSETFILE	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 MULTIFORMINFO	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTSET.	
03 REPORTNAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
03 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 MAPPINGDATA	PIC X(256) VALUE SPACE.
03 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 USERDEFDATA	PIC X(256) VALUE SPACE.
03 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 ERRORMESSAGE	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 MAPPINGDATAPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 USERDEFDATAPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTSETFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 CLIENTPRINTERNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 CLIENTTRAYNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 MULTIFORMINFOPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DOCINFOFILE	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DOCINFOFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PAGENUMBERFORMAT	PIC X(80) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTCOPIES	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 SORTPRINT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PAPERORIENTATION	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PRINTPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PAGENUMBERLOCATION	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 FIRSTPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 INITPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 DBINFOFILENAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 DBINFOFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02 FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 PRINTKIND	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 SERVERSELECTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.

02	PRINTERSELECTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	DISPPRINTDLG	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	DESTNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SERVERADDR	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PRINTERCLASSNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SERVERPRINTERNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SERVERTRAYNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	GROUPNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	REPLACEITEMCNTLFILENAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	REPLACEITEMCNTLFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SPOOLFILENAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SPOOLLIMIT	PIC X(8) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	EXECUTABLEPRINTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	MAXPRINTCOUNT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	ENABLEGET	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	PRINTHOLDMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	JOBKEYNUM	PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02	JOBKEYS	OCCURS 5 TIMES.
03	JOBKEYCATEGORY	PIC X(80) VALUE SPACE.
03	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03	JOBKEYDATA	PIC X(80) VALUE SPACE.
03	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	JOBID	PIC X(36) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PMSERVERADDR	PIC X(15) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PMSERVERPORT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	EPFFILENAME	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	EPFFILEPATH	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	JOBKEYNUM2	PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02	JOBKEYS2	OCCURS 5 TIMES.
03	JOBKEYCATEGORY2	PIC X(80) VALUE SPACE.
03	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03	JOBKEYDATA2	PIC X(80) VALUE SPACE.
03	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	PSENVFILENAME	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PSENVFILEPATH	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	PRINTDATEFILENAME	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.

```

02 PRINTDATEFILEPATH      PIC X(256).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                  PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 SPLITMODE              PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 SPLITFILENAME          PIC X(256).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 SPLITFILEPATH          PIC X(256).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                  PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTADDRKEYCATEGORY PIC X(80).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTADDRKEYDATA      PIC X(80).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                  PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 SPOOLTITLE             PIC X(256).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                  PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 OUTPUTPAGECOUNTOPT   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 OUTPUTPAGECOUNT      PIC S9(9) COMP-5 VALUE 0.
02 REPORTID               PIC X(256).
02 FILLER                  PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                  PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                PIC S9(9) BINARY.

```

```

call 'PrintReport' USING EURPMPARAM
RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

CLIENTADDR

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス、または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

CLIENTADDR パラメタを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が假定されます。

PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) の場合、CLIENTADDR パラメタの指定は任意です。PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式) または PRINTMODE パラメタに 4 (印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式) の場合は、CLIENTADDR パラメタを指定しても無視されます。

SERVERNAME

指定しても無視されます。

PRINTERNAME

指定しても無視されます。

TRAYNAME

指定しても無視されます。

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は、0～999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は、1 ページから印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は、0～999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は、最終ページまで印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILE パラメタを指定しても無効になります。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。ただし、REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定してください。

複数様式情報定義ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPORTSET

帳票セット指定ファイルを指定するためのパラメタの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

REPORTNAME パラメタ、REPORTSETFILE パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTNAME パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPORTFILEPATH パラメタに

指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお、指定できるファイル名は、一つだけです。REPORTNAME パラメタを指定する場合は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下で指定してください。

REPORTID パラメタを指定する場合は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。ファイル名の数は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数と順序で指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

CLIENTPRINTERNAME

クライアント PC の OS 上のプリンタ名を指定します。

CLIENTPRINTERNAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式) の場合、および PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合、対話型印刷はできません。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

次のことに注意して、プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合、かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は、DISPPRINTDLG パラメタは強制的に 1（ダイアログを表示しません）が仮定されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは、CLIENTPRINTERNAME パラメタの指定を優先します。

CLIENTTRAYNAME

クライアントプリンタの OS 上のトレイ名を指定します。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定する場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しない場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また、CLIENTTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。

CLIENTTRAYNAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合、および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

次のことに注意して、トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

複数様式情報定義ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

文書情報設定ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILE パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

文書情報設定ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は、1～99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTCOPIES パラメタの設定値は無視されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。

- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、SORTPRINT パラメタの指定に関係なく 0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、PAPERORIENTATION パラメタの指定に関係なく、0 が仮定されます。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。

- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は、1～999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DBINFOFILEPATH パラメタに

指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTMODE

印刷方式を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：スプールサーバ印刷方式
- 4：帳票サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0 (デフォルト印刷方式)」を定義する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0, 1, 2, 3, 4, 5 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。PRINTMODE パラメタを省略した場合は、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトとします。

PRINTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

PRINTKIND

スプールサーバの印刷方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイルを印刷します。
- 1：EUR 形式ファイルを印刷します。

PRINTKIND パラメタは、PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式) が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTKIND パラメタを省略する場合は、-1 を設定します。PRINTKIND パラメタの指定を省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

SERVERSELECTMODE

スプールサーバでの印刷を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：スプールサーバの IP アドレスを指定します。

SERVERSELECTMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、または 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式) が指定されている場合だけ有効になります。

SERVERSELECTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を設定します。SERVERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

PRINTERSELECTMODE

プリンタの指定方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名を指定します。
- 1：OS 上のプリンタ名を指定します
- 2：帳票振り分け定義を指定します

PRINTERSELECTMODE パラメタは、次の場合に指定が有効になります。

- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式) が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 4 (帳票サーバ直接印刷方式) が指定されている

PRINTERSELECTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を設定します。PRINTERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

また、帳票サーバによる直接印刷 (PRINTMODE パラメタに 4 が指定) の場合、2 の値を指定するとエラーになります。

DISPPRINTDLG

クライアント PC で印刷する場合、ダイアログを表示するかどうかを選択します。指定できる値と印刷時の動作を次に示します。

- 0: 印刷先指定ダイアログを表示します (対話型印刷)。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
- 1: 直接印刷を実行します (自動印刷)。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
- 2: プレビューウィンドウを表示します (対話型印刷プレビュー表示)。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
- 3: 直接印刷を実行します (全自動印刷)。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
- 4: プレビューウィンドウを表示します (対話型印刷プレビュー表示限定)。
印刷は実行できません。

DISPPRINTDLG パラメタを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値 (0~4) が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび DISPPRINTDLG パラメタとも省略した場合、0 が仮定されます。CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合、かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は、1 が仮定されます。

DISPPRINTDLG パラメタは、PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式)、または 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。それ以外の場合は、DISPPRINTDLG パラメタを指定しても無視されます。

DESTNAME

出力先名を指定します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、出力先 (スプールサーバ) での印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、印刷を実行した場合はエラーとなります。

次のことに注意して、出力先名を指定してください。

- 指定する出力先名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は、空白を設定します。

DESTNAME パラメタは、次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、DESTNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0 (スプールサーバ指定方式が出力先名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0 (スプールサーバ指定方式が出力先名指定) のとき

SERVERADDR

スプールサーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、スプールサーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、印刷を実行した場合はエラーとなります。

SERVERADDR パラメタを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

SERVERADDR パラメタは、次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、SERVERADDR パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1 (スプールサーバ指定方式が IP アドレス指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1 (スプールサーバ指定方式が IP アドレス指定) のとき

PRINTERCLASSNAME

プリンタクラス名を指定します。

次のことに注意して、プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- プリンタクラス名に
「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」
「_____」は使用できません。

印刷方法ごとに指定するパラメタを次に示します。パラメタの組み合わせが異なる場合、指定した値は無効となります。なお、クライアント PC への配布印刷では、指定できません。

- スプールサーバでの印刷を指定する場合

- PRINTMODE パラメタ：3
 PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷を指定する場合
 PRINTMODE パラメタ：1
 DISPPRINTDLG パラメタ：0
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - クライアント PC での自動印刷を指定する場合
 PRINTMODE パラメタ：1
 DISPPRINTDLG パラメタ：1
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷プレビューを指定する場合
 PRINTMODE パラメタ：1
 DISPPRINTDLG パラメタ：2
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - クライアント PC での全自動印刷を指定する場合
 PRINTMODE パラメタ：1
 DISPPRINTDLG パラメタ：3
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
 - クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示限定
 PRINTMODE パラメタ：1
 DISPPRINTDLG パラメタ：4
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
 - 帳票サーバでの印刷を指定する場合
 PRINTMODE パラメタ：4
 PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票サーバプリンタクラス名
 - スプールサーバでの蓄積を指定する場合（プリンタクラス名指定）
 PRINTMODE パラメタ：2
 PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
 PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名、または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名
 - スプールサーバでの蓄積を指定する場合（OS 上のプリンタ名指定）
 PRINTMODE パラメタ：2

PRINTERSELECTMODE パラメタ：1

PRINTERCLASSNAME パラメタ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- スプールサーバでの蓄積を指定する場合（帳票名による自動振り分け）

PRINTMODE パラメタ：2

PRINTERSELECTMODE パラメタ：2

PRINTERCLASSNAME パラメタ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合、CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは、CLIENTPRINTERNAME パラメタの設定を優先します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略したときは、EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

SERVERPRINTERNAME

サーバのプリンタ名を指定します。プリンタ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

次のことに注意して、プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERPRINTERNAME パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SERVERPRINTERNAME パラメタは、次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、SERVERPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式がスプールサーバ印刷方式）、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 4（帳票サーバ直接印刷方式）、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき

SERVERTRAYNAME

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

SERVERTRAYNAME パラメタを指定するときは、SERVERPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

Windows 環境の場合

次のことに注意して、トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERTRAYNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は、SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また、SERVERTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。

SERVERTRAYNAME パラメタは、次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、SERVERTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 4 (帳票サーバ直接印刷方式)、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- 給紙トレイ情報を指定します。SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード (DefaultCassette) に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。プリンタ定義ファイルの詳細については、「11.5 プリンタ定義ファイル」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズから給紙トレイを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙トレイから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は、1~n (n はプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値) で指定します。 6 以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

! 重要

SERVERTRAYNAME パラメタでは次に示す指定があった場合、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに、プリンタのパネルで給紙トレイが選択されたとき

また、帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか、または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は、あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

GROUPNAME

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

次のことに注意して、振り分けグループ名を指定してください。

- 指定する振り分けグループ名が、80バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。

GROUPNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

GROUPNAME パラメタは、次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、GROUPNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 0 (印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 2 (プリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け) のとき

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは、次に示すどれかの指定がある場合、有効になります。PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 1 (印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード) の場合は、REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 0 (印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード) のとき
- PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) のとき

置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは、次に示すどれかの指定がある場合、有効になります。PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 1 (印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード) の場合は、REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 0 (印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード) のとき
- PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) のとき

SPOOLFILENAME

スプールデータに格納するファイル名を指定します。格納ファイル名が 256 バイトに満たない場合は空白で埋めてください。そのほか、格納ファイルを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

「%N」を指定すると、00000001 から始まる 8 桁の通し番号を設定できます。

SPOOLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SPOOLFILENAME パラメタを省略した場合は、自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」*です。

複数のスプールデータに同一ファイル名が指定されている場合、スプールデータ取得時に同一パスで取得されると、ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは、別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。

SPOOLFILENAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。

EUR + 処理実行日時 + 通番フォルダ番号 + 通し番号

処理実行日時（17 桁）：YYYYMMDDhhmmssmmm

通番フォルダ番号（7 桁）：0000001～2000000

通し番号（9 桁）：000000001～999999999

通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は、エラー（KEEY430-S）になります。

通し番号が 999999999 を超えた場合は、000000003 に戻ります。

SPOOLLIMIT

スプールデータの蓄積期限日を指定します。

蓄積期限日は、日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 桁、月と日は 2 桁で入力します。
- 月、または日が 1～9 の場合は、ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は、20380118（2038 年 1 月 18 日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521, 20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には、蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は000～999です。0を指定した場合は、翌日にスプールデータが削除されます。
- 2038年1月18日を超える日数は指定できません。

(指定例) +030, +999

SPOOLLIMIT パラメタを指定しない場合、蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Server - Adapter の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。蓄積期限日を過ぎたスプールデータは蓄積期限切れファイル削除機能によって削除されます。

SPOOLLIMIT パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。

EXECUTABLEPRINTMODE

実行可能印刷方式を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：スプールサーバでの印刷
- 1：スプールサーバでの印刷、またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。

MAXPRINTCOUNT

スプールデータの印刷回数の上限を指定します。指定できる値は、-1～65,536 です。印刷回数の上限を無限にする場合は、-1 を指定します。印刷を禁止する場合は、0 を指定します。

MAXPRINTCOUNT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。MAXPRINTCOUNT パラメタの指定を省略した場合は、-1 が仮定されます。

MAXPRINTCOUNT パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。

ENABLEGET

スプールデータを取得するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：スプールデータを取得できません。
- 1：スプールデータを取得できます。

ENABLEGET パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

ENABLEGET パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTHOLDMODE

スプールデータを印刷する場合に、蓄積後に続けて印刷するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません（印刷保留）。
- 1：蓄積後に続けてスプールサーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

PRINTHOLDMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTHOLDMODE パラメタの指定を省略した場合は、REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタおよび REPORTADDRKEYDATA パラメタの指定の有無によって次の値が仮定されます。

REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタおよび REPORTADDRKEYDATA パラメタの指定がある場合

0 が仮定されます。

REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタおよび REPORTADDRKEYDATA パラメタの指定がない場合

1 が仮定されます。

PRINTHOLDMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYCATEGORY

スプールデータの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、検索キーの分類を 6 個以上指定する場合、6～10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYCATEGORY2 パラメタで指定してください。

JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの分類は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA

スプールデータの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、検索キーを 6 個以上指定する場合、6~10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYDATA2 パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの値は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYDATA パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PMSEVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSEVERADDR パラメタを省略した場合はデフォルト値（127.0.0.1）が假定されます。

PMSEVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

EPFFILENAME

入力 EPF 形式ファイル名を指定します。

EPFFILENAME パラメタを省略したい場合は、空白を指定します。

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

EPFFILEPATH パラメタを省略したい場合は、空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2

スプールデータの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、指定する検索キーの分類が 5 個以下の場合、1~5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYCATEGORY パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの分類は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA2

スプールデータの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、指定する検索キーが 5 個以下の場合、1~5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYDATA パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの値は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA2 パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYDATA2 パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILENAME パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PSENVFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの

両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PRINTDATEFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PRINTDATEFILEPATH パラメタに指定することもできます。PRINTDATEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PRINTDATEFILEPATH

PRINTDATEFILENAME パラメタで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

PRINTDATEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PRINTDATEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PRINTDATEFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITMODE

蓄積時に、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

SPLITMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

SPLITMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

SPLITFILENAME

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SPLITFILENAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、SPLITFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

SPLITFILEPATH

SPLITFILENAME パラメタで指定した、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパスを指定します。

SPLITFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、SPLITFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。SPLITFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SPLITFILEPATH パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、SPLITFILEPATH パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う）を指定している、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTADDRKEYCATEGORY

スプールデータの宛先キーの分類を指定します。

宛先キーの分類は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 文字列には「"」、[,] および制御コード（0x00～0x1F、0x7F～0x9F）を含めないでください。

REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。それ以外のときは、REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタを指定しても無視されます。また、REPORTADDRKEYDATA パラメタが指定されていない場合はエラーになります。

REPORTADDRKEYDATA

スプールデータの宛先キーの値を指定します。

宛先キーの値は、任意の文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 文字列には「"」、[,] および制御コード（0x00～0x1F、0x7F～0x9F）を含めないでください。

REPORTADDRKEYDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPORTADDRKEYDATA パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。それ以外のときは、REPORTADDRKEYDATA パラメタを指定しても無視されます。また、REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタが指定されていない場合はエラーになります。

SPOOLTITLE

次のことに注意して、スプールタイトルを指定してください。

- 指定するスプールタイトルが、256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。

SPOOLTITLE パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SPOOLTITLE パラメタを省略したときは、印刷時のスプールタイトルには、文書情報設定ファイルの TITLE キーの指定値、または帳票ファイル名が出力されます。

OUTPUTPAGECOUNTOPT

帳票の印刷、または EPF 形式ファイルの蓄積を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 1：総ページ数を出力します。
- 0：総ページ数を出力しません。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタは、次の場合に指定が有効になります。

- PRINTMODE パラメタに 1（クライアント印刷方式）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 2（蓄積）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 3（スプールサーバ印刷方式）が指定されている、かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 4（帳票サーバ直接印刷方式）が指定されている

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略したときは、総ページ数を出力しません。

REPORTID

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、印刷または EPF 形式ファイルの蓄積を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

REPORTID パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTSETFILE パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。
Windows 環境：「¥」または「/」
UNIX/Linux 環境：「/」

帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

❗ 重要

REPORTID パラメタで帳票 ID を指定した場合、REPORTSETFILE パラメタで帳票セット指定ファイル名を指定しても無効となるため、複数帳票の一括出力および複数様式の帳票の出力はできません。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

JOBID

スプールデータのジョブ ID が設定されます。PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ参照できます。

帳票を仕分けまたは分割して蓄積した場合など、直前に蓄積したスプールデータが複数ある場合は、最初に蓄積したスプールデータのジョブ ID が参照できます。

OUTPUTPAGECOUNT

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタに 1 を指定した場合、かつ PRINTMODE パラメタおよび PRINTKIND パラメタに OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタの指定が有効になる値を指定している場合は、PrintReport 関数の実行後に帳票の総ページ数が設定されます。*

エラーが発生した場合は、0 が設定されます。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。

- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、途中で蓄積に失敗したときでも、蓄積に成功したページ数ではなく、合計ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正常のときは、ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。
- 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。

❗ 重要

クライアント配布印刷の場合は、帳票の総ページ数が設定されません。クライアント配布印刷で出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、クライアント PC に配布する個々の印刷データ（EPF 形式ファイル）を出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)

PrintReport2 関数

帳票の印刷、または EPF 形式ファイルの蓄積をします。

また、PrintReport2 関数では、蓄積した EPF 形式ファイル（スプールデータ）のジョブ ID を複数取得できます。

形式

```
01 EURMPARAM.
  02 FILLER PIC X(4) VALUE '1010'.
  02 CLIENTADDR PIC X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 SERVERNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PRINTERNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PRINTSTARTPAGE PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
  02 PRINTENDPAGE PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
  02 REPORTSETFILE PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 MULTIFORMINFO PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 REPORTSET.
    03 REPORTNAME PIC X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 MAPPINGDATA PIC X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 USERDEFDATA PIC X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 MAPPINGDATAPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 USERDEFDATAPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 REPORTSETFILEPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 CLIENTPRINTERNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 CLIENTTRAYNAME PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 REPORTFILEPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 MULTIFORMINFOPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 DOCINFOFILE PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 DOCINFOFILEPATH PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PAGENUMBERFORMAT PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PRINTCOPIES PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
  02 SORTPRINT PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
  02 PAPERORIENTATION PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
```

02	PRINTPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	PAGENUMBERLOCATION	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	FIRSTPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	INITPAGENUMBER	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	DBINFOFILENAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	DBINFOFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	PRINTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	PRINTKIND	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	SERVERSELECTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	PRINTERSELECTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	DISPPRINTDLG	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	DESTNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SERVERADDR	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PRINTERCLASSNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SERVERPRINTERNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SERVERTRAYNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	GROUPNAME	PIC X(80) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	REPLACEITEMCNTLFILENAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	REPLACEITEMCNTLFILEPATH	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SPOOLFILENAME	PIC X(256) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	SPOOLLIMIT	PIC X(8) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	EXECUTABLEPRINTMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	MAXPRINTCOUNT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	ENABLEGET	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	PRINTHOLDMODE	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	JOBKEYNUM	PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02	JOBKEYS	OCCURS 5 TIMES.
03	JOBKEYCATEGORY	PIC X(80) VALUE SPACE.
03	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03	JOBKEYDATA	PIC X(80) VALUE SPACE.
03	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	JOBID	PIC X(36) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PMSERVERADDR	PIC X(15) VALUE SPACE.
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	PMSERVERPORT	PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02	EPFFILENAME	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	EPFFILEPATH	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02	FILLER	PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02	JOBKEYNUM2	PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02	JOBKEYS2	OCCURS 5 TIMES.

```

03 JOBKEYCATEGORY2      PIC X(80) VALUE SPACE.
03 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 JOBKEYDATA2          PIC X(80) VALUE SPACE.
03 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PSENVFILENAME        PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PSENVFILEPATH        PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTDATEFILENAME    PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 PRINTDATEFILEPATH    PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 SPLITMODE            PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 SPLITFILENAME        PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 SPLITFILEPATH        PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTADDRKEYCATEGORY PIC X(80).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 REPORTADDRKEYDATA    PIC X(80).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02 SPOOLTITLE           PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02 OUTPUTPAGECOUNTOPT  PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02 OUTPUTPAGECOUNT    PIC S9(9) COMP-5 VALUE 0.
02 REPORTID             PIC X(256).
02 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02 FILLER                PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMJOBID.
02 JOBIDNUM             PIC S9(9) COMP-5 VALUE n.
02 JOBIDS               OCCURS n TIMES.
03 JOBID                PIC X(36) VALUE SPACE.
03 FILLER                PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
03 FILLER                PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE              PIC S9(9) BINARY.

call 'PrintReport2' USING EURPMPARAM
                      EURPMPARMJOBID
RETURNING RTNCODE.

```

パラメタ

CLIENTADDR

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス、または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

CLIENTADDR パラメタを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) の場合、CLIENTADDR パラメタの指定は任意です。PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式) または PRINTMODE パラメタに 4 (印刷方式が帳票サーバ直接印刷方式) の場合は、CLIENTADDR パラメタを指定しても無視されます。

SERVERNAME

指定しても無視されます。

PRINTERNAME

指定しても無視されます。

TRAYNAME

指定しても無視されます。

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は、0~999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は、1 ページから印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は、0~999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は、0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は、最終ページまで印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合、PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は、PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく、指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILE パラメタを指定しても無効になります。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。ただし、REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は、REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定してください。

複数様式情報定義ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFO パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、複数様式情報定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPORTSET

帳票セット指定ファイルを指定するためのパラメタの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。

REPORTNAME パラメタ、REPORTSETFILE パラメタ、または REPORTID パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTNAME パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお、指定できるファイル名は、一つだけです。REPORTNAME パラメタを指定する場合は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下で指定してください。

REPORTID パラメタを指定する場合は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルには帳票ファイル名を一つだけ指定してください。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

マッピングデータファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには、REPORTNAME パラメタ、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。ファイル名の数は、REPORTNAME パラメタで指定したファイル名の数以下、または REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルで指定した帳票ファイル名の数と順序で指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス、もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス、または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は、USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

CLIENTPRINTERNAME

クライアント PC の OS 上のプリンタ名を指定します。

CLIENTPRINTERNAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合、および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合、対話型印刷はできません。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

次のことに注意して、プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合、かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は、DISPPRINTDLG パラメタは強制的に 1（ダイアログを表示しません）が仮定されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは、CLIENTPRINTERNAME パラメタの指定を優先します。

CLIENTTRAYNAME

クライアントプリンタの OS 上のトレイ名を指定します。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定する場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しない場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また、CLIENTTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。

CLIENTTRAYNAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合、および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は、CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

次のことに注意して、トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTID パラメタを指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定しても無効になります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

複数様式情報定義ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。REPORTID パラメタを指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定しても無効になります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は、MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

文書情報設定ファイル名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILE パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

文書情報設定ファイルのパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。DOCINFOFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は、DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は、1～99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTCOPIES パラメタの設定値は無視されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、SORTPRINT パラメタの指定に関係なく 0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は、PAPERORIENTATION パラメタの指定に関係なく、0 が仮定されます。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は、1～999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは、PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、0 が仮定されます。

ただし、MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は、INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、接続情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

接続情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

PRINTMODE

印刷方式を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：スプールサーバ印刷方式
- 4：帳票サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0, 1, 2, 3, 4, 5 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。PRINTMODE パラメタを省略した場合は、環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトとします。

PRINTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

PRINTKIND

スプールサーバの印刷方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイルを印刷します。
- 1：EUR 形式ファイルを印刷します。

PRINTKIND パラメタは、PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式がスプールサーバ印刷方式）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTKIND パラメタを省略する場合は、-1 を設定します。PRINTKIND パラメタの指定を省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

SERVERSELECTMODE

スプールサーバでの印刷を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：スプールサーバの IP アドレスを指定します。

SERVERSELECTMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）、または 3（印刷方式がスプールサーバ印刷方式）が指定されている場合だけ有効になります。

SERVERSELECTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を設定します。SERVERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合、または 0, 1 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

PRINTERSELECTMODE

プリンタの指定方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名を指定します。
- 1：OS 上のプリンタ名を指定します
- 2：帳票振り分け定義を指定します

PRINTERSELECTMODE パラメタは、次の場合に指定が有効になります。

- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式がスプールサーバ印刷方式）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 4（帳票サーバ直接印刷方式）が指定されている

PRINTERSELECTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を設定します。PRINTERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。

また、帳票サーバによる直接印刷（PRINTMODE パラメタに 4 が指定）の場合、2 の値を指定するとエラーになります。

DISPPRINTDLG

クライアント PC で印刷する場合、ダイアログを表示するかどうかを選択します。指定できる値と印刷時の動作を次に示します。

- 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると、プレビューウィンドウが表示されます。
- 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
- 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると、印刷先指定ダイアログが表示されます。
- 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
- 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
印刷は実行できません。

DISPPRINTDLG パラメタを省略した場合、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値 (0~4) が仮定されます。

環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび DISPPRINTDLG パラメタとも省略した場合、0 が仮定されます。CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合、かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は、1 が仮定されます。

DISPPRINTDLG パラメタは、PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式)、または 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。それ以外の場合は、DISPPRINTDLG パラメタを指定しても無視されます。

DESTNAME

出力先名を指定します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、出力先 (スプールサーバ) での印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、印刷を実行した場合はエラーとなります。

次のことに注意して、出力先名を指定してください。

- 指定する出力先名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は、空白を設定します。

DESTNAME パラメタは、次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、DESTNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0 (スプールサーバ指定方式が出力先名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0 (スプールサーバ指定方式が出力先名指定) のとき

SERVERADDR

スプールサーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

なお、UNIX/Linux 環境の場合、スプールサーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Server - Spool Service に対して、印刷を実行した場合はエラーとなります。

SERVERADDR パラメタを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

SERVERADDR パラメタは、次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、SERVERADDR パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1 (スプールサーバ指定方式が IP アドレス指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1 (スプールサーバ指定方式が IP アドレス指定) のとき

PRINTERCLASSNAME

プリンタクラス名を指定します。

次のことに注意して、プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- プリンタクラス名に「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」は使用できません。

印刷方法ごとに指定するパラメタを次に示します。パラメタの組み合わせが異なる場合、指定した値は無効となります。なお、クライアント PC への配布印刷では、指定できません。

- スプールサーバでの印刷を指定する場合
PRINTMODE パラメタ：3
PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷を指定する場合
PRINTMODE パラメタ：1
DISPPRINTDLG パラメタ：0
PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
- クライアント PC での自動印刷を指定する場合
PRINTMODE パラメタ：1
DISPPRINTDLG パラメタ：1
PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷プレビューを指定する場合
PRINTMODE パラメタ：1
DISPPRINTDLG パラメタ：2
PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名、および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名
- クライアント PC での全自動印刷を指定する場合
PRINTMODE パラメタ：1
DISPPRINTDLG パラメタ：3
PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示限定
PRINTMODE パラメタ：1

DISPPRINTDLG パラメタ：4

PRINTERCLASSNAME パラメタ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- 帳票サーバでの印刷を指定する場合

PRINTMODE パラメタ：4

PRINTERSELECTMODE パラメタ：0

PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票サーバプリンタクラス名

- スプールサーバでの蓄積を指定する場合（プリンタクラス名指定）

PRINTMODE パラメタ：2

PRINTERSELECTMODE パラメタ：0

PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名、または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

- スプールサーバでの蓄積を指定する場合（OS 上のプリンタ名指定）

PRINTMODE パラメタ：2

PRINTERSELECTMODE パラメタ：1

PRINTERCLASSNAME パラメタ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

- スプールサーバでの蓄積を指定する場合（帳票名による自動振り分け）

PRINTMODE パラメタ：2

PRINTERSELECTMODE パラメタ：2

PRINTERCLASSNAME パラメタ：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合、CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは、CLIENTPRINTERNAME パラメタの設定を優先します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略したときは、EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

SERVERPRINTERNAME

サーバのプリンタ名を指定します。プリンタ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

次のことに注意して、プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERPRINTERNAME パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SERVERPRINTERNAME パラメタは、次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、SERVERPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式), かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積), かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 4 (帳票サーバ直接印刷方式), かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき

SERVERTRAYNAME

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

SERVERTRAYNAME パラメタを指定するときは、SERVERPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

Windows 環境の場合

次のことに注意して、トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が、80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERTRAYNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は、SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また、SERVERTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。

SERVERTRAYNAME パラメタは、次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、SERVERTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式), かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積), かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき
- PRINTMODE パラメタに 4 (帳票サーバ直接印刷方式), かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1 (プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定) のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- 給紙トレイ情報を指定します。SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード (DefaultCassette) に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。プリンタ定義ファイルの詳細については、「[11.5 プリンタ定義ファイル](#)」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズから給紙トレイを自動選択します。

指定内容	給紙トレイ
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙トレイから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は、1~n (nはプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値) で指定します。 6以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

❗ 重要

SERVERTRAYNAME パラメタでは次に示す指定があった場合、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに、プリンタのパネルで給紙トレイが選択されたとき

また、帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか、または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は、あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

GROUPNAME

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

次のことに注意して、振り分けグループ名を指定してください。

- 指定する振り分けグループ名が、80バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。

GROUPNAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

GROUPNAME パラメタは、次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は、GROUPNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 0 (印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積)、かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 2 (プリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け) のとき

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「[付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意](#)」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは、次に示すどれかの指定がある場合、有効になります。PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 1 (印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード) の場合は、REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 0 (印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード) のとき
- PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) のとき

置き換え表管理情報ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは、次に示すどれかの指定がある場合、有効になります。PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 1 (印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード) の場合は、REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3 (印刷方式がスプールサーバ印刷方式)、かつ PRINTKIND パラメタに 0 (印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード) のとき
- PRINTMODE パラメタに 1 (印刷方式がクライアント印刷方式) のとき
- PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) のとき

SPOOLFILENAME

スプールデータに格納するファイル名を指定します。格納ファイル名が 256 バイトに満たない場合は空白で埋めてください。そのほか、格納ファイルを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

「%N」を指定すると、00000001 から始まる 8 桁の通し番号を設定できます。

SPOOLFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SPOOLFILENAME パラメタを省略した場合は、自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」*です。

複数のスプールデータに同一ファイル名が指定されている場合、スプールデータ取得時に同一パスで取得されると、ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは、別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。

SPOOLFILENAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。

EUR + 処理実行日時 + 通番フォルダ番号 + 通し番号

処理実行日時 (17 桁) : YYYYMMDDhhmmssmmm

通番フォルダ番号 (7 桁) : 0000001 ~ 2000000

通し番号 (9 桁) : 000000001 ~ 999999999

通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は、エラー (KEEY430-S) になります。

通し番号が 999999999 を超えた場合は、000000003 に戻ります。

SPOOLLIMIT

スプールデータの蓄積期限日を指定します。

蓄積期限日は、日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は4桁、月と日は2桁で入力します。
- 月、または日が1~9の場合は、ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は、20380118（2038年1月18日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521, 20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には、蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は000~999です。0を指定した場合は、翌日にスプールデータが削除されます。
- 2038年1月18日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030, +999

SPOOLLIMIT パラメタを指定しない場合、蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Server - Adapter の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。蓄積期限日を過ぎたスプールデータは蓄積期限切れファイル削除機能によって削除されます。

SPOOLLIMIT パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

EXECUTABLEPRINTMODE

実行可能印刷方式を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：スプールサーバでの印刷
- 1：スプールサーバでの印刷、またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタの指定を省略した場合は、1 が仮定されます。

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

MAXPRINTCOUNT

スプールデータの印刷回数の上限を指定します。指定できる値は、-1～65,536 です。印刷回数の上限を無限にする場合は、-1 を指定します。印刷を禁止する場合は、0 を指定します。

MAXPRINTCOUNT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。MAXPRINTCOUNT パラメタの指定を省略した場合は、-1 が仮定されます。

MAXPRINTCOUNT パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

ENABLEGET

スプールデータを取得するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：スプールデータを取得できません。
- 1：スプールデータを取得できます。

ENABLEGET パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

ENABLEGET パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTHOLDMODE

スプールデータを印刷する場合に、蓄積後に続けて印刷するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません（印刷保留）。
- 1：蓄積後に続けてスプールサーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

PRINTHOLDMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。PRINTHOLDMODE パラメタの指定を省略した場合は、REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタおよび REPORTADDRKEYDATA パラメタの指定の有無によって次の値が仮定されます。

REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタおよび REPORTADDRKEYDATA パラメタの指定がある場合

0 が仮定されます。

REPORTADDRKEYCATEGORY パラメタおよび REPORTADDRKEYDATA パラメタの指定がない場合

1 が仮定されます。

PRINTHOLDMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYCATEGORY

スプールデータの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、検索キーの分類を 6 個以上指定する場合、6~10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYCATEGORY2 パラメタで指定してください。

JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの分類は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA

スプールデータの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、検索キーを 6 個以上指定する場合、6~10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYDATA2 パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの値は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYDATA パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PMSERVERADDR

帳票サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSEVERADDR パラメタを省略した場合はデフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

PMSEVERPORT

帳票サーバのポート番号を指定します。

PMSEVERPORT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

EPFFILENAME

入力 EPF 形式ファイル名を指定します。

EPFFILENAME パラメタを省略したい場合は、空白を指定します。

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

EPFFILEPATH パラメタを省略したい場合は、空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2

スプールデータの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、指定する検索キーの分類が 5 個以下の場合、1~5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYCATEGORY パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの分類は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA2

スプールデータの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは、10 個までです。ただし、指定する検索キーが 5 個以下の場合、1~5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYDATA パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指

定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき、要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合、JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは、どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は、対応する情報がないため、エラーになります。

検索キーの値は、任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA2 パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

JOBKEYDATA2 パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名は、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILENAME パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐づく帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合、PSENVFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでも指定できます。PSENVFILEPATH パラメタと REPORTID パラメタの両方で指定したときは、REPORTID パラメタの帳票 ID と紐付く帳票出力定義ファイルでの同じ設定項目の指定が無効になります。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、PRINTDATEFILENAME パラメタは、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは、PRINTDATEFILEPATH パラメタに指定することもできます。PRINTDATEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

PRINTDATEFILEPATH

PRINTDATEFILENAME パラメタで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

PRINTDATEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、PRINTDATEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PRINTDATEFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITMODE

蓄積時に、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

SPLITMODE パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

SPLITMODE パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ有効になります。

SPLITFILENAME

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

ファイル名を指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITFILENAME パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SPLITFILENAME パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、SPLITFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。

SPLITFILEPATH

SPLITFILENAME パラメタで指定した、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパスを指定します。

SPLITFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は、SPLITFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。SPLITFILEPATH パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

SPLITFILEPATH パラメタは、PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は、SPLITFILEPATH パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Server Service の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

パスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

JOBIDNUM

JOBIDS パラメタの繰り返し回数 n を指定します。 n には取得するスプールデータのジョブ ID の最大数を指定してください。

スプールデータの数が n を超える場合は、 n 個までのジョブ ID が取得されます。

JOBIDS

取得したジョブ ID の一覧が格納される領域を指定します。詳細は、戻り値 JOBIDS を参照してください。

n には取得するスプールデータのジョブ ID の最大数を指定してください。

SPOOLTITLE

次のことに注意して、スプールタイトルを指定してください。

- 指定するスプールタイトルが、256バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。

SPOOLTITLE パラメタを省略する場合は、空白を設定します。

SPOOLTITLE パラメタを省略したときは、印刷時のスプールタイトルには、文書情報設定ファイルの TITLE キーの指定値、または帳票ファイル名が出力されます。

OUTPUTPAGECOUNTOPT

帳票の印刷、または EPF 形式ファイルの蓄積を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 1：総ページ数を出力します。
- 0：総ページ数を出力しません。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタは、次の場合に指定が有効になります。

- PRINTMODE パラメタに 1（クライアント印刷方式）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 2（蓄積）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 3（スプールサーバ印刷方式）が指定されている、かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 4（帳票サーバ直接印刷方式）が指定されている

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略する場合は、-1 を指定します。

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタを省略したときは、総ページ数を出力しません。

REPORTID

帳票 ID を指定します。

帳票 ID には、印刷または EPF 形式ファイルの蓄積を実行するときに使用する帳票出力定義ファイル名を指定します。

REPORTID パラメタ、REPORTNAME パラメタ、または REPORTSETFILE パラメタのどれかは、必ず指定してください。

REPORTID パラメタを省略する場合は、空白を指定します。

帳票 ID には、帳票出力定義ファイルのファイル名だけ、または相対パスのどちらかを指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 文字列が 256 バイトに満たない場合は、空白で埋めてください。
- ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 相対パスを指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPORTID キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

フォルダおよびファイルの区切り文字に使用できる文字を次に示します。

Windows 環境：「¥」または「/」

UNIX/Linux 環境：「/」

帳票出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

❗ 重要

REPORTID パラメタで帳票 ID を指定した場合、REPORTSETFILE パラメタで帳票セット指定ファイル名を指定しても無効となるため、複数帳票の一括出力および複数様式の帳票の出力はできません。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては、「[10.4.1 エラー情報一覧](#)」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合、エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は、空白が設定されます。

JOBID

スプールデータのジョブ ID が設定されます。PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合だけ参照できます。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など、蓄積したスプールデータが複数あるときは、最初に蓄積したスプールデータのジョブ ID を参照できます。

JOBIDNUM

スプールデータのジョブ ID の数が設定されます。最大値は、JOBIDNUM パラメタの指定値です。PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合で、エラーが発生していないときだけ取得できます。PRINTMODE パラメタに 2 以外が指定されている場合やエラーが発生した場合は、JOBIDNUM パラメタに指定した値がそのまま設定されます。

蓄積処理中に警告 (KEEY387-W) が発生した場合、配列要素の末尾に設定される文字列「Error」も一つとしてカウントされます。

JOBIDS

スプールデータのジョブ ID が設定されます。PRINTMODE パラメタに 2 (印刷方式が蓄積) が指定されている場合で、エラーが発生していないときだけ取得できます。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など、蓄積したスプールデータが複数あるときは、一つのジョブ ID が一つの配列要素に設定されます。また、蓄積処理中に警告 (KEEY387-W) が発生した場合、配列要素の末尾に文字列「Error」が設定されます。

蓄積したスプールデータの数が JOBIDNUM パラメタで指定した数よりも少ない場合は、戻り値 JOBIDNUM の数だけジョブ ID の情報が返され、それ以外の領域は不定となります。

蓄積したスプールデータの数が JOBIDNUM パラメタで指定した数よりも多い場合は、ジョブ ID の情報がファイルの蓄積順に JOBIDNUM パラメタで指定した数だけ返されます。

OUTPUTPAGECOUNT

OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタに 1 を指定した場合、かつ PRINTMODE パラメタおよび PRINTKIND パラメタに OUTPUTPAGECOUNTOPT パラメタの指定が有効になる値を指定している場合は、PrintReport2 関数の実行後に帳票の総ページ数が設定されます。*

エラーが発生した場合は、0 が設定されます。

注※

EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。

ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。

- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、途中で蓄積に失敗したときでも、蓄積に成功したページ数ではなく、合計ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正常のときは、ページ数が設定されます。
- クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。
- 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。

❗ 重要

クライアント配布印刷の場合は、帳票の総ページ数が設定されません。クライアント配布印刷で出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、クライアント PC に配布する個々の印刷

データ（EPF 形式ファイル）の出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は、次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは、EUR Print Service のイベントログ、または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)

10.4 エラー情報

COBOL 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは、引数 RTNCODE に終了コード、引数 ERRORMESSAGE にメッセージが設定されます。

10.4.1 エラー情報一覧

COBOL 起動部品実行時のエラー情報の一覧を次に示します。

表 10-3 COBOL 起動部品実行時のエラー情報の一覧

終了コード	メッセージ文
201	プロパティ(プロパティ名)の指定値に誤りがあります。
202	プロパティ(プロパティ名)が指定されていません。
203	マッピングデータファイルの読み込みに失敗しました。
204	ユーザ定義データファイルの読み込みに失敗しました。
205	パラメタに誤りがあります。
206	必須パラメタの指定がありません。
207	サーバプリンタ名の指定がありません。
208	原因不明のエラーで処理が中断されました。EUR Server Service の状態を確認してください。
209	印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
210	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]*
211	ログファイルの書き込みに失敗しました。
212	EUR Server Service への接続に失敗しました。
215	メモリ不足が発生しました。
216	通信タイムアウトが発生しました。
217	システムエラーが発生しました。
218	出力先一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
219	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
221	印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)
222	クライアントプリンタ名の指定がありません。
223	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
224	PDF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
225	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
226	EPF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
227	PDF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
228	EPF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
229	PDF 形式ファイルの作成に失敗しました。
230	EPF 形式ファイルの作成に失敗しました。
231	指定された PDF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
232	指定された EPF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
233	帳票セット指定ファイルのフォーマットが不正です。
234	帳票セット指定ファイルの読み込みに失敗しました。
235	しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
236	文書しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
237	EUR Server Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
238	EUR Spool Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
239	EUR Client Service でコネクション数が限界値をオーバーしました。
241	指定された EUR 形式ファイルはほかの人が使用中です。
242	EUR 形式ファイルの初期化に失敗しました。
243	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
244	EUR 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
245	EUR 形式ファイルの作成に失敗しました。
246	EUR Server Service のバージョンが不正です。
247	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]※
248	暗号化設定ファイルの読み込みに失敗しました。
249	指定されたマッピングデータファイルが存在しません。
250	指定されたユーザ定義データファイルが存在しません。
251	指定されたしおり定義ファイルが存在しません。
252	指定された文書しおり定義ファイルが存在しません。
253	指定された暗号化設定ファイルが存在しません。
255	プリンター一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
256	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
257	蓄積処理でエラーが発生しました。(nnn)
258	蓄積処理で警告が発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
259	PDF 仕分け定義ファイルの読み込みに失敗しました。
260	指定された PDF 仕分け定義ファイルが存在しません。
261	EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
262	指定された EPF 形式ファイルが存在しません。
263	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
264	XLSX 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
265	指定された XLSX 形式ファイルはほかの人が使用中です。
266	XLSX 形式ファイルの初期化に失敗しました。
267	XLSX 形式ファイルの作成に失敗しました。
269	統合対象 EPF 形式ファイルの指定数が有効範囲外です。
270	複数 EPF 形式ファイルの統合処理でエラーが発生しました。(nnn)
271	統合対象 EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
272	指定された統合対象 EPF 形式ファイルが存在しません。
273	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]
274	仕分け/分割定義ファイルの読み込みに失敗しました。
275	出力すべき帳票セットがありません。(950)

注※

環境設定ファイル、およびレジストリに不正がある場合、エラーメッセージに詳細コードが出力されます。詳細コードについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

10.4.2 RTNCODE (終了コード)

引数 RTNCODE は、終了コードを返します。終了コードとメッセージの一覧については、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

10.4.3 ERRORMESSAGE (メッセージ)

引数 ERRORMESSAGE は、メッセージ文を返します。終了コードとメッセージの一覧については、「10.4.1 エラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

11

帳票サーバに準備するファイル

この章では、EUR サーバ帳票出力機能で扱えるファイルのうち、帳票サーバに準備するファイルの種類と形式について説明します。

11.1 帳票サーバに準備するファイルの一覧

帳票サーバに準備するファイルの概要を次の表に示します。

表 11-1 帳票サーバに準備するファイルの一覧

ファイル名	説明
帳票ファイル	EUR 帳票作成機能で作成した帳票ファイルです。
画像ファイル	帳票に表示する画像ファイルです。
文書情報設定ファイル	出力先に表示する帳票名や、PDF 文書情報を指定したファイルです。
プリンタ定義ファイル	印刷位置補正情報や、印刷で使用するプリンタの情報などを定義したファイルです。
複数様式情報定義ファイル	複数の帳票ファイルを組み合わせる一つの帳票のように入力するための情報を定義したファイルです。
接続情報ファイル	データベースと接続するために必要な情報を定義したファイルです。
置き換え表管理情報ファイル	帳票を設計した時に設定された置き換え表名と、置き換え表ファイルの対応を定義したファイルです。
置き換え表ファイル	アイテムのデータを置き換えて出力する場合に、1 フィールドごとの置き換え対象のデータと、置き換えて出力するデータを定義したファイルです。
Acrobat JavaScript 定義ファイル	PDF 形式ファイルに埋め込む Acrobat JavaScript ファイル名を指定したファイルです。
Acrobat JavaScript ファイル	PDF 形式ファイルに埋め込む JavaScript プログラムを指定したファイルです。
ビューアプレファレンス定義ファイル	出力した PDF 形式ファイルを開いたときに実行するビューアプレファレンスを指定するファイルです。
テスト印刷設定ファイル	テスト印刷用の文字列を重ねて出力するための情報を指定したファイルです。
印刷日時出力定義ファイル	プリンタでの印刷実行時の日時情報を帳票に出力するために必要な情報を定義するファイルです。
帳票出力定義ファイル	起動部品で帳票 ID を使用して帳票を出力する場合に、起動部品のプロパティ情報やメソッド

ファイル名	説明
帳票出力定義ファイル	の引数情報で指定する項目を定義するファイルです。
EUR フォントファイル	Windows 環境で作成した外字を UNIX/Linux 環境で出力できるように変換したファイルです。Windows 環境でも PDF 形式ファイル出力の場合だけ使用できます。

11.2 帳票ファイル

11.2.1 概要

帳票ファイルとは、EUR 帳票作成機能で作成したファイルです。

帳票ファイルの作成については、マニュアル「EUR 帳票作成 操作ガイド」を参照してください。

11.2.2 扱える帳票ファイルの形式

フォームシートファイル形式 (*.fms) だけ扱えます。

11.3 画像ファイル

11.3.1 概要

EUR サーバ帳票出力機能では、次の画像データを扱うことができます。

- Windows BITMAP
- JPEG
- GIF (GIF GIF87a, GIF GIF89a)
- TIFF (TIFF 6.0)
- PNG

11.3.2 扱える画像データの詳細形式

扱える画像データの詳細形式を、次に示します。

表 11-2 EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像データの形式

画像データの形式	詳細形式
Windows BITMAP (*.bmp)	2色モノクロ
	16色パレットカラー
	256色パレットカラー
	24ビットフルカラー
	16色RLE圧縮 Windows環境のプリンタ印刷では出力できますが、次に示す場合には出力できません。 <ul style="list-style-type: none">• Windows環境でのPDF形式ファイル出力• UNIX/Linux環境でのプリンタ印刷, PDLファイル出力, およびPDF形式ファイル出力
256色RLE圧縮 Windows環境のプリンタ印刷では出力できますが、次に示す場合には出力できません。 <ul style="list-style-type: none">• Windows環境でのPDF形式ファイル出力• UNIX/Linux環境でのプリンタ印刷, PDLファイル出力, およびPDF形式ファイル出力	
	Windows 3.0以前のビットマップ形式
JPEG (*.jpg / *.jpe / *.jpeg)	JFIFフォーマット基本DCT (ベースライン) フルカラー
	JFIFフォーマット基本DCT (ベースライン) 256色グレイスケール

画像データの形式	詳細形式
GIF GIF87a (*.gif)	2色モノクロ ノンインタレース
	2色モノクロ インタレース
	4色パレットカラー ノンインタレース
	4色パレットカラー インタレース
	16色パレットカラー ノンインタレース
	16色パレットカラー インタレース
	256色パレットカラー ノンインタレース
	256色パレットカラー インタレース
GIF GIF89a (*.gif)	2色モノクロ ノンインタレース
	2色モノクロ インタレース
	4色パレットカラー ノンインタレース
	4色パレットカラー インタレース
	16色パレットカラー ノンインタレース
	16色パレットカラー インタレース
	256色パレットカラー ノンインタレース
	256色パレットカラー インタレース
	透明色指定 上記の8フォーマット（色4種×インタレース2種）それぞれで透明色の有無の指定ができます。ただし、透明部分は、GIF画像中の背景色が使用されます。
	アニメーション 上記の8フォーマット（色4種×インタレース2種）それぞれでアニメーションの有無の指定ができます。ただし、先頭の1枚目だけが使用されます。
TIFF 6.0 (*.tif / *.tiff)	2色モノクロ 非圧縮
	2色モノクロ ハフマン圧縮
	2色モノクロ G3/G4 Fax 互換圧縮
	16色 非圧縮
	256色 非圧縮
	24ビット色 非圧縮
	グレイスケール 非圧縮
	カラー：RGB 指定
	カラー：YCbCr 指定

画像データの形式	詳細形式
TIFF 6.0 (*.tif / *.tiff)	複数画像 (ただし、先頭の 1 枚だけを対象とします)
	ストリップ形式 (カラー TIFF のストリップも使用できます)
PNG (*.png)	2 色パレットカラー ノンインタレース
	2 色パレットカラー インタレース
	4 色パレットカラー ノンインタレース
	4 色パレットカラー インタレース
	16 色パレットカラー ノンインタレース
	16 色パレットカラー インタレース
	256 色パレットカラー ノンインタレース
	256 色パレットカラー インタレース
	2 色グレイスケール ノンインタレース
	2 色グレイスケール インタレース
	4 色グレイスケール ノンインタレース
	4 色グレイスケール インタレース
	16 色グレイスケール ノンインタレース
	16 色グレイスケール インタレース
	256 色グレイスケール ノンインタレース
	256 色グレイスケール インタレース
	65536 色グレイスケール ノンインタレース (ただし、256 色グレイスケールに減色されます)
	65536 色グレイスケール インタレース (ただし、256 色グレイスケールに減色されます)
	24 ビットフルカラー ノンインタレース
	24 ビットフルカラー インタレース
	48 ビットフルカラー ノンインタレース (ただし、24 ビットフルカラーに減色されます)
	48 ビットフルカラー インタレース (ただし、24 ビットフルカラーに減色されます)
透明色指定 上記の 22 フォーマット (色 11 種×インタレース 2 種) それぞれで透明色の有無の指定ができます。ただし、透明部分は、PNG 画像中の背景色が使用されます。	
アニメーション	

画像データの形式	詳細形式
PNG (*.png)	上記の 22 フォーマット (色 11 種×インタレース 2 種) でアニメーション有の指定はできません。
	α チャンネル指定 α チャンネルは指定しても無効になります。

11.3.3 注意事項

■画像が正しく出力されない場合の注意

画像データの内容に問題があることがあります。このような場合は、画像を作成したソフトウェアとは別のソフトウェアで、画像を保存し直すことをお勧めします。

■画像のある帳票を出力するときの注意

- TIFF 形式のモノクロ画像, GIF 形式のモノクロ画像, および EUR 形式はカラープリンタがサポートしていない画像形式のため印刷できないことがあります (エラーにはなりません)。
- 256 色以上のカラー画像を帳票上に貼り付けた場合, 画像の色が実際の色と異なることがあります, プリンタ出力では画像データで設定されている色に従って印刷されます。

■固定画像のある帳票を出力するときの注意

固定画像が定義されている帳票を出力する場合は, 次に示す注意が必要です。

Windows 環境, UNIX/Linux 環境共通の注意

- バージョン 5 以降の EUR 帳票作成機能では, 「フォームシートファイル (*.fms)」の中に画像データを保存しますが, バージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能では, 画像ファイル名だけを保存します。そのため, バージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票を出力する場合は, 帳票サーバに「フォームシートファイル (*.fms)」と固定画像用の「画像ファイル」が必要です。

UNIX/Linux 環境の注意

ファイル名の大文字小文字を区別するため, 次に示す注意が必要です。

- バージョン 04-02 以降, かつバージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票を出力する場合
帳票に固定画像が貼り付けられている場合は, そのままの画像ファイル名で保存されます。
帳票を出力する場合は, 使用する画像ファイルをそのまま転送してください。
- バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票を出力する場合
帳票に固定画像が貼り付けられている場合, 画像ファイル名に半角英大文字が使用されているときは, すべて半角英小文字に変換した画像ファイル名が保存されます。
帳票を出力する場合は, 画像ファイル名をすべて半角英小文字に直してから画像ファイルを転送してください。
- バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能で帳票を設計する場合

帳票に固定画像を貼り付ける場合、画像ファイル名に半角英大文字が使用されているときは、すべて半角英小文字に直してから、帳票を設計してください。

11.4 文書情報設定ファイル

11.4.1 概要

帳票をプリンタ出力，PDF 形式ファイル出力，および EUR 形式ファイル出力する場合，出力先に表示する帳票名を指定したり，PDF 文書情報を指定したりできます。

帳票名や PDF 文書情報は，文書情報設定ファイルに設定します。

文書情報設定ファイルは，メモ帳など，テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

11.4.2 形式

キーワード=値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 11-3 文書情報設定ファイルのキーワードに指定できる値と対応するプリンタ

キーワード	値	プリンタ出力	PDF 形式ファイル出力	EUR 形式ファイル出力
TITLE	出力先に表示する帳票名，または PDF 文書情報に表示するタイトルの文字列を指定します。	○	○	○
SUBTITLE	サブタイトルの文字列を指定します。	×	○	×
AUTHOR	ファイルの作成者を指定します。	×	○	×
KEYWORD	キーワードを指定します。	×	○	×

(凡例)

○：指定は有効です。

×：指定は無視されます。

11.4.3 キーワード

文書情報設定ファイルに指定するキーワードは，大文字で指定します。大文字と小文字を混在させたり，小文字で指定したりした場合は，指定が無視されます。

また，キーワードを複数指定した場合は，最初に指定した情報が有効になります。

(1) TITLE

プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、出力先に表示する帳票名の文字列を指定します。

PDF 形式ファイル出力の場合は、PDF 文書情報に表示するタイトルの文字列を指定します。

■キーワード TITLE の形式

TITLE="文字列"

文字列

帳票名、または PDF 文書情報に表示するタイトルを「"」で囲んで指定します。「"」で囲まれていない場合、または「"」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E"UR"」と指定します。

ただし、EUR 形式ファイルでは文字列中に「"」を指定できません。

• 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

文字列は、任意の文字列で指定できますが、制御文字、ベンダ定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ベンダ定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740~0x87FC）を使用してください。

• 指定できる文字列の長さ

指定できる文字列の長さは、出力方法によって異なります。

プリンタ出力の場合

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はプリンタスプールのジョブ名になります。しかし、プリンタスプールのジョブ名に表示される文字列は、259 文字までです。ただし、プリンタドライバによっては、指定した文字列が 259 文字以下でも、正常に印刷できないことがあります。指定できる文字列長の最大値は、プリンタによって異なりますのでご注意ください。

PDF 形式ファイル出力の場合

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

EUR 形式ファイル出力の場合

指定できる文字列の長さに制限はありませんが、259 文字までの文字列しか保存したり、表示したりされません。

(2) SUBTITLE

PDF 形式ファイル出力の場合、PDF 文書情報に表示するサブタイトルの文字列を指定できます。プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、キーワード SUBTITLE を指定しても無視されます。

■キーワード SUBTITLE の形式

SUBTITLE="文字列"

文字列

PDF 文書情報に表示するサブタイトルを「」で囲んで指定します。「」で囲まれていない場合、または「"」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

文字列は、任意の文字列（日本語も含む）で指定できますが、制御文字、ベンダ定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ベンダ定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740～0x87FC）を使用してください。

- 指定できる文字列の長さ

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

(3) AUTHOR

PDF 形式ファイル出力の場合、PDF 文書情報に表示するファイルの作成者を指定できます。プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、キーワード AUTHOR を指定しても無視されます。

■キーワード AUTHOR の形式

AUTHOR="文字列"

文字列

PDF 文書情報に表示するファイルの作成者を「」で囲んで指定します。「」で囲まれていない場合、または「"」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

文字列は、任意の文字列（日本語も含む）で指定できますが、制御文字、ベンダ定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ベンダ定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740～0x87FC）を使用してください。

- **指定できる文字列の長さ**

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

(4) KEYWORD

PDF 形式ファイル出力の場合、PDF 文書情報に表示するキーワードを指定できます。プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、キーワード KEYWORD を指定しても無視されます。

■キーワード KEYWORD の形式

KEYWORD="文字列"

文字列

PDF 文書情報に表示するキーワードを「"」で囲んで指定します。「"」で囲まれていない場合、または「'''」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- **文字列に使用できる文字コード**

文字列に使用できる文字コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

文字列は、任意の文字列（日本語も含む）で指定できますが、制御文字、ベンダ定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ベンダ定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740～0x87FC）を使用してください。

- **指定できる文字列の長さ**

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

11.4.4 指定例

文書情報設定ファイルの指定例を次に示します。

- **プリンタ出力、および EUR 形式ファイル出力の場合**

```
TITLE="横浜支社の人事管理"
```

- PDF 形式ファイル出力の場合

```
TITLE="人事管理"  
SUBTITLE="TOKYO-Area"  
AUTHOR="Jinji1"  
KEYWORD="Jinji, TOKYO, YOKOHAMA, CHIBA"
```

11.5 プリンタ定義ファイル

11.5.1 概要

プリンタ定義ファイルのファイル名は「printerinf」固定です。格納先については「15.3.30 EURPS_PRINTERINFPATH」を参照してください。

プリンタ定義ファイルには、次に示す情報を定義します。

- 印刷位置補正情報
- 印刷で使用するプリンタの情報
- PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報
- CODE39/GS1-128 (UCC/EAN-128) /CODE128 バーコードのバーコード補正情報
- QR コードのセルサイズ
- バーコードの描画方法
- PDF 形式ファイルへのフォント埋め込み

印刷位置補正情報

帳票印刷時に印刷位置を補正するために、水平方向と垂直方向のシフト量をプリンタ定義ファイルに定義します。

例えば、プレプリント用紙を使用した場合、出力先プリンタのハードの給紙精度によって印刷位置がずれることがあります。プリンタごとの補正情報をプリンタ定義ファイルに定義しておくことで、印刷位置がずれることなく印刷できます。

印刷位置を補正できるのは、帳票サーバでの印刷、および PDF 形式ファイル出力の場合です。

印刷で使用するプリンタの情報

両面印刷の指定や、UNIX/Linux 環境での印刷で使用するプリンタ情報をプリンタ定義ファイルに定義します。

プリンタ定義ファイルは、Windows 環境でのプリンタアイコンの代わりになるものです。プリンタのハード情報 (PDL 言語、解像度、マージンなど) や、プリンタアイコンのプロパティで指定できる内容 (給紙トレイ、両面印刷など) を定義します。

一つのプリンタ定義ファイルに、複数のプリンタ情報を登録できます。

PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報

PDF 形式ファイルは、使用するプリンタの解像度に合わせて印刷されます。PDF 形式ファイルと解像度が異なるプリンタで印刷されたバーコードは、バーコードリーダで正しく読み取れないときがあります。

プリンタ定義ファイルに使用するプリンタの解像度を指定することで、プリンタの解像度に合わせた PDF 形式ファイルを出力できます。バーコードのある PDF 形式ファイルを印刷する場合は、必ず指定することをお勧めします。

CODE39/GS1-128 (UCC/EAN-128) /CODE128 バーコードのバーコード補正情報

CODE39 バーコード, CODE128 バーコードおよび GS1-128 (UCC/EAN-128) バーコードのエレメントやバーの幅を指定できます。これによって, バーコードの印字精度を使用するプリンタに合わせてカスタマイズできます。

QR コードのセルサイズ

QR コードのセルサイズを指定できます。QR コードのセルサイズを指定することによって, QR コードのサイズを自由に換えられるので, 作成した帳票に合わせた QR コードのカスタマイズができます。

バーコードの描画方法

バーコードの描画方法を変更できます。QR コードまたはカスタマバーコードがにじんだり周囲に線が表示されたりする場合に指定すると, 出力結果が改善することがあります。

PDF 形式ファイルへのフォント埋め込み

PDF 形式ファイルにフォントを埋め込んで出力できます。フォントを埋め込むと, 出力したマシンと同じフォントがインストールされていないマシンでも, PDF 形式ファイルをプレビューしたり印刷したりできるようになります。

11.5.2 形式

[エントリ名]
キーワード=値

プリンタ定義ファイルに記述する項目の内容を次に示します。

表 11-4 プリンタ定義ファイルに記述する項目

項目	説明
エントリ名	<ul style="list-style-type: none">「印刷位置補正情報」, または UNIX/Linux 環境での「印刷で使用するプリンタの情報」を設定する場合は, 次に示すプリンタ名を指定します。 Windows 環境の場合: Windows で登録されているプリンタ名 UNIX/Linux 環境の場合: 任意のプリンタ名 起動部品, コマンドまたは構成定義ファイルで定義したプリンタ名と同じです。 半角空白を含むプリンタ名を指定する場合は, プリンタ名を「"」で囲んで指定してください。半角空白を含むプリンタ名を「"」で囲まないで指定した場合は, エラー (KEEU103-E) になります。「PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報」を設定する場合は, 半角英字の大文字で「PDF」と指定します。
キーワード=値	プリンタ情報を「キーワード=値」の形式で記述します。

プリンタ定義ファイルの記述に空白を指定する場合の注意

空白 (△) を指定する場合は, 次のように指定してください。

△1[エントリ名]△2

△1 キーワード△1=△1 値△1

空白 (△) の説明

△1：0 個以上のタブ，半角空白，または全角空白を示します。

△2：これ以降，改行コード (¥r¥n，または¥n) までを無視します。

11.5.3 キーワード

プリンタ定義ファイルに記述するキーワード一覧を次に示します。プリンタ定義ファイルのキーワードは，大文字，小文字の区別をしません。

表 11-5 プリンタ定義ファイルのキーワード一覧

エントリ名	キーワード	説明	指定の有効／無効	
			Windows	UNIX/ Linux
プリンタ名	PDLType	プリンタがサポートしている PDL の種類を指定します。	×	◎
	XDPI	プリンタの横解像度を指定します。	×	◎
	YDPI	プリンタの縦解像度を指定します。	×	◎
	Margin	プリンタのハードマージンを指定します。	×	○
	Duplex	両面印刷するかどうかを指定します。	○	○
	DuplexBinding	両面印刷する場合に，用紙のとじ代の方向を指定します。	○	○
	BindingAdjust	両面印刷する場合，偶数ページを印刷するときに用紙の余白の位置を入れ替えるかどうかを指定します。	○	○
	Cassettes	プリンタにセットされている給紙トレイの数を指定します。	×	○
	DefaultCassette	使用する給紙トレイを指定します。	×	○
	Color	カラー印刷するかどうかを指定します。	×	○
	Command	生成した PDL ファイルを出力するコマンドを指定します。	×	○
	PaperShiftX	横方向の印刷位置補正値を指定します。	○	○
	PaperShiftY	縦方向の印刷位置補正値を指定します。	○	○
	Font	フォントの置き換え情報を指定します (PostScript 対応プリンタに出力する場合)。	×	○
	CODE39PARAM	CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。	○	○
CODE128PARAM	CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。	○	○	

エントリ名	キーワード	説明	指定の有効／無効	
			Windows	UNIX/ Linux
プリンタ名	CODE128PATTE RN	GS1-128 (UCC/EAN-128) バーコードチューニングのパターンファイル名を指定します。	○	○
	QRCellSizeD	生成される QR コードのセルサイズをドット単位で指定します。	○	○
	QRCellSizeM	生成される QR コードのセルサイズを 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。	○	○
	GenTextMode	PostScript 対応プリンタで Unicode を出力するために、PostScript 対応プリンタとデバイスフォントに対応した PS2 形式ファイルを作成します。	×	○
	BarcodeImageSize	QR コードまたはカスタムバーコードの出力データのサイズを小さくする場合に指定します。	○	○
	DrawBarStyle	バーコードの描画方法を変更します。	○	×
PDF	YDPI	PDF 形式ファイルを印刷するプリンタの解像度を指定します。	○	○
	PaperShiftX	PDF 出力時の横方向の位置補正値を指定します。	○	○
	PaperShiftY	PDF 出力時の縦方向の位置補正値を指定します。	○	○
	CODE39PARAM	CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。	○	○
	CODE128PATTE RN	GS1-128 (UCC/EAN-128) バーコードチューニングのパターンファイル名を指定します。	○	○
	EmbedCount	埋め込むフォントの数を指定します。	○	○
	Embed1, Embed2, … EmbedN	書体名と、それに対応するフォントファイル名を指定します。	○	○
	QRCellSizeD	生成される QR コードのセルサイズをドット単位で指定します。	○	○
	QRCellSizeM	生成される QR コードのセルサイズを 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。	○	○
	BarcodeImageSize	QR コードまたはカスタムバーコードの出力データのサイズを小さくする場合に指定します。	○	○
	DrawBarStyle	バーコードの描画方法を変更します。	×	×

(凡例)

- ◎：有効（省略できません）
- ：有効（省略できます）
- ×：無効

(1) PDLType

プリンタがサポートしている PDL の種類を指定します。

表 11-6 PDLType の指定値

指定値	説 明
LIPS3	LIPSIII 対応プリンタを使用します。
PS2	PostScript 対応プリンタを使用します。
ESCP	ESC/P プリンタを使用します。

「LIPS3」、「PS2」と「ESCP」は、大文字、小文字を区別しません

LIPSIII 対応プリンタに、PostScript 対応プリンタを示す「PS2」を指定した場合など、プリンタがサポートしている PDL と異なる PDL を指定した場合は、印刷結果を保証しません。

(2) XDPI

プリンタの横解像度を指定します。単位は、dpi です。

(3) YDPI

- エントリ名がプリンタ名の場合

プリンタの縦解像度を指定します。単位は、dpi です。

- エントリ名が PDF の場合

PDF 形式ファイル出力の縦解像度を指定します。単位は、dpi です。指定できる値は「300」、「600」、および「720」です。省略した場合は、「720」が仮定されます。

(4) Margin

プリンタのハードマージンを指定します。単位は、mm（ミリメートル）です。ハードマージンは、上下左右の順に「:」で区切って指定します。省略した場合は、「0:0:0:0」が仮定されます。

指定値は、LIPSIII 対応プリンタの場合に有効となります。ESC/P プリンタの場合は、印刷ライブラリでハードマージンを「0:0:0:0」で固定しているため、指定しても無視されます。

(例) 上下左右のハードマージンを 5mm とする場合

Margin=5:5:5:5

(5) Duplex

両面印刷するかどうかを指定します。

表 11-7 Duplex の指定値

指定値	説 明
true	両面印刷します。
false	両面印刷しません。

「true」と「false」は、大文字、小文字を区別しません。

Windows 環境で「true」、「false」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、プリンタの印刷設定に従います。

UNIX/Linux 環境で「true」、「false」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、「false（両面印刷しません）」が仮定されます。

注意

- Windows 環境の場合、両面印刷ができないプリンタに対してもキーワード Duplex を設定できますが、出力結果は保証しません。
- UNIX/Linux 環境で PDL ファイルに出力する場合、ESC/P 対応プリンタ、または LIPS 対応プリンタでもキーワード Duplex を設定できますが、両面印刷はできません。
両面印刷ができないプリンタに「true」を指定した場合、出力結果は保証しません。

(6) DuplexBinding

両面印刷する場合の、用紙のとじ代の方向を指定します。キーワード Duplex で「true」を指定した場合、またはプリンタの印刷設定が両面印刷になっている場合に有効です。

表 11-8 DuplexBinding の指定値

指定値	説 明
Short	用紙の短辺にとじ代を設定します。
Long	用紙の長辺にとじ代を設定します。

「Short」と「Long」は、大文字、小文字を区別しません。

Windows 環境で「Short」、「Long」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、キーワード Duplex の設定、およびプリンタの印刷設定によって次のように仮定されます。

Duplex が「true」かつ、プリンタ設定が両面印刷の場合

プリンタで指定されたとじ代の方向が仮定されます。

Duplex が「true」かつ、プリンタ設定が片面印刷の場合

「Long（用紙の長辺にとじ代を設定します）」が仮定されます。

Duplex の値が省略されている場合

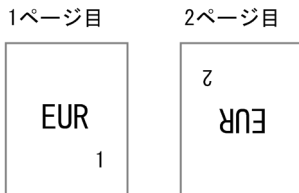
プリンタで指定されたとじ代の方向が仮定されます。

UNIX/Linux 環境で「Short」, 「Long」以外の値を指定したり, 指定を省略したりした場合は, 「Long (用紙の長辺にとじ代を設定します)」が仮定されます。

印刷結果は, DuplexBinding の指定値と, 用紙の印刷の向きとの組み合わせによって次のように異なります。

図 11-1 DuplexBinding の指定値と用紙の印刷の向きとの組み合わせでの印刷結果の違い

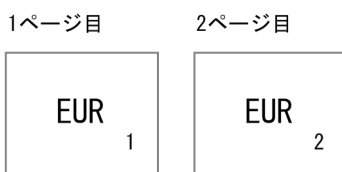
■印刷の向きが縦で, DuplexBindingが「Short」の場合



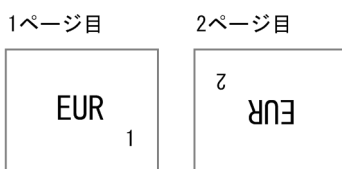
■印刷の向きが縦で, DuplexBindingが「Long」の場合



■印刷の向きが横で, DuplexBindingが「Short」の場合



■印刷の向きが横で, DuplexBindingが「Long」の場合



注意

PostScript 対応プリンタで出力する場合, バージョン 08-30 以前では用紙の短辺にとじ代を設定していた帳票が, バージョン 08-50 以降では用紙の長辺にとじ代を設定されることがあります。このとき, キーワード DuplexBinding に「Short (用紙の短辺にとじ代を設定します)」を指定してください。

(7) BindingAdjust

両面印刷を行う場合, 偶数ページを印刷するときに用紙の余白の位置を入れ替えるかどうかを指定します。

表 11-9 BindingAdjust の指定値

指定値	説 明
true	余白を入れ替えます。
false	余白を入れ替えません。









「true」と「false」は、大文字、小文字を区別しません。

指定を省略した場合は「false」が仮定されます。









余白の位置を入れ替えると、とじ代が必要な帳票を両面印刷する場合に、とじ代を含んだ余白を帳票の左右または上下のどちらかだけに設定して印刷できます。左右または上下のどちらの余白を入れ替えるかは、BindingAdjust の指定値と、とじ代の方向（キーワード DuplexBinding またはプリンタで設定）との組み合わせで次のように異なります。


図 11-2 とじ代を含む余白の設定例

■縦長の帳票の場合

BindingAdjust の設定	とじ代の設定			
	用紙の長辺		用紙の短辺	
TRUE	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 
FALSE	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 

■横長の帳票の場合

BindingAdjust の設定	とじ代の設定			
	用紙の長辺		用紙の短辺	
TRUE	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 
FALSE	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 

(凡例)  : とじ代を含む余白

注意

キーワード BindingAdjust を指定すると、最初に印刷されるページを奇数ページ、次に印刷されるページを偶数ページとして扱います。

例えば、起動部品やコマンドの指定によって帳票の 2 ページ目から印刷を開始しても、最初に印刷されるページ (2 ページ目) は奇数ページ、次に印刷されるページ (3 ページ目) は偶数ページとして扱います。

(8) Cassettes

プリンタにセットされている給紙トレイの数を指定します。省略した場合は、「1」が仮定されます。

(例) 2段給紙トレイのプリンタの場合

Cassettes=2

(9) DefaultCassette

印刷時に使用する給紙トレイを指定します。省略した場合は、「Auto (自動給紙をします)」が仮定されます。

表 11-10 DefaultCassette の指定値

指定値	説 明
Auto	自動給紙します。 自動給紙を設定した場合は、次のように動作します。ただし、プリンタハードごとに動作が異なるため、試し印刷で動作確認されることをお勧めします。 <ul style="list-style-type: none">プリンタのプロパティで給紙方法に自動給紙を設定されている場合は、出力する帳票の用紙サイズと同じ用紙サイズの給紙トレイを自動選択します。プリンタのプロパティで給紙方法に給紙トレイを設定されている場合は、その給紙トレイから給紙します。
Manual	手差しトレイから給紙します。
1~n	トレイ番号の給紙トレイから給紙します。トレイ番号は、1~n (nは、キーワード Cassettes で指定した値) で指定します。6以上の値を指定した場合は、自動給紙となります。

「Auto」と「Manual」は、大文字、小文字を区別しません。

起動部品やコマンドで給紙トレイが指定されている場合は、起動部品やコマンドの指定が優先されます。

注意

帳票の用紙サイズと給紙される用紙サイズが異なる場合、プリンタによって動作が異なります。使用するプリンタのマニュアルで確認してください。

(10) Color

カラー印刷するか、またはモノクロ印刷するかのどちらかを指定します。省略した場合は、「false (モノクロ印刷をします)」が仮定されます。

表 11-11 Color の指定値

指定値	説 明
true	カラー印刷をします。
false	モノクロ印刷をします。

「true」と「false」は、大文字、小文字を区別しません。

PostScript 対応カラープリンタに「true」を指定した場合は、カラー印刷されます。

PostScript 対応カラープリンタに「false」を指定した場合は、モノクロ印刷されます。

PostScript 対応モノクロプリンタ、LIPSIII 対応プリンタ、および ESC/P 対応プリンタに「true」を指定した場合は、モノクロ印刷されます。

モノクロ印刷をする場合、帳票の色指定されたアイテムは、モノクロ 2 値に変換して出力されます。

(11) Command

キーワード PDLType で指定した PDL 種別で作成されたファイルを、実際にプリンタへ出力して印刷を実行する場合に、その出力コマンドを指定します。

- プリンタへ印刷する場合

lp 出力コマンドで、次に示す形式で指定します。

/usr/bin/lp -d 出力先プリンタ名

出力先プリンタ名には、動作する OS 上で定義したプリンタ名を指定します。

(例)

```
Command=/usr/bin/lp -dPR1
```

(12) PaperShiftX

横方向の出力位置補正値を、小数点以下 1 桁 (nn.n 形式) で指定します。出力位置の補正値は、0.1mm 単位で-10.0~10.0 で指定します。省略した場合は、「0.0」が仮定されます。

出力位置を左方向にシフトする場合は負数、右方向にシフトする場合は正数を指定します。

- エントリ名がプリンタ名の場合

出力位置を補正しても、ハードマージンには印刷できません。

また、プリンタハードによっては、出力位置を補正することで、一部のオブジェクトがハードマージンに掛かってしまった場合、印刷が欠けることがあります。試し印刷で動作確認することをお勧めします。

- エントリ名が PDF の場合

出力印刷位置を補正することで、一部のオブジェクトが用紙の外にはみ出した場合、出力結果が欠けることがあります。事前に出力内容を確認することをお勧めします。

(13) PaperShiftY

縦方向の出力位置補正値を、小数点以下 1 桁 (nn.n 形式) で指定します。出力位置の補正値は、0.1mm 単位で-10.0~10.0 で指定します。省略した場合は、「0.0」が仮定されます。

出力位置を上方向にシフトする場合は負数、下方向にシフトする場合は正数を指定します。

- エントリ名がプリンタ名の場合

出力位置を補正しても、ハードマージンには印刷できません。

また、プリンタハードによっては、出力位置を補正することで、一部のオブジェクトがハードマージンに掛かってしまった場合、印刷が欠けることがあります。試し印刷で動作確認することをお勧めします。

• エントリ名が PDF の場合

出力印刷位置を補正することで、一部のオブジェクトが用紙の外にはみ出した場合、出力結果が欠けることがあります。事前に出力内容を確認することをお勧めします。

(14) Font

PostScript 対応プリンタは、リュウミン L-KL、または中ゴシック BBB でしか印刷できません。設計した帳票に使用されているフォントのまま、PostScript 対応プリンタで帳票を印刷する場合は、置き換えるフォント情報を、次に示す形式で指定します。複数指定する場合は、コンマ「,」で区切ります。なお、置き換えができるフォントは、EUR が日本語フォントとして認識しているフォントだけです。

```
Font=置き換え前フォント名:置き換え後フォント名  
[ [,置き換え前フォント名:置き換え後フォント名] …]
```

置き換え前フォント名

EUR 帳票作成機能で帳票を設計した時に、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [フォント] ページに設定したフォント名を指定します。

置き換え後フォント名

プリンタに搭載されている PostScript フォント名をそのまま指定します。

日本語のフォントを指定する場合は、「Ryumin-Light-90ms-RKSJ-H」のように、文字セット、エンコード、および縦横指定を含んだ PostScript フォント名にしてください。

置き換え前フォントが、縦横指定のあるフォント（末尾が-H、または-V）の場合は、置き換え後フォントも合わせて、縦横指定のあるフォントで指定してください。

置き換え後フォントに欧文フォントを指定する場合は、次に示すように、EUR 帳票作成機能で帳票を設計してください。

- 欧文フォントなど、縦横比が 2:1 ではないフォントを指定すると、文字がアイテム枠からはみ出して印刷されます。帳票を正しく印刷するには、あらかじめアイテム枠を大きめに定義してください。
- [アイテムのプロパティ] ダイアログの [文字配置] タブで設定する [文字の方向] は、「上向きで、左から右へ」、「左向きで、下から上へ」、または「右向きで、上から下へ」のどれかで指定してください。「上向きで、上から下へ」と「左向きで、左から右へ」を指定すると、正しく印刷されません。

キーワード Font の指定を省略した場合、帳票に使用されているフォントは、次のように置き換えて印刷されます。

表 11-12 帳票フォントの置き換え

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
MS 明朝	リュウミン L-KL
MS Mincho	

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
HG 行書体	リュウミン L-KL
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
MS ゴシック	中ゴシック BBB
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「リュウミン L-KL」に置き換えて出力します。

指定できるフォント名の長さは 128 文字までです。128 文字よりも長い名称を指定すると、エラー (KEEU102-E) になります。

(15) CODE39PARAM

CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。次に示す形式で指定します。

```
type [, [エレメント幅比] , [Param] ]
```

type

エレメント幅の求め方を指定します。

表 11-13 CODE39PARAM の指定値

指定値	説明
0	細エレメントのサイズから計算された 1 文字の幅から、細エレメント、太エレメントを計算します。計算の結果、発生したずれはすべてキャラクタ間ギャップに追加されるため、サイズは自由に調整できます。
1	細エレメントのサイズをドット単位に変換した値と、細エレメント、太エレメント、キャラクタ間ギャップの比から、各バーの太さを計算します。各バーの太さはドットで計算されるため、サイズの調整は段階的になります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、バーコードの線の太さを補正します。

省略した場合、または 0~2 以外の値を指定した場合は、「0」が仮定されます。

エレメント幅比

細エレメント、太エレメント、およびキャラクタ間ギャップの比率を指定します。次に示す形式で指定します。

細エレメント：太エレメント：キャラクタ間ギャップ

細エレメントには、1以上の値を指定してください。

太エレメントには、細エレメントの2.0~3.0倍の値を指定してください。

キャラクタ間ギャップには、細エレメントの値以上の値を指定してください。

エレメント幅比を正しく指定していない場合、エレメント幅はtypeに0が指定されたときの方法で計算されます。

Param

typeに2を指定した場合、バーコードの線の太さを細く補正する幅をミリメートル単位で指定します。指定した値をドット単位に変換した計算値の小数第一位を四捨五入した値が補正されます。計算されたドット数の分だけ黒バーが細く、白バーが大きくなります。

バーコードの線の太さは、補正するドット数の計算結果が1以上の場合に補正されます。

Paramに指定した値をドット単位に変換する計算式を次に示します。

計算値（ドット） = Paramに指定する値 ÷ 25.4 × 解像度（dpi）

解像度300dpiの場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 11-14 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Paramに指定する値（ミリメートル）	補正するドット数（ドット）	計算値（ドット）
0.04	0	0.472441
0.041	0	0.484252
0.042	0	0.496063
0.043	1	0.507874
0.044	1	0.519685
0.045	1	0.531496
0.046	1	0.543307

解像度600dpiの場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 11-15 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Paramに指定する値（ミリメートル）	補正するドット数（ドット）	計算値（ドット）
0.02	0	0.472441
0.021	0	0.496063
0.022	1	0.519685
0.023	1	0.543307

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.024	1	0.566929
0.025	1	0.590551
0.026	1	0.614173

Param には 1 モジュール以上のドット数の幅は指定できません。Param に指定した値が 1 モジュール以上のドット数になる場合は、1 ドットが指定されます。

type に 2 を指定しても、Param を指定していない場合、エレメント幅は type に 1 が指定されたときの方法で計算されます。エレメント幅比を正しく指定していない場合、エレメント幅は type に 0 が指定されたときの方法で計算されます。

CODE39PARAM は、バージョン 05-06 以降で指定できます。05-05 以前のバージョンでは、自動的に type に 0 が指定された場合と同じ計算方法でエレメント幅が決定します。CODE39 バーコードのバーコード補正情報の指定例を次に示します。

(例) CODE39 バーコードの細エレメント、太エレメント、キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 2.5 対 1 に変更し、黒バーの太さを 0.04mm 細く補正する場合

CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04

❗ 重要

CODE39 バーコードのバーコード補正情報は、プリンタ定義ファイルのほかに、環境変数でも指定できます。プリンタ定義ファイルと環境変数のどちらも指定された場合は、プリンタ定義ファイルの内容が優先されます。

(16) CODE128PARAM

CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。次に示す形式で指定します。

```
type [, [Param1] , [Param2] ]
```

環境変数 EURPS_CODE128_PARAM とプリンタ定義ファイルのキーワード CODE128PARAM が同時に指定された場合は、プリンタ定義ファイルの指定が有効になります。

type

バーコードの描画方式を指定します。

表 11-16 CODE128PARAM の指定値

指定値	説明
0	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズからバーキャラクタサイズを計算します。モジュールサイズ×11 (mm) を超えないドット数でバーキャラクタを描画します。ストップキャラクタは、モジュールサイズ×13 (mm) を超えないドット数で描画します。1 を指定した場合と比べて、サイズを細かく指定できますが、バーコードの質は落ちます。

指定値	説明
1	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズを超えないドット数を求め、その 11 倍をバーキャラクターのサイズにします。1 ドットの大きさを超えるまではバーコードの大きさは変わりません。プリンタ解像度によって補正するドット数が変わります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、Param1 で指定した幅に相当するドット数分だけ黒バーを細く、白バーを太くします。 Param2 を指定した場合は、Param1 で指定した値で補正した状態のスタートキャラクターとストップキャラクターに Param2 で指定した値でさらに補正します。

省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。指定値が 0 の場合、Param1, および Param2 に指定した値は無視されます。

Param1

type に 2 を指定した場合、バーを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換した計算値の小数第一位を四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。

Param1 に指定した値をドット単位に変換する計算式を次に示します。

計算値 (ドット) = Param1 に指定する値 ÷ 25.4 × 解像度 (dpi)

解像度 300dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 11-17 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.04	0	0.472441
0.041	0	0.484252
0.042	0	0.496063
0.043	1	0.507874
0.044	1	0.519685
0.045	1	0.531496
0.046	1	0.543307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 11-18 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.02	0	0.472441
0.021	0	0.496063
0.022	1	0.519685
0.023	1	0.543307

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.024	1	0.566929
0.025	1	0.590551
0.026	1	0.614173

Param2

type に 2 を指定した場合、Param1 で指定した値で補正したスタートキャラクタとストップキャラクタを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換した計算値の小数第一位を四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。Param2 に指定した値をドット単位に変換する計算式は Param1 の場合と同じです。解像度別の補正するドット数については、表 11-17、表 11-18 を参照してください。

❗ 重要

- バーの幅を超える値を指定した場合は、バーの幅を 1 ドットに設定します。
- type に 1 を指定した場合でも、Param1 に数値を指定して、Param2 を省略したときは 0 が仮定されます。
- type に 2 を指定した場合でも、次のときは 0 が仮定されます。
 - ・ Param1 を指定しなかったとき
 - ・ Param1 が数値以外、または 0 以下だったとき
- type に 2 を指定した場合でも、Param1 に 0 より大きい値、Param2 に 0 以下の値を指定したときは Param2 は無視されます。

(17) CODE128PATTERN

バーコードパターンファイル名をフルパスで指定します。CODE128PARAM または環境変数 EURPS_CODE128_PARAM と同時に指定した場合は、CODE128PATTERN キーワードで指定されたパターンファイルを使用してチューニングされます。

```
CODE128PATTERN=バーコードパターンファイル名
```

(18) EmbedCount

PDF 形式ファイルに埋め込むフォントの数を指定します。1 以上の数値を指定します。1 以上の数値以外が指定された場合、フォントを埋め込みません。

(例) 埋め込むフォントが三つの場合

```
EmbedCount=3
```

(19) Embed1, Embed2, … EmbedN

PDF 形式ファイルに埋め込むフォントの書体名と、書体名に対応するフォントファイル名を指定します。EmbedN の「N」には、1 から EmbedCount で指定した数値までを指定します。書体名とフォントファイル名はコロン (:) で区切ります。

```
Embed1=書体名1:フォントファイル名1  
Embed2=書体名2:フォントファイル名2  
:  
EmbedN=書体名N:フォントファイル名N
```

書体名

帳票定義に指定している書体名です。EUR 帳票作成機能の [アイテムのプロパティ] ダイアログに表示される名称を指定します。

フォントファイル名

TrueType フォントファイル, TrueType コレクションフォントファイル, または TrueType の OpenType フォントファイルをフルパスで指定します。

1 から EmbedCount で指定した数値の間の定義だけが有効となり, それ以外が指定された場合, 指定は無視されます。

(例) EmbedCount=3 の場合 (Embed2 が指定されていないとき)

次の指定は有効です。

```
Embed1=書体名1:フォントファイル名1  
Embed3=書体名3:フォントファイル名3
```

この場合, 指定した二つのフォントを埋め込みます。

(例) EmbedCount=3 の場合 (Embed4 が指定されいるとき)

次の指定は Embed4 が無効です。

```
Embed1=書体名1:フォントファイル名1  
Embed3=書体名3:フォントファイル名3  
Embed4=書体名4:フォントファイル名4
```

注意事項

使用するフォントや文字によって, 埋め込みができない場合があります。埋め込みに使用するフォントは, 次の点を確認してから使用してください。

- フォントファイルの属性に埋め込みが許可されているか
- フォントの埋め込みについてライセンス許諾があるか
- フォントを埋め込んだ PDF 形式ファイルを配布する場合, フォントの再配布についてライセンス許諾があるか

(20) QRCellSizeD

生成される QR コードのセルサイズ (1 セル当たりの大きさ) をドット単位で指定します。

表 11-19 QRCellSizeD の指定値

指定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
5~10	指定した値がセルサイズになります。

0 または 5~10 以外の値を指定した場合、または QRCellSizeD に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

QRCellSizeD と QRCellSizeM を同時に指定した場合は、QRCellSizeM の指定値が有効となります。

プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD と環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD の指定値が有効となります。

(21) QRCellSizeM

生成される QR コードのセルサイズ (1 セル当たりの大きさ) を 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。

表 11-20 QRCellSizeM の指定値

指定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
21~126	指定した値がセルサイズになります。

0 または 21~126 以外の値を指定した場合、または QRCellSizeM に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

QRCellSizeM と QRCellSizeD を同時に指定した場合は、QRCellSizeM の指定値が有効となります。

プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM と環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM の指定値が有効となります。

(22) GenTextMode

日立の JISX0213:2004 フォントを搭載した PostScript 対応プリンタで、JISX0213:2004 の文字集合の文字を出力するために、PostScript 対応プリンタとデバイスフォントに対応した PS2 形式ファイルを作成します。

GenTextMode の指定は、PDLType に「PS2」を指定した時だけ有効です。

表 11-21 GenTextMode の指定値

指定値	文字コード
RPS2004M-UTF16	UTF-16 エンコーディングの文字を出力します。 PostScript 対応プリンタで出力する JIS2004 字形は、MS 明朝・MS ゴシック Ver.5.0 の字形に準拠しています。

(23) BarcodeImageSize

QR コードまたはカスタマバーコードの出力データのサイズを指定します。

表 11-22 BarcodeImageSize の指定値

指定値	説明
normal	通常の方法で出力します。
minimize	QR コード、またはカスタマバーコードの描画データを最小化します。

印刷時のスプールサイズや帳票ファイルのサイズを小さくしたい場合、または実行時間を短縮したい場合には minimize を指定します。

minimize を指定すると、プリンタによっては、QR コードまたはカスタマバーコードがにじんだり周囲に線が表示されたりする場合があります。PDF 形式ファイルに出力して印刷したときにも発生します。

このような場合は、DrawBarStyle を使用すると正しく表示できることがあります。

(24) DrawBarStyle

バーコードの描画方法を変更します。

表 11-23 DrawBarStyle の指定値

指定値	説明
SRCCOPY	通常の方法で描画します。
NOTSRCCOPY	バーコードがにじんだり周囲に線が表示されたりする場合に、描画方法を変更します。

バーコードがにじんだり周囲に線が表示されたりする場合に、NOTSRCCOPY を指定すると改善されることがあります。

なお、プリンタによっては、NOTSRCCOPY を指定するとバーコードが白黒反転して描画されることがあります。

11.5.4 指定例

(1) 印刷位置補正情報を設定する場合

- Windows 環境, UNIX/Linux 環境共通

印刷位置を, 右方向に 5.0 (mm) シフトするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[Printer1]
PaperShiftX=5.0
PaperShiftY=0.0
```

(2) PDF 形式ファイルにフォントを埋め込む場合

PDF 形式ファイルに, 二つのフォントを埋め込み, MS 明朝およびMS ゴシックを指定する場合の, プリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

- Windows 環境の場合

```
[PDF]
EmbedCount=2
Embed1=MS 明朝:c:¥windows¥fonts¥msmincho.ttc
Embed2=MS ゴシック:c:¥windows¥fonts¥msgothic.ttc
```

(3) PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報を設定する場合

- UNIX/Linux 環境の場合

PDF 形式ファイルを印刷するプリンタの解像度が 600 (dpi) の場合の, プリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[PDF]
YDPI=600
```

(4) CODE39 バーコードのバーコード補正情報を設定する場合

CODE39 バーコードの細エレメント, 太エレメント, キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 2.5 対 1 に変更し, 黒バーの太さを 0.04mm 補正するプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

- Windows 環境の場合

```
[Printer1]
CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04
```

- UNIX/Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04
```

(5) QRコードのセルサイズをドット単位で設定する場合

QRコードのセルサイズを7ドットにするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

- Windows 環境の場合

```
[Printer1]
QRCellSizeD=7
```

- UNIX/Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
QRCellSizeD=7
```

(6) QRコードのセルサイズを100分の1ミリメートル単位で設定する場合

QRコードのセルサイズを0.7ミリメートルにするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

- Windows 環境の場合

```
[Printer1]
QRCellSizeM=70
```

- UNIX/Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
QRCellSizeM=70
```

(7) PostScript 対応プリンタで JISX0213:2004 の文字集合の文字を出力する場合

日立の JISX0213:2004 フォントを搭載した PostScript 対応プリンタで、JISX0213:2004 の文字集合の文字を出力するプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

- UNIX/Linux 環境の場合

```
[PSPR2]
PDLType=PS2
XDPI=720
YDPI=720
GenTextMode=RPS2004M-UTF16
```

11.6 複数様式情報定義ファイル

11.6.1 概要

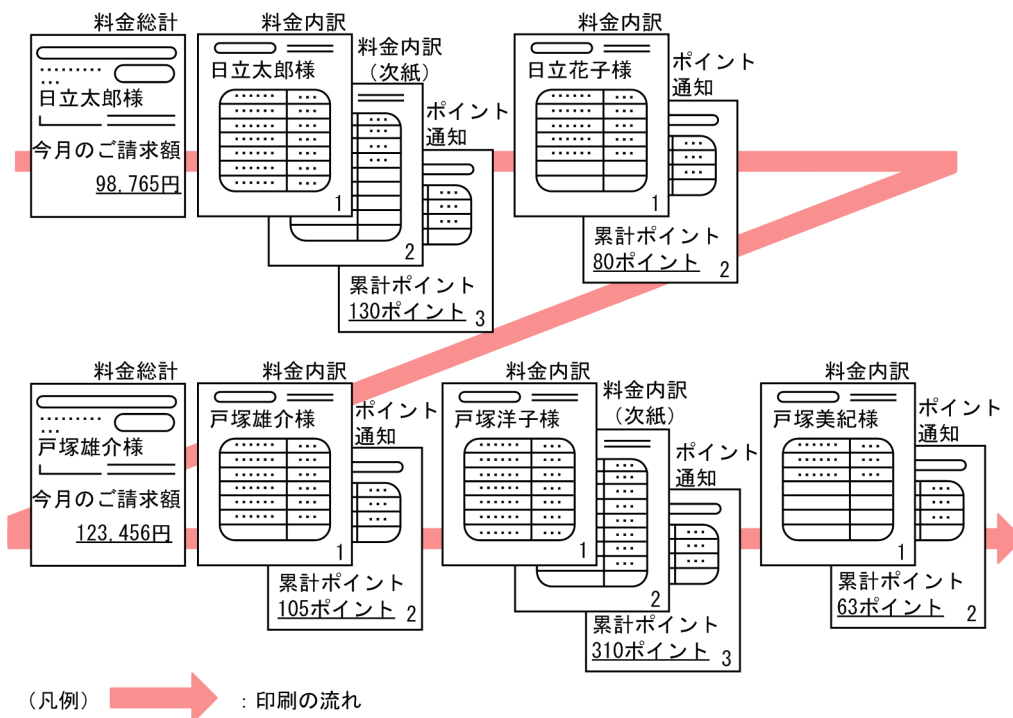
帳票セット，または帳票セット指定ファイルを指定した帳票出力は，指定されている帳票ファイルが順に出力されますが，複数様式情報定義ファイルを指定することで，複数の帳票ファイルを組み合わせると一つの帳票のように入力できます。例えば，データ中のキーごとに複数の異なる様式をセットで出力したり，表紙のページと次のページの様式を変えたりして出力できます。これを「複数様式で帳票を出力する」といいます。

複数様式情報定義ファイルは，様式（帳票フォーマット）や読み込むデータを切り替える条件と，切り替え時の動作を定義しておくファイルです。

同じデータファイルから出力する様式のまとまりを様式グループといいます。様式グループの中にも様式グループを定義することができます。これをサブ様式グループといいます。サブ様式グループを定義すると，様式グループのデータを細かく切り分けて，それぞれ異なるフォーマットの帳票に出力できます。

サブ様式グループを定義した帳票の出力例を次に示します。

図 11-3 サブ様式グループを定義した帳票の出力例



この出力例では，日立家のデータをすべて出力してから，戸塚家のデータを出力します。一家族分のデータからは，まず家族全員の総計を出力してから，個人の明細を出力します。

11.6.2 形式

複数様式情報定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

複数様式情報定義ファイルに指定するキーワードとオプションは、大文字、小文字の区別をしません。

複数様式情報定義ファイルの形式を次に示します。

```
group 様式グループ番号 {
  [grouptransfercondition {           …様式グループ遷移条件
    transfercondition={KBNF|EOFN}
    [fieldname="フィールド名"]
  }]
  [formtransfercondition {           …様式間遷移条件
    keybreaktopform={ON|OFF}
    [fieldname="フィールド名"]
  }]
  [formfilename "帳票ファイル名" {   …様式遷移情報
    transfercondition={NPNF|KBNF|EOFN}
    printnewpaper={ON|OFF}
    resetpagenumber={ON|OFF}
    [traycode=給紙トレイ番号]
  }]
  [subgroup サブ様式グループ番号 {   …サブ様式グループ
    grouptransfercondition {
      transfercondition=KBNF
      fieldname="フィールド名"
    }
    [formtransfercondition {
      keybreaktopform={ON|OFF}
      [fieldname="フィールド名"]
    }]
    formfilename "帳票ファイル名" {
      transfercondition={NPNF|KBNF}
      printnewpaper={ON|OFF}
      resetpagenumber={ON|OFF}
      [traycode=給紙トレイ番号]
    }
  }]
}
:
```

11.6.3 キーワード

複数様式情報定義ファイルで指定するキーワードは、次のとおりです。

表 11-24 複数様式情報定義ファイルのキーワード

キーワード	説明	キーワードの省略可否
group	グルーピングした出力様式（様式グループ）を識別する番号を指定します。	×
grouptransfercondition	グループごとに様式を切り替える条件（様式グループ遷移条件）を指定します。	○
formtransfercondition	フィールドごとに様式を切り替える条件（様式間遷移条件）を指定します。	○
formfilename	様式遷移情報を指定します。 ここでは、様式を切り替える条件、両面印刷時の白紙挿入の条件、ページ番号の指定方法などを設定します。	○
subgroup	サブ様式グループを識別する番号を指定します。	○

(凡例)

- ：指定を省略できるキーワードです
- ×：必ず指定するキーワードです

! 重要

- サブ様式グループは、先頭の様式グループには指定できません。先頭の様式グループに指定してもエラーにはなりませんが、帳票は正しく出力されません。
- 様式グループ、またはサブ様式グループの先頭に定義した様式の帳票は、必ず出力されるように設定する必要があります。様式グループ、またはサブ様式グループの先頭に定義した様式の帳票が出力されない場合、帳票は正しく出力されません。

(1) group

様式グループを識別する番号を指定します。

■groupの形式

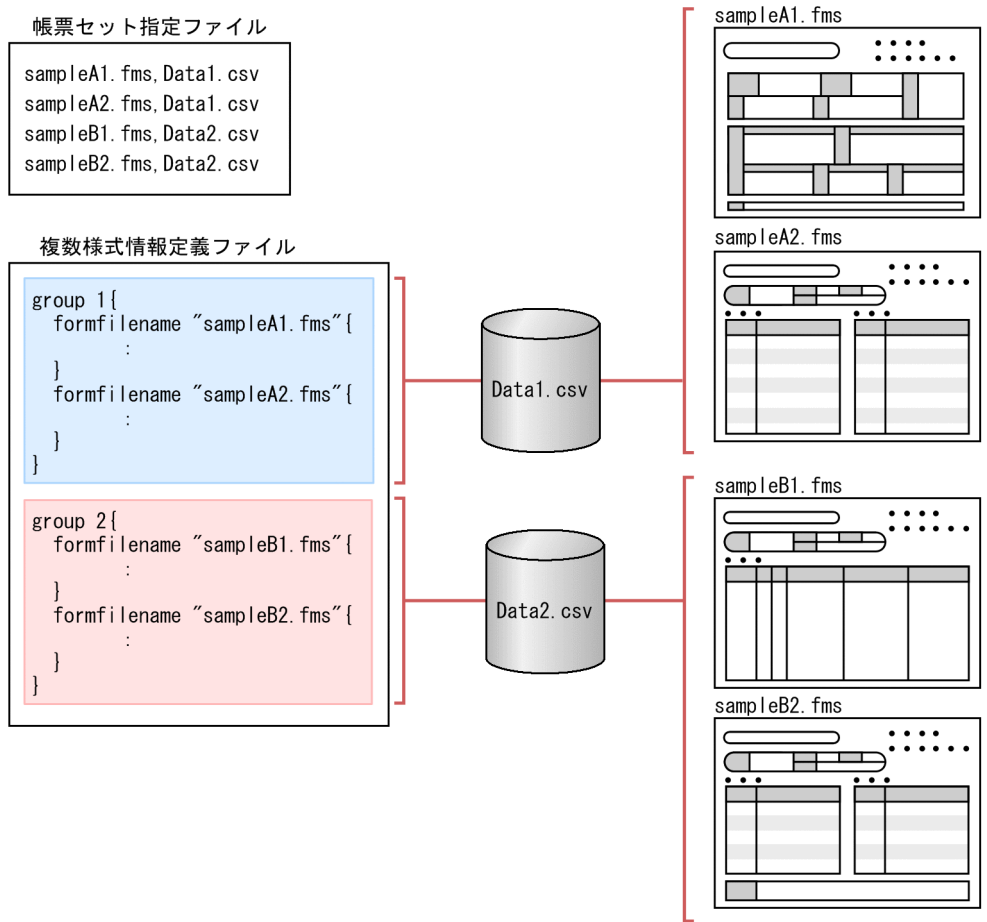
group 様式グループ番号

様式グループ番号

様式グループ番号を1以上の整数で指定します。様式グループ番号は、様式グループ間で同じ番号がないように指定してください。同じ様式グループ番号がある場合、または様式グループ番号が昇順で指定されていない場合は、エラー（KEEU038-E）になります。

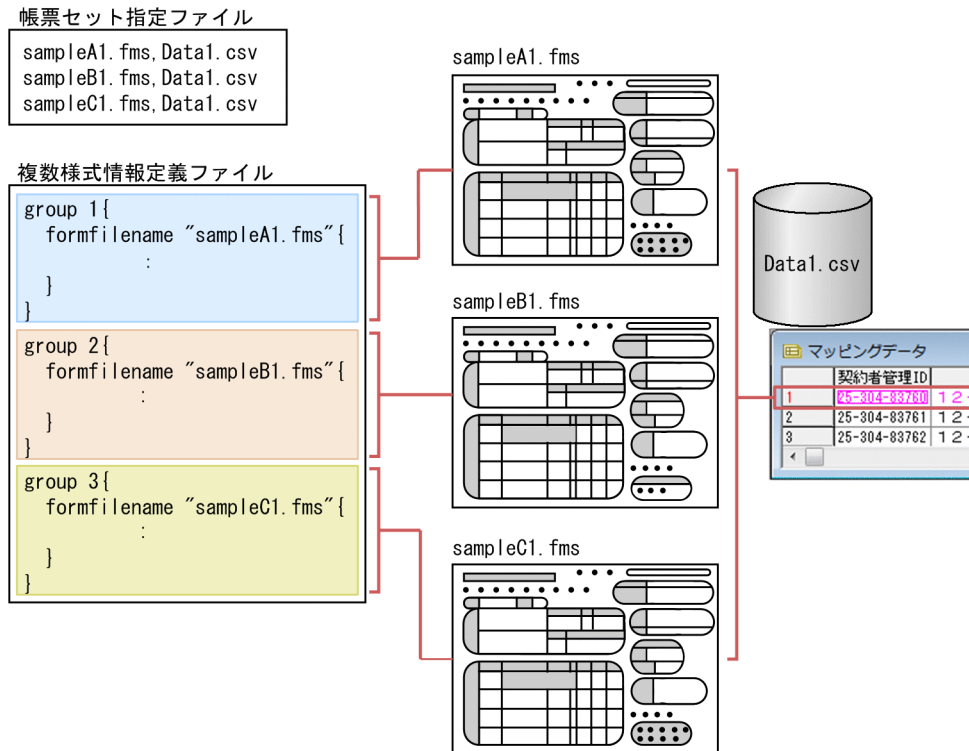
様式グループは、次に示すように、読み込むデータファイルごとに作成します。

図 11-4 複数様式情報定義ファイルとデータファイルの例 (様式グループを読み込むデータファイルごとに作成する場合)



連票形式の帳票のように、一つのデータファイルを3様式で共有していても、様式ごとに1レコードのデータを読み込む場合は、様式グループは三つになります。

図 11-5 複数様式情報定義ファイルとデータファイルの例 (様式ごとに 1 レコードのデータを読み込む場合)



(2) grouptransfercondition

様式グループを切り替える条件を指定します。grouptransfercondition は、指定を省略できます。

■grouptransfercondition の形式

```
[grouptransfercondition {
  transfercondition={KBNF|EOFN}
  [fieldname="フィールド名"]
}]
```

■キーワード transfercondition の形式

```
transfercondition={KBNF|EOFN}
```

KBNF | EOFN

様式グループを次の様式グループに切り替える条件を指定します。複数様式の PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合は、KBNF を指定してください。

サブ様式グループを切り替える場合は、KBNF を指定します。

• KBNF

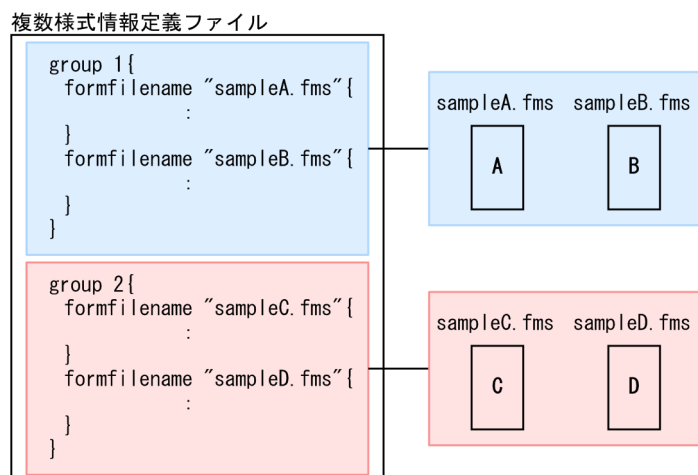
キーブレイクのタイミングで次の様式グループに切り替えます。KBNF を指定した場合は、キーワード fieldname で、キーブレイクするフィールド名を指定してください。

KBNF を指定する場合は、様式グループの formfilename に指定する帳票を設計するとき、フィールド名とフィールド属性が同じになるように指定しておいてください。

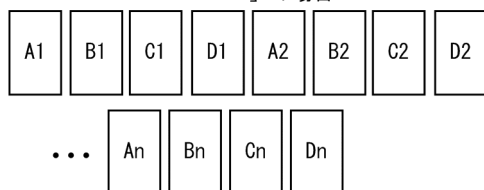
- EOFN

様式グループの formfilename に指定されているすべての帳票ファイルを印刷したあと、次の様式グループに切り替えます。

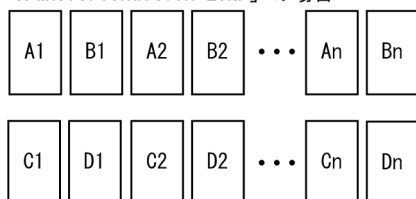
図 11-6 transfercondition の値による様式グループ切り分けタイミングの違い



- 「transfercondition=KBNF」の場合



- 「transfercondition=EONF」の場合



■キーワード fieldname の形式

fieldname="フィールド名"

フィールド名

キーブレイクの対象となるフィールド名を「」で囲んで指定します。

キーワード transfercondition に KBNF を指定した場合は、フィールド名を指定してください。

各様式グループに指定されたフィールドが同じ名称でない場合は、エラー (KEEU047-E) になります。また、同じフィールド属性でない場合は、エラー (KEEU049-E) になります。

様式グループとサブ様式グループに指定されたフィールド名が同じ名称の場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

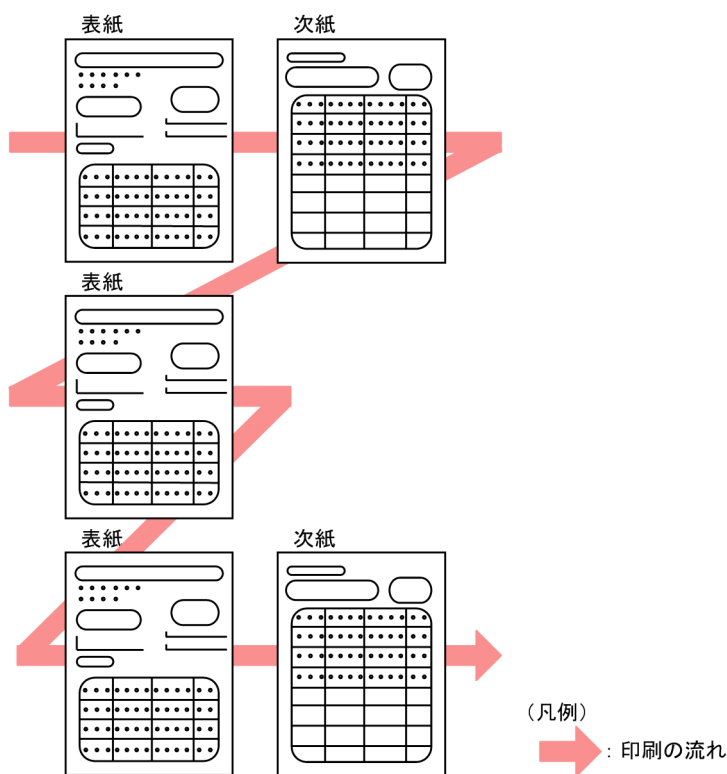
(3) formtransfercondition

grouptransfercondition は、キーブレイクの対象となるフィールドのデータが変わった時点で次の様式グループに切り替えますが、formtransfercondition は、キーブレイクの対象となるフィールドのデータが変わった時点で先頭の様式に切り替えるかどうかを指定します。

例えば、請求書のように、次のような条件で帳票出力する場合、formtransfercondition を指定します。

- 様式 1 は必ず出力します。
- 様式 1 に納まらないデータがある場合、続きのデータを様式 2 に出力して、請求先のデータが変わった時点で、様式 1 に戻るようにします。
- 様式 1 の出力で請求先のデータが変わった場合は、様式 1 に戻ります。

図 11-7 formtransfercondition の指定例



このように、先頭の様式を出力したあと、次の様式に続きのデータを出力しなくて済む場合は、formtransfercondition を指定しておくで便利です。

formtransfercondition を指定した場合、同じ様式グループ内に subgroup は指定できません。formtransfercondition と subgroup を同時に指定した場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

■formtransfercondition の形式

```
[formtransfercondition {  
  keybreaktopform={ON|OFF}  
  [fieldname="フィールド名"]
```

}}

■キーワード keybreaktopform の形式

keybreaktopform={ON|OFF}

ON | OFF

先頭の様式に切り替えるかどうかを指定します。

- ON

キーブレイクのタイミングで先頭の様式に切り替えます。ON を指定した場合は、キーワード fieldname で、キーブレイクするフィールド名を指定してください。

先頭の様式を出力する場合、ページ番号の開始番号を初期化するときは、先頭の様式の遷移条件でキーワード formfilename の resetpagenumber に ON を指定しておいてください。

- OFF

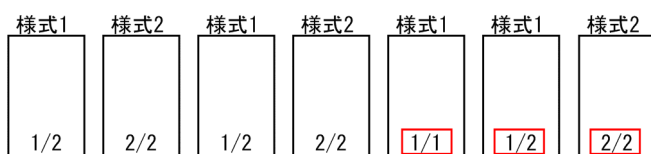
先頭への様式には切り替えません。キーワード formfilename の transfercondition で指定されている各様式の遷移条件での動作になります。

■補足説明

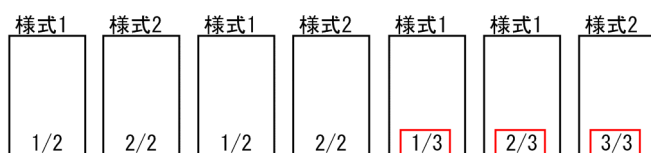
キーワード transfercondition で NPNF が設定されている場合、先頭の様式でページ番号の開始番号を初期化するときは、キーワード keybreaktopform に ON を指定しておいてください。OFF が指定されている場合は、ページ番号が初期化されません。

図 11-8 keybreaktopform の値による様式切り替えの違い

- 「keybreaktopform=ON」の場合



- 「keybreaktopform=OFF」の場合



■キーワード fieldname の形式

fieldname="フィールド名"

フィールド名

キーブレイク対象フィールド名を「」で囲んで指定します。

キーワード keybreaktopform に ON を指定した場合は、フィールド名を指定してください。指定されていない場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

(4) formfilename

様式を次の様式に切り替える条件を指定します。

formfilename を指定した場合、同じ様式グループ内に subgroup は指定できません。formfilename と subgroup を両方指定した場合、またはどちらも指定しなかった場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

formfilename は、様式グループ内に指定する様式の数分を繰り返し指定します。

■formfilename の形式

```
formfilename "帳票ファイル名" {  
transfercondition={NPNF|KBNF|EOFN}  
printnewpaper={ON|OFF}  
resetpagenumber={ON|OFF}  
[traycode=給紙トレイ番号]  
}
```

帳票ファイル名

帳票ファイル名を「"」で囲んで指定します。パスの指定は要りません。

指定する帳票ファイル名は、様式グループ間で同じ名称がないように指定してください。同じ名称の帳票ファイルがある場合、または帳票ファイル名をパス指定された場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

複数様式で出力する場合は、一組にする帳票すべてに同じキーフィールドで改ページするように設計しておいてください。

帳票ヘッダのある帳票は、複数様式では出力できません。

■キーワード transfercondition の形式

```
transfercondition={NPNF|KBNF|EOFN}
```

NPNF | KBNF | EOFN

様式を切り替える条件を指定します。

サブ様式グループの様式を切り替える場合は、NPNF と KBNF が指定できます。

- NPNF (ページエンド改ページ)

キーブレイク以外の改ページのタイミングで、次の様式に切り替えます。

- KBNF (キーブレイク改ページ)

キーブレイクのタイミングで、次の様式に切り替えます。

KBNF を指定した場合、grouptransfercondition もしくは formtransfercondition のキーワード fieldname に指定されているキーブレイク対象フィールド、または帳票に設定されている改ページのキーフィールドによって様式を切り替えます。

KBNF を指定する場合は、帳票ファイル名に指定する帳票を設計するとき、フィールド名とフィールド属性が同じになるように指定しておいてください。

- EOFN (ファイル終端)

すべての様式のデータを印刷したあと、次の様式に切り替えます。

■キーワード printnewpaper の形式

printnewpaper={ON|OFF}

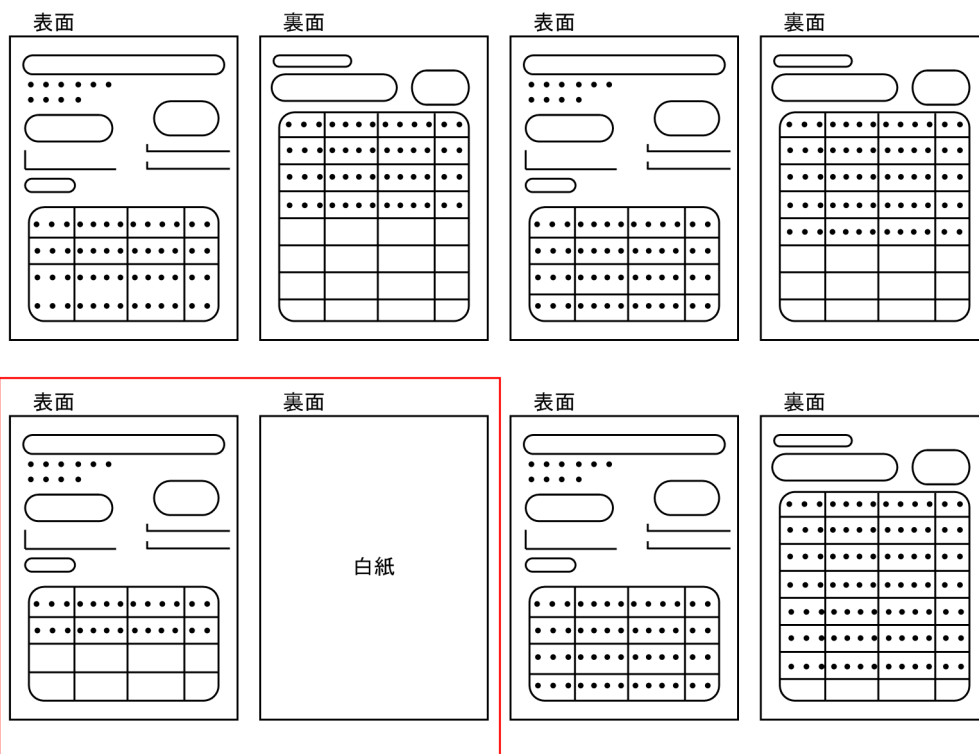
ON | OFF

プリンタの印刷設定で「両面」が設定されている場合、キーワード printnewpaper を指定した様式が常に用紙の表面になるように空白ページを挿入するかどうかを指定します。

- ON

様式が常に用紙の表面になるように、空白ページを挿入します。

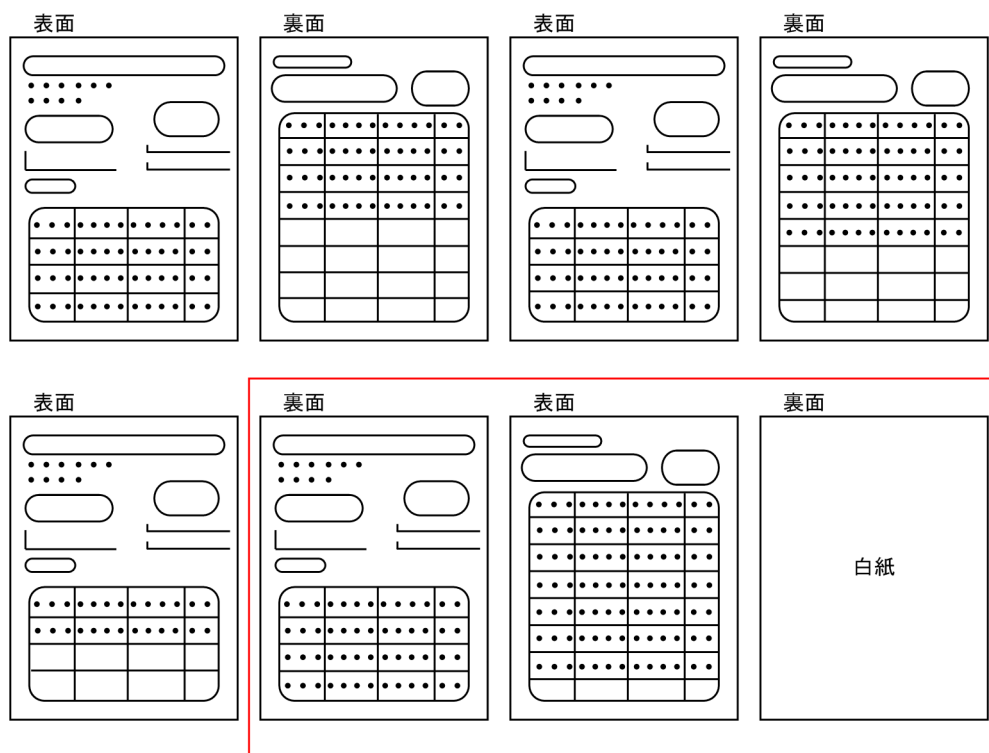
図 11-9 printnewpaper が ON の場合の例



- OFF

印刷している様式に偶数ページがない場合、次の様式を続けて印刷します。

図 11-10 printnewpaper が OFF の場合の例



■キーワード resetpagenumber の形式

resetpagenumber={ON|OFF}

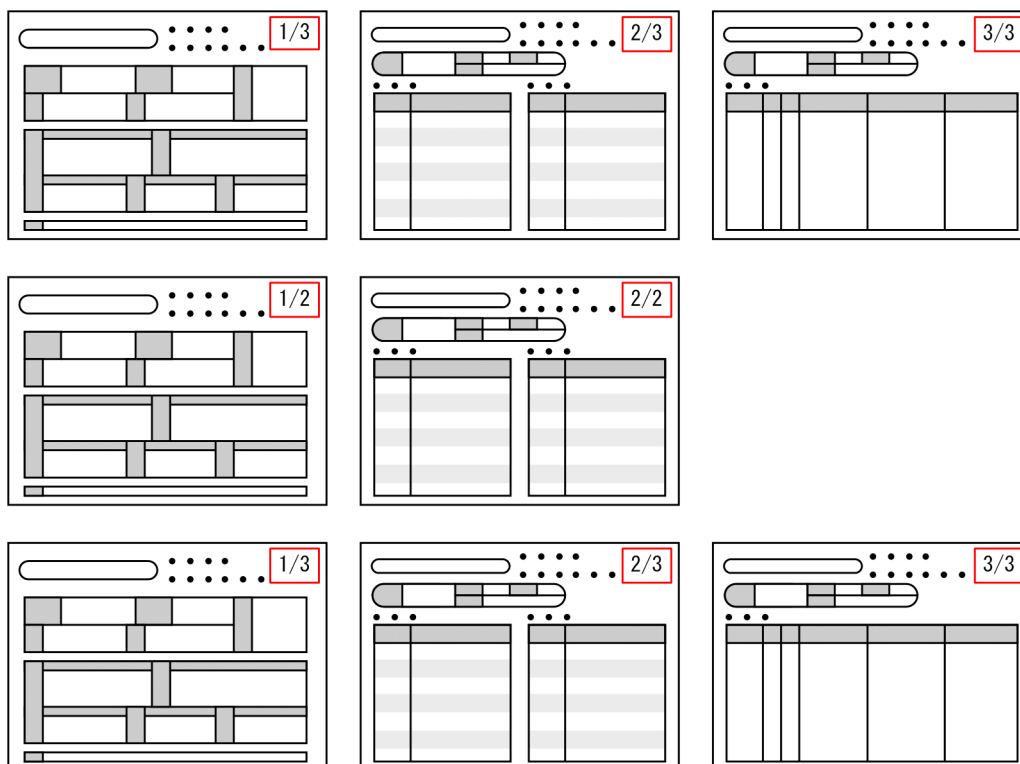
ON | OFF

キーとなるフィールドのデータが変わった時点で、ページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

- ON

キーとなるフィールドのデータが変わった時点で、ページ番号を初期化します。

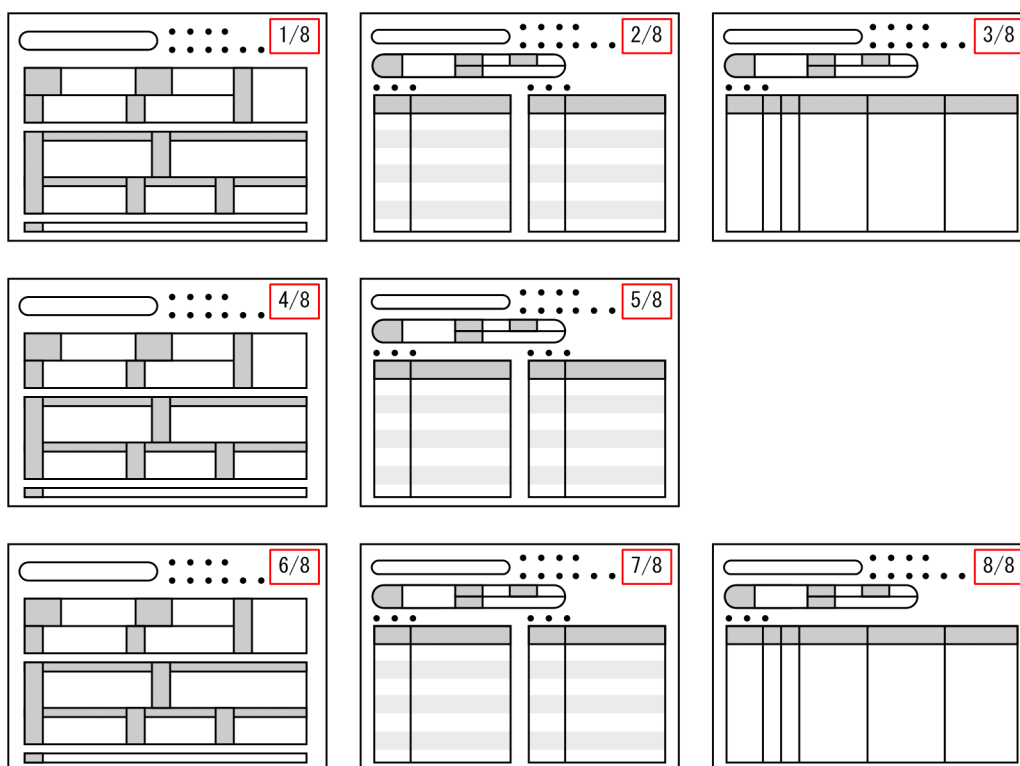
図 11-11 resetpagenumber が ON の場合の例



- OFF

ページ番号は初期化しません。通し番号になります。

図 11-12 resetpagenumber が OFF の場合の例



■補足説明

複数様式の帳票の場合、帳票設計時の改ページの設定ではページ番号を初期化するかどうかは有効になりません。キーワード `resetpagenumber` の設定だけが有効になります。

■キーワード `traycode` の形式

給紙トレイ番号を指定します。/tc オプションを同時に指定した場合、`traycode` の指定が優先されます。
`traycode=給紙トレイ番号`

給紙トレイ番号

この様式を印刷する場合の給紙トレイ番号を指定します。

- Windows 環境の場合

給紙トレイ番号は、トレイコード表示ツールで表示されるトレイコードを指定してください。省略した場合は、デフォルトの給紙トレイから給紙されます。

- UNIX/Linux 環境の場合

給紙トレイの給紙トレイ番号を指定してください。給紙トレイ番号は、1~n (nは、プリンタに設定されている給紙トレイ番号) で指定します。6以上の値を指定した場合は、自動給紙となります。省略した場合は、プリンタ定義ファイルの `DefaultCassette` キーで指定された方法で給紙します。

プリンタ定義ファイルの詳細については、「11.5 プリンタ定義ファイル」を参照してください。

(5) subgroup

サブ様式グループを識別する番号を指定します。

`subgroup` と `formfilename` は、どちらかを指定してください。`subgroup` と `formfilename` を両方指定した場合、またはどちらも指定しなかった場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

`subgroup` を指定すると、`formtransfercondition` は指定できません。`subgroup` と `formtransfercondition` を同時に指定した場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

`group` 文と `subgroup` 文の様式グループ遷移条件 (`grouptransfercondition`) のフィールド名 (`fieldname`) には異なる文字列を指定してください。同じ文字列を指定すると、エラー (KEEU038-E) になります。

■`subgroup` の形式

`subgroup` サブ様式グループ番号

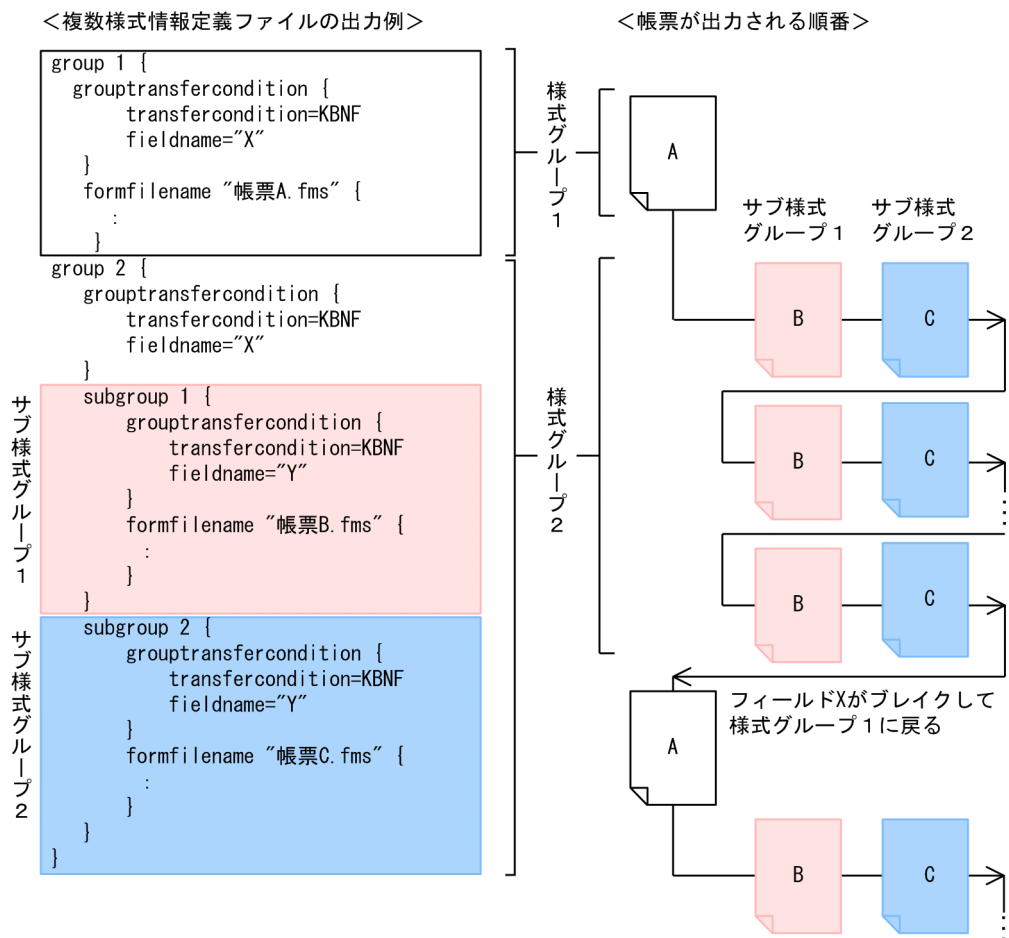
サブ様式グループ番号

サブ様式グループ番号を 1 以上の整数で指定します。サブ様式グループは、様式グループの中にだけ指定できます。様式グループの中以外に指定した場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

また、サブ様式グループ番号は、サブ様式グループ間で同じ番号がないように指定してください。同じサブ様式グループ番号がある場合、またはサブ様式グループ番号が昇順で指定されていない場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

サブ様式グループを定義した場合、どのように帳票が出力されるかを次に示します。

図 11-13 サブ様式グループを定義した場合の帳票の出力例



重要

サブ様式グループを定義したファイルは、次に示すバージョンの製品で読み込んでください。

製品	バージョン
EUR Server Standard	09-00 以降
EUR Server Enterprise	09-00 以降
EUR Server Print Edition	09-00 以降
EUR Designer	08-00 以降
EUR Developer	08-00 以降
EUR Print Service Enterprise	08-00 以降
EUR Professional Edition	05-06 以降
EUR Print Service	05-06 以降

バージョン 05-05 以前の EUR または EUR Print Service で読み込んだ場合はエラー (KEEU038-E) になります。

11.7 接続情報ファイル

接続情報ファイルは、データベースと接続するために必要な情報を定義するファイルです。入力データをデータベースから読み込んで帳票を出力する場合に、接続するデータベースの情報を接続情報ファイルに定義します。

接続情報ファイルは、一つの接続先について一つ作成します。EUR サーバ帳票出力機能の実行時には、接続情報ファイルを一つだけ指定できます。詳細については、マニュアル「EUR データベース連携ガイド」を参照してください。

11.8 置き換え表管理情報ファイル

11.8.1 概要

EUR では、アイテムのデータを指定したデータに置き換えて、出力できます。

置き換え表管理情報ファイルは、帳票を設計した時に設定された置き換え表名と、置き換え表ファイルの対応を定義したファイルです。

11.8.2 形式

置き換え表管理情報ファイルは、CSV 形式で作成します。形式を次に示します。

```
置き換え表名,置き換え表ファイル名▼  
置き換え表名,置き換え表ファイル名▼  
:
```

(凡例)

▼：改行コードを示します。

11.8.3 キーワード

■置き換え表名

置き換え表ファイルを区別するために付けた名称を指定します。指定できる置き換え表名の長さは、50 文字までです。同一の置き換え表名が指定された場合、最初に記述した置き換え表名が有効となり、2 番目以降の記述は無視されます。

置き換え表名に、空白、コンマ (,) を使用している場合は、その文字を引用符 (") で囲んで指定してください。引用符 (") を使用している場合は、引用符 (") を続けて二つ指定してください。

■置き換え表ファイル名

置き換え表名に対応する置き換え表ファイル名を指定します。フルパス、相対パスは指定できません。ファイル名の文字列長は、Windows 環境の場合は 256 文字までです。UNIX/Linux 環境の場合は 1,023 バイトまでです。

11.9 置き換え表ファイル

11.9.1 概要

EUR では、アイテムのデータを指定したデータに置き換えて、出力できます。

置き換え表ファイルは、アイテムのデータを置き換えて出力する場合に、1 フィールドごとの置き換え対象のデータと、置き換えて出力するデータを定義したファイルです。CSV 形式で作成します。

11.9.2 形式

置き換え表ファイルは、CSV 形式で作成します。形式を次に示します。

```
キーデータ,置き換えデータ▼  
キーデータ,置き換えデータ▼  
:
```

(凡例)

▼：改行コードを示します。

11.9.3 キーワード

■キーデータ

置き換えの対象とする文字列を指定します。指定できる文字列長は、256 文字までです。同一のキーデータが指定された場合、最初に記述したキーデータが有効となり、2 番目以降の記述は無視されます。文字列に、空白、コンマ (,) を使用している場合は、その文字を引用符 (") で囲んで指定してください。引用符 (") を使用している場合は、引用符 (") を続けて二つ指定してください。

■置き換えデータ

置き換えて出力する文字列を指定します。指定できる文字列長は、256 文字までです。文字列に、空白、コンマ (,) を使用している場合は、その文字を引用符 (") で囲んで指定してください。引用符 (") を使用している場合は、引用符 (") を続けて二つ指定してください。

空データの置き換えもできます。空データは次のように指定します。

- 空データを文字列に置き換える場合
,"置き換え空データ 1" または
","置き換え空データ 2"
- 文字列を空データに置き換える場合

"置き換えキーデータ 1", または
"置き換えキーデータ 2", ""

11.9.4 注意事項

- 置き換え表ファイルには、キーデータおよび置き換えデータを一つ以上指定してください。データを指定しない場合は、エラー (KEEU300-W) になります。
- キーデータと置き換えデータは、置き換え対象の 1 フィールドのデータ中にある文字列ごとに指定してください。置き換え対象に、キーデータに指定されていないデータがある場合は、エラー (KEEU300-W) になります。

11.10 Acrobat JavaScript 定義ファイル

11.10.1 概要

PDF 形式ファイルに埋め込む Acrobat JavaScript ファイル名を指定します。

Acrobat JavaScript ファイルを埋め込むと、Adobe Reader の「ページを開く」などのメニューを操作した時に、エラーを出したり、メールを送信したりするなど、Acrobat JavaScript で指定した機能を実行できます。

Acrobat JavaScript 定義ファイルの文字コードを次に示します。

表 11-25 Acrobat JavaScript 定義ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX/Linux 環境の場合
UTF-8 UTF-16 ロケールの文字コード	UTF-16 ロケールの文字コード

11.10.2 形式

Acrobat JavaScript 定義ファイルは、CSV 形式で作成します。形式を次に示します。

```
イベント名, Acrobat JavaScriptファイル名▼  
イベント名, Acrobat JavaScriptファイル名▼  
:
```

(凡例)

▼：改行コードを示します。

11.10.3 キーワード

■イベント名

Acrobat JavaScript ファイル名に対応するイベント名を指定します。指定したイベントを実行した場合、対応する JavaScript を実行します。指定できるイベント名と対応する操作を次に示します。

表 11-26 イベント名と対応する操作

項番	イベント名	操作
1	○	「ページを開く」操作をした場合

項番	イベント名	操作
2	C	「ページを閉じる」操作をした場合
3	WC	「文書を閉じる」操作をした場合
4	WS	「文書を保存する」操作をした場合
5	DS	「文書を保存した」操作をした場合
6	WP	「文書を印刷する」操作をした場合
7	DP	「文書を印刷した」操作をした場合

■Acrobat JavaScript ファイル名

PDF 形式ファイルに埋め込む Acrobat JavaScript ファイル名を指定します。同じ名称の Acrobat JavaScript ファイルを複数指定できます。指定できるファイル名は、Windows 環境の場合、フルパスで 256 文字、相対パスまたはファイル名は 255 文字までです。UNIX/Linux 環境の場合、フルパスで 1,023 バイトまでです。

11.10.4 注意事項

- データに、空白およびコンマ「,」が含まれる場合は、「"」で囲んでください。
- イベント名が重複している場合、および指定した Acrobat JavaScript ファイルの指定がない場合は、エラーとなります。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルの 1 行に三つ以上のデータを指定していた場合、最初の二つがデータとして入力されます。
- イベント名を「"」で囲んだ場合は、エラーとなります。
- イベント名 WS、および DS は、Adobe Acrobat で「保存」を実行した場合に Acrobat JavaScript が実行されます。Adobe Reader で「コピーを保存」を実行しても実行されません。

11.11 Acrobat JavaScript ファイル

11.11.1 概要

Acrobat JavaScript ファイルは、PDF 形式ファイルに埋め込む JavaScript プログラムを指定したファイルです。Acrobat JavaScript ファイルを使用すると、Adobe Reader の「ページを開く」などのメニューを操作した時に、エラーを出力したり、メールを送信したりするなどの機能が設定できます。

Acrobat JavaScript ファイルを PDF 形式ファイルに埋め込むには、Acrobat JavaScript 定義ファイルが必要です。

Acrobat JavaScript ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

Acrobat JavaScript ファイルの文字コードを次に示します。

表 11-27 Acrobat JavaScript ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX/Linux 環境の場合
UTF-8 UTF-16 ローケールの文字コード	UTF-16 ローケールの文字コード

11.11.2 形式

Acrobat JavaScript ファイルの記述形式については、Adobe のマニュアルを参照してください。

11.12 ビューアプレファレンス定義ファイル

11.12.1 概要

ビューアプレファレンス定義ファイルは、出力した PDF 形式ファイルを開いた時に実行するビューアプレファレンスを指定するファイルです。

ビューアプレファレンスを使用すると、Adobe Reader で PDF 形式ファイルを開いた時、「ツールバー」や「メニューバー」などの Adobe Reader の GUI を制御できます。

ビューアプレファレンス定義ファイルの文字コードを次に示します。

表 11-28 ビューアプレファレンス定義ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX/Linux 環境の場合
UTF-8 UTF-16 ローケールの文字コード	UTF-16 ローケールの文字コード

11.12.2 形式

ビューアプレファレンス定義ファイルは、CSV 形式で作成します。形式を次に示します。

```
キー名, 設定値▼  
キー名, 設定値▼  
:
```

(凡例)

▼：改行コードを示します。

■キー名・設定値

ビューアプレファレンスのキーと設定値を指定します。

11.12.3 キーワード

キー名と設定値を次に示します。

表 11-29 ビューアプレファレンスのキーと設定値

キー名	設定値	内容
HIDETOOLBAR	YES	ツールバーを非表示に設定します。

キー名	設定値	内容
HIDETOOLBAR	NO	ツールバーを表示します。
HIDEMENUBAR	YES	メニューバーを非表示に設定します。
	NO	メニューバーを表示します。
HIDEWINDOWUI	YES	ウィンドウコントロールを非表示に設定します。
	NO	ウィンドウコントロールを表示します。
FITWINDOW	YES	ページにウィンドウサイズを合わせます。
	NO	ページにウィンドウサイズを合わせません。
CENTERWINDOW	YES	ウィンドウを画面中央に配置します。
	NO	ウィンドウを画面中央に配置しません。
PAGEMODE	OUTLINE	ウィンドウコントロールにしおりを表示します。
	THUMB	ウィンドウコントロールにサムネイルを表示します。
	PAGE	ページだけ表示します。
	FULLSCREEN	全画面表示にします。
PRINTSCALING	NONE	ページの拡大/縮小を「なし」に設定します。
	DEFAULT	Adobe Reader の設定に従います。
PICKTRAYBYPDFSIZE	YES	「PDF のページサイズに合わせて用紙を選択」チェックボックスを「オン」に設定します。
	NO	Adobe Reader の設定に従います。

11.12.4 注意事項

- キーを指定しなかった場合は、Adobe Reader の設定に従います。
- 設定値以外を指定した場合は、エラーとなります。
- 同じキーを複数指定した場合はエラーとなります。
- ビューアプレファレンス定義ファイルの 1 行に三つ以上のキーや設定値を指定した場合、最初の二つが入力されます。キーと設定値は、1 行に一つずつ指定してください。
- キー名および設定値を「」で囲んだ場合は、エラーとなります。

11.13 テスト印刷設定ファイル

11.13.1 概要

テスト印刷設定ファイルは、テスト印刷で出力した帳票の不正使用を防ぐ目的で、テスト印刷用の文字列を重ねて出力するための情報を指定したファイルです。

テスト印刷用の文字列を重ねて出力した帳票のイメージを次に示します。

The image shows a test print of an invoice. At the top right, it says '1/2'. Below that, it says '日立 商店 御中'. There are several blue redaction marks. A large orange watermark '印刷テスト' is overlaid across the center. Below the watermark, the date and time '2010.04.20 15:00' are printed in orange. At the bottom, there is a table with the following data:

コード	品名	個数	料金	備考
1111	テーブル	10	360,000	
2222	ケトル	30	120,000	
3333	ベッド	15	1,050,000	

テスト印刷設定ファイルでは、テスト印刷用の文字列についての次の内容を設定できます。

- 文字列の内容
- 文字のフォント名
- 文字の大きさ
- 文字列の出力位置
- 文字の色
- 日付／時刻の書式

テスト印刷用の文字とほかのアイテムの重なりについて

帳票上にテスト印刷用の文字列を出力した場合、線アイテムと文字アイテムはテスト印刷用の文字列よりも上に出力されるため、テスト印刷用の文字列に隠れることはありません。図形と画像はテスト印刷用の文字列に隠れます。これは、異なる種別のアイテムの重なるの順序に決まりがあり、テスト印刷用の文字列は図形アイテムと線アイテムの中間に出力されるためです。アイテムの重なるの詳細については、マニュアル「EUR 帳票作成 操作ガイド」を参照してください。

テスト印刷設定ファイルの文字コードを次に示します。

表 11-30 テスト印刷設定ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX/Linux 環境の場合
ロケールのエンコード UTF-8 UTF-16	ロケールのエンコード UTF-16

11.13.2 形式

テスト印刷設定ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。形式を次に示します。

```
[TESTPRINT]
SECTIONS=セクション名1,セクション名2, …
[セクション名1]
キー=値
:
[セクション名2]
キー=値
:
```

テスト印刷設定ファイルに指定できる属性は次のとおりです。

表 11-31 テスト印刷設定ファイルに指定する属性

属性	セクション名	説明	省略
TESTPRINT	TESTPRINT	TEST 属性のセクション名を指定します。	◎※1
TEST	SECTIONS キーで指定したセクション名	テスト印刷の内容を設定します。 SECTIONS キーで指定したセクション名を指定します。	◎※2

(凡例)

◎：必ず指定するキーワードです。

注※1 TESTPRINT セクションを省略した場合、エラー (KEEU087-E) となります。

注※2 SECTIONS キーで指定したセクション名を TEST 属性のセクションに記載しなかった場合、エラー (KEEU089-E) となります。

また、属性に設定する内容については、次の注意事項があります。

- セクション名の大文字・小文字は区別されません。
- TESTPRINT 属性で指定していないセクション名を指定した場合、そのセクションの設定内容は無視されます。
- 同じセクションを複数記載した場合、先に記載した内容が有効となります。

テスト印刷設定ファイルで指定するキーワードの内容を次に示します。

表 11-32 テスト印刷設定ファイルで指定するキーワード

属性	キー	内容	省略
TESTPRINT	SECTIONS	TEST 属性のセクション名を指定します。	◎
TEST	TEXT	テスト印刷用に出力する文字列を指定します。	◎
	FONT	文字のフォント名を指定します。	○
	SIZE	文字の大きさを指定します。(単位：ポイント)	○
	POS	テスト印刷用の文字列を出力する時の出力位置を指定します。	○
	COLOR	文字の色を指定します。	○
	DATETIMEFORMAT	TEXT キーで「%d (日付)」が指定された時、「%d」の書式を指定します。	○

(凡例)

- ◎：必ず指定するキーワードです。
- ：指定を省略できるキーワードです。

必ず指定するキーワードを指定しなかった場合は、エラー (KEEU088-E) となります。

11.13.3 キーワード

(1) SECTIONS

TEST 属性のセクション名を指定します。

■キーワード SECTIONS の形式

SECTIONS=セクション名

セクション名

セクション名を 32 文字以下の文字で指定します。

「セクション名 1,セクション名 2,...」のようにコンマで区切って複数のセクション名を指定できます。

32 文字を超えた場合、SECTIONS キーの値に何も指定しなかった場合、またはコンマの両隣にセクション名を指定しなかった場合は、エラー (KEEU086-E) になります。

(2) TEXT

テスト印刷用の文字として帳票上に表示される文字列を指定します。

■キーワード TEXT の形式

TEXT=文字列

文字列

テスト印刷用の文字列を指定します。259 文字までの文字列が有効となります。260 文字以上の文字を指定してもエラーにはなりません、260 文字目以降の文字列は無視されます。

指定した文字はそのまま出力されます。

ただし、「%d」「%m」「%文字」は次のように変換して出力されます。

- %d
テスト印刷実行時の日付/時刻に変換されます。DATETIMEFORMAT キーで指定した書式で変換されます。
- %m
テスト印刷実行時のマシン名に変換されます。
- %文字（「d」および「m」以外）
文字が出力されます。

帳票には、変換後の文字列で 512 文字まで出力されます。512 文字を超えた場合、513 文字目以降の文字列は出力されません。

TEXT キーの値に何も指定しなかった場合、エラー (KEEU086-E) となります。

(3) FONT

テスト印刷用の文字列のフォントを指定します。

■キーワード FONT の形式

FONT=フォント名

フォント名

フォント名を指定します。31 文字までの文字列が有効となります。32 文字以上の文字を指定してもエラーにはなりません、32 文字目以降の文字列は無視されます。

指定できるフォント名は、文字アイテムのフォントで指定できるものと同じです。

また、出力形式によっては指定したフォントが対応していない場合があります。この場合は、別のフォントに置き換えて出力されます。

FONT キーの記載がない場合、または FONT キーに何も指定しなかった場合は、「MS ゴシック」が仮定されます。

(4) SIZE

テスト印刷用の文字の大きさを指定します。

■キーワード SIZE の形式

SIZE=フォントサイズ

フォントサイズ

文字の大きさを指定します。単位は、ポイントです。

3～256 の整数値を指定できます。小数值や範囲外の値を指定した場合は、エラー (KEEU086-E) になります。

SIZE キーの記載がない場合、または SIZE キーに何も指定しなかった場合、12 ポイントが仮定されます。

(5) POS

テスト印刷用の文字列を出力する場合の出力位置を指定します。

■キーワード POS の形式

POS= [topl | topc | topr | botl | botc | botr | cenl | cenc | cenr | X,Y]

topl

テスト印刷用の文字列を貼付域の左上に出力します。

topc

テスト印刷用の文字列を貼付域の中央上に出力します。

topr

テスト印刷用の文字列を貼付域の右上に出力します。

botl

テスト印刷用の文字列を貼付域の左下に出力します。

botc

テスト印刷用の文字列を貼付域の中央下に出力します。

botr

テスト印刷用文字列を貼付域の右下に出力します。

cenl

テスト印刷用文字列を貼付域の中央左に出力します。

cenc

テスト印刷用文字列を貼付域の中央に出力します。

cenr

テスト印刷用文字列を貼付域の中央右に出力します。

X,Y

テスト印刷用の文字列を、貼付域の左上を原点とした X 座標値、Y 座標値で指定した位置に出力します。

0～999 の整数値を指定できます。単位は、ミリメートルです。

0～999 以外の値を指定した場合、エラー (KEEU086-E) となります。

[topl] [topc] [topr] [botl] [botc] [botr] [cenl] [cenc] [cenr] [X,Y] 以外の値を指定した場合は、エラー (KEEU086-E) になります。

(6) COLOR

テスト印刷用の文字列の色を指定します。

■キーワード COLOR の形式

COLOR=色

色

文字色を 16 進数の 6 桁の数値で指定します。

1~2 桁は赤色の明度, 3~4 桁は緑色の明度, 5~6 桁は青色の明度を表します。

(例)

000000 : 黒色

FF0000 : 赤色

16 進数の 6 桁以外を指定した場合, エラー (KEEU086-E) となります。

COLOR キーの記載がない場合, または COLOR キーに何も指定しなかった場合, 「薄いグレー (A3A3A3)」が仮定されます。

なお, 出力形式によっては指定した色とは別の色で出力されることがあります。

(7) DATETIMEFORMAT

TEXT キーで「%d」(日付)が指定された場合に,「%d」に適用する書式を指定します。

■キーワード DATETIMEFORMAT の形式

DATETIMEFORMAT=日付の書式

日付の書式

日付の書式を, レポートファイル形式の表示形式で指定します。259 文字までの文字列が有効となります。260 文字以上の文字を指定してもエラーにはなりません, 260 文字目以降の文字列は無視されます。

DATETIMEFORMAT キーの記載がない場合, または DATETIMEFORMAT キーに何も指定しなかった場合, 「%Y/%M/%D△%h:%m:%s」が仮定されます (「△」は, 半角空白を意味します)。

レポートファイル形式の詳細については, マニュアル「EUR 帳票作成 操作ガイド」を参照してください。

11.13.4 注意事項

- テスト印刷用の文字列が貼付域をはみ出る場合の注意

テスト印刷用の文字列が貼付域をはみ出る場合, はみ出た分の文字列は切れてしまい, 出力されません。ただし, 文字列の先頭が貼付け領域の左端を超えることはないため, 「topr」「botr」「cenr」を指定していても, 必ず文字列の後ろ(右端)が切れます。この場合, エラーメッセージやワーニングメッセージは出力されません。

例えば、キーワード「POS」に「topr」を指定した帳票で、テスト印刷用の文字列が貼付域をはみ出した場合は次のように印刷されます。

■テスト印刷用の文字の配置イメージ

EUR帳票印刷用テスト 1/2
日立 商店 御中

コード	品名	個数	料金	備考
1111	テーブル	10	360,000	
2222	ケトル	30	120,000	
3333	ベッド	15	1,050,000	

■実際に出力される帳票

EUR帳票印刷用テ 1/2
日立 商店 御中

コード	品名	個数	料金	備考
1111	テーブル	10	360,000	
2222	ケトル	30	120,000	
3333	ベッド	15	1,050,000	

• テスト印刷用の文字列の文字幅

テスト印刷用の文字列は縦横比が2:1の固定ピッチで出力されます。静的モードで縦横比が2:1のフォントは固定アイテムと同じように出力されますが、縦横比が2:1のフォント以外は文字と文字の間が広くなったり、文字同士が重なったりすることがあります。

11.14 印刷日時出力定義ファイル

11.14.1 概要

印刷日時出力定義ファイルは、プリンタでの印刷実行時の日時情報を帳票に出力するために必要な情報を定義するファイルです。

印刷日時出力定義ファイルでは、日時情報として出力する文字列について、次の内容を設定できます。

- 文字列の内容
- 文字のフォント名
- 文字の大きさ
- 文字列の出力位置
- 文字の色

11.14.2 形式

印刷日時出力定義ファイルの形式を次に示します。

```
[PRINTDATETIME]  
キー=値  
:
```

11.14.3 キーワード

印刷日時出力定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

表 11-33 印刷日時出力定義ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
PRINTDATETIME	TEXT	文字列	—	日時情報として出力する文字列を 259 文字以内で指定します。指定を省略した場合は、エラーとなります。 なお、TEXT キーには、印刷時の日時に合わせて変換できる書式指定コードを指定できます。詳細は、表 11-34 を参照してください。
	FONT	文字列	MS ゴシック	文字のフォント名を 31 文字以内で指定します。
	SIZE	3~256	12	文字の大きさを指定します。 (単位：ポイント)

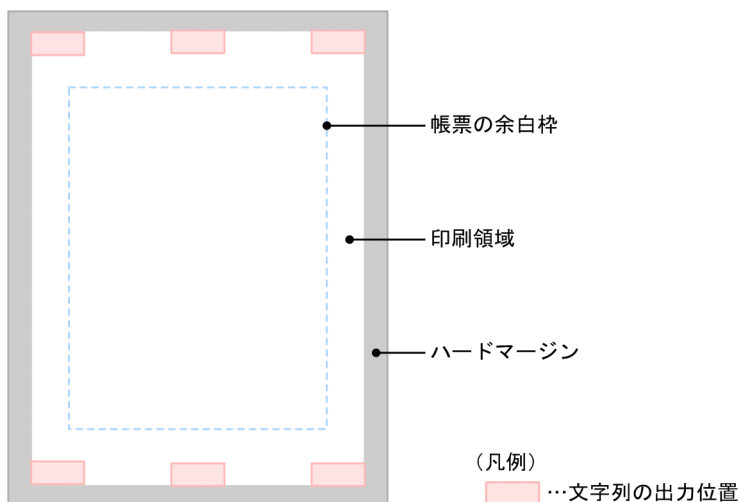
セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
PRINTDATETIME	POS	<ul style="list-style-type: none"> • topl • topc • topr • botl • botc • botr 	topl	文字列の出力位置を指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • topl 印刷領域*の左上に出力します。 • topc 印刷領域*の中央上に出力します。 • topr 印刷領域*の右上に出力します。 • botl 印刷領域*の左下に出力します。 • botc 印刷領域*の中央下に出力します。 • botr 印刷領域*の右下に出力します。
	COLOR	000000~FFFFFF	000000	文字の色を6桁の16進数で指定します。 1~2桁は赤色の明度, 3~4桁は緑色の明度, 5~6桁は青色の明度を表します。例えば, 「000000」は黒色, 「FF0000」は赤色を表します。

(凡例)

— : 省略値はありません。

注※

印刷領域とは、印刷用紙からプリンタのハードマージンを除いた領域のことです。印刷領域と文字列の出力位置との関係を、次の図に示します。



また、TEXT キーに指定できる書式指定コードを次の表に示します。

表 11-34 TEXT キーに指定できる書式指定コード

項番	書式指定コード	説明	変換後の値の例	備考
1	%a	曜日 (省略形)	日本語環境 日 英語環境 Sun	—
2	%A	曜日	日本語環境 日曜日 英語環境 Sunday	—
3	%b	月 (省略形)	日本語環境 1 英語環境 Jan	—
4	%B	月	日本語環境 1月 英語環境 January	—
5	%c	日付と時刻	日本語環境 2010/08/24 10:48:30 英語環境 08/24/10 10:48:30	「%x %X」を指定した場合と同じです。
6	%#c	日付 ^{*1} と時刻	日本語環境 2010年8月24日 10:48:30 英語環境 Tuesday, August 24, 2010 10:48:30	「%#x %X」を指定した場合と同じです。
7	%d	日	01	—
8	%#d	日 ^{*2}	1	—
9	%H	時間 (24 時間表記)	01	—
10	%#H	時間 (24 時間表記) ^{*2}	1	—
11	%I	時間 (12 時間表記)	01	—
12	%#I	時間 (12 時間表記) ^{*2}	1	—
13	%m	月 (10 進数)	01	—

項番	書式指定コード	説明	変換後の値の例	備考
14	%#m	月 (10 進数) ※2	1	—
15	%M	分 (10 進数)	01	—
16	%#M	分 (10 進数) ※2	1	—
17	%p	午前または午後	日本語環境 午前 英語環境 AM	—
18	%S	秒 (10 進数)	01	—
19	%#S	秒 (10 進数) ※2	1	—
20	%x	日付	日本語環境 2010/08/24 英語環境 08/24/10	日本語環境 「%y/%m/%d」を指定した場合と同じです。 英語環境 「%m/%d/%y」を指定した場合と同じです。
21	%#x	日付※1	日本語環境 2010年8月24日 英語環境 Tuesday, August 24, 2010	日本語環境 「%Y年%B%d日」を指定した場合と同じです。 英語環境 「%A,%B %d,%Y」を指定した場合と同じです。
22	%X	時刻	10:48:30	「%H:%M:%S」を指定した場合と同じです。
23	%y	西暦 (下 2 桁)	05	—
24	%#y	西暦 (下 2 桁) ※2	5	—
25	%Y	西暦 (4 桁)	0794	—
26	%#Y	西暦 (4 桁) ※2	794	—
27	%%	パーセント記号	%	—

注※1

英語環境の場合は、曜日の情報を含みます。

注※2

値が 1 桁になる場合、頭に「0」を付けません。

11.14.4 注意事項

- 設定項目の大文字・小文字は区別しません。
- 表 11-34 に記載されていないセクションやキーを指定した場合は、設定内容は無視されます。
- PRINTDATETIME セクションを複数指定した場合や、同じキーを複数指定した場合は、先に指定した内容が有効となります。
- 「#」以降の改行または EOF までの内容はコメントとして扱われます。「#」を含む値を指定する場合は、値の前後を「"」で囲んで指定してください。

11.14.5 指定例

印刷日時出力定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[PRINTDATETIME]
TEXT=%c
FONT=M S ゴシック
SIZE=12
POS=topr
COLOR=000000
```

11.15 帳票出力定義ファイル

11.15.1 概要

帳票出力定義ファイルは、起動部品で帳票 ID を使用して帳票を出力する場合に、帳票ファイル名を含む起動部品のプロパティ情報やメソッドの引数情報で指定する項目を定義するファイルです。

帳票 ID には、出力する帳票に使用する帳票出力定義ファイル名を指定できます。帳票 ID を使用することで、帳票出力時の入力情報を、帳票 ID、マッピングデータファイル、印刷方法、および印刷方法ごとに指定する必須項目だけに減らすことができます。

帳票出力定義ファイルでは、起動部品の設定項目のうち、次の項目を設定できます。

- 帳票ファイル名
- 帳票ファイルのパス
- 複数様式情報定義ファイル名
- 複数様式情報定義ファイルのパス
- 文書情報設定ファイル名
- 文書情報設定ファイルのパス
- EUR Print Server Sevice の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名
- EUR Print Server Sevice の環境設定ファイルのパス

帳票出力定義ファイルのファイル名は任意です。格納先については、「[15.2.36 REPORTID](#)」を参照してください。

11.15.2 形式

帳票出力定義ファイルの形式を次に示します。

各設定項目の項目名と指定値を 1 行ずつ記述します。

```
設定項目1の項目名△1項目1の指定値1△2  
設定項目2の項目名△1項目2の指定値1△2  
:  
設定項目nの項目名△1項目2の指定値1△2
```

(凡例)

- △₁ : 区切り文字を示します。
- △₂ : 指定値の終端を示します。

帳票出力定義ファイルに記述する項目の内容をを次の表に示します。

表 11-35 帳票出力定義ファイルに記述する項目

項目	指定できる値	指定できる文字数 (バイト)	
項目名	<p>起動部品の設定項目のうち、帳票出力定義ファイルで指定する項目を記述します。行の先頭から区切り文字の直前までが項目名として扱われます。なお、項目名の先頭に含まれる半角空白およびタブは除外されます。</p> <p>指定できる項目名については、表 11-37 を参照してください。</p> <p>次に示す場合はエラーになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定できる項目の項目名以外を指定した場合 必須指定の項目名が指定されていない場合 複数指定できない項目名が複数行で指定されている場合 次に示す場合はエラーの対象外になります。 コメント行 (行の先頭に「#」を指定した場合は、コメント行として扱われます。) 空白行 (行の先頭が改行コードの場合、または半角空白またはタブだけの行の場合) 	可変	0~1,152*
区切り文字	<p>項目名と指定値の区切り文字を記述します。</p> <p>次に示す文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 個以上のタブ、または半角空白 0 個または 1 個のコロン (:) 	可変	
指定値	<p>項目名に対応する指定値を記述します。</p> <p>区切り文字の直後から終端の直前までが指定値として扱われます。なお、前後の半角空白およびタブは除外せず指定値として扱います。</p> <p>また、項目名または区切り文字の直後に終端がある場合、指定値は空文字として扱われます。</p>	0~1,024	
終端	<p>指定値の終端として、改行コード (Windows 環境の場合: 0x0d+0X0a, UNIX /Linux 環境の場合: LF) を記述します。</p> <p>EOF またはファイル終端も指定値の終端として扱われます。</p>	1~2 バイト	

注※

項目名の先頭に含まれる半角空白およびタブも文字数に含まれます。

起動部品の設定項目のうち、帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイルで指定できる項目名と出力形式ごとの指定可否を表 11-37 に示します。表 11-37 では、表 11-36 のように省略して表記します。

表 11-36 印刷またはファイル出力の出力形式の略称

略称	印刷またはファイル出力の出力形式
PMRS	スプールサーバでの印刷
PMRC	クライアント PC での印刷
PMRT	蓄積
PMRD	直接印刷

略称	印刷またはファイル出力の出力形式
PMRH	クライアント PC への配布印刷
PDF	PDF 形式ファイル出力
EPF	EPF 形式ファイル出力
MEPF	複数 EPF 形式ファイル統合出力
EUR	EUR 形式ファイル出力
XLSX	Excel 形式ファイル出力

表 11-37 帳票出力定義ファイルで指定できる項目名と出力形式ごとの指定可否

設定項目※1	項目名	複数指定の可否	印刷					ファイル出力					
			P M R S	P M R C	P M R T	P M R D	P M R H	P D F	E P F	M E P F	E U R	X L S X	
帳票ファイル名※2, ※4	ReportFileName	○※3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
帳票ファイルのパス※4	ReportFilePath	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
複数様式情報定義ファイル名※4	MultiFormInfoDefFileName	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
複数様式情報定義ファイルのパス※4	MultiFormInfoDefFilePath	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文書情報設定ファイル名※5	DocInfoFileName	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文書情報設定ファイルのパス※5	DocInfoFilePath	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EUR Print Server Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名※5	PSEnvFileName	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EUR Print Server Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパス※5	PSEnvFilePath	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上記以外	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(凡例)

- ：指定できます。
- ：指定しても無効となります。
- ×

注※1

- 帳票ファイル、複数様式情報定義ファイル、文書情報設定ファイル、および EUR Print Server Service の環境設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。

- ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

注※2

必須で指定してください。

注※3

複数の帳票ファイル名を指定する場合は、複数行で記述します。

(指定例)

```
ReportFileName:帳票1.fms
ReportFileName:帳票2.fms
```

注※4

起動部品で帳票 ID を指定した場合は、帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイルで該当する設定項目を指定しているかどうかにかかわらず、帳票出力定義ファイルの指定内容を優先し、起動部品で該当する設定項目を直接指定しても無効になります。

注※5

起動部品で該当する設定項目の直接指定と帳票 ID の指定を同時に指定した場合は、帳票 ID に紐付く帳票出力定義ファイルの指定が無効になります。

11.15.3 注意事項

- 設定項目の大文字・小文字は区別されます。
- 「#」以降の改行または EOF までの内容はコメントとして扱われます。

11.15.4 指定例

帳票出力定義ファイルの指定例を次に示します。

```
# 帳票ファイル↓
ReportFileName△Report1.fms ↓
ReportFileName△△Report2.fms ↓
ReportFileName△△△Report3.fms△△ ↓
ReportFileName△△△△:Report4.fms ↓
ReportFileName△△△△△:△△Report5.fms△△ ↓
ReportFileName:Report6.fms ↓
↓
# 帳票ファイルパス ↓
△△ReportFilePath△:C:¥eurpm¥tmp ↓
↓
DocInfoFilePath ↓
DocInfoFilePath△△ ↓
DocInfoFilePath△△△△: ↓
```

(凡例)

↓：改行を示します。

△：半角空白を示します。

この例では、下線部分が指定値の対象となります。項目名ごとの有効な指定値を次に示します。

- 項目名 ReportFileName の指定値

Report1.fms

Report2.fms

Report3.fms△△

Report4.fms

△△Report5.fms△△

(凡例)

△：半角空白を示します。

- 項目名 ReportFilePath の指定値

C:¥eurpm¥tmp

- 項目名 DocInfoFilePath の指定値

空文字

(凡例)

↓：改行を示します。

△：半角空白を示します。

11.16 EUR フォントファイル

11.16.1 概要

EUR フォントファイル (*.edf) は、Windows 環境で作成した外字を UNIX/Linux 環境で出力できるように変換したものです。Windows 環境でも PDF 形式ファイル出力の場合だけ使用できます。EUR フォントファイルの作成時には、指定した文字が画像として収録されます。

EUR フォントファイルの作成には、EUR フォントファイル作成ツール (expedf32 コマンド) を使用します。

EUR フォントファイル作成ツールを同梱している製品

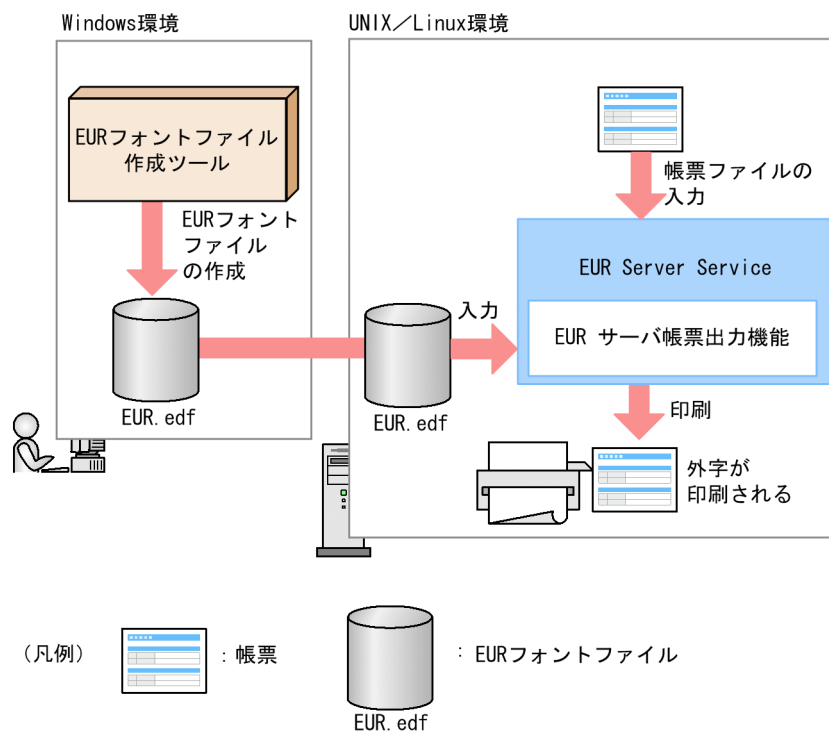
EUR Designer, EUR Developer, および Windows 版の EUR Server 製品 (EUR Server Standard, EUR Server Enterprise) に同梱されています。

ツールのインストール先

インストール先フォルダ¥Tool¥Program¥下にインストールされます。

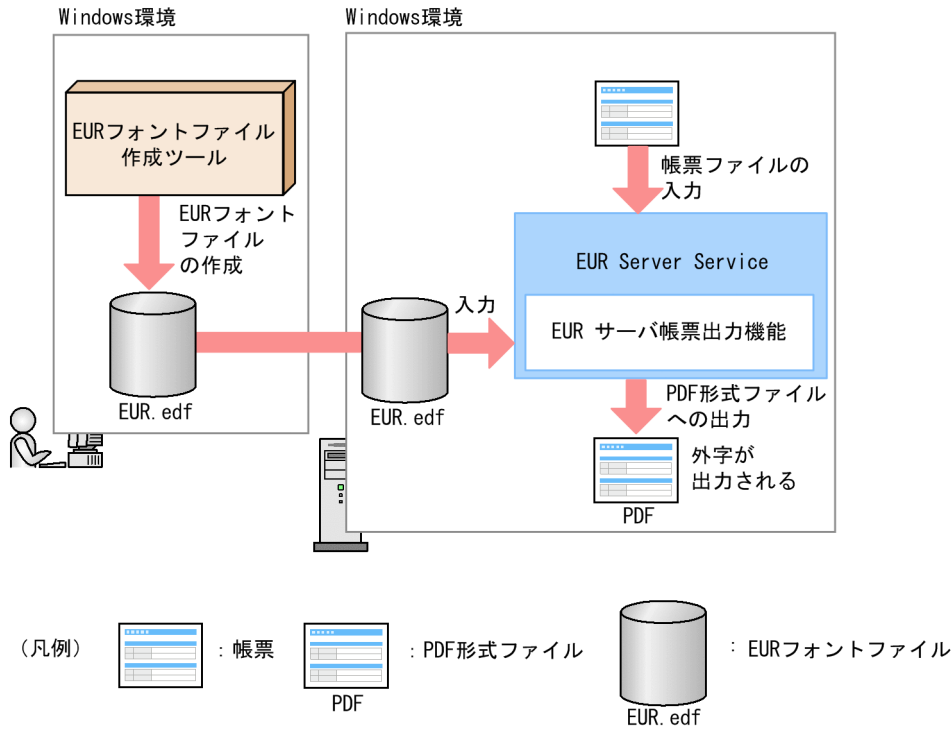
外字ファイルに登録された外字を EUR フォントファイルに収録して、UNIX/Linux 環境でプリンタ出力する場合のイメージを次の図に示します。

図 11-14 EUR フォントファイルを使用した外字の出力 (Unix/Linux 環境でのプリンタ出力)



EUR フォントファイルを使用して、Windows 環境で外字を含む帳票を PDF 形式ファイル出力する場合のイメージを次の図に示します。

図 11-15 EUR フォントファイルを使用した外字の出力 (Windows 環境での PDF 形式ファイル出力)



11.16.2 形式

EUR フォントファイル作成ツールは、コマンドラインで起動して使用します。

```
expedf32.exe  
  /eudc 外字ファイル名 | /base ベースフォント名  
  /size ピクセルサイズ  
  /out EURフォントファイル名
```

11.16.3 オプション

EUR フォントファイル作成ツールで指定するオプションを説明します。オプションの文字列は、大文字、小文字を区別しません。

(1) /eudc オプション

外字ファイル (*.tte) を指定します。

/eudc オプションを指定した場合は、フォントであらかじめ定義されている符号位置にも、外字ファイルで定義した文字が収録されます。

(2) /base オプション

外字ファイル (*.tte) を指定する代わりに、Windows の外字エディタでの外字登録時に「指定したフォントにリンクする」として選択したフォント名（「MS 明朝」や「MS ゴシック」など）を指定します。指定したフォントにリンクする外字が EUR フォントファイルに収録されます。

不正なフォント名称を指定した場合、Windows によってデフォルトフォントが仮定されます。このとき、エラー（KEEU F0601-W）を出力して仮定したフォント名が通知されます。

なお、指定するフォントによっては、登録した外字が収録されない場合があります。

(3) /size オプション

8 から 96 までの 8 の整数倍の値を指定します。

指定したサイズが大きいくほど、鮮明な文字を出力できますが、ファイルの容量が大きくなり、処理も遅くなるのでご注意ください。

(4) /out オプション

作成する EUR フォントファイル名を指定します。フォントの出力時に区別しやすいように、明朝体として作成したファイルか、ゴシック体として作成したファイルかがわかるようなファイル名にしておくとう便利です。

11.16.4 指定例

指定内容および指定例を次に示します。

(1) Windows の外字ファイルから、明朝体として使用する EUR フォントファイルを作成する場合

指定内容

外字ファイル名 : C:%WINDOWS%Fonts%EUDC.TTE

サイズ : 24 ピクセル

EUR フォントファイル名 : msmin24.edf

指定例

```
インストール先フォルダ%Tool%Program%expedf32.exe
/eudc C:%WINDOWS%Fonts%EUDC.TTE
/size 24
/out C:%TEMP%msmin24.edf
```

(2) MS 明朝にリンクされた外字から、明朝体として使用する EUR フォントファイルを作成する場合

指定内容

ベースフォントファイル : MS 明朝
サイズ : 24 ピクセル
EUR フォントファイル名 : msmin24.edf

指定例

```
インストール先フォルダ¥Tool¥Program¥expedf32.exe  
/base "MS 明朝"  
/size 24  
/out C:¥TEMP¥msmin24.edf
```

12

アプリケーションサーバに準備するファイル

この章では、EUR サーバ帳票出力機能で扱えるファイルのうち、アプリケーションサーバに準備するファイルの種類と形式について説明します。

12.1 アプリケーションサーバに準備するファイルの一覧

アプリケーションサーバに準備するファイルの概要を次の表に示します。

表 12-1 アプリケーションサーバに準備するファイルの一覧

ファイル名	説明
データファイル	帳票に出力するデータです。
可変記号値定義ファイル	条件に合ったデータを抽出するときに必要な、検索条件の可変記号とその値を定義するためのファイルです。
帳票セット指定ファイル	複数の帳票ファイルを統合する順番と帳票に読み込むデータファイルを指定しておくファイルです。
文書しおり定義ファイル	しおりとして表示する文字列と、しおりをクリックしたときのページの表示方法を設定したファイルです。
しおり定義ファイル	次に示すしおりの文字列と PDF 形式ファイルのページの表示方法を設定したファイルです。 <ul style="list-style-type: none">「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」「(帳票に出力する) データのまとまりを表す項目のしおり」
暗号化設定ファイル	PDF 形式ファイルを暗号化するためのセキュリティ属性を設定するファイルです。
PDF 仕分け定義ファイル	PDF 形式ファイルを仕分け出力するための情報を定義したファイルです。
制御情報付データファイル	BSP-RM 連携機能および上位主導型で帳票自動出力機能を使用するときに準備するファイルです。 マッピングデータに帳票の出力に関する制御情報を付加したデータファイルです。
起動パラメタファイル	BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) およびファイル監視サービス (事前定義型の場合) から呼び出すことができる eurpmc コマンドのオプションを定義するファイルです。
EUR Web Plug-In 情報ファイル	EUR Server - Adapter または EUR Client Service が、EUR Web Plug-In のクラス ID およびバージョン情報を取得するときに参照するファイルです。

12.2 データファイル

EUR が入力時に使用するデータファイルには、マッピングデータファイルとユーザ定義データファイルがあります。

また、マッピングデータファイルの内容（マッピングデータ）に帳票の出力方法や出力先などの情報を付加した制御情報付データファイルがあります。制御情報付データファイルについては「[12.9 制御情報付データファイル](#)」を参照してください。

12.2.1 概要

EUR サーバ帳票出力機能で扱えるデータファイルは、CSV 形式 (*.csv)、DAT 形式 (*.dat)、および FIX 形式 (*.fix) があります。

■注意

- データファイルのフィールドの区切り方法やフィールド定義などは、EUR 帳票作成機能で帳票を設計する時に指定してください。
- データファイル中のタブコードは、半角空白一つと見なして読み込まれます。ただし、データファイルの 1 行目をフィールド名として扱う場合は、1 行目のタブコードはそのままタブコードとして読み込まれます。
- EUR サーバ帳票出力機能では、DAT 形式ファイルは CSV 形式ファイルと同じと見なします。

12.2.2 扱えるデータファイルの形式

CSV 形式 (DAT 形式) のデータファイルは、フィールドとフィールドの間を区切り記号で区切ったファイルです。区切り記号は、EUR 帳票作成機能で帳票設計する時に、データのプロパティで指定できます。区切り記号のデフォルトは「, (コンマ)」です。指定した区切り文字は、帳票ファイル中に保存されます。

CSV 形式 (DAT 形式) のデータファイルのファイルサイズ、およびレコードの上限値を、次に示します。

表 12-2 CSV 形式 (DAT 形式) データファイルの上限値

項目	上限値
ファイルサイズ	2GB を上限とします。
レコード数	上限はありません。
レコード長	上限はありません。
フィールド数	上限はありません。
1 フィールドの長さ	上限はありません。

項目	上限値
フィールド名の長さ	マッピングデータのフィールド名：510 桁を上限とします。ユーザ定義データのフィールド名：499 桁を上限とします。

次に、ファイル形式を示します。

```

1,"レーザディスク","LD1.tif",98000,20010523,4901234567894,0 ...第1レコードの情報
2,"テレビ","TV1.tif",150000,20010523,4901234567894,0 ...第2レコードの情報
3,"カメラ","CA1.gif",50000,20010524,4901234567894,1 ...第3レコードの情報
4,"ビデオデッキ","VTR.gif",120000,20010522,4901234567894,0 ...第4レコードの情報
5,"レイゾウコ","COOL.gif",200000,20010523,4901234567894,1 ...第5レコードの情報

```

(1) (2) (3) (1) (4) (5) (6)

データ型：

- (1) 数値データ
- (2) 文字データ
- (3) 画像データ
- (4) 日付データ
- (5) バーコードデータ
- (6) 特殊編集レベルデータ

FIX 形式のデータファイルは、レコード中に区切り文字がなく、すべてのレコードの、フィールドの開始位置とデータ長が固定である形式を持つファイルです。フィールドの区切り位置と長さは、EUR 帳票作成機能のデータのプロパティで指定した情報を使います。指定した区切り位置と長さは、帳票ファイル中に保存されます。

FIX 形式のデータファイルのファイルサイズ、およびレコードの上限値を、次に示します。

表 12-3 FIX 形式データファイルの上限値

項目	上限値
ファイルサイズ	2GB を上限とします。
レコード数	上限はありません。
レコード長	改行を含めないで 100,000 バイトを上限とします。
フィールド数	1 レコードの上限が 100,000 バイトなので、その範囲内では制限なしと見なします。
1 フィールドの長さ	100,000 バイトを上限とします。
フィールド名の長さ	マッピングデータのフィールド名：510 桁を上限とします。ユーザ定義データのフィールド名：499 桁を上限とします。

次に、ファイル形式を示します。

1	レーザーディスク	LD1.tif	98000	20010523	4901234567894	0	…第1レコードの情報
2	テレビ	TV1.tif	150000	20010523	4901234567894	0	…第2レコードの情報
3	カメラ	GA1.gif	50000	20010524	4901234567894	1	…第3レコードの情報
4	ビデオデッキ	VTR.gif	120000	20010522	4901234567894	0	…第4レコードの情報
5	レイゾウコ	COOL.gif	200000	20010523	4901234567894	1	…第5レコードの情報

□ ┌──────────┐ ┌──────────┐ ┌──────────┐ ┌──────────┐ ┌──────────┐ ┌──────────┐
 (1) (2) (3) (1) (4) (5) (6)

データ型：

- (1) 数値データ
- (2) 文字データ
- (3) 画像データ
- (4) 日付データ
- (5) バーコードデータ
- (6) 特殊編集レベルデータ

12.3 可変記号値定義ファイル

データベースから抽出したデータを使って帳票を出力したい場合は、データファイルを指定するプロパティ、オプションなどに可変記号値定義ファイルを指定します。詳細については、マニュアル「EUR データベース連携ガイド」を参照してください。

可変記号値定義ファイルは、データベースからデータを検索し、条件に合ったデータを抽出する時に必要な、検索条件の可変記号とその値（可変記号値）を定義するためのファイルです。可変記号は、条件式の条件値だけを変更する場合に使います。

帳票を設計した時に設定された可変記号に、可変記号値を定義することで、条件に合った抽出データで帳票を出力できます。接続情報ファイルと組み合わせて使用します。

可変記号値定義ファイルは、データの種類ごとに作成します。マッピングデータとユーザ定義データの両方で可変記号値を使用する場合は、それぞれに可変記号値定義ファイルが必要になります。

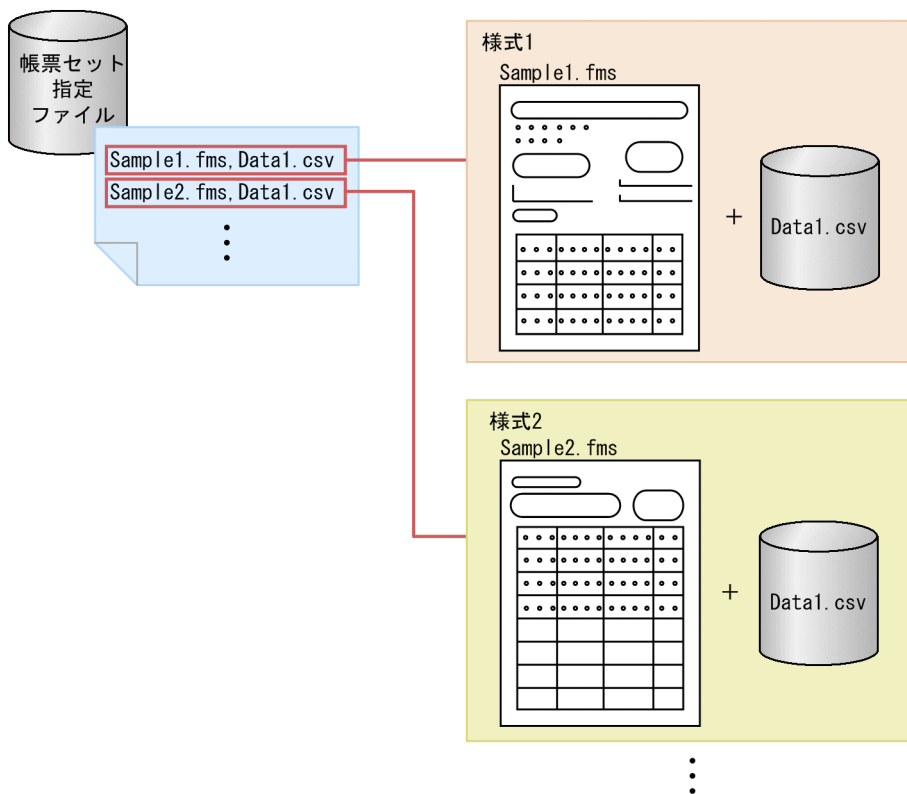
12.4 帳票セット指定ファイル

12.4.1 概要

EUR サーバ帳票出力機能では、複数の帳票ファイルを帳票セットで指定することもできますが、帳票セットで指定する場合は、個数の上限はなくても、コマンドやシステム関数の引数に指定する文字数に制限があります。帳票セットの個数やファイルに指定できる文字数の上限に関係なく指定したい場合は、帳票セットを帳票セット指定ファイルに指定することをお勧めします。

帳票セット指定ファイルは、次のように複数の帳票ファイルを統合する順番と帳票に読み込むデータファイルを指定しておくファイルです。

図 12-1 帳票セット指定ファイル



12.4.2 形式

帳票セット指定ファイルは、メモ帳などのテキストエディタを起動して作成、または編集してください。任意の拡張子のファイルを使用できます。

帳票セット指定ファイルの形式を次に示します。

```
帳票セット1 Δ1 [Δ2  
  [帳票セット2 Δ1] ] [Δ2
```

⋮
〔帳票セットn Δ₁〕

(凡例)

Δ₁ : 0 個以上のタブ, または半角空白を示します。

Δ₂ : 改行コード (¥n) を示します。

帳票セット指定ファイルの編集方法を説明します。

■帳票セットの形式

帳票ファイル名Δn [, [マッピングデータΔn] [, [ユーザ定義データΔn] [, [しおり定義ファイル名]]]]
「マッピングデータ」と「ユーザ定義データ」に指定するファイル情報は、帳票を設計する時に使用したデータによって、次のように異なります。

• データファイルから読み込んだデータの場合

データファイル名を指定します。省略した場合は、帳票設計時に指定したデータファイル名が仮定されます。帳票設計時に指定したデータファイル名は、EUR 帳票作成機能の [データのプロパティ] ダイアログの [データ情報] タブで確認できます。

• データベースアクセス定義で抽出したデータを読み込んだ場合

可変記号値定義ファイル名を指定します。データベースアクセス定義で可変記号を設定しなかった場合、または可変記号の初期値で実行する場合は、可変記号値定義ファイル名の指定を省略できます。なお、データベースに接続して帳票にデータを読み込む場合は、起動部品やコマンドで接続情報ファイルを指定してください。接続情報ファイルが指定されていない場合は、可変記号値定義ファイルを指定してもデータファイルと見なされます。

●帳票セットの指定方法

- 帳票セットは、一つ以上指定してください。一つ以上の帳票セットが指定されていない場合は、エラー (KEEU036-E) になります。指定できる帳票セットの上限はありません。
- 帳票セットは、「"」で囲まないでください。帳票セットを「"」で囲んだ場合は、すべてのファイルを帳票ファイルと見なします。
- 「Δn」は、ファイル名を区切るコンマ「,」の前に、0 個以上の半角空白、または 0 個以上の改行コード (¥t) が指定できることを示します。
- 帳票ファイルは必ず指定してください。帳票ファイルが指定されていない場合は、エラー (KEEU036-E) になります。

●ファイルの指定のしかた

- ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名を相対パス、またはファイル名だけで指定した場合、コマンド、起動部品、または環境変数で指定したフォルダから読み込まれます。
- ファイル名に空白が含まれている場合は、個々のファイルを「"」で囲んでください。例えば、帳票ファイル名に空白が含まれている場合は、「"Report 1.fms",Mapdata.csv」のように指定します。

12.4.3 サンプルの内容

EUR 帳票作成機能で提供されている帳票セット指定ファイルのサンプル例を示します。

(1) サンプル帳票「請求書」の場合

サンプル帳票「請求書」を出力する時に指定する、サンプル帳票セット指定ファイル (formset01 (複数様式帳票例 1) .txt) の指定例を示します。

一つのデータファイルを二つの異なる様式 (帳票) で共有しています。

■サンプル帳票セット指定ファイル (formset01 (複数様式帳票例 1) .txt) の内容

表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例 1) .fms,表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例 1) .csv

表紙次紙形式の帳票__次紙 (複数様式帳票例 1) .fms,表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例 1) .csv

(2) サンプル帳票「従業員勤務歴カード」の場合

サンプル帳票「従業員勤務歴カード」を出力する時に指定する、サンプル帳票セット指定ファイル (formset02 (複数様式帳票例 2) .txt) の指定例を示します。

二つのデータファイルと三つの異なる様式 (帳票) を使用しています。

■サンプル帳票セット指定ファイル (formset02 (複数様式帳票例 2) .txt) の内容

従業員勤務歴 1 (複数様式帳票例 2) .fms,従業員勤務歴 1 (複数様式帳票例 2) .csv

従業員勤務歴 1 - 次紙 (複数様式帳票例 2) .fms,従業員勤務歴 1 (複数様式帳票例 2) .csv

従業員勤務歴 2 (複数様式帳票例 2) .fms,従業員勤務歴 2 (複数様式帳票例 2) .csv

(3) サンプル帳票「保険申込書」の場合

サンプル帳票「保険申込書」を出力する時に指定する、サンプル帳票セット指定ファイル (formset03 (複数様式帳票例 3) .txt) の指定例を示します。

一つのデータファイルを三つの異なる様式 (帳票) で共有しています。

■サンプル帳票セット指定ファイル (formset03 (複数様式帳票例 3) .txt) の内容

保険申込書 (複数様式帳票例 3) .fms,保険申込書 (複数様式帳票例 3) .csv

保険申込書__代理店控 (複数様式帳票例 3) .fms,保険申込書 (複数様式帳票例 3) .csv

保険申込書__契約者控 (複数様式帳票例 3) .fms,保険申込書 (複数様式帳票例 3) .csv

12.5 文書しおり定義ファイル

12.5.1 概要

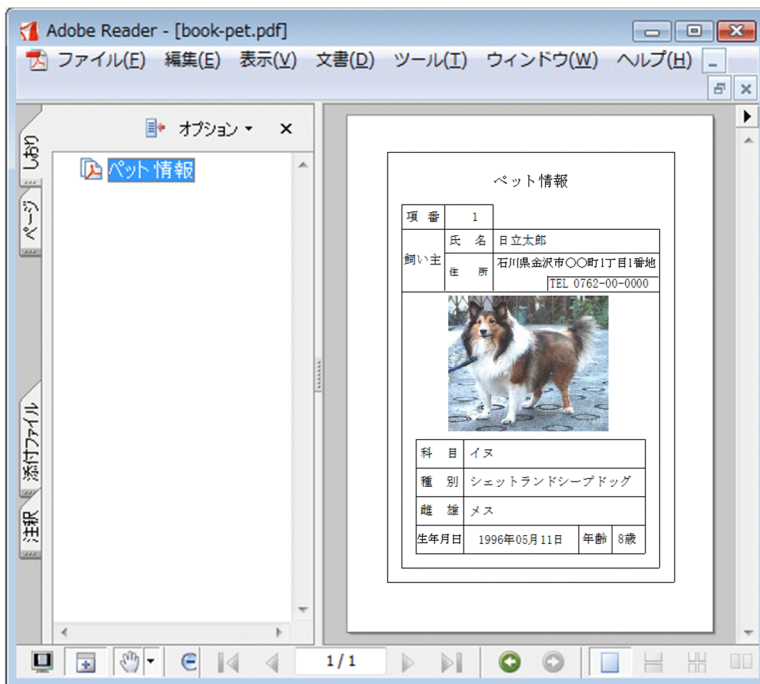
EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルにしおりを付けられます。

しおりを付けると、PDF 形式ファイルを開いたときに表示されるしおりをクリックして、特定のページに移動できるようになります。

しおりは階層構造で、「PDF 形式ファイルを示すしおり」と「サブ文書の情報を示すしおり」があり、「PDF 形式ファイルを示すしおり」は文書しおり定義ファイルで定義します。

「PDF 形式ファイルを示すしおり」は PDF 形式ファイルごとに一つ作成できます。

「PDF 形式ファイルを示すしおり」を付けると、PDF 形式ファイルを開いた場合、次のように表示されます。



「PDF 形式ファイルを示すしおり」を付ける場合、しおりとして表示する文字列と、しおりをクリックしたときのページの表示方法を文書しおり定義ファイルで指定します。

12.5.2 形式

キーワード=値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 12-4 文書しおり定義ファイルのキーワードに指定できる値

キーワード	値
TITLE	「PDF 形式ファイルを示すしおり」の文字列を指定します。
SCALE	ページの表示方法を指定します。
BOOKMARK	しおりを開いた状態で表示するか、閉じた状態で表示するかを指定します。

12.5.3 キーワード

文書しおり定義ファイルに指定するキーワード TITLE, SCALE, および BOOKMARK は、出力する PDF 形式ファイルごとに 1 組だけ指定します。一つの PDF 形式ファイルに複数組のキーワードを指定した場合は、エラー (KEEU028-E) になります。

文書しおり定義ファイルに指定するキーワードとオプションは、大文字、小文字の区別をしません。

(1) TITLE

「PDF 形式ファイルを示すしおり」の文字列を指定します。「PDF 形式ファイルを示すしおり」は、文書情報設定ファイルに設定したタイトルをそのまま利用することもできますし、任意の文字列を設定することもできます。

■キーワード TITLE の形式

TITLE={docinfotitle | "文字列"}

docinfotitle

文書情報設定ファイルのキーワード TITLE に指定されている文字列を、PDF 形式ファイルを示すタイトルとします。

オプション docinfotitle を指定したのに文書情報設定ファイルのキーワード TITLE に文字列が指定されていない場合は、しおりパレットにはタイトルを表示しません。文書情報設定ファイルについては、「11.4 文書情報設定ファイル」を参照してください。

文字列

「PDF 形式ファイルを示すしおり」に任意の文字列を指定する場合は、文字列を「"」で囲んで指定します。文字列が「"」で囲まれていない場合、または「"」のように空の文字列で指定されている場合は、エラー (KEEU028-E) になります。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E"UR"」と指定します。

• 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

文字列に制御文字は指定できません。文字列に制御文字を指定した場合は、半角空白に置き換えて出力されます。

- **指定できる文字列の長さ**

指定できる文字列の長さに制限はありません。

(2) SCALE

ページの表示方法を指定します。キーワード SCALE の指定を省略した場合は、倍率 100 (%) で表示されます。

ページの表示位置は、Adobe Reader の仕様と同じです。

■キーワード SCALE の形式

SCALE = [倍率 | fit | fith]

倍率

表示するページの倍率を、10~1,600 (%) の整数で指定します。

fit

ページ全体が、表示ウィンドウに収まるサイズで表示されます。

オプション fit を [""] で囲んで指定すると、エラー (KEEU028-E) になります。

fith

ページの横幅が、表示ウィンドウの横幅と一致するように表示されます。

オプション fith を [""] で囲んで指定すると、エラー (KEEU028-E) になります。

(3) BOOKMARK

しおりを開いた状態で表示するか、閉じた状態で表示するかを指定します。省略した場合は、open が仮定されます。open, close 以外を指定した場合、およびオプションを [""] で囲んだ場合はエラー (KEEU028-E) となります。open, close は半角文字で指定してください。

■キーワード BOOKMARK の形式

BOOKMARK = [open | close]

open

しおりが開いた状態で表示されます。

close

しおりが閉じた状態で表示されます。

12.6 しおり定義ファイル

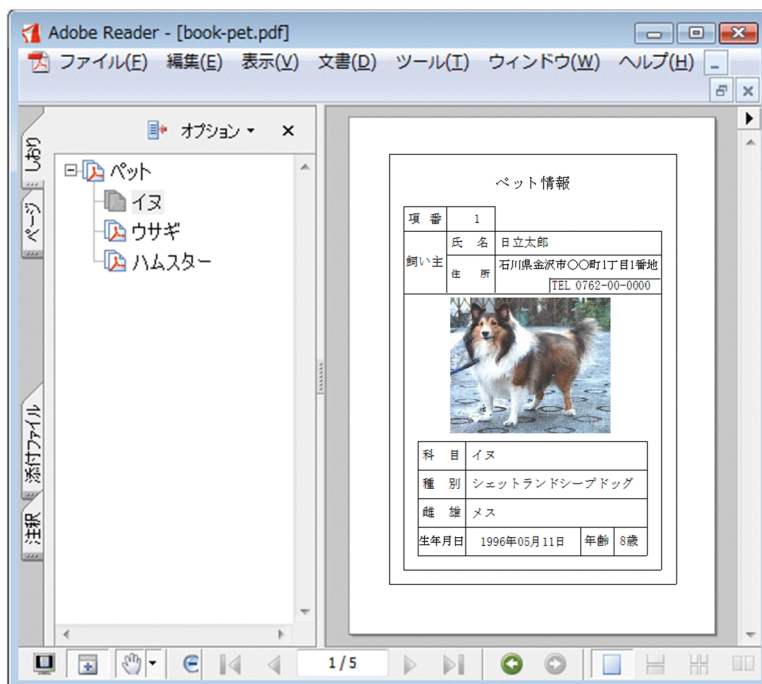
12.6.1 概要

EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルにしおりを付けられます。

しおりには、「PDF 形式ファイルを示すしおり」と「サブ文書の情報を示すしおり」があります。

「サブ文書の情報を示すしおり」を付ける場合、しおり定義ファイルに、しおりの文字列と PDF 形式ファイルのページの表示方法を設定します。

「サブ文書の情報を示すしおり」を指定すると、PDF 形式ファイルを開いた場合、次のように表示されます。



サブ文書の情報には、「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」と「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」があります。

- 「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」の文字列
- 「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」の文字列
- PDF 形式ファイルのページの表示方法

しおり定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

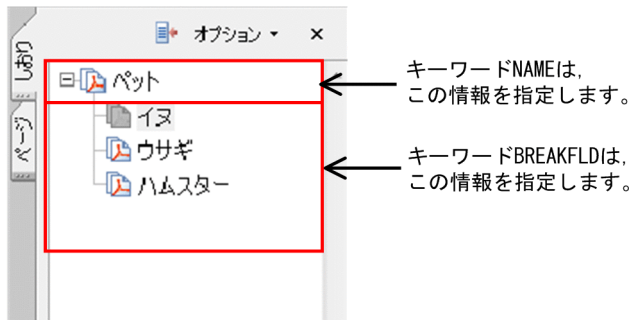
12.6.2 形式

キーワード=値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 12-5 しおり定義ファイルのキーワードに指定できる値

キーワード	値
NAME	「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」を指定します。
BREAKFLD	「(帳票に出力する) データのまとまりを表す項目のしおり」を指定します。



12.6.3 キーワード

しおり定義ファイルに指定するキーワードとオプションは、大文字、小文字の区別をしません。

(1) NAME

「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」の文字列（帳票名）を指定します。NAME キーワードは、出力する帳票ファイルごとに一つだけ指定します。一つの帳票ファイルに複数の NAME キーワードを指定した場合は、エラー（KEEU027-E）になります。

■キーワード NAME の形式

NAME="文字列" [,倍率 | ,fit | ,fith]

文字列

「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」の文字列（帳票名）を「"」で囲んで指定します。文字列が「"」で囲まれていない場合、または「"'」のように空の文字列で指定されている場合は、エラー（KEEU027-E）になります。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

• 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

文字列は、任意の文字列で指定できますが、制御文字は指定できません。文字列に制御文字を指定した場合は、半角空白に置き換えて出力されます。

- **指定できる文字列の長さ**

指定できる文字列の長さに制限はありません。

倍率 | fit | fith

ページの表示方法を指定します。指定を省略した場合は、100 (%) で表示されます。

ページの表示位置は、Adobe Reader の仕様と同じです。

倍率

表示するページの倍率を、10~1,600 (%) の整数で指定します。

fit

ページ全体が、表示ウィンドウに収まるサイズで表示されます。

オプション fit を [""] で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

fith

ページの横幅が、表示ウィンドウの横幅と一致するように表示されます。

オプション fith を [""] で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

(2) BREAKFLD

「(帳票に出力する) データのまとまりを表す項目のしおり」のキーとなるフィールド名を指定します。

キーワード BREAKFLD は、5 行まで (5 階層表示) 指定できます。6 行以上指定した場合は、エラー (KEEU027-E) になります。階層は、キーワード BREAKFLD に指定したフィールド順です。キーワード BREAKFLD に指定したフィールド中のデータが直前のデータと異なる値の場合 (一番目のデータも含む)、その値が階層の中を分類する文字列として表示されます。

■キーワード BREAKFLD の形式

BREAKFLD="フィールド名 1" [,倍率 1 | ,fit | ,fith]

BREAKFLD="フィールド名 2" [,倍率 2 | ,fit | ,fith]

:

BREAKFLD="フィールド名 5" [,倍率 5 | ,fit | ,fith]

フィールド名

「(帳票に出力する) データのまとまりを表す項目のしおり」のキーとなるフィールド名を [""] で囲んで指定します。フィールド名が [""] で囲まれていない場合は、エラー (KEEU027-E) になります。

キーとなるフィールド名には、出力するデータのどのフィールドを指定してもかまいませんが、帳票を設計した時に設定された改ページや改ブロックのキーとなるフィールドと同じフィールド名を指定すると、帳票を設計した時と同じ情報の帳票を表示できます。どのフィールドが改ページや改ブロックのキーとなるフィールドに設定されているかを知るには、EUR 帳票作成機能で確認してください。

指定したフィールドのデータが画像データの場合は、画像ファイル名がしおりとして表示されます。また、指定したフィールドのデータが空データだった場合は、「(空データ)」がしおりとして表示されます。

次に示すフィールド名をキーワード BREAKFLD に指定した場合、エラーにはなりませんが、指定した n 番目のしおりは出力されません。

- 帳票を設計した時にフィールド定義されていないフィールド名
- 帳票に貼り付けられていないフィールド名

倍率 | fit | fith

ページの表示方法を指定します。指定を省略した場合は、100 (%) で表示されます。

実際の大きさで表示する場合は、表示方法の指定を省略するか、または「100」を指定してください。

ページの表示位置は、Adobe Reader の仕様と同じです。

倍率

表示するページの倍率を、10~1,600 (%) の整数で指定します。

fit

ページ全体が、表示ウィンドウに収まるサイズで表示されます。

オプション fit を「」で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

fith

ページの横幅が、表示ウィンドウの横幅と一致するように表示されます。

オプション fith を「」で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

12.7 暗号化設定ファイル

12.7.1 概要

PDF 形式ファイルの改ざん、および情報の漏えいを防ぐために、PDF 形式ファイルを暗号化できます。

PDF 形式ファイルを暗号化するには、セキュリティ属性を暗号化設定ファイルに設定します。

暗号化設定ファイルには、次に示すセキュリティ属性を設定できます。

- ユーザパスワード

PDF 形式ファイルを開覧する時に入力するパスワードを指定します。ユーザパスワードが指定されていると、PDF 形式ファイルを開覧する時に、パスワード入力及要求されます。

- オーナパスワード

セキュリティ属性を設定、または変更したり、PDF に権限を設定したりする時に入力するパスワードを指定します。

- 印刷

PDF から印刷することを禁止します。

- 文書の変更

PDF 文書情報の変更を禁止します。

- 内容のコピー、または抽出

内容のコピー、または抽出を禁止します。

- 注釈とフォームフィールドの作成

注釈とフォームフィールドの作成を禁止します。

12.7.2 形式

キーワード=値

セキュリティ属性を、「キーワード=値」の形式で記述します。キーワードに指定できる値を次に示します。

表 12-6 暗号化設定ファイルのキーワードに指定できる値

キーワード	値
OwnerPassword	PDF に、セキュリティ属性と権限を設定する時のパスワードを指定します。
DisablePrint	PDF からの印刷を禁止するかどうかを指定します。
DisableChange	PDF 文書情報の変更を禁止するかどうかを指定します。
DisableCopy	PDF 中の内容のコピー、または抽出を禁止するかどうかを指定します。

キーワード	値
DisableAdd	注釈とフォームフィールドの作成を禁止するかどうかを指定します。
UserPassword	PDF 形式ファイルを開覧する時のパスワードを指定します。
EncryptionMode	PDF 形式ファイルを暗号化する時の暗号化モードを指定します。

キーワードの指定は、PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合と、PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合とで異なります。キーワードと対応する出力方法について、次に示します。

表 12-7 キーワードと対応する出力方法

キーワード	PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合	PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合
OwnerPassword	○	◎ ※1
DisablePrint	○	○
DisableChange	○	○
DisableCopy	○	○
DisableAdd	○	○
UserPassword	○	○ ※2
EncryptionMode	○	○

(凡例)

- ◎：必ず指定するキーワードです。
- ：指定を省略できるキーワードです。

注※1

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合、暗号化設定ファイルの指定は省略できますが、暗号化設定ファイルを指定するときは、キーワード OwnerPassword を必ず指定してください。省略した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

注※2

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合は、PDF 仕分け定義ファイルでユーザパスワードを指定します。そのため、暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword は、指定されていても無視されます。

12.7.3 キーワード

暗号化設定ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

(1) OwnerPassword

PDF に、セキュリティ属性と権限を設定する場合のパスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードを複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合、パスワードは、キーワード OwnerPassword、またはキーワード UserPassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー (KEEU033-E) になります。

また、キーワード OwnerPassword とキーワード UserPassword には、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードを指定した場合は、エラー (KEEU034-E) になります。

■キーワード OwnerPassword の形式

OwnerPassword=文字列

文字列

パスワード文字列を指定します。

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

- 半角数字
0~9
- 半角英字
A~Z, a~z
- 半角記号
! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~
- 半角空白

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

パスワードの暗号化については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

(2) DisablePrint

PDF からの印刷を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

■キーワード DisablePrint の形式

DisablePrint= [Yes | No]

Yes | No

Yes を指定すると、PDF からの印刷を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

No を指定すると、PDF からの印刷を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

(3) DisableChange

PDF 文書情報の変更を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

■キーワード DisableChange の形式

DisableChange= [Yes | No]

Yes | No

Yes を指定すると、PDF 文書情報の変更を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

No を指定すると、PDF 文書情報の変更を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

(4) DisableCopy

PDF 中の内容のコピー、または抽出を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

■キーワード DisableCopy の形式

DisableCopy= [Yes | No]

Yes | No

Yes を指定すると、PDF 中の内容のコピー、または抽出を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

No を指定すると、PDF 中の内容のコピー、または抽出を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

(5) DisableAdd

注釈とフォームフィールドの作成を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

■キーワード DisableAdd の形式

DisableAdd= [Yes | No]

Yes | No

Yes を指定すると、注釈とフォームフィールドの作成を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

No を指定すると、注釈とフォームフィールドの作成を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

(6) UserPassword

PDF 形式ファイルを閲覧する時のパスワードを指定します。パスワードには、暗号化したパスワードも指定できます。パスワードを複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

• PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合

PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合、パスワードは、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword、またはキーワード UserPassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー (KEEU033-E) になります。

また、キーワード OwnerPassword とキーワード UserPassword には、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードを指定した場合は、エラー (KEEU034-E) になります。

• PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合は、ユーザパスワードを PDF 仕分け定義ファイルの userpassword で指定します。そのため、暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword の指定は不要です。指定されていても無視されます。

パスワードは、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword、または PDF 仕分け定義ファイルの userpassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー (KEEU033-E) になります。

また、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword と PDF 仕分け定義ファイルの userpassword には、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードを指定した場合は、エラー (KEEU034-E) になります。

PDF 仕分け定義ファイルについては、「[12.8.2 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合](#)」を参照してください。

■キーワード UserPassword の形式

UserPassword=文字列

文字列

パスワードの文字列を指定します。

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

- 半角数字

0~9

- 半角英字

A~Z, a~z

- 半角記号

! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

- 半角空白

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

パスワードの暗号化については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

(7) EncryptionMode

PDF 形式ファイルを暗号化する場合の暗号化モードを指定します。

■キーワード EncryptionMode の形式

EncryptionMode= [1 | 2]

1 | 2

暗号化モードを設定します。

指定値とその説明を次に示します。

表 12-8 キーワード EncryptionMode の指定値

指定値	説明
1	PDF 形式ファイルを 128 ビットの鍵長で暗号化します。作成される PDF 形式ファイルのバージョンは 1.6 となります。
2	PDF 形式ファイルを 128 ビットの鍵長で暗号化します。作成される PDF 形式ファイルのバージョンは 1.6 となります。

バージョン 10-00 以降では、1 と 2 のどちらを指定しても、暗号強度は同じです。EUR がより暗号強度の高い暗号をサポートしたときは、1 を指定すると暗号強度が低い方の暗号、2 を指定すると暗号強度が高い方の暗号で暗号化を行います。

キーワード EncryptionMode の指定を省略した場合は、「2」が仮定されます。

指定できる文字は、半角数字の「1」または「2」です。指定できない文字を使用した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

12.8 PDF 仕分け定義ファイル

PDF 形式ファイルを仕分け出力できます。

PDF 形式ファイルの仕分け出力とは、データ中のキーとなるフィールドの値ごとに、異なる PDF 形式ファイルに分類して出力することです。

PDF 形式ファイルを仕分け出力するには、PDF 仕分け定義ファイルが必要です。

PDF 仕分け定義ファイルは、PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合と PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合とで定義内容が異なります。

12.8.1 PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合

(1) 概要

PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合、仕分けするキーの数やフィールド名を PDF 仕分け定義ファイルに指定します。

(2) 形式

PDF 仕分け定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイルの形式を次に示します。項目は、コンマ「,」で区切って記述します。

```
KEYFIELD, キー数, 仕分けキーフィールド名1... - KEYFIELD行  
[TOTAL, 出力先ファイル名] - TOTAL行  
DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ1... - DATA行  
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ2...] - DATA行  
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ3...] - DATA行  
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ4...] - DATA行  
:  
:
```

(3) キーワード

PDF 仕分け定義ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) KEYFIELD 行

KEYFIELD 行は、必ず 1 行目に指定してください。1 行目が KEYFIELD 行でなかったり、KEYFIELD 行が複数指定されていたりした場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

■KEYFIELD 行の形式

KEYFIELD,キー数,仕分けキーフィールド名 1 [[,仕分けキーフィールド名 2] ,…]

KEYFIELD

キーワード KEYFIELD を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

キー数

仕分けするキーの数を、1 以上の整数で指定します。0 を指定した場合、または指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名

仕分けするキーフィールド名を、「キー数」で指定した数だけコンマ [,] で区切って指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

また、指定されたフィールド名の数と「キー数」で指定した数が合わなかったり、仕分けキーフィールド名に同じフィールド名を複数指定したりした場合も、エラー (KEEU020-E) になります。

指定した仕分けキーフィールド名に一致するフィールドがない場合は、エラー (KEEU019-E) になります。

(b) TOTAL 行

PDF 仕分け定義ファイルの TOTAL 行は、省略できます。ただし、総集計ページがある場合や、総集計ページを別ファイルにする場合は、指定してください。

TOTAL 行が複数指定されている場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

■TOTAL 行の形式

[TOTAL,出力先ファイル名]

TOTAL

キーワード TOTAL を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

出力先ファイル名

総集計ページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

(c) DATA 行

複数の行で「仕分けキーフィールドのデータ」に指定したデータがすべて同じ場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

■DATA 行の形式

DATA,出力先ファイル名,仕分けキーフィールド名 1 のデータ 1 [[,仕分けキーフィールド名 2 のデータ 1] …]

[DATA,出力先ファイル名,仕分けキーフィールド名 1 のデータ 2 [[,仕分けキーフィールド名 2 のデータ 2] …]]

:

DATA

キーワード DATA を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

出力先ファイル名

仕分けするページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名のデータ

KEYFIELD 行の「仕分けキーフィールド名」に対応するデータを、「キー数」で指定した数だけコンマ「,」で区切って指定します。指定されたすべてのデータで、マッピングデータファイルと照合して仕分けされます。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

また、指定した「仕分けキーフィールドのデータ」の数と「キー数」で指定した数が合わなかった場合も、エラー (KEEU020-E) になります。

●データの指定のしかた

- データの文字列は、そのまま記述するか、または「"」で囲みます。
- データ中に「"」が使用されている場合は、「"」を二つ続けて記述し、データの両端を「"」で囲んでください。
[E"UR] とする場合は、「"E""UR"」と指定します。
- データ中に区切り文字が使用されている場合は、文字列の両端を「"」で囲んでください。
[,] が区切り文字の場合、「EU,R] とするときは、「"EU,R"」と指定します。

12.8.2 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合

(1) 概要

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合、仕分けするキーの数やフィールド名を PDF 仕分け定義ファイルに指定します。

(2) 形式

PDF 仕分け定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイルの形式を次に示します。項目は、コンマ「,」で区切って記述します。

KEYFIELD, キー数, 仕分けキーフィールド名1...	- KEYFIELD行
[TOTAL, 出力先ファイル名[, userpassword]]	- TOTAL行
DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ1...[, userpassword]	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ2...[, userpassword]]	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ3...[, userpassword]]	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ4...[, userpassword]]	- DATA行
⋮	

(3) キーワード

PDF 仕分け定義ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) KEYFIELD 行

KEYFIELD 行は、必ず 1 行目に指定してください。1 行目が KEYFIELD 行でなかったり、KEYFIELD 行が複数指定されていたりした場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

■KEYFIELD 行の形式

KEYFIELD,キー数,仕分けキーフィールド名 1 [[,仕分けキーフィールド名 2] ,…]

KEYFIELD

キーワード KEYFIELD を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

キー数

仕分けするキーの数を、1 以上の整数で指定します。0 を指定した場合、または指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名

仕分けするキーフィールド名を、「キー数」で指定した数だけコンマ [,] で区切って指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

また、指定されたフィールド名の数と「キー数」で指定した数が合わなかったり、仕分けキーフィールド名に同じフィールド名を複数指定したりした場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

指定した仕分けキーフィールド名に一致するフィールドがない場合は、エラー (KEEU019-E) になります。

(b) TOTAL 行

TOTAL 行は、省略できます。ただし、総集計ページがある場合や、総集計ページを別ファイルにする場合は、指定してください。

TOTAL 行を複数指定されている場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

■TOTAL 行の形式

[TOTAL,出力先ファイル名 [,userpassword]]

TOTAL

キーワード TOTAL を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

出力先ファイル名

総集計ページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

userpassword

「出力先ファイル名」で指定した PDF 形式ファイルに対するユーザパスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードの暗号化については、マニュアル「EUR 帳票出力機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

「userpassword」の指定は省略できます。指定を省略する場合は、「userpassword」の直前のコンマ「,」も省略できます。

●ユーザパスワードの文字列に指定できる文字

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

- 半角数字
0~9
- 半角英字
A~Z, a~z
- 半角記号
! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

文字列にコンマ「,」を指定する場合は、コンマ「,」を「"」で囲んでください。

- 半角空白

●ユーザパスワードの文字列長

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

(c) DATA 行

DATA 行に指定した「仕分けキーフィールド名のデータ」とすべて同じ行が複数指定されている場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

■DATA 行の形式

DATA,出力先ファイル名,仕分けキーフィールド名 1 のデータ 1 [[,仕分けキーフィールド名 2 のデータ 1] …] [,userpassword]

[DATA,出力先ファイル名,仕分けキーフィールド名 1 のデータ 2 [[,仕分けキーフィールド名 2 のデータ 2] …] [,userpassword]]

:

DATA

キーワード DATA を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

出力先ファイル名

仕分けするページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名のデータ

KEYFIELD 行の「仕分けキーフィールド名」に対応するデータを、「キー数」で指定した数だけコンマ「,」で区切って指定します。指定されたすべてのデータで、マッピングデータファイルと照合して仕分けされます。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

また、指定された仕分けキーフィールド名のデータ数と「キー数」で指定した数が合わなかった場合も、エラー (KEEU020-E) になります。

●データの指定のしかた

- データの文字列は、そのまま記述するか、または「"」で囲みます。
- データ中に「"」が使用されている場合は、「"」を二つ続けて記述し、データの両端を「"」で囲んでください。
「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。
- データ中に区切り文字が使用されている場合は、文字列の両端を「"」で囲んでください。
「,」が区切り文字の場合、「EU,R」とするときは、「"EU,R"」と指定します。

userpassword

「出力先ファイル名」で指定した、仕分けするページを出力する PDF 形式ファイルに対するユーザパスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードの暗号化については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

「userpassword」の指定は省略できます。指定を省略する場合は、「userpassword」の直前のコンマ「,」も省略できます。

●ユーザパスワードの文字列に指定できる文字

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

- 半角数字
0~9
- 半角英字
A~Z, a~z
- 半角記号
! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~
- 半角空白

文字列にコンマ「,」を指定する場合は、コンマ「,」を「"」で囲んでください。

●ユーザパスワードの文字列長

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

12.8.3 注意事項

仕分けキーフィールドの指定は、ページごとにキーフィールドのデータと仕分け情報を比較して、仕分けされます。次のような帳票の場合は、仕分けをするときに注意してください。

- **1 ページ中に仕分けキーフィールドのデータが、複数繰り返して表示されている帳票の場合**

仕分け出力は、ページ単位に仕分けをします。そのため、1 ページ中に仕分けキーフィールドのデータが複数繰り返して出力されている場合は、そのページの最初のデータが仕分けの判定対象になります。例えば、1 ページに東京と横浜のデータが繰り返して出力されていると、東京で仕分けした PDF 形式ファイルに横浜のデータも一緒に出力されます。

キーフィールドのデータごとに PDF 形式ファイルを仕分ける場合は、仕分けをする前に帳票作成機能でキーフィールドに改ページを設定して、仕分けキーフィールドのデータが 1 ページに一つだけ出力されるように設計してください。

- **集計ページのある帳票の場合**

集計ページは、前ページの最後のデータを仕分けの判定対象にします。

例えば、前ページが横浜のデータであれば、集計ページも横浜に配布されます。

キー集計と総集計の集計ページがある場合、前ページが横浜のデータであれば、総集計の集計ページは横浜だけに配布されます。総集計のデータを配布先すべてに出力する場合は、帳票作成機能ですべてのキー集計の集計ページに集計アイテムの総集計を貼り付けてください。

12.9 制御情報付データファイル

12.9.1 概要

制御情報付データファイルは、BSP-RM 連携機能、および上位主導型で帳票自動出力機能を使用するときに準備するファイルです。マッピングデータに帳票の出力方法や出力先などの制御情報を付加したデータファイルです。

制御情報付データファイルには、次に示す要素を必須で定義します。帳票ファイル名、ユーザ定義データファイル名、しおり定義ファイル名[※]、およびマッピングデータは複数指定できます。

- eurpmc コマンドを実行するときのオプション[※]
- 帳票ファイル名、ユーザ定義データファイル名、しおり定義ファイル名[※]
- マッピングデータ

注[※]

上位主導型の帳票自動出力機能で使用する制御情報付データファイルに定義する要素です。BSP-RM 連携機能で使用する制御情報付データファイルではサポートしていません。

12.9.2 形式

制御情報付データファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

制御情報付データファイルの形式を次に示します。

BSP-RM 連携機能で使用する制御情報付データファイルの形式

```
△1<!eur_control start>△1△2
△1eur_fms△1=△1帳票ファイル名1△1 [, △1 [ユーザ定義データファイル名1△1] ] △2
△1<!eur_control end>△1△2
 [マッピングデータ1]
 [△1<!eur_control start>△1△2
 △1eur_fms△1=△1帳票ファイル名2△1 [, △1 [ユーザ定義データファイル名2△1] ] △2
 △1<!eur_control end>△1△2
 [マッピングデータ2] ]
  :
  :
```

(凡例)

- △₁ : 0 個以上のタブ、半角空白、または全角空白を示します。
- △₂ : 改行コード (¥n)、または (¥r¥n) を示します。

上位主導型の帳票自動出力機能で使用する制御情報付データファイルの形式

```
△1<!eur_option start>△1△2
△1eur_option△1=△1eurpmcコマンドのオプション文字列△2
△<!eur_option end>△1△2
△1<!eur_control start>△1△2
△1 [eur_fms△1=△1帳票ファイル名1△1 [, △1 [ユーザ定義データファイル名1△1] [, △1 [しおり
定義ファイル名1△1] ] ] ] △2
△1<!eur_control end>△1△2
 [マッピングデータ1]
 [△1<!eur_control start>△1△2
 △1 [eur_fms△1=△1帳票ファイル名2△1 [, △1 [ユーザ定義データファイル名2△1] [, △1 [しおり
定義ファイル名2△1] ] ] ] △2
△<!eur_control end>△1△2
 [マッピングデータ2] ]
:
:
```

(凡例)

△₁ : 0 個以上のタブ, 半角空白, または全角空白を示します。

△₂ : 改行コード (¥n), または (¥r¥n) を示します。

12.9.3 キーワード

制御情報付データファイルに指定するキーワードは, 大文字, 小文字を区別します。

(1) eurpmc コマンドを実行するときのオプションの定義領域

上位主導型の帳票自動出力機能で使用する制御情報付データファイルの場合に, ファイル監視サービスから呼び出す eurpmc コマンドに実行するときのオプションを定義する領域です。

●<!eur_option start>行

<!eur_option start>

オプションの開始行を示すキーワードです。半角小文字で指定します。

必ず指定してください。

●eur_option 行

eur_option

オプションの指定行を示すキーワードです。半角小文字で指定します。

必ず指定してください。

キーワード eur_option は, <!eur_option start>行と<!eur_option end>行の間に一つだけ定義できます。

次に示す場合は, エラー (KEEU1514-E) になります。

- キーワード eur_option が複数存在する場合

- キーワード eur_option 以外の行が存在する場合

eurpmc コマンドのオプション文字列

eurpmc コマンドを実行するときのオプションを文字列で指定します。

オプションの指定値に半角空白を含む場合は、指定値全体を「」で囲んで指定します。

また、eurpmc コマンドのオプションの指定には、ファイル名変数を使用することができます。

指定できるオプション、オプションの形式、およびファイル名変数については、「12.10 起動パラメタファイル」を参照してください。

eur_option 行に帳票ファイル名 (/rf オプション) を指定する場合は、帳票ファイル名の指定数がマッピングデータの定義領域の指定数と同じになるようにしてください。帳票ファイル名の指定数がマッピングデータの定義領域の指定数より少ないときは、エラー (KEEU1514-E または KEEU3014-E) になります。

●<!eur_option end>行

<!eur_option end>

オプションの終了行を示すキーワードです。半角小文字で指定します。

必ず指定してください。指定していない場合は、エラー (KEEU1514-E) になります。

(2) 帳票ファイル名, ユーザ定義データファイル名, しおり定義ファイル名の定義領域

●<!eur_control start>行

<!eur_control start>

帳票セットの開始行を示すキーワードです。半角小文字で指定します。

必ず指定してください。

帳票セットの開始行から、次の帳票セットの開始行、またはファイルの終端までを一つの帳票セットとして認識します。

帳票セットの指定がない場合は、エラー (KEEU1514-E または KEEU3014-E) になります。

●eur_fms 行

eur_fms

帳票セットの指定行を示すキーワードです。半角小文字で指定します。

キーワード eur_fms は、<!eur_control start>行と<!eur_control end>行の間に一つだけ定義できます。

BSP-RM 連携機能に使用する制御情報付データファイルの場合は、必ず指定してください。

次に示す場合は、エラー (KEEU1514-E または KEEU3014-E) になります。

- eur_fms 行が複数存在する場合
- eur_fms 行以外の行が存在する場合
- eur_fms 行が一つ目の<!eur_control start>行の前に存在する場合

帳票ファイル名※1

帳票ファイル名を指定します。絶対パスまたは相対パスで指定できます。

BSP-RM 連携機能に使用する制御情報付データファイルの場合、またはキーワード eur_fms を定義した場合は、必ず指定してください。

上位主導型の帳票自動出力機能で使用する制御情報付データファイルの場合、eur_fms 行に帳票ファイル名を指定するときは、必ずすべての eur_fms 行に帳票ファイル名を指定してください。指定していない場合（省略した場合を含む）は、エラー（KEEU1514-E）になります。

帳票ファイル名のパスの指定については、「15.2.21 PATHMODE」を参照してください。

ユーザ定義データファイル名※1

ユーザ定義データファイル名を指定します。絶対パスまたは相対パスで指定できます。

しおり定義ファイル名※1 ※2

しおり定義ファイル名を指定します。絶対パスまたは相対パスで指定できます。

注※1

上位主導型の帳票自動出力機能で使用する制御情報付データファイルの場合は、eurpmc コマンドを実行するときのオプションの定義領域の eur_option 行に帳票セットを指定することもできます（eur_fms 行の指定は省略します）。ただし、帳票セットを eur_fms 行と eur_option 行の両方に指定した場合は、eur_fms 行の指定が有効となります。なお、eur_fms 行のユーザ定義データファイル名およびしおり定義ファイル名に「"」を指定した場合は、各ファイル名は指定なしとして扱われます（eur_option 行に各ファイル名を指定しても無効になります）。

注※2

上位主導型の帳票自動出力機能で使用する制御情報付データファイルに定義する要素です。BSP-RM 連携機能で使用する制御情報付データファイルではサポートしていません。

●<!eur_control end>行

<!eur_control end>

帳票セットの終了行を示すキーワードです。半角小文字で指定します。

必ず指定してください。

<!eur_control end>行が一つ目の<!eur_control start>行の前に存在する場合は、エラー（KEEU1514-E または KEEU3014-E）になります。

(3) マッピングデータの定義領域

マッピングデータを指定します。

帳票セットの終了行の直後の行から、次の帳票セットの開始行の直前の行、またはファイルの終端までを一つのマッピングデータとして認識します。

マッピングデータの指定を省略した場合は、マッピングデータファイルは生成されません。空のマッピングデータを指定する場合は、空行を 1 行指定します。

❗ 重要

<!eur_control start>行の文字列を、マッピングデータの単なる文字列として使用する場合は、文字列の両端を「"」で囲むなどで、<!eur_control start>行として認識されないように編集してください。

12.9.4 注意事項

- ジョブ実行プログラムが読み込む制御情報付データファイルの形式が不正の場合は、ジョブ実行プログラムがエラーメッセージをログに出力し、エラーで終了します。
- ジョブ実行プログラムが読み込む制御情報付データファイルの eur_fms 行または eur_option 行、および起動パラメタファイルのどれにも帳票ファイル名の指定がない場合は、ジョブ実行プログラムがエラーメッセージをログに出力し、エラーで終了します。
- キーワード eur_option に指定できないオプションまたはオプションの指定値を指定した場合は、エラーとなります。また、同じオプションを複数定義した場合は、最後に定義したオプションの指定値が有効になります。

12.10 起動パラメタファイル

12.10.1 概要

起動パラメタファイルは、BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) および事前定義型でファイル監視サービスを使用するときに準備するファイルです。BSP-RM 連携コマンドおよびファイル監視サービスから eurpmc コマンドを実行するときのオプションを定義します。

eurpmc コマンドの詳細については、「[1.2 eurpmc コマンドが提供するオプション](#)」を参照してください。

12.10.2 形式

起動パラメタファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

起動パラメタファイルには、eurpmc コマンドの一つ以上のオプションを 1 行または複数行の文字列で指定します。複数行で指定した場合は、改行コード (¥n または ¥r¥n) を半角空白に置き換えた文字列が eurpmc コマンドのオプションの文字列として使用されます。

なお、オプションの指定値に半角空白を含む場合は、指定値全体を「"」で囲んで指定します。

起動パラメタファイルの形式を次に示します。

```
〔△1〕 オプション△1オプションの指定値〔〔△1オプション△1オプションの指定値〕…〕〔オプション△1オプションの指定値〔〔△1オプション△1オプションの指定値〕…〕〕〔△1〕 △2〕
:
```

(凡例)

△₁ : 1 個以上の半角空白を示します。

△₂ : 改行コード (¥n または ¥r¥n) 示します。

事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルには、eurpmc コマンドのオプションの指定に**ファイル名変数**を使用することができます。

■ファイル名変数

ファイル名の「_」で区切った文字列を、eurpmc コマンドのオプションを指定する文字列の一部に動的に使用できる機能です。ファイル名変数の形式は「%00~%99」および「%~n」です。

「_」で区切った文字列のうち何番目の文字列を使用するかを、ファイル名変数の%01~%99で指定できます。

また、ファイル名全体はファイル名変数%00、ファイル名から拡張子以降(ピリオドを含む)を除外した文字列はファイル名変数%~n (n は半角英小文字で指定した場合のみ有効)で指定できます。なお、%~Nを指定した場合は単なる文字列として扱われます。

ファイル名から文字列を切り出す対象となるファイル、およびファイル名変数を使用できるファイルを次に示します。

事前定義型のファイル監視サービスを使用する場合

- ファイル名から文字列を切り出す対象となるファイル
マッピングデータファイル
- ファイル名変数を使用できるファイル
起動パラメタファイル (eurpmc コマンドのオプションの指定値)

上位主導型のファイル監視サービスを使用する場合

- ファイル名から文字列を切り出す対象となるファイル
制御情報付データファイル
- ファイル名変数を使用できるファイル
制御情報付データファイル (eurpmc コマンドのオプションの指定値)

事前定義型のファイル監視サービスで使用するマッピングデータファイルのファイル名が「請求書_20120911_部署A_.csv」の場合の、ファイル名変数の使用例を次に示します。

1. マッピングデータファイルのファイル名を、切り出したい文字列ごとに「_」で区切ります。
2. 「_」で区切られた文字列が先頭から順に、ファイル名変数の%01 から%99 に格納されます。なお、ファイル名変数%00 にはファイル名全体の文字列、ファイル名変数%*n* にはファイル名から拡張子以降（ピリオドを含む）を除外した文字列が格納されます。

```
請求書_20120911_部署A_.csv
```

```
%01 : 請求書  
%02 : 20120911  
%03 : 部署A  
%04 : .csv  
%00 : 請求書_20120911_部署A_.csv  
%n : 請求書_20120911_部署A_
```

1. ファイル名変数の%03 と%05 を使用して、起動パラメタファイルのオプションの指定値を指定します。

```
/m pdf /rf 請求書.fms /pdfn 請求書_%03.pdf /bm しおり_%05.txt
```

1. ファイル名変数の%03 が「部署 A」の文字列に、ファイル名変数の%05 が空文字に置き換わります。

```
/m pdf /rf 請求書.fms /pdfn 請求書_部署A.pdf /bm しおり_.txt
```

ファイル名変数の注意事項を次に示します。

- ファイル名変数で置き換える文字列に半角空白が含まれる場合は、ファイル名変数を含むオプションの指定値全体を「"」で囲んでください。例えば、ファイル名「請求書_20120911_部署 A△.csv」から切り出す文字列が「部署 A△」の場合、/pdfn オプションの指定値にファイル名変数「%03」を使用するときは、「/pdfn "請求書_%03.pdf"」のように指定します。
(凡例)

△：半角空白を示します。

- eurpmc コマンドのオプションの指定値として「%nn」（n は数値）および「%~n」は使用できません。例えば「/rac %20121231%」と指定した場合、「%20」が変数の値に置き換わります。ファイル名変数「%20」が「部署 A」の場合は、「/rac 部署 A121231%」となります。

12.10.3 指定できるオプション

起動パラメタファイルには、eurpmc コマンドのメソッドオプションとプロパティオプションを指定できます。メソッドオプションの指定は必須です。

(1) メソッドオプション (必須)

起動パラメタファイルには、eurpmc コマンドのメソッドオプションを/m オプションで次のように指定します。

```
/m {epf | eur | pdf | print | xlsx}
```

起動パラメタファイルに指定できる/m オプションの指定値を次に示します。それ以外の指定値を指定した場合はエラーになります。

表 12-9 起動パラメタファイルに指定できる/m オプションの指定値

種類	/m オプションの指定値	内容
出力	epf	<p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象の制御情報付データファイルに定義されているマッピングデータと帳票ファイル名に従って、/epfn オプションに指定したファイル名の EPF 形式ファイルを出力します。</p> <p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象のマッピングデータファイルと/rf オプションに指定した帳票ファイル名に従って、/epfn オプションに指定したファイル名の EPF 形式ファイルを出力します。</p> <p>/m オプションの指定値に epf を指定する場合は、/epfn オプションを必ず指定してください。事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合は、/rf オプションも必ず指定してください。</p>
	eur	<p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象の制御情報付データファイルに定義されているマッピングデータと帳票ファイル名に従って、/eum オプションに指定したファイル名の EUR 形式ファイルを出力します。</p>

種類	/m オプションの指定値	内容
出力	eur	<p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象のマッピングデータファイルと/lf オプションに指定した帳票ファイル名に従って、/eurn オプションに指定したファイル名の EUR 形式ファイルを出力します。</p> <p>/m オプションの指定値に eur を指定する場合は、/eurn オプションを必ず指定してください。事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合は、/lf オプションも必ず指定してください。</p>
	pdf	<p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象の制御情報付データファイルに定義されているマッピングデータと帳票ファイル名に従って、/pdfn オプションまたは/dsf オプションに指定したファイル名の PDF 形式ファイルを出力します。</p> <p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象のマッピングデータファイルと/lf オプションに指定した帳票ファイル名に従って、/pdfn オプションまたは/dsf オプションに指定したファイル名の PDF 形式ファイルを出力します。</p> <p>/m オプションの指定値に pdf を指定する場合は、/pdfn オプションまたは/dsf オプションのどちらかを必ず指定してください。事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合は、/lf オプションも必ず指定してください。</p>
	print	<p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象の制御情報付データファイルに定義されているマッピングデータと帳票ファイル名に従って、/pm オプションに指定した印刷方式で帳票を出力します。</p> <p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象のマッピングデータファイルと/lf オプションの帳票ファイル名に従って、/pm オプションに指定した印刷方式で帳票を出力します。</p> <p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合は、/lf オプションも必ず指定してください。</p>
	xlsx	<p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象の制御情報付データファイルに定義されているマッピングデータと帳票ファイル名に従って、/xlfn オプションに指定したファイル名の Excel 形式ファイルを出力します。</p>

種類	/m オプションの指定値	内容
出力	xlsx	<p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合</p> <p>出力対象のマッピングデータファイルと/rf オプションに指定した帳票ファイル名に従って、/xlfn オプションに指定したファイル名の Excel 形式ファイルを出力します。</p> <p>/m オプションの指定値に xlsx を指定する場合は、/xlfn オプションを必ず指定してください。事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合、/rf オプションも必ず指定してください。なお、/m オプションの指定値に xlsx を指定する場合は、/rf オプションの指定値に単数のファイルしか指定できません。</p>

(2) プロパティオプション

起動パラメタファイルに指定できるプロパティオプションと指定値を次に示します。

表 12-10 起動パラメタファイルに指定できるプロパティオプションと指定値

プロパティオプション	内容 (指定値)
/adpenv	<p>EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルの格納先のフォルダパス、またはファイルパスを指定します。</p> <p>フォルダパスを指定する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイルのデフォルトのファイル名 (EURPMADP.ini) が仮定されます。指定したフォルダには、デフォルトのファイル名で保存してください。指定したフォルダにデフォルトのファイル名のファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。</p> <p>フォルダパスを指定する場合の用途を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更 ・業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (フォルダ指定) ・次に示すコンポーネントの環境設定ファイルを同じフォルダに格納 <ul style="list-style-type: none"> ・ EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) ・ EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) ・ EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) ・ EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) <p>ファイルパスを指定する場合は、任意のファイル名を指定できます。指定したファイルが存在しない場合は、デフォルト値で動作します (環境設定ファイルの読み込み時に警告メッセージをログに出力します)。</p> <p>ファイルパスを指定する場合の用途を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境設定ファイルを任意の格納先およびファイル名に変更 ・業務アプリケーションごとの環境設定ファイルの切り替え (ファイル指定)

プロパティオプション	内容 (指定値)
/adpenv	<p>・ EUR Server Service, EUR Server - Adapter, EUR Server - Spool Service, EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイルの設定内容を同じファイルに指定 なお、各コンポーネントの環境設定ファイル間で重複するキーを指定した場合、そのキーを参照するコンポーネントすべてに有効となります。環境設定ファイル間で重複するキーを次の表に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PORT セクションの EURPM キー, EURPMCL キー, EURPMLS キー • PATH セクションの CONF キー, TEMP キー • ERROR セクションの LOGFILE キー, LOGLEVEL キー, LOGSIZE キー • OPTION セクションの DATABUFFSIZE キー, RMDIRINTERVALTIME キー, RMDIRRETRYCOUNT キー, SOCKBUFFSIZE キー, TEMPFILEDEL キー • THREAD セクションの EURPS キー, GENERAL キー, MERGE キー • TIMEOUT セクションの CONNECT キー, ERRIGNORE キー, PRTCLSLIST キー <p>/adpenv オプションを省略した場合は、デフォルトの格納先の環境設定ファイルが使用されます。</p> <p>EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。</p>
/bm	<p>しおり定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>しおり定義ファイル名を指定します。</p> <p>複数のファイルを指定できます。複数のファイルを指定する場合は、コンマ (,) で区切ってください。</p> <p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合 指定するファイル名は、制御情報付データファイルの eur_fms 行で指定する帳票ファイル名と同じ数を指定してください。</p> <p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合 指定するファイル名は、/rf オプションで指定する帳票ファイル名と同じ数を指定してください。</p> <p>/bm オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。</p>
/bmf	<p>文書しおり定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>文書しおり定義ファイル名を指定します。</p> <p>/bmf オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。文書しおり定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。</p>
/bmp	<p>文書しおり定義ファイルまたはしおり定義ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/bmf オプションで指定した文書しおり定義ファイルのパス、または/bm オプションで指定したしおり定義ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは/bmf オプションで指定する文書しおり定義ファイルと、/bm オプションで指定するしおり定義ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/bmp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/bmp	文書しおり定義ファイルまたはしおり定義ファイルを配置している EUR Server - Adapter 稼働マシンのパスを指定してください。
/c	印刷部数 (1~99) 印刷部数を指定します。 /c オプションを省略した場合は、1 が仮定されます。ただし、/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/c オプションを指定しても無視されます。 /c オプションは、/m オプションの指定値に print または epf のどちらかを指定している場合に有効となります。
/client	クライアント PC の IP アドレス (255.255.255.255 形式) 印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス、または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。 /client オプションを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。 /client オプションは、/m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に cl または spl のどちらかを指定している場合に有効となります。
/cry	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無 <ul style="list-style-type: none"> • 1: PDF 形式ファイルを暗号化する • 0: PDF 形式ファイルを暗号化しない PDF 形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。 /cry オプションを省略した場合は、0 が仮定されます。 /cry オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。
/cryf	暗号化設定ファイル名 * (255 バイト以内の文字列) 暗号化設定ファイル名を指定します。 /cryf オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。 暗号化設定ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。
/cfyfp	暗号化設定ファイルのパス * (255 バイト以内の文字列) /cryf オプションで指定した暗号化設定ファイルのパスを指定します。 /cfyfp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。 暗号化設定ファイルを配置している EUR Server - Adapter 稼働マシンのパスを指定してください。
/dest	出力先名 (80 バイト以内の文字列) スプールサーバの出力先名を指定します。 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。 /dest オプションは、次に示すどちらかの指定がある場合に有効です。 <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に sv、かつ/srm オプションの指定値に dest を指定している場合

プロパティオプション	内容 (指定値)
/dest	<ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl, かつ/srm オプションの指定値に sv を指定している場合
/df	<p>文書情報設定ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>文書情報設定ファイル名を指定します。</p> <p>EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、文書情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。</p> <p>OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは、/dfp オプションに指定することもできます。/dfp オプションにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フルパスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。 • 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。 • ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。 <p>文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。</p>
/dfp	<p>文書情報設定ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/df オプションで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。</p> <p>文書情報設定ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/dialog	<p>ダイアログの表示モード</p> <ul style="list-style-type: none"> • dialog : 印刷先指定ダイアログを表示する (対話型印刷) • auto : 直接印刷を実行する (自動印刷) • preview : プレビューウィンドウを表示する (対話型印刷プレビュー表示) • fullauto : 直接印刷を実行する (全自動印刷) • pvonly : 印刷を実行できないプレビューウィンドウを表示する (対話型印刷プレビュー表示限定) <p>クライアント PC で印刷する場合、ダイアログの表示モードを選択します。</p> <p>/dialog オプションを省略した場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値 (0~4) が仮定されます。/dialog オプションと環境設定ファイルの DISPPRINTDLG キーをどちらも省略した場合は、0 が仮定されます。/p オプションを指定している場合、かつ/dialog オプションに 0 または 2 を指定している場合は、1 が仮定されます。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/dialog	/dialog オプションは、/m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に cl または spl のどちらかを指定している場合に有効となります。
/dsf	<p>PDF 仕分け定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。</p> <p>/m オプションの指定値に pdf を指定する場合は、/dsf オプションまたは/pdfn オプションのどちらかを必ず指定してください。/dsf オプションと/pdfn オプションを同時に指定した場合は、/pdfn オプションは無視されます。</p> <p>/m オプションの指定値に pdf 以外を指定した場合は、/dsf オプションを指定しても無視されます。</p> <p>/dsf オプションを指定している場合は、/foutdest オプションは無効となります。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。</p> <p>PDF 仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。</p>
/dsfp	<p>PDF 仕分け定義ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/dsf オプションで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは、/dsf オプションで指定する PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/dsfp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。</p> <p>PDF 仕分け定義ファイルを配置している EUR Server - Adapter 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/enc	<p>パスワード暗号化鍵 (32 バイト以内の文字列)</p> <p>オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して、暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。</p> <p>パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 半角文字 0~9 • 半角英字 A~Z, a~z <p>/enc オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。</p>
/ep	<p>印刷終了ページ (0~999,999)</p> <p>印刷終了ページを指定します。</p> <p>/ep オプションを省略した場合、または指定した値が 0 の場合は、最終ページまで印刷されます。</p> <p>/ep オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, epf, または xlsx のどれかを指定している場合に有効となります。</p> <p>/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/ep オプションは無効となります。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/ep	制御情報付データファイル, または/rf オプションで複数の帳票ファイルを指定している場合は, /ep オプションは無効となります。
/epfn	<p>EPF 形式ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>入力または出力する EPF 形式ファイル名を指定します。</p> <p>EPF 形式ファイルの拡張子は, *.epf です。EPF 形式ファイル名は, 拡張子を含めて指定してください。ただし, 出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは, 次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EPF 形式ファイルをプレビューする場合: *.epf • EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合: *.epf <p>/m オプションの指定値に epf を指定する場合は, /epfn オプションを必ず指定してください。指定を省略した場合は, eurpmc コマンドでエラーになります。/m オプションの指定値に epf 以外を指定した場合は, /epfn オプションを指定しても無視されます。</p>
/epfnp	<p>EPF 形式ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/epfn オプションで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは, /epfn オプションで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/epfnp オプションは, /m オプションの指定値に epf を指定している場合に有効となります。</p>
/eurn	<p>出力 EUR 形式ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>出力する EUR 形式ファイル名を指定します。</p> <p>/m オプションの指定値に eur を指定する場合は, /eurn オプションを必ず指定してください。指定を省略した場合は, eurpmc コマンドでエラーになります。/m オプションの指定値に eur 以外を指定した場合は, /eurn オプションを指定しても無視されます。</p>
/eurnp	<p>出力 EUR 形式ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/eurn オプションで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは, /eurn で指定する EUR 形式ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/eurnp オプションは, /m オプションの指定値に eur を指定している場合に有効となります。</p>
/exp	<p>実行可能印刷方式</p> <ul style="list-style-type: none"> • sv: スプールサーバで印刷する • svcl: スプールサーバでの印刷, またはクライアントで印刷する • cl: クライアントで印刷する <p>実行可能印刷方式を指定します。</p> <p>sv,svcl,および cl 以外の値を指定した場合は, sv が仮定されます。</p> <p>/exp オプションは, /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/fc	<p>スプールデータの検索キーの分類 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる) スプールデータの検索キーの分類を指定します。 指定する文字列には「,」を含めないでください。</p> <p>/fc オプションを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず/fd オプションに指定してください。/fc オプションに指定する要素数と/fd オプションに指定する要素数は同じにしてください。指定する要素数が異なると、エラーになります。</p> <p>検索キーを指定しない場合は、/fc オプションと/fd オプションは、どちらも指定しないでください。どちらか一つだけの指定している場合はエラーになります。</p> <p>/fc オプションは、/m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/fd	<p>スプールデータの検索キーの値 (80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる) スプールデータの検索キーの値を指定します。 指定する文字列には「,」を含めないでください。</p> <p>/fc オプションを指定する場合は、検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず/fd オプションに指定してください。/fc オプションに指定する要素数と/fd オプションに指定する要素数は同じにしてください。指定する要素数が異なると、エラーになります。</p> <p>/fd オプションは、/m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/foutdest	<p>PDF 形式ファイルの出力先</p> <ul style="list-style-type: none"> • adp : EUR Server - Adapter 稼働マシンに出力する • pm : EUR Server Service 稼働マシンに出力する <p>PDF 形式ファイルの出力先を、EUR Server - Adapter 稼働マシンにするか、または EUR Server Service 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。</p> <p>/foutdest オプションを省略した場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の OPTION セクションの FILEOUTPUTDESTINATION キーが仮定されます。</p> <p>また、adp, pm 以外の値を指定した場合は、adp が仮定されます。</p> <p>/foutdest オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。</p> <p>/dsf オプション (PDF 仕分け定義ファイル名) を指定している場合は、/foutdest オプションは無効となります。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。</p>
/fp	<p>ページ番号の初期値 (1~999,999) ページ番号の初期値を指定します。</p> <p>/fp オプションを省略した場合は、1 が仮定されます。</p> <p>/fp オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, または epf のどれかを指定している場合、かつ/pn オプションを指定している場合に有効となります。</p> <p>/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/fp オプションは無効となります。</p>
/g	<p>スプールデータの取得可否</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/g	<ul style="list-style-type: none"> • get：スプールデータの取得を許可する • noget：スプールデータの取得を許可しない スプールデータの取得を許可するかどうかを指定します。 /g オプションを省略した場合は、get が仮定されます。 /g オプションは、/m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。
/group	帳票振り分け定義の振り分けグループ名 (80 バイト以内の文字列) 帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。 /group オプションは、次に示すどちらかの指定がある場合に有効です。 <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に sv、かつ/pk オプションの指定値に epf、かつ/sm オプションの指定値に group を指定している場合 • /m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に spl、かつ/sm オプションの指定値に group を指定している場合
/ip	ページ番号の開始番号の初期化 <ul style="list-style-type: none"> • reset：初期化する • normal：初期化しない 改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。 /ip オプションを省略した場合は、出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は、normal が仮定されます。 /mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/ip オプションは無効となります。
/jsc	Acrobat JavaScript 定義ファイル名 * (255 バイト以内の文字列) Acrobat Java Script 定義ファイル名を指定します。 EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、Acrobat Java Script 定義ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。 OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。 パスは、/jscp オプションに指定することもできます。/jscp オプションにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • フルパスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。 • 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。 • ファイル名だけを指定する場合

プロパティオプション	内容 (指定値)
/jsc	<p>環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。</p> <p>/jsc オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。文書情報設定ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。</p>
/jscp	<p>Acrobat JavaScript 定義ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/jsc オプションで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。</p> <p>/jscp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。Acrobat JavaScript 定義ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/lm	<p>スプールデータの蓄積期限日</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日付で指定する場合 YYYYMMDD 形式 • 日数で指定する場合 +XXX 形式 <p>スプールデータの蓄積期限日を指定します。</p> <p>蓄積期限日は、日付または日数で指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日付で指定する場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年 (西暦) は 4 桁, 月と日は 2 桁で入力します。 ・月, または日が 1~9 の場合は, ゼロ埋めをして入力します。 ・指定できる値の上限は, 20380118 (2038 年 1 月 18 日) です。 ・過去の日付は指定できません。 (指定例) 20120521, 20141008 • 日数で指定する場合 <ul style="list-style-type: none"> ・「XXX」には, 蓄積実行時からの保管日数を指定します。 ・指定できる値は 000~999 です。0 を指定した場合は, 翌日にスプールデータが削除されます。 ・2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。 (指定例) +030, +999 <p>/lm オプションの指定を省略した場合, 蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。</p> <p>/lm オプションは, /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/lsp	<p>印刷先サーバプリンタ名 (80 バイト以内の文字列)</p> <p>サーバのプリンタ名を指定します。</p> <p>プリンタ名は, OS 上のプリンタ名を指定してください。</p> <p>プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。</p> <p>/lsp オプションは, 次に示す指定がある場合に有効です。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/lsp	<ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に sv, かつ/sm オプションの指定値に printer を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl, かつ/sm オプションの指定値に printer を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に pm, かつ/sm オプションの指定値に printer を指定している場合
/lst	<p>印刷先サーバプリンタのトレイ名 (80 バイト以内の文字列)</p> <p>サーバのプリンタのトレイ名を指定します。 トレイ名は、OS 上のプリンタのトレイ名を指定してください。 トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。</p> <p>/lst オプションを省略した場合は、オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。</p> <p>/lst オプションに指定したトレイ名が、出力先のプリンタで使用できない場合は、デフォルトのトレイから給紙されます。</p> <p>/lst オプションは、次に示す指定がある場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に sv, かつ/sm オプションの指定値に printer を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl, かつ/sm オプションの指定値に printer を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に pm, かつ/sm オプションの指定値に printer を指定している場合
/message	エラーメッセージを出力する
/mfd	<p>複数様式情報定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>複数様式情報定義ファイル名を指定します。 複数様式を指定する場合は、/mfd オプションを必ず指定してください。</p> <p>/mfd オプションを省略した場合は、制御情報付データファイル、または/rf オプションで指定した複数の帳票ファイルが順に出力されます。</p> <p>複数様式情報定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。</p>
/mfdp	<p>複数様式情報定義ファイルのパス ※1 (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/mfd オプションで指定した複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。 複数様式情報定義ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/nomessage	エラーメッセージを出力しない
/num	<p>印刷部数の単位</p> <ul style="list-style-type: none"> • sort：部単位 • stack：ページ単位 <p>印刷部数の単位を指定します。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/num	<p>/num オプションを省略した場合は、sort が仮定されます。</p> <p>/num オプションは、/m オプションの指定値に print または epf を指定している場合に有効となります。</p> <p>/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/num オプションは無効となります。</p> <p>制御情報付データファイル、または/rf オプションで複数の帳票ファイルを指定している場合は、/num オプションは無効となります。</p>
/opc	<p>出力した帳票の総ページ数を出力するかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1：総ページ数を出力する • 0：総ページ数を出力しない <p>印刷またはファイル出力を実行した帳票の総ページ数を出力するかどうかを指定します。</p> <p>/opc オプションを省略した場合は、0 が仮定されます。</p> <p>なお、/opc オプションは、BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルに指定した場合だけ有効となります。</p> <p>/opc オプションは、次に示すオプションで印刷またはファイル出力を実行する場合に指定が有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に cl, spl, sv, または pm のどれかを指定しているとき • /m オプションの指定値に epf, pdf または xlsx を指定しているとき <p>注意事項</p> <p>EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了したタイミングで、帳票の総ページ数が設定されます。</p> <p>ただし、次の場合は、EUR Server - Adapter で実行したジョブが正常または警告で終了しても、実際の出力結果とページ数が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合、途中で蓄積に失敗したときでも、蓄積に成功したページ数ではなく、合計ページ数が設定されます。 • クライアント印刷実行時、エラーが発生した場合でも、EUR Server - Adapter の終了コードが正常のときは、ページ数が設定されます。 • クライアント印刷実行時、印刷ダイアログでキャンセルした場合でも、ページ数が設定されます。 • 蓄積後に続けて印刷を実行する場合、クライアント印刷またはスプールサーバ印刷でエラーが発生したときでも、ページ数が設定されます。 <p>クライアント配布印刷の場合は、帳票の総ページ数が設定されません。クライアント配布印刷で出力した帳票の総ページ数の情報が必要な場合は、クライアント PC に配布する個々の印刷データ (EPF 形式ファイル) を出力するときに帳票の総ページ数を出力し、合計ページ数は計算して求める運用としてください。</p>
/p	<p>印刷先クライアントプリンタ名 (80 バイト以内の文字列)</p> <p>クライアント PC のプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。</p> <p>/p オプションを指定している場合、対話型印刷は使用できません。</p> <p>プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。</p> <p>/p オプションが指定されると、/dialog オプションは強制的に「auto (直接印刷を実行する (自動印刷))」を仮定します。</p> <p>/prc オプションを同時に指定した場合は、/p オプションの指定を優先します。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/p	/p オプションは、/m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に cl または spl のどちらかを指定している場合に有効となります。
/pdfn	<p>出力 PDF 形式ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>出力する PDF 形式ファイル名を指定します。</p> <p>/foutdest オプションの指定値に pm (PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する) を指定している場合で、EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定しているときは、/pdfn オプションにはファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定しているときは、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは、/pdfnp オプションに指定することもできます。/pdfnp オプションにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フルパスを指定する場合 /pdfn オプションで指定したパスに出力されます。なお、環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。 • 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし、そこから/pdfn オプションで指定したパスが出力されます。 • ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに、/pdfn オプションで指定したファイル名で出力されます。 <p>/m オプションの指定値に pdf を指定する場合は、/pdfn オプションまたは/dsf オプションのどちらかを必ず指定してください。指定を省略した場合は、eurpmc コマンドでエラーになります。/pdfn オプションと/dsp オプションを同時に指定した場合は、/pdfn オプションは無視されます。</p> <p>/m オプションの指定値に pdf 以外を指定した場合は、/pdfn オプションを指定しても無視されます。</p> <p>/dsf オプションで PDF 仕分け定義ファイル名を指定している場合は、/pdfn オプションの指定を省略できます。</p>
/pdfnp	<p>出力 PDF 形式ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/pdfn オプションで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは、/pdfn オプションで指定する PDF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/pdfnp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。ただし、次の場合は/pdfnp オプションを指定しても無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に pdf 以外を指定している場合 • /foutdest オプションの指定値に pm (PDF 形式ファイルを EUR Server Service 稼働マシンに出力する) を指定している場合で、かつ EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を指定している場合

プロパティオプション	内容 (指定値)
/pf	<p>ページ番号のフォーマット (任意のフォーマット文字列)</p> <p>ページ番号のフォーマットを指定します。</p> <p>ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。</p> <p>ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。</p> <p>/pf オプションを指定しても、/pn オプションを省略した場合は無効となります。ただし、/mfd オプションを複数様式を指定している場合は、/pf オプションを指定しても無視されます。</p> <p>/pf オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, または epf のどれかを指定している場合に有効となります。</p>
/pk	<p>スプールサーバ印刷方式の印刷モード</p> <ul style="list-style-type: none"> • epf : EPF 形式ファイルでの印刷 • eur : EUR 形式ファイルでの印刷 <p>スプールサーバ印刷方式の印刷モードを指定します。</p> <p>/pk オプションを省略した場合、または/pk オプションの指定値に epf, eur 以外の値を指定した場合は、epf が仮定されます。</p> <p>/pk オプションは、/m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に sv を指定している場合に有効となります。</p>
/pl	<p>余白へのページ番号の印刷位置</p> <ul style="list-style-type: none"> • topl : ページ番号を左上に出力する • topc : ページ番号を中央上に出力する • topr : ページ番号を右上に出力する • btml : ページ番号を左下に出力する • btmc : ページ番号を中央下に出力する • btmr : ページ番号を右下に出力する <p>余白へのページ番号の印刷位置を指定します。</p> <p>/pl オプションを指定しても、/pn オプションを省略した場合は無効となります。ただし、/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/pl オプションを指定しても無視されます。</p> <p>/pl オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, または epf のどれかを指定している場合に有効となります。</p>
/pm	<p>出力メソッド (/m オプションの指定値 print) の印刷方式</p> <ul style="list-style-type: none"> • default : EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) に設定したデフォルト印刷方式で印刷する • cl : クライアント PC で印刷する • spl : 蓄積する • sv : スプールサーバで印刷する • pm : 帳票サーバで直接印刷する • clds : クライアント PC への配布印刷をする <p>出力メソッド (/m オプションの指定値 print) の印刷方式を指定します。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/pm	<p>/pm オプションの指定値に default を指定する場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。</p> <p>/pm オプションの指定値に default, cl, spl, sv, pm, clds 以外を指定した場合は、default が仮定されます。</p> <p>/pm オプションを省略した場合は、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトにします。</p> <p>/m オプションの指定値に print を指定する場合は、/pm オプションを必ず指定してください。/m オプションの指定値に print 以外を指定した場合は、/pm オプションを指定しても無視されます。</p>
/pmip	<p>接続する帳票サーバの IP アドレス (255.255.255.255 形式)</p> <p>接続する帳票サーバの IP アドレスを指定します。</p> <p>帳票サーバが複数起動されている場合に、/pmip オプションを指定すると、接続する帳票サーバを振り分けられます。</p> <p>/pmip オプションを省略した場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の IPADDRESS セクションの EURPM キーが仮定されます。EURPM キーの指定が省略されているとき、または値が指定されていないときは、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。</p>
/pmpn	<p>帳票サーバのポート番号 (1~65,535)</p> <p>帳票サーバのポート番号を指定します。</p> <p>EUR Server Service が複数起動されている場合に、/pmpn オプションを指定すると、接続するポートを振り分けられます。</p> <p>/pmpn オプションを省略した場合は、EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の PORT セクションの EURPM キーが仮定されます。</p> <p>/pmpn オプションを省略した場合、および環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の PORT セクションの EURPM キーが指定されていない場合は、環境設定ファイルの省略時の値が仮定されます。</p>
/pn	<p>余白へのページ番号印刷の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> • on : 余白へのページ番号を出力する • off : 余白へのページ番号を出力しない <p>余白へのページ番号印刷を指定します。</p> <p>/pn オプションを省略した場合は、off が仮定されます。ただし、/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/pn オプションを指定しても無視されます。</p> <p>/pn オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, または epf のどれかを指定している場合に有効となります。</p>
/po	<p>用紙の向き</p> <ul style="list-style-type: none"> • portrait : 用紙の向きを縦にして印刷する • landscape : 用紙の向きを横にして印刷する <p>用紙の向きを指定します。</p> <p>/po オプションを省略した場合は、帳票を定義したときの情報に従います。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/po	<p>制御情報付データファイル，または/rf オプションで複数の帳票ファイルを指定している場合は，/po オプションの指定に関係なく，帳票を定義したときの情報に従います。</p> <p>/mfd オプションで複数様式を指定している場合は，/po オプションを指定しても無視されます。</p> <p>/po オプションは，/m オプションの指定値に print または epf のどちらかを指定している場合に有効となります。</p>
/prc	<p>プリンタクラス名 (80 バイト以内の文字列)</p> <p>プリンタクラス名を指定します。</p> <p>プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。</p> <p>プリンタクラス名に 「EUR_DELIVERY_PRINT_OUTPUT_DEFAULT_PRINTER_CLASS_____」 _____」は使用できません。</p> <p>印刷方法ごとに指定するオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スプールサーバでの印刷 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 sv /sm オプション：指定値 class /prc オプション：拠点プリンタクラス名 • クライアント PC での対話型印刷 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 cl /dialog オプション：指定値 dialog /prc オプション：帳票ジョブ名，および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名 • クライアント PC での自動印刷 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 cl /dialog オプション：指定値 auto /prc オプション：クライアントプリンタクラス名 • クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 cl /dialog オプション：指定値 preview /prc オプション：帳票ジョブ名，および EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名 • クライアント PC での全自動印刷 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 cl /dialog オプション：指定値 fullauto /prc オプション：クライアントプリンタクラス名 • クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示限定 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 cl /dialog オプション：指定値 pvonly /prc オプション：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名 • 帳票サーバでの印刷 <ul style="list-style-type: none"> /pm オプション：指定値 pm

プロパティオプション	内容 (指定値)
/prc	<p>/sm オプション：指定値 class</p> <p>/prc オプション：帳票サーバプリンタクラス名</p> <ul style="list-style-type: none"> 蓄積（プリンタクラス名指定） <p>/pm オプション：指定値 spl</p> <p>/sm オプション：指定値 class</p> <p>/prc オプション：拠点プリンタクラス名，または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名</p> <ul style="list-style-type: none"> 蓄積（OS 上のプリンタ名指定） <p>/pm オプション：指定値 spl</p> <p>/sm オプション：指定値 printer</p> <p>/prc オプション：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名</p> <ul style="list-style-type: none"> 蓄積（帳票名による自動振り分け） <p>/pm オプション：指定値 spl</p> <p>/sm オプション：指定値 group</p> <p>/prc オプション：EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名</p> <p>「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合，/p オプションを同時に指定したときは，/p オプションの指定を優先します。</p> <p>EPF 形式ファイルを出力する場合は，/prc オプションに EPF 形式ファイルの属性情報に設定するプリンタクラス名を指定します。</p> <p>EPF 形式ファイルを出力する場合に，/prc オプションの指定を省略したときは，EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。</p> <p>クライアント PC への配布印刷では，指定できません。</p>
/prdatef	<p>印刷日時出力定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>印刷日時出力定義ファイル名を指定します。</p> <p>EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，印刷日時出力定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。</p> <p>OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは，/prdatefp オプションに指定することもできます。/prdatefp オプションにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> フルパスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。 ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

プロパティオプション	内容 (指定値)
/prdatef	<p>/prdatef オプションは、/m オプションの指定値に print または epf のどちらかを指定している場合に有効となります。</p> <p>印刷日時出力定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。</p>
/prdatefp	<p>印刷日時出力定義ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/prdatef オプションで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは、/prdatef オプションで指定する印刷日時出力定義ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/prdatefp オプションは、/m オプションの指定値に print または epf のどちらかを指定している場合に有効となります。</p> <p>印刷日時出力定義ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/prh	<p>蓄積後に続けて印刷するかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> • hold：続けて印刷しない（印刷保留） • sv：続けてスプールサーバで印刷する • cl：続けてクライアント PC で印刷する <p>蓄積印刷方式で、蓄積後に続けて印刷するかどうかを選択します。</p> <p>/prh オプションを省略した場合、または/prh オプションの指定値に hold, sv, cl 以外の値を指定した場合は、/rac オプションおよび/rad オプションの指定の有無によって次の値が仮定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /rac オプションおよび/rad オプションの指定がある場合 hold が仮定されます。 • /rac オプションおよび/rad オプションの指定がない場合 sv が仮定されます。 <p>/prh オプションは、/m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/psenvf	<p>環境設定ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に、EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) 名を指定します。</p> <p>EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、環境設定ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。</p> <p>OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは、/psenvfp オプションに指定することもできます。/psenvfp オプションにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フルパスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。 • 相対パスを指定する場合

プロパティオプション	内容 (指定値)
/psenvf	<p>環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している 起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PSENV キーで設定している フォルダにあるファイル名を指定してください。 <p>/psenvf オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, epf, eur または xlsx のど れかを指定している場合に有効となります。</p> <p>環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Server Service 稼働マシンに配置してくだ さい。</p>
/psenvfp	<p>環境設定ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/psenvf オプションで指定した EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV) のパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは、/psenvf オプションで指定する環境設定ファイル (EURPS_ENV) のデフォルトの場所になります。</p> <p>/psenvfp オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, epf, eur または xlsx の どれかを指定している場合に有効となります。</p> <p>環境設定ファイル (EURPS_ENV) を配置している EUR Server Service 稼働マシンのパ スを指定してください。</p>
/pvp	<p>ビューアプレファレンス定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。</p> <p>EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、ビューアプレファレンス定義 ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、 PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてくだ さい。</p> <p>OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合 は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは、/pvpp オプションに指定することもできます。/pvpp オプションにパスを指定し ない場合は、次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> フルパスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーには指 定が要りません。 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定 している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。 ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定 しているフォルダにあるファイル名を指定してください。 <p>/pvp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。 ビューアプレファレンス定義ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してく ださい。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/pvpp	<p>ビューアプレファレンス定義ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/pvp オプションで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは、/pvp オプションで指定するビューアプレファレンス定義ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/pvpp オプションは、/m オプションの指定値に pdf を指定している場合に有効となります。ビューアプレファレンス定義ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/rac	<p>スプールデータの宛先キーの分類 (1~80 バイトの文字列)</p> <p>スプールデータの宛先キーの分類を指定します。</p> <p>指定する文字列には「[」,「,」および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。</p> <p>/rac オプションを指定する場合は、/rad オプションも必ず指定してください。/rad オプションが指定されていない場合は eurpmc コマンドでエラーになります。</p> <p>/rac オプションは、/m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/rad	<p>スプールデータの宛先キーの値 (1~80 バイトの文字列)</p> <p>スプールデータの宛先キーの値を指定します。</p> <p>指定する文字列には「[」,「,」および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を含めないでください。</p> <p>/rad オプションを指定する場合は、/rac オプションも必ず指定してください。/rac オプションが指定されていない場合は eurpmc コマンドでエラーになります。</p> <p>/rad オプションは、/m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/rf	<p>帳票ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>帳票ファイル名 (*.fms) を指定します。</p> <p>複数のファイルを指定できます。複数のファイルを指定する場合は、コンマ (,) で区切ってください。</p> <p>事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合は、/rf オプションを必ず指定してください。</p> <p>EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、帳票ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。</p> <p>OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは、/rfp オプションに指定することもできます。/rfp オプションにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> フルパスを指定する場合

プロパティオプション	内容 (指定値)
/rf	<p>環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。 • ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。 <p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合は、/rf オプションを指定しても eurpmc コマンドでは無視されます。</p> <p>帳票ファイルは、EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。</p>
/rfp	<p>帳票ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/rf オプションで指定した帳票ファイルのパスを指定します。</p> <p>UNIX/Linux 環境の EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定する場合、パスのフォルダ名の最終文字が「*」のときは、パスの終端に「/」を付加して指定してください。</p> <p>帳票ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/rif	<p>置き換え表管理情報ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>置き換え表管理情報ファイル名を指定します。</p> <p>EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で、OPTION セクションの PATHMODE キーに 0 (通常モード) を設定している場合、置き換え表管理情報ファイル名は、ファイル名だけを指定してください。このとき、指定するファイルは、PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。</p> <p>OPTION セクションの PATHMODE キーに 1 (フルパスモード) を設定している場合は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。</p> <p>パスは、/rifp オプションに指定することもできます。/rfp オプションにパスを指定しない場合は、次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フルパスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。 • 相対パスを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。 • ファイル名だけを指定する場合 環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。 <p>/rif オプションは、次に示すどれかの指定がある場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に sv, かつ/pk オプションの指定値に epf を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に cl を指定している場合

プロパティオプション	内容 (指定値)
/rif	<ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合 • /m オプションの指定値に pdf, epf, eur, または xlsx のどれかが指定されている場合 置き換え表管理情報ファイルは, EUR Server Service 稼働マシンに配置してください。
/rifp	置き換え表管理情報ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列) /rif オプションで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。 /rifp オプションは, 次に示すどれかの指定がある場合に有効です。 <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に sv, かつ/pk オプションの指定値に epf を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に cl を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合 • /m オプションの指定値に pdf, epf, eur, または xlsx のどれかが指定されている場合 置き換え表管理情報ファイルを配置している EUR Server Service 稼働マシンのパスを指定してください。
/sf	スプールデータに格納する印刷データ (EPF 形式ファイル) のファイル名 ※ ¹ (255 バイト以内の文字列) スプールデータに格納するファイルのファイル名を指定します。 「%N」を指定すると, 00000001 から始まる 8 桁の通し番号を設定できます。 /sf オプションを省略した場合は, 自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」です。 複数のスプールデータに同一ファイル名が指定されている場合, スプールデータ取得時に同一パスで取得されると, ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは, 別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。 /sf オプションは, /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。 「ジョブ ID」の形式を次に示します。 E + ESFID + 処理実行日時 + 通番フォルダ番号 + 通し番号 ESFID (2 桁): EURPMLS.ini のキーワード ESFID に指定された値 (0~99) 処理実行日時 (17 桁): YYYYMMDDhhmmssmmm 通番フォルダ番号 (7 桁): 0000001~2000000 通し番号 (9 桁): 000000001~999999999 通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は, エラー (KEEY430-S) になります。 通し番号が 999999999 を超えた場合は, 000000003 に戻ります。
/sm	プリンタの指定方法 <ul style="list-style-type: none"> • class: プリンタクラス名を指定する • printer: OS 上のプリンタ名を指定する • group: 帳票名による自動振り分けを行う プリンタの指定方法を選択します。

プロパティオプション	内容 (指定値)
/sm	<p>/sm オプションを省略した場合、または class, printer, group 以外の値を指定した場合は、class が仮定されます。</p> <p>/sm オプションは、次に示すどれかの指定がある場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に sv を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に spl を指定している場合 • /m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に pm を指定している場合 <p>なお、/m オプションの指定値に print, かつ/pm オプションの指定値に pm を指定している場合は、/sm オプションの指定値に group を指定するとエラーになります。</p>
/sp	<p>印刷開始ページ (0~999,999)</p> <p>印刷開始ページを指定します。</p> <p>/sp オプションを省略した場合、または指定した値が 0 の場合は、1 ページから印刷されます。</p> <p>/sp オプションは、/m オプションの指定値に print, pdf, epf, または xlsx のどれかを指定している場合に有効となります。</p> <p>/mfd オプションで複数様式を指定している場合は、/sp オプションは無効となります。</p> <p>制御情報付データファイル、または/rf オプションで複数の帳票ファイルを指定している場合は、/sp オプションは無効となります。</p>
/split	<p>帳票を分割または仕分けして蓄積するかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> • default : EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の設定に従う • no : 分割または仕分けしない • key : 仕分けする • page : 分割する <p>帳票を蓄積する場合、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。</p> <p>/split オプションを省略した場合は、default が仮定されます。</p> <p>/split オプションは、/m オプションの指定値に print, /pm オプションの指定値に spl を指定している場合に有効となります。</p>
/splitf	<p>分割定義ファイル名または仕分け定義ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。</p> <p>/splitf オプションは、/m オプションの指定値に print, /pm オプションの指定値に spl を指定している場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに有効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /split オプションの指定値が page または key のとき • /split オプションの指定値が default, かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき <p>分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/splitfp	<p>分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/splitfp オプションで指定した、分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのパスを指定します。</p> <p>指定されたファイルのパスは、/splitfp オプションで指定する分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。</p> <p>/splitfp オプションは、/m オプションの指定値に print、/pm オプションの指定値に spl を指定している場合で、かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに有効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /split オプションの指定値が page または key のとき • /split オプションの指定値が default、かつ EUR Server Service の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE (分割) または KEY (仕分け) を指定しているとき <p>分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルを配置している EUR Server - Adapter 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/sptl	<p>スプールタイトル (255 バイト以内の文字列)</p> <p>スプールタイトルを指定します。</p> <p>スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。</p> <p>/sptl オプションは、次に示す指定がある場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print、かつ/pm オプションの指定値に cl, spl, pm, または sv のどれかを指定している場合 • /m オプションの指定値に epf または eur を指定している場合 <p>/sptl オプションを省略した場合は、スプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合、印刷時のスプールタイトルに出力される内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /m オプションの指定値に print または epf を指定している場合 文書情報設定ファイル (/df オプション) で TITLE キーを設定しているときは、TITLE キーの指定値が出力されます。TITLE キーを設定していないときは、「HITACHI Report - 帳票ファイル名」が出力されます。 • /m オプションの指定値に eur を指定している場合 文書情報設定ファイル (/df オプション) で TITLE キーを設定しているときは、TITLE キーの指定値が出力されます。TITLE キーを設定していないときは、次に示す表示形式で出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 単一様式帳票の場合 「HITACHI Report - EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」 • 複数の帳票セットを指定した帳票、または複数様式を指定した帳票の場合 「EUR 形式ファイル名 (拡張子なし)」
/srm	<p>スプールサーバの指定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> • dest: 出力先名を指定する • sv: スプールサーバ IP アドレスを指定する <p>スプールサーバの指定方法を選択します。</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/srm	<p>/srm オプションを省略した場合、または dest, sv 以外の値を指定した場合は、dest が仮定されます。</p> <p>/srm オプションは、/m オプションの指定値が print, かつ/pm オプションの指定値が sv または spl の場合に有効となります。</p>
/svr	<p>スプールサーバの IP アドレス (255.255.255.255 形式)</p> <p>スプールサーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。</p> <p>/svr オプションを省略した場合は、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。</p> <p>/svr オプションは、/m オプションの指定値が print, かつ/pm オプションの指定値が sv または spl, かつ/srm オプションの指定値が sv の場合に有効となります。</p>
/t	<p>印刷先クライアントプリンタのトレイ名 (80 バイト以内の文字列)</p> <p>クライアントプリンタのトレイ名を指定します。クライアントプリンタは、OS 上のプリンタを指します。</p> <p>トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。</p> <p>/t オプションを指定する場合は、/p オプションを必ず指定してください。</p> <p>/t オプションに指定したトレイ名が、/p オプションで指定したプリンタで使用できない場合は、/p オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。</p> <p>/t オプションを省略した場合は、/p オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。</p> <p>/t オプションは、/m オプションの指定値が print, かつ/pm オプションの指定値が cl または spl の場合に有効となります。</p>
/usr	<p>ユーザ定義データファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。</p> <p>複数のファイルを指定できます。複数のファイルを指定する場合は、コンマ (,) で区切ってください。指定するファイル名は、/rf オプションで指定したファイル名と同じ数を指定してください。</p> <p>/usr オプションは、事前定義型のファイル監視サービスで使用する起動パラメタファイルの場合に指定できます。</p> <p>BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) で使用する起動パラメタファイルの場合は、/usr オプションを指定しても eurpmc コマンドでは無視されます。</p> <p>ユーザ定義データファイルは、EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置してください。</p>
/usrp	<p>ユーザ定義データファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列)</p> <p>/usr オプションで指定した、ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。</p> <p>ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイルを配置している EUR Server - Adapter 稼働マシンのパスを指定してください。</p>
/xlfn	<p>出力 Excel 形式ファイル名 ※ (255 バイト以内の文字列)</p>

プロパティオプション	内容 (指定値)
/xlfn	出力する Excel 形式ファイル名を指定します。 /m オプションの指定値に xlsx を指定する場合は、/xlfn オプションを必ず指定してください。指定を省略した場合は、eurpmc コマンドでエラーになります。/m オプションの指定値に xlsx 以外を指定した場合は、/xlfn オプションを指定しても無視されます。
/xlfnp	出力 Excel 形式ファイルのパス ※ (255 バイト以内の文字列) /xlfn オプションで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。 指定されたファイルのパスは、/xlfn オプションで指定する出力 Excel 形式ファイルのデフォルトの場所になります。 /xlfn オプションは、/m オプションの指定値が xls の場合に有効となります。
/xp	スプールデータの上限印刷回数 <ul style="list-style-type: none"> • -1：無限に印刷できる • 0：印刷を禁止する • 1～65,536：印刷回数の上限を指定する スプールデータの上限印刷回数を指定します。 /xp オプションを省略した場合、または 1～65,536 以外の値を指定した場合は、-1 が仮定されます。 /xp オプションは、/m オプションの指定値が print、かつ/pm オプションの指定値が spl の場合に有効となります。

注※

ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの規則、および注意については、「付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

12.10.4 注意事項

- 同一のオプションが複数定義されている場合は、最後に定義されているものが有効となります。

12.11 EUR Web Plug-In 情報ファイル

12.11.1 概要

EUR Web Plug-In 情報ファイルは、ActiveX 起動部品または Java 起動部品で EUR Web Plug-In のクラス ID およびバージョン情報を取得するときに参照するファイルです。

EUR Web Plug-In (印刷用) の EURPMPrintAX.inf と、EUR Web Plug-In (プレビュー用) の EURPMPreViewAX.inf の 2 種類のファイルがあります。

ActiveX 起動部品または Java 起動部品で指定したメソッドによって、EUR Web Plug-In 情報ファイルに定義された次の情報を取得します。

表 12-11 ActiveX 起動部品で指定したメソッドによって取得する情報

メソッド名	取得する情報
GetPrintAXVersion メソッド	EUR Web Plug-In (印刷用) のバージョン
GetPrintAXClassID メソッド	EUR Web Plug-In (印刷用) のクラス ID
GetPreviewAXVersion メソッド	EUR Web Plug-In (プレビュー用) のバージョン
GetPreviewAXClassID メソッド	EUR Web Plug-In (プレビュー用) のクラス ID

表 12-12 Java 起動部品の EURPMAAdapterForJava クラスで指定したメソッドによって取得する情報

メソッド名	取得する情報
getPrintAXVersion メソッド	EUR Web Plug-In (印刷用) のバージョン
getPrintAXClassID メソッド	EUR Web Plug-In (印刷用) のクラス ID
getPreviewAXVersion メソッド	EUR Web Plug-In (プレビュー用) のバージョン
getPreviewAXClassID メソッド	EUR Web Plug-In (プレビュー用) のクラス ID

各メソッドの詳細については、「[6.3 ActiveX 起動部品のメソッド仕様](#)」および「[8.4 EURPMAAdapterForJava クラスのメソッド仕様](#)」を参照してください。

12.11.2 形式

EUR Web Plug-In 情報ファイルの形式を次に示します。

```
[CABINFO]
CLASSID=EUR Web Plug-InのクラスID
VERSION=EUR Web Plug-Inのバージョン
```

CABINFO セクションの CLASSID キー, および VERSION キーの値は編集できません。製品バージョンに応じた EUR Web Plug-In 情報ファイルを使用してください。

13

運用に応じて格納先を決めるファイル

この章では、EUR サーバ帳票出力機能で扱えるファイルのうち、運用に応じて格納先を決めるファイルの種類と形式について説明します。

13.1 運用に応じて格納先を決めるファイルの一覧

運用に応じて格納先を決めるファイルの概要を次の表に示します。

表 13-1 運用に応じて格納先を決めるファイルの一覧

ファイル名	説明
分割定義ファイル	帳票を分割するときのページ数や分割後の EPF 形式ファイルの印刷先などを定義するファイルです。
仕分け定義ファイル	帳票を仕分けするときのキーワードやキーワードに対応する印刷先などを定義するファイルです。

13.2 分割定義ファイル

13.2.1 概要

分割定義ファイルは、帳票を分割して蓄積するときの分割ページ数や分割後の印刷先などを定義するファイルです。

13.2.2 形式

分割定義ファイルの形式を次に示します。

```
[SPLIT]
キー=値
:
```

13.2.3 キーワード

分割定義ファイルのキーワードを次の表に示します。

表 13-2 分割定義ファイルのキーワード

セクション	キー	指定できる値	指定	省略値	説明
SPLIT	PAGENUMBER	1~999,999	必須	—	分割ページ数を指定します。
	PRINTDESTNUMBER	1~1,024	必須	—	印刷先の数を指定します。
	PRINTDEST n * ¹	文字列 (255 バイト)	必須	—	印刷先を指定します。 なお、印刷先は印刷先定義ファイルで定義します。印刷先定義ファイルの詳細については、「14.4 印刷先定義ファイル」を参照してください。
	DISTRIBUTEMETHOD	• PAGE • ORDER	任意	PAGE	印刷先が複数ある場合の配布方法を指定します。 • PAGE ページ方式* ² で配布します。 • ORDER 順次方式* ³ で配布します。

(凡例)

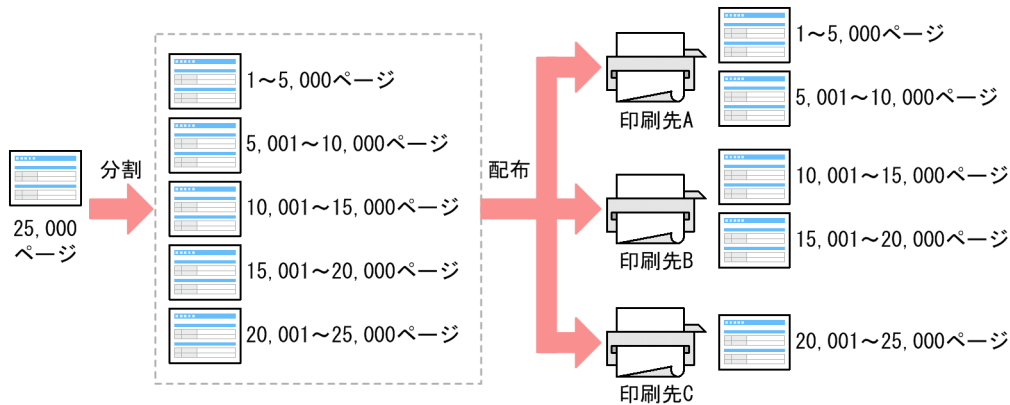
—：省略値はありません。

注※1

n の範囲は、「1～印刷先の数 (PRINTDESTNUMBER キーの値)」です。

注※2

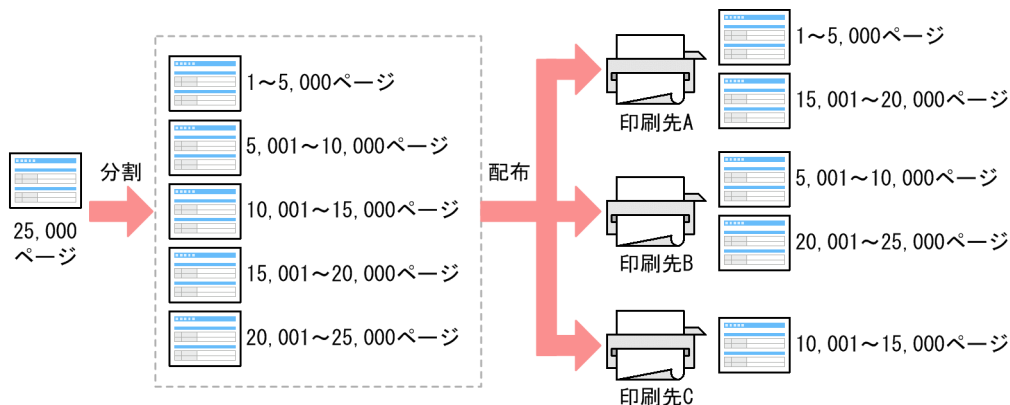
各印刷先で帳票のページ番号が連続するように、EPF 形式ファイルを配布する方法です。ページ方式で配布するときの配布イメージを次の図に示します。



注※3

分割された順に EPF 形式ファイルを配布する方法です。

順次方式で配布するときの配布イメージを次の図に示します。



13.2.4 サンプルの内容

分割定義ファイル (PMPageSplit.txt) の指定例を示します。

このサンプルでは、指定した帳票を 500 ページごとに分割し、印刷先「TOKYO_RS_SPOOL_UserA」と「TOKYO_RS_SPOOL_UserB」にページ配布方式で配布することを想定しています。

サンプルの内容を次に示します。

```
[SPLIT]
PAGENUMBER=500
PRINTDESTNUMBER=2
DISTRIBUTEMETHOD=PAGE
```

```
PRINTDEST1="TOKYO_RS_SPOOL_UserA"  
PRINTDEST2="TOKYO_RS_SPOOL_UserB"
```

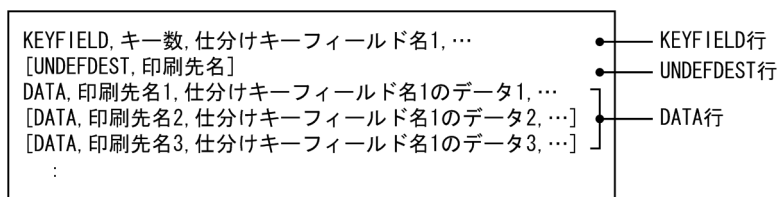
13.3 仕分け定義ファイル

13.3.1 概要

仕分け定義ファイルは、帳票をデータで仕分けして蓄積するときの仕分けキーフィールドや仕分け後の印刷先などを定義するファイルです。

13.3.2 形式

仕分け定義ファイルの形式を次に示します。



13.3.3 キーワード

仕分け定義ファイルのキーワードを次に示します。

(1) KEYFIELD 行

必ず 1 行目に指定してください。KEYFIELD 行の指定を省略したり、KEYFIELD 行を複数指定したりした場合はエラーになります。

KEYFIELD

KEYFIELD を指定します。大文字と小文字は区別しません。

キー数

仕分けするキーの数を指定します。

1 以上の整数で指定してください。

仕分けキーフィールド名

仕分けするマッピングデータのフィールド名を指定します。

「キー数」で指定した数だけコンマ (,) で区切って指定してください。ただし、同じフィールドを複数指定できません。

(2) UNDEFDEST 行

UNDEFDEST 行は、DATA 行で指定したキーワードと一致しないページ（不一致ページ）、および総集計ページの印刷先を指定する場合に指定します。指定する場合は、必ず 2 行目に指定してください。UNDEFDEST 行の指定を省略した場合は、不一致ページおよび総集計ページを出力しません。

UNDEFDEST

UNDEFDEST を指定します。大文字と小文字は区別しません。

印刷先名

不一致ページおよび総集計ページの印刷先を指定します。

なお、印刷先は印刷先定義ファイルで定義します。印刷先定義ファイルの詳細については、「[14.4 印刷先定義ファイル](#)」を参照してください。

(3) DATA 行

DATA 行には、印刷先とキーワードの組み合わせを指定します。必ず指定してください。

DATA

DATA を指定します。大文字と小文字は区別しません。

印刷先名

「仕分けキーフィールド名のデータ」で指定したデータと一致するページの印刷先を指定します。

なお、印刷先は印刷先定義ファイルで定義します。印刷先定義ファイルの詳細については、「[14.4 印刷先定義ファイル](#)」を参照してください。

仕分けキーフィールドのデータ

キーワードを指定します。

KEYFIELD 行の「仕分けキーフィールド名」に対応するデータを、「キー数」で指定した数だけコンマ(,)で区切って指定してください。

なお、指定するときには次の点に注意してください。

- データに「"」が含まれている場合は、「"」を二つ続けて記述し、データの両端を「"」で囲んで指定してください。
「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。
- データに区切り文字が含まれている場合は、データの両端を「"」で囲んで指定してください。
「,」が区切り文字の場合、「EU,R」とするときは、「"EU,R"」と指定します。

13.3.4 サンプルの内容

サンプル仕分け定義ファイル (PMDistribute.txt) の指定例を示します。

このサンプルでは、次のルールで帳票を仕分けして出力することを想定しています。

- マッピングデータファイルの「Office」フィールドの値が「HeadOffice」のページは、印刷先「TOKYO_RS_PRINT」に出力する。
- マッピングデータファイルの「Office」フィールドの値が「BranchOsaka」のページは、印刷先「OSAKA_RS_PRINT」に出力する。
- 上記のどちらにも当てはまらないページは、印刷先「OSAKA_CL_PRINT」に出力する。

サンプルの内容を次に示します。

```
KEYFIELD, 1, "Office"  
UNDEFDEST, "OSAKA_CL_PRINT"  
DATA, "TOKYO_RS_PRINT", "HeadOffice"  
DATA, "OSAKA_RS_PRINT", "BranchOsaka"
```


14

構成定義ファイル

この章では、EUR Server Service の構成定義ファイルについて説明します。なお、構成定義ファイルを更新した場合は、EUR Server Service を再起動してください。

14.1 構成定義ファイルの一覧

構成定義ファイルの概要を次の表に示します。

表 14-1 構成定義ファイルの一覧

ファイル名	説明
出力先定義ファイル	スプールサーバの出力先名と、IP アドレスの対応を定義するためのファイルです。
帳票サーバプリンタクラス定義ファイル	帳票サーバによる直接印刷方式で、プリンタクラスを定義するためのファイルです。
印刷先定義ファイル	蓄積時に指定する帳票の蓄積先やスプールデータの格納ファイル名などの情報を、印刷先として定義するためのファイルです。
拠点プリンタクラス定義ファイル	スプールサーバのプリンタとトレイの組み合わせを定義するためのファイルです。
帳票振り分け定義ファイル	帳票名ごとにプリンタを定義したファイルです。
ユーザ管理ファイル	ユーザの認証情報、およびスプールデータへのアクセス制限情報が定義されたファイルです。
クライアントプリンタクラス定義ファイル	クライアント PC のプリンタとトレイの組み合わせを定義するためのファイルです。
宛先定義ファイル	配送印刷を使用するユーザと、対応する宛先を定義するためのファイルです。
監視定義ファイル	事前定義型で帳票自動出力機能を使用する場合に、着信監視するマッピングデータファイルに対応する起動パラメタファイルを定義するためのファイルです。

14.2 出力先定義ファイル

14.2.1 概要

出力先定義ファイル (Destination.conf) は、スプールサーバの出力先名と、IP アドレスの対応を定義するためのファイルです。帳票を出力するスプールサーバを、出力先名で指定するときに使用します。

なお、EUR のインストール時には、次に示すデフォルト値が記述されている定義ファイルがインストールされます。

```
,127.0.0.1,DEFAULT_Server
```

この設定値をそのまま使用する場合、EUR Server Service で設定を変更する必要はありません。格納先を次に示します。

Windows 環境の場合

- インストール先フォルダ¥Server¥Conf フォルダ

UNIX/Linux 環境の場合

- /var/opt/eur/server/Conf ディレクトリ

(1) Windows 環境の場合

出力先定義ファイルは、EUR Server Service の [EUR Server Service 構成定義] ダイアログで設定します。出力先の設定については、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

(2) UNIX/Linux 環境の場合

出力先定義ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eur/sample/ServerService 下にある出力先定義ファイル (Destination.conf) のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 出力先定義ファイルを編集する。
出力先定義ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した出力先定義ファイルを、同じファイル名 (Destination.conf) で次の場所に格納する。

14.2.2 格納先

Windows 環境の場合

出力先定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Server¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

UNIX/Linux 環境の場合

次のどちらかに格納してください。

- /var/opt/eur/server/Conf ディレクトリ (デフォルト)
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したディレクトリ下

出力先定義ファイルの格納先には、EUR Server Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

14.2.3 形式

出力先名, IPアドレス, 説明

出力先名

出力先名を入力します。出力先名を指定しない場合は、デフォルトの出力先として登録されます。

IP アドレス

出力先名と対応するスプールサーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で入力します。

説明

出力先の説明を入力します。

14.2.4 サンプルの内容

TOKYO, 192. 168. 0. 1, TOKYO_Server OSAKA, 192. 168. 0. 2, OSAKA_Server NAGOYA, 192. 168. 0. 3, NAGOYA_Server SENDAI, 192. 168. 0. 4, SENDAI_Server FUKUOKA, 192. 168. 0. 5, FUKUOKA_Server , 192. 168. 0. 6, DEFAULT_Server

14.3 帳票サーバプリンタクラス定義ファイル

14.3.1 概要

帳票サーバプリンタクラス定義ファイル (PMPrinterClass.conf) は、帳票サーバによる直接印刷方式で、プリンタクラスを定義するためのファイルです。帳票サーバの帳票の出力先プリンタを、プリンタクラス名で指定するときに使用します。

(1) Windows 環境の場合

帳票サーバプリンタクラス定義ファイルは、EUR Server Service の [EUR Server Service 構成定義] ダイアログで設定します。プリンタクラスの設定については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

(2) UNIX/Linux 環境の場合

帳票サーバプリンタクラス定義ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eur/sample/ServerService 下にある帳票サーバプリンタクラス定義ファイル (PMPrinterClass.conf) のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 帳票サーバプリンタクラス定義ファイルを編集する。
帳票サーバプリンタクラス定義ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した帳票サーバプリンタクラス定義ファイルを、同じファイル名 (PMPrinterClass.conf) で格納する。

14.3.2 格納先

Windows 環境の場合

帳票サーバプリンタクラス定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Server¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

UNIX/Linux 環境の場合

次のどちらかに格納してください。

- /var/opt/eur/server/Conf ディレクトリ (デフォルト)
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したディレクトリ下

帳票サーバプリンタクラス定義ファイルの格納先には、EUR Server Service を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

14.3.3 形式

プリンタクラス名, プリンタ名, トレイ名, 説明

プリンタクラス名

プリンタクラス名を入力します。プリンタクラス名を指定しない場合は、デフォルトのプリンタクラス名として登録されます。

プリンタ名

プリンタクラス名と対応する帳票サーバのプリンタ名を入力します。

トレイ名

プリンタクラス名と対応する帳票サーバのプリンタのトレイ名を入力します。

説明

プリンタクラスの説明を入力します。

14.3.4 サンプルの内容

```
standard, OSPrinter1, , standardFMS
color, OSPrinter2, , colorFMS
A3, OSPrinter3, 2, A3FMS
Red, OSPrinter1, 1, RedPaper
Blue, OSPrinter1, 3, BluePaper
manual, OSPrinter1, manual,
AUTO, OSPrinter1, auto,
```

14.4 印刷先定義ファイル

14.4.1 概要

印刷先定義ファイル (PrintDest.conf) は、蓄積時に指定する帳票の蓄積先やスプールデータの格納ファイル名などの情報を、印刷先として定義するためのファイルです。EPF 形式ファイルを分割または仕分けして蓄積する場合に使用します。印刷先を定義しておくことで、蓄積先や格納ファイル名などの情報を EPF 形式ファイルごとに個別に指定できます。

印刷先定義ファイルは次の手順で設定します。

1. 印刷先定義ファイル (PrintDest.conf) のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 印刷先定義ファイルを編集する。
印刷先定義ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した印刷先定義ファイルを、同じファイル名 (PrintDest.conf) で格納する。

14.4.2 格納先

Windows 環境の場合

次のどちらかに格納してください。

- インストール先フォルダ¥Server¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

UNIX/Linux 環境の場合

次のどちらかに格納してください。

- /var/opt/eur/server/Conf ディレクトリ (デフォルト)
- EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したディレクトリ下

印刷先定義ファイルの格納先には、EUR Server Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

14.4.3 形式

[セクション]
キー=値

印刷先定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

キーは大文字と小文字を区別しません。

表 14-2 印刷先定義ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
Common	PrintDestNumber	1~1,024	必須	—	印刷先定義数を指定します。
Destn ^{*1}	PrintDestName	文字列 (255 バイト) ^{*2}	必須	—	印刷先名を指定します。
	ServerSelectMode	<ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 	任意	—	スプールサーバの指定方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 出力先名を指定します。 • 1 IP アドレスを指定します。
	DestinationName	文字列 (80 バイト) ^{*2}	任意	—	出力先名を指定します。
	ServerAddress	255.255.255.255 形式	任意	—	スプールサーバの IP アドレスを指定します。
	PrintHoldMode ^{*3}	<ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 • 2 	任意	○	蓄積後に続けて印刷するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 印刷しません。 • 1 スプールサーバで印刷します。 • 2 クライアント PC で印刷します。
	PrinterClassName	文字列 (80 バイト) ^{*2}	任意	○	プリンタクラス名を指定します。
	PrinterSelectMode	<ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 • 2 	任意	○	プリンタの指定方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 プリンタクラス名で指定します。 • 1 プリンタ名で指定します。 • 2 帳票振り分け定義で指定します。

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
Destn ^{※1}	ServerPrinterName	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	帳票を印刷するサーバのプリンタ名を指定します。
	ServerTrayName	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	帳票を印刷するサーバのトレイ名を指定します。
	GroupName	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。
	ClientAddress	255.255.255.255形式	任意	○	帳票を印刷するクライアント PC の IP アドレスを指定します。
	ClientPrinterName	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	帳票を印刷するクライアント PC のプリンタ名を指定します。
	ClientTrayName	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	帳票を印刷するクライアント PC のトレイ名を指定します。
	DispPrintDlg	<ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 • 2 • 3 • 4 	任意	○	<p>クライアント PC で帳票を印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 印刷先指定ダイアログを表示します (対話型印刷)。 • 1 印刷中にダイアログを表示します (自動印刷)。 • 2 プレビューウィンドウを表示します (対話型プレビュー表示)。 • 3 ダイアログを表示しないで印刷します (全自動印刷)。 • 4 プレビューウィンドウを表示します。印刷は実行できません (対話型プレビュー表示限定)。
SpoolFileName	文字列 (255バイト) ^{※4}	任意	○	スプールデータの格納ファイル名を指定します。	
JobKeyCategoryn ^{※5}	文字列 (80バイト) ^{※6}	任意	○	スプールデータのジョブ検索キーの分類を指定します。	

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
Destn ^{※1}	JobKeyCategory ^{※5}	文字列 (80バイト) ^{※6}	任意	○	指定した場合、起動部品で指定したジョブ検索キーの分類はすべて無効になります。
	JobKeyData ^{※5}	文字列 (80バイト) ^{※6}	任意	○	スプールデータのジョブ検索キーの値を指定します。 指定した場合、起動部品で指定したジョブ検索キーの値はすべて無効になります。
	ExecutablePrintMode	<ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 • 2 	任意	○	実行可能印刷方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 スプールサーバで印刷します。 • 1 スプールサーバ、またはクライアント PC で印刷します。 • 2 クライアント PC で印刷します。
	MaxPrintCount	-1 ~ 65,536	任意	○	スプールデータの印刷上限回数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • -1 無限に印刷できます。 • 0 印刷を禁止します。 • 1 ~ 65,536 指定した回数印刷できます。
	EnableGet	<ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 	任意	○	スプールデータの取得可否を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 取得できません。 • 1 取得できます。
	ReportAddressKeyCategory	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	スプールデータの宛先キーの分類を指定します。 ReportAddressKeyData キーが指定されている場合だけ有効になります。
	ReportAddressKeyData	文字列 (80バイト) ^{※2}	任意	○	スプールデータの宛先キーの値を指定します。 ReportAddressKeyCategory キーが指定されている場合だけ有効になります。

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
Dest n * ¹	SpoolTitle	文字列 (255バイト) ^{*2}	任意	—	EPF形式ファイルに埋め込むスプールタイトルを指定します。

(凡例)

- ：属性情報として設定されます。
- ：属性情報として設定されません。

注※1

n の範囲は、「1～印刷先定義数（Common セクションの PrintDestNumber キーの値）」です。

注※2

「"」, 「,」 および制御コード（0x00～0x1F, 0x7F～0x9F）は指定できません。

注※3

ReportAddressKeyCategory キーおよび ReportAddressKeyData キーが指定されている場合、PrintHoldMode キーのデフォルト値は0が仮定されます。

注※4

ファイル名に指定できない文字、「"」, 「,」, および制御コード（0x00～0x1F, 0x7F～0x9F）は指定できません。
また、「%N」を指定すると、00000001 から始まる8桁の通し番号を設定できます。
(指定例) UserA_%N.epf

注※5

n の範囲は、「1～10」です。連続した番号で指定してください。 n が指定されていない場合は、 n 以降の指定内容は無視されます。

例えば、次のように指定した場合は「JobKeyCategory1」および「JobKeyData1」だけが有効になります。

```
JobKeyCategory1="Country"
JobKeyData1="Japan"
JobKeyCategory2=""
JobKeyData2="Tokyo"
JobKeyCategory3="Branch"
JobKeyData3="Kanazawa"
```

注※6

「,」 および制御コード（0x00～0x1F, 0x7F～0x9F）は指定できません。

14.4.4 注意事項

- 値の指定がない場合、そのキーの指定は無視されます。
- 同じ印刷先名を複数の印刷先に指定した場合は、先に定義した印刷先（Dest n セクションの n が小さい方の印刷先）の設定内容が有効となります。

14.4.5 サンプルの内容

このサンプルでは、次の運用を想定しています。

印刷先名	内容
TOKYO_RS_PRINT	蓄積後、スプールサーバ「TOKYO」のプリンタクラス「Printer2」で帳票を印刷します。
OSAKA_RS_PRINT	蓄積後、スプールサーバ「OSAKA」のプリンタクラス「Printer1」で帳票を印刷します。
OSAKA_CL_PRINT	蓄積後、スプールサーバ「OSAKA」からクライアント PC (IP アドレス：111.111.111.111) に帳票を転送して直接印刷します。プリンタは蓄積時の起動部品の指定に従います。起動部品の指定がない場合は、デフォルトのプリンタで印刷します。
OSAKA_CL_DIALOG	蓄積後、スプールサーバ「OSAKA」からクライアント PC (IP アドレス：111.111.111.111) に帳票を転送して対話型印刷します。
TOKYO_RS_SPOOL_UserA	スプールサーバ「TOKYO」に帳票を蓄積します。スプールデータには次の属性情報を設定※します。 ジョブ検索キーの分類：User ジョブ検索キーの値：UserA また、スプールデータの格納ファイル名には通し番号を設定します。
TOKYO_RS_SPOOL_UserB	スプールサーバ「TOKYO」に帳票を蓄積します。スプールデータには次の属性情報を設定※します。 ジョブ検索キーの分類：User ジョブ検索キーの値：UserB また、スプールデータの格納ファイル名には通し番号を設定します。

注

出力先名「TOKYO」および「OSAKA」は、EUR Server Service の [EUR Server Service 構成定義] ダイアログまたは出力先定義ファイルで定義してください。

また、プリンタクラス名はそれぞれのスプールサーバで定義してください。EUR Server - Spool Service の [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログまたは拠点プリンタクラス定義ファイルで定義できます。

注※

設定した属性情報（ジョブ検索キーの分類と値）を、ユーザ名、および確認キーとして利用することで、スプールデータにアクセスできるユーザを制御することもできます。詳細については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

サンプルの内容を次に示します。

```
//Set Print Destination Number
[Common]
PrintDestNumber=6

//TOKYO Server Spool & Server Print
[Dest1]
PrintDestName="TOKYO_RS_PRINT"
ServerSelectMode=0
```

```
PrinterSelectMode=0
DestinationName="TOKYO"
PrintHoldMode=1
PrinterClassName="Printer2"

//OSAKA Server Spool & Server Print
[Dest2]
PrintDestName="OSAKA_RS_PRINT"
ServerSelectMode=0
PrinterSelectMode=0
DestinationName="OSAKA"
PrintHoldMode=1
PrinterClassName="Printer1"

//OSAKA Server Spool & Client Auto Print
[Dest3]
PrintDestName="OSAKA_CL_PRINT"
ServerSelectMode=0
DestinationName="OSAKA"
PrintHoldMode=2
ClientAddress="111.111.111.111"
DispPrintDlg=1

//OSAKA Server Spool & Client Dialog Print
[Dest4]
PrintDestName="OSAKA_CL_DIALOG"
ServerSelectMode=0
DestinationName="OSAKA"
PrintHoldMode=2
ClientAddress="111.111.111.222"
DispPrintDlg=0

//TOKYO Server Spool Only for UserA
[Dest5]
PrintDestName="TOKYO_RS_SPOOL_UserA"
ServerSelectMode=0
DestinationName="TOKYO"
PrintHoldMode=0
JobKeyCategory1="User"
JobKeyData1="UserA"
SpoolFileName="%N.epf"

//TOKYO Server Spool Only for UserB
[Dest6]
PrintDestName="TOKYO_RS_SPOOL_UserB"
ServerSelectMode=0
DestinationName="TOKYO"
PrintHoldMode=0
JobKeyCategory1="User"
JobKeyData1="UserB"
SpoolFileName="%N.epf"
```

14.5 拠点プリンタクラス定義ファイル

14.5.1 概要

拠点プリンタクラス定義ファイル (ServerPrinterClass.conf) は、スプールサーバのプリンタとトレイの組み合わせを定義するためのファイルです。複数のプリンタやトレイを効率良く管理したいときに使用します。

拠点プリンタクラス定義ファイルは、EUR Server - Spool Service の [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログの [プリンタクラス] タブで設定します。拠点プリンタクラスの設定については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

14.5.2 格納先

拠点プリンタクラス定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Spool¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

14.6 帳票振り分け定義ファイル

14.6.1 概要

帳票振り分け定義ファイル (Distribution.conf) は、帳票名ごとにプリンタを定義したファイルです。帳票振り分け定義を指定すると、帳票名ごとに自動的にプリンタを指定でき、同じ名前の帳票を別のプリンタで印刷できます。

帳票振り分け定義ファイルは、EUR Server - Spool Service の [EUR Spool Service 構成定義] ダイアログの [帳票振り分け] タブで設定します。帳票振り分け定義の設定については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

14.6.2 格納先

帳票振り分け定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Spool¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

14.7 ユーザ管理ファイル

14.7.1 概要

ユーザ管理ファイル (userdef.conf) は、ユーザの認証情報、およびスプールデータへのアクセス制限情報が定義されたファイルです。スプールデータにアクセスするユーザを管理できます。

ユーザについては、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

(1) Windows 環境の場合

ユーザ管理ファイルは、[EUR Spool Service 構成定義] ダイアログの [ユーザ定義] タブで定義します。ユーザの設定については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

ユーザ管理ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Spool¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

(2) UNIX/Linux 環境の場合

ユーザ管理ファイルは、/opt/eur/sample/SpoolService 下にあるサンプルファイルを基に設定します。ユーザの設定については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

14.7.2 格納先

ユーザ管理ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- /var/opt/eur/spool/Conf ディレクトリ (デフォルト)
- EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

14.7.3 形式

```
[セクション]  
キー=値
```

ユーザ管理ファイルの設定項目を次の表に示します。

キーは大文字と小文字を区別しません。ユーザの設定については、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。また、ユーザを設定する場合の注意事項については、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

表 14-3 ユーザ管理ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
Common	GroupCategoryConfNum	0~100,000	0	ユーザ数を指定します。デフォルト値は1です。なお、デフォルトユーザは数に含めません。
	GroupCategory	文字列	—	ユーザ名に使用するジョブ検索キーの分類名を指定します。
GroupCategoryConf ^{*1}	GroupKey	文字列	—	ユーザ名を指定します。
	CheckString	文字列	—	ユーザの確認キーを指定します。
	GroupFilter	<ul style="list-style-type: none"> • NONE • ALL • CATEGORY 	NONE	<p>スプールデータのアクセス制限方式を指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NONE すべてのスプールデータを表示します。 • ALL すべてのスプールデータを表示しません。 • CATEGORY GroupFilterName キーで指定したジョブ検索キーの分類名を持つスプールデータを表示します。
	GroupFilterName	文字列	—	アクセス許可に使用するジョブ検索キーの分類名を指定します。GroupFilter キーに CATEGORY を指定した場合に指定します。
	GroupFilterKeyNum	0~1,024	0	アクセスを許可するジョブ検索キーの数を指定します。
	GroupFilterKey ^{*2}	文字列	—	アクセスを許可するジョブ検索キーを指定します。
	GroupFilterKeyNull	<ul style="list-style-type: none"> • ENABLE • DISENABLE 	ENABLE	<p>GroupFilterKey キーを指定していないスプールデータにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。
GroupFilterKeyOwner	<ul style="list-style-type: none"> • ENABLE • DISENABLE 	DISENABLE	<p>GroupKey キーで指定したユーザ名が GroupCategory キーに指定したジョブ検索キーの分類名と一致する場合、スプールデータにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ENABLE アクセスします。 	

セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
GroupCategory Conf n *1	GroupFilterKeyOwner	<ul style="list-style-type: none"> • ENABLE • DISENABLE 	DISENAB LE	<ul style="list-style-type: none"> • DISENABLE アクセスしません。
Default	GroupFilter	<ul style="list-style-type: none"> • NONE • ALL • CATEGORY 	NONE	<p>スプールデータのアクセス制限方式を指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NONE すべてのスプールデータを表示します。 • ALL すべてのスプールデータを表示しません。 • CATEGORY GroupFilterName キーで指定したジョブ検索キーの分類名を持つスプールデータを表示します。
	GroupFilterName	文字列	—	アクセス許可に使用するジョブ検索キーの分類名を指定します。GroupFilter キーに CATEGORY を指定した場合に指定します。
	GroupFilterKeyNum	0~1,024	0	アクセスを許可するジョブ検索キーの数を指定します。
	GroupFilterKey n *2	文字列	—	アクセスを許可するジョブ検索キーを指定します。
	GroupFilterKeyNull	<ul style="list-style-type: none"> • ENABLE • DISENABLE 	DISENAB LE	<p>GroupFilterName キーのジョブ検索キーを持たないスプールデータにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。
	GroupFilterKeyOwner	<ul style="list-style-type: none"> • ENABLE • DISENABLE 	ENABLE	<p>GroupCategory キーのジョブ検索キーを持たないスプールデータにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。

(凡例)

—：省略値はありません。

注※1

n の範囲は、「1~ユーザ数 (Common セクションの GroupCategoryConfNum キーの値)」です。

注※2

n の範囲は、「1~アクセス許可するジョブ検索キーの数 (GroupCategoryConf セクションの GroupFilterKeyNum キーの値)」です。

14.7.4 サンプルの内容

このサンプルでは、次の5種類の帳票を管理する場合を想定しています。

帳票	説明
部署Aの管理資料	部署Aのリーダーがアクセスできる帳票です。
部署Aの公開資料	部署Aに所属するユーザがアクセスできる帳票です。また、部署Bのリーダーもアクセスできます。
部署Bの管理資料	部署Bのリーダーがアクセスできる帳票です。
部署Bの公開資料	部署Bに所属するユーザがアクセスできる帳票です。また、部署Aのリーダーもアクセスできます。
公開先の情報を持たない資料	公開先を設定していない帳票です。

サンプルの内容を次に示します。

```
[Common]
GroupCategoryConfNum=5
GroupCategory="ユーザ"

[GroupCategoryConf1]
GroupKey="システム管理者"
CheckString="pwadmin"
GroupFilter=NONE

[GroupCategoryConf2]
GroupKey="部署A__リーダー"
CheckString="pwleader"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=3
GroupFilterKey1="部署A__管理"
GroupFilterKey2="部署A__公開"
GroupFilterKey3="部署B__公開"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf3]
GroupKey="部署A__一般"
CheckString="pwsub"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=1
GroupFilterKey1="部署A__公開"
GroupFilterKeyNull=DISENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf4]
GroupKey="部署B__リーダー"
CheckString="pwleader"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
```

```

GroupFilterKeyNum=3
GroupFilterKey1="部署B__管理"
GroupFilterKey2="部署B__公開"
GroupFilterKey3="部署A__公開"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

```

```

[GroupCategoryConf5]
GroupKey="部署B__一般"
CheckString="pwsb"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=1
GroupFilterKey1="部署B__公開"
GroupFilterKeyNull=DISEnable
GroupFilterKeyOwner=DISEnable

```

```

[Default]
GroupFilter=ALL
GroupFilterKeyOwner=DISEnable

```

この内容でユーザ定義として定義する場合、各ユーザの帳票へのアクセス可否は次のようになります。

帳票	属性		ユーザ					
	ユーザ	公開先	システム管理者	部署A__リーダー	部署A__一般	部署B__リーダー	部署B__一般	デフォルトユーザ
01	部署A__リーダー	部署A__管理	○	○	×	×	×	×
02	部署A__リーダー	部署A__公開	○	○	○	○	×	×
03	部署A__一般	部署A__管理	○	○	○	×	×	×
04	部署A__一般	部署A__公開	○	○	○	○	×	×
05	部署B__リーダー	部署B__管理	○	×	×	○	×	×
06	部署B__リーダー	部署B__公開	○	○	×	○	○	×
07	部署B__一般	部署B__管理	○	×	×	○	×	×
08	部署B__一般	部署B__公開	○	○	×	○	○	×
09	—	—	○	○	×	○	×	×
10	部署A__リーダー	部署B__管理	○	○	×	○	×	×
11	部署A__リーダー	部署B__公開	○	○	×	○	○	×
12	部署A__一般	部署B__管理	○	×	○	○	×	×

帳票	属性		ユーザ					
	ユーザ	公開先	システム管理者	部署 A__リーダー	部署 A__一般	部署 B__リーダー	部署 B__一般	デフォルトユーザ
13	部署 A__一般	部署 B__公開	○	○	○	○	○	×
14	部署 B__リーダー	部署 A__管理	○	○	×	○	×	×
15	部署 B__リーダー	部署 A__公開	○	○	○	○	×	×
16	部署 B__一般	部署 A__管理	○	○	×	×	×	×
17	部署 B__一般	部署 A__公開	○	○	○	○	×	×

(凡例)

- ：属性情報がありません。
- ：アクセスできます。
- ×

14.8 クライアントプリンタクラス定義ファイル

14.8.1 概要

クライアントプリンタクラス定義ファイル (ClientPrinterClass.conf) は、クライアント PC のプリンタとトレイの組み合わせを定義するためのファイルです。複数のプリンタやトレイを効率良く管理したいときに使用します。

クライアントプリンタクラス定義ファイルは、EUR Client の [EUR Client 構成定義] ダイアログで設定します。クライアントプリンタクラスの設定については、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

14.8.2 格納先

クライアントプリンタクラス定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Client¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Client の環境設定ファイル (EURPMCL.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

14.9 宛先定義ファイル

14.9.1 概要

宛先定義ファイル (addrdef.conf[※]) は、配送印刷を使用するユーザと、対応する宛先を定義するためのファイルです。宛先定義ファイルで指定したユーザが配送印刷を使用できます。

注※

addrdef.conf は、宛先定義ファイルのデフォルトの名称です。宛先定義ファイルの名称は EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の CONF セクションの ADDRDEFFILENAME キーで変更できます。詳細については「[15.5.32 ADDRDEFFILENAME](#)」を参照してください。

ユーザについては、マニュアル「EUR システム構築ガイド」を参照してください。

14.9.2 格納先

Windows 環境の場合

宛先定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥Spool¥Conf フォルダ (デフォルト)
- EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

UNIX/Linux 環境の場合

宛先定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- /var/opt/eur/spool/Conf ディレクトリ (デフォルト)
- EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

14.9.3 形式

宛先キーの分類, 宛先キーの値, ユーザ

宛先定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

表 14-4 宛先定義ファイルの設定項目

キー	指定できる値	説明
宛先キーの分類	文字列 (1~80 バイト)	宛先キーの分類を指定します。宛先キーの分類を指定する場合、宛先キーの値も必ず指定してください。
宛先キーの値	文字列 (1~80 バイト)	宛先キーの値を指定します。宛先キーの値を指定する場合、宛先キーの分類も必ず指定してください。
ユーザ	文字列 (1~80 バイト)	ユーザを指定します。LDAP 認証を使用する場合、ユーザには LDAP のユーザ ID を宛先に定義してください。

宛先定義ファイルは、次のフォーマットで指定してください。

- キーは、タブまたは「,」で区切ってください。タブと「,」を混在させるとエラーになります。
- 改行コードは、`¥n` または `¥r¥n` を指定してください。
- 各キー内で、「"」,「,」および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を使用しないでください。「"」は各キーの先頭または末尾にだけ使用してください。
- 宛先キーとユーザ名は 1 行ずつ定義してください。なお、指定する行は 100,000 以内、1 行に指定するユーザ数は 100 以内にしてください。

定義例を次に示します。

```
宛先キーの分類1,宛先キーの値1,ユーザ1,ユーザ2,ユーザ3,...
宛先キーの分類2,宛先キーの値2,ユーザA,ユーザB,ユーザC,...
```

14.9.4 注意事項

- 複数の宛先およびユーザを指定したときは、情報量に応じた処理時間が掛かります。このため、指定する行数、および 1 行に指定するユーザは次の値の範囲内で設定してください。
 - 行数：100,000 行以内
 - 1 行に定義できるユーザ数：100 ユーザ以内
- 一つの宛先に複数のユーザを指定した場合、配送印刷の対象となるのは指定したユーザのうちどれか一つです。配送印刷の対象になるユーザは、ユーザがログインするタイミングや監視間隔のタイミングによって変わります。

14.9.5 サンプルの内容

サンプルの内容を次に示します。

```
部署, 部署A, 日立太郎, 日立次郎
部署, 部署A, 戸塚花子
部署, 部署B, 戸塚一郎
役職, リーダ, 日立太郎, 戸塚一郎
```


プリンタ, 連続紙, 日立太郎, 日立次郎
サークル, テニス, 戸塚花子

このサンプルでは、次に示す運用を想定しています。

宛先キーの値

宛先キーの分類	宛先キーの値
部署	部署 A または部署 B
役職	リーダー
プリンタ	連続紙
サークル	テニス

各部署の帳票の内容

部署	帳票	説明
部署 A	部署 A の資料	部署 A のユーザが配送印刷できる帳票です。
部署 B	部署 B の資料	部署 B のユーザが配送印刷できる帳票です。
役職	部署のリーダーへの連絡	部署のリーダーが配送印刷できる帳票です。
プリンタ	連続紙プリンタ用の資料	連続紙プリンタがある部署のユーザが配送印刷できる帳票です。
サークル	テニスサークルの連絡	テニスサークルに所属するユーザが配送印刷できる帳票です。

ユーザの立場

ユーザ	立場
日立太郎	部署 A のリーダー
日立次郎	部署 A のユーザ
戸塚一郎	部署 B のリーダー
戸塚花子	<ul style="list-style-type: none">部署 A のユーザテニスサークル所属

部署のプリンタ

部署	プリンタ
部署 A	連続紙プリンタ

この内容で配送印刷を定義する場合、各ユーザの配送印刷の可否は次のようになります。なお、一つの宛先に複数のユーザを指定している場合、配送印刷の対象となるのは指定したユーザのうちどれか一つです。

配送印刷	日立太郎	日立次郎	戸塚一郎	戸塚花子
部署 A の資料	○	○	×	○
部署 B の資料	×	×	○	×
リーダーへの連絡	○	×	○	×
連続紙プリンタ用の資料	○	○	×	×
テニスサークルの連絡	×	×	×	○

(凡例)

- ：配送印刷できる
- ×：配送印刷できない

14.10 監視定義ファイル

14.10.1 概要

監視定義ファイル (monitordef.conf) は、事前定義型で帳票自動出力機能を使用するときに、着信監視するマッピングデータファイルに対応する起動パラメタファイルを定義するファイルです。

14.10.2 格納先

監視定義ファイルの格納先は、次のどちらかです。

- インストール先フォルダ¥FileMonitor¥conf (デフォルト)
- ファイル監視サービスの環境設定ファイル (eurfm.ini) の PATH セクションの CONF キーで指定したフォルダ下

14.10.3 形式

照合パターンID, 照合パターン, 起動パラメタファイル名

監視定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

表 14-5 監視定義ファイルの設定項目

項目	指定できる値	説明
照合パターン ID	文字列 (1~80 バイト)	照合パターンを識別するための ID を指定します。
照合パターン	文字列 (1~255 バイト)	監視対象のマッピングデータファイルのファイル名を特定するための照合パターンを指定します。 監視フォルダに着信したファイルはこの照合パターンを使用して識別されます。 照合パターンには、半角文字の「*」および「?」のワイルドカードを使用できます。 半角文字「*」は 0 文字以上の任意の文字列を示します。半角文字「?」は 1 文字の任意の文字列を示します。
起動パラメタファイル名	文字列 (1~255 バイト)	照合パターンに一致したマッピングデータファイルに対して使用する起動パラメタファイルのファイル名を指定します。

監視定義ファイルは、次のフォーマットで指定してください。

- 1 つの照合パターンを 1 行で定義します。各照合パターンには、すべての項目を必ず 1 つずつ指定してください。

- 同一の照合パターンが複数定義されている場合は先に定義されているものが有効となります。
- 定義できる照合パターンの数は最大 100 です。
- 各項目は、タブまたは「,」で区切ってください。タブと「,」を混在させるとエラーになります。
- 改行コードは、`¥n` または `¥r¥n` を指定してください。
- 各項目内で、「"」,「,」および制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F) を使用しないでください。「"」は各項目の先頭または末尾にだけ使用してください。
- 空行は無視されます。

定義例を次に示します。

```
001, 請求書_*_部署A.csv, 請求書A.conf  
002, 請求書_*_部署B.csv, 請求書B.conf
```

14.10.4 注意事項

- 照合パターンに各項目が 1 つずつ指定されていない場合はエラーになります。
- 照合パターン ID が重複している場合はエラーになります。
- 定義している照合パターンの数が 100 を超えている場合はエラーになります。

15

環境設定ファイル

この章では、環境設定ファイルを使った実行環境の設定方法について説明します。

15.1 環境設定ファイルの一覧

環境設定ファイルの概要を次の表に示します。

表 15-1 環境設定ファイルの一覧

環境	ファイル名	説明	参照先
サーバ	EURPM.ini	EUR Server Service の動作環境を設定するファイルです。	15.2
	EURPS_ENV	EUR Print Service の動作環境を設定するファイルです。	15.3
	EURPMADP.ini	EUR Server - Adapter の動作環境を設定するファイルです。	15.4
	EURPMLS.ini	EUR Server - Spool Service の動作環境を設定するファイルです。	15.5
	EURPMLSADP.ini	EUR Server - Spool Service Adapter の動作環境を設定するファイルです。	15.6
	EURPMRSGUI.ini	帳票管理 GUI の動作環境を設定するファイルです。	15.7
	EURPMCTRL.ini	Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の動作環境を設定するファイルです。	15.9
	EURPMLSCTRL.ini	Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) の動作環境を設定するファイルです。	15.10
	eursmpr.ini	BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の動作環境を設定するファイルです。	15.11
	eurfm.ini	ファイル監視サービスの動作環境を設定するファイルです。	15.12
eurivk.ini	ジョブ実行プログラムの動作環境を設定するファイルです。	15.13	
クライアント	EURPMCL.ini	EUR Client Service の動作環境を設定するファイルです。	15.8

15.2 EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini)

対象コンポーネントまたは機能

EUR Server Service

設定内容

EUR Server Service の動作環境は、環境設定ファイル (EURPM.ini) で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は、EUR Server Service を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル (EURPM.ini) は、ユーザの利用目的に応じて指定できます。環境設定ファイル (EURPM.ini) の指定方法ごとのファイル名と格納場所を次の表に示します。

表 15-2 環境設定ファイル (EURPM.ini) の指定方法と格納場所

項番	指定方法	ファイル名	格納場所
1	デフォルト	EURPM.ini	Windows 環境の場合 インストール先フォルダ¥Server UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eur/server 下
2	起動管理定義または Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) で環境設定ファイルの格納先のフォルダを指定する場合	EURPM.ini	起動管理定義の環境設定ファイルパスまたは Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の ini オプションで指定した環境設定ファイルのフォルダパス
3	起動管理定義または Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) で環境設定ファイルのファイルパスを指定する場合	起動管理定義の環境設定ファイルパスまたは Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の ini オプションで指定した環境設定ファイルのファイルパス (ファイル名は任意)	

環境設定ファイルの設定手順

環境設定ファイル (EURPM.ini) の指定方法がデフォルトの場合を例に説明します。

• Windows 環境の場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) は、インストール先フォルダ¥Server 下に作成されます。

ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。

• UNIX/Linux 環境の場合

次に示す環境設定ファイル (EURPM.ini) のサンプルを、/opt/eur/sample/ServerService 下に提供しています。必要な内容を設定したあと、同じファイル名で/var/opt/eur/server 下に格納してください。

なお、/var/opt/eur/server には、EUR Server Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

<環境設定ファイル (EURPM.ini) のサンプルの内容>

```
[PORT]

[PATH]

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[OPTION]
PATHMODE=1
SOCKBUFFSIZE=64

[THREAD]
EURPS=2
MERGE=2

[TIMEOUT]

[ENV]

[FILE]
```

<環境設定ファイル (EURPM.ini) の設定手順>

環境設定ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eur/sample 下にある環境設定ファイル (EURPM.ini) のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 環境設定ファイルを編集する。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (EURPM.ini) で /var/opt/eur/server 下に格納する。
/var/opt/eur/server には、EUR Server Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例 (Windows 環境の場合)

```
[PORT]
EURPM=22314
EURPMLS=22313
EURPMCL=23035

[PATH]
FORM=C:¥EURPM¥Form
CONF=C:¥EURPM¥Conf
TEMP=C:¥EURPM¥Temp
MULTI=C:¥EURPM¥Multi
DOCINFO=C:¥EURPM¥DocInfo
DBINFO=C:¥EURPM¥DBInfo
```



```

REPLACEITEM=C:¥EURPM¥ReplaceItem
SCRIPTCNT=C:¥EURPM¥ScriptCnt
PREFERENCE=C:¥EURPM¥Preference
PSENV=C:¥EURPM¥PSEnv
PDF=C:¥EURPM¥PDF
PRINTDATE=C:¥EURPM¥PrintDate
SPLIT=C:¥EURPM¥Split

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPM¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[OPTION]
PATHMODE=0
TEMPFILEDEL=1
SOCKBUFSIZE=64
SPLITMODE=PAGE
RMDIRRETRYCOUNT=1
RMDIRINTERVALTIME=200

[THREAD]
GENERAL=200
EURPS=1
MERGE=0

[TIMEOUT]
CONNECT=300
ERRIGNORE=300

[ENV]
PSENVFILENAME=EURPS_ENV

[FILE]
PRINTDATE=PRINTDATETIME.txt
SPLIT=PMPageSplit.txt

```

15.2.1 設定項目一覧

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-3 EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PORT	EURPM	EUR Server Service のポート番号を指定します。
	EURPMLS	EUR Server - Spool Service のポート番号を指定します。
	EURPMCL	EUR Client Service のポート番号を指定します。
PATH	FORM	帳票ファイルを格納したフォルダを指定します。
	CONF	構成定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

セクション	キー	説明
PATH	TEMP	EUR Server Service の作業フォルダを指定します。
	MULTI	複数様式情報定義ファイルを格納したフォルダを指定します。
	DOCINFO	文書情報設定ファイルを格納したフォルダを指定します。
	DBINFO	接続情報ファイルを格納したフォルダを指定します。
	REPLACEITEM	置き換え表管理情報ファイルを格納したフォルダを指定します。
	SCRIPTCNT	Acrobat JavaScript 定義ファイルを格納したフォルダを指定します。
	PREFERENCE	ビューアプレファレンス定義ファイルを格納したフォルダを指定します。
	PSENV	EUR Server Service のサービスごとに環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定する場合、環境設定ファイル (EURPS_ENV) を格納したフォルダを指定します。
	PDF	EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力する場合の、デフォルトの出力先フォルダを指定します。
	PRINTDATE	印刷日時出力定義ファイルを格納したフォルダを指定します。
	SPLIT	分割定義ファイル、または仕分け定義ファイルを格納したフォルダを指定します。
REPORTID	帳票出力定義ファイルを格納したフォルダを指定します。	
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPM.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPM.log) のファイルサイズの上限を指定します。
OPTION	PATHMODE	帳票サーバに置くファイルのパスモードを指定します。
	TEMPFILEDEL	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。
	SPLITMODE	蓄積時に、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。
	RMDIRRETRYCOUNT	EUR Server Service で作業用一時ディレクトリの削除に失敗した場合、リトライする回数を指定します。

セクション	キー	説明
OPTION	RMDIRINTERVALTIME	EUR Server Service で作業用一時ディレクトリの削除に失敗した場合、リトライするまでの待機時間を指定します。
THREAD	GENERAL	EUR Server Service の並列処理数を指定します。
	EURPS	EUR Print Service の並列処理数を指定します。
	MERGE	複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合の並列処理数を指定します。
TIMEOUT	CONNECT	意図しない接続元が、データ通信を行わないで EUR Server Service と接続したままの状態になった場合、切断するまでの時間を指定します (タイムアウト監視)。
	ERRIGNORE	ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理 (生死監視) が実行された場合に、切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。
	LOGEXCLUSIVE	ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。
ENV	PSENVFILENAME	EUR Server Service のサービスごとに環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定する場合、環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名を指定します。
FILE	PRINTDATE	印刷日時出力定義ファイル名を指定します。
	SPLIT	分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル名を指定します。

15.2.2 EURPM

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Server Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は 0~65535 です。

省略値

EURPM キーを省略した場合は、「22314」が仮定されます。

15.2.3 EURPMLS

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Server - Spool Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は 0～65535 です。

省略値

EURPMLS キーを省略した場合は、「22313」が仮定されます。

15.2.4 EURPMCL

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Client Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は 0～65535 です。

省略値

EURPMCL キーを省略した場合は、「23035」が仮定されます。

15.2.5 FORM

セクション

[PATH]

設定内容

帳票ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

FORM キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Form フォルダ

- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Form

15.2.6 CONF

セクション

[PATH]

設定内容

構成定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

CONF キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Conf フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Conf

15.2.7 TEMP

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Server Service の作業フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

TEMP キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Temp フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Temp

15.2.8 MULTI

セクション

[PATH]

設定内容

複数様式情報定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

MULTI キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Multi フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Multi

15.2.9 DOCINFO

セクション

[PATH]

設定内容

文書情報設定ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

DOCINFO キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥DocInfo フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/DocInfo

15.2.10 DBINFO

セクション

[PATH]

設定内容

接続情報ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

DBINFO キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥DBInfo フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/DBInfo

15.2.11 REPLACEITEM

セクション

[PATH]

設定内容

置き換え表管理情報ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

REPLACEITEM キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥ReplaceItem フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/ReplaceItem

15.2.12 SCRIPTCNT

セクション

[PATH]

設定内容

Acrobat JavaScript 定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

SCRIPTCNT キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥ScriptCnt フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/ScriptCnt

15.2.13 PREFERENCE

セクション

[PATH]

設定内容

ビューアプレファレンス定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

PREFERENCE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Preference フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Preference

15.2.14 PSENV

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Server Service のサービスごとに環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定する場合、環境設定ファイル (EURPS_ENV) を格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

PSENV キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき

インストール先フォルダ¥Server¥PSEnv フォルダ

- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/PSEnv

15.2.15 PDF

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力する場合の、デフォルトの出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

PDF キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥PDF フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/PDF

注意事項

指定するフォルダには、必ず書き込み権限を設定してください。

15.2.16 PRINTDATE (PATH セクション)

セクション

[PATH]

設定内容

印刷日時出力定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

PRINTDATE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥PrintDate フォルダ

- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/PrintDate

15.2.17 SPLIT (PATH セクション)

セクション

[PATH]

設定内容

分割定義ファイル，または仕分け定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

SPLIT キーを省略した場合は，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Split フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Split

15.2.18 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPM.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log

注意事項

EUR Server Service が複数起動している場合は、ログファイル名が「EURPM_<識別名>.log」になります。

15.2.19 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.2.20 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPM.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

注意事項

EUR Server Service が複数起動している場合は、ログファイル名が「EURPM_<識別名>.log」になります。

15.2.21 PATHMODE

セクション

[OPTION]

設定内容

帳票サーバに格納するファイルのパスモードを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：通常パスモードを指定します。
- 1：フルパスモードを指定します。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PATHMODE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

PATHMODE キーを指定するときの注意事項を次に示します。

「0 (通常パスモード)」を指定する場合

- 帳票出力時には、パスを指定しないでファイル名だけを指定してください。
- 帳票出力時に指定するファイルは、次の表に示すように、EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で設定しているフォルダに格納しておいてください。

表 15-4 帳票出力時に指定するファイルとファイルの格納先を設定する EUR Server Service の環境設定ファイルのキー

帳票出力時に指定するファイル	EUR Server Service の環境設定ファイルの PATH セクションのキー
接続情報ファイル	DBINFO
文書情報設定ファイル	DOCINFO
帳票ファイル	FORM
複数様式情報定義ファイル	MULTI
ビューアプレファレンス定義ファイル	PREFERENCE
印刷日時出力定義ファイル	PRINTDATE
環境設定ファイル (EURPS_ENV)	PSENV

帳票出力時に指定するファイル	EUR Server Service の環境設定ファイルの PATH セクションのキー
置き換え表管理情報ファイル	REPLACEITEM
Acrobat JavaScript 定義ファイル	SCRIPTCNT
分割定義ファイル, または仕分け定義ファイル	SPLIT

- PDF 形式ファイルの出力先を EUR Server Service 稼働マシンにしているときは、EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PDF キーで設定しているフォルダにファイルが出力されます。

PDF キーの詳細については、「[15.2.15 PDF](#)」を参照してください。

「1 (フルパスモード)」を指定する場合

- 帳票出力時には、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。指定方法は次のとおりです。

フルパスで指定する場合

ファイル名をフルパスで指定します。なお、表 15-3 に示した EUR Server Service の環境設定ファイルの設定は無視されます。

相対パスで指定する場合

表 15-3 に示した EUR Server Service の環境設定ファイルのキーに設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定します。

ファイル名だけで指定する場合

表 15-3 に示した EUR Server Service の環境設定ファイルのキーに設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

- PDF 形式ファイルの出力先を EUR Server Service 稼働マシンにしているとき、ファイルの出力先は、次のようになります。

ファイル名をフルパスで指定する場合

起動部品で指定したパスに出力されます。なお、環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。

ファイル名を相対パスで指定する場合

環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし、そこから起動部品で指定したパスに出力されます。

ファイル名だけを指定する場合

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。

PDF キーの詳細については、「[15.2.15 PDF](#)」を参照してください。

15.2.22 TEMPFILEDEL

セクション

[OPTION]

設定内容

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

EUR Server Service は、印刷実行時には TEMP キーで設定した作業フォルダに一時ファイルを生成できます。一時ファイルは、障害対策のために使用します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時は削除します。異常終了時は削除しません。
- 2：常に削除しません。

0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

TEMPFILEDEL キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

15.2.23 SOCKBUFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は、1~2,000,000 です。単位は KB です。

通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は、「0」を指定してください。

0~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SOCKBUFSIZE キーを省略した場合は、「64」が仮定されます。

注意事項

KEEY316-E, KEEY317-E, KEEY318-E, KEEY330-E, または KEEY335-E の通信エラーが発生し、かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは、指定した通信バッファサイズを確保するためのシステムのバッファ領域が不足していることを示しています。エラーが発生したときは、SOCKBUFSIZE キーに指定されている値を小さく（8~64）して再試行してください。

なお、指定した値によっては、通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

15.2.24 SPLITMODE

セクション

[OPTION]

設定内容

蓄積時に、帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- NO：分割または仕分けしないで蓄積します。
- KEY：帳票を仕分けして蓄積します。
- PAGE：帳票を分割して蓄積します。

NO, KEY, PAGE 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SPLITMODE キーを省略した場合は、「NO」が仮定されます。

注意事項

起動部品で帳票を分割または仕分けするかどうかを指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。帳票を分割または仕分けするかどうかを指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：[SplitMode](#) プロパティ
- Java 起動部品：[setSplitMode](#) メソッド
- COBOL 起動部品：[SPLITMODE](#) パラメタ
- コマンド：[eurpmc](#) コマンドの [/split](#) オプション

なお、蓄積時に起動部品で分割または仕分けの設定をしていない場合は、SPLITMODE キーに「KEY」または「PAGE」を指定すると、すべての帳票が分割または仕分けして出力されます。

15.2.25 RMDIRRETRYCOUNT

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Server Service で作業用一時フォルダの削除に失敗した場合、リトライする回数を指定します。

指定値

指定できる値は 0～20 です。

「0」を指定した場合、作業用一時フォルダの削除はリトライされません。

0～20 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

RMDIRRETRYCOUNT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.2.26 RMDIRINTERVALTIME

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Server Service で作業用一時フォルダの削除に失敗した場合、リトライするまでの待機時間を指定します。

指定値

指定できる値は 100～1,000 です。単位はミリ秒です。

100～1,000 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

RMDIRINTERVALTIME キーを省略した場合は、「200」が仮定されます。

15.2.27 GENERAL

セクション

[THREAD]

設定内容

EUR Server Service の並列処理数を指定します。

指定値

指定できる値は 1～5,000 です。

1～5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

GENERAL キーを省略した場合は、「200」が仮定されます。

注意事項

GENERAL キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。

15.2.28 EURPS

セクション

[THREAD]

設定内容

EUR Print Service の並列処理数を指定します。

CPU 数に応じて EURPS キーを設定すると、高い並列処理効果が得られます。

指定値

指定できる値は 1~5,000 です。

1~5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

EURPS キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

注意事項

- EURPS キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。
- EUR Print Service を実行するときは、CPU 使用率が非常に高くなります。

15.2.29 MERGE

セクション

[THREAD]

設定内容

複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合の並列処理数を指定します。

CPU 数に応じて MERGE キーを設定すると、高い並列処理効果が得られます。

指定値

指定できる値は 0~5,000 です。

「0」を指定した場合は、並列処理数を制御しません。

MERGE キーの値は、稼働する EUR Server Service のサービスごとに有効になります。

0~5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

MERGE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

- MERGE キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。
- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは、CPU 使用率が非常に高くなります。

15.2.30 CONNECT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

意図しない接続元が、データ通信を行わないで EUR Server Service と接続したままの状態になった場合、切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。

指定値

指定できる値は、0～3,600 です。単位は秒です。

CONNECT キーに 0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

CONNECT キーを省略した場合は、「600（10 分）」が仮定されます。

注意事項

通信に時間が掛かり、タイムアウトで切断されてしまう場合は、CONNECT キーの値（タイムアウトの監視時間）を大きくして再試行してください。

なお、指定した値によっては、意図しない接続を切断するのに時間が掛かり、その間ジョブを受け付けられなくなったり、EUR Server Service を停止できなくなったりします。その場合は、値を変更してチューニングしてください。

15.2.31 ERRIGNORE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に、切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。

なお、何らかのデータを通信したあとに切断を検知した場合は、エラーが出力されます。

指定値

指定できる値は、0～3,600 です。単位は秒です。

ERRIGNORE キーに「0」を指定した場合は、切断を検知すると必ずエラーが出力されます。

0～3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ERRIGNORE キーを省略した場合は、「3」が仮定されます。

注意事項

通信ポートの監視を実行する場合で、KEEY316-Eのエラーが発生したときは、ERRIGNORE キーの値（切断を検知した場合にエラーを出力しない時間）を大きくして再試行してください。

なお、指定した値によっては、EUR Server - Adapter との接続が何らかの不具合により切断された場合に、切断を検知できなくなることがあります。その場合は、値を変更してチューニングしてください。

15.2.32 LOGEXCLUSIVE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。

指定値

指定できる値は、0~86,400 です。単位は秒です。

LOGEXCLUSIVE キーに「0」を指定した場合は、タイムアウトは行いません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGEXCLUSIVE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.2.33 PSENVFILENAME

セクション

[ENV]

設定内容

EUR Server Service のサービスごとに環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定する場合、環境設定ファイル (EURPS_ENV) のファイル名を指定します。

指定値

PSENVFILENAME キーの指定方法は、PATHMODE キーの設定によって異なります。PATHMODE キーの詳細については、「[15.2.21 PATHMODE](#)」を参照してください。PSENVFILENAME キーの指定方法を次に示します。

- PATHMODE キーに「0 (通常パスモード)」を設定する場合
ファイル名だけを指定します。
環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、PSENV キーで設定したフォルダに格納してください。
- PATHMODE キーに「1 (フルパスモード)」を設定する場合

フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定します。

- **フルパスで指定する場合**

ファイル名をフルパスで指定します。なお、PSENV キーには指定が要りません。

- **相対パスで指定する場合**

PSENV キーで設定しているフォルダを起点とし、そのフォルダ下にあるファイル名を指定します。

- **ファイル名だけで指定する場合**

PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

省略値

PSENVFILENAME キーを省略した場合は、EUR Server Service から環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定しないことになります。

注意事項

起動部品で環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。環境設定ファイル (EURPS_ENV) を指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PSEnvFileName プロパティ
- Java 起動部品：setPSEnvFileName メソッド
- COBOL 起動部品：PSENVFILENAME パラメタ
- コマンド：eurpmc コマンドの/psenvf オプション

15.2.34 PRINTDATE (FILE セクション)

セクション

[FILE]

設定内容

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

指定値

PRINTDATE キーの指定方法は、PATHMODE キーの設定によって異なります。PATHMODE キーの詳細については、「15.2.21 PATHMODE」を参照してください。PRINTDATE キーの指定方法を次に示します。

- **PATHMODE キーに「0 (通常パスモード)」を設定する場合**

ファイル名だけを指定します。

印刷日時出力定義ファイルは、PATH セクションの PRINTDATE キーで設定したフォルダに格納してください。

- **PATHMODE キーに「1 (フルパスモード)」を設定する場合**

フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定します。

- **フルパスで指定する場合**

ファイル名をフルパスで指定します。なお、PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が
要りません。

- **相対パスで指定する場合**

PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダを起点とし、そのフォルダ下
にあるファイル名を指定します。

- **ファイル名だけで指定する場合**

PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

省略値

FILE セクションの PRINTDATE キーを省略した場合は、EUR Server Service から印刷日時出力定義
ファイルを指定しないこととなります。この場合、印刷実行時の日時情報を帳票に出力しません。

注意事項

起動部品で印刷日時出力定義ファイルを指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。印刷日
時出力定義ファイルを指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプ
ションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PrintDateFileName プロパティ
- Java 起動部品：setPrintDateFileName メソッド
- COBOL 起動部品：PRINTDATEFILENAME パラメタ
- コマンド：eurpmc コマンドの/prdatef オプション

15.2.35 SPLIT (FILE セクション)

セクション

[FILE]

設定内容

分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル名を指定します。

指定値

SPLIT キーの指定方法は、PATHMODE キーの設定によって異なります。PATHMODE キーの詳細
については、「[15.2.21 PATHMODE](#)」を参照してください。SPLIT キーの指定方法を次に示します。

- **PATHMODE キーに「0 (通常パスモード)」を設定する場合**

ファイル名だけを指定します。

分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルは、PATH セクションの SPLIT キーで設定したフォルダに格納してください。

- **PATHMODE キーに「1 (フルパスモード)」を設定する場合**

フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定します。

- **フルパスで指定する場合**

ファイル名をフルパスで指定します。なお、PATH セクションの SPLIT キーには指定が要りません。

- **相対パスで指定する場合**

PATH セクションの SPLIT キーで設定しているフォルダを起点とし、そのフォルダ下にあるファイル名を指定します。

- **ファイル名だけで指定する場合**

PATH セクションの SPLIT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

省略値

FILE セクションの SPLIT キーを省略した場合は、EUR Server Service から分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルを指定しないことになります。

注意事項

起動部品で分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルを指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイルを指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：SplitFileName プロパティ
- Java 起動部品：setSplitFileName メソッド
- COBOL 起動部品：SPLITFILENAME パラメタ
- コマンド：eurpmc コマンドの /splitf オプション

15.2.36 REPORTID

セクション

[PATH]

設定内容

帳票出力定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

REPORTID キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥reportid フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき

/var/opt/eur/server/reportid

15.3 EUR Print Service の環境設定ファイル (EURPS_ENV)

対象コンポーネントまたは機能

EUR Print Service

設定内容

EUR Server Service での帳票出力時の EUR Print Service の動作環境は、環境設定ファイル (EURPS_ENV) で設定します。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、ユーザの利用目的に応じて指定できます。環境設定ファイル (EURPS_ENV) の指定方法と格納場所を次の表に示します。

表 15-5 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の指定方法と格納場所

項番	指定方法	ファイル名	格納場所
1	印刷ジョブごとにファイルを指定する場合	起動部品で指定したファイル名 <ul style="list-style-type: none">ActiveX 起動部品： PSEnvFileName プロパティJava 起動部品： setPSEnvFileName メソッドCOBOL 起動部品： PSENVFILENAME パラメタコマンド：eurpmc コマンドの/psenvf オプション	起動部品で指定したフォルダパス <ul style="list-style-type: none">ActiveX 起動部品：PSEnvFilePath プロパティJava 起動部品：setPSEnvFilePath メソッドCOBOL 起動部品：PSENVFILEPATH パラメタコマンド：eurpmc コマンドの/psenvf オプション
2	EUR Server Service のサービスごとにファイルを指定する場合	EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で指定したファイル名	EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で指定したフォルダパス
3	EUR Print Service の実行ユーザごとにファイルを指定する場合	環境変数 EURPS_ENVFILE で指定したファイルパス (ファイル名は任意)	
4	デフォルト	Windows 環境の場合 EURPS_ENV UNIX/Linux 環境の場合 eurps_env	Windows 環境の場合 インストール先フォルダ¥Print UNIX/Linux 環境の場合 /etc/opt/eur 下

環境設定ファイルは複数指定することもできます。複数の環境設定ファイルを指定した場合で、同じ環境変数に異なる値を指定したときは、次の優先順位で設定内容が適用されます。

1. 起動部品で指定した環境設定ファイルの内容
2. EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) で指定した環境設定ファイルの内容

3. 環境変数 EURPS_ENVFILE で指定した環境設定ファイルの内容
4. デフォルトのフォルダに格納した環境設定ファイルの内容

EUR Server Service の環境設定ファイル (EURPM.ini) については、「[15.2 EUR Server Service の環境設定ファイル \(EURPM.ini\)](#)」を参照してください。

環境設定ファイルの設定手順

環境設定ファイル (EURPS_ENV) の指定方法がデフォルトの場合を例に説明します。

- Windows 環境の場合
環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、インストール先フォルダ¥Print 下に作成してください。
ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
次に示す環境設定ファイル (eurps_env) のサンプルを、/opt/eur/sample 下に提供しています。
必要な内容を設定したあと、同じファイル名で/etc/opt/eur 下に格納してください。
なお、/etc/opt/eur には、EUR Server Service の実行ユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

<環境設定ファイル (eurps_env) の設定手順>

環境設定ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eur/sample 下にある環境設定ファイル (eurps_env) のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 環境設定ファイルを編集する。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (eurps_env) で/etc/opt/eur 下に格納する。
/etc/opt/eur には、EUR Server Service の実行ユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
EURPS_EPFDPPI=600  
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS=ON
```

注意

Windows 環境の場合、環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Developer、または EUR Server 製品 (EUR Server Standard, EUR Server Enterprise) のアンインストールを実行しても削除されません。環境設定ファイルを削除する場合は、エクスプローラなどから直接環境設定ファイルを削除してください。

UNIX, および Linux 対応の EUR Server 製品 (EUR Server Standard, EUR Server Enterprise) のアンインストールについては、製品に添付されているリリースノートを参照してください。

15.3.1 環境変数一覧

この項では、次項以降で説明する環境変数を用途別に一覧表で示します。それぞれの表の環境変数はアルファベット順で記載しています。

(1) 共通で使用する環境変数

共通で使用する環境変数を次に示します。

表 15-6 共通で使用する環境変数

環境変数	説明
EURPS_CODE128_PARAM	CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。
EURPS_CODE39_PARAM	CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD	小数点文字が設定されていない帳票ファイルを CSV 形式ファイルに出力する場合、小数点文字を「.」で出力するかどうかを指定します。
EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY	データベースからの抽出件数が 0 の場合に、帳票を出力しないようにします。
EURPS_FIXOPT	データファイル (FIX 形式) の区切り位置をバイトで区切るか、桁で区切るかを指定します。
EURPS_FONT_ROUNDSDOWN	帳票印刷時に使用するフォントサイズについて、帳票設計時に指定された数値の小数部を切り捨てるかどうかを指定します。
EURPS_FONT_WIDTH_MODE	文字幅の計算方法を指定します。
EURPS_GAIJIFONT	フォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_IMAGEPATH	画像ファイルのある場所を指定します。
EURPS_J84GA16 *1*2	ゴシック体アंक 8×16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA24 *1*2	ゴシック体アंक 12×24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。

環境変数	説明
EURPS_J84GA48 ※1	ゴシック体アंक 24×48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA72 ※1	ゴシック体アंक 36×72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA96 ※1	ゴシック体アंक 48×96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK16 ※1※2	ゴシック体漢字 16×16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK24 ※1※2	ゴシック体漢字 24×24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK48 ※1	ゴシック体漢字 48×48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK72 ※1	ゴシック体漢字 72×72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK96 ※1	ゴシック体漢字 96×96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA16 ※1※2	明朝体アंक 8×16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA24 ※1※2	明朝体アंक 12×24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA48 ※1	明朝体アंक 24×48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA72 ※1	明朝体アंक 36×72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA96 ※1	明朝体アंक 48×96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK16 ※1※2	明朝体漢字 16×16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK24 ※1※2	明朝体漢字 24×24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK48 ※1	明朝体漢字 48×48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。

環境変数	説明
EURPS_J84MK72 ※1	明朝体漢字 72×72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK96 ※1	明朝体漢字 96×96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_LOGFILELEVEL	ログファイルへのメッセージ出力レベルを指定します。
EURPS_LOGFILEPATH	ログファイルの出力先の場所を指定します。
EURPS_LOGSIZE	ログファイルのファイルサイズを指定します。
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES	印刷ジョブの最大ページ数を指定します。
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE	LIPSIII, および PostScript 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップするかどうかを指定します。
EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH	ゴシック体の EUR フォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_PDL_EXMINFONTPATH	明朝体の EUR フォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_PRINT	出力ページ情報ファイル (V8 互換機能) を出力する場合に、帳票出力をするかどうかを指定します。
EURPS_PRINTERINFPATH	プリンタ定義ファイルのパスを指定します。
EURPS_QR_CELL_SIZE_D	生成される QR コードのセルサイズをドット単位で指定します。
EURPS_QR_CELL_SIZE_M	生成される QR コードのセルサイズを 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL	QR コードの訂正レベルを指定します。
EURPS_QR_VERSION	生成される QR コードの最低のバージョンを指定します。
EURPS_REPLACEITEMPATH	置き換え表ファイルのある場所を指定します。
EURPS_REPORT_LOGERROR	eurps ログを出力できなかった場合に、イベントログや syslog にメッセージを出力するかどうかを指定します。
EURPS_REPORT_WARNING	警告要因を記録するかどうかを指定します。

環境変数	説明
EURPS_TESTPRINTFILE	テスト印刷設定ファイル名を指定します。
EURPS_TMPPATH	一時ファイル出力先フォルダをフルパスで指定します。
EURPS_TRACE	トレースファイルを出力するかどうかを指定します。
EURPS_TRACE_DRAWAPI	描画系 API のトレースファイルを出力するかどうかを指定します。
EURPS_UPC_BARCODE	UPC バーコードの出力を有効にするかどうかを指定します。
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG	フォントの半角全角判定を文字コードごとにするか、フォントごとにするかどうかを指定します。
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE	「フォント縦横比を補正する」が設定されていて、文字列アイテムのフォントが MS ゴシックでない場合、バージョン 05-06 以前の動作にするかどうかを指定します。
EURPS_PS2_PR1	帳票を PostScript 対応プリンタで出力する場合、用紙サイズおよび部数の設定を、帳票の先頭ページおよび用紙サイズが切り替わったページだけに行うか、各ページに行うかを指定します。
EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESET PAGENUMBER	先頭ページまたは最終ページだけに出力するアイテムを含む複数様式の帳票を出力する場合の、出力方法を指定します。
EURPS_LOCATION_FIXIMAGE	固定画像を含む帳票を出力する場合、帳票内に埋め込まれた固定画像を参照するか、帳票に外部データとして配置した画像ファイルを参照するかの画像参照モードを指定します。
EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE	文字アイテムを含む帳票を出力する場合、文字アイテムに含まれる空白を出力するかどうかを指定します。

注※1

ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数です。

注※2

ESC/P 対応プリンタに出力する場合は、必ず設定してください。

(2) PDF 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数

PDF 形式ファイルに出力する場合の環境変数を次に示します。

表 15-7 PDF 形式ファイルに出力する場合の環境変数

環境変数	説明
EURPS_OUTPUTPATH	PDF 形式ファイルを仕分けして出力する場合に、EUR Server Service 稼働マシンの出力先フォルダを指定します。
EURPS_OUTPUTPDF_VER	出力する PDF 形式ファイルのバージョンを指定します。
EURPS_PDF_BUFSIZE	PDF 形式ファイルを出力するときに使用される IO バッファサイズを指定します。
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリリソースを最適化するかどうかを指定します。
EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT	PDF 形式ファイルに画像を出力する場合の位置やサイズの単位を指定します。
EURPS_PDF_OUTPUT	PDF 形式ファイルを印刷する場合、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先するかを指定します。
EURPS_PDF_SAMEIMAGE	同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。
EURPS_SCRIPTFILEPATH	Acrobat JavaScript ファイルのある場所を指定します。
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE	PDF 形式ファイルへ出力する場合に、空白をスキップするかどうかを指定します。

(3) EPF 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数

EPF 形式ファイルに出力する場合の環境変数を次に示します。

表 15-8 EPF 形式ファイルに出力する場合の環境変数

環境変数	説明
EURPS_EPF DPI	EPF 形式ファイルを出力する場合に、解像度 (DPI 値) を指定します。
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS	EPF 形式ファイルを出力する場合に、画像アイテムやバーコードアイテムなどの画像データを圧縮するかどうかを指定します。

(4) Excel 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数

Excel 形式ファイルに出力する場合の環境変数を次に示します。

表 15-9 Excel 形式ファイルに出力する場合の環境変数

環境変数	説明
EURPS_EXCELLOGFILELEVEL	Excel 形式ファイルへ出力する場合に、ログファイルへのメッセージ出力レベルを指定します。
EURPS_EXCELTMPPTH	Excel 形式ファイルへ出力する場合の、一時フォルダの場所を指定します。
EURPS_EXCEL_REPEAT_MODE	Excel 形式ファイルへ出力する場合に、ページ単位でシートを分けるかどうかを指定します。

15.3.2 EURPS_LOGFILEPATH

設定内容

ログファイル (eurps.log および EPS-XLSX ログ) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH に指定したフォルダが存在しない場合は、指定したフォルダが自動的に作成されます。

出力先フォルダの作成については、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

省略値

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH の指定を省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log ディレクトリ

注意事項

Windows 環境の場合は、環境変数 EURPS_LOGFILEPATH を設定したあとに、次の事項を確認してください。

- 指定した出力先フォルダに、実行、および書き込み権限があるかどうかを確認
出力先フォルダには、書き込み権限を与えてください。
- 指定した出力先フォルダに既存のログファイルがある場合、そのログファイルに書き込み権限があるかどうかを確認
既存のログファイルに上書きする場合は、書き込み権限を与えてください。

15.3.3 EURPS_LOGSIZE

設定内容

ログファイル (eurps.log) のファイルサイズを指定します。

指定値

指定できるファイルサイズは、3,000~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できるファイルサイズの範囲外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_LOGSIZE の指定を省略した場合は、「3,000」が仮定されます。

注意事項

ログファイルのファイルサイズは、印刷ページ総数量ではなく、印刷要求数（印刷ジョブ数）に依存してログの採取量が変わります。そのため、業務システム上の一日当たりの印刷要求数などを目安にしたり、システム保守上、保存できる期限も考慮したりして、ログファイルのファイルサイズを見積もってください。

例えば、印刷要求数の一日平均を 1,000 回、1 回の実行で出力するファイル容量を 1.5KB とした場合、5 日間分のログを記録するためには、

「1.5 (KB) × 1,000 (回) × 5 (日) = 7,500 (KB)」のファイルサイズが必要になります。

15.3.4 EURPS_LOGFILELEVEL

設定内容

ログファイル (eurps.log) へのメッセージ出力レベルを指定します。

指定値

次に示す 2 種類のメッセージ出力レベルを指定することで、出力されるメッセージの内容を選択できます。

表 15-10 メッセージ出力レベル

環境変数の設定値	出力されるメッセージの内容
INFO	エラーレベル (Error (Err)) と情報レベル (Information (Inf)) のログを出力します (デフォルト)。
ERROR	エラーレベル (Error (Err)) だけを出力します。

警告発生時のエラー (Warning (War)) を出力する場合は、「INFO」を指定します。

省略値

環境変数 EURPS_LOGFILELEVEL の指定を省略した場合は、「INFO」が仮定されます。

15.3.5 EURPS_IMAGEPATH

設定内容

画像ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。

なお、データファイルに記載する画像ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

- ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダから画像ファイルを読み込みます。
- ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして画像ファイルを読み込みます。
- ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ下の画像ファイルを読み込みます。

指定値

画像ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを、フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_IMAGEPATH の指定を省略した場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- Windows 環境のとき
 - 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ
 - EUR Developer, EUR Server Enterprise, または EUR Server Standard のインストール先フォルダ¥Print
- UNIX/Linux 環境のとき
 - 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているディレクトリ
 - ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
 - /var/opt/eur ディレクトリ

15.3.6 EURPS_REPORT_WARNING

設定内容

警告要因を記録するかどうかを指定します。

EUR サーバ帳票出力機能では、コマンドを実行した時に警告要因があっても、終了コード 4 を返してコマンドは正しく終了し、帳票出力も正常に行われます。そのため、環境変数 EURPS_REPORT_WARNING は、警告要因を知らせる必要がある場合だけ、終了コード 4 を返すよ

うに設定できます。終了コードについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-11 EURPS_REPORT_WARNING の設定値

環境変数の設定値	警告発生時の状況
YES	警告要因がある場合、終了コード4を返して終了します（デフォルト）。終了コード4を返すことで、何らかのエラー要因があったことを示します。
NO	警告要因があっても、終了コード0を返して終了します。

YES、NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_REPORT_WARNING の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

注意事項

環境変数 EURPS_REPORT_WARNING の設定は、プリンタに出力する場合、および PDF 形式ファイルへ出力する場合に効果があります。EUR 形式ファイルへ出力する場合は、環境変数 EURPS_REPORT_WARNING に「YES」を指定しても、終了コード0を返して終了します。

15.3.7 EURPS_GAIJIFONT

設定内容

Windows 環境、HP-UX 環境、または AIX 環境の場合、外字を定義したファイルを指定します。

指定値

• Windows 環境の場合

外字ファイル (*.tte) をフルパス、相対パス、またはファイル名で指定します。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、カレントディレクトリを起点としてファイルを検索します。

• HP-UX 環境の場合

HP-UX 外字ツールを使用して作成したフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。

• AIX 環境の場合

AIX 外字ツールを使用して登録したフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。フォントファイルは圧縮形式ファイルです。そのため、EUR サーバ帳票出力機能で使用できるように、非圧縮形式ファイルに解凍してから環境変数「EURPS_GAIJIFONT」に設定します。

省略値

環境変数 EURPS_GAIJIFONT の指定を省略した場合は、未指定となります。

注意事項

EUR Client などのビューアが存在する製品と連携している場合は、環境変数 EURPS_GAIJIFONT の指定が無効になります。ビューアの存在する環境に外字を定義したファイルを用意してください。

15.3.8 EURPS_PDF_OUTPUT

設定内容

PDF 形式ファイルを印刷する場合、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先するかを指定します。図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力し、非 PostScript プリンタから印刷する場合、印刷に時間が掛かることがあります。このような場合、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT に「PRINT_SPEED」を設定しておくことで、印刷時間を短縮できます。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-12 EURPS_PDF_OUTPUT の設定値

環境変数の設定値	説明
FILE_SIZE	ファイルサイズを優先します（デフォルト）。
PRINT_SPEED	印刷スピードを優先します。ただし、「FILE_SIZE」を指定した時よりファイルサイズが大きくなる場合があります。

FILE_SIZE, PRINT_SPEED 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT の指定を省略した場合は、「FILE_SIZE」が仮定されます。

注意事項

図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力しても、次に示す場合は、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT の設定内容は有効になりませんのでご注意ください。

- Adobe Reader で閲覧するだけの場合
- PostScript 対応プリンタに出力する場合

15.3.9 EURPS_PDF_SAMEIMAGE

設定内容

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-13 EURPS_PDF_SAMEIMAGE の設定値

環境変数の設定値	説 明
OPTIMIZE	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化します。
NO	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化しません。

OPTIMIZE, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE の指定を省略した場合は、「OPTIMIZE」が仮定されます。

注意事項

- 同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、複数分の画像データを PDF 形式ファイルに出力するため、ファイルサイズが大きくなります。そのため、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「OPTIMIZE」を設定すると、一つ分の画像データだけを PDF 形式ファイルに出力するので、ファイルサイズが小さくなります。
ただし、別々の画像アイテムを画像データに貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「NO」を設定したときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなる場合があります。
- Adobe Reader で閲覧する場合や、プリンタに出力する場合には、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE への設定は、何も影響がありません。

15.3.10 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM

設定内容

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリリソースを最適化するかどうかを指定します。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-14 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM の設定値

環境変数の設定値	説 明
YES	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する時、メモリリソースを最適化にします。

YES 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM の指定を省略した場合は、メモリリソースの最適化はしません。

注意事項

- 複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリ上に複数分の画像データ、またはバーコードデータを確保して PDF 形式ファイルを出力するため、メモリリソースを圧迫します。そのため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を設定しておく、メモリリソースの圧迫を回避できます。

ただし、メモリリソースの最適化処理を行う場合、一時ファイル（Windows 環境の場合は SystemTemp、UNIX/Linux 環境の場合は /tmp）を使用するため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を設定しないときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなります。

- Adobe Reader で閲覧する場合や、プリンタに出力する場合には、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM への設定は、何も影響がありません。
- 環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM は、1 ページの帳票には効果がありません。2 ページ以上の帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合に、効果があります。

15.3.11 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD

設定内容

数値データの修飾で、小数点文字に何も指定されていない帳票を CSV 形式ファイルに出力する場合に、小数点文字を「.」で出力するかどうかを指定します。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-15 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の設定値

環境変数の設定値	説 明
YES	数値データの修飾で、小数点文字に何も指定されていない帳票を CSV 形式ファイルに出力する場合、小数点文字を「.」で出力します。

YES 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の指定を省略した場合は、小数点文字は出力されません。

注意事項

- 数値データの修飾で、小数点文字に何も指定されていない帳票を、プリンタから印刷した場合は、「nnn△n（△は半角空白）」のように、小数点文字を半角空白に置き換えられます。しかし、CSV 形式ファイルに出力した場合は、小数点文字の部分を詰めて出力されるため、整数部分と小数部分が区別できません。そのため、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に「YES」を設定しておく、小数点文字を「.」で出力できます。

- 数値データの修飾で、小数点文字が指定されている場合は、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の指定に関係なく、指定されている小数点文字で CSV 形式ファイルに出力されます。また、プリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、および EUR 形式ファイル出力する場合は、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の指定は無視されます。
- 環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に「YES」を指定して、CSV 形式ファイルに出力する場合、アイテム枠から文字列がはみ出して出力されることがあります。例えば、小数点文字を指定しないで、6 桁のデータが出力されるようにアイテム枠の幅を設定している場合、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に「YES」を指定して CSV 形式ファイルに出力すると、「123.456」のデータは、小数点文字「.」を含んだ 7 桁と見なされるため、アイテム枠からはみ出して出力されます。なお、アイテム枠から文字列がはみ出しても、アイテム枠の高さによって、折り曲げて表示したり、「*****」で出力したりしないで、そのまま「123.456」が CSV 形式ファイルに出力されます。
また、数値データに桁数が指定されている場合、指定された桁数を超過してしまっても、指定されている桁数を無視して CSV 形式ファイルに出力されます。
どちらの場合も、EUR Print Service は正常終了と見なして、終了コード 0 を返します。

15.3.12 EURPS_TMPPATH

設定内容

一時ファイルの出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_TMPPATH の指定を省略した場合のデフォルトの一時フォルダは、システムの一時フォルダです。

注意事項

次に示す場合、環境変数 EURPS_TMPPATH に設定されているフォルダに、一時ファイルが出力されます。

- 画像ファイルまたはバーコードを含む PDF 形式ファイルを出力する場合
- データベースと連携してファイル出力する場合
- EUR Server Service と連携してファイル出力する場合
- UNIX/Linux 環境での PDF 出力で、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE に「YES」を指定した場合

15.3.13 EURPS_PDL_EXMINFONTPATH

設定内容

帳票出力で出力できない文字（外字）がある場合に、出力できない文字を収録した明朝体の EUR フォントファイル (*.edf) を指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_PDL_EXMINFONTPATH の指定を省略した場合は、未指定となります。

注意事項

- EUR フォントファイルを指定すると、出力できない文字の文字イメージが EUR フォントファイルから取得され、画像データとして出力されます。該当する文字パターンが収録されていない場合は、空白が出力されます。
- EUR フォントファイルは、EUR フォントファイル作成ツールを使用して作成します。EUR フォントファイルの作成については、「[11.16 EUR フォントファイル](#)」を参照してください。

15.3.14 EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH

設定内容

帳票出力で出力できない文字（外字）がある場合に、出力できない文字を収録したゴシック体の EUR フォントファイル (*.edf) を指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

環境変数 URPS_PDL_EXGOTFONTPATH の指定を省略した場合は、未指定となります。

注意事項

- EUR フォントファイルを指定すると、出力できない文字の文字イメージが EUR フォントファイルから取得され、画像データとして出力されます。該当する文字パターンが収録されていない場合は、空白が出力されます。
- EUR フォントファイルは、EUR フォントファイル作成ツールを使用して作成します。EUR フォントファイルの作成については、「[11.16 EUR フォントファイル](#)」を参照してください。

15.3.15 EURPS_TRACE

設定内容

トレースファイルを出力するかどうかを指定します。

トレースファイルについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-16 EURPS_TRACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	トレースファイルを出力します。
NO	トレースファイルを出力しません。

YES、NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_TRACE の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

15.3.16 EURPS_TRACE_DRAWAPI

設定内容

描画系 API のトレースファイルを出力するかどうかを指定します。

トレースファイルについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-17 EURPS_TRACE_DRAWAPI の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	描画系 API のトレースファイルを出力します。
NO	描画系 API のトレースファイルを出力しません。

YES、NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_TRACE_DRAWAPI の指定を省略した場合は、「NO」が仮定されます。

15.3.17 EURPS_REPORT_LOGERROR

設定内容

eurps ログを出力できなかった場合に、Windows 環境のときはイベントログ、UNIX/Linux 環境のときは syslog に、メッセージを出力するかどうかを指定します。

eurps ログについては、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-18 EURPS_REPORT_LOGERROR の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	イベントログにメッセージを出力します。
NO	イベントログにメッセージを出力しません。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_REPORT_LOGERROR の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

15.3.18 EURPS_REPLACEITEMPATH

設定内容

置き換え表ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。

なお、置き換え表管理情報ファイルに記載する置き換え表ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

- ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダから置き換え表ファイルを読み込みます。
- ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして置き換え表ファイルを読み込みます。
- ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダ下の置き換え表ファイルを読み込みます。

指定値

置き換え表ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを、フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH の指定を省略した場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- Windows 環境のとき
 - 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダ
 - EUR Developer, EUR Server Enterprise, または EUR Server Standard のインストール先フォルダ¥Print
- UNIX/Linux 環境のとき
 - 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているディレクトリ
 - ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
 - /var/opt/eur ディレクトリ

注意事項

環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (KEEU060-E) になります。

15.3.19 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE

設定内容

帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、空白をスキップするかどうかを指定します。

環境変数 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE は、桁数指定または CPI 指定があるアイテムにだけ有効な指定です。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-19 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	空白をスキップします。
NO	空白をスキップしません。

「YES」を指定すると不要な空白が削除されるため、PDF 形式ファイルに出力する速度が上がります。また、ファイルサイズも小さくなります。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

注意事項

環境変数 EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE に「ON」を指定した場合は、環境変数 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE の指定にかかわらず、空白を出力します。

15.3.20 EURPS_PRINT

設定内容

出力ページ情報ファイル（V8 互換機能）の出力時に帳票出力を行うかどうかを指定します。

指定値

表 15-20 EURPS_PRINT の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	出力ページ情報ファイル出力時に帳票出力を行います。
NO	出力ページ情報ファイル出力時に帳票出力を行いません。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PRINT の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

注意事項

出力ページ情報ファイル出力の指定がない場合は、環境変数 EURPS_PRINT の指定は無効となり、帳票出力が行われず。

15.3.21 EURPS_CODE39_PARAM

設定内容

CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。

次に示す形式で指定します。

type [, [エレメント幅比] , [Param]]

環境変数 EURPS_CODE39_PARAM とプリンタ定義ファイルのキーワード CODE39PARAM が同時に指定された場合は、プリンタ定義ファイルの指定が有効になります。

プリンタ定義ファイルの詳細については、「11.5 プリンタ定義ファイル」を参照してください。

指定値

type

エレメント幅の求め方を指定します。

指定値	説明
0	細エレメントのサイズから計算された 1 文字の幅から、細エレメント、太エレメントを計算します。計算の結果発生したずれはすべてキャラクタ間ギャップに追加されるため、サイズは自由に調整できます。
1	細エレメントのサイズをドット単位に変換した値と、細エレメント、太エレメント、キャラクタ間ギャップの比から、各バーの太さを計算します。各バーの太さはドットで計算されるため、サイズの調整は段階的になります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、バーコードの線の太さを補正します。

0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

エレメント幅比

細エレメント、太エレメント、およびキャラクタ間ギャップの比率を指定します。次に示す形式で指定します。

細エレメント：太エレメント：キャラクタ間ギャップ

細エレメントには、1 以上の値を指定してください。

太エレメントには、細エレメントの 2.0~3.0 倍の値を指定してください。

キャラクタ間ギャップには、細エレメントの値以上の値を指定してください。

エレメント幅比を正しく指定していない場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

Param

type に「2」を指定した場合、バーコードの線の太さを細く補正する幅をミリメートル単位で指定します。指定した値をドット単位に変換した計算値の小数第一位を四捨五入した値が補正されます。計算されたドット数の分だけ黒バーが細く、白バーが太くなります。

バーコードの線の太さは、補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合に補正されます。

Param に指定した値をドット単位に変換する計算式を次に示します。

計算値 (ドット) = Param に指定する値 ÷ 25.4 × 解像度 (dpi)

解像度 300dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 15-21 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.04	0	0.472441
0.041	0	0.484252
0.042	0	0.496063
0.043	1	0.507874
0.044	1	0.519685
0.045	1	0.531496
0.046	1	0.543307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 15-22 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.02	0	0.472441
0.021	0	0.496063
0.022	1	0.519685
0.023	1	0.543307

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.024	1	0.566929
0.025	1	0.590551
0.026	1	0.614173

Param には 1 モジュール以上のドット数の幅は指定できません。Param に指定した値が 1 モジュール以上のドット数になる場合は、1 ドットが指定されます。

省略値

- type の指定を省略した場合、type の値は「0」が仮定されます。
- エlement幅比の指定を省略した場合は、Element幅は type に「0」が指定されたときの方法で計算されます。
- Param の指定を省略した場合は、未指定となります。

注意事項

- type に「2」を指定した場合でも、Param を指定しなかったときは、Element幅は type に「1」が指定されたときの方法で計算されます。
- 環境変数 EURPS_CODE39_PARAM は、バージョン 05-06 以降で指定できます。05-05 以前のバージョンでは、自動的に type に「0」が指定された場合と同じ計算方法でElement幅が決定します。

15.3.22 EURPS_CODE128_PARAM

設定内容

CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。

次に示す形式で指定します。

```
type [, [Param1] , [Param2] ]
```

環境変数 EURPS_CODE128_PARAM とプリンタ定義ファイルのキーワード CODE128PARAM が同時に指定された場合は、プリンタ定義ファイルの指定が有効になります。

プリンタ定義ファイルの詳細については、「[11.5 プリンタ定義ファイル](#)」を参照してください。

指定値

type

バーコードの描画方式を指定します。

指定値	説明
0	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズからバーキャラクタサイズを計算します。モジュールサイズ×11 (mm) を超えないドット数でバーキャラクタを描画します。ストップキャラクタは、モ

指定値	説明
0	ジュールサイズ×13 (mm) を超えないドット数で描画します。1 を指定した場合と比べて、サイズを細かく指定できますが、バーコードの質は落ちます。
1	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズを超えないドット数を求め、その 11 倍をバーキャラクタのサイズにします。1 ドットの大きさを超えるまではバーコードの大きさは変わりません。プリンタ解像度によって補正するドット数が変わります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、Param1 で指定した幅に相当するドット数分だけ黒バーを細く、白バーを太くします。 Param2 を指定した場合は、Param1 で指定した値で補正した状態のスタートキャラクタとストップキャラクタに Param2 で指定した値でさらに補正します。

0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

type に「0」を指定した場合、Param1, および Param2 に指定した値は無視されます。

Param1

type に「2」を指定した場合、バーを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換した計算値の小数第一位を四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。

Param1 に指定した値をドット単位に変換する計算式を次に示します。

計算値 (ドット) = Param1 に指定する値 ÷ 25.4 × 解像度 (dpi)

解像度 300dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 15-23 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.04	0	0.472441
0.041	0	0.484252
0.042	0	0.496063
0.043	1	0.507874
0.044	1	0.519685
0.045	1	0.531496
0.046	1	0.543307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 15-24 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.02	0	0.472441
0.021	0	0.496063

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)	計算値 (ドット)
0.022	1	0.519685
0.023	1	0.543307
0.024	1	0.566929
0.025	1	0.590551
0.026	1	0.614173

Param2

type に「2」を指定した場合、Param1 で指定した値で補正したスタートキャラクタとストップキャラクタを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換した計算値の小数第一位を四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が1以上の場合だけ補正されます。Param2 に指定した値をドット単位に変換する計算式は Param1 の場合と同じです。

解像度別の補正するドット数については、Param1 の表を参照してください。

省略値

type の指定を省略した場合、type の値は「0」が仮定されます。

注意事項

バーの幅を超える値を指定した場合は、バーの幅を1ドットに設定します。

type に「1」を指定した場合でも、Param1 に数値を指定して、Param2 を省略したときは0が仮定されます。

type に「2」を指定した場合でも、次のときは0が仮定されます。

- Param1 を指定しなかったとき
- Param1 が数値以外、または0以下だったとき

type に「2」を指定した場合でも、Param1 に0より大きい値、Param2 に0以下の値を指定したときは Param2 は無視されます。

15.3.23 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL

設定内容

QR コードの訂正レベルを指定します。

指定値

表 15-25 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL の設定値

環境変数の設定値	説明
M	訂正レベル M で QR コードを生成します。
Q	訂正レベル Q で QR コードを生成します。

M, Q 以外の値を指定した場合は、「M」が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL の指定を省略した場合は、「M」が仮定されます。

15.3.24 EURPS_QR_VERSION

設定内容

生成される QR コードの最低のバージョンを指定します。

指定値

表 15-26 EURPS_QR_VERSION の設定値

環境変数の設定値	説明
0	最低のバージョンは入力データから自動的に決定されます。
1~40	指定した値が最低のバージョンになります。

0, または 1~40 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_QR_VERSION の指定を省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.3.25 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE

設定内容

LIPSIII, および PostScript 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップするかどうかを指定します。

指定値

表 15-27 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	LIPSIII, および PostScript 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップしません。
NO	LIPSIII, および PostScript 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップします。

「YES」を指定すると不要な空白が削除されるため、LIPSIII, および PostScript 対応プリンタに出力する速度が上がります。また、UNIX/Linux 環境で出力する場合は、ファイルサイズが小さくなります。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

注意事項

環境変数 EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE に「ON」を指定した場合は、環境変数 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE の指定にかかわらず、空白を出力します。

15.3.26 EURPS_QR_CELL_SIZE_D

設定内容

生成される QR コードのセルサイズ (1 セル当たりの大きさ) をドット単位で指定します。

指定値

表 15-28 EURPS_QR_CELL_SIZE_D の設定値

環境変数の設定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
5~10	指定した値がセルサイズになります。

0, または 5~10 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D の指定を省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

- 環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D と環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M を同時に指定した場合は、環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M の指定値が有効となります。
- 環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D とプリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD の指定値が有効となります。

プリンタ定義ファイルの詳細については、「[11.5 プリンタ定義ファイル](#)」を参照してください。

15.3.27 EURPS_QR_CELL_SIZE_M

設定内容

生成される QR コードのセルサイズ (1 セル当たりの大きさ) を 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。

指定値

表 15-29 EURPS_QR_CELL_SIZE_M の設定値

環境変数の設定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。

環境変数の設定値	説明
21~126	指定した値がセルサイズになります。

0, または 21~126 以外の値を指定した場合は, 省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M の指定を省略した場合は, 「0」が仮定されます。

注意事項

- 環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M と環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D を同時に指定した場合は, 環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M の指定値が有効となります。
- 環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M とプリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM でセルサイズを同時に指定した場合は, プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM の指定値が有効となります。

プリンタ定義ファイルの詳細については, 「11.5 プリンタ定義ファイル」を参照してください。

15.3.28 EURPS_SCRIPTFILEPATH

設定内容

Acrobat JavaScript ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。

なお, Acrobat JavaScript 定義ファイルに記載する Acrobat JavaScript ファイル名は, フルパス, 相対パス, またはファイル名だけのどれかで指定してください。

- ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダから Acrobat JavaScript ファイルを読み込みます。
- ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして Acrobat JavaScript ファイルを読み込みます。
- ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダ下の Acrobat JavaScript ファイルを読み込みます。

指定値

Acrobat JavaScript ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを, フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH の指定を省略した場合は, 次に示すフォルダの順に読み込みます。

- Windows 環境のとき
 - 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダ

- EUR Developer, EUR Server Enterprise, または EUR Server Standard のインストール先フォルダ¥Print
- UNIX/Linux 環境の場合
 - 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているディレクトリ
 - ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
 - /var/opt/eur ディレクトリ

注意事項

環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (KEEU066-E) になります。

15.3.29 EURPS_FIXOPT

設定内容

データファイル (FIX 形式) の場合、区切り位置をバイトで区切るか、桁で区切るかを指定します。

指定値

表 15-30 EURPS_FIXOPT の設定値

環境変数の設定値	説明
BYTE	区切り位置をバイトで区切ります。
COLUMN	区切り位置を桁で区切ります。

環境変数の設定値は、大文字、小文字の区別をしません。

省略値

環境変数 EURPS_FIXOPT の指定を省略した場合は、「BYTE」が仮定されます。

注意事項

環境変数 EURPS_FIXOPT は、EUR 帳票作成機能で UTF-16 のデータファイルを使用して作成したフォームシートを使用する場合に有効になります。

フォームシートの作成時に環境変数 EUR_FIXOPT を指定した場合は、環境変数 EURPS_FIXOPT に同じ値を指定してください。

15.3.30 EURPS_PRINTERINFPATH

設定内容

プリンタ定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH の指定を省略した場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

- Windows 環境のとき
 - 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダ
 - EUR Developer, EUR Server Enterprise, または EUR Server Standard のインストール先フォルダ¥Print
- UNIX/Linux 環境のとき
 - 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているディレクトリ
 - /var/opt/eur ディレクトリ

注意事項

環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (KEEU078-E) になります。

15.3.31 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG

設定内容

フォントの半角全角判定を文字コードごとにするか、フォントごとにするどうかを指定します。

EUR サーバ帳票出力機能で出力されるフォントの詳細については、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

指定値

表 15-31 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	文字コードごとに半角全角判定をします (05-06 以前の方式)。
NO	フォントごとに半角全角判定をします。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG の指定を省略した場合は、「NO」が仮定されます。

注意事項

- 文字コードごとに半角全角判定をすると、欧文フォントではラテン基本文字と同じ幅の文字（記号、ギリシャ文字、キリル文字など JISX0208 に含まれる文字）が、全角（ラテン基本文字の 2 倍の文字幅）で出力されます。また、日本語で半角の文字が中国語（簡体字）では正しく出力できない場合があります。欧文フォント、簡体字中国語フォントを使用する場合は、NO を指定することをお勧めします。
- 半角全角判定の文字幅は、英語フォントでは Courier、簡体字中国語フォントでは新宋体、繁体字中国語フォントでは細明体、日本語フォントでは MS 明朝の文字幅が適用されます。フォントの言語を判定できない場合は、中国語（簡体字）ロケールでは新宋体、日本語ロケールでは MS 明朝、その他のロケールでは Courier の文字幅が適用されます。
- バージョン 05-06 の帳票をバージョン 05-08 以降で開いた場合、環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG に「YES」以外の値を指定すると、帳票の見た目が異なって表示されることがあります。
- バージョン 08-00 以降の場合、環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG は次に示す条件で帳票を出力した場合にフォントの文字幅計算に適用されます。

表 15-32 バージョン 08-00 以降で EURPS_USE_05_06_FONT_LANG が文字幅計算に適用される出力

出力環境	出力形式	帳票アイテムのフォント	文字幅計算方法の指定
Windows 環境	プリンタ出力	固定ピッチフォント	静的、または指定なし
	PDF 出力 (フォント埋め込みなし) *		
UNIX/Linux 環境	PDF 出力 (フォント埋め込みなし) *		

注※

フォントの埋め込みの詳細については、マニュアル「EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

15.3.32 EURPS_OUTPUTPDF_VER

設定内容

PDF 形式ファイルで、最初の行のヘッダに記述されている PDF バージョン番号を指定します。PDF バージョン番号は、PDF 形式ファイルをテキストで開いた時に、最初の行「%PDF-1.x」で確認できます。

指定値

表 15-33 EURPS_OUTPUTPDF_VER の設定値

環境変数の設定値	説明
1.2	PDF バージョン番号を 1.2 で出力します。
1.3	PDF バージョン番号を 1.3 で出力します。
1.4	PDF バージョン番号を 1.4 で出力します。
1.5	PDF バージョン番号を 1.5 で出力します。
1.6	PDF バージョン番号を 1.6 で出力します。
1.7	PDF バージョン番号を 1.7 で出力します。

1.2, 1.3, 1.4, 1.5, 1.6, 1.7 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_OUTPUTPDF_VER の指定を省略した場合は、「1.6」が仮定されます。

注意事項

- 作成した PDF 形式ファイルより下位バージョンの PDF バージョン番号を環境変数 EURPS_OUTPUTPDF_VER に指定すると、ファイル内で使用している上位バージョンの機能が制限される場合があります。
- PDF 形式ファイルを暗号化出力するときに環境変数 EURPS_OUTPUTPDF_VER を使用する場合は、1.6 以降を指定してください。

15.3.33 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE

設定内容

「フォント縦横比を補正する」が設定されていて、文字列アイテムのフォントがMS ゴシックでない場合、バージョン 05-06 以前の動作（リュウミン L-KL に置き換える）にするかどうかを指定します。

指定値

表 15-34 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	「フォント縦横比を補正する」が設定されていて、文字列アイテムのフォントがMS ゴシックでない場合に、リュウミン L-KL に置き換えます（05-06 以前の方式）。
NO	置き換えをしません。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE の指定を省略した場合は、「NO」が仮定されます。

15.3.34 EURPS_FONT_WIDTH_MODE

設定内容

文字幅の計算方法を指定します。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定します。

表 15-35 EURPS_FONT_WIDTH_MODE の設定値

環境変数の設定値	説明
STATIC	固定ピッチフォントを出力する場合、固定値で文字幅を計算します。(静的モード)
DYNAMIC	固定ピッチフォントを出力する場合、使用するフォントに合わせて文字幅を計算します。(動的モード)

STATIC, DYNAMIC 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE の指定を省略した場合は、「STATIC」が仮定されます。

15.3.35 EURPS_EXCELLOGFILELEVEL

設定内容

Excel 形式ファイルに出力する場合、ログファイル (EPS-XLSX ログ) へのメッセージ出力レベルを指定します。

指定値

次に示す 2 種類のメッセージ出力レベルを指定することで、出力されるメッセージの内容を選択できます。

メッセージ出力レベルの設定の詳細についてはマニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。

表 15-36 メッセージ出力レベル

環境変数の設定値	出力されるメッセージの内容
INFO	エラーレベル (Error (Err)) とワーニングレベル (Warning (War)) のログを出力します (デフォルト)。
ERROR	エラーレベル (Error (Err)) だけを出力します。

INFO, ERROR 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_EXCELLOGFILELEVEL の指定を省略した場合は、「INFO」が仮定されます。

15.3.36 EURPS_EXCELTMPPTH

設定内容

Excel 形式ファイルに出力する場合に使用する一時フォルダのパスを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- パス名は、ASCII 文字だけで構成されたパスを指定してください。
- 存在するファイルのパスを指定してください。
- フルパスで指定してください。
- パス名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定できる文字数を超えた場合は、エラー (KEEU125-E) になります。
 - Windows 環境のとき
フルパスで半角 199 文字以内
 - UNIX/Linux 環境のとき
フルパスで 67 バイト以内

省略値

環境変数 EURPS_EXCELTMPPTH の指定を省略した場合のデフォルトの一時フォルダは、システムの一時的フォルダです。

注意事項

- 指定できる文字数を超えた場合は、エラー (KEEU125-E) になります。
- ネットワークパスは指定できません。ネットワークパスを指定した場合は、エラー (KEEU125-E) になります。

15.3.37 EURPS_TESTPRINTFILE

設定内容

テスト印刷設定ファイル名を指定します。

指定値

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。相対パスで指定した場合、カレントディレクトリからの相対パスとしてテスト印刷設定ファイルを読み込みます。

省略値

環境変数 EURPS_TESTPRINTFILE の指定を省略した場合は、未指定となります。

15.3.38 EURPS_FONT_ROUNDSDOWN

設定内容

帳票印刷時に使用するフォントサイズについて、帳票設計時に指定された数値の小数部を切り捨てるかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

表 15-37 EURPS_FONT_ROUNDSDOWN の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	帳票設計時に指定された数値の小数部を切り捨てたフォントサイズで印刷します。文字間隔は、帳票設計時のフォントサイズで印刷した場合と変わりません。
NO	帳票設計時に指定された数値のフォントサイズを使用して印刷します。

省略値

環境変数 EURPS_FONT_ROUNDSDOWN の指定を省略した場合は、帳票設計時に指定された数値のフォントサイズを使用して印刷します。

15.3.39 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES

設定内容

印刷ジョブの最大ページ数を指定します。

この環境変数は、プリンタでの印刷で使用できます。

指定値

印刷ジョブの最大ページ数を 1~2,147,483,646 の範囲で指定します。印刷ジョブはこの環境変数に指定したページ数ごとに分割され、複数の印刷ジョブとなって出力されます。

指定値として次の値を指定した場合は、省略値と同じ動作となります。

- 範囲外の値を指定した場合
- 半角数字以外の文字を指定した場合
- 0 を指定した場合

省略値

環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES の指定を省略した場合は、印刷ジョブの分割は実施されません。

注意事項

- 環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES を指定した場合、印刷ジョブ名は OS の環境によって次のように異なります。
 - Windows 環境で印刷するとき

印刷ジョブ名の末尾に「.n」（n は 1 から始まる連番）が付加されます。印刷ジョブの分割が発生しなかった場合も「.1」が付加されます。

次に示す優先順位で設定される値+「.n」の先頭の 259 文字分が印刷ジョブ名になります。

1. 起動部品で指定したスプールタイトルの指定値

- ・ActiveX 起動部品：SpoolTitle プロパティ
- ・Java 起動部品：setSpoolTitle メソッド
- ・COBOL 起動部品：SPOOLTITLE パラメタ
- ・コマンド起動部品（eurpmc コマンド）：/sptl オプション

2. 文書情報設定ファイルの TITLE キーの指定値

3. 「帳票ファイル名」

また、環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES を設定する場合、印刷ジョブ名を決定する起動部品で指定するスプールタイトルや文書情報設定ファイルの TITLE キーに、書式開始文字%から始まる次の書式を設定しておく、印刷ジョブ名に付く連番の表示形式を変更できます。

%j

「1」から始まる連番を出力します。

%j 以外

「%」のあとに指定された文字を出力し、末尾に連番「.n」を付与します。

文書情報設定ファイルの TITLE キーに書式開始文字%から始まる書式を指定したときの印刷ジョブ名の例を次に示します。

指定例

キーワード TITLE の指定内容	印刷ジョブ名の例
TITLE="EUR 帳票%j"	EUR 帳票 1
TITLE="EUR 帳票%x"	EUR 帳票 x.1

文書情報設定ファイルの作成方法の詳細については、「[11.4 文書情報設定ファイル](#)」を参照してください。

• UNIX/Linux 環境で印刷するとき

EUR では印刷ジョブ名を設定しません。分割されたジョブごとに、プリンタ定義ファイルのキーワード Command で指定された出力コマンドが実行されます。プリンタ定義ファイルの詳細については、「[11.5 プリンタ定義ファイル](#)」を参照してください。

- 部数を指定して印刷した場合、出力枚数ではなく印刷ジョブのページ数が分割されます。また、プリンタに部数機能があるかどうかによって次のように結果が異なります。

• プリンタに部数機能があるとき

印刷ジョブの出力ページ数は、環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES で指定した印刷ジョブ最大ページ数×部数となります。

• プリンタに部数機能がないとき

印刷ジョブには帳票が指定部数の数だけ繰り返し出力されますが、環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES で指定された印刷ジョブ最大ページ数は印刷ジョブに対して作用するため、部をまたがって区切られます。

- 複数様式帳票の場合、printnewpaper=ON の指定によって生成された空白ページを枚数として数えます。
- 印刷ジョブ最大ページ数に奇数値を指定して両面印刷すると、分割されたページ以降は、表面と裏面のページが逆となって印刷されます。表面と裏面を区別する帳票のときは、印刷ジョブ最大ページ数に偶数値を指定するなど注意してください。

15.3.40 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY

設定内容

データベースからの抽出件数が 0 の場合に、帳票を出力しないようにします。

指定値

指定できる値を次に示します。

表 15-38 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	データベースからデータを抽出して帳票を出力する場合、データベースの抽出結果が 0 件であったときは、帳票を出力しないようにします。

環境変数の設定値は、大文字、小文字の区別をします。「YES」以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に「YES」を指定して、データベースの抽出結果が 0 件だった場合の出力内容は、帳票の様式によって異なります。詳細を次の表に示します。

表 15-39 出力する帳票の種類とデータベース抽出結果ごとの出力内容
(EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に YES 指定時)

出力する帳票の種類	データベース抽出結果	出力内容	出力ページ情報ファイル (V8 互換機能)
単一样式の帳票	0 件以外	抽出したデータを入力して帳票を出力します。	出力します。
	0 件	エラー (KEEU351-W, KEEU352-W, または KEEY909-W) を出力して処理を終了します。	出力しません。
複数帳票の一括出力	帳票セットのどれかが 0 件	0 件だった帳票セットについては、エラー	指定された帳票セットのうち、出力されな

出力する帳票の種類	データベース抽出結果	出力内容	出力ページ情報ファイル (V8 互換機能)
複数帳票の一括出力	帳票セットのどれかが0件	(KEEU351-W) を出力して処理を続行します。	かった帳票セットは出力ページ情報ファイルに記録しません。
	すべて0件	エラー (KEEU352-W, または KEEY909-W) を出力して処理を終了します。	出力しません。
複数様式の帳票	先頭の様式グループが0件	エラー (KEEU351-W, KEEU352-W, または KEEY909-W) を出力して処理を終了します。	出力しません。
	先頭の様式グループ以外が0件	グループのデータを0件として、エラー (KEEU351-W) を出力して処理を続行します。	出力します。

省略値

環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY の指定を省略した場合は、抽出結果が0件の場合も帳票を出力します。

15.3.41 EURPS_PDF_BUFSIZE

設定内容

PDF 形式ファイルを出力するときに使用される IO バッファサイズを指定します。PDF 形式ファイルを出力するときだけ有効です。

指定値

指定できる値は、2~2,147,483,647 です。単位はバイトです。

2~2,147,483,647 以外の値を指定した場合、または半角数字以外の文字を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PDF_BUFSIZE の指定を省略した場合は、「4096」が仮定されます。

注意事項

PDF 形式ファイルの出力先に NAS などの出力デバイスを指定する場合は、環境変数 EURPS_PDF_BUFSIZE で IO バッファサイズを大きくすることで、出力時間が早くなることがあります。

15.3.42 EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT

設定内容

PDF 形式ファイルに画像を出力する場合に、位置やサイズの単位を指定します。

PDF 形式ファイルを出力するときだけ有効です。画像のうち、モノクロのビットマップやバーコードは対象ではありません。

指定値

指定できる値を次に示します。

表 15-40 EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT の設定値

環境変数の設定値	説明
INTEGER	PDF 形式ファイルに画像を出力するときの位置、サイズを整数のポイント単位とします。

「INTEGER」以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT の指定を省略した場合は、PDF 形式ファイルに画像を出力するときの位置、サイズを小数点以下 3 桁のポイント単位とします。

15.3.43 EURPS_EPFDPPI

設定内容

EPF 形式ファイルを出力する場合に、解像度 (DPI 値) を指定します。

指定値

指定できる値は、1~2,147,483,647 です。単位は dpi です。

1~2,147,483,647 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_EPFDPPI の指定を省略した場合は、「1440」が仮定されます。

注意事項

- 帳票にバーコードアイテムが含まれる場合、1440 よりも小さい値を指定すると、出力される EPF 形式ファイルのサイズが小さくなり、プレビュー表示速度や印刷速度が向上します。
- 出力するプリンタの解像度と同じ値を指定することをお勧めします。解像度が異なる環境で生成した EPF 形式ファイルを統合して出力しようとするとうエラーとなります。また、解像度が異なる環境で蓄積した EPF 形式ファイルを、一つの EPF 形式ファイルとして取得または印刷しようとするとうエラーとなります。

15.3.44 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS

設定内容

EPF 形式ファイルを出力する場合に、画像アイテムやバーコードアイテムなどの画像データを圧縮するかどうかを指定します。

画像データが含まれている帳票の場合に ON (または on) を指定すると、中間ファイルや EPF 形式ファイルのサイズが小さくなり、プレビュー表示速度や印刷速度が向上します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- ON (または on) : 画像データを圧縮します。
- OFF (または off) : 画像データを圧縮しません。

ON (または on), OFF (または off) 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS の指定を省略した場合は、「OFF (または off)」が仮定されます。

注意事項

- 環境変数 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に ON (または on) を指定して出力した EPF 形式ファイルをプレビュー表示や印刷する場合は、EUR Print Manager - Report Server 08-10 以降、EUR Server Enterprise 09-00 以降、EUR Print Manager - Client 08-10 以降、または EUR Client 09-00 以降を使用してください。
08-10 よりも前のバージョンの EUR Print Manager - Report Server または EUR Print Manager - Client を使用した場合は、画像データの表示や印刷ができません。プレビュー表示や印刷に 08-10 よりも前のバージョンの EUR Print Manager - Report Server または EUR Print Manager - Client を使用する場合は、必ず環境変数 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に「OFF (または off)」を指定してください。
- EUR Print Service 08-30 以降、EUR Server Standard 09-00 以降、EUR Server Enterprise 09-00 以降、EUR Server Print Edition 09-00 以降を使用して帳票を出力する場合で、帳票に含まれる画像データが次の 3 種類のバーコードだけのときは、バーコードの回転角度と環境変数 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS の設定によって、出力される EPF 形式ファイルのファイルサイズが変わります。
 - NW-7 バーコード
 - CODE39 バーコード
 - CODE128 バーコード

バーコードの回転角度が 0° の場合

環境変数 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に「OFF (または off)」を指定する方が、出力される EPF 形式ファイルのファイルサイズが小さくなります。

バーコードの回転角度が 90° または 270° の場合

環境変数 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に「ON (または on)」を指定する方が、出力される EPF 形式ファイルのファイルサイズが小さくなります。

15.3.45 EURPS_UPC_BARCODE

設定内容

UPC バーコードの出力を有効にするかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- ENABLE : UPC バーコードの出力を有効にします。
- DISABLE : UPC バーコードの出力を無効にします。

ENABLE, DISABLE 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_UPC_BARCODE の指定を省略した場合は、「ENABLE」が仮定されます。

注意事項

JAN 短縮バーコードに「0」で始まるデータを指定する場合は、環境変数 EURPS_UPC_BARCODE に「DISABLE」を設定してください。

15.3.46 EURPS_OUTPUTPATH

設定内容

PDF 形式ファイルを仕分けして出力する場合の EUR Server Service 稼働マシンの出力先フォルダを指定します。

なお、PDF 形式の出力で使用する起動部品に指定する PDF 形式ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

- ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダに PDF 形式ファイルを出力します。
- ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして PDF 形式ファイルを出力します。
- ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ下に PDF 形式ファイルを出力します。

指定値

EUR Server Service 稼働マシンの出力先フォルダを、フルパスで指定します。

省略値

環境変数 EURPS_OUTPUTPATH の指定を省略した場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- Windows 環境のとき
 - 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
 - 環境変数 TMP に設定されているフォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
 - 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
 - ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
 - /var/opt/eur ディレクトリ

15.3.47 EURPS_EXCEL_REPEAT_MODE

設定内容

Excel 形式ファイルへ出力する場合に、ページ単位でシートを分けるかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- EXTEND：ページ単位でシートを分けません。キーブレイクによる改ページごとにシートを分け、縦方向の繰り返しを 1 シート内で出力します。
- NORMAL：ページ単位でシートを分けます。

EXTEND、NORMAL 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_EXCEL_REPEAT_MODE の指定を省略した場合は、「NORMAL」が仮定されます。

15.3.48 EURPS_PS2_PR1

設定内容

帳票を PostScript 対応プリンタで出力する場合、用紙サイズおよび部数の設定を、帳票の先頭ページおよび用紙サイズが切り替わったページだけに行うか、各ページに行うかを指定します。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角大文字で指定します。

指定できる値を次に示します。

- YES：先頭ページおよび用紙サイズが切り替わったページだけに用紙サイズの設定を行います。また、先頭ページだけに部数の設定を行います。
- NO：各ページに用紙サイズおよび部数の設定を行います。

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_PS2_PR1 の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

注意事項

- 環境変数 EURPS_PS2_PR1 に「NO」を指定すると、プリンタによっては両面印刷ができない場合があります。
- 用紙サイズが切り替わったかどうかの判定は、両面印刷を行う場合と行わない場合で動作が異なります。
 - 用紙サイズが A4 の場合の例
 - ・両面印刷を行う場合：A4 縦と A4 横は同じ用紙サイズとして扱います。
 - ・両面印刷を行わない場合：A4 縦と A4 横は異なる用紙サイズとして扱います。

15.3.49

EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGENUMBER

設定内容

先頭ページまたは最終ページだけに出力するアイテムを含む複数様式の帳票を出力する場合の、出力方法を指定します。

指定値

環境変数の設定値は、すべて半角大文字で指定します。

表 15-41

EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGENUMBER の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	ページ番号の初期化の指定で区切られた範囲で先頭ページと最終ページを設定します。 ページ番号が初期化されたページが先頭ページに、ページ番号が初期化されたページの一つ前のページが最終ページになります。
NO	キーブレイクによる改ページで区切られた範囲で先頭ページと最終ページを設定します。

環境変数の設定値	説明
NO	<p>キーブレイクによって改ページされたページが先頭ページに、キーブレイクによって改ページされたページの一つ前のページが最終ページになります。</p> <p>注 バージョン 08-30 より前と同じ出力結果になります。</p>

YES, NO 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数

EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGENUMBER
の指定を省略した場合は、「YES」が仮定されます。

15.3.50 EURPS_LOCATION_FIXIMAGE

設定内容

固定画像を含む帳票を出力する場合、帳票内に埋め込まれた固定画像を参照するか、外部データとして配置した画像ファイルを参照するかの画像参照モードを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- NORMAL：標準モード

帳票内に埋め込まれた固定画像を参照して出力するモードです。画像を出力する動作の優先順位は次のとおりです。

1. 帳票内に固定画像が埋め込まれている場合（バージョン 5 以降の EUR 帳票作成機能で保存した固定画像を含む帳票の場合）、埋め込まれている固定画像を出力します。
2. 帳票内に固定画像が埋め込まれていない場合（バージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能で保存した固定画像を含む帳票の場合）、外部データとして配置した画像ファイルを出力します。
3. 帳票内に固定画像が埋め込まれていない場合（バージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能で保存した固定画像を含む帳票の場合）、かつ外部データとして配置した画像ファイルが存在しない場合、画像は出力されません。

- EXTERNAL：外部参照モード

外部データとして配置した画像ファイルを参照して出力するモードです。

外部参照モードを指定することで、帳票内に固定画像が埋め込まれている場合でも、バージョン 5 より前の EUR と同じ出力結果になります。

画像を出力する動作の優先順位は次のとおりです。

1. 外部データとして配置した画像ファイルを出力します。
2. 外部データとして配置した画像ファイルが存在しない場合、画像は出力されません。

また、外部参照モードが有効となる出力形式を次の表に示します。

項番	OS	出力形式	外部参照モードの有効/無効
1	Windows 環境	GDI 印刷	○
2	UNIX/Linux 環境	PDL 印刷	○
3		PDL ファイル出力	
4	Windows 環境, UNIX/Linux 環境	EPF 形式ファイル	○
5		EUR 形式ファイル	×
6		PDF 形式ファイル	○
7		Excel 形式ファイル	-
8		CSV 形式ファイル	

(凡例)

○：有効，×：無効，-：対象外

NORMAL, EXTERNAL 以外の値を指定した場合は，省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_LOCATION_FIXIMAGE の指定を省略した場合は，「NORMAL」が仮定されます。

15.3.51 EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE

設定内容

文字アイテムを含む帳票を出力する場合，文字アイテムに含まれる空白を出力するかどうかを指定します。

対象となる文字アイテムを次に示します。

- 帳票に配置した固定文字アイテム
- データウィンドウから貼り付けた文字列
- ページ番号・印刷時刻・印刷日付・集計アイテム
- テスト印刷設定ファイルで指定した文字列

指定値

環境変数の設定値は，すべて半角大文字で指定します。

表 15-42 EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE の設定値

環境変数の設定値	説明
ON	文字アイテムに含まれる空白を出力します。
OFF	文字アイテムに含まれる空白を出力しません。 注 バージョン 10-00 以前と同じ出力結果になります。

ON, OFF 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

環境変数 EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE の指定を省略した場合は、「OFF」が仮定されます。

15.3.52 ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数

設定内容

ESC/P 対応プリンタで使用するフォントファイルを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数と指定値を次に示します。

表 15-43 ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数と指定値

環境変数	指定値
EURPS_J84MA16	明朝体アंक 8×16 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA24	明朝体アंक 12×24 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA48	明朝体アंक 24×48 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA72	明朝体アंक 36×72 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA96	明朝体アंक 48×96 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK16	明朝体漢字 16×16 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK24	明朝体漢字 24×24 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK48	明朝体漢字 48×48 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK72	明朝体漢字 72×72 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK96	明朝体漢字 96×96 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA16	ゴシック体アंक 8×16 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA24	ゴシック体アंक 12×24 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA48	ゴシック体アंक 24×48 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA72	ゴシック体アंक 36×72 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。

環境変数	指定値
EURPS_J84GA96	ゴシック体アंक 48×96 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK16	ゴシック体漢字 16×16 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK24	ゴシック体漢字 24×24 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK48	ゴシック体漢字 48×48 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK72	ゴシック体漢字 72×72 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK96	ゴシック体漢字 96×96 ドットのフォントファイル(*.pcf)をフルパスで指定します。

省略値

環境変数や環境設定ファイル (eurps_env) 中にフォントファイルの指定がない場合は、指定されたフォントサイズに最も近い、次のデフォルトフォントを拡大・縮小して印刷します。

• HP-UX の場合

- 明朝体アंक 8×16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/8x16rk.pcf
- 明朝体アंक 12×24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/12x24rk.pcf
- 明朝体漢字 16×16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan16.pcf
- 明朝体漢字 24×24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan24.pcf
- ゴシック体アंक 8×16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/8x16rk.pcf
- ゴシック体アंक 12×24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/12x24rk.pcf
- ゴシック体漢字 16×16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan16.pcf
- ゴシック体漢字 24×24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan24.pcf

• AIX の場合

- 明朝体アंक 8×16 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn12S.pcf
- 明朝体アंक 12×24 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn17S.pcf
- 明朝体漢字 16×16 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji12S.pcf
- 明朝体漢字 24×24 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji17S.pcf
- ゴシック体アंक 8×16 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn12S.pcf
- ゴシック体アंक 12×24 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn17S.pcf
- ゴシック体漢字 16×16 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji12S.pcf
- ゴシック体漢字 24×24 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji17S.pcf

• Linux の場合

- 明朝体アंक 8×16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/8x16rk.pcf
- 明朝体アंक 12×24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/12x24rk.pcf
- 明朝体漢字 16×16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan16.pcf
- 明朝体漢字 24×24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan24.pcf
- ゴシック体アंक 8×16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/8x16rk.pcf
- ゴシック体アंक 12×24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/12x24rk.pcf
- ゴシック体漢字 16×16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan16.pcf
- ゴシック体漢字 24×24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan24.pcf

注意事項

指定されたフルパスが 1,023 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU009-E) になります。また、指定したファイルが読み込めない場合も、エラー (KEEU024-E) になります。

(1) デフォルトフォントファイルの解凍手順

AIX, および Linux 環境で使用するデフォルトフォントは、圧縮形式で提供しています。フォントファイル用のディレクトリを作成し、デフォルトフォントファイルを複製して、解凍してください。解凍する手順を次に示します。

(a) AIX 環境の場合

1. デフォルトフォントディレクトリの作成

```
# mkdir /usr/lib/X11/fonts/hitachi
```

2. デフォルトフォントファイル (圧縮形式) の複製

```
# cd /usr/lib/X11/fonts
# cp RomanKn12S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/RomanKn12S.pcf.Z
# cp RomanKn17S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/RomanKn17S.pcf.Z
# cp Kanji12S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/Kanji12S.pcf.Z
# cp Kanji17S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/Kanji17S.pcf.Z
```

3. デフォルトフォントファイルの解凍

```
# cd /usr/openwin/lib/X11/fonts/hitachi
# uncompress RomanKn12S.pcf.Z
# uncompress RomanKn17S.pcf.Z
# uncompress Kanji12S.pcf.Z
# uncompress Kanji17S.pcf.Z
```

(b) Linux 環境の場合

1. デフォルトフォントディレクトリの作成

```
# mkdir /usr/lib/X11/fonts/hitachi
```

2. デフォルトフォントファイル（圧縮形式）の複写

```
# cd /usr/lib/X11/fonts/misc※  
# cp 8x16rk.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/8x16rk.pcf.gz  
# cp jiskan16.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan16.pcf.gz  
# cp 12x24rk.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/12x24rk.pcf.gz  
# cp jiskan24.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan24.pcf.gz
```

注※

/usr/lib/X11/fonts/misc にデフォルトフォントがない場合は、/usr/share/X11/fonts/misc を指定してください。

3. デフォルトフォントファイルの解凍

```
# cd /usr/lib/X11/fonts/hitachi  
# gunzip 8x16rk.pcf.gz  
# gunzip jiskan16.pcf.gz  
# gunzip 12x24rk.pcf.gz  
# gunzip jiskan24.pcf.gz
```

15.3.53 環境設定ファイルの指定例

(1) Windows 環境の場合

```
EURPS_LOGFILEPATH=C:¥PROGRAM FILES¥EURLOG  
EURPS_LOGSIZE=3000  
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO  
EURPS_IMAGEPATH=C:¥PROGRAM FILES¥EUR¥IMAGE  
EURPS_REPORT_WARNING=NO  
EURPS_GAIJIFONT=C:¥PROGRAM FILES¥EUR¥EUDC.TTE  
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE  
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE  
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE=MEM=YES  
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES  
EURPS_TRACE=YES  
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO  
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES  
EURPS_REPLACEITEMPATH=C:¥PROGRAM FILES¥EUR¥REPLACEITEM  
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES  
EURPS_PRINT=NO  
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.04  
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04  
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q  
EURPS_QR_VERSION=15  
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES  
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7  
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30  
EURPS_SCRIPTFILEPATH=C:¥PROGRAM FILES¥EUR¥SCRIPT  
EURPS_FIXOPT=BYTE
```

```
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_PRINTERINFPATH=C:¥PROGRAM FILES¥EUR¥PRINTER.INF
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_TESTPRINTFILE=C:¥EUR¥TESTPRINTFILE¥TESTPRINTFILE.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000
EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY=YES
EURPS_PDF_BUFSIZE=2
EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT=INTEGER
EURPS_EPDFPI=1
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS=ON
EURPS_UPC_BARCODE=ENABLE
EURPS_PS2_PR1=YES
EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGE=NO
EURPS_LOCATION_FIXIMAGE=NORMAL
EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE=ON
```

(2) HP-UX 環境の場合

```
EURPS_LOGFILEPATH=/var/opt/EUR/Log
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_IMAGEPATH=/home/eur/image
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_GAIJIFONT=/home/eur/gaijifont/udc24.pcf
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE=MEM=YES
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMPATH=/home/eur/replaceitem
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.03
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=/home/eur/script
EURPS_FIXOPT=BYTE
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_J84MA16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min16a.pcf
EURPS_J84MA24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min24a.pcf
EURPS_J84MA48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min48a.pcf
EURPS_J84MA72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min72a.pcf
EURPS_J84MA96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min96a.pcf
EURPS_J84MK16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min16k.pcf
EURPS_J84MK24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min24k.pcf
EURPS_J84MK48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min48k.pcf
```



```
EURPS_J84MK72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min72k.pcf
EURPS_J84MK96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min96k.pcf
EURPS_J84GA16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got16a.pcf
EURPS_J84GA24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got24a.pcf
EURPS_J84GA48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got48a.pcf
EURPS_J84GA72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got72a.pcf
EURPS_J84GA96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got96a.pcf
EURPS_J84GK16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got16k.pcf
EURPS_J84GK24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got24k.pcf
EURPS_J84GK48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got48k.pcf
EURPS_J84GK72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got72k.pcf
EURPS_J84GK96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got96k.pcf
EURPS_PRINTERINFPATH=/home/eur/printerinf
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_TESTPRINTFILE=/home/eur/testprintfile/testprintfile.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000
EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY=YES
EURPS_PDF_BUFSIZE=2
EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT=INTEGER
EURPS_EPFDPPI=1
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS=ON
EURPS_UPC_BARCODE=ENABLE
EURPS_PS2_PR1=YES
EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGENUMBER=NO
EURPS_LOCATION_FIXIMAGE=NORMAL
EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE=ON
```

(3) AIX 環境の場合

```
EURPS_LOGFILEPATH=/var/opt/EUR/Log
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_IMAGEPATH=/home/eur/image
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_GAIJIFONT=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/IBM_JPN17C.pcf
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE=MEM=YES
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMPATH=/home/eur/replaceitem
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.03
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=/home/eur/script
EURPS_FIXOPT=BYTE
```

```
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_J84MA16=/usr/lib/X11/hitachi/min16a.pcf
EURPS_J84MA24=/usr/lib/X11/hitachi/min24a.pcf
EURPS_J84MA48=/usr/lib/X11/hitachi/min48a.pcf
EURPS_J84MA72=/usr/lib/X11/hitachi/min72a.pcf
EURPS_J84MA96=/usr/lib/X11/hitachi/min96a.pcf
EURPS_J84MK16=/usr/lib/X11/hitachi/min16k.pcf
EURPS_J84MK24=/usr/lib/X11/hitachi/min24k.pcf
EURPS_J84MK48=/usr/lib/X11/hitachi/min48k.pcf
EURPS_J84MK72=/usr/lib/X11/hitachi/min72k.pcf
EURPS_J84MK96=/usr/lib/X11/hitachi/min96k.pcf
EURPS_J84GA16=/usr/lib/X11/hitachi/got16a.pcf
EURPS_J84GA24=/usr/lib/X11/hitachi/got24a.pcf
EURPS_J84GA48=/usr/lib/X11/hitachi/got48a.pcf
EURPS_J84GA72=/usr/lib/X11/hitachi/got72a.pcf
EURPS_J84GA96=/usr/lib/X11/hitachi/got96a.pcf
EURPS_J84GK16=/usr/lib/X11/hitachi/got16k.pcf
EURPS_J84GK24=/usr/lib/X11/hitachi/got24k.pcf
EURPS_J84GK48=/usr/lib/X11/hitachi/got48k.pcf
EURPS_J84GK72=/usr/lib/X11/hitachi/got72k.pcf
EURPS_J84GK96=/usr/lib/X11/hitachi/got96k.pcf
EURPS_PRINTERINFPATH=/home/eur/printerinf
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_TESTPRINTFILE=/home/eur/testprintfile/testprintfile.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000
EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY=YES
EURPS_PDF_BUFSIZE=2
EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT=INTEGER
EURPS_EPFDPPI=1
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS=ON
EURPS_UPC_BARCODE=ENABLE
EURPS_PS2_PR1=YES
EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGE=NO
EURPS_LOCATION_FIXIMAGE=NORMAL
EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE=ON
```

(4) Linux 環境の場合

```
EURPS_LOGFILEPATH=/var/opt/EUR/Log
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_IMAGEPATH=/home/eur/image
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE=MEM=YES
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMPATH=/home/eur/replaceitem
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
```

```
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.03
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=/home/eur/script
EURPS_FIXOPT=BYTE
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_J84MA16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min16a.pcf
EURPS_J84MA24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min24a.pcf
EURPS_J84MA48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min48a.pcf
EURPS_J84MA72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min72a.pcf
EURPS_J84MA96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min96a.pcf
EURPS_J84MK16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min16k.pcf
EURPS_J84MK24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min24k.pcf
EURPS_J84MK48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min48k.pcf
EURPS_J84MK72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min72k.pcf
EURPS_J84MK96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min96k.pcf
EURPS_J84GA16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got16a.pcf
EURPS_J84GA24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got24a.pcf
EURPS_J84GA48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got48a.pcf
EURPS_J84GA72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got72a.pcf
EURPS_J84GA96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got96a.pcf
EURPS_J84GK16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got16k.pcf
EURPS_J84GK24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got24k.pcf
EURPS_J84GK48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got48k.pcf
EURPS_J84GK72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got72k.pcf
EURPS_J84GK96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got96k.pcf
EURPS_PRINTERINFPATH=/home/eur/printerinf
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_TESTPRINTFILE=/home/eur/testprintfile/testprintfile.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000
EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY=YES
EURPS_PDF_BUFSIZE=2
EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT=INTEGER
EURPS_EPDFPI=1
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS=ON
EURPS_UPC_BARCODE=ENABLE
EURPS_PS2_PR1=YES
EURPS_RANGE_OF_FIRSTANDLASTPAGES_ON_MULTIFORM_BY_RESETPAGE=NO
EURPS_LOCATION_FIXIMAGE=NORMAL
EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE=ON
```

15.4 EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini)

対象コンポーネントまたは機能

EUR Server - Adapter

設定内容

EUR Server - Adapter の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は、EUR Server - Adapter を使用しているプログラムを再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル (EURPMADP.ini) は、ユーザの利用目的に応じて指定できます。環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の指定方法ごとのファイル名と格納場所を次の表に示します。

表 15-44 環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の指定方法と格納場所

項番	指定方法	ファイル名	格納場所
1	デフォルト	EURPMADP.ini	Windows 環境の場合 インストール先フォルダ¥Adapter UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eur/adapter 下
2	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更する場合	EURPMADP.ini	起動部品で指定したフォルダパス • ActiveX 起動部品：AdpEnvFile プロパティ • Java 起動部品：setAdpEnvFile メソッド • コマンド起動部品：eurpmc コマンドの/adpenv オプション
3	EUR Server - Adapter で使用する環境設定ファイルを任意のファイルパス (ファイル名は任意) で指定する場合	起動部品で指定したファイルパス (ファイル名は任意) • ActiveX 起動部品：AdpEnvFile プロパティ • Java 起動部品：setAdpEnvFile メソッド • コマンド起動部品：eurpmc コマンドの/adpenv オプション	

環境設定ファイルの設定手順

環境設定ファイル (EURPMADP.ini) の指定方法がデフォルトの場合を例に説明します。

• Windows 環境の場合

環境設定ファイル (EURPMADP.ini) は、インストール先フォルダ¥Adapter 下に作成されます。ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。

• UNIX/Linux 環境の場合

次に示す環境設定ファイル (EURPMADP.ini) のサンプルを、/opt/eur/sample/ServerAdapter 下に提供しています。必要な内容を設定したあと、同じファイル名で/var/opt/eur/adapter 下に格納してください。

なお、/var/opt/eur/adapter には、EUR Server - Adapter を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

<環境設定ファイル (EURPMADP.ini) のサンプルの内容>

```
[PORT]

[IPADDRESS]
EURPM=

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64
DISPPRINTDLG=2

[TIMEOUT]
#DESTLIST=
#EPFOUTPUT=
#EUROUTPUT=
#MERGEOUTPUT=
#OUTPUT=
#PDFOUTPUT=
#PRTCLSLIST=
#XLSXOUTPUT=
```

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例 (Windows 環境の場合)

```
[PORT]
EURPM=22314

[IPADDRESS]
EURPM=127.0.0.1

[ERROR]
LOGFILE=C:\%EURPMADP%\Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750
DBZEROEXITCODE=4

[OPTION]
PRINTMODE=0
DEFAULTPRINTMODE=3
SOCKBUFFSIZE=64
DATABUFFSIZE=100
DISPPRINTDLG=2
FILEOUTPUTDESTINATION=0
SPOOLLIMIT=20120521

[TIMEOUT]
OUTPUT=300
```

```

EPFOUTPUT=300
EUROUTPUT=300
PDFOUTPUT=300
DESTLIST=300
PRTCLSLIST=300
XLSXOUTPUT=300
MERGEOUTPUT=300

```

15.4.1 設定項目一覧

EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-45 EUR Server - Adapter の環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PORT	EURPM	EUR Server Service のポート番号を指定します。
IPADDRESS	EURPM	EUR Server Service が稼働するサーバの IP アドレスを指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPMADP.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPMADP.log) のファイルサイズの上限を指定します。
	DBZEROEXITCODE	環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に YES を指定し、データベースからのデータ抽出結果が 0 件のときに、EUR Server - Adapter から返却される終了コードを指定します。
OPTION	PRINTMODE	印刷方法が未指定の場合の印刷方法を指定します。
	DEFAULTPRINTMODE	デフォルト印刷方式を指定します。
	SOCKBUFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。
	DATABUFSIZE	ファイルを転送するときの分割転送のサイズを指定します。
	DISPPRINTDLG	クライアント PC で印刷する場合のダイアログの表示モードを指定します。
	FILEOUTPUTDESTINATION	PDF 形式ファイルの出力先を、EUR Server - Adapter 稼働マシンにするか、または EUR Server Service 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。
	SPOOLLIMIT	スプールデータの蓄積期限日を指定します。

セクション	キー	説明
TIMEOUT	OUTPUT	印刷または蓄積を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	EPFOUTPUT	EPF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	EUROUTPUT	EUR 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	PDFOUTPUT	PDF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	DESTLIST	出力先一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	PRTCLSLIST	プリンタクラス一覧, プリンター一覧, またはトレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	XLSXOUTPUT	Excel 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	MERGEOUTPUT	複数の EPF 形式ファイルの統合を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	LOGEXCLUSIVE	ログ出力の排他制御で, セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。

15.4.2 EURPM (PORT セクション)

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Server Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は 0~65535 です。

省略値

EURPM キーを省略した場合は, 「22314」が仮定されます。

注意事項

起動部品で帳票サーバのポート番号を指定している場合は, 起動部品の指定が優先されます。帳票サーバのポート番号を指定する起動部品のプロパティ, メソッド, パラメタ, およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品: [PMServerPort](#) プロパティ

- Java 起動部品：setPMServerPort メソッド
- COBOL 起動部品：PMSERVERPORT パラメタ
- コマンド：eurpmc コマンドの/pmpn オプション

15.4.3 EURPM (IPADDRESS セクション)

セクション

[IPADDRESS]

設定内容

EUR Server Service が稼働するサーバの IP アドレスを指定します。

指定値

255.255.255.255 形式で指定します。

省略値

起動部品の帳票サーバの IP アドレスが省略されているときに、EURPM キーの指定を省略すると、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

注意事項

- EUR Server Service と EUR Server - Adapter が同じマシンで稼働する場合、EUR Server Service と EUR Server - Adapter 間のファイル転送時間を短縮できます。ファイル転送時間を短縮する場合は、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。
- 起動部品で帳票サーバの IP アドレスを指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。帳票サーバの IP アドレスを指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。
 - ActiveX 起動部品：PMServerAddress プロパティ
 - Java 起動部品：setPMServerAddress メソッド
 - COBOL 起動部品：PMSERVERADDR パラメタ
 - コマンド：eurpmc コマンドの/pmip オプション

15.4.4 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMADP.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log

15.4.5 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.4.6 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMADP.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750～2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.4.7 DBZEROEXITCODE

セクション

[ERROR]

設定内容

環境変数 EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY に YES を指定し、データベースからのデータ抽出結果が 0 件のときに、EUR Server - Adapter から返却される終了コードを指定します。

指定値

指定できる値は 0～127 です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DBZEROEXITCODE キーを省略した場合は、「4」が仮定されます。

15.4.8 PRINTMODE

セクション

[OPTION]

設定内容

印刷方法が未指定の場合の印刷方法を指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式※で印刷します。
- 1：クライアント PC で印刷します。
- 2：蓄積します。
- 3：スプールサーバで印刷します。
- 4：帳票サーバ直接印刷方式で印刷します。
- 5：クライアント PC で配布印刷します。

0, 1, 2, 3, 4, 5 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

注※

「0 (デフォルト印刷方式)」を定義する場合は、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

省略値

PRINTMODE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

起動部品で印刷方法を指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。印刷方法を指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ
- Java 起動部品：setPrintMode メソッド
- COBOL 起動部品：PrintReport 関数 (PRINTMODE パラメタ)
- コマンド：eurpmc コマンドの/pm オプション

15.4.9 DEFAULTPRINTMODE

セクション

[OPTION]

設定内容

デフォルト印刷方式を指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 1：クライアント PC で印刷します。
- 2：蓄積します。
- 3：スプールサーバで印刷します。
- 4：帳票サーバ直接印刷方式で印刷します。
- 5：クライアント PC で配布印刷します。

1, 2, 3, 4, 5 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DEFAULTPRINTMODE キーを省略した場合は、「3」が仮定されます。

15.4.10 SOCKBUFFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は、1~2,000,000 です。単位は KB です。

通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は、「0」を指定してください。

0~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合は、「64」が仮定されます。

注意事項

KEEY208-E の通信エラーが発生し、かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは、指定した通信バッファサイズを確保するためのシステムのバッファ領域が不足していることを示しています。エラーが発生したときは、SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8~64）して再試行してください。

なお、指定した値によっては、通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

15.4.11 DATABUFFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ファイルを転送するときの分割転送のサイズを指定します。

指定値

指定できる値は、1~10,000 です。単位は KB です。

1~10,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DATABUFFSIZE キーを省略した場合は、「100」が仮定されます。

注意事項

- EUR Server - Adapter でファイル転送が実行されるプロパティ（ファイル）を指定したジョブを実行する場合、ファイル転送されるファイルごとに、指定したサイズの10~15倍のメモリが EUR Server - Adapter、および EUR Server Service 稼働マシンの両方に必要となります。
 - PDF 形式ファイル出力のとき：約 15 倍
 - PDF 形式ファイル以外のファイル出力、および印刷実行のとき：約 10 倍

転送の対象になるファイルを次に示します。

- マッピングデータファイル（可変値記号ファイル）

- ユーザ定義データファイル（可変値記号ファイル）
 - 文書しおり定義ファイル
 - しおり定義ファイル
 - PDF 仕分け定義ファイル
 - 暗号化設定ファイル
 - 分割定義ファイルまたは仕分け定義ファイル
 - 帳票セット指定ファイルで指定したマッピングデータファイル，ユーザ定義データファイル，しおり定義ファイル
 - EPF 形式ファイル
- EUR Server Service の印刷およびファイル出力実行時に，KEEY314-S のメモリ不足エラーが発生した場合は，DATABUFFSIZE キーの値（ファイル転送時の分割転送サイズ）を小さくして再試行してください。
- なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。
- EUR Server - Adapter の印刷およびファイル出力実行時に，KEEY215-S または KEEY906-E のメモリ不足エラー，もしくは KEEY217-S のシステムエラーが発生した場合は，DATABUFFSIZE キーの値（ファイル転送時の分割転送サイズ）を小さくして再試行してください。
- なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

15.4.12 DISPPRINTDLG

セクション

[OPTION]

設定内容

クライアント PC で印刷する場合のダイアログの表示モードを指定します。

指定値

指定できる値と印刷時の動作を次に示します。

- 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
- 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
印刷実行中に印刷中のダイアログを表示します。
- 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
- 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。

印刷実行中に印刷中のダイアログを表示しません。

- 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。印刷は実行できません。
- 0, 1, 2, 3, 4 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DISPPRINTDLG キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

起動部品でダイアログの表示モードを指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。ダイアログの表示モードを指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ
- Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド
- COBOL 起動部品：PrintReport 関数 (DISPPRINTDLG パラメタ)
- コマンド：eurpmc コマンドの/dialog オプション

15.4.13 FILEOUTPUTDESTINATION

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Server Service 稼働マシンで生成した PDF 形式ファイルの出力処理を、EUR Server - Adapter 稼働マシン、または EUR Server Service 稼働マシンのどちらで行うかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Server - Adapter 稼働マシンで、ファイル出力処理を行います。
- 1：EUR Server Service 稼働マシンで、ファイル出力処理を行います。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

FILEOUTPUTDESTINATION キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

- 起動部品で PDF 形式ファイルの出力先を指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。PDF 形式ファイルの出力先を指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。
 - ActiveX 起動部品：FileOutputDestination プロパティ

- Java 起動部品：setFileOutputDestination メソッド
- COBOL 起動部品：FILEOUTPUTDESTINATION パラメタ
- コマンド：eurpmc コマンドの/foutdest オプション
- EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力する場合、PDF の出力先フォルダは、起動部品の指定値だけでなく、EUR Server Service の環境設定ファイルの PATHMODE キーおよび PDF キーの設定値によって決まります。PATHMODE キーの詳細については「[15.2.21 PATHMODE](#)」を、PDF キーの詳細については「[15.2.15 PDF](#)」を参照してください。
- Java 起動部品の setDistributeFileData メソッドで PDF 仕分け定義データを指定した場合は、FILEOUTPUTDESTINATION キーの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義データに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。
- 起動部品で PDF 仕分け定義ファイル名を指定した場合は、FILEOUTPUTDESTINATION キーの指定は無視されます。この場合、PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って、EUR Server Service 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力します。PDF 仕分け定義ファイル名を指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。
 - ActiveX 起動部品：DistributeFileName プロパティ
 - Java 起動部品：setDistributeFileName メソッド
 - COBOL 起動部品：DISTRIBUTEFILENAME パラメタ
 - コマンド：eurpmc コマンドの/dsf オプション

15.4.14 SPOOLLIMIT

セクション

[OPTION]

設定内容

プールデータの蓄積期限日を指定します。日付または日数で指定してください。

日付処理には、協定世界時 (UTC) を使用します。

指定値

指定できる値を次に示します。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年 (西暦) は 4 桁、月と日は 2 桁で入力します。
- 月、または日が 1~9 の場合は、ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は、20380118 (2038 年 1 月 18 日) です。

- (指定例) 20120521, 20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には、蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は000~999です。0を指定した場合は、翌日にスプールデータが削除されます。
- 2038年1月18日を超える日数は指定できません。

(指定例) +030, +999

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SPOOLLIMIT キーを省略した場合は、蓄積時から30日後が蓄積期限日として設定されます。

注意事項

起動部品でスプールデータの蓄積期限日を指定している場合は、起動部品の指定が優先されます。蓄積期限日を指定する起動部品のプロパティ、メソッド、パラメタ、およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：SpoolLimit プロパティ
- Java 起動部品：setSpoolLimit メソッド
- COBOL 起動部品：PrintReport 関数 (SPOOLLIMIT パラメタ)
- コマンド：eurpmc コマンドの/lm オプション

15.4.15 OUTPUT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

印刷または蓄積を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~86,400 (24時間) です。単位は秒です。

0を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

OUTPUT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.16 EPFOUTPUT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EPF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

EPFOUTPUT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.17 EUROOUTPUT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

EUROOUTPUT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.18 PDFOUTPUT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

PDF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PDFOUTPUT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.19 DESTLIST

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

出力先一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DESTLIST キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.20 PRTCLSLIST

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

プリンタクラス一覧、プリンター一覧、またはトレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PRTCLSLIST キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.21 XLSXOUTPUT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

Excel 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

XLSXOUTPUT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.22 MERGEOUTPUT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

複数の EPF 形式ファイルの統合を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

MERGEOUTPUT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.4.23 LOGEXCLUSIVE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。

指定値

指定できる値は、0~86,400 です。単位は秒です。

LOGEXCLUSIVE キーに「0」を指定した場合は、タイムアウトは行いません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGEXCLUSIVE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5 EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini)

対象コンポーネントまたは機能

EUR Server - Spool Service

設定内容

EUR Server - Spool Service の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMLS.ini) で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は、EUR Server - Spool Service を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル (EURPMLS.ini) は、ユーザの利用目的に応じて指定できます。環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の指定方法ごとのファイル名と格納場所を次の表に示します。

表 15-46 環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の指定方法と格納場所

項番	指定方法	ファイル名	格納場所
1	デフォルト	EURPMLS.ini	Windows 環境の場合 インストール先フォルダ*Spool UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eur/spool 下
2	システム環境変数 EUR_SPOOL_SERVICE_EN VFILE に環境設定ファイルの格 納先のディレクトリを指定する 場合※	EURPMLS.ini	システム環境変数 EUR_SPOOL_SERVICE_ENVFILE で指定した フォルダパス
3	システム環境変数 EUR_SPOOL_SERVICE_EN VFILE に環境設定ファイルの ファイルパスを指定する場合※	システム環境変数 EUR_SPOOL_SERVICE_ENVFILE で指定したファイルパ ス (ファイル名は任意)	
4	Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) で環境 設定ファイルの格納先のフォル ダを指定する場合	EURPMLS.ini	Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマン ド) の ini オプションで指定した環境設定ファイル のフォルダパス
5	Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) で環境 設定ファイルのファイルパスを 指定する場合	Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) の ini オプションで指定 した環境設定ファイルのファイルパス (ファイル名は任意)	

注※

システム環境変数 EUR_SPOOL_SERVICE_ENVFILE を設定した場合は、EUR Server - Spool Service が稼働するマシ
ンの OS を再起動してください。

環境設定ファイルの設定手順

環境設定ファイル (EURPMLS.ini) の指定方法がデフォルトの場合を例に説明します。

- Windows 環境の場合

環境設定ファイル (EURPMLS.ini) は、インストール先フォルダ¥Spool 下に作成されます。

ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。

- UNIX/Linux 環境の場合

次に示す環境設定ファイル (EURPMLS.ini) のサンプルを、/opt/eur/sample/SpoolService 下に提供しています。必要な内容を設定したあと、同じファイル名で/var/opt/eur/spool 下に格納してください。

なお、/var/opt/eur/spool には、EUR Server - Spool Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

<環境設定ファイル (EURPMLS.ini) のサンプルの内容>

```
[PORT]

[PATH]

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64
PERSONALCATEGORY=personal
STANDARDTIME=1
#CONVERTPAGELIMIT=

[CONF]

[THREAD]
CONVERT=2
EURPS=2
MERGE=2

[TIMEOUT]

[AUDIT]
SPOOLAUDITLOG=1
#SPOOLLOGSIZE=3000
#SPOOLLOG=
#SPOOLLOGDATE=
#SPOOLLOGNUM=10
#SPOOLLOGMODE=0
```

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は、「」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PORT]
EURPMLS=22313
EURPMCL=23035
```

```

[PATH]
CONF=C:¥EURPMLS¥Conf
TEMP=C:¥EURPMLS¥Temp
ESF=C:¥EURPMLS¥ESF
POB=C:¥EURPMLS¥POB

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMLS¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[OPTION]
TEMPFILEDEL=1
ESFAUTODEL=1
SOCKBUFFSIZE=64
SPLOUTLINELIMIT=0
ESFID=0
AUTHENTICATION=1
INTERVAL=300
PERSONALCATEGORY=EURCATEGORY
APSAUTO=1
LDAPSERVER1=127.0.0.1:389
LDAPBINDDN=CN=Administrator,CN=Users,DC=hitachi,DC=eur,DC=jp
LDAPPASSWORD=LDAPPASSWORD
LDAPBASEDN=OU=Hokuriku,DC=hitachi,DC=eur,DC=jp
LDAPUIDATTR=sAMAccountName
LDAPTLS=YES
ENCRYPTPASSWORD=TRUE
RMDIRRETRYCOUNT=1
RMDIRINTERVALTIME=200
LDAPPASSWORDEMPTYCHECK=YES
STANDARDTIME=0

[CONF]
ADDRDEFFILENAME=addrdef.txt

[THREAD]
GENERAL=200
EURPS=1
MERGE=0

[TIMEOUT]
CONNECT=300
ERRIGNORE=300
WAITINGLIMIT=7
PRINTINGLIMIT=7
PRINTEDLIMIT=30
ERRORLIMIT=30
LDAPCONNECT=1

```

15.5.1 設定項目一覧

EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-47 EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PORT	EURPMLS	EUR Server - Spool Service のポート番号を指定します。
	EURPMCL	EUR Client Service のポート番号を指定します。
PATH	CONF	構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。
	TEMP	EUR Server - Spool Service の作業フォルダを指定します。
	ESF	EUR Server - Spool Service の蓄積フォルダを絶対パスで指定します。
	POB	EUR Server - Spool Service の私書箱フォルダを絶対パスで指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPMLS.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPMLS.log) のファイルサイズの上限を指定します。
OPTION	TEMPFILEDEL	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。
	ESFAUTODEL	期限が切れたスプールデータを自動削除するかどうかを指定します。
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。
	SPOUTLINELIMIT	スプールデータの一覧を取得する場合の上限時間を指定します。
	ESFID	複数の EUR Server - Spool Service が蓄積フォルダを共有する場合の管理 ID を指定します。
	AUTHENTICATION	配送印刷および帳票管理 GUI の認証方式を指定します。
	INTERVAL	配送印刷時のポーリング間隔を指定します。
	PERSONALCATEGORY	ユーザの自分宛て帳票を取得するかどうかを指定します。
	APSAUTO	EUR Application Service を自動起動するかどうかを指定します。
LDAPSERVER	LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバのサーバ名およびポート番号を指定します。	

セクション	キー	説明
OPTION	LDAPBINDDN	LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバでユーザ検索できる権限を持つユーザの ID を指定します。
	LDAPPASSWORD	LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバでユーザ検索できる権限を持つユーザのパスワードを指定します。指定したパスワードは LDAP 接続情報暗号化ツールを使用して暗号化できます。
	LDAPBASEDN	LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバの検索ベース DN を指定します。
	LDAPUIDATTR	LDAP 認証を行う場合に、ログイン画面で入力されたログオンユーザの属性名を指定します。
	LDAPTLS	LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバとの通信を TLS 通信で行うかどうかを指定します。
	ENCRYPTPASSWORD	キーワード LDAPPASSWORD で指定したパスワードを暗号化したときに自動で指定されます。
	RMDIRRETRYCOUNT	EUR Server - Spool Service で作業用一時ディレクトリの削除に失敗した場合、リトライする回数を指定します。
	RMDIRINTERVALTIME	EUR Server - Spool Service で作業用一時ディレクトリの削除に失敗した場合、リトライするまでの待機時間を指定します。
	LDAPPASSWORDEMPTYCHECK	LDAP 認証を行う場合に、特定のキーまたはパスワードの必須チェックの有無を指定します。
	STANDARDTIME	EUR Server - Spool Service が稼働するマシンの日付が変わったあと、EUR Server - Spool Service に対して最初の要求があったときに、蓄積期限が切れたスプールデータの削除、および保持期限が切れた宛先情報の状態変更（状態が「印刷済み」または「エラー」の場合は削除）を自動的に実行する処理において、日付変更の契機にローカルタイムと協定世界時（UTC）のどちらを使用するかを指定します。
CONVERTPAGELIMIT	スプールデータの印刷データを PDF 形式ファイルに変換して取得する場合に許可するスプールデータの最大ページ数を指定します。	
CONF	ADDRDEFFILENAME	宛先定義ファイルの名称に「addrdef.conf」以外のファイル名またはファイル形式を使用したい場合に、ファイルの名称を指定します。
THREAD	GENERAL	EUR Server - Spool Service の並列処理数を指定します。
	EURPS	EUR Print Service の並列処理数を指定します。

セクション	キー	説明
THREAD	MERGE	複数のスプールデータのジョブ ID を指定して蓄積操作（印刷および取得）を実行する場合の並列処理数を指定します。
	CONVERT	スプールデータの印刷データを PDF 形式ファイルに変換して取得する場合の並列処理数を指定します。
TIMEOUT	CONNECT	意図しない接続元が、データ通信を行わないで EUR Server - Spool Service と接続したままの状態になった場合、切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。
	ERRIGNORE	ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に、切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。
	WAITINGLIMIT	配送印刷した帳票の状態が「印刷待ち」のときに、印刷待ちのままにしておく期限を指定します。
	PRINTINGLIMIT	配送印刷した帳票の状態が「印刷中」のときに、印刷中のままにしておく期限を指定します。
	PRINTEDLIMIT	配送印刷した帳票の状態が「印刷済み」のときに、スプールサーバから帳票を削除するまでの期限を指定します。
	ERRORLIMIT	配送印刷した帳票の状態が「エラー」のときに、スプールサーバから帳票を削除するまでの期限を指定します。
	LDAPCONNECT	LDAP サーバ接続時の通信タイムアウト監視時間を指定します。
	LOGEXCLUSIVE	ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。
AUDIT	SPOOLAUDITLOG	監査ログを出力するかどうかを指定します。
	SPOOLLOG	監査ログファイル（eur_spool_audit.log）の出力先フォルダを指定します。
	SPOOLLOGSIZE	監査ログファイル（eur_spool_audit.log）のファイルサイズの上限を指定します。
	SPOOLLOGDATE	監査ログファイル（eur_spool_audit.log）のバックアップファイルの作成時刻を指定します。
	SPOOLLOGNUM	監査ログファイル（eur_spool_audit.log）のバックアップファイルの保持数を指定します。

セクション	キー	説明
AUDIT	SPOOLLOGMODE	監査ログに出力する情報量のモードを指定します。

15.5.2 EURPMLS

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Server - Spool Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は 0～65535 です。

省略値

EURPMLS キーを省略した場合は、「22313」が仮定されます。

15.5.3 EURPMCL

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Client Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は 0～65535 です。

省略値

EURPMCL キーを省略した場合は、「23035」が仮定されます。

15.5.4 CONF

セクション

[PATH]

設定内容

構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

CONF キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Spool¥Conf フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/spool/Conf

15.5.5 TEMP

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Server - Spool Service の作業フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

TEMP キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Spool¥Temp フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/spool/Temp

15.5.6 ESF

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Server - Spool Service の蓄積フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

ESF キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Spool¥ESF フォルダ

- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/spool/ESF

注意事項

- 指定する蓄積フォルダは EUR Server - Spool Service サービスのアカウントが書き込める必要があります。
- 蓄積フォルダには蓄積するたびにスプールデータが格納されるので、蓄積専用のディスクを用意して、ESF キーに指定することをお勧めします。

15.5.7 POB

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Server - Spool Service の私書箱フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

POB キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Spool¥POB フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/spool/POB

注意事項

指定する私書箱フォルダは EUR Server - Spool Service サービスのアカウントが書き込める必要があります。

15.5.8 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMLS.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log

15.5.9 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.5.10 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMLS.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

750~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.5.11 TEMPFILEDEL

セクション

[OPTION]

設定内容

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

EUR Server - Spool Service は、印刷実行時には TEMP キーで設定した作業フォルダに一時ファイルを生成できます。一時ファイルは、障害対策のために使用します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時は削除します。異常終了時は削除しません。
- 2：常に削除しません。

0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

TEMPFILEDEL キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

15.5.12 ESFAUTODEL

セクション

[OPTION]

設定内容

期限が切れたスプールデータを自動削除するかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：自動削除しません。
- 1：自動削除します。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ESFAUTODEL キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

15.5.13 SOCKBUFFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は、1~2,000,000 です。単位は KB です。

通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は、「0」を指定してください。

0~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合は、「64」が仮定されます。

注意事項

- KEEY426-E, KEEY459-E, または KEEY462-E の通信エラーが発生し、かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは、指定した通信バッファサイズを確保するためのシステムのバッファ領域が不足していることを示しています。エラーが発生したときは、SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8~64）して再試行してください。
- 指定した値によっては、通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

15.5.14 SPOUTLINELIMIT

セクション

[OPTION]

設定内容

スプールデータの一覧を取得する場合の上限時間を指定します。指定した時間を経過すると、一覧を取得できなくなります。

指定値

指定できる値は、0 または 60~3,600 です。単位は秒です。

取得時間を制限しない場合は、「0」を指定してください。

60~3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SPOUTLINELIMIT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.15 ESFID

セクション

[OPTION]

設定内容

複数の EUR Server - Spool Service が蓄積フォルダを共有する場合の管理 ID を指定します。

指定値

指定できる値は、0~99 です。

0~99 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ESFID キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

管理 ID には EUR Server - Spool Service ごとに異なる値を指定してください。同じ値を指定した場合、蓄積フォルダを正常に操作できません。

15.5.16 AUTHENTICATION

セクション

[OPTION]

設定内容

配送印刷および帳票管理 GUI の認証方式を指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0 : ユーザ管理ファイルによる認証
- 1 : LDAP 認証

なお、AUTHENTICATION キーで 1 (LDAP 認証) を指定する場合は、次に示すキーを必ず指定してください。

- LDAPSERVER キー
- LDAPBINDDN キー
- LDAPBASEDN キー
- LDAPUIDATTR キー

0, 1 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

AUTHENTICATION キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.17 INTERVAL

セクション

[OPTION]

設定内容

配送印刷時のポーリング間隔を指定します。

指定値

指定できる値は 0～86,400（24 時間）です。単位は秒です。

ログイン時だけ配送印刷を実行したい場合は、「0」を指定してください。

0～86,400 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

INTERVAL キーを省略した場合は、「300（5 分）」が仮定されます。

15.5.18 PERSONALCATEGORY

セクション

[OPTION]

設定内容

ユーザの自分宛ての帳票を取得するかどうかを指定します。

指定値

自分宛ての帳票を取得する場合は、宛先定義ファイルで定義された宛先キー分類と同じ値を指定してください。

配送印刷で自分宛ての帳票を取得するとき、PERSONALCATEGORY キーで指定した値を、宛先キー分類として使用します。

省略値

PERSONALCATEGORY キーを省略した場合は、配送印刷で自分宛ての帳票を取得できません。

15.5.19 APSAUTO

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Application Service を自動起動するかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：自動起動しません。
- 1：自動起動します。

0, 1 以外の値, もしくは数値以外の値を指定した場合は, 省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

APSAUTO キーを省略した場合は, 「1」が仮定されます。

15.5.20 LDAPSERVER

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に, LDAP サーバのサーバ名およびポート番号を指定します。LDAPSERVER キーは, AUTHENTICATION キーで 1 (LDAP 認証) が指定されているときに有効になります。

指定値

指定できるサーバ名を次に示します。

- LDAPSERVER1
- LDAPSERVER2
- LDAPSERVER3
- LDAPSERVER4
- LDAPSERVER5

複数のサーバ名を指定した場合は, LDAPSERVER1 から順番で接続されます。また, 五つのサーバ名をすべて指定する必要はありません。

サーバ名とポート番号は「:」で区切って指定してください。

記述例を次に示します。

```
[OPTION]
LDAPSERVER1=XXX.XXX.XX.XX:YYYY
LDAPSERVER2=XXX.XXX.XX.XX:YYYY
LDAPSERVER3=XXX.XXX.XX.XX:YYYY
LDAPSERVER4=XXX.XXX.XX.XX:YYYY
LDAPSERVER5=XXX.XXX.XX.XX:YYYY
```

(凡例)

LDAPSERVER1~5：キー名 (固定値)

XXX.XXX.XX.XX：LDAP サーバ名

YYYY：ポート番号

省略値

LDAPSERVER キーを省略した場合は, 未指定となります。

15.5.21 LDAPBINDDN

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバでユーザ検索できる権限を持つユーザの ID を指定します。

指定値

ユーザ ID の文字列を指定します。

省略値

LDAPBINDDN キーを省略した場合は、未指定となります。

15.5.22 LDAPPASSWORD

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバでユーザ検索できる権限を持つユーザのパスワードを指定します。

LDAPPASSWORD キーに指定したパスワードは、**LDAP 接続情報暗号化ツール**を使用して暗号化できます。パスワードを暗号化すると、ENCRYPTPASSWORD キーに「TRUE」が自動で設定されます。

指定値

パスワードの文字列を指定します。

省略値

LDAPPASSWORD キーを省略した場合は、未指定となります。

注意事項

セキュリティ上、パスワードを平文で指定するのは危険であるため、LDAP 接続情報暗号化ツールを使用して、パスワードを暗号化してください。

LDAPPASSWORD キーに指定したパスワードを LDAP 接続情報暗号化ツールで暗号化する方法と出力されるファイルを次に示します。なお、LDAP 接続情報暗号化ツールは Windows 環境だけで使用できます。

パスワードを暗号化する方法

EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル (EURPMLS.ini) のパスワードの暗号化は、LDAP 接続情報暗号化ツール (eurssecd コマンド) で行います。LDAP 接続情報暗号化ツールは、EUR Developer, EUR Server Enterprise, および EUR Server - Spool Service の再配布パッケージに同梱されています。

- ファイル名

ファイル名：eurssecd.exe

格納先：EUR Developer, EUR Server Enterprise, および EUR Server - Spool Service の再配布パッケージのインストール先フォルダ¥Spool¥Program

- コマンドの構文

eurssecd [.exe]

 /if 暗号化対象ファイルパス

 /of 出力先ファイルパス

- /if オプション

パスワードを暗号化する EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル名 (EURPMLS.ini) のフルパスを、259 文字以内で指定します。

- /of オプション

パスワードを暗号化したデータを出力するファイルのフルパスを、259 文字以内で指定します。

出力されるファイル

LDAP 接続情報暗号化ツール (eurssecd コマンド) を実行すると、EUR Server - Spool Service の環境設定ファイルの LDAPPASSWORD キーに指定されているパスワードを暗号化し、ENCRYPTPASSWORD キーに「TRUE」を設定したファイルが出力されます。暗号化前のファイルへの上書きはできません。

15.5.23 LDAPBASEDN

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバの検索ベース DN を指定します。

指定値

検索ベース DN の文字列を指定します。

省略値

LDAPBASEDN キーを省略した場合は、未指定となります。

15.5.24 LDAPUIDATTR

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に、ログイン画面で入力されたログインユーザの属性名を指定します。

指定値

ログインユーザの属性名の文字列を指定します。

省略値

LDAPUIDATTR キーを省略した場合は、未指定となります。

15.5.25 LDAPTLS

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に、LDAP サーバとの通信を TLS 通信で行うかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- YES：TLS 通信します。
- NO：TLS 通信しません。

YES, NO 以外の文字を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LDAPTLS キーを省略した場合は、「NO」が仮定されます。

15.5.26 ENCRYPTPASSWORD

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAPPASSWORD キーで指定したパスワードを LDAP 接続情報暗号化ツールで暗号化したときに、自動で指定されます。

指定値

指定される値を次に示します。

- TRUE：暗号化されています。
- FALSE：暗号化されていません。

省略値

ENCRYPTPASSWORD キーを省略した場合は、未指定となります。

注意事項

ENCRYPTPASSWORD キーの指定値は、変更しないでください。

15.5.27 RMDIRRETRYCOUNT

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Server - Spool Service で作業用一時フォルダの削除に失敗した場合、リトライする回数を指定します。

指定値

指定できる値は 0～20 です。

0 を指定した場合、作業用一時フォルダの削除はリトライされません。

0～20 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

RMDIRRETRYCOUNT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.28 RMDIRINTERVALTIME

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Server - Spool Service で作業用一時フォルダの削除に失敗した場合、リトライするまでの待機時間を指定します。

指定値

指定できる値は 100～1,000 です。単位はミリ秒です。

100～1,000 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

RMDIRINTERVALTIME キーを省略した場合は、「200」が仮定されます。

15.5.29 LDAPPASSWORDEMPTYCHECK

セクション

[OPTION]

設定内容

LDAP 認証を行う場合に、次に示すキーまたはパスワードの必須チェックの有無を指定します。

- OPTION セクションの LDAPPASSWORD キーの値
- 帳票管理 GUI で入力する確認キー

- ログイン画面で入力するパスワード

指定値

指定できる値を次に示します。

- YES：LDAP パスワードの必須チェックをします。
- NO：LDAP パスワードの必須チェックをしません。
- SPACE：LDAP パスワードが空文字の場合、半角空白を付加します。

YES, NO, SPACE 以外の文字を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LDAPPASSWORDEMPTYCHECK キーを省略した場合は、「YES」が仮定されます。

15.5.30 STANDARDTIME

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Server - Spool Service が稼働するマシンの日付が変わったあと、EUR Server - Spool Service に対して最初の要求があったときに、蓄積期限が切れたスプールデータの削除、および保持期限が切れた宛先情報の状態変更（状態が「印刷済み」または「エラー」の場合は削除）を自動的に実行する処理において、日付変更の契機にローカルタイムと協定世界時（UTC）のどちらを使用するかを指定します。

STANDARDTIME キーが関係する設定項目を次に示します。

- スプールデータの蓄積期限日（環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の OPTION セクションの SPOOLLIMIT キー）
- 配送印刷した帳票の状態が「印刷待ち」のときに、印刷待ちのままにしておく期限（環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の TIMEOUT セクションの WAITINGLIMIT キー）
- 配送印刷した帳票の状態が「印刷中」のときに、印刷中のままにしておく期限（環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の TIMEOUT セクションの PRINTINGLIMIT キー）
- 配送印刷した帳票の状態が「印刷済み」のときに、スプールサーバから帳票を削除するまでの期限（環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の TIMEOUT セクションの PRINTEDLIMIT キー）
- 配送印刷した帳票の状態が「エラー」のときに、スプールサーバから帳票を削除するまでの期限（環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の TIMEOUT セクションの ERRORLIMIT キー）

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ローカルタイム
- 1：協定世界時（UTC）

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

STANDARDTIME キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.31 CONVERTPAGELIMIT

セクション

[OPTION]

設定内容

スプールデータの印刷データを PDF 形式ファイルに変換して取得する場合に許可するスプールデータの最大ページ数を指定します。

指定値

指定できる値は 0～999,999 です。

0 を指定した場合、最大ページ数は無制限となります。

1～999,999 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

CONVERTPAGELIMIT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.32 ADDRDEFFILENAME

セクション

[CONF]

設定内容

宛先定義ファイルの名称に「addrdef.conf」以外のファイル名またはファイル形式を使用したい場合に、ファイルの名称を指定します。

指定値

ファイル名称を指定します。

省略値

ADDRDEFFILENAME キーを省略した場合は、addrdef.conf が仮定されます。

15.5.33 GENERAL

セクション

[THREAD]

設定内容

EUR Server - Spool Service の並列処理数を指定します。

指定値

指定できる値は 1～5,000 です。

1～5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

GENERAL キーを省略した場合は、「200」が仮定されます。

注意事項

GENERAL キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。

15.5.34 EURPS

セクション

[THREAD]

設定内容

EUR Print Service の並列処理数を指定します。

CPU 数に応じて EURPS キーを設定すると、高い並列処理効果が得られます。

指定値

指定できる値は 1～5,000 です。

1～5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

EURPS キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

注意事項

- EURPS キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。
- EUR Print Service を実行するときは、CPU 使用率が非常に高くなります。

15.5.35 MERGE

セクション

[THREAD]

設定内容

複数のスプールデータのジョブ ID を指定して蓄積操作（印刷および取得）を実行する場合の並列処理数を指定します。

CPU 数に応じて MERGE キーを設定すると、高い並列処理効果が得られます。

指定値

指定できる値は 0～5,000 です。

0 を指定した場合は、並列処理数を制御しません。

0～5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

MERGE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

MERGE キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。

15.5.36 CONVERT

セクション

[THREAD]

設定内容

スプールデータのジョブ ID を指定して印刷データを PDF 形式ファイルに変換して取得する場合の並列処理数を指定します。

CPU 数に応じて CONVERT キーを設定すると、高い並列処理効果が得られます。

指定値

指定できる値は 1～5,000 です。

1～5,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

CONVERT キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

注意事項

CONVERT キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。

15.5.37 CONNECT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

意図しない接続元が、データ通信を行わないで EUR Server - Spool Service と接続したままの状態になった場合、切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。

指定値

指定できる値は、0～3,600 です。単位は秒です。

CONNECT キーに「0」を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

CONNECT キーを省略した場合は、「600（10分）」が仮定されます。

注意事項

- 通信に時間が掛かり、タイムアウトで切断されてしまう場合は、CONNECT キーの値（タイムアウトの監視時間）を大きくして再試行してください。
- 指定した値によっては、意図しない接続を切断するのに時間が掛かり、その間ジョブを受け付けられなくなったり、EUR Server - Spool Service を停止できなくなったりします。その場合は、値を変更してチューニングしてください。

15.5.38 ERRIGNORE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に、切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。

なお、何らかのデータを通信したあとに切断を検知した場合は、エラーが出力されます。

指定値

指定できる値は、0～3,600 です。単位は秒です。

ERRIGNORE キーに 0 を指定した場合、切断を検知したとき必ずエラーが出力されます。

0～3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ERRIGNORE キーを省略した場合は、「3」が仮定されます。

注意事項

- 通信ポートの監視を実行する場合、KEEY426-E のエラーが発生したときは、ERRIGNORE キーの値（切断を検知した場合にエラーを出力しない時間）を大きくして再試行してください。

- 指定した値によっては、EUR Server Service および EUR Server - Spool Service Adapter との接続が何らかの不具合により切断された場合に、切断を検知できなくなることがあります。その場合は、値を変更してチューニングしてください。

15.5.39 WAITINGLIMIT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

配送印刷した帳票の状態が「印刷待ち」のときに、印刷待ちのままにしておく期限を日数で指定します。指定した期限を過ぎた場合、配送帳票の状態はエラーに変更されます。

日付処理には、協定世界時（UTC）を使用します。

指定値

指定できる値は 0～999 です。単位は日です。

0 を指定した場合は、翌日に配送帳票の状態がエラーに変更されます。

0～999 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

WAITINGLIMIT キーを省略した場合は、「7」が仮定されます。

15.5.40 PRINTINGLIMIT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

配送印刷した帳票の状態が「印刷中」のときに、印刷中のままにしておく期限を日数で指定します。指定した期限を過ぎた場合、配送帳票の状態はエラーに変更されます。

日付処理には、協定世界時（UTC）を使用します。

指定値

指定できる値は 0～999 です。単位は日です。0 を指定した場合は、翌日に配送帳票の状態がエラーに削除されます。

0～999 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PRINTINGLIMIT キーを省略した場合は、「7」が仮定されます。

15.5.41 PRINTEDLIMIT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

配送印刷した帳票の状態が「印刷済み」のときに、スプールサーバから帳票を削除するまでの期限を日数で指定します。指定した期限を過ぎた場合、配送帳票は削除されます。

日付処理には、協定世界時（UTC）を使用します。

指定値

指定できる値は 0～999 です。単位は日です。

0 を指定した場合は、翌日に配送帳票が削除されます。

0～999 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PRINTEDLIMIT キーを省略した場合は、「30」が仮定されます。

15.5.42 ERRORLIMIT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

配送印刷した帳票の状態が「エラー」のときに、スプールサーバから帳票を削除するまでの期限を日数で指定します。指定した期限を過ぎた場合、配送帳票は削除されます。

日付処理には、協定世界時（UTC）を使用します。

指定値

指定できる値は 0～999 です。単位は日です。

0 を指定した場合は、翌日に配送帳票が削除されます。

0～999 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ERRORLIMIT キーを省略した場合は、「30」が仮定されます。

15.5.43 LDAPCONNECT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

LDAP サーバ接続時の通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～30 です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～30 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LDAPCONNECT キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

注意事項

OS やネットワークのタイムアウト時間など、環境によっては LDAPCONNECT キーの指定値より短い時間でタイムアウトする場合があります。

15.5.44 LOGEXCLUSIVE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。

指定値

指定できる値は、0～86,400 です。単位は秒です。

LOGEXCLUSIVE キーに「0」を指定した場合は、タイムアウトは行いません。

0～86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGEXCLUSIVE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.45 SPOOLAUDITLOG

セクション

[AUDIT]

設定内容

監査ログを出力するかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：監査ログを出力しません。
 - 1：監査ログを出力します。
- 0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SPOOLAUDITLOG キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.5.46 SPOOLLOG

セクション

[AUDIT]

設定内容

監査ログファイル (eur_spool_audit.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

存在しないフォルダを指定した場合は、指定したフォルダが自動的に作成されます。

省略値

SPOOLLOG キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log

注意事項

- 監査ログファイルに書き込み権限がない場合は、EUR Server - Spool Service のサービス起動時に KEEU858-E エラーとなります。
- 監査ログを出力する場合、EUR Server - Spool Service のサービス起動時に監査ログファイルにアクセスします。

15.5.47 SPOOLLOGSIZE

セクション

[AUDIT]

設定内容

監査ログファイル (eur_spool_audit.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は、750~2,000,000 です。単位は KB です。

750~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「3,000」が仮定されます。

注意事項

- 監査ログファイルに出力する監査ログのデータサイズが SPOOLLOGSIZE キーの指定値を超える場合は、監査ログを出力する前にバックアップファイルを作成し、出力先を新規に作成した監査ログファイルに切り替えて、監査ログを出力します。
- 監査ログファイルのフォーマットが不正な場合、または SPOOLLOGSIZE キーの指定値に範囲外の値を指定した場合は、KEEY861-E エラーとなります。

15.5.48 SPOOLLOGDATE

セクション

[AUDIT]

設定内容

監査ログファイル (eur_spool_audit.log) のバックアップファイルの作成時刻を「hh:mm」形式で指定します。

時刻処理には、ローカルタイムを使用します。

指定値

指定できる文字列は、5 バイトまでです。

- hh：時 (00~23) を 2 桁で指定します。01~09 は、ゼロ埋めします。
- mm：分 (00~59) を 2 桁で指定します。01~09 は、ゼロ埋めします。

省略値

SPOOLLOGDATE キーを省略した場合は、時刻指定によるバックアップファイルの作成を行いません。

注意事項

SPOOLLOGDATE キーで監査ログファイルのバックアップ作成時刻を指定した場合、監査ログファイルのバックアップファイルは、バックアップ作成時刻を経過したあと、EUR Server - Spool Service がスプールデータの操作を実行したタイミングで作成されます (バックアップ作成時刻を経過しただけではバックアップファイルは作成されません)。

15.5.49 SPOOLLOGNUM

セクション

[AUDIT]

設定内容

監査ログファイル (eur_spool_audit.log) のバックアップファイルの保持数を指定します。

指定値

指定できる値は、1～31 です。

1～31 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SPOOLLOGNUM キーを省略した場合は、「10」が仮定されます。

15.5.50 SPOOLLOGMODE

セクション

[AUDIT]

設定内容

監査ログ出力モードを指定します。

監査ログ出力モードは、監査ログに出力する情報量を指定するモードです。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：監査証跡管理システム連携モード
一般的に監査ログとして求められる「誰が」「いつ」「何を」「どうした」などの情報を出力するモードです。
 - 1：詳細情報モード
監査証跡管理システム連携モードで出力する情報に加えて、EUR の機能を実行するときに指定したプロパティや蓄積ファイルの属性情報を出力するモードです。
- 0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SPOOLLOGMODE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

注意事項

監査証跡管理システム連携モードを指定した場合は、次の項目を出力しません。

- オブジェクトロケーション情報の一部の項目
- 変更前情報および変更後情報

監査証跡管理システム連携モードを指定した場合に出力しない項目の詳細については、マニュアル「EURシステム設計ガイド」を参照してください。

15.6 EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini)

対象コンポーネントまたは機能

EUR Server - Spool Service Adapter

設定内容

EUR Server - Spool Service Adapter の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は、EUR Server - Spool Service Adapter を使用しているプログラムを再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) は、ユーザの利用目的に応じて指定できます。環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) の指定方法ごとのファイル名と格納場所を次の表に示します。

表 15-48 環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) の指定方法と格納場所

項番	指定方法	ファイル名	格納場所
1	デフォルト	EURPMLSADP.ini	Windows 環境の場合 インストール先フォルダ¥Spool Adapter UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eur/spool-adp 下
2	EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルの格納先を任意のフォルダに変更する場合	EURPMLSADP.ini	起動部品で指定した任意のフォルダのパス • SS-ActiveX 起動部品：AdpEnvFile プロパティ • SS- Java 起動部品：setAdpEnvFile メソッド • SS-コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの/adpenv オプション
3	EUR Server - Spool Service Adapter で使用する環境設定ファイルを任意のファイルパス (ファイル名は任意) で指定する場合	起動部品で指定した任意のファイルのファイル名およびパス • SS-ActiveX 起動部品：AdpEnvFile プロパティ • SS- Java 起動部品：setAdpEnvFile メソッド • SS-コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの/adpenv オプション	

環境設定ファイルの設定手順

環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) の指定方法がデフォルトの場合を例に説明します。

• Windows 環境の場合

環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) は、インストール先フォルダ¥Spool Adapter 下に作成されます。

ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。

• UNIX/Linux 環境の場合

次に示す環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) のサンプルを、/opt/eur/sample/SpoolAdapter 下に提供しています。必要な内容を設定したあと、同じファイル名で/var/opt/eur/spool-adp 下に格納してください。

なお、/var/opt/eur/spool-adp には、EUR Server - Spool Service Adapter を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

<環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) のサンプルの内容>

```
[PORT]

[IPADDRESS]
EURPMLS=

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[TIMEOUT]
#POLLINGREPORT=
#PRINT=

[PATH]

[OPTION]
SOCKBUFSIZE=64
DATABUFSIZE=100
```

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例 (Windows 環境の場合)

```
[PORT]
EURPMLS=22313

[IPADDRESS]
EURPMLS=127.0.0.1

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMLSADP¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[TIMEOUT]
PRINT=300
GETFILE=30
FILELIST=30
FILEOPERATE=30
DELETE=30
PRTCLSLIST=30
AUTHENTICATION=30
POLLINGREPORT=30
PRINTSTATE=30
```

```
[PATH]
OUTPUTFILE=C:¥EURPMLSADP¥OutputFile
```

```
[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64
USERNAME=EURUSER
CHECKSTRING=PASSWORD
DATABUFFSIZE=100
```

15.6.1 設定項目一覧

EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-49 EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PORT	EURPMLS	EUR Server - Spool Service のポート番号を指定します。
IPADDRESS	EURPMLS	EUR Server - Spool Service が稼働するサーバの IP アドレスを指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPMLSADP.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPMLSADP.log) のファイルサイズの上限を指定します。
TIMEOUT	PRINT	EUR Server - Spool Service にスプールデータの印刷を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	GETFILE	EUR Server - Spool Service にスプールデータの取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	FILELIST	EUR Server - Spool Service からスプールデータ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	FILEOPERATE	EUR Server - Spool Service からスプールデータの属性の取得・設定、およびスプールデータの削除をするときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	DELETE	EUR Server - Spool Service に期限が切れたスプールデータ一括削除を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

セクション	キー	説明
TIMEOUT	PRTCLSLIST	EUR Server - Spool Service からプリンタクラス一覧, プリンター一覧, トレー一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	AUTHENTICATION	EUR Server - Spool Service にログインするときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	POLLINGREPORT	EUR Server - Spool Service に配送印刷する帳票の取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	PRINTSTATE	EUR Server - Spool Service に帳票一覧の取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	CHANGEAUDITLOG	EUR Server - Spool Service に監査ログの切り替えを要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	LOGEXCLUSIVE	ログ出力の排他制御で, セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。
PATH	OUTPUTFILE	スプールデータを取得するフォルダを指定します。
OPTION	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。
	USERNAME	ユーザ ID やパスワードが未指定のときに使用されるユーザ ID を設定します。
	CHECKSTRING	ユーザ ID やパスワードが未指定のときに使用されるパスワードを設定します。
	DATABUFFSIZE	ファイルを転送するときの分割転送のサイズを指定します。

15.6.2 EURPMLS (PORT セクション)

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Server - Spool Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は, 0~65535 です。

省略値

EURPMLS キーを省略した場合は、「22313」が仮定されます。

15.6.3 EURPMLS (IPADDRESS セクション)

セクション

[IPADDRESS]

設定内容

EUR Server - Spool Service が稼働するサーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。ServerAddress プロパティを指定していた場合は、ServerAddress プロパティの設定が有効になります。

指定値

255.255.255.255 形式で指定します。

省略値

ServerAddress プロパティが省略されているときに、EURPMLS キーの指定を省略すると、デフォルト値 (127.0.0.1) が仮定されます。

注意事項

- EUR Server - Spool Service と EUR Server - Spool Service Adapter が同じマシンで稼働する場合、EUR Server - Spool Service と EUR Server - Spool Service Adapter 間のファイル転送時間を短縮できます。ファイル転送時間を短縮する場合は、マニュアル「EUR システム設計ガイド」を参照してください。
- EURPMLS キーと SS-ActiveX 起動部品の ServerAddress プロパティ、または SS-Java 起動部品の setServerAddress メソッドが設定されていないとき、次に示すメソッドのどれかを実行するとエラー (KEEY502-E) になります。
 - SS-ActiveX 起動部品
DeleteSpoolFile メソッド、GetPrinterClassList メソッド、GetPrinterList メソッド、GetSpoolFile メソッド、GetSpoolFileAttribute メソッド、GetSpoolFileOutline メソッド、GetTrayList メソッド、PrintSpoolReport メソッド、SetSpoolFileAttribute メソッド
 - SS-Java 起動部品
deleteSpoolFile メソッド、getPrinterClassList メソッド、getPrinterList メソッド、getSpoolFile メソッド、getSpoolFileAttribute メソッド、getSpoolFileOutline メソッド、getTrayList メソッド、printSpoolReport メソッド、setSpoolFileAttribute メソッド

15.6.4 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMLSADP.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log

15.6.5 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.6.6 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMLSADP.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

750~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.6.7 PRINT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service にスプールデータの印刷を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~86,400 (24 時間) です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0~86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PRINT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.6.8 GETFILE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service にスプールデータの取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~600 (10 分) です。単位は秒です。

0 を指定した場合、または 0~600 以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

GETFILE キーを省略した場合は、「30 (秒)」が仮定されます。

15.6.9 FILELIST

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service からスプールデータ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10分）です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0～600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

FILELIST キーを省略した場合は、「30（秒）」が仮定されます。

15.6.10 FILEOPERATE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service からスプールデータの属性の取得・設定、およびスプールデータの削除をするときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10分）です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0～600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

FILEOPERATE キーを省略した場合は、「30（秒）」が仮定されます。

15.6.11 DELETE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service に期限が切れたスプールデータ一括削除を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10分）です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0~600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

DELETE キーを省略した場合は、「30 (秒)」が仮定されます。

15.6.12 PRTCLSLIST

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service からプリンタクラス一覧、プリンター一覧、トレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~600 (10分) です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0~600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

PRTCLSLIST キーを省略した場合は、「30 (秒)」が仮定されます。

15.6.13 AUTHENTICATION

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service にログインするときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~600 (10分) です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0~600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

AUTHENTICATION キーを省略した場合は、「30 (秒)」が仮定されます。

15.6.14 POLLINGREPORT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service に配送印刷する帳票の取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～86,400（24 時間）です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～86,400 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

POLLINGREPORT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.6.15 PRINTSTATE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service に帳票一覧の取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合、または 0～600 以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

PRINTSTATE キーを省略した場合は、「30（秒）」が仮定されます。

15.6.16 CHANGEAUDITLOG

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service に監査ログの切り替えを要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合、または 0～600 以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

CHANGEAUDITLOG キーを省略した場合は、「30 (秒)」が仮定されます。

15.6.17 LOGEXCLUSIVE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ログ出力の排他制御で、セマフォ無限待ちによる処理停止を回避するためのタイムアウト時間を指定します。Linux 環境の場合だけ有効です。

指定値

指定できる値は、0～86,400 です。単位は秒です。

LOGEXCLUSIVE キーに「0」を指定した場合は、タイムアウトは行いません。

0～86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGEXCLUSIVE キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.6.18 OUTPUTFILE

セクション

[PATH]

設定内容

スプールデータを取得するフォルダを指定します。SS-ActiveX 起動部品の OutputFilePath プロパティ、または SS-Java 起動部品の setOutputFilePath メソッドを指定していた場合は、OutputFilePath プロパティまたは setOutputFilePath メソッドの設定が有効になります。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

OUTPUTFILE キーを省略した場合は、未指定となります。

注意事項

OUTPUTFILE キーと SS-ActiveX 起動部品の OutputFilePath プロパティ、または SS-Java 起動部品の setOutputFilePath メソッドが設定されていないとき、次に示すメソッドを実行するとエラー (KEEY502-E) になります。

- SS-ActiveX 起動部品
GetSpoolFile メソッド

- SS-Java 起動部品
getSpoolFile メソッド

15.6.19 SOCKBUFFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は、1~2,000,000 です。単位は KB です。

通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は、「0」を指定してください。

0~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合は、「64」が仮定されます。

注意事項

KEEY503-E の通信エラーが発生し、かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは、指定した通信バッファサイズを確保するためのシステムのバッファ領域が不足していることを示しています。エラーが発生したときは、SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく (8~64) して再試行してください。

なお、指定した値によっては、通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

15.6.20 USERNAME

セクション

[OPTION]

設定内容

ユーザ ID やパスワードが未指定のときに使用されるユーザ ID を設定します。

指定値

ユーザ ID の文字列を 80 バイト以内で指定します。

80 バイトを超えた文字列を指定した場合は、EUR のデフォルトユーザとしてスプールデータにアクセスします。

注意事項

- 帳票管理 GUI と業務アプリケーションを併用するシステムでは、API でユーザ ID とパスワードを指定できません。そのため、帳票へのアクセス権限があるユーザもデフォルトユーザとして認識され、目的の帳票にアクセスできなくなってしまいます。USERNAME キーを指定しておけば、このような問題の発生を防ぐことができます。
- 制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は指定できません。

15.6.21 CHECKSTRING

セクション

[OPTION]

設定内容

ユーザ ID やパスワードが未指定のときに使用されるパスワードを設定します。

指定値

パスワードの文字列を 80 バイト以内で指定します。

80 バイトを超えた文字列を指定した場合は、EUR のデフォルトユーザとしてスプールデータにアクセスします。

注意事項

- 帳票管理 GUI と業務アプリケーションを併用するシステムでは、API でユーザ ID とパスワードを指定できません。そのため、帳票へのアクセス権限があるユーザもデフォルトユーザとして認識され、目的の帳票にアクセスできなくなってしまいます。CHECKSTRING キーを指定しておけば、このような問題の発生を防ぐことができます。
- 制御コード (0x00~0x1F, 0x7F~0x9F), 「"」, および 「,」 は指定できません。

15.6.22 DATABUFFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ファイルを転送するときの分割転送のサイズを指定します。

分割転送の対象になる機能を次に示します。

- スプールデータからの印刷データのファイル取得 (PDF 形式)
- スプールデータからの印刷データのメモリ取得 (PDF 形式)

指定値

指定できる値は、1~10,000 です。単位は KB です。

1～10,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DATABUFFSIZE キーを省略した場合は、「100」が仮定されます。

15.7 帳票管理 GUI の環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini)

対象コンポーネントまたは機能

帳票管理 GUI

設定内容

帳票管理 GUI の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は、帳票管理 GUI を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

- Windows 環境の場合

環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) は、インストール先フォルダ¥Spool Adapter 下に作成されます。

ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。

- UNIX/Linux 環境の場合

次に示す環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) のサンプルを、/opt/eur/sample/SpoolAdapter 下に提供しています。必要な内容を設定したあと、同じファイル名で/var/opt/eur/spool-adp 下に格納してください。

なお、/var/opt/eur/spool-adp には、EUR Server - Spool Service Adapter を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

<環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) のサンプルの内容>

```
[OPTION]
#PATH=/CAB/User/
#PATH=/CAB/Machine/
ENABLEGETPDF=1
```

冒頭に「#」が付いている行はコメントの扱いになっています。

環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) のサンプルは、インストールする単位に応じて内容を設定すると使用できるようになります。それぞれの設定について次に説明します。

ユーザ単位インストールを使用する場合

- ユーザ単位インストール用のダウンロードパッケージ (cab ファイル) を Web サーバ上に配置する
- 環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) のサンプルの「#PATH=/CAB/User/」から「#」を削除し、PATH キーにユーザ単位インストール用のダウンロードパッケージ (cab ファイル) の格納場所の URL を指定する
- インストール先フォルダ¥Component¥Client¥User¥に格納されているユーザ単位インストール用の EUR Web Plug-In 情報ファイルを次の場所に配置する

配置場所

- Windows 環境の場合

インストール先フォルダ¥Adapter

- UNIX/Linux 環境の場合
/var/opt/eur/adapter

マシン単位インストールを使用する場合

- マシン単位インストール用のダウンロードパッケージ (cab ファイル) を Web サーバ上に配置する
- 環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) のサンプルの [#PATH=/CAB/Machine/] から [#] を削除し, PATH キーにマシン単位インストール用のダウンロードパッケージ (cab ファイル) の格納場所の URL を指定する
- インストール先フォルダ¥Component¥Client¥に格納されているマシン単位インストール用の EUR Web Plug-In 情報ファイルを次の場所に配置する

配置場所

- Windows 環境の場合
インストール先フォルダ¥Adapter
- UNIX/Linux 環境の場合
/var/opt/eur/adapter

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は, 「」 で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例 (Windows 環境の場合)

```
[OPTION]
PATH=http://192.168.1.1/EURPMRSGUI/USER/
EPFDATAMAXSIZE=1000000
DEFAULTPRINTDLG=YES
```

15.7.1 設定項目一覧

帳票管理 GUI の環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-50 帳票管理 GUI の環境設定ファイル (EURPMRSGUI.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
OPTION	PATH	EUR Web Plug-In をダウンロードパッケージからインストールする場合に, ダウンロードパッケージ (cab ファイル) の格納場所の URL を指定します。
	EPFDATAMAXSIZE	ダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズの上限を指定します。

セクション	キー	説明
OPTION	DEFAULTPRINTDLG	[このマシンで印刷] を選択して印刷する場合に 表示されるダイアログを、EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログにするか、または OS の印刷ダイアログにするかのどちらかを指定し ます。
	ENABLEGETPDF	帳票管理 GUI を使用する場合に、スプールデー タからの PDF 形式ファイルの取得を許可するか どうかを指定します。

15.7.2 PATH

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Web Plug-In をダウンロードパッケージからインストールする場合に、ダウンロードパッケージ (cab ファイル) の格納場所の URL を指定します。

指定値

URL の文字列を指定します。

インストールする単位に応じて、次のように設定します。

ユーザ単位インストールを使用する場合

- PATH キーにユーザ単位インストール用のダウンロードパッケージ (cab ファイル) の格納場所の URL を指定します。
- インストール先フォルダ¥Component¥Client¥User¥に格納されているユーザ単位インストール用の EUR Web Plug-In 情報ファイルを次の場所に配置します。

配置場所

- Windows 環境の場合
インストール先フォルダ¥Adapter
- UNIX/Linux 環境の場合
/var/opt/eur/adapter

マシン単位インストールを使用する場合

- PATH キーにマシン単位インストール用のダウンロードパッケージ (cab ファイル) の格納場所の URL を指定します。
- インストール先フォルダ¥Component¥Client¥に格納されているマシン単位インストール用の EUR Web Plug-In 情報ファイルを次の場所に配置します。

配置場所

- ・ Windows 環境の場合
インストール先フォルダ¥Adapter
- ・ UNIX/Linux 環境の場合
/var/opt/eur/adapter

省略値

PATH キーを省略した場合は、ダウンロードパッケージによるインストールは実施されません。

15.7.3 EPFDATAMAXSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

750~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

EPFDATAMAXSIZE キーを省略した場合は、「2,000,000」が仮定されます。

15.7.4 DEFAULTPRINTDLG

セクション

[OPTION]

設定内容

[このマシンで印刷] を選択して印刷する場合に表示されるダイアログを、EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログにするか、または OS の印刷ダイアログにするかのどちらかを指定します。

設定内容

指定できる値を次に示します。

- ・ YES : 印刷実行時、OS の印刷ダイアログを表示します。
- ・ NO : 印刷実行時、EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログを表示します。

指定できる値以外の文字を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DEFAULTPRINTDLG キーを省略した場合は、「YES」が仮定されます。

注意事項

OS の印刷ダイアログでは、印刷開始ページおよび印刷終了ページに 65,534 より大きい値を指定できません。65,534 より大きい値を指定するとエラーが表示されるか、または指定していないページが印刷されます。

大量ページの帳票を印刷する場合には、EUR Server Service のプリンタ選択ダイアログを使用してください。

15.7.5 ENABLEGETPDF

セクション

[OPTION]

設定内容

帳票管理 GUI を使用する場合に、スプールデータからの PDF 形式ファイルの取得を許可するかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0 : PDF 形式ファイルの取得を許可しない。
- 1 : PDF 形式ファイルの取得を許可する。

指定できる値以外の文字を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ENABLEGETPDF キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.8 EUR Client Service の環境設定ファイル (EURPMCL.ini)

対象コンポーネントまたは機能

EUR Client Service

設定内容

EUR Client Service の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMCL.ini) で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は、EUR Client Service を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル (EURPMCL.ini) は、インストール先フォルダ¥Client 下に作成されます。

ファイルの内容を追加、変更する場合は、メモ帳などのテキスト編集エディタを起動して編集したあと、上書き保存してから使用してください。

<環境設定ファイル (EURPMCL.ini) のサンプルの内容>

```
[PORT]

[PATH]
#DELISERVICE=http://127.0.0.1:23100/eurssdeli/

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64

[TIMEOUT]
```

冒頭に「#」が付いている行はコメントの扱いになっています。EUR Developer または EUR Server Enterprise をインストールして、配送サービスをローカルのマシンから使用するときは「#DELISERVICE」の冒頭の「#」を削除すれば使用できます。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PORT]
EURPMCL=23035

[PATH]
CONF=C:¥EURPMCL¥Conf
TEMP=C:¥EURPMCL¥Temp
DELISERVICE=http://XXX.XXX.XX.XX:YYYY/eurssdeli/

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMCL¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750
```

```
EVENTLOGLEVEL=0
```

```
[OPTION]
```

```
TEMPFILEDEL=1  
SOCKBUFFSIZE=64  
FIRSTDELIVERY=0  
RMDIRRETRYCOUNT=1  
RMDIRINTERVALTIME=200  
SELECTDISPLAYPRINTER=0
```

```
[TIMEOUT]
```

```
CONNECT=300  
ERRIGNORE=300  
HTTPDATARECEIVE=600
```

15.8.1 設定項目一覧

EUR Client Service の環境設定ファイル (EURPMCL.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-51 EUR Client Service の環境設定ファイル (EURPMCL.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PORT	EURPMCL	EUR Client Service のポート番号を指定します。
PATH	CONF	構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。
	TEMP	EUR Client Service の作業フォルダを指定します。
	DELISERVICE	配送サービスの URL を指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPMCL.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPMCL.log) のファイルサイズの上限を指定します。
	EVENTLOGLEVEL	イベントログの出力レベルを指定します。
OPTION	TEMPFILEDEL	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。
	FIRSTDELIVERY	ログイン直後に配送印刷するかどうかを指定します。
	RMDIRRETRYCOUNT	EUR Client Service で作業用一時ディレクトリの削除に失敗した場合、リトライする回数を指定します。

セクション	キー	説明
OPTION	RMDIRINTERVALTIME	EUR Client Service で作業用一時ディレクトリの削除に失敗した場合、リトライするまでの待機時間を指定します。
	SELECTDISPLAYPRINTER	印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名の表示モードを指定します。
TIMEOUT	CONNECT	意図しない接続元が、データ通信を行わないで EUR Client Service と接続したままの状態になった場合、切断するまでの時間を指定します (タイムアウト監視)。
	ERRIGNORE	ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理 (生死監視) が実行された場合に、切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。
	HTTPDATARECEIVE	配送印刷全般の HTTP 通信で、データの受け取りのタイムアウト時間を指定します。

15.8.2 EURPMCL

セクション

[PORT]

設定内容

EUR Client Service のポート番号を指定します。

指定値

指定できる値は、0~65535 です。

省略値

EURPMCL キーを省略した場合は、「23035」が仮定されます。

15.8.3 CONF

セクション

[PATH]

設定内容

構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

CONF キーを省略した場合は、インストール先フォルダ¥Client¥Conf フォルダが仮定されます。

15.8.4 TEMP

セクション

[PATH]

設定内容

EUR Client Service の作業フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

TEMP キーを省略した場合は、C:¥Users¥<ログインユーザ>¥AppData¥Roaming¥Hitachi¥EUR フォルダが仮定されます。

15.8.5 DELISERVICE

セクション

[PATH]

設定内容

配送サービスの URL を指定します。

指定値

URL の文字列を指定します。

DELISERVICE キーを指定すると、配送印刷機能が有効になります。

記述例を次に示します。

```
[PATH]  
DELISERVICE=http://XXX.XXX.XX.XX:YYYY/eurssdeli/
```

(凡例)

DELISERVICE : キー名 (固定値)

http://XXX.XXX.XX.XX:YYYY/ : 接続先サーバの URL

eurssdeli/ : サービス名 (固定値)

省略値

DELISERVICE キーを省略すると、配送印刷機能は無効になります。

15.8.6 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMCL.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、C:¥Users¥<ログインユーザ>¥AppData¥Roaming¥Hitachi¥EUR フォルダが仮定されます。

15.8.7 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.8.8 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMCL.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

750~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.8.9 EVENTLOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

イベントログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：プログラムの起動、プログラムの終了、およびエラーを出力します。
- 1：プログラムの起動、プログラムの終了、エラー、ジョブの起動、ジョブの終了、および印刷の正常終了を出力します。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

EVENTLOGLEVEL キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.8.10 TEMPFILEDEL

セクション

[OPTION]

設定内容

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

EUR Client Service は、印刷実行時には TEMP キーで設定した作業フォルダに一時ファイルを生成できます。一時ファイルは、障害対策のために使用します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。

- 1：正常終了時は削除します。異常終了時は削除しません。
 - 2：常に削除しません。
- 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

TEMPFILEDEL キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

15.8.11 SOCKBUFFSIZE

セクション

[OPTION]

設定内容

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は、1~2,000,000 です。単位は KB です。

通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は、「0」を指定してください。

0~2,000,000 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合は、「64」が仮定されます。

注意事項

KEEY115-E の通信エラーが発生し、かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは、指定した通信バッファサイズを確保するためのシステムのバッファ領域が不足していることを示しています。エラーが発生したときは、SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく (8~64) して再試行してください。

なお、指定した値によっては、通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

15.8.12 FIRSTDELIVERY

セクション

[OPTION]

設定内容

ログイン成功直後、配送印刷を開始するかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログイン成功後、INTERVAL キーで指定した配送印刷時のポーリング間隔を経過してから配送印刷を開始します。
- 1：ログイン成功直後に配送印刷を開始します。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

FIRSTDELIVERY キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

注意事項

大量のユーザが同時にログインする環境の場合、Web サーバの混雑が予想されるため「0」を指定してください。

15.8.13 RMDIRRETRYCOUNT

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Client Service で作業用一時フォルダの削除に失敗した場合、リトライする回数を指定します。

指定値

指定できる値は 0～20 です。

0 を指定した場合、作業用一時フォルダの削除はリトライされません。

0～20 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

RMDIRRETRYCOUNT キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.8.14 RMDIRINTERVALTIME

セクション

[OPTION]

設定内容

EUR Client Service で作業用一時フォルダの削除に失敗した場合、リトライするまでの待機時間を指定します。

指定値

指定できる値は 100～1,000 です。単位はミリ秒です。

100～1,000 以外の値、もしくは数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

RMDIRINTERVALTIME キーを省略した場合は、「200」が仮定されます。

15.8.15 SELECTDISPLAYPRINTER

セクション

[OPTION]

設定内容

印刷ダイアログに初期表示するプリンタ名の表示モードを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

0：標準モード

- 初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
プリンタ名は表示されません。
- 印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。*

1：通常使うプリンタ初期表示モード

- 初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。
- 印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合
通常使うプリンタのプリンタ名が表示されます。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

注※

前回の受信時に設定したプリンタ名のプリンタが存在しない場合、プリンタ名は表示されません。

省略値

SELECTDISPLAYPRINTER キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.8.16 CONNECT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

意図しない接続元が、データ通信を行わないで EUR Client Service と接続したままの状態になった場合、切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。

指定値

指定できる値は、0～3,600 です。単位は秒です。

0 を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

0～3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

CONNECT キーを省略した場合は、「600（10分）」が仮定されます。

注意事項

通信に時間が掛かり、タイムアウトで切断されてしまう場合は、CONNECT キーの値（タイムアウトの監視時間）を大きくして再試行してください。

なお、指定した値によっては、意図しない接続を切断するのに時間が掛かり、その間ジョブを受け付けられなくなったり、EUR Client Service を停止できなくなったりします。その場合は、値を変更してチューニングしてください。

15.8.17 ERRIGNORE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に、切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。

なお、何らかのデータを通信したあとに切断を検知した場合は、エラーが出力されます。

指定値

指定できる値は、0～3,600 です。単位は秒です。

ERRIGNORE キーに「0」を指定した場合、切断を検知したとき必ずエラーが出力されます。

0～3,600 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ERRIGNORE キーを省略した場合は、「3」が仮定されます。

注意事項

通信ポートの監視を実行する場合、KEEY115-E のエラーが発生したときは、ERRIGNORE キーの値（切断を検知した場合にエラーを出力しない時間）を大きくして再試行してください。

なお、指定した値によっては、EUR Server Service および EUR Server - Spool Service との接続が何らかの不具合により切断された場合に、切断を検知できなくなることがあります。その場合は、値を変更してチューニングしてください。

15.8.18 HTTPDATARECEIVE

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

配送印刷全般の HTTP 通信で、データの受け取りのタイムアウト時間を指定します。

指定値

指定できる値は、1～86,400（24 時間）です。単位は秒です。

1～86,400 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

HTTPDATARECEIVE キーを省略した場合は、「600」が仮定されます。

15.9 Server Service 制御コマンドの環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini)

対象コンポーネントまたは機能

Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド)

設定内容

Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) で設定します。

Server Service 制御コマンドの環境設定ファイルを変更した場合は、次に Server Service 制御コマンドを実行したときから有効になります。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) のサンプルを次の場所に格納しています。

- Windows 環境の場合
インストール先フォルダ¥Sample¥ServerService¥下
- UNIX/Linux 環境の場合
/opt/eur/sample/ServerService 下

環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) のサンプルの内容を次に示します。

<環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) のサンプルの内容>

```
[PATH]

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (EURPMCTRL.ini) で次に格納します。
 - Windows 環境の場合
インストール先フォルダ¥Server 下
 - UNIX/Linux 環境の場合
/var/opt/eur/server 下

なお、格納場所には、EUR Server Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PATH]
TEMP=/tmp

[ERROR]
LOGFILE=/var/opt/EUR/Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[TIMEOUT]
START=300
STOP=120
```

注意事項

EUR Server Service を複数起動している場合は、環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) の PATH セクションの TEMP キーの値は変更できません。変更したときには、Server Service 制御コマンドの機能が使用できなくなります。

15.9.1 設定項目一覧

Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-52 Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の環境設定ファイル (EURPMCTRL.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PATH	TEMP	Server Service 制御コマンドの作業フォルダを指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPMCTRL.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPMCTRL.log) のファイルサイズの上限を指定します。
TIMEOUT	START	EUR Server Service を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	STOP	EUR Server Service を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

15.9.2 TEMP

セクション

[PATH]

設定内容

Server Service 制御コマンド (eurpmctrl コマンド) の作業フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

TEMP キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Server¥Temp フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/server/Temp

15.9.3 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMCTRL.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
インストール先フォルダ¥Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
/var/opt/eur/log

15.9.4 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.9.5 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMCTRL.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.9.6 START

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server Service を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~600 (10分) です。単位は秒です。

0 を指定した場合、または 0～600 以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

START キーを省略した場合は、「120」が仮定されます。

15.9.7 STOP

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server Service を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合、または 0～600 以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

省略値

STOP キーを省略した場合は、「120」が仮定されます。

15.10 Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini)

対象コンポーネントまたは機能

Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド)

設定内容

Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) の動作環境は、環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) で設定します。

Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイルを変更した場合は、次に Spool Service 制御コマンドを実行したときから有効になります。

なお、Spool Service 制御コマンドは UNIX/Linux 環境の場合だけサポートしています。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) のサンプルを次の場所に格納しています。

/opt/eur/sample/SpoolService 下

環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) のサンプルの内容を次に示します。

<環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) のサンプルの内容>

```
[PATH]

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (EURPMLSCTRL.ini) で次に格納します。

/var/opt/eur/spool 下

なお、格納場所には、EUR Server - Spool Service を利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PATH]
TEMP=/tmp

[ERROR]
LOGFILE=/var/opt/EUR/Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[TIMEOUT]
START=300
STOP=120
```

15.10.1 設定項目一覧

Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) の環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-53 Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) の環境設定ファイル (EURPMLSCTRL.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PATH	TEMP	Spool Service 制御コマンドの作業フォルダを指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (EURPMLSCTRL.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (EURPMLSCTRL.log) のファイルサイズの上限を指定します。
TIMEOUT	START	EUR Server - Spool Service を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。
	STOP	EUR Server - Spool Service を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

15.10.2 TEMP

セクション

[PATH]

設定内容

Spool Service 制御コマンド (eurpmlsctrl コマンド) の作業フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

TEMP キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

/var/opt/eur/spool/Temp

15.10.3 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMLCTRL.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

/var/opt/eur/log

15.10.4 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

注意事項

出力レベルに「16」を指定すると、トレース情報が大量に出力されるため、性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

15.10.5 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (EURPMLSCTRL.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.10.6 START

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0~600 (10分) です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0~600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

START キーを省略した場合は、「120」が仮定されます。

15.10.7 STOP

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

EUR Server - Spool Service を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。

指定値

指定できる値は、0～600（10分）です。単位は秒です。

0を指定した場合、または0～600以外の値を指定した場合は、タイムアウト監視はしません。

数値以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

STOP キーを省略した場合は、「120」が仮定されます。

15.11 BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル (eursmpr.ini)

対象コンポーネントまたは機能

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド)

設定内容

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の動作環境は、環境設定ファイル (eursmpr.ini) で設定します。

BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイルを変更した場合は、次に BSP-RM 連携コマンドを実行したときから有効になります。

なお、BSP-RM 連携コマンドは Windows 環境の場合だけサポートしています。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル (eursmpr.ini) のサンプルを次の場所に格納しています。

インストール先フォルダ¥Eursmpr¥下

環境設定ファイル (eursmpr.ini) のサンプルの内容を次に示します。

<環境設定ファイル (eursmpr.ini) のサンプルの内容>

```
[PATH]

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[OPTION]
```

環境設定ファイル (eursmpr.ini) の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル (eursmpr.ini) のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (eursmpr.ini) で次に格納します。

インストール先フォルダ¥Eursmpr¥下

なお、格納場所には、BSP-RM 連携コマンドを利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PATH]
TEMP=C:¥EUR¥Eursmpr¥temp
```

```

DIVDATA=C:¥EUR¥Eursmpr¥divdata
RUNPARAM=C:¥EUR¥Eursmpr¥runparam

```

```

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EUR¥Log
LOGLEVEL=8
LOGSIZE=750

```

```

[OPTION]
REMAINFLAG=1

```

15.11.1 設定項目一覧

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の環境設定ファイル (eursmpr.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-54 BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の環境設定ファイル (eursmpr.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PATH	TEMP	BSP-RM 連携コマンドの作業フォルダを指定します。
	DIVDATA	制御情報付データファイルがあるフォルダを指定します。
	RUNPARAM	起動パラメタファイルがあるフォルダを指定します。
OPTION	REMAINFLAG	BSP-RM 連携コマンドで生成した帳票セット指定ファイルおよびマッピングデータファイルを、BSP-RM コマンドの実行後に残す場合に指定します。
	ERRORREMAIN	BSP-RM 連携コマンドから呼び出す eurpmc コマンドでエラーが発生した場合に、BSP-RM 連携コマンドが生成する一時ファイルを削除するかどうかを指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (eursmpr.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (eursmpr.log) のファイルサイズの上限を指定します。

15.11.2 環境変数一覧

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の動作環境は、環境設定ファイル (eursmpr.ini) の代わりに環境変数でも設定できます。

次項以降で説明する環境設定ファイル (eursmpr.ini) のキーに対応する環境変数を次の表に示します。環境変数に指定できる値は、対応する環境設定ファイル (eursmpr.ini) のキーに指定できる値と同じです。

なお、環境設定ファイル (eursmpr.ini) のキーと環境変数が同時に指定された場合は、環境変数の指定が有効になります。

表 15-55 環境設定ファイル (eursmpr.ini) のキーと環境変数の対応

環境設定ファイルのキー	環境変数	説明
TEMP	EURSMPR_OUTPUTPATH	BSP-RM 連携コマンドの作業フォルダを指定します。
DIVDATA	EURSMPR_DATAPATH	制御情報付データファイルの格納先フォルダを指定します。
RUNPARAM	EURSMPR_PARAMPATH	起動パラメタファイルの格納先フォルダを指定します。
REMAINFLAG	EURSMPR_REMAINFLAG	BSP-RM 連携コマンドが生成する一時ファイルを保存する条件を指定します。

15.11.3 TEMP

セクション

[PATH]

設定内容

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の作業フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

TEMP キーを省略した場合、または TEMP キーに値を指定していない場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥Eursmpr¥temp

注意事項

指定したフォルダが存在しない場合、または指定したフォルダにアクセスできない場合は、エラー (KEEU3019-E) になります。

15.11.4 DIVDATA

セクション

[PATH]

設定内容

制御情報付データファイルの格納先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

DIVDATA キーを省略した場合、または DIVDATA キーに値を指定していない場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥Eursmpr¥divdata

15.11.5 RUNPARAM

セクション

[PATH]

設定内容

起動パラメタファイルの格納先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

RUNPARAM キーを省略した場合、または RUNPARAM キーに値を指定していない場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥Eursmpr¥runparam

15.11.6 REMAINFLAG

セクション

[OPTION]

設定内容

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) が生成する一時ファイルを保存する条件を指定します。BSP-RM 連携コマンドが一時ファイルとして生成する帳票セット指定ファイルおよびマッピングデータファイルを保守情報として採取する場合に指定します。

指定値

指定できる値と条件を次に示します。また、各条件の値を足し合わせることによって、条件を組み合わせて指定することもできます。

- 1：BSP-RM 連携コマンドから呼び出す eurpmc コマンドの実行中に警告が発生した場合（BSP-RM 連携コマンドの終了コードが 4 の場合）に一時ファイルを保存します。
- 2：BSP-RM 連携コマンドが異常終了した場合（BSP-RM 連携コマンドの終了コードが 3008 または 3032 の場合）に一時ファイルを保存します。
- 4：BSP-RM 連携コマンドが正常終了した場合（BSP-RM 連携コマンドの終了コードが 0 の場合）に一時ファイルを保存します。

なお、BSP-RM 連携コマンドから呼び出す eurpmc コマンドでエラーが発生した場合（BSP-RM 連携コマンドの終了コードが 8 の場合）はデフォルトで一時ファイルが保存されます。eurpmc コマンドでエラーが発生した場合に一時ファイルを削除する場合は、ERRORREMAIN キーの指定値に 0 を設定する必要があります。ERRORREMAIN キーの詳細については、「[15.11.7 ERRORREMAIN](#)」を参照してください。

REMAINFLAG キーの指定値の組み合わせと一時ファイルを保存するかどうかの動作を次の表に示します。

表 15-56 REMAINFLAG キーの指定値の組み合わせと一時ファイルを保存するかどうかの動作

指定値	BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の終了コード			
	0 (正常終了)	4 (eurpmc コマンドで警告が発生)	8 (eurpmc コマンドでエラーが発生)	3008 または 3032 (異常終了)
1	×	○	△	×
2	×	×	△	○
3	×	○	△	○
4	○	×	△	×
5	○	○	△	×
6	○	×	△	○
7	○	○	△	○

(凡例)

○：一時ファイルを保存します。

×：一時ファイルを削除します。

△：ERRORREMAIN キーを省略している場合、または ERRORREMAIN キーの指定値に 1 を設定している場合は一時ファイルを保存します。

指定値に数値以外の値を指定した場合は、REMAINFLAG キーの指定なしと仮定されます。

指定値に 1~7 以外の数値を指定した場合は、指定値を 2 進数のビットパターンで判定し、1 桁目が 1 のときは値 1 の条件、2 桁目が 1 のときは値 2 の条件、および 3 桁目が 1 のときは値 4 の条件が指定されているものとして動作します。

省略値

REMAINFLAG キーを省略した場合は、未指定となります。

注意事項

業務システムで eurpmc コマンドの警告を判別していない場合は、REMAINFLAG キーの指定値に 1 を含む条件を設定する運用を推奨します。eurpmc コマンドの警告発生時に警告要因を調査するときは、保存されている一時ファイルを保守情報として採取します。

15.11.7 ERRORREMAIN

セクション

[OPTION]

設定内容

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) から呼び出す eurpmc コマンドでエラーが発生した場合 (BSP-RM 連携コマンドの終了コードが 8 の場合) に BSP-RM 連携コマンドが生成する一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0 : eurpmc コマンドでエラーが発生した場合に一時ファイルを削除します。
- 1 : eurpmc コマンドでエラーが発生した場合に一時ファイルを削除しません。

0, 1 以外の値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

ERRORREMAIN キーを省略した場合は、「1」が仮定されます。

15.11.8 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (eursmpr.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。
インストールフォルダ¥Log

15.11.9 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は、「8」が仮定されます。

15.11.10 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (eursmpr.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は、「750」が仮定されます。

15.12 ファイル監視サービスの環境設定ファイル (eurfm.ini)

対象コンポーネントまたは機能

ファイル監視サービス

設定内容

ファイル監視サービスの動作環境は、環境設定ファイル (eurfm.ini) で設定します。環境設定ファイルを変更した場合は、ファイル監視サービスを再起動してください。なお、ファイル監視サービスは Windows 環境の場合だけサポートしています。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル (eurfm.ini) のサンプルを次の場所に格納しています。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥下

環境設定ファイル (eurfm.ini) のサンプルの内容を次に示します。

<環境設定ファイル (eurfm.ini) のサンプルの内容>

```
[PATH]
#FMC=
#CONF=
#RUNPARAM=

[ERROR]
LOGSIZE=10000

[OPTION]
#INTERVAL=10
STANDARDTIME=1

[TIMEOUT]
#DATALIMIT=30

[THREAD]
#GENERAL=10
```

環境設定ファイル (eurfm.ini) の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル (eurfm.ini) のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (eurfm.ini) で次に格納します。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥下

なお、格納場所には、ファイル監視サービスを利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PATH]
FMC=C:¥EUR¥FileMonitor¥fmc
CONF=C:¥EUR¥FileMonitor¥conf
RUNPARAM=C:¥EUR¥FileMonitor¥runparam

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EUR¥Log
LOGLEVEL=8
LOGSIZE=750

[OPTION]
INTERVAL=10
STANDARDTIME=0

[TIMEOUT]
DALIMIT=30

[THREAD]
GENERAL=10
```

15.12.1 設定項目一覧

ファイル監視サービスの環境設定ファイル (eurfm.ini) で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-57 ファイル監視サービスの環境設定ファイル (eurfm.ini) で指定できる内容

セクション	キー	説明
PATH	FMC	監視管理フォルダを指定します。
	CONF	構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。
	RUNPARAM	起動パラメタファイルがあるフォルダを指定します。
ERROR	LOGFILE	ログファイル (eurfm.log) の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル (eurfm.log) のファイルサイズの上限を指定します。
OPTION	INTERVAL	ファイル着信の監視間隔を指定します。
	STANDARDTIME	ファイル監視サービスが稼働するマシンの日付が変わったあと、ファイル監視サービスが最初

セクション	キー	説明
OPTION	STANDARDTIME	のジョブを実行するときに、完了フォルダに格納されているファイルを保持しておく期限が切れたファイルを自動的に削除する処理において、日付変更の契機にローカルタイムと協定世界時 (UTC) のどちらを使用するかを指定します。
TIMEOUT	DATALIMIT	完了フォルダに格納されているファイルを保持する期限を指定します。
THREAD	GENERAL	ファイル監視サービスによる印刷およびファイル出力の並列処理数を指定します。

15.12.2 FMC

セクション

[PATH]

設定内容

ファイル監視サービスの監視管理フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

FMC キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥fmc

注意事項

- 指定したフォルダが存在しない場合は、ファイル監視サービスの起動時に KEEU1027-E エラーになります。
- ネットワークドライブ上のフォルダは指定できません。

15.12.3 CONF

セクション

[PATH]

設定内容

構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

CONF キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥conf

注意事項

ネットワークドライブ上のフォルダは指定できません。

15.12.4 RUNPARAM

セクション

[PATH]

設定内容

起動パラメタファイルの格納先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

RUNPARAM キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥runparam

注意事項

ネットワークドライブ上のフォルダは指定できません。

15.12.5 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (eurfm.log) の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥Log

15.12.6 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

指定できない値を指定した場合は，省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は，「8」が仮定されます。

15.12.7 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (eurfm.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は，省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は，「750」が仮定されます。

15.12.8 INTERVAL

セクション

[OPTION]

設定内容

ファイル監視サービスがファイルの着信を監視する間隔を指定します。

指定値

指定できる値は 1～3,600 です。単位は秒です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

INTERVAL キーを省略した場合は、「10」が仮定されます。

15.12.9 STANDARDTIME

セクション

[OPTION]

設定内容

ファイル監視サービスが稼働するマシンの日付が変わったあと、ファイル監視サービスが最初のジョブを実行するときに、完了フォルダに格納されているファイルを保持しておく期限（環境設定ファイル (eurfm.ini) の TIMEOUT セクションの DATALIMIT キー）が切れたファイルを自動的に削除する処理において、日付変更の契機にローカルタイムと協定世界時 (UTC) のどちらを使用するかを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ローカルタイム
- 1：協定世界時 (UTC)

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

STANDARDTIME キーを省略した場合は、「0」が仮定されます。

15.12.10 DATALIMIT

セクション

[TIMEOUT]

設定内容

完了フォルダに格納されているファイルを保持しておく期限を日数で指定します。指定した期限を過ぎると、実行ジョブ ID フォルダとファイルを削除します。

日付処理には、協定世界時 (UTC) を使用します。

指定値

指定できる値は 0～999 です。単位は日です。

0 を指定した場合は、翌日に実行ジョブ ID とファイルが削除されます。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

DATALIMIT キーを省略した場合は、「30」が仮定されます。

15.12.11 GENERAL

セクション

[THREAD]

設定内容

ファイル監視サービスの並列処理数を指定します。

指定値

指定できる値は 1～50 です。

指定できない値を指定した場合は、省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

GENERAL キーを省略した場合は、「10」が仮定されます。

注意事項

GENERAL キーに正しい値を設定しても、マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって、設定したとおりの動作をしない場合があります。

15.13 ジョブ実行プログラムの環境設定ファイル (eurivk.ini)

対象コンポーネントまたは機能

ジョブ実行プログラム

設定内容

ジョブ実行プログラムの動作環境は、環境設定ファイル (eurivk.ini) で設定します。

ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルを変更した場合は、次にファイル監視サービスを起動したときから有効になります。

なお、ジョブ実行プログラムは Windows 環境の場合だけサポートしています。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル (eurivk.ini) のサンプルを次の場所に格納しています。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥下

環境設定ファイル (eurivk.ini) のサンプルの内容を次に示します。

<環境設定ファイル (eurivk.ini) のサンプルの内容>

```
[ERROR]
LOGSIZE=10000
```

環境設定ファイル (eurivk.ini) の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル (eurivk.ini) のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
環境設定ファイルは、マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを、サンプルと同じファイル名 (eurivk.ini) で次に格納します。

インストール先フォルダ¥FileMonitor¥下

なお、格納場所には、ファイル監視サービスを利用するユーザが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

```
変数名=値
```

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[ERROR]
LOGFILE=C:¥EUR¥Log
LOGLEVEL=8
LOGSIZE=750
```

15.13.1 設定項目一覧

ジョブ実行プログラムの環境設定ファイル（eurivk.ini）で指定できる内容を次の表に示します。

表 15-58 ジョブ実行プログラムの環境設定ファイル（eurivk.ini）で指定できる内容

セクション	キー	説明
ERROR	LOGFILE	ログファイル（eurivk.log）の出力先フォルダを指定します。
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。
	LOGSIZE	ログファイル（eurivk.log）のファイルサイズの上限を指定します。

15.13.2 LOGFILE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル（eurivk.log）の出力先フォルダを指定します。

指定値

フルパスで指定します。

省略値

LOGFILE キーを省略した場合は、次のフォルダが仮定されます。

インストール先フォルダ¥Log

15.13.3 LOGLEVEL

セクション

[ERROR]

設定内容

実行ログの出力レベルを指定します。

指定値

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。

- 16: 起動, 終了, 実行時パラメタ, エラー, 警告, 情報を出力します。

指定できない値を指定した場合は, 省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGLEVEL キーを省略した場合は, 「8」が仮定されます。

15.13.4 LOGSIZE

セクション

[ERROR]

設定内容

ログファイル (eurivk.log) のファイルサイズの上限を指定します。

指定値

指定できる値は 750~2,000,000 です。単位は KB です。

指定できない値を指定した場合は, 省略値と同じ値が仮定されます。

省略値

LOGSIZE キーを省略した場合は, 「750」が仮定されます。

付録

付録 A コマンドや API を使用するときの注意

コマンドや API を使用するときの注意事項を次に示します。

付録 A.1 ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意

ファイル名に指定できる文字数（フルパス）を、次に示します。

表 A-1 ファイル名に指定できる文字数

適用 OS	ファイル名に指定できる文字数
Windows	259 文字以内*
HP-UX	1,023 バイト以内
AIX	1,023 バイト以内
Linux	1,023 バイト以内

注※

Windows 環境で相対パス、またはファイル名だけを指定する場合は、255 文字以内です。

ファイル名は、EUR サーバ帳票出力機能が稼働する OS のファイルシステムのファイル名称規則に従って指定してください。なお、EUR サーバ帳票出力機能を実行する UNIX 環境の文字ロケールが Shift JIS の場合、NEC 選定 IBM 特殊文字（89 区～92 区）の文字を使用したファイル名のファイルは、使用できません。

ほかの OS から転送した帳票ファイルやデータファイルを使用する場合は、使用できる文字数やファイル名称規則が異なるので注意してください。

EUR Server Service で扱えるファイル名、およびファイルのパスを指定するときの注意を次に示します。

- ファイル名、およびファイルのパスは、EUR Server Service が稼働する OS のファイルシステムのファイル名称規則に従って、使用できる文字で指定してください。
なお、EUR Server Service では、構成定義ファイルで「"」と「,」を区切り文字に使用しているため、「"」と「,」は使用できません。
- COBOL 起動部品でファイル名、およびファイルのパスを指定する場合、256 バイトに満たないときは、半角空白で埋めてください。
- ファイル名、およびファイルのパスを指定するときの大文字・小文字の区別を次に示します。
 - Windows 環境の場合
大文字・小文字は区別されません。
 - UNIX/Linux 環境の場合
大文字・小文字は区別されます。

- 印刷定義ファイル、ユーザデータファイル、構成定義ファイル、EUR Web Plug-In 情報ファイル、および環境設定ファイルを指定するときは、次に示す規則に従ってください。
 - ファイル名を指定するときは、存在するファイルまたは読み込み権限のあるファイルを指定してください。
 - ファイルのパスを指定するときは、存在するフォルダまたは読み込み権限のあるフォルダを指定してください。

付録 A.2 環境設定ファイルとの関係

ActiveX 起動部品の場合は、ActiveX 起動部品で指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) に指定できます。

SS-ActiveX 起動部品の場合は、SS-ActiveX 起動部品で指定するサーバマシンの IP アドレスなどを、環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) に指定できます。

Java 起動部品の場合は、Java 起動部品で指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) に指定できます。

SS-Java 起動部品の場合は、SS-Java 起動部品で指定するポート番号、クライアントマシンの IP アドレスなどを、環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) に指定できます。

COBOL 起動部品で指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) に指定できます。

eurpmc コマンドの場合は、コマンドで指定するポート番号、サーバマシンの IP アドレスなどを、環境設定ファイル (EURPMADP.ini) に指定できます。

eurpmlsc コマンドの場合は、コマンドで指定するポート番号、サーバマシンの IP アドレスなどを、環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) に指定できます。

eurpmlsc コマンドの場合は、コマンドで指定するポート番号、サーバマシンの IP アドレスなどを、環境設定ファイル (EURPMLSADP.ini) に指定できます。

BSP-RM 連携コマンド (eursmpr コマンド) の場合は、制御情報付データファイルおよび起動パラメタファイルの格納先などを、環境設定ファイル (eursmpr.ini) に指定できます。

ファイル監視サービスの場合は、監視管理フォルダ、構成定義ファイルおよび起動パラメタファイルの格納先、ファイルの着信を監視する間隔などを、環境設定ファイル (eurfm.ini) に指定できます。

ジョブ実行プログラムの場合は、出力するログの情報などを、ファイル環境設定ファイル (eurivk.ini) に指定できます。

各環境設定ファイルについては、「15. 環境設定ファイル」を参照してください。

付録 B このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 B.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

(1) EUR のマニュアル

EUR の関連マニュアルを次に示します。

- はじめての帳票作成 (3020-7-532) ※
EUR 帳票作成機能をまだ使用したことのない人向けに、簡単な帳票を作成する方法について説明しています。
- EUR システム設計ガイド(UNIX(R)用) (3021-7-013)
EUR を使用した帳票システムの計画・設計時に検討が必要な内容について説明しています。
- EUR システム構築ガイド(UNIX(R)用) (3021-7-015)
EUR を使用した帳票システムを構築する手順について説明しています。
- EUR 帳票作成 操作ガイド (3021-7-016)
EUR 帳票作成機能を使用して帳票を作成する方法について説明しています。
- EUR 帳票作成 画面リファレンス (3021-7-017)
EUR 帳票作成機能で表示されるダイアログの内容について説明しています。
- uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票) (3020-7-534) ※
EUR Form 帳票作成機能を使用して EUR Form 帳票を作成する方法について説明しています。
- EUR 帳票出力 EUR Designer/EUR Viewer 編 (3021-7-018)
EUR Designer または EUR Viewer を使用して、クライアント環境で帳票を出力する方法について説明しています。
- uCosminexus EUR クライアント帳票出力 (3020-7-535) ※
EUR クライアント帳票出力機能の V8 互換機能を使用して、クライアント環境で帳票を出力する方法について説明しています。
- EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編(UNIX(R)用) (3021-7-020)
EUR サーバ帳票出力機能を使って帳票を出力する方法について説明しています。
- uCosminexus EUR サーバ帳票出力 (3020-7-536) ※
EUR Server の V8 互換機能を使用して、サーバ環境で帳票を出力する方法について説明しています。
- EUR データベース連携ガイド (3021-7-023)

データベースから抽出したデータを使って帳票を作成および出力する方法ならびに EUR 帳票作成機能のデータベースアクセス定義ウィンドウを使用する方法について説明しています。また、データベースの操作時に出力されるメッセージについても説明しています。

- EUR メッセージ (3021-7-024)
EUR を使用しているときに出力されるメッセージについて説明しています。
- EUR 用語集 (3021-7-025)
EUR シリーズマニュアル内で使用する用語について説明しています。なお、この用語集は日立ソフトウェアマニュアル公開サイトだけで参照できます。

注※

バージョン 8 のマニュアルを提供しています。バージョン 11 の製品に置き換えて参照してください。

(2) 関連ソフトウェアのマニュアル

関連ソフトウェアのマニュアルを次に示します。

- TPBroker ユーザーズガイド (3000-3-660)
- TPBroker Developer's Kit - Extension for C++ プログラマーズガイド (3000-3-680)
- TPBroker Object Transaction Monitor ユーザーズガイド (3000-3-689)
- COBOL2002 使用の手引 手引編 (3000-3-D42)
- COBOL2002 使用の手引 操作編 (3000-3-D43)
- COBOL2002 操作ガイド (3020-3-D47)
- COBOL2002 ユーザーズガイド (Web 公開限定) (3020-3-D48)
- SEWB+/REPOSITORY 辞書設計ガイド (3020-3-698)
- SEWB+/REPOSITORY 辞書設計ガイド (3020-3-N82)
- DBPARTNER2 Client 操作ガイド (3020-6-027)
- DABroker (3020-6-031)
- HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)
- HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)
- HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)
- HiRDB Version 9 メッセージ (3020-6-458)
- JP1 Version 10 JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド (3021-3-165)

(3) このマニュアルでのマニュアル名表記

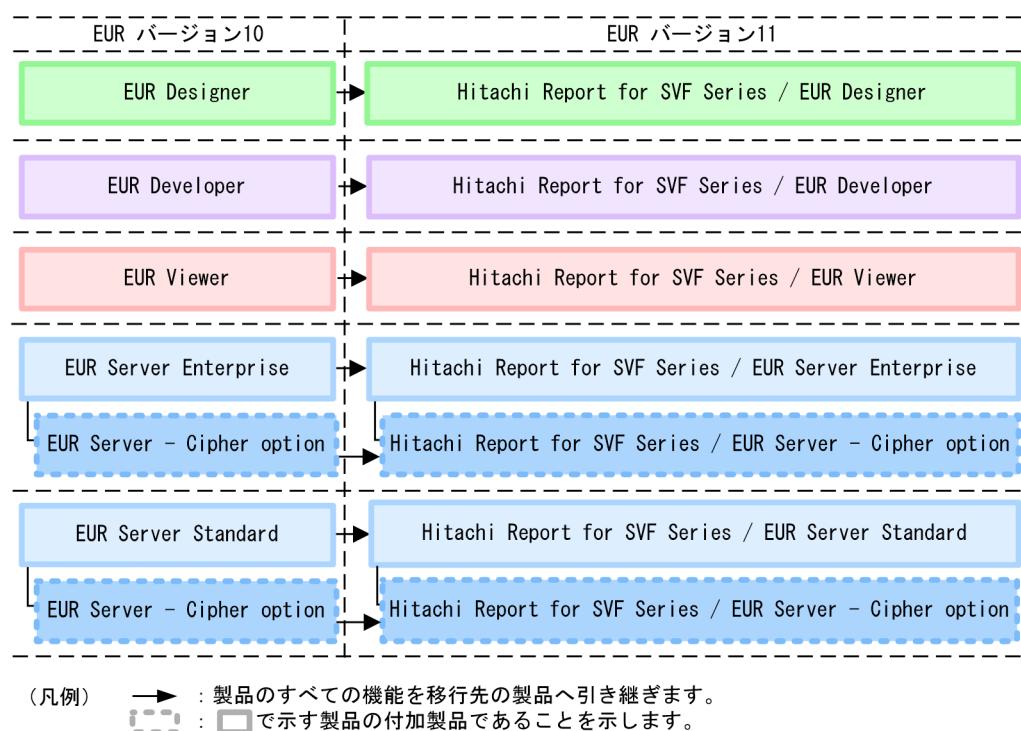
このマニュアルでは、マニュアル名について、次のように表記しています。

マニュアル名	表記
EUR システム設計ガイド(UNIX(R)用)	EUR システム設計ガイド
EUR システム構築ガイド(UNIX(R)用)	EUR システム構築ガイド
EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編(UNIX(R)用)	EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編
EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編(UNIX(R)用)	EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編
uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)	EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)
uCosminexus EUR クライアント帳票出力	EUR クライアント帳票出力
uCosminexus EUR サーバ帳票出力	EUR サーバ帳票出力
HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド	HiRDB UAP 開発ガイド
HiRDB Version 8 メッセージ HiRDB Version 9 メッセージ	HiRDB メッセージ
JP1 Version 10 JP1/Audit Management - Manager 構築・ 運用ガイド	JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド

付録 B.2 EUR バージョン 11 での製品体系の変更

- 製品名称を変更しました。

EUR バージョン 11 での製品体系の変更について、次の図に示します。



付録 B.3 EUR バージョン 11 でのマニュアル体系の変更

- マニュアル名を変更しました。

EUR バージョン 11 でのマニュアル体系の変更について、次の表に示します。

EUR バージョン 10	EUR バージョン 11
EUR システム設計ガイド	<ul style="list-style-type: none">• Windows 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR システム設計ガイド(Windows(R)用)• UNIX 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR システム設計ガイド(UNIX(R)用)
EUR システム構築ガイド	<ul style="list-style-type: none">• Windows 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR システム構築ガイド(Windows(R)用)• UNIX 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR システム構築ガイド(UNIX(R)用)
EUR 帳票作成 操作ガイド	EUR 帳票作成 操作ガイド
EUR 帳票作成 画面リファレンス	EUR 帳票作成 画面リファレンス
EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編	<ul style="list-style-type: none">• Windows 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編 (Windows(R)用)• UNIX 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編(UNIX(R)用)
EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編	<ul style="list-style-type: none">• Windows 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編 (Windows(R)用)• UNIX 版の EUR Server 製品を使用する場合 EUR 帳票出力 リファレンス EUR Server 編 (UNIX(R)用)
EUR 帳票出力 EUR Designer/EUR Viewer 編	EUR 帳票出力 EUR Designer/EUR Viewer 編
EUR データベース連携ガイド	EUR データベース連携ガイド
EUR メッセージ	EUR メッセージ
EUR 用語集	EUR 用語集

EUR Server の V8 互換機能を使用する場合は、バージョン 8 対応のマニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。Windows 環境では、インストール先フォルダ¥Print¥1041¥Help¥eurps.chm に統合ヘルプが格納されています。

クライアント帳票出力機能の V8 互換機能を使用する場合は、バージョン 8 対応のマニュアル「EUR クライアント帳票出力」を参照してください。Windows 環境では、次のフォルダにヘルプが格納されています。

- EUR Designer の場合

EUR Designer のインストール先フォルダ¥Designer¥1041¥Help¥euroutp.chm

- EUR Viewer の場合

EUR Viewer のインストール先フォルダ¥1041¥Help¥euroutp.chm

付録 B.4 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、EUR の各製品について、次のように表記しています。

表記		製品名称
EUR Designer		Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
EUR Developer		Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer
EUR Viewer		Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer
EUR Server	EUR Server Enterprise	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
	EUR Server Standard	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Server - Cipher option		Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option
EUR Server Print Edition		uCosminexus EUR Server Print Edition
EUR Print Manager - Client		uCosminexus EUR Print Manager - Client
EUR Print Manager - Report Server		uCosminexus EUR Print Manager - Report Server
EUR Print Service		uCosminexus EUR Print Service
EUR Print Service Enterprise		uCosminexus EUR Print Service Enterprise
EUR Form	EUR Form Service	uCosminexus EUR Form Service
EUR Form Service - Data Store option		uCosminexus EUR Form Service - Data Store option

EUR 以外の製品名称などについては、次のように表記しています。

表記	製品名称
BSP-RM	BSP-RM(R)
COBOL	COBOL2002
DABroker	DABroker 03-17 以降 DABroker 03-21 以降 DABroker(64) 03-20 以降 DABroker(64) 03-21 以降
HiRDB	HiRDB/Run Time Version 8 08-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 8 08-00 以降 HiRDB/Run Time Version 8(64) 08-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 8(64) 08-00 以降

表記		製品名称
HiRDB		HiRDB/Run Time Version 9 09-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 9 09-00 以降 HiRDB/Developer's Suite Version 9 09-00 以降 HiRDB/Run Time Version 9(64) 09-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 9(64) 09-00 以降 HiRDB Server Version 9 09-00 以降 HiRDB Server with Additional Function Version 9 09-00 以降
IPF		Itanium(R) Processor Family
Linux	Linux 6	Red Hat(R) Enterprise Linux(R) Server 6 (64-bit x86_64)
	Linux 7	Red Hat(R) Enterprise Linux(R) Server 7 (64-bit x86_64)
ODBC Driver		EURODBC Driver DBPARTNER ODBC Driver 01-11 以降
Oracle	Oracle 10g	Oracle 10g 10.1.0 Oracle 10g 10.2.0
	Oracle 11g	Oracle Database 11g 11.1.0 Oracle Database 11g R2 11.2.0
SEWB+		Software Engineering Workbench+
Hitachi Application Server		Hitachi Application Server uCosminexus Application Server uCosminexus Application Server Enterprise uCosminexus Application Server Standard
UNIX	AIX	AIX V6.1 AIX V7.1 AIX V7.2
	HP-UX	HP-UX 11i V3(IPF)

このほか、このマニュアルでは、次に示す表記を使用しています。

- EUR の各製品を区別する必要がない場合は、総称して EUR と表記します。
- EUR Designer, EUR Developer の帳票作成機能を「EUR 帳票作成機能」と表記します。
- EUR Developer の EUR Form 帳票作成機能を「EUR 帳票作成機能 (EUR Form 帳票)」と表記します。
- EUR Designer, EUR Developer, EUR Viewer のクライアント環境での帳票出力機能を「EUR クライアント帳票出力機能」と表記します。
- EUR Developer, EUR Server Enterprise, EUR Server Standard のサーバ環境での帳票出力機能を「EUR サーバ帳票出力機能」と表記します。

付録 B.5 このマニュアルで使用する略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Programming Interface
ASP	Active Server Pages
BOM	Byte Order Mark
COBOL	COmmon Business Oriented Language
CPI	Characters Per Inch
CSV	Comma Separated Value
DLL	Dynamic Linking Library
DPI	Dot Per Inch
EAN	European Article Number
EJB	Enterprise JavaBeans
EMF	Enhanced Metafile
EOF	End Of File
EUR	End-User Reporting
GIF	Graphics Interchange Format
GUI	Graphical User Interface
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
ID	IDentifier
ISO	International Organization for Standardization
JAN	Japanese Article Number
JDK	Java Development Kit
JIS	Japanese Industrial Standards
JPEG	Joint Photographic Experts Group
JSP	Java Server Pages
LAN	Local Area Network
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LIPS	LBP Image Processing System
LPI	Lines Per Inch
MFC	Microsoft Foundation Class

英略語	英字での表記
MIME	Multipurpose Internet Mail Extension
MSI	Microsoft Windows Installer
MUI	Multi User Interface
OCR	Optical Character Reader
OCX	OLE Custom Control (OLE Control eXtension)
ODBC	Open Database Connectivity
OLE	Object Linking and Embedding
PCF	Portable Compiled Format
PDF	Portable Document Format
PDL	Page Description Language
PNG	Portable Network Graphics
RPM	RPM Package Manager
SSL	Secure Sockets Layer
TIFF	Tagged Image File Format
TLS	Transport Layer Security
UAP	User Application Program
UPC	Universal Product Code
UTC	Coordinated Universal Time
WAN	Wide Area Network
XML	eXtensible Mark-up Language

付録 B.6 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

索引

A

- Acrobat JavaScript 定義ファイル 742
- Acrobat JavaScript ファイル 744
- ActiveX 起動部品 150
 - Err.Description プロパティ 244
 - Err.Number プロパティ 243
 - 実行時のエラー情報一覧 241
 - 提供するクラス 150
 - ファイル名 150
 - プログラム ID とコントロール名 150
- ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧〔出力メソッド〕 155
- ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧〔情報取得メソッド〕 162
- ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧 153
- ActiveX 起動部品の構文 151
 - ActiveX 起動部品を構築する場合 151
 - EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合 152
- ActiveX 部品 116
- ADDRDEFFILENAME〔EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル〕 985
- AdpEnvFile プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 185
- AdpEnvFile プロパティ〔SS-ActiveX 起動部品〕 272
- APSAUTO〔EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル〕 978
- AUTHENTICATION〔EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル〕 1004
- AUTHENTICATION〔EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル〕 977
- AUTHOR〔文書情報設定ファイルのキーワード〕 698

B

- BindingAdjust〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 707
- BOOKMARK〔文書しおり定義ファイルのキーワード〕 779

- BookmarkFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 187
- BookmarkFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 188
- BOOKMARKFILEPATH〔OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)〕 595
- BOOKMARKFILE〔OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)〕 594
- BREAKFLD〔しおり定義ファイルのキーワード〕 782
- BSP-RM 連携コマンド 111
 - エラー情報 113
 - ファイル名 111
- BSP-RM 連携コマンドの構文 112
- BSP-RM 連携コマンドの終了コード 113

C

- Cassettes〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 709
- ChangeAuditLog メソッド〔SS-ActiveX 起動部品〕 257
- changeAuditLog メソッド〔SS-Java 起動部品〕 460
- CHANGEAUDITLOG〔EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル〕 1005
- CHECKSTRING〔EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル〕 1008
- CLASSES〔GetPrinterClassList2 関数 (COBOL 起動部品)〕 548
- CLASSES〔GetPrinterClassList 関数 (COBOL 起動部品)〕 546
- CLASSNUM〔GetPMPrinterClassList 関数 (COBOL 起動部品)〕 538
- CLASSNUM〔GetPrinterClassList2 関数 (COBOL 起動部品)〕 548
- CLASSNUM〔GetPrinterClassList 関数 (COBOL 起動部品)〕 545
- ClientAddress プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 188
- ClientAddress プロパティ〔SS-ActiveX 起動部品〕 274

CLIENTADDR [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 652

CLIENTADDR [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 619

ClientPrinterName プロパティ [ActiveX 起動部品] 189

ClientPrinterName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 275

CLIENTPRINTERNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 657

CLIENTPRINTERNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 623

ClientTrayName プロパティ [ActiveX 起動部品] 189

ClientTrayName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 275

CLIENTTRAYNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 657

CLIENTTRAYNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 624

COBOL 起動部品 530

- エラー情報一覧 684
- 実行時のエラー情報の一覧 684
- 提供する関数 532
- ファイル構成 530
- 呼び出し規約 531

CODE128PARAM [プリンタ定義ファイルのキーワード] 715

CODE128PATTERN [プリンタ定義ファイルのキーワード] 717

CODE39PARAM [プリンタ定義ファイルのキーワード] 713

Color [プリンタ定義ファイルのキーワード] 710

Command [プリンタ定義ファイルのキーワード] 711

CONF [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1017

CONF [EUR Server Service の環境設定ファイル] 877

CONF [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 971

CONF [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1045

CONNECT [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1023

CONNECT [EUR Server Service の環境設定ファイル] 890

CONNECT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 987

CONVERTPAGELIMIT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 985

CONVERT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 987

CreateIPAddress プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 276

CreateLSVersion プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 277

CreateTime プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 277

CryptoFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 190

CRYPTOFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 595

CryptoFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 191

CRYPTOFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 595

Crypto プロパティ [ActiveX 起動部品] 190

CRYPTO [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 599

CurrentPage プロパティ [EUR Web Plug-In] 136

D

DATABUFFSIZE [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 956

DATABUFFSIZE [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1008

DataFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 191

DataFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 192

DATALIMIT [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1048

DATA 行 [PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル] 794

DATA 行 [PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル] 791

DBInfoFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 192

DBINFOFILENAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 566

DBINFOFILENAME [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 579

DBINFOFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 599

DBINFOFILENAME [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 611

DBINFOFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 662

DBINFOFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 628

DBInfoFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 193

DBINFOFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 566

DBINFOFILEPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 579

DBINFOFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 600

DBINFOFILEPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 612

DBINFOFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 662

DBINFOFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 629

DBINFO [EUR Server Service の環境設定ファイル] 878

DBZEROEXITCODE [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 954

DefaultCassette [プリンタ定義ファイルのキーワード] 710

DefaultPrintDlg パラメタ [EUR Web Plug-In] 122

DEFAULTPRINTDLG [帳票管理 GUI の環境設定ファイル] 1013

DEFAULTPRINTMODE [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 955

DeleteKind プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 278

DeleteSpoolFile メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 258

deleteSpoolFile メソッド [SS-Java 起動部品] 460

DELETE [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1003

DELISERVICE [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1018

DestinationName プロパティ [ActiveX 起動部品] 193

DESTLIST [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 962

DESTNAME [GetPrinterClassList2 関数 (COBOL 起動部品)] 548

DESTNAME [GetPrinterClassList 関数 (COBOL 起動部品)] 545

DESTNAME [GetPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 551

DESTNAME [GetTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 554

DESTNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 665

DESTNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 631

DESTNUM [GetDestinationList2 関数 (COBOL 起動部品)] 535

DESTNUM [GetDestinationList 関数 (COBOL 起動部品)] 533

DESTS [GetDestinationList2 関数 (COBOL 起動部品)] 535

DESTS [GetDestinationList 関数 (COBOL 起動部品)] 533

DisableAdd [暗号化設定ファイルのキーワード] 787

DisableChange [暗号化設定ファイルのキーワード] 787

DisableCopy [暗号化設定ファイルのキーワード] 787

DisablePrint [暗号化設定ファイルのキーワード] 786

DispPrintDlg プロパティ [ActiveX 起動部品] 194
DispPrintDlg プロパティ [SS-ActiveX 起動部品]
279
DISPPRINTDLG [EUR Server - Adapter の環境設定
ファイル] 957
DISPPRINTDLG [PrintReport2 関数 (COBOL 起動
部品)] 664
DISPPRINTDLG [PrintReport 関数 (COBOL 起動
部品)] 631
DistributeFileName プロパティ [ActiveX 起動部
品] 195
DISTRIBUTEFILENAME [OutputPDFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 601
DistributeFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品]
195
DISTRIBUTEFILEPATH [OutputPDFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 602
DIVDATA [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイ
ル] 1039
DlgStyleOpt パラメタ [EUR Web Plug-In] 122
DlgStyleOpt プロパティ [EUR Web Plug-In] 136
DocBookmarkFileName プロパティ [ActiveX 起
動部品] 196
DOCBOOKMARKFILE [OutputPDFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 591
DocInfoFileName プロパティ [ActiveX 起動部品]
196
DocInfoFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品]
197
DOCINFOFILEPATH [OutputEPFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 563
DOCINFOFILEPATH [OutputEURReport 関数
(COBOL 起動部品)] 578
DOCINFOFILEPATH [OutputPDFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 596
DOCINFOFILEPATH [PrintReport2 関数
(COBOL 起動部品)] 659
DOCINFOFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL
起動部品)] 626
DOCINFOFILE [OutputEPFReport 関数 (COBOL
起動部品)] 562

DOCINFOFILE [OutputEURReport 関数 (COBOL
起動部品)] 577
DOCINFOFILE [OutputPDFReport 関数 (COBOL
起動部品)] 595
DOCINFOFILE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動
部品)] 658
DOCINFOFILE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部
品)] 625
DOCINFO [EUR Server Service の環境設定ファイ
ル] 878
DuplexBinding [プリンタ定義ファイルのキーワ
ード] 706
Duplex [プリンタ定義ファイルのキーワード] 705

E

EmbedCount [プリンタ定義ファイルのキーワード]
717
EmbedN [プリンタ定義ファイルのキーワード] 718
EPFDATAMAXSIZE [帳票管理 GUI の環境設定ファ
イル] 1014
EnableGet プロパティ [ActiveX 起動部品] 197
EnableGet プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 280
ENABLEGET [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部
品)] 673
ENABLEGET [PrintReport 関数 (COBOL 起動部
品)] 639
EncryptionMode [暗号化設定ファイルのキーワ
ード] 789
EncryptionPasswordKey プロパティ [ActiveX 起
動部品] 198
ENCRYPTIONPASSWORDKEY
[OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 600
ENCRYPTPASSWORD [EUR Server - Spool
Service の環境設定ファイル] 982
EPFDataMaxSize パラメタ [EUR Web Plug-In]
123
EPFDATAMAXSIZE [帳票管理 GUI の環境設定ファ
イル] 1013
EPFFilename プロパティ [ActiveX 起動部品] 198
EPFFILENAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL
起動部品)] 559

EPFFILENAME [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 585

EPFFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 675

EPFFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 641

EPFFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 199

EPFFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 563

EPFFILEPATH [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 585

EPFFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 675

EPFFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 641

EPFFILESSIZE [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 587

EPFFILES [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 587

EPFFileURL パラメタ [EUR Web Plug-In] 123

EPFOUTPUT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 961

EPFTempDataMode パラメタ [EUR Web Plug-In] 124

EPF 形式ファイルに出力する場合の環境変数 902

ERRIGNORE [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1024

ERRIGNORE [EUR Server Service の環境設定ファイル] 890

ERRIGNORE [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 988

ERRORLIMIT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 990

ERRORREMAIN [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル] 1041

ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数 940

ESFAUTODEL [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 975

ESFID [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 977

ESF [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 972

EURFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 199

EURFILENAME [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 574

EURFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 200

EURFILEPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 578

eurfm.ini [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1043

eurivk.ini [ジョブ実行プログラムの環境設定ファイル] 1050

EUROUTPUT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 961

EURPM.Exec 150

EURPM.ini [EUR Server Service の環境設定ファイル] 871

EURPM (IPADDRESS セクション) [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 952

EURPM (PORT セクション) [EUR Server Service の環境設定ファイル] 875

EURPM (PORT セクション) [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 951

EURPMAdapterForJava クラス 314

 コンストラクタ 314

 メソッド一覧 315

EURPMADP.ini [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 948

EURPMADP.ocx 150

eurpmc 36

EURPMC.exe 36

EURPMCEPFViewer.exe 103

eurpmcepfviewer コマンド 103

 エラー情報 109

 オプションを指定するときの注意 104

 ファイル名 103

eurpmcepfviewer コマンドのオプション一覧 103

eurpmcepfviewer コマンドの構文 106

 帳票を自動印刷する場合 107

 帳票をプレビュー表示する場合 108

EURPMCL.ini [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1015

EURPMCL [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1017
 EURPMCL [EUR Server Service の環境設定ファイル] 876
 EURPMCL [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 971
 EURPMCTRL.ini [Server Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1026
 eurpmc コマンド 36
 エラー情報 77
 オプションを指定するときの注意 46
 ファイル名 36
 eurpmc コマンドが提供するオプション 37
 eurpmc コマンドの構文 48
 EPF 形式ファイルを出力する場合 57
 EUR 形式ファイルを出力する場合 61
 Excel 形式ファイルを出力する場合 68
 PDF 形式ファイルを出力する場合 64
 出力先一覧を取得する場合 70
 スプールデータを出力する場合 52
 帳票サーバプリンター一覧を取得する場合 74
 帳票サーバプリンタクラス一覧を取得する場合 73
 帳票サーバプリンタのトレイ一覧を取得する場合 75
 トレイ一覧を取得する場合 73
 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合 61
 プリンター一覧を取得する場合 72
 プリンタクラス一覧を取得する場合 71
 プリンタに出力する場合 48
 eurpmc コマンドの終了コード 77
 EURPMLException クラス 326
 メソッド一覧 326
 EURPMLS.Exec 246
 EURPMLS.ini [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 965
 EURPMLS (IPADDRESS セクション) [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1000
 EURPMLS (PORT セクション) [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 999
 EURPMLSAdapterForJava クラス 449
 コンストラクタ 449
 メソッド一覧 450
 EURPMLSADP.ini [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 996
 EURPMLSADP.ocx 246
 eurpmlsc 80
 EURPMLSC.exe 80
 EURPMLSCTRL.ini [Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1031
 eurpmlsc コマンド 80
 エラー情報 101
 オプションを指定するときの注意 85
 ファイル名 80
 eurpmlsc コマンドが提供するオプション 81
 eurpmlsc コマンドの構文 89
 監査ログを切り替える場合 99
 スプールデータの一覧を取得する場合 89
 スプールデータの属性値を取得する場合 90
 スプールデータの属性値を変更する場合 91
 スプールデータを削除する場合 96
 スプールデータを取得する場合 95
 スプールデータを蓄積データ印刷する場合 93
 トレイ一覧を取得する場合 99
 プリンター一覧を取得する場合 98
 プリンタクラス一覧を取得する場合 97
 eurpmlsc コマンドの終了コード 101
 EURPMLSEException クラス 459
 メソッド一覧 459
 EURPMLS [EUR Server Service の環境設定ファイル] 876
 EURPMLS [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 971
 EURPMPreViewAX9.ocx 116
 EURPMPrintAX9.ocx 116
 EURPMRSGUI.ini [帳票管理 GUI の環境設定ファイル] 1010
 EURPS_CODE128_PARAM [環境設定ファイルの環境変数] 917
 EURPS_CODE39_PARAM [環境設定ファイルの環境変数] 915

EURPS_CSV_PRINT_PERIOD [環境設定ファイルの環境変数] 909

EURPS_DONT_PRINT_IF_DB_RESULT_EMPTY [環境設定ファイルの環境変数] 931

EURPS_ENABLE_OUTPUTSPACE [環境設定ファイルの環境変数] 939

EURPS_ENV [EUR Print Service の環境設定ファイル] 896

EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS [環境設定ファイルの環境変数] 934

EURPS_EPFDPPI [環境設定ファイルの環境変数] 933

EURPS_EXCEL_REPEAT_MODE [環境設定ファイルの環境変数] 936

EURPS_EXCELLOGFILELEVEL [環境設定ファイルの環境変数] 927

EURPS_EXCELTMPMPATH [環境設定ファイルの環境変数] 928

EURPS_FIXOPT [環境設定ファイルの環境変数] 923

EURPS_FONT_ROUNDSDOWN [環境設定ファイルの環境変数] 929

EURPS_FONT_WIDTH_MODE [環境設定ファイルの環境変数] 927

EURPS_GAIJIFONT [AIX 環境の場合] 906

EURPS_GAIJIFONT [HP-UX 環境の場合] 906

EURPS_GAIJIFONT [Windows 環境の場合] 906

EURPS_GAIJIFONT [環境設定ファイルの環境変数] 906

EURPS_IMAGEPATH [環境設定ファイルの環境変数] 905

EURPS_J84GA16 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84GA24 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84GA48 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84GA72 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84GA96 [環境設定ファイルの環境変数] 941

EURPS_J84GK16 [環境設定ファイルの環境変数] 941

EURPS_J84GK24 [環境設定ファイルの環境変数] 941

EURPS_J84GK48 [環境設定ファイルの環境変数] 941

EURPS_J84GK72 [環境設定ファイルの環境変数] 941

EURPS_J84GK96 [環境設定ファイルの環境変数] 941

EURPS_J84MA16 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MA24 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MA48 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MA72 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MA96 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MK16 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MK24 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MK48 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MK72 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_J84MK96 [環境設定ファイルの環境変数] 940

EURPS_LOCATION_FIXIMAGE [環境設定ファイルの環境変数] 938

EURPS_LOGFILELEVEL [環境設定ファイルの環境変数] 904

EURPS_LOGFILEPATH [環境設定ファイルの環境変数] 903

EURPS_LOGSIZE [環境設定ファイルの環境変数] 904

EURPS_MAX_SPOOL_PAGES [環境設定ファイルの環境変数] 929

EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE [環境設定ファイルの環境変数] 920

EURPS_OUTPUTPATH [環境設定ファイルの環境変数] 935

EURPS_OUTPUTPDF_VER [環境設定ファイルの環境変数] 925

EURPS_PDF_BUFSIZE [環境設定ファイルの環境変数] 932

EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM [環境設定ファイルの環境変数] 908

EURPS_PDF_IMAGEDRAWUNIT [環境設定ファイルの環境変数] 933

EURPS_PDF_OUTPUT [環境設定ファイルの環境変数] 907

EURPS_PDF_SAMEIMAGE [環境設定ファイルの環境変数] 907

EURPS_PDL_EXGOTFONT PATH [環境設定ファイルの環境変数] 911

EURPS_PDL_EXMINFONT PATH [環境設定ファイルの環境変数] 911

EURPS_PRINTERINFPATH [環境設定ファイルの環境変数] 923

EURPS_PRINT [環境設定ファイルの環境変数] 915

EURPS_PS2_PR1 [環境設定ファイルの環境変数] 936

EURPS_QR_CELL_SIZE_D [環境設定ファイルの環境変数] 921

EURPS_QR_CELL_SIZE_M [環境設定ファイルの環境変数] 921

EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL [環境設定ファイルの環境変数] 919

EURPS_QR_VERSION [環境設定ファイルの環境変数] 920

EURPS_PS2_PR1 [環境設定ファイルの環境変数] 937

EURPS_REPLACEITEMPATH [環境設定ファイルの環境変数] 913

EURPS_REPORT_LOGERROR [環境設定ファイルの環境変数] 913

EURPS_REPORT_WARNING [環境設定ファイルの環境変数] 905

EURPS_SCRIPTFILEPATH [環境設定ファイルの環境変数] 922

EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE [環境設定ファイルの環境変数] 914

EURPS_TESTPRINTFILE [環境設定ファイルの環境変数] 928

EURPS_TMPPATH [環境設定ファイルの環境変数] 910

EURPS_TRACE [環境設定ファイルの環境変数] 912

EURPS_TRACE_DRAWAPI [環境設定ファイルの環境変数] 912

EURPS_UPC_BARCODE [環境設定ファイルの環境変数] 935

EURPS_USE_05_06_FONT_LANG [環境設定ファイルの環境変数] 924

EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE [環境設定ファイルの環境変数] 926

EURPS [EUR Server Service の環境設定ファイル] 889

EURPS [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 986

EURSMPR_DATAPATH [BSP-RM 連携コマンドの環境変数] 1038

EURSMPR_OUTPUTPATH [BSP-RM 連携コマンドの環境変数] 1038

EURSMPR_PARAMPATH [BSP-RM 連携コマンドの環境変数] 1038

EURSMPR_REMAINFLAG [BSP-RM 連携コマンドの環境変数] 1038

eursmpr.exe 111

eursmpr.ini [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル] 1036

EUR Web Plug-In 116

使用方法 116

タグの記述例 145

ファイル名 116

EUR Web Plug-In (印刷用) 116

クラス ID [EUR Client 再配布用パッケージによるインストールの場合] 145

クラス ID [EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージによるインストールの場合] 146

クラス ID [MSI インストーラによるインストールの場合] 145

EUR Web Plug-In (プレビュー用) 116

クラス ID [EUR Client 再配布用パッケージによるインストールの場合] 147

クラス ID [EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージによるインストールの場合] 148
 クラス ID [MSI インストーラによるインストールの場合] 147
 EUR Web Plug-In 情報ファイル 831
 EUR Web Plug-In 情報ファイルの形式 831
 EUR Web Plug-In のイベント一覧 120
 EUR Web Plug-In の使用方法 116
 EUR Client 再配布用パッケージから EUR Web Plug-In をインストールして使用する方法 116
 EUR Web Plug-In ダウンロードパッケージから EUR Web Plug-In をインストールして使用する方法 117
 EUR Web Plug-In のパラメーター一覧 118
 EUR Web Plug-In のプロパティ一覧 120
 EUR Web Plug-In のメソッド一覧 119
 EUR サーバ帳票出力機能で扱えるデータファイル 770
 EUR フォントファイル 764
 EVENTLOGLEVEL [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1020
 Excel 形式ファイルに出力する場合の環境変数 903
 ExclusionPrinterDriver プロパティ [EUR Web Plug-In] 136
 ExclusionPrinterName プロパティ [EUR Web Plug-In] 137
 ExecPrintCount プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 280
 ExecutablePrintMode プロパティ [ActiveX 起動部品] 200
 ExecutablePrintMode プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 281
 EXECUTABLEPRINTMODE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 672
 EXECUTABLEPRINTMODE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 639
 FILELIST [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1003
 FILEOPERATE [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1003
 FileOutputDestination プロパティ [ActiveX 起動部品] 201
 FILEOUTPUTDESTINATION [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 958
 FILEOUTPUTDESTINATION [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 605
 FindNext メソッド [EUR Web Plug-In] 132
 Find メソッド [EUR Web Plug-In] 132
 FIRSTDELIVERY [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1021
 FirstPageNumber プロパティ [ActiveX 起動部品] 201
 FIRSTPAGENUMBER [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 565
 FIRSTPAGENUMBER [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 598
 FIRSTPAGENUMBER [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 661
 FIRSTPAGENUMBER [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 628
 FMC [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1045
 Font [プリンタ定義ファイルのキーワード] 712
 formfilename の形式 [複数様式情報定義ファイル] 731
 formfilename [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 730
 formtransfercondition の形式 [複数様式情報定義ファイル] 729
 formtransfercondition [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 729
 FORM [EUR Server Service の環境設定ファイル] 876

F

fieldname [複数様式情報定義ファイルのキーワード (formtransfercondition)] 730
 fieldname [複数様式情報定義ファイルのキーワード (grouptransfercondition)] 728

G

GENERAL [EUR Server Service の環境設定ファイル] 888

GENERAL [EUR Server - Spool Service の環境設定
ファイル] 985

GENERAL [ファイル監視サービスの環境設定ファイル]
1049

GenTextMode [プリンタ定義ファイルのキーワード]
719

getClientAddress メソッド [SS-Java 起動部品]
461

getClientPrinterName メソッド [SS-Java 起動部品]
462

getClientTrayName メソッド [SS-Java 起動部品]
462

getCreateIPAddress メソッド [SS-Java 起動部品]
463

getCreateLSVersion メソッド [SS-Java 起動部品]
463

getCreateTimeMulti メソッド [SS-Java 起動部品]
465

getCreateTime メソッド [SS-Java 起動部品] 464

GetDestinationList2 関数 [COBOL 起動部品] 535

GetDestinationList 関数 [COBOL 起動部品] 533

GetDestinationList メソッド [ActiveX 起動部品]
163

getDestinationList メソッド [Java 起動部品] 327

getDispPrintDlg メソッド [SS-Java 起動部品] 465

getEnableGet メソッド [SS-Java 起動部品] 466

getEPFReport メソッド [Java 起動部品] 328

getErrorCode メソッド [Java 起動部品] 438

getErrorCode メソッド [SS-Java 起動部品] 524

getErrorLevel メソッド [Java 起動部品] 438

getErrorLevel メソッド [SS-Java 起動部品] 524

getEURReport メソッド [Java 起動部品] 328

getExecPrintCount メソッド [SS-Java 起動部品]
467

getExecutablePrintMode メソッド [SS-Java 起動
部品] 467

GETFILE [EUR Server - Spool Service Adapter の
環境設定ファイル] 1002

getGroupName メソッド [SS-Java 起動部品] 468

GetJobIDList メソッド [ActiveX 起動部品] 165

getJobIDList メソッド [Java 起動部品] 329

GetJobID メソッド [ActiveX 起動部品] 164

getJobID メソッド [Java 起動部品] 329

getJobID メソッド [SS-Java 起動部品] 469

getJobKeyCategory メソッド [SS-Java 起動部品]
469

getJobKeyData メソッド [SS-Java 起動部品] 470

getKey メソッド [Java 起動部品] 438

getKey メソッド [SS-Java 起動部品] 524

getMaxPrintCount メソッド [SS-Java 起動部品]
470

getMergeEPFReport メソッド [Java 起動部品]
330

getMessage メソッド [Java 起動部品] 439

getMessage メソッド [SS-Java 起動部品] 525

getOutputData メソッド [Java 起動部品] 439

getOutputData メソッド [SS-Java 起動部品] 525

GetOutputPageCount メソッド [ActiveX 起動部
品] 166

getOutputPageCount メソッド [Java 起動部品]
331

getPageNumMulti メソッド [SS-Java 起動部品]
471

getPageNum メソッド [SS-Java 起動部品] 471

getPDFReport メソッド [Java 起動部品] 331

GetPMPrinterClassList 関数 [COBOL 起動部品]
537

GetPMPrinterClassList メソッド [ActiveX 起動部
品] 167

getPMPrinterClassList メソッド [Java 起動部品]
332

GetPMPrinterList 関数 [COBOL 起動部品] 540

GetPMPrinterList メソッド [ActiveX 起動部品]
168

getPMPrinterList メソッド [Java 起動部品] 333

GetPMTrayList 関数 [COBOL 起動部品] 542

GetPMTrayList メソッド [ActiveX 起動部品] 170

getPMTrayList メソッド [Java 起動部品] 334

GetPreviewAXClassID メソッド [ActiveX 起動部
品] 171

getPreviewAXClassID メソッド [Java 起動部品]
335

GetPreviewAXVersion メソッド [ActiveX 起動部品] 172
 getPreviewAXVersion メソッド [Java 起動部品] 336
 GetPrintAXClassID メソッド [ActiveX 起動部品] 173
 getPrintAXClassID メソッド [Java 起動部品] 337
 GetPrintAXVersion メソッド [ActiveX 起動部品] 174
 getPrintAXVersion メソッド [Java 起動部品] 338
 GetPrinterClassList2 関数 [COBOL 起動部品] 547
 GetPrinterClassList 関数 [COBOL 起動部品] 545
 GetPrinterClassList メソッド [ActiveX 起動部品] 175
 getPrinterClassList メソッド [Java 起動部品] 338
 GetPrinterClassList メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 259
 getPrinterClassList メソッド [SS-Java 起動部品] 472
 getPrinterClassNameMulti メソッド [SS-Java 起動部品] 473
 getPrinterClassName メソッド [SS-Java 起動部品] 473
 GetPrinterList 関数 [COBOL 起動部品] 550
 GetPrinterList メソッド [ActiveX 起動部品] 176
 getPrinterList メソッド [Java 起動部品] 340
 GetPrinterList メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 261
 getPrinterList メソッド [SS-Java 起動部品] 474
 getPrinterSelectMode メソッド [SS-Java 起動部品] 475
 getPrintResultMulti メソッド [SS-Java 起動部品] 476
 getPrintResult メソッド [SS-Java 起動部品] 475
 getPrintTime メソッド [SS-Java 起動部品] 477
 getReportAddressKeyCategory メソッド [SS-Java 起動部品] 478
 getReportAddressKeyData メソッド [SS-Java 起動部品] 478
 getServerPrinterName メソッド [SS-Java 起動部品] 478
 getServerTrayName メソッド [SS-Java 起動部品] 479
 GetSpoolFileAttribute メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 263
 getSpoolFileAttribute メソッド [SS-Java 起動部品] 480
 getSpoolFileNameMulti メソッド [SS-Java 起動部品] 482
 getSpoolFileName メソッド [SS-Java 起動部品] 481
 GetSpoolFileOutline メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 265
 getSpoolFileOutline メソッド [SS-Java 起動部品] 482
 getSpoolFileSize メソッド [SS-Java 起動部品] 483
 GetSpoolFile メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 262
 getSpoolFile メソッド [SS-Java 起動部品] 480
 getSpoolHistory メソッド [SS-Java 起動部品] 483
 getSpoolLimit メソッド [SS-Java 起動部品] 484
 getSpoolPathMulti メソッド [SS-Java 起動部品] 486
 getSpoolPath メソッド [SS-Java 起動部品] 485
 GetTrayList 関数 [COBOL 起動部品] 553
 GetTrayList メソッド [ActiveX 起動部品] 178
 getTrayList メソッド [Java 起動部品] 341
 GetTrayList メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 266
 getTrayList メソッド [SS-Java 起動部品] 486
 getXLSXReport メソッド [Java 起動部品] 343
 GroupName プロパティ [ActiveX 起動部品] 202
 GroupName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 281
 GROUPNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 669
 GROUPNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 636
 grouptransfercondition の形式 [複数様式情報定義ファイル] 727
 grouptransfercondition [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 727
 group の形式 [複数様式情報定義ファイル] 725

group [複数様式情報定義ファイルのキーワード]
725

H

HScroll メソッド [EUR Web Plug-In] 133
HTTPDATARECEIVE [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1025

I

Initialize メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 268
initialize メソッド [SS-Java 起動部品] 487
InitPageNumber プロパティ [ActiveX 起動部品] 203
INITPAGENUMBER [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 565
INITPAGENUMBER [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 599
INITPAGENUMBER [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 661
INITPAGENUMBER [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 628
INTERVAL [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 978
INTERVAL [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1047

J

Java 起動部品 311
 EURPMAAdapterForJava クラス 314
 EURPMEException クラス 326
 JDK バージョン 311
 実行時の例外情報一覧 441
 パッケージ 312
 ファイル名 311
JOBIDNUM [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 679
JOBIDS [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 679
JobID プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 282
JOBKEYCATEGORY2 [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 675

JOBKEYCATEGORY2 [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 642

JobKeyCategory プロパティ [ActiveX 起動部品] 203

JobKeyCategory プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 283

JOBKEYCATEGORY [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 674

JOBKEYCATEGORY [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 640

JOBKEYDATA2 [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 675

JOBKEYDATA2 [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 642

JobKeyData プロパティ [ActiveX 起動部品] 204

JobKeyData プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 283

JOBKEYDATA [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 674

JOBKEYDATA [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 641

K

keybreaktopform [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 730

KEYFIELD 行 [PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル] 793

KEYFIELD 行 [PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル] 790

KEYWORD [文書情報設定ファイルのキーワード] 699

L

LDAPBASEDN [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 981

LDAPBINDDN [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 980

LDAPCONNECT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 990

LDAPPASSWORDEMPTYCHECK [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 983

LDAPPASSWORD [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 980

LDAPSERVER [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 979

LDAPTLS [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 982

LDAPUIDATTR [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 981

LDAP 接続情報暗号化ツール (eurssecd コマンド)
ファイル名 980

LDAP 接続情報暗号化ツール (eurssecd コマンド)の
コマンドの構文 981

LOGEXCLUSIVE [EUR Server Service の環境設定
ファイル] 891

LOGEXCLUSIVE [EUR Server - Adapter の環境設
定ファイル] 963

LOGEXCLUSIVE [EUR Server - Spool Service
Adapter の環境設定ファイル] 1006

LOGEXCLUSIVE [EUR Server - Spool Service の環
境設定ファイル] 991

LogFile パラメタ [EUR Web Plug-In] 124

LOGFILE [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファ
イル] 1041

LOGFILE [EUR Client Service の環境設定ファ
イル] 1019

LOGFILE [EUR Server Service の環境設定ファ
イル] 882

LOGFILE [EUR Server - Adapter の環境設定ファ
イル] 952

LOGFILE [EUR Server - Spool Service Adapter の
環境設定ファイル] 1000

LOGFILE [EUR Server - Spool Service の環境設
定ファイル] 973

LOGFILE [Server Service 制御コマンドの環境設
定ファイル] 1028

LOGFILE [Spool Service 制御コマンドの環境設
定ファイル] 1033

LOGFILE [ジョブ実行プログラムの環境設定ファ
イル] 1051

LOGFILE [ファイル監視サービスの環境設定ファ
イル] 1046

LogLevel パラメタ [EUR Web Plug-In] 124

LOGLEVEL [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファ
イル] 1042

LOGLEVEL [EUR Client Service の環境設定ファ
イル] 1019

LOGLEVEL [EUR Server Service の環境設定ファ
イル] 883

LOGLEVEL [EUR Server - Adapter の環境設定ファ
イル] 953

LOGLEVEL [EUR Server - Spool Service Adapter
の環境設定ファイル] 1001

LOGLEVEL [EUR Server - Spool Service の環境設
定ファイル] 974

LOGLEVEL [Server Service 制御コマンドの環境設
定ファイル] 1028

LOGLEVEL [Spool Service 制御コマンドの環境設
定ファイル] 1033

LOGLEVEL [ジョブ実行プログラムの環境設定ファ
イル] 1051

LOGLEVEL [ファイル監視サービスの環境設定ファ
イル] 1047

LogSize パラメタ [EUR Web Plug-In] 125

LOGSIZE [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファ
イル] 1042

LOGSIZE [EUR Client Service の環境設定ファ
イル] 1019

LOGSIZE [EUR Server Service の環境設定ファ
イル] 883

LOGSIZE [EUR Server - Adapter の環境設定ファ
イル] 953

LOGSIZE [EUR Server - Spool Service Adapter の
環境設定ファイル] 1001

LOGSIZE [EUR Server - Spool Service の環境設
定ファイル] 974

LOGSIZE [Server Service 制御コマンドの環境設
定ファイル] 1029

LOGSIZE [Spool Service 制御コマンドの環境設
定ファイル] 1034

LOGSIZE [ジョブ実行プログラムの環境設定ファ
イル] 1052

LOGSIZE [ファイル監視サービスの環境設定ファ
イル] 1047

M

- MAPPINGDATAPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 561
- MAPPINGDATAPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 576
- MAPPINGDATAPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 594
- MAPPINGDATAPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 611
- MAPPINGDATAPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 656
- MAPPINGDATAPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 623
- MAPPINGDATA [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 560
- MAPPINGDATA [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 575
- MAPPINGDATA [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 593
- MAPPINGDATA [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 610
- MAPPINGDATA [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 655
- MAPPINGDATA [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 622
- Margin [プリンタ定義ファイルのキーワード] 705
- MaxPrintCount プロパティ [ActiveX 起動部品] 204
- MaxPrintCount プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 284
- MAXPRINTCOUNT [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 673
- MAXPRINTCOUNT [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 639
- memgetSpoolFile メソッド [SS-Java 起動部品] 488
- MergeEPFFFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 205
- MERGEPPFFILENAME [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 587
- MergeEPFFFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 205
- MERGEPPFFILEPATH [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 585
- MERGEOUTPUT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 963
- MERGE [EUR Server Service の環境設定ファイル] 889
- MERGE [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 986
- MultiFormInfoDefFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 206
- MultiFormInfoDefFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 207
- MULTIFORMINFOPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 562
- MULTIFORMINFOPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 577
- MULTIFORMINFOPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 597
- MULTIFORMINFOPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 658
- MULTIFORMINFOPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 625
- MULTIFORMINFO [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 558
- MULTIFORMINFO [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 574
- MULTIFORMINFO [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 591
- MULTIFORMINFO [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 654
- MULTIFORMINFO [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 620
- MultiReportSetFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 207
- MultiReportSetFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 208
- MULTI [EUR Server Service の環境設定ファイル] 878

N

- NAME [しおり定義ファイルのキーワード] 781
- NoPrint パラメタ [EUR Web Plug-In] 125

NoSetPrinterDlg パラメタ [EUR Web Plug-In]
125

O

OutputEPFReport 関数 [COBOL 起動部品] 556
OutputEPFReport メソッド [ActiveX 起動部品]
180
outputEPFReport メソッド [Java 起動部品] 343
OutputEURReport 関数 [COBOL 起動部品] 572
OutputEURReport メソッド [ActiveX 起動部品]
180
outputEURReport メソッド [Java 起動部品] 344
OutputFileKind プロパティ [SS-ActiveX 起動部品]
285
OutputFileName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品]
285
OutputFilePath プロパティ [SS-ActiveX 起動部品]
286
OUTPUTFILE [EUR Server - Spool Service
Adapter の環境設定ファイル] 1006
OutputMergeEPFReport 関数 [COBOL 起動部品]
583
OutputMergeEPFReport メソッド [ActiveX 起動
部品] 181
outputMergeEPFReport メソッド [Java 起動部品]
345
OutputPageCountOpt プロパティ [ActiveX 起動
部品] 208
OUTPUTPAGECOUNTOPT [OutputEPFReport
関数 (COBOL 起動部品)] 570
OUTPUTPAGECOUNTOPT [OutputPDFReport
関数 (COBOL 起動部品)] 606
OUTPUTPAGECOUNTOPT [OutputXLSXReport
関数 (COBOL 起動部品)] 615
OUTPUTPAGECOUNTOPT [PrintReport2 関数
(COBOL 起動部品)] 680
OUTPUTPAGECOUNTOPT [PrintReport 関数
(COBOL 起動部品)] 647
OutputPDFReport 関数 [COBOL 起動部品] 588
OutputPDFReport メソッド [ActiveX 起動部品]
182
outputPDFReport メソッド [Java 起動部品] 346

OutputXLSXReport 関数 [COBOL 起動部品] 607
OutputXLSXReport メソッド [ActiveX 起動部品]
183
outputXLSXReport メソッド [Java 起動部品] 346
OUTPUT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイ
ル] 960
OwnerPassword [暗号化設定ファイルのキーワ
ード] 785

P

PageChanged イベント [EUR Web Plug-In] 144
PageNumberFormat プロパティ [ActiveX 起動部
品] 209
PAGENUMBERFORMAT [OutputEPFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 563
PAGENUMBERFORMAT [OutputPDFReport 関
数 (COBOL 起動部品)] 597
PAGENUMBERFORMAT [PrintReport2 関数
(COBOL 起動部品)] 659
PAGENUMBERFORMAT [PrintReport 関数
(COBOL 起動部品)] 626
PageNumberLocation プロパティ [ActiveX 起動部
品] 209
PAGENUMBERLOCATION [OutputEPFReport 関
数 (COBOL 起動部品)] 565
PAGENUMBERLOCATION [OutputPDFReport
関数 (COBOL 起動部品)] 598
PAGENUMBERLOCATION [PrintReport2 関数
(COBOL 起動部品)] 661
PAGENUMBERLOCATION [PrintReport 関数
(COBOL 起動部品)] 627
PageNum プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 286
PaperOrientation プロパティ [ActiveX 起動部品]
210
PaperOrientation プロパティ [SS-ActiveX 起動部
品] 287
PAPERORIENTATION [OutputEPFReport 関数
(COBOL 起動部品)] 564
PAPERORIENTATION [OutputMergeEPFReport
関数 (COBOL 起動部品)] 585
PAPERORIENTATION [PrintReport2 関数
(COBOL 起動部品)] 660

PAPERORIENTATION [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 627

PaperShiftX [プリンタ定義ファイルのキーワード] 711

PaperShiftY [プリンタ定義ファイルのキーワード] 711

PATHMODE [EUR Server Service の環境設定ファイル] 884

PATH [帳票管理 GUI の環境設定ファイル] 1012

PDFFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 211

PDFFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 592

PDFFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 212

PDFFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 597

PDFOUTPUT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 961

PDF 形式ファイルに出力する場合の環境変数 902

PDF 仕分け定義ファイル 790

PDF 仕分け定義ファイルのキーワード [PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合] 793

PDF 仕分け定義ファイルのキーワード [PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合] 790

PDF 仕分け定義ファイルの形式 [PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合] 792

PDF 仕分け定義ファイルの形式 [PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合] 790

PDF 仕分け定義ファイルの編集 [PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合] 792

PDF 仕分け定義ファイルの編集 [PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合] 790

PDF 仕分けをするときの注意 796

PDF [EUR Server Service の環境設定ファイル] 881

PDType [プリンタ定義ファイルのキーワード] 705

PermissionPrinterDriver プロパティ [EUR Web Plug-In] 139

PermissionPrinterName プロパティ [EUR Web Plug-In] 140

PERSONALCATEGORY [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 978

PMServerAddress プロパティ [ActiveX 起動部品] 212

PMSEVERADDR [GetDestinationList2 関数 (COBOL 起動部品)] 535

PMSEVERADDR [GetPMPrinterClassList 関数 (COBOL 起動部品)] 538

PMSEVERADDR [GetPMPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 541

PMSEVERADDR [GetPMTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 543

PMSEVERADDR [GetPrinterClassList2 関数 (COBOL 起動部品)] 548

PMSEVERADDR [GetPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 551

PMSEVERADDR [GetTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 554

PMSEVERADDR [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 568

PMSEVERADDR [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 580

PMSEVERADDR [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 586

PMSEVERADDR [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 604

PMSEVERADDR [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 613

PMSEVERADDR [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 674

PMSEVERADDR [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 641

PMServerPort プロパティ [ActiveX 起動部品] 213

PMSEVERPORT [GetDestinationList2 関数 (COBOL 起動部品)] 535

PMSEVERPORT [GetPMPrinterClassList 関数 (COBOL 起動部品)] 538

PMSEVERPORT [GetPMPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 541

PMSEVERPORT [GetPMTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 543

PMSEVERPORT [GetPrinterClassList2 関数 (COBOL 起動部品)] 548

PMSERVERPORT [GetPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 551
 PMSERVERPORT [GetTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 554
 PMSERVERPORT [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 568
 PMSERVERPORT [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 580
 PMSERVERPORT [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 586
 PMSERVERPORT [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 604
 PMSERVERPORT [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 613
 PMSERVERPORT [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 675
 PMSERVERPORT [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 641
 POB [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 973
 POLLINGREPORT [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1004
 PREFERENCE [EUR Server Service の環境設定ファイル] 880
 PrintCopies プロパティ [ActiveX 起動部品] 213
 PrintCopies プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 287
 PRINTCOPIES [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 564
 PRINTCOPIES [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 584
 PRINTCOPIES [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 659
 PRINTCOPIES [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 626
 PRINTDATE (FILE セクション) [EUR Server Service の環境設定ファイル] 892
 PRINTDATE (PATH セクション) [EUR Server Service の環境設定ファイル] 881
 PrintDateFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 213
 PRINTDATEFILENAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 569
 PRINTDATEFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 677
 PRINTDATEFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 644
 PrintDateFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 214
 PRINTDATEFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 570
 PRINTDATEFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 678
 PRINTDATEFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 644
 PRINTEDLIMIT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 990
 PrintEndPage パラメタ [EUR Web Plug-In] 126
 PrintEndPage プロパティ [ActiveX 起動部品] 215
 PrintEndPage プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 288
 PRINTENDPAGE [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 558
 PRINTENDPAGE [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 590
 PRINTENDPAGE [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 609
 PRINTENDPAGE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 653
 PRINTENDPAGE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 620
 PrintEPF メソッド [EUR Web Plug-In] 133
 PrinterClassList プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 288
 PrinterClassName プロパティ [ActiveX 起動部品] 215
 PrinterClassName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 289
 PRINTERCLASSNAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 567
 PRINTERCLASSNAME [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 586

PRINTERCLASSNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 666
 PRINTERCLASSNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 632
 PrinterName パラメタ [EUR Web Plug-In] 126
 PRINTERNAME [GetTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 554
 PRINTERNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 653
 PRINTERNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 619
 PRINTERNUM [GetPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 551
 PrinterSelectMode プロパティ [ActiveX 起動部品] 217
 PrinterSelectMode プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 290
 PRINTERSELECTMODE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 664
 PRINTERSELECTMODE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 630
 PRINTERS [GetPrinterList 関数 (COBOL 起動部品)] 551
 PrintHoldMode プロパティ [ActiveX 起動部品] 218
 PRINTHOLDMODE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 673
 PRINTHOLDMODE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 640
 PRINTINGLIMIT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 989
 PrintKind プロパティ [ActiveX 起動部品] 219
 PRINTKIND [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 663
 PRINTKIND [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 630
 PrintMode プロパティ [ActiveX 起動部品] 219
 PrintMode プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 291
 PRINTMODE [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 954
 PRINTMODE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 662
 PRINTMODE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 629
 printnewpaper [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 732
 PrintPageNumber プロパティ [ActiveX 起動部品] 220
 PRINTPAGENUMBER [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 564
 PRINTPAGENUMBER [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 598
 PRINTPAGENUMBER [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 660
 PRINTPAGENUMBER [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 627
 PrintPMReport メソッド [ActiveX 起動部品] 183
 PrintReport2 関数 [COBOL 起動部品] 649
 PrintReport 関数 [COBOL 起動部品] 616
 printReport メソッド [Java 起動部品] 347
 PrintResult プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 291
 PrintSpoolReport メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 269
 printSpoolReport メソッド [SS-Java 起動部品] 488
 PrintStartPage パラメタ [EUR Web Plug-In] 127
 PrintStartPage プロパティ [ActiveX 起動部品] 221
 PrintStartPage プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 292
 PRINTSTARTPAGE [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 557
 PRINTSTARTPAGE [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 590
 PRINTSTARTPAGE [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 608
 PRINTSTARTPAGE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 653
 PRINTSTARTPAGE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 620
 PRINTSTATE [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1005
 PrintTime プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 293
 PRINT [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1002

PRTCLSLIST [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 962

PRTCLSLIST [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1004

PSEnvFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 221

PSENVFILENAME [EUR Server Service の環境設定ファイル] 891

PSENVFILENAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 568

PSENVFILENAME [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 581

PSENVFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 604

PSENVFILENAME [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 613

PSENVFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 676

PSENVFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 643

PSEnvFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 222

PSENVFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 569

PSENVFILEPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 581

PSENVFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 605

PSENVFILEPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 614

PSENVFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 677

PSENVFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 643

PSENV [EUR Server Service の環境設定ファイル] 880

Q

QRCellSizeD [プリンタ定義ファイルのキーワード] 719

QRCellSizeM [プリンタ定義ファイルのキーワード] 719

R

REMAINFLAG [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル] 1039

ReplaceItemCntlFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 223

REPLACEITEMCNTLFILENAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 567

REPLACEITEMCNTLFILENAME [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 579

REPLACEITEMCNTLFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 600

REPLACEITEMCNTLFILENAME [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 612

REPLACEITEMCNTLFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 669

REPLACEITEMCNTLFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 636

ReplaceItemCntlFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 224

REPLACEITEMCNTLFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 568

REPLACEITEMCNTLFILEPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 580

REPLACEITEMCNTLFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 601

REPLACEITEMCNTLFILEPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 613

REPLACEITEMCNTLFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 670

REPLACEITEMCNTLFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 637

REPLACEITEM [EUR Server Service の環境設定ファイル] 879

ReportAddressKeyCategory プロパティ [ActiveX 起動部品] 225

ReportAddressKeyCategory プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 293

ReportAddressKeyData プロパティ [ActiveX 起動部品] 225

ReportAddressKeyData プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 294

REPORTADDRKEYCATEGORY [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 646

REPORTADDRKEYDATA [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 646

ReportFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 225

ReportFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 226

REPORTFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 561

REPORTFILEPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 577

REPORTFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 596

REPORTFILEPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 610

REPORTFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 658

REPORTFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 624

ReportID プロパティ [ActiveX 起動部品] 227

REPORTID [EUR Server Service の環境設定ファイル] 894

REPORTID [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 571

REPORTID [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 582

REPORTID [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 606

REPORTID [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 615

REPORTID [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 680

REPORTID [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 647

REPORTNAME [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 559

REPORTNAME [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 575

REPORTNAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 592

REPORTNAME [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 609

REPORTNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 654

REPORTNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 621

REPORTSETFILEPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 561

REPORTSETFILEPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 577

REPORTSETFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 595

REPORTSETFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 656

REPORTSETFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 623

REPORTSETFILE [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 558

REPORTSETFILE [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 573

REPORTSETFILE [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 590

REPORTSETFILE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 653

REPORTSETFILE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 620

REPORTSET [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 559

REPORTSET [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 575

REPORTSET [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 592

REPORTSET [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 654

REPORTSET [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 621

resetpagenumber [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 733

RMDIRINTERVALTIME [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1022

RMDIRINTERVALTIME [EUR Server Service の環境設定ファイル] 888
RMDIRINTERVALTIME [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 983
RMDIRRETRYCOUNT [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1022
RMDIRRETRYCOUNT [EUR Server Service の環境設定ファイル] 887
RMDIRRETRYCOUNT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 983
RUNPARAM [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル] 1039
RUNPARAM [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1046

S

SCALE [文書しおり定義ファイルのキーワード] 779
ScriptCntlFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 227
SCRIPTCNTLFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 602
ScriptCntlFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 228
SCRIPTCNTLFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 603
SCRIPTCNT [EUR Server Service の環境設定ファイル] 879
SearchCreateTimeEnd プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 294
SearchCreateTimeStart プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 295
SearchJobID プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 295
SearchJobKeyCategory プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 296
SearchJobKeyData プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 297
SearchPrinterClassName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 297
SearchReportAddressKeyCategory プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 298

SearchReportAddressKeyData プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 298
SearchSpoolFileName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 299
SelectDisplayPrinter パラメタ [EUR Web Plug-In] 127
SelectDisplayPrinter プロパティ [EUR Web Plug-In] 141
SELECTDISPLAYPRINTER [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1023
SendResultURL パラメタ [EUR Web Plug-In] 129
ServerAddress プロパティ [ActiveX 起動部品] 229
ServerAddress プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 299
SERVERADDR [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 665
SERVERADDR [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 632
SERVERNAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 590
SERVERNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 653
SERVERNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 619
ServerPrinterList プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 300
ServerPrinterName プロパティ [ActiveX 起動部品] 229
ServerPrinterName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 300
SERVERPRINTERNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 667
SERVERPRINTERNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 634
ServerSelectMode プロパティ [ActiveX 起動部品] 230
SERVERSELECTMODE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 663
SERVERSELECTMODE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 630

ServerTrayList プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 301

ServerTrayName プロパティ [ActiveX 起動部品] 230

ServerTrayName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 301

SERVERTRAYNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 668

SERVERTRAYNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 634

setAdpEnvFile メソッド [Java 起動部品] 348

setAdpEnvFile メソッド [SS-Java 起動部品] 489

setBookmarkFileData メソッド [Java 起動部品] 351

setBookmarkFileName メソッド [Java 起動部品] 352

setBookmarkFilePath メソッド [Java 起動部品] 353

setClientAddress メソッド [Java 起動部品] 354

setClientAddress メソッド [SS-Java 起動部品] 491

setClientPrinterName メソッド [Java 起動部品] 355

setClientPrinterName メソッド [SS-Java 起動部品] 492

setClientTrayName メソッド [Java 起動部品] 356

setClientTrayName メソッド [SS-Java 起動部品] 493

setCryptoFileData メソッド [Java 起動部品] 357

setCryptoFileName メソッド [Java 起動部品] 358

setCryptoFilePath メソッド [Java 起動部品] 359

setCrypto メソッド [Java 起動部品] 356

setDataFileData メソッド [Java 起動部品] 359

setDataFileName メソッド [Java 起動部品] 361

setDataFilePath メソッド [Java 起動部品] 362

setDBInfoFileName メソッド [Java 起動部品] 363

setDBInfoFilePath メソッド [Java 起動部品] 364

setDeleteKind メソッド [SS-Java 起動部品] 494

setDestinationName メソッド [Java 起動部品] 364

setDispPrintDlg メソッド [Java 起動部品] 365

setDispPrintDlg メソッド [SS-Java 起動部品] 495

setDistributeFileData メソッド [Java 起動部品] 366

setDistributeFileName メソッド [Java 起動部品] 367

setDistributeFilePath メソッド [Java 起動部品] 368

setDocBookmarkFileData メソッド [Java 起動部品] 368

setDocBookmarkFileName メソッド [Java 起動部品] 369

setDocInfoFileName メソッド [Java 起動部品] 370

setDocInfoFilePath メソッド [Java 起動部品] 371

setEnabledGet メソッド [Java 起動部品] 372

setEnabledGet メソッド [SS-Java 起動部品] 496

setEncryptionPasswordKey メソッド [Java 起動部品] 372

setEPFFFileData メソッド [Java 起動部品] 373

setEPFFFileName メソッド [Java 起動部品] 374

setEPFFFilePath メソッド [Java 起動部品] 375

setEURFileName メソッド [Java 起動部品] 375

setEURFilePath メソッド [Java 起動部品] 376

setExecutablePrintMode メソッド [Java 起動部品] 376

setExecutablePrintMode メソッド [SS-Java 起動部品] 496

setFileOutputDestination メソッド [Java 起動部品] 377

setFirstPageNumber メソッド [Java 起動部品] 378

setGroupName メソッド [Java 起動部品] 379

setGroupName メソッド [SS-Java 起動部品] 497

setInitPageNumber メソッド [Java 起動部品] 380

setJobKeyCategory メソッド [Java 起動部品] 380

setJobKeyCategory メソッド [SS-Java 起動部品] 498

setJobKeyData メソッド [Java 起動部品] 381
 setJobKeyData メソッド [SS-Java 起動部品] 499
 setMaxPrintCount メソッド [Java 起動部品] 382
 setMaxPrintCount メソッド [SS-Java 起動部品] 500
 setMergeEPFFFileName メソッド [Java 起動部品] 383
 setMergeEPFFFilePath メソッド [Java 起動部品] 383
 setMultiBookmarkFileName メソッド [Java 起動部品] 384
 setMultiDataFileName メソッド [Java 起動部品] 385
 setMultiFormInfoDefFileName メソッド [Java 起動部品] 386
 setMultiFormInfoDefFilePath メソッド [Java 起動部品] 388
 setMultiReportFileName メソッド [Java 起動部品] 388
 setMultiReportSetFileName メソッド [Java 起動部品] 389
 setMultiReportSetFilePath メソッド [Java 起動部品] 390
 setMultiUserDataFileName メソッド [Java 起動部品] 391
 setOutputFileKind メソッド [SS-Java 起動部品] 500
 setOutputFileName メソッド [SS-Java 起動部品] 501
 setOutputFilePath メソッド [SS-Java 起動部品] 502
 setOutputPageCountOpt メソッド [Java 起動部品] 392
 setPageNumberFormat メソッド [Java 起動部品] 393
 setPageNumberLocation メソッド [Java 起動部品] 393
 setPaperOrientation メソッド [Java 起動部品] 394
 setPaperOrientation メソッド [SS-Java 起動部品] 503
 setPDFFileName メソッド [Java 起動部品] 395
 setPDFFilePath メソッド [Java 起動部品] 396
 setPMServerAddress メソッド [Java 起動部品] 397
 setPMServerPort メソッド [Java 起動部品] 398
 setPrintCopies メソッド [Java 起動部品] 398
 setPrintCopies メソッド [SS-Java 起動部品] 504
 setPrintDateFileName メソッド [Java 起動部品] 399
 setPrintDateFilePath メソッド [Java 起動部品] 400
 setPrintEndPage メソッド [Java 起動部品] 401
 setPrintEndPage メソッド [SS-Java 起動部品] 504
 setPrinterClassName メソッド [Java 起動部品] 402
 setPrinterClassName メソッド [SS-Java 起動部品] 505
 setPrinterSelectMode メソッド [Java 起動部品] 404
 setPrinterSelectMode メソッド [SS-Java 起動部品] 506
 setPrintHoldMode メソッド [Java 起動部品] 405
 setPrintKind メソッド [Java 起動部品] 406
 setPrintMode メソッド [Java 起動部品] 406
 setPrintMode メソッド [SS-Java 起動部品] 507
 setPrintPageNumber メソッド [Java 起動部品] 407
 setPrintStartPage メソッド [Java 起動部品] 408
 setPrintStartPage メソッド [SS-Java 起動部品] 508
 setPSEnvFileName メソッド [Java 起動部品] 409
 setPSEnvFilePath メソッド [Java 起動部品] 410
 setReplaceItemCntlFileName メソッド [Java 起動部品] 411
 setReplaceItemCntlFilePath メソッド [Java 起動部品] 412
 setReportAddressKeyCategory メソッド [Java 起動部品] 413
 setReportAddressKeyData メソッド [Java 起動部品] 414
 setReportFileName メソッド [Java 起動部品] 415

setReportFilePath メソッド [Java 起動部品] 416
 setReportID メソッド [Java 起動部品] 416
 setScriptCntlFileName メソッド [Java 起動部品] 417
 setScriptCntlFilePath メソッド [Java 起動部品] 418
 setSearchCreateTimeEnd メソッド [SS-Java 起動部品] 509
 setSearchCreateTimeStart メソッド [SS-Java 起動部品] 510
 setSearchJobIDMulti メソッド [SS-Java 起動部品] 512
 setSearchJobID メソッド [SS-Java 起動部品] 511
 setSearchJobKeyCategory メソッド [SS-Java 起動部品] 513
 setSearchJobKeyData メソッド [SS-Java 起動部品] 514
 setSearchPrinterClassName メソッド [SS-Java 起動部品] 515
 setSearchReportAddressKeyCategory メソッド [SS-Java 起動部品] 515
 setSearchReportAddressKeyData メソッド [SS-Java 起動部品] 516
 setSearchSpoolFileName メソッド [SS-Java 起動部品] 517
 setServerAddress メソッド [Java 起動部品] 419
 setServerAddress メソッド [SS-Java 起動部品] 517
 setServerPrinterName メソッド [Java 起動部品] 419
 setServerPrinterName メソッド [SS-Java 起動部品] 518
 setServerSelectMode メソッド [Java 起動部品] 420
 setServerTrayName メソッド [Java 起動部品] 421
 setServerTrayName メソッド [SS-Java 起動部品] 519
 setSortPrint メソッド [Java 起動部品] 423
 setSortPrint メソッド [SS-Java 起動部品] 520
 setSplitFileData メソッド [Java 起動部品] 423
 setSplitFileName メソッド [Java 起動部品] 424
 setSplitFilePath メソッド [Java 起動部品] 426
 setSplitMode メソッド [Java 起動部品] 426
 SetSpoolFileAttribute メソッド [SS-ActiveX 起動部品] 270
 setSpoolFileAttribute メソッド [SS-Java 起動部品] 521
 setSpoolFileName メソッド [Java 起動部品] 427
 setSpoolLimit メソッド [Java 起動部品] 428
 setSpoolLimit メソッド [SS-Java 起動部品] 522
 setSpoolTitle メソッド [Java 起動部品] 429
 setSpoolTitle メソッド [SS-Java 起動部品] 523
 setUserDataFileData メソッド [Java 起動部品] 430
 setUserDataFileName メソッド [Java 起動部品] 432
 setUserDataFilePath メソッド [Java 起動部品] 433
 setViewerPreferenceFileName メソッド [Java 起動部品] 434
 setViewerPreferenceFilePath メソッド [Java 起動部品] 435
 setXLSXFileName メソッド [Java 起動部品] 435
 setXLSXFilePath メソッド [Java 起動部品] 436
 ShowScrollBar パラメタ [EUR Web Plug-In] 129
 SOCKBUFFSIZE [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1021
 SOCKBUFFSIZE [EUR Server Service の環境設定ファイル] 886
 SOCKBUFFSIZE [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 955
 SOCKBUFFSIZE [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1007
 SOCKBUFFSIZE [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 976
 SortPrint プロパティ [ActiveX 起動部品] 232
 SortPrint プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 302
 SORTPRINT [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 564
 SORTPRINT [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 584

SORTPRINT [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 660
 SORTPRINT [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 626
 SPLIT (FILE セクション) [EUR Server Service の環境設定ファイル] 893
 SPLIT (PATH セクション) [EUR Server Service の環境設定ファイル] 882
 SplitFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 232
 SPLITFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 678
 SPLITFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 645
 SplitFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 233
 SPLITFILEPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 679
 SPLITFILEPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 645
 SplitMode プロパティ [ActiveX 起動部品] 233
 SPLITMODE [EUR Server Service の環境設定ファイル] 887
 SPLITMODE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 678
 SPLITMODE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 645
 SPOUTLINELIMIT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 976
 SPOOLAUDITLOG [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 991
 SpoolFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 234
 SpoolFileName プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 303
 SPOOLFILENAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 671
 SPOOLFILENAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 638
 SpoolFileSize プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 303
 SpoolHistory プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 303
 SpoolLimit プロパティ [ActiveX 起動部品] 235
 SpoolLimit プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 304
 SPOOLLIMIT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 959
 SPOOLLIMIT [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 671
 SPOOLLIMIT [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 638
 SPOOLLOGSIZE [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 993
 SPOOLLOGMODE [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 994
 SPOOLLOGNUM [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 994
 SPOOLLOGSIZE [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 992
 SPOOLLOG [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 992
 SpoolPath プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 305
 SpoolTitle プロパティ [ActiveX 起動部品] 236
 SpoolTitle プロパティ [SS-ActiveX 起動部品] 305
 SPOOLTITLE [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 570
 SPOOLTITLE [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 582
 SPOOLTITLE [OutputMergeEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 586
 SPOOLTITLE [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 679
 SPOOLTITLE [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 647
 SS-ActiveX 起動部品 246
 Err.Description プロパティ 309
 Err.Number プロパティ 309
 実行時のエラー情報一覧 307
 提供するクラス 246
 ファイル名 246
 プログラム ID とコントロール名 246
 SS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧 250
 SS-ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧 249
 SS-ActiveX 起動部品の構文 247

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合 247
SS-ActiveX 起動部品を構築する場合 247
SS-Java 起動部品 446
EURPMLSAdapterForJava クラス 449
EURPMLSException クラス 459
JDK バージョン 446
実行時の例外情報一覧 526
パッケージ 447
ファイル名 446
STANDARDTIME [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 984
STANDARDTIME [ファイル監視サービスの環境設定ファイル] 1048
START [Server Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1029
START [Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1034
STOP [Server Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1030
STOP [Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1034
subgroup の形式 [複数様式情報定義ファイル] 735
subgroup [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 735
SUBTITLE [文書情報設定ファイルのキーワード] 698

T

TempFileDel パラメタ [EUR Web Plug-In] 129
TEMPFILEDEL [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1020
TEMPFILEDEL [EUR Server Service の環境設定ファイル] 886
TEMPFILEDEL [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 975
TEMP [BSP-RM 連携コマンドの環境設定ファイル] 1038
TEMP [EUR Client Service の環境設定ファイル] 1018
TEMP [EUR Server Service の環境設定ファイル] 877

TEMP [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 972
TEMP [Server Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1028
TEMP [Spool Service 制御コマンドの環境設定ファイル] 1032
TITLE [文書しおり定義ファイルのキーワード] 778
TITLE [文書情報設定ファイルのキーワード] 697
TotalPage プロパティ [EUR Web Plug-In] 143
TOTAL 行 [PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル] 793
TOTAL 行 [PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル] 791
traycode [複数様式情報定義ファイルのキーワード] 735
TrayName パラメタ [EUR Web Plug-In] 130
TRAYNAME [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 653
TRAYNAME [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 619
TRAYNUM [GetTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 554
TRAYS [GetTrayList 関数 (COBOL 起動部品)] 554
TurnPage メソッド [EUR Web Plug-In] 134

U

UserDataFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 237
UserDataFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 237
USERDEFDATAPATH [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 561
USERDEFDATAPATH [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 576
USERDEFDATAPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 594
USERDEFDATAPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 611
USERDEFDATAPATH [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 656

USERDEFDATAPATH [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 623

USERDEFDATA [OutputEPFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 560

USERDEFDATA [OutputEURReport 関数 (COBOL 起動部品)] 576

USERDEFDATA [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 593

USERDEFDATA [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 611

USERDEFDATA [PrintReport2 関数 (COBOL 起動部品)] 656

USERDEFDATA [PrintReport 関数 (COBOL 起動部品)] 622

USERNAME [EUR Server - Spool Service Adapter の環境設定ファイル] 1007

UserParam パラメタ [EUR Web Plug-In] 130

UserPassword [暗号化設定ファイルのキーワード] 788

V

ViewerPreferenceFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 238

VIEWERPREFERENCEFILENAME [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 603

ViewerPreferenceFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 239

VIEWERPREFERENCEFILEPATH [OutputPDFReport 関数 (COBOL 起動部品)] 603

VScroll メソッド [EUR Web Plug-In] 134

W

WAITINGLIMIT [EUR Server - Spool Service の環境設定ファイル] 989

X

XDPI [プリンタ定義ファイルのキーワード] 705

XLSXFileName プロパティ [ActiveX 起動部品] 239

XLSXFILENAME [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 609

XLSXFilePath プロパティ [ActiveX 起動部品] 240

XLSXFILEPATH [OutputXLSXReport 関数 (COBOL 起動部品)] 609

XLSXOUTPUT [EUR Server - Adapter の環境設定ファイル] 963

Y

YDPI [プリンタ定義ファイルのキーワード] 705

Z

Zoom パラメタ [EUR Web Plug-In] 131

Zoom メソッド [EUR Web Plug-In] 135

あ

宛先定義ファイル 863

アプリケーションサーバに準備するファイルの一覧 769

暗号化設定ファイル 784

暗号化設定ファイルに指定するキーワード [PDF 形式 ファイルを暗号化出力する場合] 785

暗号化設定ファイルに指定するキーワード [PDF 形式 ファイルを暗号化仕分け出力する場合] 785

暗号化設定ファイルのキーワード 785

暗号化設定ファイルの形式 784

い

印刷先定義ファイル 847

印刷日時出力定義ファイル 754

印刷 [暗号化設定ファイルのセキュリティ属性] 784

う

運用に応じて格納先を決めるファイルの一覧 834

え

エラー情報一覧 [ActiveX 起動部品] 241

エラー情報一覧 [SS-ActiveX 起動部品] 307

お

オーナーパスワード [暗号化設定ファイルのセキュリティ属性] 784

置き換え表管理情報ファイル 739

置き換え表ファイル 740

か

- 画像ファイル 691
- 可変記号値 773
- 可変記号値定義ファイル 773
- 環境設定ファイル (BSP-RM 連携コマンド) 1036
 - 構文 1036
 - 指定例 1036
 - 設定項目一覧 1037
 - 設定手順 1036
- 環境設定ファイル (EUR Client Service) 1015
 - 格納場所 1015
 - 構文 1015
 - 指定例 1015
 - 設定項目一覧 1016
- 環境設定ファイル (EUR Print Service) 896
 - 格納場所 896
 - 構文 897
 - 指定例 897
 - 設定手順 897
- 環境設定ファイル (EUR Server Service) 871
 - 格納場所 871
 - 構文 872
 - 指定例 872
 - 設定項目一覧 873
 - 設定手順 871
- 環境設定ファイル (EUR Server - Adapter) 948
 - 格納場所 948
 - 構文 949
 - 指定例 949
 - 設定項目一覧 950
 - 設定手順 948
- 環境設定ファイル (EUR Server - Spool Service) 965
 - 格納場所 965
 - 構文 966
 - 指定例 966
 - 設定項目一覧 967
 - 設定手順 965
- 環境設定ファイル (EUR Server - Spool Service Adapter) 996
 - 格納場所 996
 - 構文 997
 - 指定例 997
 - 設定項目一覧 998
 - 設定手順 996
- 環境設定ファイル (Server Service 制御コマンド) 1026
 - 構文 1027
 - 指定例 1027
 - 設定項目一覧 1027
 - 設定手順 1026
- 環境設定ファイル (Spool Service 制御コマンド) 1031
 - 構文 1031
 - 指定例 1032
 - 設定項目一覧 1032
 - 設定手順 1031
- 環境設定ファイル (ジョブ実行プログラム) 1050
 - 構文 1050
 - 指定例 1050
 - 設定項目一覧 1051
 - 設定手順 1050
- 環境設定ファイル (帳票管理 GUI) 1010
 - 格納場所 1010
 - 構文 1011
 - 指定例 1011
 - 設定項目一覧 1011
- 環境設定ファイル (ファイル監視サービス) 1043
 - 構文 1044
 - 指定例 1044
 - 設定項目一覧 1044
 - 設定手順 1043
- 環境設定ファイルの一覧 870
- 環境設定ファイルの指定例 943
- 環境変数
 - BSP-RM 連携コマンドの環境変数 1038
 - EPF 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数 [EURPS_ENV] 902

Excel 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数 [EURPS_ENV] 903

PDF 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数 [EURPS_ENV] 902

共通で使用する環境変数 [EURPS_ENV] 898

環境変数一覧 898, 1038

監視定義ファイル 867

き

起動パラメタファイル 802

起動パラメタファイルの形式 802

拠点プリンタクラス定義ファイル 854

く

クライアントプリンタクラス定義ファイル 862

け

形式 [暗号化設定ファイルのキーワード DisableAdd] 787

形式 [暗号化設定ファイルのキーワード DisableChange] 787

形式 [暗号化設定ファイルのキーワード DisableCopy] 787

形式 [暗号化設定ファイルのキーワード DisablePrint] 786

形式 [暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword] 786

形式 [暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword] 788

形式 [しおり定義ファイルのキーワード BREAKFLD] 782

形式 [しおり定義ファイルのキーワード NAME] 781

形式 [文書しおり定義ファイルのキーワード SCALE] 779

形式 [文書しおり定義ファイルのキーワード TITLE] 778

形式 [文書情報設定ファイルのキーワード AUTHOR] 698

形式 [文書情報設定ファイルのキーワード KEYWORD] 699

形式 [文書情報設定ファイルのキーワード SUBTITLE] 698

形式 [文書情報設定ファイルのキーワード TITLE] 697

こ

構成定義ファイルの一覧 842

さ

サブ様式グループ 736

サブ様式グループ番号 [複数様式情報定義ファイル] 735

し

しおり定義ファイル 780

しおり定義ファイルのキーワード 781

しおり定義ファイルの形式 781

出力先定義ファイル 843

仕分け定義ファイル 838

せ

制御情報付データファイル 797

接続情報ファイル 738

た

ダウンロードパッケージ 116

ち

注釈とフォームフィールドの作成 [暗号化設定ファイルのセキュリティ属性] 784

帳票 ID 759

帳票サーバに準備するファイルの一覧 688

帳票サーバプリンタクラス定義ファイル 845

帳票出力定義ファイル 759

帳票出力定義ファイルの形式 759

帳票セット指定ファイル 774

帳票セット指定ファイルの形式 774

帳票セットの形式 775

帳票ファイル 690

帳票振り分け定義ファイル 855

て

- データファイル 770
- テスト印刷設定ファイル 747

な

- 内容のコピー，または抽出〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 784

ひ

- ビューアプレファレンス定義ファイル 745

ふ

- ファイルサイズの上限值〔CSV形式 (DAT形式)〕 770
- ファイルサイズの上限值〔FIX形式〕 771
- ファイル名に指定できる文字数 1054
- ファイル名変数 799, 802
- 複数様式情報定義ファイル 723
- 複数様式情報定義ファイルのキーワード 724
- プリンタ定義ファイル 701
- プリンタ定義ファイルのキーワード 703
- プリンタ定義ファイルのキーワード一覧 703
- 分割定義ファイル 835
- 文書しおり定義ファイル 777
- 文書しおり定義ファイルのキーワード 778
- 文書しおり定義ファイルの形式 777
- 文書情報設定ファイル 696
- 文書情報設定ファイルのキーワード 696
- 文書の変更〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 784

ゆ

- ユーザ管理ファイル 856
- ユーザパスワード〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 784

よ

- 様式グループ 725
- 様式グループ番号〔複数様式情報定義ファイル〕 725

れ

- レコードの上限值〔CSV形式 (DAT形式)〕 770
- レコードの上限值〔FIX形式〕 771

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
